

健康福祉学部

社会福祉学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	医療的ケアⅠ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	医療を必要としている生活者			
担当者	横山 正子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.医療的ケアを行う上での専門的役割を理解できる 2. 医療的ケアがニーズとなる社会背景や医療制度をを理解する 3. チーム医療と経管栄養、喀痰吸引を行う上での連携を理解する 4. 安全に行うための方法やリスクマネジメントを理解し、応急処置を学ぶ 5. 医療的ケアに関して清潔や感染予防の必要性を学ぶ 6. 健康状態の把握の方法を学ぶ 7. 喀痰吸引の知識、手順を理解する				
〔 授業概要 〕 医療的ケアⅠ」ではこれに続く「医療的ケアⅡ」「医療的ケアⅢ・Ⅳ」とともにその資格取得講習会の「医療的ケア実施の基本研修(講義)(演習)」の一部にあたる内容である。介護福祉士として安全な医療的ケアを実施するために、医療的ケアに関する制度、医療的ケアを必要とする人の理解、医療チームとの連携などに必要な基礎的知識、実施手順などについて、教員の医療行為の経験を活かして指導を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野について、予習復習を合わせて4時間程度行う。				
〔 授業計画 〕 1. 第1章(1)個人の尊厳と自立、(2)医療の倫理、(3)利用者の気持ちの理解 2. 第2章(1)保健医療に関する制度、(2)医行為に関する法律 3. 第2章(3)チーム医療と介護職員との連携、第3章(1)たんの吸引や経管栄養の安全な実施① 4. 第3章(1)たんの吸引や経管栄養の安全な実施②、(2)救急蘇生法① 5. 第3章(2)救急蘇生法② 6. 第4章(1)感染予防、(2)職員の感染予防、(3)療養環境の清潔・消毒法 7. 第4章(4)滅菌と消毒 8. 第5章(1)身体・精神の健康、(3)急変状態について 9. 第5章(2)健康状態を知る項目(バイタルサインなど) 10. 第6章(1)呼吸のしくみとはたらき 11. 第6章(2)いつもと違う呼吸状態、(3)たんの吸引とは① 12. 第6章(3)たんの吸引とは②、(4)人工呼吸器と吸引① 13. 第6章(4)人工呼吸器と吸引② 14. 第6章(5)子どもの吸引について、(6)吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意(学外特別講師) 15. まとめ(振り返り)				
〔 成績評価方法 〕 課題(50%) 筆記試験(50%) 課題は毎回添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	医療的ケアⅠ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	医療を必要としている生活者			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名:全国訪問看護事業協会 出版社:中央法規 (978-4-8058-5250-7) 介護福祉士養成テキスト4医療的ケア 著者名:日本介護福祉士養成施設協会(編集) 出版社:法律文化社 (978-4-589-03574-5)				
[参考書(ISBN)] なし				

科目名	医療的ケアⅡ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	吸引・経管栄養			
担当者	津田 理恵子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 吸引に関係する呼吸器系の感染と予防について説明ができる。 痰の吸引により生じる危険、事後の安全確認について説明ができる。 痰の吸引による急変、事故発生時の対応と事前対策について説明できる。 自然な食物摂取から排泄までの機序を理解した上で、経管栄養の必要な状況を説明できる。 経鼻、経口、経ろうによる栄養法、またそのしくみを理解する。 経管栄養実施上の留意点がわかり、経管栄養によって生じる危険や感染が予防できる。 経管栄養を受ける利用者(児)、家族の気持ちを理解することやその対応、説明と同意のそれぞれの重要性和方法を説明できる。 経管栄養に関しての急変や事故が予測できる。 [授業概要] 看護師として現場での経験が5年以上ある教員が、医療的ケアについて指導します。 施設や在宅で医療的ケアを必要としながら生活する人が増加し、介護福祉士が一部の医療的ケアを医療職と連携して担うことが制度化された経緯があり、「医療的ケアⅡ」は、「医療的ケアⅠ」に引き続き、医療的ケア実施の基本研修(講義)の一部であり、介護福祉士として、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できることを目的に、喀痰吸引の続きと経管栄養の基礎的知識、実施手順を学びます。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し次回の授業の予習として教科書の内容確認を各回4時間程度しておくこと。 [授業計画] - 第6章(7)呼吸器の感染と予防(吸引に関連して)、(8)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認① - 第6章(8)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認②、(9)急変・事故発生時の対応と事前対策① - 第6章(9)急変・事故発生時の対応と事前対策②、第7章(1)たんの吸引で用いる用具、器材とそのしくみ、清潔の保持① - 第7章(1)たんの吸引で用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持②、(2)吸引の技術と留意点① - 第7章(2)吸引の技術と留意点② - 第7章(2)吸引の技術と留意点③ - 第7章(2)吸引の技術と留意点④、(3)たんの吸引に伴うケア① - 第7章(3)たんの吸引に伴うケア②、(4)報告及び記録 - 第8章(1)消化器のしくみとはたらき - 第8章(2)消化・吸収とよくある消化器の症状、(3)経管栄養とは① - 第8章(3)経管栄養とは②、(4)注入に関する知識 - 第8章(5)経管栄養実施上の留意点、(6)子どもの経管栄養について① - 第8章(6)子どもの経管栄養について②、(7)経管栄養に関する感染と予防 - 第8章(8)経管栄養を受ける利用者の気持ちと対応、説明と同意、(9)経管栄養に生じる危険、注入後の安全確認 - まとめ(振り返り) [成績評価方法] 筆記試験90% レポート10% レポートはコメントを記入してフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	医療的ケアⅡ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	吸引・経管栄養			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:筆記試験				
[教科書(ISBN)] 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名:全国訪問看護事業協会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5250-7) 配布プリント				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000860 [WH4-019]

科目名	医療的ケアⅢ	前期	講義	1 単位
サブタイトル	医行為			
担当者	津田 理恵子、横山 正子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] ①経管栄養に関しての急変や事故が発生したときの対応と事前対策が説明できる。 ②安全で適切な経管栄養の実施手順、留意点が説明できる。 ③利用者の実施前後、注入中の状態観察、留意点が説明できる。 ④報告方法と、記録の意義・内容が説明できる。 [授業概要] 看護師として実践現場で5年以上ある教員が、吸引と経管栄養の知識と技術を指導する。 施設や在宅で生活をする医療的ケアを必要とする人の増加にともない、その人と家族の支援のニーズが増加しており、介護福祉士は一部の医療的ケアを医療職と連携して担うことが制度化され、「医療的ケアⅢ」は、「医療的ケアⅠ」「医療的ケアⅡ」に続く基本研修(講義)の一部で、ここでは経管栄養が安全、適切に行えるように基礎的知識、実施手順を学びます。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野の復習と医療的ケアの実技に必要な知識についての予習を各回4時間程度行うこと。 [授業計画] 1. 第8章(10)急変・事故発生時の対応と事前対策、第9章(1)経管栄養で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持 ① 2. 第9章(1)経管栄養で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持②、(2)経管栄養の技術と留意点① 3. 第9章(2)経管栄養の技術と留意点② 4. 第9章(2)経管栄養の技術と留意点③ 5. 第9章(2)経管栄養の技術と留意点④、(3)経管栄養に必要なケア① 6. 第9章(3)経管栄養に必要なケア②、(4)報告及び記録 7. まとめ(振り返り) [成績評価方法] 授業参加度(70%) レポート(30%) レポートはコメントを書いてフィードバックする [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	医療的ケアⅢ	前期	講義	1 単位
サブタイトル	医行為			
担当者	津田 理恵子、横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート 学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業参加度 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業参加度 [教科書 (ISBN)] 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名:全国訪問看護事業協会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5250-7) 配布プリント [参考書 (ISBN)] なし				

科目名	医療的ケアⅣ（演習）	前期	演習	1 単位
サブタイトル	医行為			
担当者	津田 理恵子、横山 正子、横山 淳子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 ①吸引、経管栄養の医療的ケア5項目を医療職との連携のもとで安全・適切に実施できる技術を習得する。 ②救急蘇生法を習得する。				
〔 授業概要 〕 看護師として5年以上の現場経験がある教員が、吸引と経管栄養の実技が身につくように指導します。 「医療的ケアⅣ」は「介護職員によるたんの吸引等の研修」の「基本研修（演習）」の部分にあたる。本学での医療的ケアの「基本研修（講義）」である科目「医療的ケアⅠ」「医療的ケアⅡ」「医療的ケアⅢ」を履修した後に、医療職と連携して、安全、適切にひとりでできることを目的として喀痰吸引と経管栄養、救急蘇生法を演習します。「基本研修（演習）」は評価基準があり、シュミレーターを使い、テキストの「評価票」を用いて行い、たんの吸引では口腔内吸引5回以上、鼻腔内吸引5回以上、気管カニューレ内吸引5回以上を、経管栄養では胃ろうまたは腸ろう5回以上、経鼻5回以上を、また救急蘇生法1回以上を「ケア実施の手引き」の手順どおりにできると判断されるまで行います。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野の復習をしたうえで、実技ができるように、実技に関する知識と技術を各回2時間程度予習・復習する。				
〔 授業計画 〕 1. たんの吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）演習（横山 津田 横山） 2. 口腔内吸引演習（横山 津田 横山） 3. 鼻腔内吸引演習（横山 津田 横山） 4. 気管カニューレ内吸引演習（横山 津田 横山） 5. 経管栄養法（胃ろうまたは腸ろう・経鼻）演習（横山 津田 横山） 6. 胃ろうまたは腸ろう経管栄養演習（横山 津田 横山） 7. 経鼻経管栄養演習（横山 津田 横山） 8. 救急蘇生法（横山 津田 横山）				
〔 成績評価方法 〕 実技試験（90％） 授業参加度（10％） 実技試験の結果について個別にフィードバックする				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	医療的ケアⅣ（演習）	前期	演習	1 単位
サブタイトル	医行為			
担当者	津田 理恵子、横山 正子、横山 淳子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容：福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法：実技試験				
学科DP番号／DP内容：福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法：実技試験授業参加度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法：実技試験授業参加度				
[教科書（ISBN）] 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名：全国訪問看護事業協会 出版社：中央法規出版（ 978-4-8058-5250-7 ） 配布プリント				
[参考書（ISBN）] なし				

P11000880 [WH4-021]

科目名	医療福祉論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	人間の健康に関する総合的な理解。			
担当者	阿江 善春			
[実務経験のある教員による授業] なし				
[到達目標] WHOの健康定義を柱に人間の持つ様々な課題をからだ、こころ、くらしの全体にわたり理解すると同時に、具体的な場面における相談援助を理解する。				
[授業概要] 1 健康と医療について、からだ、こころ、くらしのすべての視点からその基礎的知識を学習する。 2 その中でも特に福祉専門職として対人援助の業務に就くものとして、その基礎的な知識と技術を学習する。またその中で自身の健康を大切にす知識と方法についても習得する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前期履修の「保健医療サービス」と、人体と疾病の理解、心理学支援、地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉、児童・家庭福祉、社会保障、公的扶助などのテキストに目を通しておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1.医療ソーシャルワークの全体像(業務指針と業務統計から) 2.業務指針の理解①(業務分野と範囲－前半) 3.業務指針の理解②(業務分野と範囲－後半) 4.業務指針の理解③(方法) 5.事例検討と関連分野の制度理解①(医療保障と医療保険) 6.事例検討と関連分野の制度理解②(介護保障と介護保険) 7.事例検討と関連分野の制度理解③(年金保障と年金保険) 8.事例検討と関連分野の制度理解④(雇用保障と雇用保険) 9.事例検討と関連分野の制度理解⑤(業務上災害と補償) 10.事例検討と関連分野の制度理解⑥(障がい者福祉とMSW) 11.事例検討と関連分野の制度理解⑦(高齢者福祉とMSW) 12.事例検討と関連分野の制度理解⑧(児童・家庭福祉とMSW) 13.事例検討と関連分野の制度理解⑨(在宅療養とMSW) 14.事例検討と関連分野の制度理解⑩(地域福祉とMSW) 15.全体を振り返り将来の自己像を考える				
[成績評価方法] 授業の参加30%、レポート70% レポートは添削して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000060 [WH3-002]

科目名	医療福祉論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	人間の健康に関する総合的な理解。			
担当者	阿江 善春			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000060 [WH3-002]

科目名	介護過程Ⅰ	後期	演習	1 単位
サブタイトル	個別ケアのための介護過程			
担当者	横山 正子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 介護過程の全体の流れが説明できる。 介護過程の各段階の内容を理解できる。 思考過程で論理的思考、判断を行使していることが理解できる。 問題解決にあたり思考過程を自覚することができる。 個別介護に介護過程の展開が必要であることを知る。 [授業概要] 介護の対象者の自立、自己実現にむけた援助のために、対象の状態・状況に応じた意図的、科学的で、適切な個別の介護サービスを提供できる介護過程展開の能力を養う。 介護過程の学習は、他の科目で学習した知識や技術を統合したうえで、生活課題のあげ方や介護の目標のとらえ方、具体的な支援方法などを習得する。この介護過程総論の内容を、ケアの経験を活かして指導する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] これまでの履修済みの「介護」に関する科目を復習しておく。予習復習を含めて4時間程度の学修を行う [授業計画] 1. 介護の専門性と介護過程の意義 2. 介護過程の構造 3. ICFの視点、介護の理念、医学モデル・社会モデル・生活支援モデル 4. 観察、コミュニケーション 5. 情報収集、記録 6. 生活の仕方とアセスメント 7. 健康・機能障害 8. 活動・参加の障害 9. 生活障害 10. ノーマライゼーション、自立への支援と価値 11. 他職種との連携の必要性和チームアプローチ 12. 具体的な支援の方法課題の抽出、目標 13. 介護計画の立て方 14. 事例演習 15. まとめと評価 [成績評価方法] レポートなどの課題(20%)、試験(80%) ・レポートはmanabaで提出し、manabaでコメントを返します。 ・試験は終了後に解答の解説をします。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護過程Ⅰ	後期	演習	1 単位
サブタイトル	個別ケアのための介護過程			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:レポート課題、試験				
[教科書(ISBN)] 介護福祉士養成テキスト新シリーズ 介護過程 出版社:建帛社 資料を作成しmanabaで配信します http://kwu.manaba.jp/cp/home				
[参考書(ISBN)] なし				

科目名	介護過程演習Ⅰ	前期	演習	2 単位
サブタイトル	介護過程の展開			
担当者	泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 ICF、利用者本意、尊厳、人権、自立支援の意味を理解し、介護過程の展開に取り入れることができる 提供された事例について実践的展開ができる 支援アプローチにおける各理論の示す自己実現や生活の質の向上を目指すケアの本質論を介護過程の思考に活用できる。				
〔 授業概要 〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持って、5年以上実践現場での経験がある教員が、多くの臨床ケースをもとに介護過程において特性に応じた展開ができるように支援する。これまで介護過程総論、ケアマネジメント論で介護過程の展開の基礎、方法論を学んでいる。ここでは介護実習Ⅰの課題であった「情報収集」事例に対して、支援アプローチの各理論を理解したうえで、情報収集・分析・支援計画・実践・評価といった一連の介護過程の展開を学ぶ。実際の現場では、個々の支援内容は多岐に渡り、一人として同じ人はいない。介護過程の展開能力を習得するにあたり、これまでに他科目で学習した知識や技術を統合して、対象利用者の介護計画を立案する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 介護実習Ⅰの情報収集用紙を整理する。各回、予習復習合わせて2時間程度、各事例を再度読み直し、記録内容や書式、アセスメントなどフェーズに合わせて整理しておくこと。				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション 2.ICF、ICD-IHの理解と実習Ⅰ事例の介護過程振り返り 3.実習Ⅰ事例の介護計画立案 4.アプローチにおける各理論を学ぶ 5.ICFの理解とICFにおける支援の展開 6.アセスメントの思考の方法 7.アセスメントの視点の提示 8.介護過程展開のためのアセスメントシート(ICFモデル活用) 9.アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化) 10.優先順位とアセスメント(学外特別講師) 11.介護計画の立案Ⅰ(介護目標の設定) 12.介護計画の立案Ⅱ(具体的な支援内容・支援方法の決定) 13.介護の実施(実施における留意点・実施の記録) 14.評価の方法(評価の意義と目的・評価の内容と方法) 15.まとめ				
〔 成績評価方法 〕 試験(50%)、課題、発表内容など(50%)の総合評価 課題は毎回添削して返却する				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000670 [WH3-027]

科目名	介護過程演習 I	前期	演習	2 単位
サブタイトル	介護過程の展開			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:各事例に対し、課題解決に向けて介護計画を立案し発表する。				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題発表内容は、後日評価して返却する。				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:特性に応じた情報シートを個別に添削して返却する。				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:アセスメントシート内容を添削して返却する。				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:介護計画の立案を個別に添削し返却する。				
[教科書(ISBN)] 「介護過程」 著者名:石野育子著 出版社:メディカルフレンド社				
[参考書(ISBN)] ケアの本質 著者名:ミルトン・メイヤロフ 出版社:ゆみる出版 (101071416-8661)				

P11000670 [WH3-027]

科目名	介護過程演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	ICFを活用した介護過程			
担当者	津田 理恵子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 現行の介護保険制度と介護過程の実際との関係が理解できる。 介護実習Ⅰでの事例、模擬事例を通して、介護過程展開の方法が理解できる。 KOMI理論に基づいたアセスメントシートが活用できる。 [授業概要] ケアマネージャーとしての経験を有する教員が、介護過程の一連を実践するために、介護福祉実習Ⅰで体験した高齢者事例、教員の準備した模擬事例を通し、介護過程のシステムと介護保険制度での個別援助計画との関係を学び、また、介護福祉実習Ⅲに向けて個別の介護過程を展開、実践、評価できる能力を指導する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] これまでの介護に関するすべての知識を総動員してケア計画を立てるので、自信のない領域は復習をしたうえで、毎回の授業内容について予習・復習を各回2時間程度行う。 [授業計画] 1.オリエンテーション、介護過程の実際・介護過程のツール 2.実習体験での事例のまとめ 3.ICFの考え方 4.ICFの思考過程に応じた介護過程 5.介護過程の展開 6.事例で学ぶ(外部特別講師) 7.アセスメントシート 8.アセスメントツール 9.アセスメントシート記入 10.介護計画記入 11.介護計画に沿った実践 12.介護計画に沿った実施記録 13.評価 14.介護計画の修正 15.まとめ [成績評価方法] 筆記試験(50%)、課題など(50%)の総合評価 課題はコメントを記入してフィードバックする [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護過程演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	ICFを活用した介護過程			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験課題				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:課題				
[教科書 (ISBN)] 介護過程 著者名:石野育子著 出版社:メヂカルフレンド社 (ISBN978-4-8392-3194-1)				
[参考書 (ISBN)] なし				

科目名	介護総合演習Ⅰ	前期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事前指導			
担当者	木村 あい、横山 正子、津田 理恵子、泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.実習目標明確になり行動計画書を作成できる 2.実習生としての社会的スキルが身につく 3.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる 4.利用者の個別の特性や疾病について理解を深める 5.介護福祉士の職業倫理が理解できる 6.求められるコミュニケーション能力が発揮できる 7.多職種協働ができる				
〔 授業概要 〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅰでの学びが深まるように指導する。また、現在、介護福祉士として介護に携わっている方を学外特別講師として招へいする。 介護老人保健施設の理解を深め、実習生としての基本的なスキルとなる実習態度や求められる記録・報告・コミュニケーションについて学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1)社会福祉の動向を理解する 2)実習に関連する科目の知識・技術を整理しておく 各回、予習・復習を合わせて2時間程度				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション 介護福祉実習の進め方 (木村) 2.実習目的と行動 (木村) 3.実習施設の理解 介護老人保健施設・関連諸機関 (木村) 4.実習施設の理解 法的根拠・多職種協働 (木村) 5.生活理解 対象者の特性と理解 (学外特別講師・木村) 6.実習記録の意義 (木村) 7.実習目標の明確化 (木村) 8.実習目標と行動計画書 (木村) 9.介護実習記録の実際 (木村) 10.介護実習諸手続き (木村) 11.社会人、実習生としてのルール・マナー (木村・横山・津田・泉) 12.生活支援技術の確認 (木村・横山・津田) 13.介護福祉士の倫理と求められる介護福祉士像 (木村・横山・津田・泉) 14.コミュニケーションの工夫・生活リハビリ・レクリエーション (木村・横山・津田・泉) 15.諸注意(事前訪問・記録と報告・実習態度) (木村・横山・津田・泉)				
〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み(50%) 提出物(50%)の総合評価 提出課題にはコメントを記入した上で個別指導を行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護総合演習Ⅰ	前期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ事前指導			
担当者	木村 あい、横山 正子、津田 理恵子、泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート等の提出物				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート等の提出物				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート等の提出物授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート等の提出物授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート等の提出物				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート等の提出物授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート等の提出物授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート等の提出物授業への取り組み				
[教科書 (ISBN)] 介護実習の手引き ※最初の授業で配布				
[参考書 (ISBN)] 適宜紹介				

P11000700 [WH2-027]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導			
担当者	泉 妙子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1.介護福祉士としての自己の介護観を説明できる 2.自己の実習課題が説明できる 3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が説明できる 4.対象者の個別の生活が理解できる 5.専門職としての態度が理解できる 6.介護福祉士の役割や倫理が理解できる 7.コミュニケーションを図る目的が理解できる [授業概要] 介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。 学生の老人保健施設実習での学びの振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合させるとともに、実習での目標の達成度を確認し、個々の課題を明確にする指導を、教員のケア経験を活かして行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 実習の振り返り、記録類の整理、報告の準備について予習復習合わせて2時間程度を行っておく [授業計画] 【授業計画】 1.帰校日（実習の記録）(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 2.帰校日（実習目標の到達度）(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 3.帰校日（情報収集・アセスメント）(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 4.帰校日（実習目標の到達度・記録）(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 5.オリエンテーション（横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 6.課題・記録の整理(横山正子・津田理恵子・木村あい)・泉妙子) 7. 個別介護の整理(アセスメント、ニーズの把握、介護計画に向けて)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 8.老人保健施設での知識と技術の統合(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 9.施設事業所の特徴 多職種との連携(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 10.介護福祉士の役割と態度(スーパービジョン)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 11.実習報告会の準備 まとめ)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 12.実習報告会の準備 資料作成)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 13.実習報告会前半)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 14.実習報告会後半)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 15.自己課題の明確化)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) [成績評価方法] 授業への取り組み(30%)、提出課題(40%)、報告(30%)の総合評価 提出した課題レポートは添削、評価をフィードバックします。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000710 [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題レポート、取り組み度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題レポート、報告				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、報告				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取り組み				
[教科書 (ISBN)] 実習の手引き				
[参考書 (ISBN)] 適宜配布				

P11000710 [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導			
担当者	津田 理恵子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1.介護福祉士としての自己の介護観を説明できる 2.自己の実習課題が説明できる 3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が説明できる 4.対象者の個別の生活が理解できる 5.専門職としての態度が理解できる 6.介護福祉士の役割や倫理が理解できる 7.コミュニケーションを図る目的が理解できる [授業概要] 5年以上の経験がある介護福祉士若しくは看護師が、学生の老人保健施設実習での学びの振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合させるとともに、実習での目標の達成度を確認し、個々の課題を明確にする指導を、教員のケア経験を活かして指導します。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 実習の振り返り、記録類の整理・報告の準備について予習復習合わせて2時間程度を行っておく [授業計画] 【授業計画】 1.帰校日 (実習の記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 2.帰校日 (実習目標の到達度)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 3.帰校日 (情報収集・アセスメント)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 4.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 5.オリエンテーション (横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 6.課題・記録の整理(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 7. 個別介護の整理(アセスメント、ニーズの把握、介護計画に向けて)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 8.老人保健施設での知識と技術の統合(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 9.施設事業所の特徴 多職種との連携(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 10.介護福祉士の役割と態度(スーパービジョン)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 11.実習報告会の準備 まとめ(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 12.実習報告会の準備 資料作成(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 13.実習報告会前半)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 14.実習報告会後半)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 15.自己課題の明確化)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) [成績評価方法] 授業への取り組み(30%)、提出課題(40%)、報告(30%)の総合評価 提出した課題レポートは添削、評価をフィードバックします。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題レポート、取り組み度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題レポート、報告				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、報告				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取り組み				
[教科書(ISBN)] 実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000710A [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導			
担当者	木村 あい			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.介護福祉士としての自己の介護観を説明できる 2.自己の実習課題が説明できる 3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が説明できる 4.対象者の個別の生活が理解できる 5.専門職としての態度が理解できる 6.介護福祉士の役割や倫理が理解できる 7.コミュニケーションを図る目的が理解できる 〔 授業概要 〕 学生の老人保健施設実習での学びの振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合させるとともに、実習での目標の達成度を確認し、個々の課題を明確にする指導を、教員のケア経験を活かして行う。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 実習の振り返り、記録類の整理、報告の準備について予習復習合わせて2時間程度を行っておく 〔 授業計画 〕 【授業計画】 1.帰校日 (実習の記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 2.帰校日 (実習目標の到達度)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 3.帰校日 (情報収集・アセスメント)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 4.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 5.オリエンテーション (横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 6.課題・記録の整理(横山正子・津田理恵子・木村あい)・泉妙子 7. 個別介護の整理(アセスメント、ニーズの把握、介護計画に向けて)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 8.老人保健施設での知識と技術の統合(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 9.施設事業所の特徴 多職種との連携(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 10.介護福祉士の役割と態度(スーパービジョン)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 11.実習報告会の準備 まとめ(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 12.実習報告会の準備 資料作成(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 13.実習報告会前半(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 14.実習報告会後半(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 15.自己課題の明確化)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み(30%)、提出課題(40%)、報告(30%)の総合評価 提出した課題レポートは添削、評価をフィードバックします。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題レポート、取り組み度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題レポート、報告				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、報告				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取り組み				
[教科書(ISBN)] 実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000710B [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導			
担当者	横山 正子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.介護福祉士としての自己の介護観を説明できる 2.自己の実習課題が説明できる 3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が説明できる 4.対象者の個別の生活が理解できる 5.専門職としての態度が理解できる 6.介護福祉士の役割や倫理が理解できる 7.コミュニケーションを図る目的が理解できる 〔 授業概要 〕 学生 の老人保健施設実習での学びの振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合させるとともに、実習での目標の達成度を確認し、個々の課題を明確にする指導を、教員のケア経験を活かして行う。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 実習の振り返り、記録類の整理、報告の準備について予習復習合わせて2時間程度を行っておく 〔 授業計画 〕 【授業計画】 1.帰校日 （実習の記録）(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 2.帰校日 （実習目標の到達度）(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 3.帰校日 （情報収集・アセスメント）(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 4.帰校日 （実習目標の到達度・記録）(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 5.オリエンテーション （横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 6.課題・記録の整理(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 7. 個別介護の整理(アセスメント、ニーズの把握、介護計画に向けて)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 8.老人保健施設での知識と技術の統合(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 9.施設事業所の特徴 多職種との連携(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 10.介護福祉士の役割と態度(スーパービジョン)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 11.実習報告会の準備 まとめ)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 12.実習報告会の準備 資料作成)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 13.実習報告会前半)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 14.実習報告会後半)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 15.自己課題の明確化)(横山正子・津田理恵子・木村あい・泉妙子) 〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み(30%)、提出課題(40%)、報告(30%)の総合評価 提出した課題レポートは添削、評価をフィードバックします。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000710C [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題レポート、取り組み度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題レポート、報告				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、報告				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取り組み				
[教科書(ISBN)] 実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000710C [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導			
担当者	津田 理恵子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1. 訪問介護事業所の概要と訪問介護サービス内容が理解できる。 2. 本人・家族の特徴や生活が理解できる。 3. 個別に応じたケアマネジメントが理解できる。 4. 地域で働く介護福祉士の役割や職種間の連携が理解できる。 5. 実習目標・行動計画が明確になる。 [授業概要] 介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。 事前指導として、全体指導・グループ指導・個別指導を各項目に従って行う。 1)訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。 2)実習目標・実習行動計画書が明確になる。 3)地域における居宅サービスの内容・多職種連携の必要性を学ぶ。 4)多職種協働や地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる。 5)地域で生活する本人や家族の生活ニーズにそった基礎的な知識・技術を学習する。 6)地域における生活支援が理解できる。 事後指導として、個別に各課題に従って指導を行う。 1)自己の実習課題が明確になる。 2)地域における生活支援が理解できる。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 介護保険やケアマネジメント・訪問介護事業所・居宅サービスに必要な知識・技術を毎回2時間程度予習・復習しておく。 [授業計画] 1.オリエンテーション 訪問介護事業所・ケアマネジメント(泉) 2.介護を実践する対象・本人主体生活・その人らしく生きることを支援するとは(泉) 3.地域とのつながり・求められる介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力(泉) 4.生活者としての理解・住み慣れた家で暮らす条件・福祉サービス(泉) 5.多職種連携・チームアプローチ・求められる在宅支援(泉) 6.実習目標の明確化(津田・横山・木村・泉) 7.実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村・泉) 8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村・泉) 9.訪問時のルールとマナー・専門職の倫理と価値(津田・横山・木村・泉) 10.実習目標の確認と課題の明確化(津田・横山・木村・泉) 11.帰校日(記録指導)(津田・横山・木村・泉) 12.帰校日(課題指導)(津田・横山・木村・泉) 13.帰校日(記録指導と評価)(津田・横山・木村・泉) 14.帰校日(記録指導と評価・課題)(津田・横山・木村・泉) 15.記録の整理と自己課題の明確化 (津田・横山・木村・泉) [成績評価方法] ミニテスト(30%)・提出書類/実習評価等の総合評価(70%) 提出課題は毎回添削して返却する [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000720 [WH2-029]

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導			
担当者	横山 正子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 1. 訪問介護事業所の概要と訪問介護サービス内容が理解できる。 2. 本人・家族の特徴や生活が理解できる。 3. 個別に応じたケアマネジメントが理解できる。 4. 地域で働く介護福祉士の役割や職種間の連携が理解できる。 5. 実習目標・行動計画が明確になる。 〔授業概要〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。 事前指導として、全体指導・グループ指導・個別指導を各項目に従って行う。 1)訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。 2)実習目標・実習行動計画書が明確になる。 3)地域における居宅サービスの内容・多職種連携の必要性を学ぶ。 4)多職種協働や地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる。 5)地域で生活する本人や家族の生活ニーズにそった基礎的な知識・技術を学習する。 6)地域における生活支援が理解できる。 事後指導として、個別に各課題に従って指導を行う。 1)自己の実習課題が明確になる。 2)地域における生活支援が理解できる。 教員の実務経験を活かして指導を行う。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 介護保険やケアマネジメント・訪問介護事業所・居宅サービスに必要な知識・技術を毎回2時間程度予習・復習しておく。 〔授業計画〕 1.オリエンテーション 訪問介護事業所・ケアマネジメント(泉) 2.介護を実践する対象・本人主体生活・その人らしく生きることを支援するとは(泉) 3.地域とのつながり・求められる介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力(泉) 4.生活者としての理解・住み慣れた家で暮らす条件・福祉サービス(泉) 5.多職種連携・チームアプローチ・求められる在宅支援(泉) 6.実習目標の明確化(津田・横山・木村・泉) 7.実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村・泉) 8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村・泉) 9.訪問時のルールとマナー・専門職の倫理と価値(津田・横山・木村・泉) 10.実習目標の確認と課題の明確化(津田・横山・木村・泉) 11.帰校日(記録指導)(津田・横山・木村・泉) 12.帰校日(課題指導)(津田・横山・木村・泉) 13.帰校日(記録指導と評価)(津田・横山・木村・泉) 14.帰校日(記録指導と評価・課題)(津田・横山・木村・泉) 15.記録の整理と自己課題の明確化 (津田・横山・木村・泉) 〔成績評価方法〕 ミニテスト(30%)・提出書類/実習評価等の総合評価(70%) 提出課題は毎回添削して返却する 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:グループディスカッション・課題提出				
[教科書 (ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書 (ISBN)] 適宜紹介				

P11000720B [WH2-029]

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導			
担当者	木村 あい			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 訪問介護事業所の概要と訪問介護サービス内容が理解できる。 2. 本人・家族の特徴や生活が理解できる。 3. 個別に応じたケアマネジメントが理解できる。 4. 地域で働く介護福祉士の役割や職種間の連携が理解できる。 5. 実習目標・行動計画が明確になる。 〔 授業概要 〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。 事前指導として、全体指導・グループ指導・個別指導を各項目に従って行う。 1)訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。 2)実習目標・実習行動計画書が明確になる。 3)地域における居宅サービスの内容・多職種連携の必要性を学ぶ。 4)多職種協働や地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる。 5)地域で生活する本人や家族の生活ニーズにそった基礎的な知識・技術を学習する。 6)地域における生活支援が理解できる。 事後指導として、個別に各課題に従って指導を行う。 1)自己の実習課題が明確になる。 2)地域における生活支援が理解できる。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 介護保険やケアマネジメント・訪問介護事業所・居宅サービスに必要な知識・技術を毎回2時間程度予習・復習しておく。 〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション 訪問介護事業所・ケアマネジメント(泉) 2.介護を実践する対象・本人主体生活・その人らしく生きることを支援するとは(泉) 3.地域とのつながり・求められる介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力(泉) 4.生活者としての理解・住み慣れた家で暮らす条件・福祉サービス(泉) 5.多職種連携・チームアプローチ・求められる在宅支援(泉) 6.実習目標の明確化(津田・横山・木村・泉) 7.実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村・泉) 8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村・泉) 9.訪問時のルールとマナー・専門職の倫理と価値(津田・横山・木村・泉) 10.実習目標の確認と課題の明確化(津田・横山・木村・泉) 11.帰校日(記録指導)(津田・横山・木村・泉) 12.帰校日(課題指導)(津田・横山・木村・泉) 13.帰校日(記録指導と評価)(津田・横山・木村・泉) 14.帰校日(記録指導と評価・課題)(津田・横山・木村・泉) 15.記録の整理と自己課題の明確化 (津田・横山・木村・泉) 〔 成績評価方法 〕 ミニテスト(30%)・提出書類/実習評価等の総合評価(70%) 提出課題は毎回添削して返却する 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000720C [WH2-029]

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導			
担当者	泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 訪問介護事業所の概要と訪問介護サービス内容が理解できる。 2. 本人・家族の特徴や生活が理解できる。 3. 個別に応じたケアマネジメントが理解できる。 4. 地域で働く介護福祉士の役割や職種間の連携が理解できる。 5. 実習目標・行動計画が明確になる。				
〔 授業概要 〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。 事前指導として、全体指導・グループ指導・個別指導を各項目に従って行う。 1)訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。 2)実習目標・実習行動計画書が明確になる。 3)地域における居宅サービスの内容・多職種連携の必要性を学ぶ。 4)多職種協働や地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる。 5)地域で生活する本人や家族の生活ニーズにそった基礎的な知識・技術を学習する。 6)地域における生活支援が理解できる。 事後指導として、個別に各課題に従って指導を行う。 1)自己の実習課題が明確になる。 2)地域における生活支援が理解できる。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 介護保険やケアマネジメント・訪問介護事業所・居宅サービスに必要な知識・技術を毎回2時間程度予習・復習しておく。				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション 訪問介護事業所・ケアマネジメント(泉) 2.介護を実践する対象・本人主体生活・その人らしく生きることを支援するとは(泉) 3.地域とのつながり・求められる介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力(泉) 4.生活者としての理解・住み慣れた家で暮らす条件・福祉サービス(泉) 5.多職種連携・チームアプローチ・求められる在宅支援(泉) 6.実習目標の明確化(津田・横山・木村・泉) 7.実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村・泉) 8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村・泉) 9.訪問時のルールとマナー・専門職の倫理と価値(津田・横山・木村・泉) 10.実習目標の確認と課題の明確化(津田・横山・木村・泉) 11.帰校日(記録指導)(津田・横山・木村・泉) 12.帰校日(課題指導)(津田・横山・木村・泉) 13.帰校日(記録指導と評価)(津田・横山・木村・泉) 14.帰校日(記録指導と評価・課題)(津田・横山・木村・泉) 15.記録の整理と自己課題の明確化 (津田・横山・木村・泉)				
〔 成績評価方法 〕 ミニテスト(30%)・提出書類/実習評価等の総合評価(70%) 提出課題は毎回添削して返却する				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法: 演習に参加する。課題を提出する。提出課題/実習評価等の総合評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: グループディスカッション・課題提出				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000720E [WH2-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導			
担当者	泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.自分自身の課題と実習目標・行動計画が明確になる 2.介護老人福祉施設と併設のサービス、多職種協働のチームアプローチが理解できる 3.介護の対象者（本人と家族）との信頼関係の築き方が理解できる 4.介護保険制度と介護サービス、社会資源と地域が理解できる 5.専門職としての介護福祉士の役割が理解できる 6.介護過程の展開技法と事例研究の意義が理解できる				
〔 授業概要 〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅲでの学びが深まるように指導します。 介護老人福祉施設とそれに併設している在宅サービスや介護保険制度について学び、社会資源や対象者を取り巻く人々、介護過程の展開について指導します。さらに、専門職としての役割や信頼関係の築き方について指導し、そのうえで、介護福祉実習Ⅲにおける実習目標に対して、自分自身の課題や実習の行動計画を整理できるように指導します。 介護実践の科学的探究を通して知識と技術を統合し、専門職者としての価値感が整理できるように指導します。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1. 介護保険制度や介護老人福祉施設の働きなど実習に必要な知識・技術を各回、2時間予習・復習しておく 2. 介護過程の展開技法について復習しておく				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション・介護福祉実習と事例研究の概要(津田) 2.老人福祉法と介護老人福祉施設の機能と役割・介護保険制度と介護サービス(津田) 3.介護老人福祉施設と併設の在宅サービスの種類・多職種とチームアプローチ (津田) 4.介護の対象者の理解と信頼関係の築き方(津田) 5.社会資源・専門職としての介護福祉士・求められる介護福祉士像・まとめ(津田) 6.介護過程の展開・科学的思考(泉・津田・木村) 7.実習目標の明確化・実習行動計画書の作成Ⅰ (泉・津田・木村) 8.実習行動計画書の作成Ⅱ(泉・津田・木村) 9.諸注意・記録と報告(泉・津田・木村) 10.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 11.帰校日(担当利用者・実習記録)(泉・津田・木村) 12.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 13.帰校日(介護過程の展開・知識と技術の統合・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 14.帰校日(介護過程の展開・介護実践のエビデンス・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 15.帰校日(介護過程の展開・専門職者としての価値・実習目標の到達度) (泉・津田・木村)				
〔 成績評価方法 〕 提出課題については、コメントを記入したうえで学生への個別指導を行う 筆記試験(40%) 授業参加度(25%) レポートなどの提出課題(35%)の総合評価				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000730 [WH3-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験レポートなどの提出課題授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
[教科書 (ISBN)] 実習の手引き				
[参考書 (ISBN)] 参考資料を適宜紹介・配布				

P11000730 [WH3-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導			
担当者	津田 理恵子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.自分自身の課題と実習目標・行動計画が明確になる 2.介護老人福祉施設と併設のサービス、多職種協働のチームアプローチが理解できる 3.介護の対象者(本人と家族)との信頼関係の築き方が理解できる 4.介護保険制度と介護サービス、社会資源と地域が理解できる 5.専門職としての介護福祉士の役割が理解できる 6.介護過程の展開技法と事例研究の意義が理解できる				
〔 授業概要 〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅲでの学びが深まるように指導します。 介護老人福祉施設とそれに併設している在宅サービスや介護保険制度について学び、社会資源や対象者を取り巻く人々、介護過程の展開について指導します。さらに、専門職としての役割や信頼関係の築き方について指導し、そのうえで、介護福祉実習Ⅲにおける実習目標に対して、自分自身の課題や実習の行動計画を整理できるように指導します。 介護実践の科学的探究を通して知識と技術を統合し、専門職者としての価値感が整理できるように指導します。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1. 介護保険制度や介護老人福祉施設の働きなど実習に必要な知識・技術を各回、2時間予習・復習しておく 2. 介護過程の展開技法について復習しておく				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション・介護福祉実習と事例研究の概要(津田) 2.老人福祉法と介護老人福祉施設の機能と役割・介護保険制度と介護サービス(津田) 3.介護老人福祉施設と併設の在宅サービスの種類・多職種とチームアプローチ (津田) 4.介護の対象者の理解と信頼関係の築き方(津田) 5.社会資源・専門職としての介護福祉士・求められる介護福祉士像・まとめ(津田) 6.介護過程の展開・科学的思考(泉・津田・木村) 7.実習目標の明確化・実習行動計画書の作成Ⅰ(泉・津田・木村) 8.実習行動計画書の作成Ⅱ(泉・津田・木村) 9.諸注意・記録と報告(泉・津田・木村) 10.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 11.帰校日(担当利用者・実習記録)(泉・津田・木村) 12.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 13.帰校日(介護過程の展開・知識と技術の統合・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 14.帰校日(介護過程の展開・介護実践のエビデンス・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 15.帰校日(介護過程の展開・専門職者としての価値・実習目標の到達度)(泉・津田・木村)				
〔 成績評価方法 〕 提出課題については、コメントを記入したうえで学生への個別指導を行う 筆記試験(40%) 授業参加度(25%) レポートなどの提出課題(35%)の総合評価				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000730A [WH3-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験レポートなどの提出課題授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
[教科書 (ISBN)] 実習の手引き				
[参考書 (ISBN)] 参考資料を適宜紹介・配布				

P11000730A [WH3-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導			
担当者	木村 あい			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.自分自身の課題と実習目標・行動計画が明確になる 2.介護老人福祉施設と併設のサービス、多職種協働のチームアプローチが理解できる 3.介護の対象者(本人と家族)との信頼関係の築き方が理解できる 4.介護保険制度と介護サービス、社会資源と地域が理解できる 5.専門職としての介護福祉士の役割が理解できる 6.介護過程の展開技法と事例研究の意義が理解できる				
〔 授業概要 〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅲでの学びが深まるように指導します。 介護老人福祉施設とそれに併設している在宅サービスや介護保険制度について学び、社会資源や対象者を取り巻く人々、介護過程の展開について指導します。さらに、専門職としての役割や信頼関係の築き方について指導し、そのうえで、介護福祉実習Ⅲにおける実習目標に対して、自分自身の課題や実習の行動計画を整理できるように指導します。 介護実践の科学的探究を通して知識と技術を統合し、専門職者としての価値感が整理できるように指導します。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1. 介護保険制度や介護老人福祉施設の働きなど実習に必要な知識・技術を各回、2時間予習・復習しておく 2. 介護過程の展開技法について復習しておく				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション・介護福祉実習と事例研究の概要(津田) 2.老人福祉法と介護老人福祉施設の機能と役割・介護保険制度と介護サービス(津田) 3.介護老人福祉施設と併設の在宅サービスの種類・多職種とチームアプローチ (津田) 4.介護の対象者の理解と信頼関係の築き方(津田) 5.社会資源・専門職としての介護福祉士・求められる介護福祉士像・まとめ(津田) 6.介護過程の展開・科学的思考(泉・津田・木村) 7.実習目標の明確化・実習行動計画書の作成Ⅰ(泉・津田・木村) 8.実習行動計画書の作成Ⅱ(泉・津田・木村) 9.諸注意・記録と報告(泉・津田・木村) 10.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 11.帰校日(担当利用者・実習記録)(泉・津田・木村) 12.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 13.帰校日(介護過程の展開・知識と技術の統合・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 14.帰校日(介護過程の展開・介護実践のエビデンス・実習目標の到達度)(泉・津田・木村) 15.帰校日(介護過程の展開・専門職者としての価値・実習目標の到達度)(泉・津田・木村)				
〔 成績評価方法 〕 提出課題については、コメントを記入したうえで学生への個別指導を行う 筆記試験(40%) 授業参加度(25%) レポートなどの提出課題(35%)の総合評価				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000730C [WH3-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験レポートなどの提出課題授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:レポートなどの提出課題				
[教科書(ISBN)] 実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 参考資料を適宜紹介・配布				

P11000730C [WH3-029]

科目名	介護の基本 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア			
担当者	泉 妙子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 介護の基本となる倫理をベースとして、「質の高い介護とは何か」を理解し、その人らしい生活の実現に必要な知識・技術を学び実践できる能力を養う。				
[授業概要] 1)本人本位の生活を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を学ぶ 2)自分自身の生活と照らし合わせて「暮らし」「生活」「願い」について考える 3)介護を要する人がどのような人で、どのような生活をしているのかを具体的な事例を通して学ぶ。 4)自立に向けた介護とは何かを生活支援の視点から学ぶと共にその意義を学ぶ				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 介護を取り巻く状況を把握し、生活を支える介護の重要性を理解する。関連した文献・新聞などを読み、毎回4時間程度予習復習の時間に充てる。				
[授業計画] 1.介護福祉の基本となる理念・介護の原則 2.介護を必要とする人の理解 3.生活の捉え方・私たちの生活 4.高齢者や障害を持った人たちの暮らしと介護 5.その人らしさの理解 6.生活環境の捉え方 7.生活障害の理解と生活ニーズ 8.自立に向けた介護 9.「生活支援」としての介護 10.様々な生活支援とその意義 11.尊厳を支える介護 12.ICFの概念 13.ICFにおけるアセスメント 14.リハビリテーションと介護 15.まとめ				
[成績評価方法] 筆記試験70%、課題30%の総合評価 授業ノートは毎回確認して返却する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護の基本 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 毎回授業ノートを提出する				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: 毎回授業ノートを提出する				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法: 毎回授業ノートを提出する				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート提出・事例に基づくディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験・課題・授業ノート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験・課題・授業ノート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験・課題・授業ノート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:筆記試験・課題・授業ノート				
[教科書 (ISBN)] 最新介護福祉士養成講座3 介護の基本 I 著者名: 荘村明彦他 出版社: 中央法規出版				
[参考書 (ISBN)] 脱病院化社会 著者名: イヴァン・イリッチ 出版社: 晶文社 (4-7949-1262-5C0347)				

P11000950 [WH1-012]

科目名	介護の基本Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	利用者理解と介護サービス			
担当者	泉 妙子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 理論的な裏付けのある介護は、利用者の安全で安心できる支援となり、利用者との信頼関係の基本となる。安全で安心できる介護の提供には介護の知識や技術はもちろんのこと、直接関わる人的環境の影響は大きい。介護の質の向上には人間力・人間性が大きく影響することを理解する。				
[授業概要] 1)介護の基本知識として必要な倫理観・福祉観について理解し、実践できる能力を養う 2)介護の目的や原則について理解すると共に、身体的・精神的な変化に対する観察力やコミュニケーション能力を養い、変化に速やかに対処できる知識を身につける 3)介護の基本となる倫理を理解した上で「質の高い介護とは何か」を体得し、知識・技術の大切さや他職種との連携の必要性を学ぶ 4)実際に地域にある介護問題・福祉にまつわる課題について話し合うことによって、求められる専門性に気づくことができる。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 介護の基本Ⅰで学んだ介護福祉の理念と介護福祉士としての倫理観を身につける。毎回に関連した文献や事例をもとに予習復習に4時間を見込む。				
[授業計画] 1.利用者の人権と自立支援 2.介護福祉士が守るべき義務規定 3.介護福祉士の資質向上の責務 4.介護福祉士の役割と機能 5.介護福祉士の倫理 6.介護サービスと介護福祉士の働く場 7.介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 8.介護サービスの種類と提供の場 9.介護サービスと介護福祉士の働く場 10.介護サービス提供の場の特性(高齢者関連) 11.障害者総合支援法Ⅰ 12.介護サービス提供の場とその特性(障害者関連) 13.介護実践における地域連携 14.協働する多職種の機能と役割・チームアプローチ 15.まとめ				
[成績評価方法] 筆記試験70%、課題30%等の総合評価 授業ノートは毎回確認して返却する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000960 [WH1-013]

科目名	介護の基本Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	利用者理解と介護サービス			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 毎回授業ノート提出毎回確認して返却する				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: 毎回授業ノート提出毎回確認して返却する				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法: 毎回授業ノート提出毎回確認して返却する				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 筆記試験・課題・授業ノート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 筆記試験・課題・授業ノート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 筆記試験・課題・授業ノート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 筆記試験・課題・授業ノート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 筆記試験・課題・授業ノート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 筆記試験・課題・授業ノート				
[教科書(ISBN)] 最新介護福祉士養成校講座4 介護の基本Ⅱ 著者名: 荘村明彦他 出版社: 中央法規出版 (978-4-8058-5111-1)				
[参考書(ISBN)] ニーズ中心の福祉社会へ 著者名: 上野千鶴子編 出版社: 医学書院 (978-4-260-0064309C3347)				

P11000960 [WH1-013]

科目名	介護の基本Ⅲ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	介護福祉学総論			
担当者	泉 妙子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 本講義では、介護福祉学総論として、各領域、人間と社会・介護・こころとからだのしくみ・医療的ケアなどの観点から、総合的に教授することを主たる目的とする。				
[授業概要] 1)介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる知識や技術を総合的に整理する。 2)コミュニケーション能力・アカウンタビリティや根拠に基づく介護実践の必要性を理解する。 3)介護保険制度や社会保障制度などを整理し統合する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 人間と社会・介護・こころとからだ・医療的ケアの各到達目標を見直し、学習内容を整理しておく。毎回模擬問題・過去問など予習復習に4時間程度取り組むこと。				
[授業計画] 1. 人オリエンテーション 間の尊厳と自立 2. 人間関係とコミュニケーション 3. 生活と福祉 4. 社会保障制度 5. 介護保険制度と障害者総合支援法 6. 介護実践に関連する諸制度 7. 介護の基本 8. コミュニケーション技術 9. 生活支援技術 10. 介護過程 11. 発達と老化の理解 12. 認知症の理解 13. 障害の理解 14. こころとからだのしくみ・医療的ケア 15. まとめ				
[成績評価方法] 筆記試験80 %・ミニテスト20%の総合評価 授業ノートは毎回確認して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護の基本Ⅲ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	介護福祉学総論			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験・ミニテスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:筆記試験・ミニテスト				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:模擬試験・ミニテスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:模擬試験・ミニテスト				
[教科書 (ISBN)] 介護福祉士国家試験 合格テキスト2020 著者名:荘村明彦他 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5358-0)				
[参考書 (ISBN)] 見て覚える 介護福祉士国試ナビ2020 著者名:荘村明彦他 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5350-4C3036)				

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	実習	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設			
担当者	泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる 2.信頼関係の築き方が理解できる 3.個別ケアの必要性が理解できる 4.基本的な生活支援技術が実践できる 5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる 〔 授業概要 〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上経験のある教員が、20日間の老人保健施設での実習において、以下の1)～5)を遂行できるように指導する。 1)20日間の介護老人保健施設実習を体験し介護実習計画書に従って目標を達成する 2)対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する 3)生活支援技術の実践・職種間連携・コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ 4)併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する 5)職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 介護保険制度や事業所の概要を理解しておく。 予習・復習を合わせて2時間程度。 〔 授業計画 〕 実習計画書に沿って実習目標を達成する カンファレンスに参加する 本人・家族の理解を深める 本人を取り巻く環境について理解する 在宅支援の必要性を理解する 実習目標達成度の指導を受ける 社会人・実習生としてのルールとマナーを身につける 現場で求められる職業倫理を身につける コミュニケーションスキルを高める 基本的な生活支援技術を身につける 地域における生活支援を理解する 介護過程の展開(情報収集・アセスメント) 課題や実習日誌・報告書を提出する 自己の課題を明確にする 〔 成績評価方法 〕 実習評価票に基づく評価(100%) 個別面談によるフィードバック 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	実習	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価票				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000980 [WH2-030]

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	実習	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設			
担当者	津田 理恵子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる 2.信頼関係の築き方が理解できる 3.個別ケアの必要性が理解できる 4.基本的な生活支援技術が実践できる 5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる 〔 授業概要 〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上経験のある教員が、20日間の老人保健施設での実習において、以下の1)～5)を遂行できるように指導する。 1)20日間の介護老人保健施設実習を体験し介護実習計画書に従って目標を達成する 2)対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する 3)生活支援技術の実践・職種間連携・コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ 4)併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する 5)職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 介護保険制度や事業所の概要を理解しておく。 予習・復習を合わせて2時間程度。 〔 授業計画 〕 実習計画書に沿って実習目標を達成する カンファレンスに参加する 本人・家族の理解を深める 本人を取り巻く環境について理解する 在宅支援の必要性を理解する 実習目標達成度の指導を受ける 社会人・実習生としてのルールとマナーを身につける 現場で求められる職業倫理を身につける コミュニケーションスキルを高める 基本的な生活支援技術を身につける 地域における生活支援を理解する 介護過程の展開(情報収集・アセスメント) 課題や実習日誌・報告書を提出する 自己の課題を明確にする 〔 成績評価方法 〕 実習評価票に基づく評価(100%) 個別面談によるフィードバック 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	実習	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価票				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000980A [WH2-030]

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	実習	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設			
担当者	横山 正子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる 2.信頼関係の築き方が理解できる 3.個別ケアの必要性が理解できる 4.基本的な生活支援技術が実践できる 5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる 〔 授業概要 〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上経験のある教員が、20日間の老人保健施設での実習において、以下の1)～5)を遂行できるように指導する。 1)20日間の介護老人保健施設実習を体験し介護実習計画書に従って目標を達成する 2)対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する 3)生活支援技術の実践・職種間連携・コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ 4)併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する 5)職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 介護保険制度や事業所の概要を理解しておく。 予習・復習を合わせて2時間程度。 〔 授業計画 〕 実習計画書に沿って実習目標を達成する カンファレンスに参加する 本人・家族の理解を深める 本人を取り巻く環境について理解する 在宅支援の必要性を理解する 実習目標達成度の指導を受ける 社会人・実習生としてのルールとマナーを身につける 現場で求められる職業倫理を身につける コミュニケーションスキルを高める 基本的な生活支援技術を身につける 地域における生活支援を理解する 介護過程の展開(情報収集・アセスメント) 課題や実習日誌・報告書を提出する 自己の課題を明確にする 〔 成績評価方法 〕 実習評価票に基づく評価(100%) 個別面談によるフィードバック 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	実習	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価票				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000980B [WH2-030]

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	実習	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設			
担当者	木村 あい			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる 2.信頼関係の築き方が理解できる 3.個別ケアの必要性が理解できる 4.基本的な生活支援技術が実践できる 5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる 〔 授業概要 〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上経験のある教員が、20日間の老人保健施設での実習において、以下の1)～5)を遂行できるように指導する。 1)20日間の介護老人保健施設実習を体験し介護実習計画書に従って目標を達成する 2)対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する 3)生活支援技術の実践・職種間連携・コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ 4)併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する 5)職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 介護保険制度や事業所の概要を理解しておく。 予習・復習を合わせて2時間程度。 〔 授業計画 〕 実習計画書に沿って実習目標を達成する カンファレンスに参加する 本人・家族の理解を深める 本人を取り巻く環境について理解する 在宅支援の必要性を理解する 実習目標達成度の指導を受ける 社会人・実習生としてのルールとマナーを身につける 現場で求められる職業倫理を身につける コミュニケーションスキルを高める 基本的な生活支援技術を身につける 地域における生活支援を理解する 介護過程の展開(情報収集・アセスメント) 課題や実習日誌・報告書を提出する 自己の課題を明確にする 〔 成績評価方法 〕 実習評価票に基づく評価(100%) 個別面談によるフィードバック 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000980C [WH2-030]

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	実習	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習評価票				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習評価票				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価票				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価票				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000980C [WH2-030]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習			
担当者	泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。 2. 対象者の地域における生活支援が理解できる。 3. ケアマネジメントが理解できる。 4. 地域で働く介護福祉士の役割が理解できる。 5. 多職種協働の実践・チームケアが理解できる。 〔 授業概要 〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上の実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅱでの学びが深まるように以下の項目を中心に指導する。 1)5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶ。 2)対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を養う。 3)本人・家族の人とコミュニケーションの実践、特性に応じた生活支援技術を確認する。 4)多職種協働や関連機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 以下の項目を中心に、事前に根拠法令に基づく最新福祉サービス・改正点・課題など資料を作成しておく。毎日実習目標の立案と、終了後実習日誌・考察まとめに3時間の振り返り時間を要す。 1)事業所・施設の概要について調べる 2)訪問実習に必要な知識、技術の復習をしておく 〔 授業計画 〕 実習行動計画書にそって介護目標を達成する 訪問介護場所の特徴を理解する 対象となる人の生活ニーズを理解する 家族の多様なニーズを理解する ケアマネジメントの流れを理解する 社会資源の活用・福祉用具の活用 介護福祉士の果たす役割 記録・報告・連絡・相談の重要性 本人や家族とのコミュニケーション 他職種協働の実践とチームアプローチの重要性 本人の望む生活・在宅支援と介護福祉士の役割 地域における生活支援の実践 介護福祉士の職業倫理 実習目標到達度の確認と課題 〔 成績評価方法 〕 実習評価票に基づく評価 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000990 [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性（パートナーシップ）を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価表・課題				
[教科書（ISBN）] 介護福祉実習の手引き				
[参考書（ISBN）] 適宜配布				

P11000990 [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習			
担当者	津田 理恵子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 1. 訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。 2. 対象者の地域における生活支援が理解できる。 3. ケアマネジメントが理解できる。 4. 地域で働く介護福祉士の役割が理解できる。 5. 多職種協働の実践・チームケアが理解できる。 〔授業概要〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上の実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅱでの学びが深まるように以下の項目を中心に指導する。 1)5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶ。 2)対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を養う。 3)本人・家族の人とコミュニケーションの実践、特性に応じた生活支援技術を確認する。 4)多職種協働や関連機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 以下の項目を中心に、事前に根拠法令に基づく最新福祉サービス・改正点・課題など資料を作成しておく。毎日実習目標の立案と、終了後実習日誌・考察まとめに3時間の振り返り時間を要す。 1)事業所・施設の概要について調べる 2)訪問実習に必要な知識、技術の復習をしておく 〔授業計画〕 実習行動計画書にそって介護目標を達成する 訪問介護場所の特徴を理解する 対象となる人の生活ニーズを理解する 家族の多様なニーズを理解する ケアマネジメントの流れを理解する 社会資源の活用・福祉用具の活用 介護福祉士の果たす役割 記録・報告・連絡・相談の重要性 本人や家族とのコミュニケーション 他職種協働の実践とチームアプローチの重要性 本人の望む生活・在宅支援と介護福祉士の役割 地域における生活支援の実践 介護福祉士の職業倫理 実習目標到達度の確認と課題 〔成績評価方法〕 実習評価票に基づく評価 適宜個別面談を行う 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価表・課題				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000990A [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習			
担当者	横山 正子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 1. 訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。 2. 対象者の地域における生活支援が理解できる。 3. ケアマネジメントが理解できる。 4. 地域で働く介護福祉士の役割が理解できる。 5. 多職種協働の実践・チームケアが理解できる。 〔授業概要〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上の実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅱでの学びが深まるように以下の項目を中心に指導する。 1)5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶ。 2)対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を養う。 3)本人・家族の人とコミュニケーションの実践、特性に応じた生活支援技術を確認する。 4)多職種協働や関連機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 以下の項目を中心に、事前に根拠法令に基づく最新福祉サービス・改正点・課題など資料を作成しておく。毎日実習目標の立案と、終了後実習日誌・考察まとめに3時間の振り返り時間を要す。 1)事業所・施設の概要について調べる 2)訪問実習に必要な知識、技術の復習をしておく 〔授業計画〕 実習行動計画書にそって介護目標を達成する 訪問介護場所の特徴を理解する 対象となる人の生活ニーズを理解する 家族の多様なニーズを理解する ケアマネジメントの流れを理解する 社会資源の活用・福祉用具の活用 介護福祉士の果たす役割 記録・報告・連絡・相談の重要性 本人や家族とのコミュニケーション 他職種協働の実践とチームアプローチの重要性 本人の望む生活・在宅支援と介護福祉士の役割 地域における生活支援の実践 介護福祉士の職業倫理 実習目標到達度の確認と課題 〔成績評価方法〕 実習評価票に基づく評価 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価表・課題				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 適宜配布				

P11000990B [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習			
担当者	木村 あい			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。 2. 対象者の地域における生活支援が理解できる。 3. ケアマネジメントが理解できる。 4. 地域で働く介護福祉士の役割が理解できる。 5. 多職種協働の実践・チームケアが理解できる。 〔 授業概要 〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上の実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅱでの学びが深まるように以下の項目を中心に指導する。 1)5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶ。 2)対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を養う。 3)本人・家族の人とコミュニケーションの実践、特性に応じた生活支援技術を確認する。 4)多職種協働や関連機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 以下の項目を中心に、事前に根拠法令に基づく最新福祉サービス・改正点・課題など資料を作成しておく。毎日実習目標の立案と、終了後実習日誌・考察まとめに3時間の振り返り時間を要す。 1)事業所・施設の概要について調べる 2)訪問実習に必要な知識、技術の復習をしておく 〔 授業計画 〕 実習行動計画書にそって介護目標を達成する 訪問介護場所の特徴を理解する 対象となる人の生活ニーズを理解する 家族の多様なニーズを理解する ケアマネジメントの流れを理解する 社会資源の活用・福祉用具の活用 介護福祉士の果たす役割 記録・報告・連絡・相談の重要性 本人や家族とのコミュニケーション 他職種協働の実践とチームアプローチの重要性 本人の望む生活・在宅支援と介護福祉士の役割 地域における生活支援の実践 介護福祉士の職業倫理 実習目標到達度の確認と課題 〔 成績評価方法 〕 実習評価票に基づく評価 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000990C [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性（パートナーシップ）を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:manabaに毎日実習日誌を提出する。実習評価表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価表・課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価表・課題				
[教科書（ISBN）] 介護福祉実習の手引き				
[参考書（ISBN）] 適宜配布				

P11000990C [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)	後期	実習	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム			
担当者	泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.介護老人福祉施設の機能・役割が理解できる 2.介護福祉士として介護の対象者と信頼関係を築くことができる 3.介護過程の実践的展開ができる 4.根拠に基づく生活支援技術が実践できる 5.チームの一員として多職種協働の実践ができる 6.地域・家族を視野に入れた支援が実践できる 〔 授業概要 〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上の経験がある教員が、32日間の介護老人福祉施設において、対象者のアセスメントを深め、介護計画に基づく実施・評価や、これを踏まえた計画の修正といった実践的な介護過程を、他科目で学習した知識や技術を統合して展開できるように指導します。さらに、チームの一員として多職種協働によるチームアプローチや社会資源の活用、介護福祉士の価値に基づいた、介護の対象者(利用者・家族)との信頼関係の築き方について実践を通して指導します。また、老人福祉施設に併設されている在宅サービスでの実習を通し、多様な視点から介護の対象者や対象者を取り巻く環境について指導します。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1. 施設や事業所、社会資源などの概要について調べておく 2. 実習に必要な知識、技術の復習をしておく 3. 学習環境・生活環境を整え健康管理に留意する 4. 実習場所での不明な点について自宅学習する 1～4について各回2時間程度 〔 授業計画 〕 実習計画書にそった実習と達成度の確認 実習日誌による助言・指導 介護老人福祉施設の機能・特徴と施設サービス 実習先の施設に併設している在宅サービス 社会資源の活用 地域・家族を視野に入れた支援 介護の対象者とのコミュニケーションと信頼関係 介護過程の実践的展開と科学的思考(アセスメント・介護計画立案・実践・評価・修正) チームの一員として多職種との連携 夜勤実習(利用者の24時間の生活理解) 根拠に基づいた生活支援技術 医療的ケア 専門職としての価値・倫理 目指すべき介護福祉士像 〔 成績評価方法 〕 実習評価表に基づく評価(100%) 面談にてフィードバックする 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11001000 [WH3-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)	後期	実習	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習評価表				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 参考資料を適宜紹介・配布				

P11001000 [WH3-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ（老人福祉施設）	後期	実習	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム			
担当者	津田 理恵子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.介護老人福祉施設の機能・役割が理解できる 2.介護福祉士として介護の対象者と信頼関係を築くことができる 3.介護過程の実践的展開ができる 4.根拠に基づく生活支援技術が実践できる 5.チームの一員として多職種協働の実践ができる 6.地域・家族を視野に入れた支援が実践できる 〔 授業概要 〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上の経験がある教員が、32日間の介護老人福祉施設において、対象者のアセスメントを深め、介護計画に基づく実施・評価や、これを踏まえた計画の修正といった実践的な介護過程を、他科目で学習した知識や技術を統合して展開できるように指導します。さらに、チームの一員として多職種協働によるチームアプローチや社会資源の活用、介護福祉士の価値に基づいた、介護の対象者(利用者・家族)との信頼関係の築き方について実践を通して指導します。また、老人福祉施設に併設されている在宅サービスでの実習を通し、多様な視点から介護の対象者や対象者を取り巻く環境について指導します。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1. 施設や事業所、社会資源などの概要について調べておく 2. 実習に必要な知識、技術の復習をしておく 3. 学習環境・生活環境を整え健康管理に留意する 4. 実習場所での不明な点について自宅学習する 1~4について各回2時間程度 〔 授業計画 〕 実習計画書にそった実習と達成度の確認 実習日誌による助言・指導 介護老人福祉施設の機能・特徴と施設サービス 実習先の施設に併設している在宅サービス 社会資源の活用 地域・家族を視野に入れた支援 介護の対象者とのコミュニケーションと信頼関係 介護過程の実践的展開と科学的思考(アセスメント・介護計画立案・実践・評価・修正) チームの一員として多職種との連携 夜勤実習(利用者の24時間の生活理解) 根拠に基づいた生活支援技術 医療的ケア 専門職としての価値・倫理 目指すべき介護福祉士像 〔 成績評価方法 〕 実習評価表に基づく評価(100%) 面談にてフィードバックする 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11001000A [WH3-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)	後期	実習	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習評価表				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 参考資料を適宜紹介・配布				

P11001000A [WH3-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)	後期	実習	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム			
担当者	木村 あい			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 1.介護老人福祉施設の機能・役割が理解できる 2.介護福祉士として介護の対象者と信頼関係を築くことができる 3.介護過程の実践的展開ができる 4.根拠に基づく生活支援技術が実践できる 5.チームの一員として多職種協働の実践ができる 6.地域・家族を視野に入れた支援が実践できる 〔授業概要〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上の経験がある教員が、32日間の介護老人福祉施設において、対象者のアセスメントを深め、介護計画に基づく実施・評価や、これを踏まえた計画の修正といった実践的な介護過程を、他科目で学習した知識や技術を統合して展開できるように指導します。さらに、チームの一員として多職種協働によるチームアプローチや社会資源の活用、介護福祉士の価値に基づいた、介護の対象者(利用者・家族)との信頼関係の築き方について実践を通して指導します。また、老人福祉施設に併設されている在宅サービスでの実習を通し、多様な視点から介護の対象者や対象者を取り巻く環境について指導します。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 1.施設や事業所、社会資源などの概要について調べておく 2.実習に必要な知識、技術の復習をしておく 3.学習環境・生活環境を整え健康管理に留意する 4.実習場所での不明な点について自宅学習する 1~4について各回2時間程度 〔授業計画〕 実習計画書にそった実習と達成度の確認 実習日誌による助言・指導 介護老人福祉施設の機能・特徴と施設サービス 実習先の施設に併設している在宅サービス 社会資源の活用 地域・家族を視野に入れた支援 介護の対象者とのコミュニケーションと信頼関係 介護過程の実践的展開と科学的思考(アセスメント・介護計画立案・実践・評価・修正) チームの一員として多職種との連携 夜勤実習(利用者の24時間の生活理解) 根拠に基づいた生活支援技術 医療的ケア 専門職としての価値・倫理 目指すべき介護福祉士像 〔成績評価方法〕 実習評価表に基づく評価(100%) 面談にてフィードバックする 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11001000C [WH3-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)	後期	実習	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習評価表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習評価表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習評価表				
[教科書(ISBN)] 介護福祉実習の手引き				
[参考書(ISBN)] 参考資料を適宜紹介・配布				

P11001000C [WH3-031]

科目名	家政学Ⅰ（栄養・調理）	後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 調理支援に必要な食事・栄養に関する知識や技術を習得する。さらに、高齢者や障害者の生活支援、ADLやQOLの維持・向上のために、身体状況、健康状態や咀嚼・嚥下能力に応じた食事提供もできるような食生活支援能力を身につける。				
〔 授業概要 〕 食生活支援は、人間の尊厳と深く関わる行為である。高齢者や障害者の身体状況、健康状態や個別的ニーズに合った食事提供ができるよう、調理支援に必要な食事・栄養に関する知識、調理理論や技術など、基礎から応用まで体系的に学び習得する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 前回の実習内容を良く復習し、次回の実習内容を予習しておくこと。前回の実習レポートを次回までに仕上げておく。				
〔 授業計画 〕 1. 食生活における健康と栄養 2. 調理支援のための基礎知識 3. 健康的な食生活の調理(1) 4. 健康的な食生活の調理(2) 5. 健康的な食生活の調理(3) 6. 健康的な食生活の調理(4) 7. 介護食の知識 8. 介護食の調理 9. コントロール食、食品衛生の知識 10. コントロール食の調理 11. 行事食・郷土食の調理 12. 課題献立の作成 13. 非常時に備える食品と調理 14. 課題献立による実習 15. まとめ ※ ただし、多少内容に変更が生ずることもあります。				
〔 成績評価方法 〕 試験(20%)、レポート(40%)、実技(40%) ・試験の回収後、解答の解説をします。 ・レポートは、後日添削して返却します。 ・実技は、調理実施過程の役割や出来上がりなどを総合的に評価します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	家政学Ⅰ（栄養・調理）	後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容：福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法：試験、レポート、実技				
学科DP番号／DP内容：福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法：試験、レポート、実技				
学科DP番号／DP内容：福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法：試験、レポート、実技				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法：試験、実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法：レポート、実技、試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法：				
[教科書（ISBN）] 生活支援のための調理実習 著者名：田崎裕美・中川英子 編著 出版社：建帛社（978-4-7679-3375-7）				
[参考書（ISBN）] なし				

P11000630 [WH4-015]

科目名	家政学Ⅱ（被服・住居）	前期	実習	2 単位
サブタイトル	介護と衣生活・住生活			
担当者	古田 貴美子、瀬部 明			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 介護福祉士として高齢者や障害者の生活の質の向上に役立てることができるように、家政学実習を通して衣生活、住生活に関する基礎的技術を習得する。				
〔 授業概要 〕 衣服管理はその繊維材料の種類によって管理方法が異なるため、まず繊維の種類を鑑別し、繊維素材に適した管理方法を実験により体得する。介護グッズの製作や手縫いの基礎実習により被服の手入れに必要な手縫いとミシン縫いの技術を習得する。また、被介護者の衣生活向上に向けて、既製の介護衣料について調査し、改良点を討議する。 高齢者や障害者のお世話をする仕事に就く時に必要な住まいの知識の前に、先ず自らの生活および住まいを見つめ直して実態を把握できるようにする。その上で、住宅改修の知識を身につけ、さまざまな条件を考慮した提案ができるように討議を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 要介護者の生活をよく観察し、快適に暮らすために、被服や住宅に要求される機能と環境について考える。				
〔 授業計画 〕 1. 被服の機能、着装の工夫(古田)4/8(水) 2. 被服素材に関する実験(繊維の鑑別、燃焼実験)(古田)4/15(水) 3. 被服管理に関する実験実習(洗濯、漂白、しみ抜き)(古田)4/22(水) 4. 被服管理に関する実験実習(アイロン仕上げ、保管)(古田)4/29(水) 5. 手縫い基礎実習(普通まつり、たてまつり、ボタン付け等)(古田)5/13(水) 6. ミシン縫い実習(布の扱い方、ミシンの使い方)(古田)5/20(水) 7. ミシン縫い実習(介護グッズの製作)(古田)5/27(水) 8. ミシン縫い実習(介護グッズの製作)(古田)6/3(水) 9. 介護衣料調査(既製の介護衣料を調査し、その問題点を探る)(古田)6/10(水) 10. 住まいの役割、室内環境、住まいの管理と安全(瀬部)6/15(月) 11. 高齢者および障害者に求められる住まい、さまざまな施設(瀬部)6/22(月) 12. 福祉用具、住宅改修の考え方(瀬部)6/29(月) 13. 住宅改修のポイント(場所別①、②)(瀬部)7/6(月) 14. 住宅改修のポイント(場所別③、④)(瀬部)7/13(月) 15. 介護保険と住宅改修および福祉用具、住宅改修の提案(瀬部)7/20(月)				
〔 成績評価方法 〕 介護福祉士に必要な「衣」に関する基礎的な技能の習得度、住環境整備のための知識の理解度などを評価する。 授業中の課題(30%)、作品の出来映え(40%)、レポート(30%) 課題について解説を行う。作品の評価を返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	家政学Ⅱ（被服・住居）	前期	実習	2 単位
サブタイトル	介護と衣生活・住生活			
担当者	古田 貴美子、瀬部 明			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、作品の出来映え				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題、作品の出来映え				
[教科書（ISBN）]				
『介護福祉のための家政学実習』 著者名:中川英子編著 出版社:建帛社（978-4-7679-3605-5） 『改訂5版福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト』 出版社:東京商工会議所（978-4-924547-62-9）				
[参考書（ISBN）]				
『新版介護福祉士養成講座⑧家政学概論』 著者名:福祉士養成講座編集委員会編著 出版社:中央法規出版（978-4-8058-2706-2） 『新版介護福祉士養成講座⑫介護技術Ⅰ』 著者名:福祉士養成講座編集委員会編著 出版社:中央法規出版（978-4-8058-2709-3） 『住環境のバリアフリーユニバーサルデザイン』 著者名:野村歡ら監修 出版社:彰国社（978-4-395-32048-6） 『新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ』 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会編集 出版社:中央法規出版				

科目名	ケアマネジメント論	前期	演習	2 単位
サブタイトル	介護保険制度 ケアマネジメント 介護過程の展開			
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. ケアマネジメントの歴史、目的、方法が理解できる				
2. 介護保険制度と障害者総合支援法のそれぞれを理解し、それらと高齢者、障害のある人のケアマネジメントの関係が理解できる				
3. 多職種間の連携とチームアプローチが理解できる				
4. 個別の介護計画の必要性を理解し、ICFに基づく介護計画を立案できる				
[授業概要]				
1. 介護保険制度の概要を知り、そのなかで「ケアマネジメント」の位置づけを学ぶ				
2. ケアマネジメントを支える多職種やケアマネジャーの役割について学ぶ				
3. ケアマネジャーの立案するケアプランと介護過程との関係や介護職の役割と連携の方法を学ぶ				
4. 介護実践場面での「ケアマネジメント」の意義を学ぶ				
5. わが国での高齢者施設や事業所などで提供されている介護保険サービスのひとつとしての生活支援が、介護過程展開によって進められている実際を学ぶ				
6. ケアマネジメントの考え方、介護保険制度下でのケアマネジメントの実際、ケアマネジメントと介護過程の関係を演習を通し学び、事例を用いて介護過程を展開させる。				
7. ケアマネジメントと介護福祉士の役割の関係を学ぶ				
8. 介護の専門的実践の重要性に気づいて、地域社会での介護過程展開の実際について学ぶ				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
これまでに学んだ社会福祉政策、介護の基本、科目「介護過程総論」がこの授業の基礎知識となるので、これらについて復習をしておく				
予習・復習を合わせて2時間程度				
[授業計画]				
1. ケアマネジメントの理解①歴史				
2. ケアマネジメントの理解②定義				
3. ケアマネジメントの理解③方法				
4. 介護保険制度の理解				
5. 介護保険法における介護サービス				
6. ケアプランの視点(ICFと生活支援)				
7. 障害者総合支援法				
8. 施設におけるケアマネジメント				
9. ケアプランと介護過程展開(事例)				
10. ケアプランや介護計画に使用されるツール				
11. 介護計画における情報収集				
12. アセスメント				
13. 計画の立案				
14. 評価				
15. まとめ				
[成績評価方法]				
テスト(40%)・課題への取り組み(30%)レポート(30%)				
レポート・課題については、添削し返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	ケアマネジメント論	前期	演習	2 単位
サブタイトル	介護保険制度 ケアマネジメント 介護過程の展開			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:テスト・レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:テスト・レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題への取組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題への取組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題への取組み・レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題への取組み・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題への取組み・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題への取組み・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題への取組み・レポート				
[教科書(ISBN)] 介護過程 1年次購入済み(介護過程総論) 著者名:石野育子編 出版社:メヂカルフレンド社 (978-4-8392-3194-1)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000660 [WH2-026]

科目名	現代社会と福祉Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉制度と福祉政策			
担当者	小笠原 慶彰			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①現代社会における社会福祉の意義や理念を理解する。 ②社会福祉や介護における人間の尊厳保持や自立・自律等の基本的な考え方を理解する。 ③社会福祉の歴史的な成り立ちを理解する。				
[授業概要]				
社会福祉とは何か、どのような社会福祉が望ましいのか、といった基本的な理解を可能にするため、生活の場、実践の場で生起する具体的な課題から福祉問題を捉える考え方を示す。その際に社会福祉の価値、社会福祉の制度、社会福祉のフィールドといった柱を建て、具体的な事例などを提供しながら、人間尊重、権利擁護、自立・自立支援等の社会福祉の理念とその歴史的形成過程について講義する。さらに援助を専門的な職業として展開していく場合の専門性や職業倫理や、介護や社会福祉実践における尊厳の保持や自立支援の考え方を示す。 また関連して、社会福祉が形成されてきた歴史的背景、すなわち慈善救済、相互扶助を基盤とする制度や実践から現代的な社会福祉の体系へと展開してきた過程について、重要な人物やトピックを取り上げて考察する。その後に欧米と比較した場合のアジア諸国や日本の社会福祉の特徴も講義する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
予習(2時間) ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。 ・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。				
復習(2時間) ・板書をしないので授業内容をまとめておく。 ・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション 2. 現代社会の多様な問題に対応する福祉－高齢者支援・子育て支援における尊厳の保持 3. 現代社会の多様な問題に対応する福祉会－障害者支援・生活困窮者支援における尊厳の保持 4. 社会福祉の歴史と思想①:古代から近世－海外 5. 社会福祉の歴史と思想①:古代から近世－日本 6. 社会福祉の歴史と思想②:近代－海外(福祉国家への途) 7. 社会福祉の歴史と思想②:近代－日本(公的責任の拡大した理由) 8. 社会福祉の歴史と思想③:現代－海外(対人援助サービスの登場と専門職化) 9. 社会福祉の歴史と思想③:現代－日本(戦後における社会福祉・介護専門職の登場) 10. 社会福祉を支える考え方－人権思想(人間の尊厳と人権・権利擁護) 11. 社会福祉を支える考え方－社会福祉思想(社会的包摂・自立・ウェルビーイング等の福祉理念) 12. 社会福祉と法制度の関係－社会福祉ニーズ 13. 社会福祉と法制度の関係－社会福祉の法 14. 社会福祉と法制度の関係－社会福祉の制度 15. 総まとめ				
[成績評価方法]				
・授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式(正誤式または択一式)で実施する。 ・試験は、小試験、最終試験とも終了後に解答を解説し、採点后直ちに返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	現代社会と福祉Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉制度と福祉政策			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 『社会福祉』(新・基礎からの社会福祉1) 著者名:室田保夫監修 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-08295-7)				
[参考書(ISBN)] 『社会福祉用語辞典』第9版 著者名:山縣文治・柏女霊峰 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-06543-1) 『福祉小六法』 著者名:大阪ボランティア協会 出版社:中央法規 (978-4-8058-5611-6)				

P11000140 [WH1-006]

科目名	現代社会と福祉Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉制度と福祉政策			
担当者	小笠原 慶彰			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①社会福祉の分野と福祉サービスの現状・課題について理解する。				
②福祉政策の構成要素、福祉政策と関連政策、福祉政策の課題について理解する。				
③福祉政策と相談援助活動との関係について理解する。				
[授業概要]				
人権尊重、権利擁護、自立支援等の社会福祉の理念とその歴史的形成過程について講義する。さらに、社会福祉対象をどう把握するか、それに対する援助をどう展開していくか、援助を専門的な職業として展開していく場合の専門性や職業倫理とは何か、日本における社会福祉専門職としての社会福祉士や精神保健福祉士について定めた法の内容は何か、その資格制度および機能専門職も含めてそれらの専門性はどのようにになっているのか、保健医療分野等関連分野の専門職との望ましい連携のあり方とはどのようなものか、援助に必要な知識としての関係法制とはどのようなものかといった具体的な内容の理解を促すようにする。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
予習(2時間)				
・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。				
・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。				
復習(2時間)				
・板書をしないので授業内容をまとめておく。				
・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. 社会福祉制度－社会福祉事業				
3. 社会福祉制度－低所得者・子ども				
4. 社会福祉制度－障害者・高齢者				
5. 社会福祉制度－関連法制度				
6. 福祉サービスの利用支援－援助手続				
7. 福祉サービスの利用支援－介護や社会福祉実践における尊厳の保持や自立支援				
8. 社会福祉の実践現場－措置によるもの				
9. 社会福祉の実践現場－介護保険・自立支援給付によるもの				
10. 社会福祉の実践現場－医療・行政・地域福祉機関				
11. 社会福祉の実践現場－関連機関・学校				
12. 社会福祉の担い手と資格－専門職資格(3福祉士の専門職倫理を含む)				
13. 社会福祉の担い手と資格－行政職員・行政協力員				
14. 社会福祉の担い手と専門職資格－施設職員・社会福祉協議会職員等				
15. 総まとめ				
[成績評価方法]				
・授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式(正誤式または択一式)で実施する。				
・試験は、小試験、最終試験とも終了後に解答を解説し、採点后直ちに返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	現代社会と福祉Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉制度と福祉政策			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 『社会福祉』(新・基礎からの社会福祉1) 著者名:室田保夫監修 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-08295-7)				
[参考書(ISBN)] 『社会福祉用語辞典』第9版 著者名:山縣文治・柏女霊峰 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-06543-1) 『福祉小六法』 著者名:大阪ボランティア協会 出版社:中央法規 (978-4-8058-5611-6)				

P11000150 [WH1-007]

科目名	権利擁護と成年後見制度	後期	講義	2 単位
サブタイトル	福祉サービス利用者の権利擁護とは			
担当者	佐々木 勝一			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 利用者の権利擁護に関して、①相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、②相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む)、③成年後見制度の実際、④社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解することを目標とする。 [授業概要] まず相談援助活動と法の関わりについて、日本国憲法、行政法、民法の視点から概説し、成年後見制度や日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業について講義する。続いて、社会福祉士として関わった権利擁護にかかわる組織・団体、同じく専門職の役割、成年後見活動や権利擁護活動の実際についても言及する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。 [授業計画] 1. オリエンテーション・相談援助活動と法 2. 日本国憲法の理解 3. 行政法の理解 4. 民法の理解 5. 成年後見制度①-後見・保佐・補助 6. 成年後見制度②-法定後見の申し立て・任意後見 7. 成年後見制度③-成年後見人等の義務と責任 8. 成年後見制度④-成年後見制度の最近の動向と課題 9. 日常生活自立支援事業 10. 成年後見制度利用支援事業 11. 権利擁護にかかわる組織・団体 12. 権利擁護にかかわる専門職の役割 13. 成年後見活動の実際 14. 権利擁護活動の実際 15. 総まとめ [成績評価方法] 授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50%の配分で評価する。 試験終了後解説を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000250 [WH3-007]

科目名	権利擁護と成年後見制度	後期	講義	2 単位
サブタイトル	福祉サービス利用者の権利擁護とは			
担当者	佐々木 勝一			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50%の配分で評価する。

学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50%の配分で評価する。

学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50%の配分で評価する。

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50%の配分で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50%の配分で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50%の配分で評価する。

[教科書 (ISBN)]

権利擁護と成年後見制度 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3936-2)

[参考書 (ISBN)]

授業中に適宜紹介する。

科目名	更生保護制度	前期	講義	1 単位
サブタイトル	再犯防止・更生支援を通じて公共の福祉に資する			
担当者	板谷 充			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1 刑事司法と社会福祉にまたがる政策として更生保護制度全般を理解する。				
2 更生保護活動と一般の社会福祉活動との関係、連携について実践的な理解を深める。				
3 医療観察関係分野についても、多機関連携の視点からその目的と手続きに関して要点を理解する。				
[授業概要]				
明治中期に民間篤志家によって始まり、我が国の社会福祉事業の嚆矢として、刑務所出所者の社会復帰支援を通じてその再犯防止と公共の安寧を目指した更生保護制度が、新憲法下において国の責任による刑事政策として制度化されてから70年近くを経て、ようやく社会一般の理解を得て、社会福祉関係分野との連携を深め、平成21年度から社会福祉士国家試験の専門科目の一つになった。授業では、試験に出題される範囲を網羅しつつ、これまで出題例の多い領域を重点的に取り上げ、新しい政策動向を取り入れて解説し、国家試験対策を進める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
1 予習: 犯罪・非行に関する事件報道の背景にある社会的課題、福祉的側面からの支援の可能性について関心を持ち、問題意識をまとめること。(1時間)				
2 復習: 講義内容を復習し、講義ごとに示される過去問に取り組むこと。(3時間)				
3 配布された資料に関する感想、提言をまとめて次回講義の際に提出すること。				
[授業計画]				
1 更生保護制度の成り立ちと刑事司法における位置付け 社会福祉事業としての更生保護、刑事司法・少年司法と更生保護				
2 更生保護制度総論(関係法令) 更生保護法、更生保護事業法、恩赦法その他				
3 更生保護各論1(保護観察) 保護観察の意義、目的、機能、手続き				
4 更生保護各論2(生活環境の調整、仮釈放等) 生活環境の調整、仮釈放と仮退院の意義、許可基準、手続き				
5 更生保護各論3(更生緊急保護等) 更生緊急保護、救護・援護、被害者等支援、恩赦、犯罪予防活動				
6 更生保護の担い手、関係機関・団体との連携 保護観察官、保護司、保護司会、更生保護事業者(更生保護法人)、民間協力者(更生保護女性会、BBS会、協力雇用主) 裁判所、検察庁、矯正施設、公共職業安定所、就労支援事業者機構、福祉事務所、児童相談所、日本司法支援センター(法テラス)、自助グループ、被害者支援団体				
7 医療観察制度の概要 目的、導入の経緯、対象者、処遇の流れ、保護観察所の役割、審判の手続きと処遇内容 生活環境の調査、生活環境の調整、精神保健観察 社会復帰調整官の役割等				
8 まとめ 更生保護制度の近年の動向と課題 社会福祉士国家試験過去問・想定問の検討				
[成績評価方法]				
考查 60%、レポート 30%、平常点 10%で評価する。 レポートについては、次回講義時に添削の上返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000260 [WH4-006]

科目名	更生保護制度	前期	講義	1 単位
サブタイトル	再犯防止・更生支援を通じて公共の福祉に資する			
担当者	板谷 充			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業後に課す事例や報道資料を読解し、レポートを作成、提出させる。 学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業後に課す事例や報道資料を読解し、レポートを作成、提出させる。 学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業後に課す事例や報道資料を読解し、レポートを作成、提出させる。 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業後に課す事例や報道資料を読解し、レポートを作成、提出させる。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業後に課す事例や報道資料を読解し、レポートを作成、提出させる。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業後に課す事例や報道資料を読解し、レポートを作成、提出させる。 [教科書(ISBN)] なし 講師においてテキストを作成し配布する。 [参考書(ISBN)] よくわかる更生保護 著者名:藤本哲也・生島浩・辰野文理(編著) 出版社:ミネルヴァ書房 (9784623074686)				

P11000260 [WH4-006]

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策			
担当者	清水 弥生			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 この講義では、1. 高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）について理解する。2. 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。3. 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。4. 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。5. 終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む）について理解することを目標としている。				
〔 授業概要 〕 授業の前半では、高齢者福祉の基本的知識となる高齢社会や高齢者の生活実態等について講義する。その後高齢者福祉の歴史について学習し、高齢者の医療・保健・福祉の発展について学んでいく。 後半では、認知症、および認知症高齢者へのケアについて映像資料をまじえながら講義する。最後に終末期ケアについて触れる。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢 2. 高齢者の福祉・介護需要 3. 高齢者福祉制度の発展過程① 4. 高齢者福祉制度の発展過程② 5. 老人福祉法 6. 介護の概念や対象 7. 介護予防と介護過程 8. 介護実践に関する諸制度 9. 認知症ケア①認知症とは 10. 認知症ケア②認知症高齢者の実際 11. 認知症ケア③認知症ケアの基本的考え方 12. 認知症ケア④認知症ケアの実際 13. 終末期ケア 14. 高齢者福祉と介護保険制度 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 試験（80%）、小レポート、小テスト等（20%） ・小レポート、小テストは授業中に内容の解説および解答の解説を行います。 ・試験の答案を回収後、解説を行います。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策			
担当者	清水 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、小テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、小レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、小テスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、小レポート				
[教科書 (ISBN)] 高齢者福祉概説 第5版 著者名:黒田研二、清水弥生、佐瀬美恵子 編著 出版社:明石書店 (978-4-7503-4334-1)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000310 [WH2-017]

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策			
担当者	清水 弥生			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] この講義では、相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解することを目標としている。				
[授業概要] 授業の前半では介護保険について詳しく講義する。保険者、拠出と給付等、保険の仕組み、介護保険の手続き、サービスの種類、現在制度から生じている諸問題について学んでいく。 後半には高齢者虐待や高齢者の権利を守る仕組みなど高齢者に関するさまざまな制度についても講義する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. 介護保険法の概要① 2. 介護保険法の概要② 3. 介護保険法の概要③ 4. 介護報酬の概要① 5. 介護報酬の概要② 6. 介護保険法における組織及び団体の役割と実際 7. 介護保険法における専門職の役割と実際 8. 介護保険法におけるネットワーキングと実際 9. 地域包括支援センターの役割と実際① 10. 地域包括支援センターの役割と実際② 11. 介護保険制度の今後の課題-高齢者福祉と介護保険制度 12. 高齢者虐待と高齢者虐待防止法、介護実践に関連する諸制度 13. 高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要 14. 介護と住環境および高齢者の居住の安定確保に関する法律の概要 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(80%)、小レポート、小テスト等(20%) ・小レポート、小テストは授業中に内容の解説および解答の解説を行います。 ・試験の答案を回収後、解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策			
担当者	清水 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、小テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験、小レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、小レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、小レポート				
[教科書 (ISBN)] 高齢者福祉概説 第5版 著者名:黒田研二、清水弥生、佐瀬美恵子 編著 出版社:明石書店 (978-4-7503-4334-1)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000320 [WH2-018]

科目名	国際健康福祉プログラムⅢ	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 あい、清水 弥生、下司 実奈			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 福祉国家の中で上位に位置づけられる北欧型福祉について、その仕組みや制度を学び、実際に現地で社会福祉施設、教育機関等の見学や実習を通し、高度に構築された福祉システムを学ぶ。また、北中欧の学校を訪問し、教員や学生と交流することによって、障がいのある学生がどのように学んでいるか、またそれを支える制度を体験し、国際社会福祉に対する感覚を養うことができる。				
[授業概要] 北中欧諸国の福祉について、その仕組みや制度を学び事前学習のうえ、北中欧の社会福祉施設や、学校を訪問し、現地の人との交流を通して「福祉とは何か、幸せとは何か」を考える。また、現地の人たちとの触れ合いを通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 1 前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておくこと。 2 日頃から、授業に関するニュースに関心を持つこと。 3 訪問先の情報収集をすること。				
[授業計画] 1. オリエンテーション(木村) 2. 北欧の福祉 スカンジナビアモデルとその仕組み (清水) 3. 北欧の福祉 社会福祉、医療、労働環境の実情 (清水) 4. 北欧の社会福祉 (清水) 5. 北欧の介護福祉(木村) 6. 北中欧の福祉 (下司) 7. 北中欧の福祉 (下司) 8. 渡航先の文化と言語(木村) 9. 海外渡航における注意事項(木村) 10. 現地における視察・実習① 11. 現地における視察・実習② 12. 現地における視察・実習③ 13. 現地における視察・実習④ 14. 総合討論・まとめ 15. 神戸女子大学での報告会(木村・清水・下司) 10～14は北中欧での現地授業とする(引率:木村・日程:2020年9月予定) ※現地視察に関しては参加学生に合わせて内容の変更もありうる。				
[成績評価方法] レポート(研修報告含む)(60%)・授業への取り組みの総合評価(40%) 報告会で課題についてコメントする。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11001010 [WI3-019]

科目名	国際健康福祉プログラムⅢ	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 あい、清水 弥生、下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
[教科書 (ISBN)] 適宜配布				
[参考書 (ISBN)] 授業で紹介する				

P11001010 [WI3-019]

科目名	こころとからだⅠ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 休息・睡眠・移動・身じたく・食事・排泄に関連したからだところのしくみ、機能の低下・障害とその生活場面への影響が理解でき、支援の方法が理解できる。				
[授業概要] 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 1.人体の構造と機能及び疾病を履修し、理解しておくこと。 2.毎回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと(2時間程度)。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 生活支援における観察 3. 環境整備（居室環境を整える、ベットメイキング） 4. 移動に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ 5. 移動(機能低下や障害が生活に及ぼす影響)杖で歩行する体験学習 6. 移動(まとめ) 7. 身じたくに関連した基礎知識とこころとからだのしくみ 8. 身じたく(機能低下や障害が生活に及ぼす影響・まとめ) 身じたくの心理社会的影響についてグループワーク 9. 食事に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ 感じてみよう舌の動き(体験) 10. 食事(機能低下や障害が生活に及ぼす影響) 11. 食事(まとめ) 12. 排泄に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ 排泄動作の分析(ワーク) 13. 排泄(機能低下や障害が生活に及ぼす影響) 14. 排泄(まとめ) 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業の取り組み(30%)・筆記試験(70%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	こころとからだ I	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:筆記試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み				
[教科書 (ISBN)] 介護福祉士養成テキスト 新シリーズ『生活支援の基礎知識』建帛社 出版社:建帛社				
[参考書 (ISBN)] 授業内で紹介				

科目名	こころとからだⅡ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	生活支援技術の根拠となる知識			
担当者	津田 理恵子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1.障害の特性に応じた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したからだところのしくみが理解できる。 2.基本的及び障害の特性に応じた介護実践に必要な入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみが理解できる。 3.障害などが生活に及ぼす影響と心身の活性化につながる支援が理解できる。 4.多職種連携が必要な内容が理解できる。 [授業概要] 看護師の資格を有し5年以上経験がある教員が、障害の特性に応じた介護実践に必要な、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したからだところのしくみ、機能の低下・障害が生活に及ぼす影響、生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について指導します。 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できるように指導します。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業内容を復習し、次回の授業の予習を4時間程度しておくこと。 [授業計画] 1.オリエンテーション 2.心身の活性化につながるレクリエーションの意義と方法 3.機能低下・障害が及ぼす影響と観察に関するこころとからだのしくみ 4.観察を通じた医療職や他職種との連携に関する基礎的知識 5.障害に応じた休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 6.視覚障害に応じた移動に関するこころとからだのしくみ 7.視覚障害に応じた食事に関するこころとからだのしくみ 8.身体障害に応じた身じたく・移動に関連したこころとからだのしくみ 9.障害の特徴に応じた自助具の活用に関する知識 10.障害に応じた排泄に関するこころとからだのしくみ 11.障害の特性に応じた排泄方法 12.入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 13.機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響 14.入浴、清潔保持に関連した多職種との連携 15.まとめ [成績評価方法] 授業参加度10% 提出物20% 筆記試験70% 提出物はコメントを返し、授業態度については適宜面接をする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000842 [WH2-032]

科目名	こころとからだⅡ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	生活支援技術の根拠となる知識			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:提出物				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:提出物				
[教科書(ISBN)] こころとからだのしくみ 著者名:小坂橋喜久編 出版社:メヂカルフレンド社 (ISBN978-4-8392-3199-6)				
[参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000842 [WH2-032]

科目名	こころとからだⅢ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	特性に応じたこころとからだのしくみを学ぶ			
担当者	泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 【到達目標】 1.障害、または重複障害の特性に合わせた移動、身支度、食事、排泄・清潔、休息・睡眠、人生の最終段階に関連したこころとからだのしくみが理解できる。 2.障害が及ぼす移動、身支度、食事、排泄・清潔、休息・睡眠への影響と介護について理解する 3.人生の最終段階を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について理解する 4.人生の最終段階にある人と家族に関連した支援を理解する 〔 授業概要 〕 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年事情実践現場での経験がある教員がこころとからだのしくみについて知識が深まるように指導する。様々な障害をもって介護を必要とする人の生活支援を行うため、根拠となる知識をベースに介護実践に必要な観察力を養う。また、人間の心理や心の変容が人体の構造や機能などと密接につながっていることを理解する。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 科目「人体の構造と機能及び疾病」を復習しておく。毎回4時間程度、専門用語・組織の働き・各機能の予習、復習をする。 〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション 2.感覚器障害、運動障害、内部疾患、認知症、知的障害、精神障害による機能低下 3.感覚器障害、運動障害、内部疾患、認知症、知的障害、精神障害による生活への影響 4.移動に関連したこころとからだ 5.食事に関連したこころとからだ 6.摂食障害と医療 7.移動に関連したこころとからだのしくみ 8.身支度に関連したこころとからだ 9.排泄に関連したこころとからだ 10.排泄障害と医療 11.清潔に関連したこころとからだ 12.休息・睡眠に関連したこころとからだ 13.ターミナル期のこころとからだ 14.人生の最終段階に関連した支援 15.振り返りとまとめ 〔 成績評価方法 〕 課題提出度(30%)筆記試験(70%) 授業ノートは毎回確認して返却する 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000843 [WH2-033]

科目名	こころとからだⅢ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	特性に応じたこころとからだのしくみを学ぶ			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:ミニテスト				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:グループワーク演習				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業ノートを提出する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業ノートを提出する毎回授業ノートを確認して返却する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業ノートを提出する毎回授業ノートを確認して返却する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業ノートを提出する毎回授業ノートを確認して返却する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:毎回授業ノートを提出する毎回授業ノートを確認して返却する				
[教科書(ISBN)] こころとからだ 出版社:メディカルフレンド社				
[参考書(ISBN)] 新しい介護 著者名:大田仁史・三好春樹監修・編著 出版社:中央法規 (ISBN978-4-06-282462)				

P11000843 [WH2-033]

科目名	こころとからだのしくみⅢ	前期	演習	2 単位
サブタイトル	身じたく・入浴・清潔保持・睡眠			
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 身じたく・清潔・入浴・睡眠に関連したからだところのしくみ、機能の低下・障害とその生活場面への影響が理解でき、支援の方法が理解できる。				
[授業概要] 介護実践に必要な、身じたくや清潔・入浴や睡眠に関連したこころとからだの基礎知識、高齢などに伴う機能低下・障害が及ぼす睡眠への影響や生活の変化について学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。 予習・復習をあわせて2時間程度				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 人間にとっての身じたくの意義 3. 身じたくの基礎知識 4. 機能低下・障害が及ぼす身じたくへの影響 5. 異常発見 6. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識 7. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 8. 機能低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響 9. 入浴・清潔保持に関連した生活場面に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 10. 睡眠の時間とリズム、睡眠のしくみ、その他 11. 睡眠に関連するからだの器官、その他 12. 老化などによる睡眠の機能低下、睡眠障害とその原因 13. 睡眠障害が及ぼす生活への影響 14. 睡眠の支援、睡眠の観察、快い睡眠への援助、その他 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業態度(30%)・筆記試験(70%) 小テストなど課題は添削して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000840 [WH3-008]

科目名	こころとからだのしくみⅢ	前期	演習	2 単位
サブタイトル	身じたく・入浴・清潔保持・睡眠			
担当者	木村 あい			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。
成績評価方法:授業態度・筆記試験

学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。
成績評価方法:授業態度・筆記試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業態度・筆記試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:授業態度・筆記試験

[教科書 (ISBN)]

最新介護福祉全書12 こころとからだのしくみ第3版

※1年次購入済み 著者名:小坂橋喜久代・松田たみ子編 出版社:メヂカルフレンド社

[参考書 (ISBN)]

適宜紹介

科目名	コミュニケーション技術	後期	演習	2 単位
サブタイトル	コミュニケーション			
担当者	津田 理恵子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる。 2.介護を必要とする人を理解し、支援関係を構築するためのコミュニケーションのとり方が身につく。 3.家族のおかれている状況を理解した上で、家族とのコミュニケーションのとり方が身につく。 4.障害の特性を理解した上で、障害の特性に応じたコミュニケーションのとり方が身につく。 5.情報をまとめ発信するための方法を理解し、チームにおけるコミュニケーションのとり方が身につく。				
〔 授業概要 〕 博士課程において対人支援技術を専門的に学んだ教員が、対人支援者として自己理解や他者の価値の受け入れなど、自己と向き合う基本的スキルを指導すると共に、介護の対象となる本人、家族などの理解を深め、本人や家族との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的知識と技術を指導します。そのうえで、障害の特性に合わせたコミュニケーション技法を学ぶと共に、情報を適切にまとめ情報を共有化する意義と方法について指導します。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1. 授業内容を復習し、日頃から学習したコミュニケーション技術を活用すること。 2. 次回の授業の予習と復習を各回2時間程度行うこと。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 自己紹介 3. コミュニケーションとは・自己理解 4. 自己開示・他者理解・価値観の受け入れ 5. コミュニケーションの構造と機能 6. 介護福祉士の価値と倫理・関わり記録とロールプレイ 7. 利用者・家族・他職種・同職種とのコミュニケーションの必要性 8. 記録の種類と報告・連絡・相談 9. 傾聴・受容・共感 10.コミュニケーションの基本技法・コミュニケーションの環境 11.個別コミュニケーションとグループワークにおけるコミュニケーション技法 12.地域の理解 13.地域住民とのコミュニケーションの実践 14.家族の理解と家族に合わせたコミュニケーション技法 15.家族の理解と家族に合わせたコミュニケーションの工夫 16.同職種の理解と同職種に合わせたコミュニケーション技法 17.同職種の理解と同職種に合わせたコミュニケーションの工夫 18.他職種の理解と他職種に合わせたコミュニケーション技法と連携 19.他職種の理解と他職種に合わせたコミュニケーション技法と連携の工夫 20.高齢者に合わせたコミュニケーション技法・ライフヒストリー 21.高齢者のライフヒストリー 22.地域住民の理解 23.地域住民に合わせたコミュニケーションの実践 24.障害(認知症)に合わせたコミュニケーション技法 25.障害(失語)に合わせたコミュニケーション技法 26.障害(知的障害)に合わせたコミュニケーション技法 27.障害(聴覚障害)に合わせたコミュニケーション技法 28.障害(視覚障害)に合わせたコミュニケーション技法 29.コミュニケーション技法の振り返り 30.まとめ				
〔 成績評価方法 〕 実技試験40% 筆記試験40% 課題や発言内容など授業参加度20% 個別にコメントを返したり面接によってフィードバックする。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000581 [WH1-014]

科目名	コミュニケーション技術	後期	演習	2 単位
サブタイトル	コミュニケーション			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実技試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実技試験授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業参加度筆記試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度実技試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実技試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験				
[教科書(ISBN)] 新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術 出版社:中央法規出版				
[参考書(ISBN)] 授業の中で随時紹介します。				

P11000581 [WH1-014]

科目名	在宅支援方法論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	その人らしい生活の実現			
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1.「生活」とは何かを説明できる。 2.生活障害を持ちながらの在宅生活者の支援のあり方を考える。 3.生活障害を支えるための具体的な方法を理解し実践できる。 [授業概要] 介護福祉士として実践経験のある教員が、「その人らしい生活」の支援のあり方について指導する。 1. 在宅で生活する要介護者を支援するために、生活とは何かを定義していく。 2. 生活の定義に基づいて、個々の生活課題(生活ニーズ)の多様性に気づき、尊厳ある生命維持のため、QOLの向上のために必要な生活の要素、生活の構成を学ぶ。 3. 生活支援の基本的な考え方を理解し、自立を獲得するための具体的な支援の知識、技術を習得し、在宅でのあるいは地域においての、その人らしい生活ができるよう支援のあり方を学ぶ。 4. 地域の社会資源について理解し、その活用の仕方や連携のあり方について学ぶ。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 1. 「介護の基本」や社会福祉の諸制度を復習しておく。 2. 前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく(各回4時間程度)。 [授業計画] 1. 生活すること 2. 在宅生活の基本 3. 在宅生活の支援と介護予防 4. 生活支援と環境 5. 介護保険と在宅福祉サービス、社会資源の活用 6. 家庭生活 7. 生活支援の実際 掃除 8. 生活支援の実際 調理 9. 生活支援の実際 洗濯 10. 生活支援の実際 衣類の補修、管理 11. 生活支援の実際 小管理 12. 在宅介護計画と介護過程の展開 13. 地域包括ケアシステムについて 14. 介護業務と法律的諸問題 15. 在宅生活での人生の最終段階における支援 [成績評価方法] 授業への取り組み30%、演習・課題の提出・発表70% 課題については添削し返却する。 発表についてはその場でコメントする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000570 [WH2-023]

科目名	在宅支援方法論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	その人らしい生活の実現			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業への取り組み演習・課題の発表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業への取り組み演習・課題の発表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み演習・課題の発表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業への取り組み演習・課題の発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み演習・課題の発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み演習・課題の発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業への取り組み演習・課題の発表				
[教科書(ISBN)] 「新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3940-9)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000570 [WH2-023]

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	児童福祉			
担当者	曾田 里美			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 児童・家庭福祉の今日的課題、歴史的背景、法制度と実施体制について理解する。				
〔 授業概要 〕 少子化の進行、地域や家庭における子育て機能の低下、児童虐待など児童に関するさまざまな問題が生じている。そこで、児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、児童福祉のニーズについて概観していく。また、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の権利保障の歩みについて学ぶ。適宜国家試験の過去問題や模擬問題を利用した小テストを行い、内容の理解と国家試験対策に努める。また、授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携などのあり方など担当教員が児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていく。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回について予習・復習4時間程度 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業内容の予習をしておくこと。次回の授業内容についてテキストを読んで臨むこと。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 児童・家庭の生活とこれらを取り巻く社会情勢 3. 児童福祉のニーズ 4. 子育て支援① 5. 子育て支援② 6. 児童の権利 7. 児童・家庭福祉制度の展開① 8. 児童・家庭福祉制度の展開② 9. 児童福祉の法体系 10. 児童福祉の法体系～児童福祉法～ 11. 児童福祉サービスの最近の動向 12. 児童福祉の実施体制① 13. 児童福祉の実施体制②～児童相談所の役割～ 14. 児童福祉施設 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 試験(70%)、小テスト(15%)、授業態度(15%)により評価する。小テストは毎回の授業の終わりに実施し、翌週の授業の始めに解説する。定期試験については、回収後、回答の解説を行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	児童福祉			
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
[教科書 (ISBN)] 「社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第7版」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5809-7)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000180 [WH2-007]

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	児童福祉			
担当者	曾田 里美			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 児童・家庭福祉にかかわる実践現場の現状と課題を現場の目線で理解することを目標とする。 [授業概要] 児童・家庭に対する相談援助を行っているそれぞれの分野で必要となる法制度や具体的サービスの内容について学ぶ。適宜国家試験の過去問題や模擬問題を利用した小テストを行い、内容の理解と国家試験対策に努める。また、授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携などのあり方など担当教員が児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていく。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回について予習・復習4時間程度 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業内容の予習をしておくこと。次回の授業内容についてテキストを読んで臨むこと。 [授業計画] 1. 児童健全育成サービス 2. 母子保健～母子保健法～ 3. 保育サービス 4. 社会的養護サービス① 5. 社会的養護サービス②～里親制度～ 6. 児童虐待～その対応～ 7. 児童虐待～児童虐待の防止等に関する法律～ 8. 非行問題への福祉サービス 9. ひとり親家庭への福祉サービス～母子及び寡婦福祉法、児童扶養手当法～ 10. 障害児の福祉サービス～特別児童扶養手当等の支給に関する法律他～ 11. DVへの対応、婦人相談～DV防止法、売春防止法～ 12. 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割 13. 児童・家庭福祉制度における専門職の役割 14. 児童・家庭福祉制度における連携、ネットワーク 15. まとめ [成績評価方法] 試験(70%)、小テスト(15%)、授業態度(15%)により評価する。小テストは毎回の授業の終わりに実施し、翌週の授業の始めに解説する。定期試験については、回収後、回答の解説を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	児童福祉			
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
[教科書 (ISBN)] 「社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第7版」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5809-7)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000190 [WH2-008]

科目名	社会調査の基礎	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	湯川 宗紀			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
社会調査についての理解を深め、社会調査の必要性と社会調査に対するリテラシーを身につけることを目標とします。				
[授業概要]				
「社会調査」と聞くと何か難しく、普段の自分の生活とは関係無いようなものに思えるかもしれません。 しかし、社会には数多くのデータが氾濫し、自分自身も意識しないうちにカウントされ利用されている現実があります。				
この授業では現代社会の実態を客観的に見ること、例えば今の日本の社会は犯罪が頻発する危険な社会なのか、若者(受講者のみなさん)の未来はどれほど暗いのか、格差社会が叫ばれる中、どれくらいの人が貧困にあえいでいるのか、どのような人がどのようなことに苦しんでいるのか等、いくつかの事例から社会調査の目的と意義、社会調査から現実社会を読み解いていきます。				
なお、受講者の興味関心、習熟状況、社会動向の変化により講義内容や講義の進み具合が変わる場合があります。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
各回、予習復習あわせて4時間程度				
予習 新聞を読み、ネットやワイドショーではなくニュース番組をきちんと見る				
復習 講義内容を復習する				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. 社会調査の意義と目的				
3. 統計法				
4. 社会調査における倫理				
5. 社会調査における個人情報の保護				
6. 量的調査の方法1 量的データから見る日本の現状				
7. 量的調査の方法2 量的データの分析方法				
8. 量的調査の方法3 質問紙作成の留意点				
9. 質的調査の方法1 様々な質的調査法の紹介				
10. 質的調査の方法2 質的データから見る日本の現状				
11. 質的調査の方法3 質的調査の留意点				
12. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法1 WEBサービスを利用したアンケート調査				
13. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法2 Excelでのデータ集計				
14. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法3 Excelでのデータ検定				
15. まとめ				
[成績評価方法]				
中間テスト(30点)、期末レポート(60点)				
テストは講義中に正解を解説する				
レポートはレポート回収後に模範例を紹介する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000330 [WH3-012]

科目名	社会調査の基礎	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	湯川 宗紀			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート 学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート [教科書(ISBN)] 新・社会福祉士養成講座(5)社会調査の基礎 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版(4805837608) [参考書(ISBN)] 必要に応じてプリント等を配布、書籍の紹介を行います。				

P11000330 [WH3-012]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。				
2. ゼミでの課題の通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
[授業概要]				
高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講義を受ける前にその分野の現状や概要等について調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
各回についての予習・復習2時間程度				
新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表等の課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. 福祉施設について(施設見学の事前学習)				
3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り				
4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など				
5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り				
6. 図書館ツアー				
7. レポートの書き方				
8. 認知症サポーター準備学習				
9. 認知症サポーター養成講座				
10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート)				
11. デートDV防止研修				
12. デートDV防止研修振り返り(レポート)				
13. 履修説明				
14. 社会福祉入門・グループワーク				
15. 前期のまとめ・夏休みの課題説明				
16. 後期オリエンテーション				
17. 夏休みの課題(レポート)発表				
18. 児童養護施設と職員の仕事				
19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り				
20. 赤ちゃん先生プロジェクト				
21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り				
22. 地域でのボランティア活動(クリーン作成)				
23. 地域でのボランティア活動振り返り				
24. 障害当事者の講義				
25. 障害当事者の講義を受けて振り返り				
26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流				
27. 卒業生研究交流会振り返り				
28. 社会福祉入門・グループワーク				
29. 福祉関係国家資格と国家試験				
30. まとめ				
[成績評価方法]				
授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010A [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010A [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	清水 弥生			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕				
1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。				
2. ゼミでの課題の通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
〔 授業概要 〕				
高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講義を受ける前にその分野の現状や概要等について調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕				
各回についての予習・復習2時間程度				
新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表等の課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
〔 授業計画 〕				
1. オリエンテーション				
2. 福祉施設について(施設見学の事前学習)				
3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り				
4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など				
5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り				
6. 図書館ツアー				
7. レポートの書き方				
8. 認知症サポーター準備学習				
9. 認知症サポーター養成講座				
10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート)				
11. デートDV防止研修				
12. デートDV防止研修振り返り(レポート)				
13. 履修説明				
14. 社会福祉入門・グループワーク				
15. 前期のまとめ・夏休みの課題説明				
16. 後期オリエンテーション				
17. 夏休みの課題(レポート)発表				
18. 児童養護施設と職員の仕事				
19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り				
20. 赤ちゃん先生プロジェクト				
21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り				
22. 地域でのボランティア活動(クリーン作成)				
23. 地域でのボランティア活動振り返り				
24. 障害当事者の講義				
25. 障害当事者の講義を受けて振り返り				
26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流				
27. 卒業生研究交流会振り返り				
28. 社会福祉入門・グループワーク				
29. 福祉関係国家資格と国家試験				
30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕				
授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010D [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	清水 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010D [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	曾田 里美			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。 2. ゼミでの課題の通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
〔 授業概要 〕 高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講義を受ける前にその分野の現状や概要等について調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回についての予習・復習2時間程度 新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表等の課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 福祉施設について(施設見学の事前学習) 3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り 4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など 5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り 6. 図書館ツアー 7. レポートの書き方 8. 認知症サポーター準備学習 9. 認知症サポーター養成講座 10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート) 11. デートDV防止研修 12. デートDV防止研修振り返り(レポート) 13. 履修説明 14. 社会福祉入門・グループワーク 15. 前期のまとめ・夏休みの課題説明 16. 後期オリエンテーション 17. 夏休みの課題(レポート)発表 18. 児童養護施設と職員の仕事 19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り 20. 赤ちゃん先生プロジェクト 21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り 22. 地域でのボランティア活動(クリーン作成) 23. 地域でのボランティア活動振り返り 24. 障害当事者の講義 25. 障害当事者の講義を受けて振り返り 26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流 27. 卒業生研究交流会振り返り 28. 社会福祉入門・グループワーク 29. 福祉関係国家資格と国家試験 30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010E [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010E [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ			
担当者	眞野 典子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。 2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
〔 授業概要 〕 高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講演を受ける前にその分野の現状や概要などについて調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回についての予習・復習2時間程度 新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表などの課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 福祉施設について(施設見学の事前学習) 3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り 4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など 5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り 6. 図書館ツアー 7. レポートの書き方 8. 認知症サポーター準備学修 9. 認知症サポーター養成講座 10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート) 11. デートDV防止研修 12. デートDV防止研修振り返り(レポート) 13. 履修説明 14. 社会福祉入門・グループワーク 15. 前期のまとめ 夏休みの課題説明 16. 後期オリエンテーション 17. 夏休みの課題(レポート)発表 18. 児童養護施設と職員の仕事 19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り 20. 赤ちゃん先生プロジェクト 21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り 22. 地域でのボランティア活動(クリーン作戦) 23. 地域でのボランティア活動振り返り 24. 障害当事者の講義 25. 障害当事者の講義を受けて振り返り 26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流 27. 卒業生研究交流会の振り返り 28. 社会福祉入門・グループワーク 29. 福祉関係国家資格と国家試験 30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010H [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ			
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010H [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	津田 理恵子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。 2. ゼミでの課題の通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
〔 授業概要 〕 高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講義を受ける前にその分野の現状や概要等について調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回についての予習・復習2時間程度 新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表等の課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 福祉施設について(施設見学の事前学習) 3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り 4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など 5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り 6. 図書館ツアー 7. レポートの書き方 8. 認知症サポーター準備学修 9. 認知症サポーター養成講座 10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート) 11. デートDV防止研修 12. デートDV防止研修振り返り(レポート) 13. 履修説明 14. 社会福祉入門・グループワーク(施設見学) 15. 前期のまとめ・夏休みの課題説明 16. 後期オリエンテーション 17. 夏休みの課題(レポート)発表 18. 児童養護施設と職員の仕事 19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り 20. 赤ちゃん先生プロジェクト 21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り 22. 地域でのボランティア活動(クリーン作成) 23. 地域でのボランティア活動振り返り 24. 障害当事者の講義 25. 障害当事者の講義を受けて振り返り 26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流 27. 卒業生研究交流会振り返り 28. 社会福祉入門・グループワーク 29. 福祉関係国家資格と国家試験 30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010I [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010I [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	横山 正子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。 2. ゼミでの課題の通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
〔 授業概要 〕 高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講義を受ける前にその分野の現状や概要等について調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回についての予習・復習2時間程度 新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表等の課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 福祉施設について(施設見学の事前学習) 3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り 4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など 5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り 6. 図書館ツアー 7. レポートの書き方 8. 認知症サポーター準備学習 9. 認知症サポーター養成講座 10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート) 11. デートDV防止研修 12. デートDV防止研修振り返り(レポート) 13. 履修説明 14. 社会福祉入門・グループワーク(学外特別講師) 15. 前期のまとめ・夏休みの課題説明 16. 後期オリエンテーション 17. 夏休みの課題(レポート)発表 18. 児童養護施設と職員の仕事 19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り 20. 赤ちゃん先生プロジェクト 21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り 22. 地域でのボランティア活動(クリーン作成) 23. 地域でのボランティア活動振り返り 24. 障害当事者の講義 25. 障害当事者の講義を受けて振り返り 26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流 27. 卒業生研究交流会振り返り 28. 社会福祉入門・グループワーク 29. 福祉関係国家資格と国家試験 30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010K [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010K [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	小笠原 慶彰			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。 2. ゼミでの課題の通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
〔 授業概要 〕 高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講義を受ける前にその分野の現状や概要等について調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回についての予習・復習2時間程度 新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表等の課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 福祉施設について(施設見学の事前学習) 3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り 4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など 5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り 6. 図書館ツアー 7. レポートの書き方 8. 認知症サポーター準備学習 9. 認知症サポーター養成講座 10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート) 11. デートDV防止研修 12. デートDV防止研修振り返り(レポート) 13. 履修説明 14. 社会福祉入門・グループワーク 15. 前期のまとめ・夏休みの課題説明 16. 後期オリエンテーション 17. 夏休みの課題(レポート)発表 18. 児童養護施設と職員の仕事 19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り 20. 赤ちゃん先生プロジェクト 21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り 22. 地域でのボランティア活動(クリーン作成) 23. 地域でのボランティア活動振り返り 24. 障害当事者の講義 25. 障害当事者の講義を受けて振り返り 26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流 27. 卒業生研究交流会振り返り 28. 社会福祉入門・グループワーク 29. 福祉関係国家資格と国家試験 30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010M [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010M [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	佐々木 勝一			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。 2. ゼミでの課題の通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
〔 授業概要 〕 高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講義を受ける前にその分野の現状や概要等について調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回についての予習・復習2時間程度 新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表等の課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 福祉施設について(施設見学の事前学習) 3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り 4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など 5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り 6. 図書館ツアー 7. レポートの書き方 8. 認知症サポーター準備学習 9. 認知症サポーター養成講座 10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート) 11. デートDV防止研修 12. デートDV防止研修振り返り(レポート) 13. 履修説明 14. 社会福祉入門・グループワーク 15. 前期のまとめ・夏休みの課題説明 16. 後期オリエンテーション 17. 夏休みの課題(レポート)発表 18. 児童養護施設と職員の仕事 19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り 20. 赤ちゃん先生プロジェクト 21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り 22. 地域でのボランティア活動(クリーン作成) 23. 地域でのボランティア活動振り返り 24. 障害当事者の講義 25. 障害当事者の講義を受けて振り返り 26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流 27. 卒業生研究交流会振り返り 28. 社会福祉入門・グループワーク 29. 福祉関係国家資格と国家試験 30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010N [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010N [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	下司 実奈			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕				
1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。				
2. ゼミでの課題の通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。				
〔 授業概要 〕				
高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困等に関して当事者や支援者から直接話を聞くことで、問題や支援の実状について知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。そのために、事前学習として当事者や支援者による講義を受ける前にその分野の現状や概要等について調べてレポートやレジメにまとめる。さらに講義の後には事後学習として講義から得られた気づきや考察を整理し発表・共有する。また、福祉施設の見学、ボランティア活動の参加、卒業生との交流など多様な経験・学習を通して社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕				
各回についての予習・復習2時間程度				
新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持つとともに、問題点や疑問点を考える。レポートやゼミ発表等の課題に対して課題を進めるスケジュールを各自調整する。				
〔 授業計画 〕				
1. オリエンテーション				
2. 福祉施設について(施設見学の事前学習)				
3. 合宿オリエンテーション・福祉施設見学の振り返り				
4. ボランティア活動のすすめ・子ども食堂など				
5. ボランティア活動・子ども食堂など振り返り				
6. 図書館ツアー				
7. レポートの書き方				
8. 認知症サポーター準備学習				
9. 認知症サポーター養成講座				
10. 認知症サポーター養成講座振り返り(レポート)				
11. デートDV防止研修				
12. デートDV防止研修振り返り(レポート)				
13. 履修説明				
14. 社会福祉入門・グループワーク				
15. 前期のまとめ・夏休みの課題説明				
16. 後期オリエンテーション				
17. 夏休みの課題(レポート)発表				
18. 児童養護施設と職員の仕事				
19. 児童養護施設と職員の仕事振り返り				
20. 赤ちゃん先生プロジェクト				
21. 赤ちゃん先生プロジェクト振り返り				
22. 地域でのボランティア活動(クリーン作成)				
23. 地域でのボランティア活動振り返り				
24. 障害当事者の講義				
25. 障害当事者の講義を受けて振り返り				
26. 卒業生研究交流会・卒業生との交流				
27. 卒業生研究交流会振り返り				
28. 社会福祉入門・グループワーク				
29. 福祉関係国家資格と国家試験				
30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕				
授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000010P [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ			
担当者	下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] 教員から指示する				
[参考書 (ISBN)] 教員から指示する				

P11000010P [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	自己決定を支えるエンパワメント支援			
担当者	泉 妙子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 1)世界人権宣言 権利としての自己決定とその支援の重要性について理解できる 2)ICFの概念を整理 自己決定を支えるエコロジカルソーシャルワークに基づくエンパワメントアプローチが実践できる 3)研究テーマに導く小論文(A4 4枚)を1つ作成できる				
〔 授業概要 〕 テキスト「夜と霧」を輪読し、世界人権宣言にいたる背景と意味を理解する。ICFの概念に基づき 障害や高齢に伴う「できないこと」「治らないこと」によって未来を閉ざされるのではなく、当事者の自分自身に関する身近な「できること」一つ一つのニーズを、個別に承認していく肯定的な過程を日常に取り入れたエンパワメントアプローチを考察する。病気や障害とともに暮らす生活の中で「個人的なわがまま」として処理され、潜在化されていく個別の願いに対し、社会的責任と自己決定が保障・承認される支援の必要性を理解し、友愛訪問・交流・見学等取り入れることによって問題意識を啓発する。カレル・ジャーメインのエコロジカルソーシャルワーク、潜在化されたニーズの表出への支援が問題の核心だとするブラッドショウの四類型等いくつかの指導概念を整理し、自己決定を阻む障壁を考察しつつ、自らの専門性を方向付ける問題提起・課題・支援方法を小論文にまとめる。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 自らの指導概念を構築するために、今まで学んだソーシャルワーク・ケアワークの理念や各種アプローチを整理しておく。各回、興味のある分野について必要な文献・資料の準備を2時間程度すること。				
〔 授業計画 〕 前期 1.科目オリエンテーション 2.問題提起 自己決定とは 3.概念の構築1 :V.フランク 4.概念の構築2 :V.フランク 5.概念の構築3 :V.フランク 6.学外研修 7.概念の構築5 :カレル・B・ジャーメイン 8.概念の構築6 :ICFの概念 9.現状の把握:友愛訪問・交流 10.現状の把握:友愛訪問・交流 11.障壁1 :否定的な力 12.障壁2 :なぜニーズは潜在化するのか 13.障壁3 :隔離と囲い込み 14.問題意識の表出 15.総括 後期 1.先行研究の整理と指導概念の決定 2.論文の枠組みと構成:研究テーマを考察する 3.支援の実践:エンパワメントアプローチ 4.支援の実践:エコロジカルアプローチ 5.支援の実践1 A 6.支援の実践2 B 7.学外研修 8.問題提起1:事例を通して問題を考察する 9.問題提起2:事例を通して問題を考察する 10.小論文の作成1 11.小論文の作成2 12.小論文の作成3 13.小論文の作成4 14.小論文の作成5 15.総括				
〔 成績評価方法 〕 論文作成50%・資料整理30%・レポート課題提出20%の総合評価 授業ノートは毎回確認して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020 [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	自己決定を支えるエンパワメント支援			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題・論文作成				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート課題・論文作成				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題・論文作成				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題・論文作成				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート課題・論文作成				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:Groupディスカッションとレポート提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:Groupディスカッションとレポート提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:学外研修				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:学外研修				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:Groupディスカッションとレポート提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:Groupディスカッションとレポート提出				
[教科書 (ISBN)] 「夜と霧」(2013) 著者名:V.E.フランクル 出版社:みすず書房 (4-622-00601-4)				
[参考書 (ISBN)] エコロジカル・ソーシャルワーク 著者名:ソロモン・ジャーメインなど 出版社:学苑社ほか				

P11000020 [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク			
担当者	植戸 貴子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 相談援助職(ソーシャルワーカー)に求められる基本的な姿勢(価値観・倫理観・視点・態度)を身につけることを目指す。より具体的には、新聞や専門雑誌の記事及び相談援助事例や現場実践報告などを読み・聞くことを通して、また関心のあるテーマについて研究することを通して、福祉課題を抽出し、ソーシャルワークの視点で考察できるようになることを目標とする。				
〔授業概要〕 福祉サービス利用者やその家族に対する、生活支援や相談援助をテーマにする。まず、利用者・家族の心理・行動や社会環境の中にある生活問題を理解し、生活全体をとらえる視点を養う。その上で、利用者や家族が必要とするサービスや支援につなぐ「相談援助活動」(ソーシャルワーク)のあり方について学ぶ。そこでは特に、利用者を「できない人」「弱者」として上から見るのではなく、「対等な市民」として尊重する基本姿勢を大切に。新聞記事を読んだり、利用者・家族や現場の社会福祉士のお話を直接伺ったり、相談援助事例を読み解いたり、また希望があれば、施設を見学したり、利用者・家族の地域での支援活動や外部の学習会に参加したりできるようにする。利用者・家族が直面するさまざまな生活課題について、またその支援のあり方について、一緒に考えていくゼミにしたいと考えている。障害者分野の生活支援・相談援助を中心とするが、高齢者等の分野も必要に応じて取り上げ、幅広い利用者の相談援助について学ぶ。 毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、相談援助実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるように授業を展開する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、社会福祉について幅広い関心を持ち、新聞記事・専門雑誌・学外セミナーやボランティア活動などを通して、様々な福祉課題について主体的に学ぶ姿勢を持つこと。				
〔授業計画〕 (前期) 1. オリエンテーション 2. 図書館の活用法を学ぶ 3. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題① 4. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題② 5. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題③ 6. ソーシャルワークにおける人間理解① 7. ソーシャルワークにおける人間理解② 8. ソーシャルワークにおける社会環境の理解① 9. ソーシャルワークにおける社会環境の理解② 10. 事例を通して学ぶ障害者と家族の生活ニーズ① 11. 事例を通して学ぶ障害者と家族の生活ニーズ② 12. 事例を通して学ぶ高齢者と家族の生活ニーズ 13. 当事者・家族の話から学ぶ障害者の生活ニーズ(学外特別講師) 14. 当事者・家族の話を振り返ってのディスカッション 15. まとめ (後期) 1. オリエンテーション 2. 事例を通して学ぶソーシャルワークの視点と価値① 3. 事例を通して学ぶソーシャルワークの視点と価値② 4. 現場の実践者の話から学ぶ(学外特別講師) 5. 統計資料を通して学ぶ社会福祉の課題① 6. 統計資料を通して学ぶ社会福祉の課題② 7. 自由テーマによる個人研究の準備 8. 自由テーマによる個人研究の発表① 9. 自由テーマによる個人研究の発表② 10. DVD学習① 11. DVD学習② 12. 先行研究レビューと文献講読の方法を学ぶ 13. 文献講読① 14. 文献講読② 15. まとめ				
〔成績評価方法〕 授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。ゼミ発表、授業内レポートの評価については、その場で、翌週の授業で、あるいは学科期末の授業においてフィードバックする。				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020A [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク			
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表、授業内レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表、授業内レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表、授業内レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表、授業内レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表、授業内レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表、授業内レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表、授業内レポート				
[教科書 (ISBN)] なし。授業の中で、プリント等を配付				
[参考書 (ISBN)] 授業の中で随時紹介します。				

P11000020A [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える			
担当者	木村 あい			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 ・自分自身を理解し受け入れる（自己覚知）。 ・他者を理解し受け入れる。 ・自らが人生の主役として、大人として責任をもった行動ができるようになる。 ・対人支援の実践者として、自らの実践基盤と支援者としてのあり方の確立を図る。 ・社会福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としての自覚を持つ。 ・卒業論文を執筆する力を身につける。				
〔 授業概要 〕 対人支援は価値、知識、技術を身につけたとしても、実践に活かされなければ意味をなさない。相手を理解し、寄り添い支援するにあたり、自らの実践基盤と支援者としてのあり方を追究する。 興味関心のあるテーマについて調べ報告するプロセスを通して、自分自身の考えを他者に理解をしてもらう方法と、他者の意見に傾聴することの重要性を学んでいく。自分と他者との価値観の違いに気づき、一人ひとりの存在を実感する。また、自らが経験した実践を振り返り、深く考察する。4年生でまとめる、卒業論文に向けて文献検索や論文の書き方、調査方法等を学ぶ。 教員の高齢の知的障がいのある人の入所施設や海外ボランティアの経験や事例を通して、ディスカッションやグループワーク、ロールプレイを行う。				
〔 準備学修(授業前後の主體的な学修) 〕 日頃から授業に関する新聞、ニュース等に関心をもつこと。 関心領域のセミナー等に参加すること。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 授業の進め方、自己紹介 2. 多角面からのものの見方や考え方 3. 社会福祉の価値や倫理を考える① 4. 社会福祉の価値や倫理を考える② 5. 社会福祉とは何か 6. 文献検索の方法 7. ソーシャルワークにおける人間の理解 8. ソーシャルワークにおける環境の理解 9. 高齢者や障がいを持つ人の生活とニーズの理解 10. 支援者としての視点 11. 専門職としての姿勢を学ぶ① 12. 専門職としての姿勢を学ぶ② 13. 専門職としての姿勢を学ぶ③ 14. 様々な人々の生活について（学外特別講師） 15. 復習とまとめ 16. 後期授業の進め方・オリエンテーション 17. 関心領域の研究を学ぶ①(フィールドワーク) 18. 関心領域の研究を学ぶ②(フィールドワーク) 19. 関心領域の研究を学ぶ③(フィールドワーク) 20. 関心領域の文献講読と発表・議論① 21. 関心領域の文献講読と発表・議論② 22. 関心領域の文献講読と発表・議論③ 23. 関心領域の文献講読と発表・議論④ 24. 関心領域の文献講読と発表・議論⑤ 25. 論文の執筆について① 26. 論文の執筆について② 27. 論文の執筆について③ 28. 卒業論文に向けて① 29. 卒業論文に向けて② 30. 復習とまとめ				
〔 成績評価方法 〕 レポート(30%)、課題発表(30%)、授業への取り組み(40%) レポートは後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020B [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題発表,授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み				
[教科書 (ISBN)] なし 授業中に紹介				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000020B [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	下司 実奈			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 自分の研究したいテーマを見つけ卒業論文へとつなぐ。				
〔 授業概要 〕 ゼミのテーマ:「発達を支援する一専門家としての力量を高めるために」 人は人らしく生きるために生涯、発達を続けます。子どもを育てる、人を育てるということは社会の大切なプロジェクトであり、同時にそれぞれが育っていくプロセスでもあります。 地域で他の専門職(保健師・教師・セラピスト等)と共に子どもや家族を支援していくことを学生の皆さんそれぞれ興味関心のある切り口から、学習していきましょう。長年勤務してきた障害児施設や、現在臨床現場で出会っている多くの子どもたちと家族の方々から学んだ実践の知識とスキルを、そして子どもの成長する力、人の成長し続ける力を信じる大切さを、臨床心理士としての視点も加えて伝えていきたいと考えています。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 社会で起きている様々な事象を知ろうとし、疑問点について皆と考える素材提出ができるよう、各回予習復習合わせて2時間程度準備する。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 文献講読とプレゼンテーション 3. 文献講読とプレゼンテーション 4. 文献講読とプレゼンテーション 5. 文献講読とプレゼンテーション 6. 文献講読とプレゼンテーション 7. 文献検索の実際 8. 文献検索の実際 9. 論文講読と発表及びディスカッション 10. 論文講読と発表及びディスカッション 11. 論文講読と発表及びディスカッション 12. 論文講読と発表及びディスカッション 13. 論文講読と発表及びディスカッション 14. 施設現場見学 15. 施設現場見学 16. 対人援助を学ぶワークショップ 17. 対人援助を学ぶワークショップ 18. 論文の書き方 19. 論文の書き方 20. 論文の書き方 21. 研究テーマに基づいた発表会 22. 研究テーマに基づいた発表会 23. 研究テーマに基づいた発表会 24. 研究テーマに基づいた発表会 25. 研究テーマに基づいた発表会 26. 研究テーマに基づいた発表会 27. 卒業論文のテーマを決める 28. 卒業論文のテーマを決める 29. 卒業論文のテーマを決める 30. 卒業論文のテーマを決める				
〔 成績評価方法 〕 受講態度(50%)・レポート(50%)を総合して評価する レポートは後日返却してフィードバックする。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020C [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題 学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート課題 学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート課題 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題 [教科書 (ISBN)] なし [参考書 (ISBN)] なし				

P11000020C [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える			
担当者	清水 弥生			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 卒業論文執筆の準備段階として、調査、研究、発表の技法を学び、議論する中で、自分の関心のある研究分野、対象を探ることが3年次ゼミの目標となる。				
〔 授業概要 〕 私たちが安心して暮らすための、生活を支えるさまざまな社会制度・政策は、実際にどのように行われ、どのような問題があるのだろうか。例えば、高齢者に関わる制度がめまぐるしく変化しているが、それはどのような影響を高齢者の生活に及ぼすのだろうか。様々な問題を、文献講読、新聞記事、NPO等の見学等を通して、深く考え批判考察する技能を身につけていきたい。 前半では、高齢者、女性、在住外国人、北欧福祉国家の現状等に関するいくつかの社会政策の課題の中から、ゼミ生の関心・テーマに沿っていくつかを選び、勉強していく。 後半では、卒業論文執筆に向けて準備し、各自のテーマに関する口頭発表とレポート執筆を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 新聞を毎日読む、ニュースを見る等、社会を理解するための基本的な知識を身につける。その上で社会福祉関連の文献を日常的に読みこなせるよう読書習慣をつけておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 文献検索の方法 3. レジューメ・レポートの書き方 4. 保健分野における医療ソーシャルワークの実際 青木理恵子(学外講師) 5. 講義の振り返り 6. 個別のテーマに沿った文献講読と発表① 7. 個別のテーマに沿った文献講読と発表② 8. 個別のテーマに沿った文献講読と発表③ 9. 個別のテーマに沿った文献講読と発表④ 10. 個別のテーマに沿った文献講読と発表⑤ 11. 個別のテーマに沿った文献講読と発表⑥ 12. ゼミのテーマの沿った見学準備 13. 見学 14. 討論 15. 前期のまとめ 16. 各自の研究テーマ選択についてのガイダンス 17. 論文執筆に向けての指導① 18. 論文執筆に向けての指導② 19. 個別研究発表① 20. 個別研究発表② 21. 個別研究発表③ 22. 個別研究発表④ 23. 個別研究発表⑤ 24. 個別研究発表⑥ 25. 総評とディスカッション① 26. 総評とディスカッション② 27. 福祉現場で働く卒業生との交流 28. 卒業論文作成に向けて 個別指導 29. 卒業論文作成に向けて 来年度の課題 30. 後期のまとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業での課題の達成(70%)レポート(30%)による総合評価 ・レポートは添削して個別に返却します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020E [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える			
担当者	清水 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート 学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業課題、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート [教科書(ISBN)] 授業中に指定 [参考書(ISBN)] 授業中に指定				

P11000020E [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援			
担当者	曾田 里美			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 子どもをとりまく様々な生活問題、それに対するサービスや支援について学び、その学びの中から卒業論文作成に向けて、各自関心あるテーマを見つけていく。 〔授業概要〕 近年子どもをとりまく問題は、児童虐待に代表されるように、深刻かつ複雑化している。しかし、子どもは自身のしんどさやつらさを訴え、自ら解決していくことは困難である。援助者として、そのような子どもの置かれた状況や思いを理解し、それを代弁していくような力が求められる。本演習では、子どもをとりまく様々な問題について、その実情や背景を理解していくとともに、その支援のあり方について考察していく。また、授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携などのあり方など担当教員が児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていく。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 各回についての予習・復習2時間程度 日頃から新聞、雑誌、TVニュース等で授業に関する出来事に関心をもつこと。 〔授業計画〕 <前期> 1. オリエンテーション 2. 子どもをとりまく問題について考える 3. 子どもをとりまく問題について考える 4. レジューメ、レポートの書き方 5. レジューメ、レポートの書き方 6. 文献講読と個別発表、ディスカッション 7. 文献講読と個別発表、ディスカッション 8. 文献講読と個別発表、ディスカッション 9. 文献講読と個別発表、ディスカッション 10. 文献講読と個別発表、ディスカッション 11. 文献講読と個別発表、ディスカッション 12. 文献講読と個別発表、ディスカッション 13. 施設見学など 14. 施設見学など 15. まとめ <後期> 16. オリエンテーション 17. 各自研究テーマを決める 18. 文献検索の方法 19. 文献検索の方法 20. 自由テーマによる研究、発表 21. 自由テーマによる研究、発表 22. 自由テーマによる研究、発表 23. 自由テーマによる研究、発表 24. 自由テーマによる研究、発表 25. 施設見学など 26. 施設見学など 27. 卒業論文の作成に向けて 28. 卒業論文の作成に向けて 29. 先輩との交流 30. まとめ 〔成績評価方法〕 レポート(50%)、授業中の態度・ディスカッション等への参加(50%)により評価する。レポートは後日添削して返却する。 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020F [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援			
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] 授業の中で指示する。				

P11000020F [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	こころの健康・ソーシャルワーク			
担当者	眞野 典子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 テーマへの取り組みにより自己覚知を深めるとともに、主体的に課題を見つけ、クリティカルに読み解くために求められる思考力を身につけることを目標とする。さらに多様な福祉課題の解決のための判断力・実践力を醸成する。 〔授業概要〕 ゼミのテーマ： 1. 社会福祉・精神保健福祉及び医療福祉についての諸問題について学ぶ。例えば①精神科ソーシャルワーク・医療ソーシャルワーク・スクールソーシャルワークなど②障害者・傷病者の支援に関わる制度・機関・サービスとその機能及び内容③PSW・MSWの機能と役割④セルフヘルプグループの意義と機能⑤関連制度・分野 2. 上記諸問題への取り組みを通して、対人援助職を目指す自分自身を知り、資質の向上を図る。 3. 「関連する文献を探す・収集する」「読みこなす」「批判的に読む」「要約する」「課題を見つける」「レポートを作成する」「発表する」「議論する」力を養う。 行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験と、複数の行政機関の審議会委員やNPO法人の理事などを務めている教員による、行政機関及び関係機関の実態や最新の課題などを伝えることができる。また求められるソーシャルワーカーの在り方を教示することができる。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 各回について予習復習2時間程度。 積極的に準備学習を進め、主体的に課題を見つけ解決方法を見出す努力をする。レポートや発表など課題を進めるスケジュール調整を自立的に行う。 〔授業計画〕 1. オリエンテーション 2. テーマの選定 3. 関連する資料収集の方法① 4. 関連する資料収集の方法② 5. 要約・レポート作成・レジュメ作成の方法① 6. 要約・レポート作成・レジュメ作成の方法② 7. 発表のデモンストレーション 8. 各自のテーマに沿って発表・議論① 9. 各自のテーマに沿って発表・議論② 10. 各自のテーマに沿って発表・議論③ 11. 各自のテーマに沿って発表・議論④ 12. 各自のテーマに沿って発表・議論⑤ 13. 各自のテーマに沿って発表・議論⑥ 14. 各自のテーマに沿って発表・議論⑦ 15. まとめ 16. 後期オリエンテーション 17. 論文を読み、発表・議論 デモンストレーション 18. 論文を読み、発表・議論① 19. 論文を読み、発表・議論② 20. 関連したテーマについてさらに学習を深め統合する① 21. 論文を読み、発表・議論③ 22. 論文を読み、発表・議論④ 23. 関連したテーマについてさらに学習を深め統合する② 24. レポート作成を学ぶ① 25. レポート作成を学ぶ② 26. 先輩から学ぶ① 27. 先輩から学ぶ② 28. 卒業論文作成の準備① 29. 卒業論文作成の準備② 30. 卒業論文作成の準備③ 〔成績評価方法〕 授業参加状況(50%)・発表内容・レポート(50%)により総合的に評価する。 発表内容・レポートについては解説を行うことでフィードバックする。 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020J [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	こころの健康・ソーシャルワーク			
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、レポート・発表内容、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・発表内容、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・発表内容、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] なし。授業中に指定する。適宜プリント資料を配布する。				
[参考書 (ISBN)] なし。授業中に指定する。適宜プリント資料を配布する。				

P11000020J [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	高齢者福祉			
担当者	津田 理恵子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 ①高齢者一人ひとりの福祉を追求する意義とそのための支援が理解できる。 ②介護予防・介護負担軽減に向けた支援が理解できる。 ③卒業論文で取り組むテーマの方向性が明確になる。 〔授業概要〕 高齢者の福祉の実現に向けた回想法実戦の経験がある教員が、高齢者の特徴や高齢期の生きがいの特徴について学んだうえで、高齢者の福祉の実現につながる生きがいの再獲得に向けた支援について指導します。そのための支援の1技法を習得するために、グループ回想法の演習を取り入れながら勉強していきます。また、回想法などのアクティビティケアを通して、介護予防や高齢者のその人らしさを尊重した支援につながるアセスメント能力を育んでいきます。そして、介護負担感の軽減にも役立つ、社会福祉専門職としての対人支援能力習得に向けて指導します。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 下記の予習・復習を各回2時間程度 高齢者を取り巻くさまざまな課題について理解するために普段から新聞記事を読む。 授業内容を毎回ノートに整理して復習し、自己の問題意識が明確になるよう自主的に学習する。 〔授業計画〕 1. オリエンテーション 2. 高齢者の身体的・社会的・精神的特徴 3. 生きがい 4. 高齢者の生きがい 5. 高齢者を取り巻く課題 6. 生きがいの再獲得に向けた支援 7. 回想法とは 8. 回想法の技法 9. 高齢者と介護職員への回想法の介入効果 10. 地域作りに向けた活動 11. 介護負担感軽減に向けた支援 12. アクティビティ・ケア 13. 介護予防に向けた支援(フィールドワーク) 14. 地域づくりへの取り組み(フィールドワーク) 15. まとめ 16. オリエンテーション 17. 夏休みの課題発表 18. 自分史ノートとは 19. 個人回想法体験 20. 自分史ノート作成 20. グループ回想法体験 21. 先輩から学ぶ 22. 現場から学ぶ 23. グループワークの意義 24. 文献検索方法について 25. 自己の問題意識とテーマ 26. 卒業研究への取り組み方 27. 各自で問題意識を持ったテーマについて発表 28. 研究計画書作成 29. グループワークの実践 30. まとめ 〔成績評価方法〕 授業中の課題40%、授業参加度30%、レポート30% レポートや課題にはコメントを記入してフィードバックする。個別面談を適宜行う。 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020K [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	高齢者福祉			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業参加度レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業参加度レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の改題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:授業参加度				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で紹介する。				
[参考書 (ISBN)] 適宜資料を配布する。授業の中で紹介する。				

P11000020K [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	地域社会福祉史にみる女性の役割			
担当者	小笠原 慶彰			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 社会福祉専門職、あるいは社会福祉に関心ある市民として、それも特に女性としての立場から、社会福祉実践に対して果たすことのできる役割を考察できるようにする。その際に歴史的事実に着目し、そこから現在の実践にも有用な価値や倫理を見出すとともに自己のものにできることを目標とする。				
〔 授業概要 〕 歴史的形成体である福祉政策・実践を、特に近代以降の日本を中心としてその歴史的展開を通して考えるため演習を行う。近代以降の社会福祉の展開は、慈善救済、相互扶助を基盤とする制度、実践から、感化救済、社会事業を経て、現代的な社会福祉の体系へと展開してきた。まずそれらの過程について、人物、特に女性を取り上げて、その人物の果たした役割を知る。さらに本学の存在する神戸を初めとする特定の地域に着目して、その社会福祉の歴史的形成に女性の果たした役割を見出す。それによって、女性が地域福祉の推進にどのように寄与できるかを考察する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 予習(1時間) ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。 ・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。 復習(1時間) ・板書をしないので授業内容をまとめておく。 ・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。				
〔 授業計画 〕 〔前期〕 1. オリエンテーション(前期) 2. 社会福祉の歴史について①-制度史 3. 社会福祉の歴史について②-人物史 4. 社会福祉の歴史について③-実践史 5. 社会福祉の歴史について④-地域史 6. 社会福祉の歴史について⑤-思想史 7. 研究テーマを考える①-興味・関心を持てること 8. 研究テーマを考える②-もっと調べてみたいこと 9. 研究テーマを考える③-文献・資料を探してみよう 10. 研究テーマを考える④-もっと文献・資料を探してみよう 11. 研究テーマを考える⑤-文献・資料を読んでみよう 12. 研究テーマを考える⑥-さらに文献・資料を探してみよう 13. 研究テーマを考える⑦-もう一度文献・資料を読んでみよう 14. 研究テーマを考える⑧-文献・資料のリストを作ろう。 15. 前期のふりかえり、または学外学習 〔後期〕 16. オリエンテーション(後期) 17. 卒論の構成を考えよう①-論文の構成 18. 卒論の構成を考えよう②-論文の順序 19. 論文の作法①-注の付け方 20. 論文の作法②-引用の方法 21. 論文の作法③-文献表 22. 論文の作法④-インターネットの利用法 23. 論文の作法⑤-文章の推敲はどうするか 24. 研究テーマの発表会①-制度史 25. 研究テーマの発表会②-人物史 26. 研究テーマの発表会③-実践史 27. 研究テーマの発表会④-地域史 28. 研究テーマの発表会⑤-思想史 29. 卒業論文の執筆に向けて(卒業した先輩の経験談を聞く) 30. 後期のふりかえり、または学外学習				
〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み態度60パーセント、最終レポート25パーセント、前期・後期に各1回のミニ・レポート各5パーセント(前期は文献・資料リスト、後期は卒論の目次)の合計10パーセント、発表点5パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。最終レポートは学年末に提出する卒論の序論部分(下書き)とする。発表点は、後期に研究テーマについて発表(15分程度)したら獲得できる。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020M [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	地域社会福祉史にみる女性の役割			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート評価				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート評価				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート評価				
[教科書 (ISBN)] なし(プリント配布)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000020M [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	多文化ソーシャルワーク			
担当者	川端 麗子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 ①多文化共生の概念について理解する。 ②研究テーマを決めて、リサーチエスチョンと研究方法を決める。 ③卒論のフレームワークを作成する。 〔授業概要〕 2019年入管法改正を背景に、日本に暮らす外国籍住民は今後も増加することが見込まれる。外国籍住民の暮らす地域社会においては、多文化共生のまちづくりの取り組みがますます問われることになる。 ゼミでは、多文化共生をどのように捉えるのかを学び、参加と協働に基づく多文化共生のまちづくりに向けた多文化ソーシャルワーク実践について学ぶ。 研究方法には、文献購読、フィールドワーク、調査研究を用いる。フィールドに積極的に出の中で、卒業論文のテーマを決め、論文のフレームワークを作成する。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 各回、予習・復習合わせて2時間程度の学修を行う。 日頃から研究テーマの社会的背景に関心を持ち、知見の収集に努めること。 〔授業計画〕 【前期】 1.オリエンテーション 2.多文化共生を考える(教科書輪読) 3.多文化共生を考える(教科書輪読) 4.多文化共生を考える(教科書輪読) 5.図書館での文献検索 6.図書館での文献検索 7.文献購読 8.文献購読 9.文献購読 10.フィールドワーク 11.フィールドワーク 12.フィールドワーク 13.フィールドワーク 14.フィールドワーク 15.まとめ 【後期】 1.オリエンテーション 2.論文作成のスケジュールリング 3.論文作成の方法 4.論文作成の方法 5.論文構想プレゼン 6.論文構想プレゼン 7.リサーチエスチョンと研究方法 8.リサーチエスチョンと研究方法 9.リサーチデザイン 10.ブレ執筆と発表 11.ブレ執筆と発表 12.ブレ執筆と発表 13.ブレ執筆と発表 14.ブレ執筆と発表 15.まとめ 〔成績評価方法〕 授業中の発表50%・課題30%・授業態度20%などの総合評価 課題への取り組みはその場でフィードバックする。 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020N [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	多文化ソーシャルワーク			
担当者	川端 麗子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）] 学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:フィールド調査、プレゼンテーション、ディスカッション 学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:フィールド調査、プレゼンテーション、ディスカッション 学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:フィールド調査、プレゼンテーション、ディスカッション [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:フィールド調査、プレゼンテーション、ディスカッション 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:フィールド調査、プレゼンテーション、ディスカッション 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:フィールド調査、プレゼンテーション、ディスカッション [教科書 (ISBN)] 高谷幸編著『移民政策とは何か』人文書院 [参考書 (ISBN)] なし				

P11000020N [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	女性として、今後の社会福祉の在り方を考えます。			
担当者	佐々木 勝一			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 1)今日の社会福祉の現状から、課題と臨むべき方向について考察します。 2)女性のワークライフバランスの視点から検討します。 3)研究テーマに沿って、ディスカッション、レポート作成を行います。 4)前期、後期に社会福祉現場を訪問し、理解を進めます。				
〔 授業概要 〕 G・エスピン＝アンデルセン著『アンデルセン、福祉を語る』(NTT出版)を読み、その内容について検討します。特に、女性としての当事者性から、現状の分析、課題の抽出、臨むべき改善方法について、ここに分担して、発表を行います。 また、福祉現場への見学と、その感想もまとめます。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 課題本を、授業前に必ず読み、授業後はその感想をまとめてください。特に、発表の当番の時は、発表用のレジュメ、資料を作成して、配布してください。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 前期 1.オリエンテーション 2.家族の変化と女性革命 女性が世界を変える 3.家族と福祉レジーム 4.新たな政策に課せられた挑戦 5.生涯にわたって女性の就労を支援する 6.男性のライフスタイルを女性化させる 7.国家、市場、各種団体による新たな役割分担 8.関連する機関・施設見学 9.子どもと機会平等 インTRODクシヨン 10.新たな挑戦 11.増加し続ける障壁-所得不平等の拡大 12.社会的相続というメカニズムを暴く 13.結論-家族の子どもへの投資を支援する 14.関連する機関・施設見学 15.総括 後期 1.高齢化と公平 インTRODクシヨン 2.福祉レジームと高齢者 3.世代間の公平 4.今日の子ども世代のための年金改革-世代間契約を超えて 5.年金改革は乳幼児から始める 6.関連機関・施設の見学 7.全体発表会1 8.全体発表会2 9.全体発表会3 10.小論文の作成1 11.小論文の作成2 12.小論文の作成3 13.小論文の作成4 14.関連機関・施設の見学 15.総括				
〔 成績評価方法 〕 課題50%・資料整理30%・授業態度20%などの総合評価 課題は後日返却してフィードバックする。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000020P [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル	女性として、今後の社会福祉の在り方を考えます。			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題への取り組み、レポート提出 学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み、レポート提出 学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み、レポート提出 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み、レポート提出 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題への取り組み、レポート提出 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題への取り組み、レポート提出 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: [教科書 (ISBN)] 『アンデルセン、福祉を語る』 著者名:G・エスピノーアンデルセン 出版社:NTT出版株式会社 (978-4-7571-4208-4 C0030) [参考書 (ISBN)] 『女性ホームレスとして生きる』 著者名:丸山里美 出版社:世界思想社 (978-4-7907-1593-1)				

P11000020P [WH3-001]

科目名	社会福祉特講Ⅰ（制度・政策）	前期	講義	2 単位
サブタイトル	児童福祉のための基礎知識			
担当者	下司 実奈、曾田 里美、横山 正子、田中 敦子、佐々木 勝一			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 児童福祉に関する基礎知識を学習し、支援を実行することの基盤を身につける。 〔授業概要〕 児童福祉がどういった歴史のもと、変化を遂げてきたのかを学び、現在、児童福祉はどういった課題に向き合っているのかを学ぶ。 乳幼児の発達を保障するために必要な基礎知識を様々な側面からアプローチして学ぶ。 児童福祉に関する実務経験のある教員が講義します。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 各回、予習復習合わせて4時間程度、前回・次回の課題について学習する。 普段の生活においても児童に関心を持ち、児童と関わる機会に授業での学びを復習し活用する。 〔授業計画〕 1. オリエンテーション(下司) 2. 乳幼児の保健(横山) 3. 乳幼児の保健(横山) 4. 保育における心理学(下司) 5. 児童と福祉(佐々木) 6. 食育と児童(田中) 7. 食育と児童(田中) 8. 食育と児童(田中) 9. 児童福祉(曾田) 10. 乳幼児保育の歴史と現状(下司) 11. 乳幼児の保健(横山) 12. 養護を必要とする児童への支援(曾田) 13. 児童教育の変遷(下司) 14. 児童と遊び(下司) 15. まとめ(下司) 〔成績評価方法〕 授業態度(50%)・提出物(50%) 提出物について後日講評を行う。 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000890 [WH2-012]

科目名	社会福祉特講 I (制度・政策)	前期	講義	2 単位
サブタイトル	児童福祉のための基礎知識			
担当者	下司 実奈、曾田 里美、横山 正子、田中 敦子、佐々木 勝一			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:試験

学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:試験

学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:試験

学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験

[教科書 (ISBN)]

授業で教員から適宜紹介します。

[参考書 (ISBN)]

適宜紹介する。

科目名	社会福祉特講Ⅱ（社会問題）	後期	講義	2 単位
サブタイトル	家族が抱える生活問題と家族支援			
担当者	植戸 貴子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 家族が抱える多様な生活問題（貧困・虐待・DV・社会的孤立など）の実態を理解し、問題発生メカニズムを読み解き、問題解決に向けた家族支援の方策を多角的・総合的に見出せるようになることを目標とする。				
〔 授業概要 〕 今日、わが国において注目されている「家族が抱える多様な生活問題」の現状を理解し、生活問題の発生メカニズムを「家族システム」の視点から読み解き、「家族の生活問題」を「社会の問題」と結びつけて考察できるようになることを目指す。その上で、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、ケアワーカー（介護福祉士）として、家族の生活問題の解決に向けて、ミクロレベル（家族に対する直接的な働きかけ）、メゾレベル（家族と関わる支援機関や支援ネットワークに対する働きかけ）、マクロレベル（地域社会や行政に対する働きかけ）といった多角的なアプローチで支援する方策について学ぶ。さらに、「家族とは何か」「家族を支援するとはどういうことか」についても考察する。授業では、家族の生活問題をよりリアルに理解できるよう、新聞記事・DVD・手記なども教材として活用する。 毎回の授業では、担当教員のソーシャルワーカーとしての実践経験、地域における家族支援経験、行政の福祉施策への参画経験などを活かして、具体的な事例などを紹介しながら、多様な生活問題を多面的に考察できるよう授業を展開する。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、家族が直面する生活問題に関心を持ち、専門書・新聞記事・ニュース・テレビ番組・映画・小説・エッセイなど、幅広いツールを活用し、また家族・友人など身近な人たちとの普段の交流を通して、家族の生活問題への理解を深めるよう心がけること。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 「家族」とは何か：家族観の基礎的理解 3. 家族心理学の基礎的理解 3. 家族のライフサイクルの基礎的理解 4. 家族が抱える生活問題：貧困・経済格差 5. 家族が抱える生活問題：虐待（児童・高齢者・障害者） 6. 家族が抱える生活問題：暴力（DV・家族間暴力など） 7. 家族が抱える生活問題：介護負担（二重介護・老々介護・老障介護・ヤングケアラー・介護殺人など） 8. 家族が抱える生活問題：引きこもり（8050問題など） 9. 家族が抱える生活問題：社会的孤立（孤独死など） 10. 家族に対する支援：家族カウンセリング 11. 家族に対する支援：家族会・家族教室など 12. 家族に対する支援：ソーシャル・サポート・ネットワーク 13. 家族に対する支援：家族支援のための施策・制度 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 レポート（60％）・授業への取り組み及び振り返り（40％）で評価。授業への取り組み及び振り返りへの評価はその場で、翌週の授業で、最終回の授業でフィードバックする。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000900 [WH2-013]

科目名	社会福祉特講Ⅱ（社会問題）	後期	講義	2 単位
サブタイトル	家族が抱える生活問題と家族支援			
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート				
[教科書（ISBN）] なし				
[参考書（ISBN）] 必要に応じてプリントなどを配付				

P11000900 [WH2-013]

科目名	社会福祉特講Ⅳ（直接援助）	前期	講義	2 単位
サブタイトル	障がいの理解			
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を身につける。				
2 医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や歪心理的な変化を理解できる。				
3 ライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援を考察できる。				
4 地域でのサポート体制や、多種職連携・協働による支援の基礎的な知識を身につける。				
5 障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容過程や介護力に応じた支援を考察できる。				
[授業概要]				
障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援について理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
1 「障害者の支援と障害者総合支援法」を履修し理解しておくこと				
2 予習・復習を4時間程度しておくこと				
[授業計画]				
1 障害の基礎的理解				
2 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解				
3 身体障害の基本的理解				
4 身体障害者の心理的特徴と支援				
5 精神障害の基本的理解				
6 精神障害者の心理的特徴と支援				
7 知的障害の基本的理解				
8 知的障害者の心理的特徴と支援				
9 発達障害の基本的理解				
10 発達障害者の心理的特徴と支援				
11 難病の基本的理解				
12 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 生活上の課題と支援のあり方				
13 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 自立支援				
14 連携と協働 地域におけるサポート体制 多種職連携と協働				
15 家族の状況と家族への支援				
[成績評価方法]				
テスト(70%)、授業に対する取り組み(30%)				
提出課題については添削して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000920 [WH3-009]

科目名	社会福祉特講Ⅳ(直接援助)	前期	講義	2 単位
サブタイトル	障がいの理解			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:テスト、授業に対する取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:テスト、授業に対する取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:テスト、授業に対する取り組み				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:テスト、授業に対する取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:テスト、授業に対する取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:テスト、授業に対する取り組み				
[教科書(ISBN)] 障害の理解 出版社:中央法規				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000920 [WH3-009]

科目名	社会福祉特講Ⅴ（分野別）	後期	講義	2 単位
サブタイトル	臨床心理学と支援			
担当者	下司 実奈			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 臨床心理学は臨床の場でどのように誕生し育ってきた学問なのか、また、人々の生活を支援するためにどのように役立っているのかを知り、自分と人の心に気付き寄り添うことを学ぶ。 〔 授業概要 〕 対人援助の過程で必要とされる臨床心理学的な視点と方法について学び、アセスメントや介入の実際を紹介しながら自己への気付き、人への気付きを促していく。臨床心理士の経験を生かして指導する。 〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 学習内容を理解すること。 授業に関する新聞やニュース、TV番組等に関心をもって視聴すること。予習復習合わせて各回4時間程度をかけること。 〔 授業計画 〕 1.臨床心理学の歴史 2.精神疾患 3.産後うつ 4.うつ 5.DV 6.PTSD 7.虐待 8.虐待 9.不安障害 10.強迫性障害 11.認知行動療法 12.発達障害 13.ゲーム障害 14.心理検査 15.まとめ 〔 成績評価方法 〕 授業態度(40%)・レポート試験(60%)を総合して評価する。 フィードバックは授業中に行う。 〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	社会福祉特講Ⅴ（分野別）	後期	講義	2 単位
サブタイトル	臨床心理学と支援			
担当者	下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート				
[教科書 (ISBN)] レジュメ・資料を配布する				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000930 [WH3-010]

科目名	社会福祉特講Ⅵ(実践・活動)	前期	講義	2 単位
サブタイトル	女性と労働、結婚、子育て			
担当者	清水 弥生			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 大学卒業後必要な医療や労働についての知識を身につけ、ワークライフバランスについて理解する。				
[授業概要] 医療保険、労働法、ワークライフバランス等に関する社会政策を学ぶ。 そのため、個々の法律や育児休業制度等について理解するだけでなく、女性の労働を社会的に支えている北欧、フランス等の仕組みを学び、日本に欠けている政策はなにか考える。また、卒業後の職業選択について考える機会を設ける。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 次回の学習課題について調べ、授業後は復習し他の授業との関連性について整理しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1.オリエンテーション 2.医療保障制度について 3.公費負担医療 4.医療保険～国民健康保険 5.医療保険～健康保険 6.医療保険～後期高齢者医療制度 7.女性労働の実情－ジェンダーの視点から 8.ブラック企業・ブラックバイト～労働基準法を考える 9.日本のパートタイム労働と三歳児神話 10.育児休業法と男女雇用機会均等法 11.スウェーデンのワークファミリーバランス 12.スウェーデンの福祉と労働 13.フランスのワークライフバランス 14.私達のワークライフバランス 15.まとめ				
[成績評価方法] 授業中の課題(70%)、レポート(30%) ・課題については、授業中に補足、解説します。 ・レポートは、後日添削して返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	社会福祉特講Ⅵ(実践・活動)	前期	講義	2 単位
サブタイトル	女性と労働、結婚、子育て			
担当者	清水 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題				
[教科書 (ISBN)] 資料配付				
[参考書 (ISBN)] 適宜紹介する				

P11000940 [WH3-011]

科目名	社会保障Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ			
担当者	清水 弥生			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 目標は1.個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える 2. 現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む)について理解する 3. 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する 4. 社会保障制度の体系と概要について理解する 5. 年金保険制度の具体的内容について理解する 6. 高齢者福祉、障害者福祉および権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する、の6点である。				
〔 授業概要 〕 社会保障Ⅰでは、各社会福祉制度と直接間接に関わり、私たちの暮らしを支えるさまざまな制度について学ぶ。最初に、社会保障の考え方、枠組みについて説明し、社会保障の歴史について触れる。その後、年金制度ならびに、日本が直面する年金制度の課題について講義していく。適宜、新聞記事や映像資料を使用する。また、国家試験問題を利用して、小テストを行い、内容の振り返りに役立てる。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 新聞を毎日読む,ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 現代社会における社会保障制度の課題、社会と生活のしくみ 2. 社会保障の理念、対象と制度の発達 3. 社会保障の概念と範囲 4. 社会保障の役割と意義 5. 社会保障の財源と費用 6. 社会保険と社会扶助の関係 7. 社会保障制度の体系・社会保険関連制度について 8. 日本の年金制度①年金とはなにか②国民年金のしくみ 9. 日本の年金制度③国民年金の給付の種類 10. 日本の年金制度④厚生年金のしくみ 11. 日本の年金制度⑤厚生年金の給付の種類 12. 年金制度の今後の課題 13. 高齢者福祉と介護保険制度 14. 介護実践に関する諸制度 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 試験(80%)小テストや小レポート等(20%) ・小テストや小レポートは授業中に解説する。 ・試験は答案回収後解説する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	社会保障Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ			
担当者	清水 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、小テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、小レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、小レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験、小レポート				
[教科書 (ISBN)] はじめての社会保障 著者名:棕野美智子、田中耕太郎 出版社:有斐閣 (978-4-641-22135-2)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000100 [WH3-003]

科目名	社会保障Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ			
担当者	清水 弥生			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 目標は1. 医療保険制度の具体的内容について理解する 2. 労働保険、障害者保健福祉制度の具体的内容について理解する 3. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する 4. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する 5. 地域共生社会や地域包括ケアについて理解する、の5点である。				
[授業概要] 各社会福祉制度と直接間接に関わり、私たちの暮らしを支えるさまざまな制度について学ぶ。社会保障Ⅱでは、医療制度について理解し、労働保険や介護保険等を社会保障の枠組みから学んでいく。 適宜、新聞記事や映像資料を使用する。また、国家試験問題を利用して、小テストを行い、内容の振り返りに役立てる。社会保障Ⅰを履修しておくことが望ましい。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. 日本の医療保険制度①医療保障制度とはなにか 2. 日本の医療保険制度②国民健康保険の目的および対象 3. 日本の医療保険制度③国民健康保険の給付 4. 日本の医療保険制度④健康保険の目的および対象 5. 日本の医療保険制度⑤健康保険の給付 6. 日本の医療保険制度⑥各種共済組合の医療保険 7. 日本の医療保険制度⑦後期高齢者医療制度 8. 医療保険制度の今後の課題 9. 労働保険制度の概要①雇用保険制度 10. 労働保険制度の概要②労災保険制度 11. 公的保険制度と民間保険制度の関係 12. 諸外国における社会保障制度の概要 13. 障害者福祉と障害者保健福祉制度 14. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(80%)小レポート、小テスト等による授業参加度(20%) ・小レポート、小テストは授業中に内容の解説および解答の解説を行います。 ・試験の答案を回収後、解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	社会保障Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ			
担当者	清水 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、小テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、小レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、小レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、小レポート				
[教科書 (ISBN)] はじめての社会保障 著者名:棕野美智子、田中耕太郎 出版社:有斐閣 (978-4-641-22135-2)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000110 [WH3-004]

科目名	社会理論と社会システム	後期	講義	2 単位
サブタイトル	現代社会と社会福祉			
担当者	猪股 祐介			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 社会福祉士国家試験科目「社会理論と社会システム」で、及第点(10点中6点)を得点できる知識・ノウハウを身に付ける。				
[授業概要] この授業の第一の目的は、社会福祉士国家試験科目の「社会理論と社会システム」で及第点を得点するための、基礎知識・ノウハウを身に付けることである。 「社会理論と社会システム」は他の科目に比べて出題範囲が広い。よって過去の出題傾向を分析した上で、的を絞って学習する必要がある。裏を返せば、よく出題される「社会変動」「社会システム」「社会的役割」「社会集団と組織」の基礎知識さえ身に付ければ、及第点(10点中6点)はクリアできる。授業では、社会福祉養成講座編集委員会の『社会理論と社会システム』の教科書をもとに、国家試験の出題傾向を加味したオリジナルのレジュメを配布する。さらに、試験対策として、毎回国家試験の過去問を解いてもらい、実践力を養う。 また社会学は、「社会福祉のニード」を知るために役立つ。マクロなレベルでいえば、日本は1955―73年代の高度経済成長後、脱工業化社会となり、「家族」「地域」「都市」「産業」等の構造は大きく変化した。これにより、人びとの社会福祉のニードも大きく変化した。 ミクロなレベルでいえば、社会福祉のクライアントのニードは、彼らが「家族」「施設」「地域」等の社会集団のなかで、いかなる対人関係を築いているかに大きく左右される。よってこの授業のもう一つの目的は、現代社会の変動を理解することで、社会福祉のニードを理解することである。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 教科書指定の、社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム 第3版』(中央法規出版、2014)の該当箇所について、各回予習復習合わせて4時間程度準備すること。				
[授業計画] 1. 社会変動―近代化と脱工業化 2. 人口からみた社会変動―少子高齢化 3. 社会システム―社会システム論と社会階層 4. 法システム―応答的法と裁判員制度 5. 地域―コミュニティ・都市化・過疎化 6. 家族―現代日本の家族と福祉 7. 生活の質―ライフサイクル・ライフコース 8. 経済システム+1. ～7. のまとめ 9. 社会的役割―シボリック相互作用論・地位 10. 社会集団と組織―集団の種類・官僚制 11. 社会的行為―行為の種類と秩序問題 12. 社会的ジレンマ―囚人のジレンマ・共有地の悲劇 13. 社会問題のとらえ方―逸脱理論から構築主義へ 14. 日本社会と社会問題―貧困・差別・家族 15. 社会関係資本+1. ～14. のまとめ				
[成績評価方法] 授業参加度(30%)、授業中の中間テスト(30%)、期末テスト(40%)。救済レポートを課すことあり。 テストは終了後解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000090 [WH1-005]

科目名	社会理論と社会システム	後期	講義	2 単位
サブタイトル	現代社会と社会福祉			
担当者	猪股 祐介			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業参加度、中間テスト、期末テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業参加度、中間テスト、期末テスト				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業参加度、中間テスト、期末テスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業参加度、中間テスト、期末テスト				
[教科書(ISBN)] 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム 第3版』2009 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3930-0)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000090 [WH1-005]

科目名	就労支援サービス	前期	講義	1 単位
サブタイトル	人間らしい生活と就労			
担当者	佐々木 勝一			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1、相談援助活動における就労支援を理解する。 2、就労支援に係る組織、団体及び専門職の役割を知る。 3、就労支援を行う関係機関との連携、ネットワークづくりを理解する。 [授業概要] 人々は働くことによって生活を営むし、また働きを通して人間的な成長をはかっていく。しかし、現実の就労場面では、ワーキングプアなどの問題に見られるように、排除されることがあるし、生活の維持が困難になる場合もある。社会福祉士として、就労支援対策や労働法制の状況を提示し、就労支援を行っている機関や事業所、専門職の役割を理解して、福祉支援が必要な人々のための連携や個別援助のあり方について検証を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 雇用問題に関する新聞記事などに目を通しておくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。 [授業計画] 1. ガイダンス～就労支援とは 2. 現代社会の労働市場と労働法規 ～労働者の就労状況、労働法規の概要 3. 就労支援の実施体制 ～国、地方公共団体の役割、就労支援の実施体制、専門職 4. 障害がある人への就労支援① ～障害者雇用施策、就労支援制度、職業リハビリテーション 5. 障害がある人への就労支援② ～就労支援分野との連携、各専門職の役割 6. 低所得者・ホームレスへの就労支援～就労支援プログラム、ホームレス対策とCWIによる就労支援 7. 母子家庭・女性のための就労支援 ～女性のライフスタイルと就労 8. 高齢社会における高齢者の就労支援、まとめ [成績評価方法] 授業への参加度(20%)、レポート(80%)による レポートは、後日返却してフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000240 [WH4-005]

科目名	就労支援サービス	前期	講義	1 単位
サブタイトル	人間らしい生活と就労			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験・レポート課題 学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験・レポート課題 学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題 学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題 学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題 学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験・レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・レポート課題 [教科書 (ISBN)] 新・社会福祉士養成講座 第18巻 就労支援サービス 著者名:【編集委員】関 宏之・松為信雄 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5304-7) [参考書 (ISBN)] 参考になるテキストを紹介する。必要に応じてプリントを配布する。				

P11000240 [WH4-005]

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 障害の概念や障害者福祉の基本的な理念が理解できる。 2. 障害のある人の医学的・心理学的・社会的側面について理解できる。 3. 障害のある人の体験を理解し、障害のある人たちの生活実態やニーズについてソーシャルワークの視点で考えることができる。 4. 障害のある人たちの生活を支えるための相談援助・生活支援・介護・家族への支援・他職種の連携と協働のあり方について理解できる。				
〔 授業概要 〕 障害の概念、障害者福祉の基本的理念、障害者福祉の歴史的展開など、障害の基礎的理解を得る。障害のある人の医学的・心理学的・社会的側面についての基礎的な知識を習得する。障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助・生活支援・介護の視点を習得する。家族への支援や、相談援助・生活支援・介護における連携と協働について理解する。障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。 毎回の授業では、担当教員の障害者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や地域で暮らす障害者と家族の地域活動への支援経験を活かして、障害者や家族の生活実態や支援のあり方を具体的に考えられるような講義を展開していく。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また、新聞記事・ニュースやボランティア活動等を通して、障害のある人たちの福祉課題に関心を持つこと。				
〔 授業計画 〕 1. 障害の基礎的理解：障害の概念・範囲 2. 障害者の法的定義と障害者の実態 3. 障害者福祉の基本理念 4. 障害者福祉の歴史的展開 5. 障害のある人の医学的・心理学的側面の基礎的理解：身体障害 6. 障害のある人の医学的・心理学的側面の基礎的理解：精神障害 7. 障害のある人の医学的・心理学的側面の基礎的理解：知的障害 8. 障害のある人の医学的・心理学的側面の基礎的理解：発達障害と難病 9. 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響 10. 障害のある人の生活とこれを取り巻く社会情勢 11. 障害のある人の福祉・介護需要：介護および日常生活のニーズ 12. 障害のある人の福祉・介護需要：地域移行や就労の実態など 13. 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援：相談援助・生活支援・介護 14. 家族への支援、障害のある人の相談援助・生活支援・介護における連携と協働 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 試験（70%）・小テストおよびレポート課題（20%）・授業への取り組み状況（10%）で評価。小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000200 [WH2-003]

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:小テスト、試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題レポート、試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題レポート、試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート、試験				
[教科書(ISBN)] 新・社会福祉士養成講座⑭障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第6版 2019年 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5808-0)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000200 [WH2-003]

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 1. 障害者福祉の発展過程の概要が理解できる。 2. 障害者総合支援法および他の法制度の仕組みについて理解できる。 3. 障害者支援における組織・団体の役割と実際、専門職の役割と実際、相談支援事業所の役割と実際について理解できる。 4. 多職種の連携・協働やネットワーキングの実際について理解できる。				
[授業概要] 障害者福祉の発達過程、相談援助において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度についての理解を深める。また、障害者総合支援法の概要を理解し、法における様々な組織および団体の役割と実際、専門職の役割と実際、多職種の連携・協働やネットワーキングの実際について学ぶ。 毎回の授業では、担当教員の障害者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験、地域で暮らす障害者と家族の地域活動への支援経験、福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、障害者と家族を取り巻く法制度の現状を具体的に理解し、その課題と解決法を考察できるような講義を展開していく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次の授業の予習をしておくこと。また、新聞記事・ニュースやボランティア活動等を通して、障害のある人たちの福祉課題に関心を持つこと。				
[授業計画] 1. 障害者福祉制度の発展過程 2. 障害者総合支援法の概要:理念・考え方、自立支援給付、支給決定のプロセス、自立支援医療費、補装具費 3. 障害者総合支援法の概要:地域生活支援事業、障害福祉計画、苦情解決、審査請求、介護保険制度との関係 4. 障害児に対する支援と障害児福祉施策の現状 5. 障害者総合支援法における組織・機関の役割と実際 6. 障害者総合支援法における専門職の役割と実際 7. 障害者総合支援法における多職種の連携・協働、ネットワーキングの実際 8. 相談支援事業所の役割と実際 9. 障害者基本法 10. 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法 11. 精神保健福祉法、発達障害者支援法 12. 障害者虐待防止法、医療観察法、バリアフリー新法 13. 障害者差別解消法、障害者雇用促進法、障害者優先調達促進法 14. 障害者にかかわるその他の法律の体系及び各省庁の障害者施策等 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み(10%)で評価。小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000210 [WH2-004]

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:小テスト、試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題レポート、試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題レポート、試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート、試験				
[教科書(ISBN)] 新・社会福祉士養成講座⑭障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第6版 2019年 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5808-0)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000210 [WH2-004]

科目名	事例研究	前期	演習	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ			
担当者	津田 理恵子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1 介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。 2 事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正をすることができる。 3 他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。 [授業概要] 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が指導する。介護福祉実習Ⅲで担当した利用者を通して、生活課題を明らかにし、実習で体験した介護計画の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。一人一人に向き合い、互いに関わり合う事例研究は、当事者はもちろんの事、支援者も大きく成長できる場でもある。発信は、メゾ・マクロといった広義の支援体制構築につながり研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護の重要性を学ぶ。1年生から学んだ介護過程の展開の集大成として、最終的に事例研究として文献にまとめ、報告会において発表し評価を受ける。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 介護福祉実習Ⅲ事例について、情報収集・アセスメント用紙・介護計画用紙・実践記録を整理しておく。毎回、情報収集・アセスメントに関する文献・資料準備に2時間程度予習しておくこと。 [授業計画] 1. オリエンテーション(泉・横山・津田・木村) 2. 研究とは 事例研究とは 発表と評価(泉・横山・津田・木村) 3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際)(泉・横山・津田・木村) 4. 論文と抄録の作成(考察 おわりに謝辞、文献)(泉・横山・津田・木村) 5. 論文の確認 パワポインとの作成方法 (泉・横山・津田・木村) 6. 抄録様式・パワポ様式確認(泉・横山・津田・木村) 7. 論文指導 テーマ はじめに 介護の実際(泉・横山・津田・木村) 8. 論文指導 評価、考察、おわりに 謝辞、文献 (泉・横山・津田・木村) 9. 論文指導 パワーポイント (泉・横山・津田・木村) 10. 発表指導 抄録 評価と考察(泉・横山・津田・木村) 11. 発表指導 完成発表原稿作成(泉・横山・津田・木村) 12. 発表指導 予演(泉・横山・津田・木村) 13. 準備 (泉・横山・津田・木村) 14. 発表 (泉・横山・津田・木村) 15. まとめと評価 (泉・横山・津田・木村) [成績評価方法] 研究への課題提出(30%)、論文内容(50%)、発表(20%)の総合評価 課題は毎回添削して返却する [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000690A [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	演習	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:事例研究・事例発表評価基準 学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題提出・事例発表評価基準 学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:課題提出・事例発表評価基準 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:事例研究報告集作成/事例研究発表会 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準/パワポ資料内容 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:事例発表評価基準/パワポ資料内容 [教科書(ISBN)] 資料配布 [参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000690A [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	演習	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ			
担当者	横山 正子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1 介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。 2 事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正をすることができる。 3 他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。 [授業概要] 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が指導する。介護福祉実習Ⅲで担当した利用者を通して、生活課題を明らかにし、実習で体験した介護計画の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。一人一人に向き合い、互いに関わり合う事例研究は、当事者はもちろんの事、支援者も大きく成長できる場でもある。発信は、メゾ・マクロといった広義の支援体制構築につながり研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護の重要性を学ぶ。1年生から学んだ介護過程の展開の集大成として、最終的に事例研究として文献にまとめ、報告会において発表し評価を受ける。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 介護福祉実習Ⅲ事例について、情報収集・アセスメント用紙・介護計画用紙・実践記録を整理しておく。毎回、情報収集・アセスメントに関する文献・資料準備に2時間程度予習しておくこと。 [授業計画] 1. オリエンテーション(泉・横山・津田・木村) 2. 研究とは 事例研究とは 発表と評価(泉・横山・津田・木村) 3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際)(泉・横山・津田・木村) 4. 論文と抄録の作成(考察 おわりに謝辞、文献)(泉・横山・津田・木村) 5. 論文の確認 パワポインとの作成方法 (泉・横山・津田・木村) 6. 抄録様式・パワポ様式確認(泉・横山・津田・木村) 7. 論文指導 テーマ はじめに 介護の実際(泉・横山・津田・木村) 8. 論文指導 評価、考察、おわりに 謝辞、文献 (泉・横山・津田・木村) 9. 論文指導 パワーポイント (泉・横山・津田・木村) 10. 発表指導 抄録 評価と考察(泉・横山・津田・木村) 11. 発表指導 完成発表原稿作成(泉・横山・津田・木村) 12. 発表指導 予演(泉・横山・津田・木村) 13. 準備 (泉・横山・津田・木村) 14. 発表 (泉・横山・津田・木村) 15. まとめと評価 (泉・横山・津田・木村) [成績評価方法] 研究への課題提出(30%)、論文内容(50%)、発表(20%)の総合評価 課題は毎回添削して返却する [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000690B [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	演習	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:事例研究・事例発表評価基準				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題提出・事例発表評価基準				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:課題提出・事例発表評価基準				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:事例研究報告集作成/事例研究発表会				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準/パワポ資料内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:事例発表評価基準				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:事例発表評価基準/パワポ資料内容				
[教科書(ISBN)] 資料配布				
[参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000690B [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	演習	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ			
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1 介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。 2 事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正をすることができる。 3 他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。 [授業概要] 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が指導する。介護福祉実習Ⅲで担当した利用者を通して、生活課題を明らかにし、実習で体験した介護計画の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。一人一人に向き合い、互いに関わり合う事例研究は、当事者はもちろんの事、支援者も大きく成長できる場でもある。発信は、メゾ・マクロといった広義の支援体制構築につながり研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護の重要性を学ぶ。1年生から学んだ介護過程の展開の集大成として、最終的に事例研究として文献にまとめ、報告会において発表し評価を受ける。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 介護福祉実習Ⅲ事例について、情報収集・アセスメント用紙・介護計画用紙・実践記録を整理しておく。毎回、情報収集・アセスメントに関する文献・資料準備に2時間程度予習しておくこと。 [授業計画] 1. オリエンテーション(泉・横山・津田・木村) 2. 研究とは 事例研究とは 発表と評価(泉・横山・津田・木村) 3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際)(泉・横山・津田・木村) 4. 論文と抄録の作成(考察 おわりに謝辞、文献)(泉・横山・津田・木村) 5. 論文の確認 パワポインとの作成方法 (泉・横山・津田・木村) 6. 抄録様式・パワポ様式確認(泉・横山・津田・木村) 7. 論文指導 テーマ はじめに 介護の実際(泉・横山・津田・木村) 8. 論文指導 評価、考察、おわりに 謝辞、文献 (泉・横山・津田・木村) 9. 論文指導 パワーポイント (泉・横山・津田・木村) 10. 発表指導 抄録 評価と考察(泉・横山・津田・木村) 11. 発表指導 完成発表原稿作成(泉・横山・津田・木村) 12. 発表指導 予演(泉・横山・津田・木村) 13. 準備 (泉・横山・津田・木村) 14. 発表 (泉・横山・津田・木村) 15. まとめと評価 (泉・横山・津田・木村) [成績評価方法] 研究への課題提出(30%)、論文内容(50%)、発表(20%)の総合評価 課題は毎回添削して返却する [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000690C [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	演習	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:事例研究・事例発表評価基準 学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題提出・事例発表評価基準 学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:課題提出・事例発表評価基準 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:事例研究報告集作成/事例研究発表会 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準/パワポ資料内容 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:事例発表評価基準/パワポ資料内容 [教科書(ISBN)] 資料配布 [参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000690C [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	演習	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ			
担当者	泉 妙子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1 介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。 2 事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正をすることができる。 3 他学生的事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。 [授業概要] 介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が指導する。介護福祉実習Ⅲで担当した利用者を通して、生活課題を明らかにし、実習で体験した介護計画の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。一人一人に向き合い、互いに関わり合う事例研究は、当事者はもちろんの事、支援者も大きく成長できる場でもある。発信は、メゾ・マクロといった広義の支援体制構築につながり研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護の重要性を学ぶ。1年生から学んだ介護過程の展開の集大成として、最終的に事例研究として文献にまとめ、報告会において発表し評価を受ける。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 介護福祉実習Ⅲ事例について、情報収集・アセスメント用紙・介護計画用紙・実践記録を整理しておく。毎回、情報収集・アセスメントに関する文献・資料準備に2時間程度予習しておくこと。 [授業計画] 1. オリエンテーション(泉・横山・津田・木村) 2. 研究とは 事例研究とは 発表と評価(泉・横山・津田・木村) 3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際)(泉・横山・津田・木村) 4. 論文と抄録の作成(考察 おわりに謝辞、文献)(泉・横山・津田・木村) 5. 論文の確認 パワポインとの作成方法 (泉・横山・津田・木村) 6. 抄録様式・パワポ様式確認(泉・横山・津田・木村) 7. 論文指導 テーマ はじめに 介護の実際(泉・横山・津田・木村) 8. 論文指導 評価、考察、おわりに 謝辞、文献 (泉・横山・津田・木村) 9. 論文指導 パワーポイント (泉・横山・津田・木村) 10. 発表指導 抄録 評価と考察(泉・横山・津田・木村) 11. 発表指導 完成発表原稿作成(泉・横山・津田・木村) 12. 発表指導 予演(泉・横山・津田・木村) 13. 準備 (泉・横山・津田・木村) 14. 発表 (泉・横山・津田・木村) 15. まとめと評価 (泉・横山・津田・木村) [成績評価方法] 研究への課題提出(30%)、論文内容(50%)、発表(20%)の総合評価 課題は毎回添削して返却する [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000690D [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	演習	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:事例研究・事例発表評価基準 学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題提出・事例発表評価基準 学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:課題提出・事例発表評価基準 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:事例研究報告集作成/事例研究発表会 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:事例発表評価基準/パワポ資料内容 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:事例発表評価基準 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:事例発表評価基準/パワポ資料内容 [教科書(ISBN)] 資料配布 [参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000690D [WH4-017]

科目名	人体の構造と機能及び疾病	前期	講義	2 単位
サブタイトル	医学の基礎知識			
担当者	津田 理恵子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1.人間の心身の機能と身体構造を理解し、疾病や障害が理解できる。 2.リハビリテーションの概要が理解できる。 3.人間の成長発達、障害の特徴、老化の特徴が理解できる。 4.健康の概念が理解できる。 [授業概要] 看護師として病院や介護保険対象の事業所で勤務したことがある教員が、人体の構造・機能と・疾病について指導します。心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて学びます。国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について学びます。リハビリテーションの概要について学びます。社会福祉士や介護福祉士として現場で実践するために必要な、人体の構造・機能や医学的知識を学びます。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容の復習として授業内容をノートに整理したうえで、授業終了後にnanabaから配信されるミニテストに取り組み自己採点することを各回3時間程度行う。次回の授業の予習として教科書を読んでおくことを各回1時間程度行う。 [授業計画] 1. こころのしくみの理解(人間の欲求の基本的理解・自己概念と尊厳) 2. からだのしくみの理解(生命の維持・恒常のしくみ、ボデメカニクス、関節の可動域、人体部位の名称) 3. 心身機能と身体構造の概要－各器官の構造と機能 4. 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)へ 5. 国際生活機能分類(ICF)の諸概念 6. 健康とは－WHO憲章による定義 7. 健康とは－その他の定義 8. 疾病の概要－悪性腫瘍、生活習慣病、感染症 9. 疾病の概要－神経・精神疾患、先天性・精神疾患、難病など 10. 障害の概要－身体障害 11. 障害の概要－発達障害、精神障害、認知症など 12. 精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM－Ⅳ)の概要 13. リハビリテーション－定義、目的、対象、方法など 14. まとめ 15. 介護保険の特定疾患 [成績評価方法] 筆記試験の成績(50%) 授業参加度(20%) 復習ノートとミニテスト(30%) 復習ノートとミニテストは、筆記試験当日に提出し採点したうえで翌週に返却します。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000070 [WH1-004]

科目名	人体の構造と機能及び疾病	前期	講義	2 単位
サブタイトル	医学の基礎知識			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験復習ノートミニテスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:筆記試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:筆記試験復習ノートミニテスト				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験復習ノートミニテスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:復習ノートミニテスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:復習ノートミニテスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:復習ノート筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:復習ノート筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:筆記試験ミニテスト復習ノート				
[教科書(ISBN)] 新・社会福祉養成講座1 人体の構造と機能及び疾病 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版(978-4-8058-5100-5)				
[参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000070 [WH1-004]

科目名	心理学理論と心理的支援	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	下司 実奈			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 社会福祉専門職として、より有効な支援を提供するために、相手を知ること、そして自分を知ることが心理学を通して学んでほしい。科学的な視点を基礎として、人が自分を認識しながら生きていくための様々な理論や方法を実践の場を想定しながら考えていく。				
[授業概要] 他者を知る能力と自己を知る能力は互いに高まっていく、ことを常に意識しながら、福祉現場でこういった実践を展開していくのかを、イメージできるような力をつけていく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各項目について、基本的な知識と不明な用語を理解できるよう準備する。臨床心理士としての臨床経験を活かして自己や他者理解について講義します。 各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. 心理学とは 2. 性格と人格 3. 感覚・知覚 4. 学習・記憶 5. 愛着 6. 欲求と動機づけ 7. 適応とストレス 8. 対人交流とコミュニケーション 9. 発達概念 10. 発達概念 11. 面接・見立て・心理療法 12. 面接・見立て・心理療法 13. 人間環境と集団 14. 脳とこころ 15. まとめ				
[成績評価方法] 受講態度(20%)・レポート(20%)・筆記試験(60%)により総合的に評価する 試験終了後解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	心理学理論と心理的支援	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 心理学 第5版補訂版 著者名:鹿取廣人 杉本敏夫 鳥居修晃 河内十郎 出版社:東京大学出版会 (978-4-13-012117-0)				
[参考書 (ISBN)] 講義中に適宜紹介する。				

P11000080 [WH2-002]

科目名	生活支援技術Ⅰ（基礎）	後期	演習	2 単位
サブタイトル	生活を支える介護技術の基礎			
担当者	木村 あい			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.生活を支える介護技術の基本的な知識と技術を身につけることができる。 2.生活場面における生活支援技術の意義が理解できる。 3.実践する技術の根拠が理解できる。 4.観察・アセスメント・考察できる能力を身につけることができる。 5.安全・安楽・プライバシーに留意した生活支援技術が実践できる。 6.その人らしさについて考え、自立を促す生活支援技術を身につけることができる。 7.福祉用具の意義、その目的や適切な使用方法を理解できる。 〔 授業概要 〕 介護福祉士に必要な生活場面における介護の基本的な知識と技術について学ぶ。生活支援技術の習得においては、介護実習室で介護者とし技術を実践し、その振り返りから、その人らしさを尊重し、潜在能力を引き出すための技法を考察する。また、対象者役の体験を通して気づいた点を自己の技術に活かしていけるよう考察する。この過程を通し、対象者の自立に向けた生活を支えるために必要な思考能力を養う。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく。 ここからだⅠと連動した授業なので、講義内容を理解しておく。 (予習・復習を含めて4時間程度) 〔 授業計画 〕 1. 介護者の心得 2. 生活支援の理解、生活支援と福祉用具の意義と活用 3. 観察・アセスメント・記録 4. ボディメカニクス・感染予防 5. 居室環境の整備 6. ベッドメイキング 7. 自立に向けた移動の介護①:移動の意義と目的 8. 自立に向けた移動の介護②:移動の意義と目的・移動に関する利用者のアセスメント 9. 自立に向けた移動の介護③:安全で的確な移動・移乗の介護 10.自立に向けた移動の介護④:安全で気兼ねなく動けることを支える介護 11.廃用症候群・シーツ交換・安楽な体位 12.廃用症候群・シーツ交換・安楽な体位 13.自立に向けた衣服の着脱①:整容,自立に向けた身じたくの介護とその意義と目的・身じたくのアセスメント 14.自立に向けた衣服の着脱②:衣生活を調整する能力のアセスメントと介護 15.自立に向けた衣服の着脱③:整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介護 16.自立に向けた衣服の着脱④:生活習慣と装いの楽しみ 17.自立に向けた衣服の着脱⑤:生活習慣と装いの楽しみを支える介護 18.自立に向けた食事の介護①:食事の意義と目的 19.自立に向けた食事の介護②:食事に関する利用者のアセスメント 20.自立に向けた食事の介護③:「おいしく食べる」こと 21.自立に向けた食事の介護④:「おいしく食べる」ことを支える介護 22.自立に向けた排泄の介護①:排泄の意義と目的 23.自立に向けた排泄の介護②:排泄に関する利用者のアセスメント 24.自立に向けた排泄の介護③:安全で的確な排泄 25.自立に向けた排泄の介護④:安全で的確な排泄の介護の工夫 26.自立に向けた排泄の介護④:気持ちよい排泄 27.自立に向けた排泄の介護⑥:気持ちよい排泄を支える介護の工夫 28.自立に向けた生活支援の工夫 29.自立に向けた生活支援の振り返り 30.まとめ 〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み方・提出物40%、実技試験・筆記テスト60%の総合評価 提出物に関しては添削して返却する。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000591 [WH1-015]

科目名	生活支援技術Ⅰ（基礎）	後期	演習	2 単位
サブタイトル	生活を支える介護技術の基礎			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:提出物、筆記テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験・筆記テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み方・、実技試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方、実技試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験・筆記テスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験・				
[教科書 (ISBN)] 介護福祉士養成テキスト 新シリーズ 『生活支援の実際』 出版社:建帛社				
[参考書 (ISBN)] 適宜紹介				

P11000591 [WH1-015]

科目名	生活支援技術Ⅱ（応用）	前期	演習	4 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護			
担当者	津田 理恵子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.障害の特性に応じた生活支援技術の工夫ができる。 2.障害の特性に合わせた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連した生活支援技術が実践できる。 3.心身の活性化につながるレクリエーションが企画・運営できる。 4.観察ができ多職種に連携する意義と方法が理解できる。				
〔 授業概要 〕 看護師の資格を有し5年以上の現場経験がある教員が生活支援技術習得に向けて指導します。 障害があっても尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について指導します。 障害の特性に応じた介護実践に必要な知識となる根拠に基づいた、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連した生活支援技術を指導します。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習を各回2時間しておく。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. レクリエーションの意義と計画 3. 観察 4. バイタルサイン測定 5. 観察に基づいた連携 6. 障害に応じた休息・睡眠への支援技術の実際 7. 視覚障害に応じた移動介護・白杖 8. 視覚障害に応じた移動介護・手引き 9. 視覚障害に応じた食事介護 10.視覚障害に応じた食事介護・クロックポジション 11.身体障害に応じた身じたくの介護 12.身体障害に応じた移動の介護 13.障害の特徴に応じた自助具の活用 14.障害の特徴に応じた自助具の作成 15.障害の特徴に応じた自助具活用の実際 16.障害の特徴に応じた自助具を活用した振り返り 17.障害に応じた排泄介護 18.障害の特徴に合わせた排泄介護の工夫 19.家庭浴槽の介護 20.特殊浴槽の介護 21.清潔保持の介護・清拭 22.清潔保持の介護・ベッド上洗髪 23.障害の特性に応じた足浴・手浴・爪切り 24.障害の特性に応じた入浴・清潔保持の介護 25.心身の活性化につながるレクリエーションの企画(外部特別講師) 26.心身の活性化につながるレクリエーションの運営 27.高齢者に合わせた心身の活性化につながるレクリエーションの企画 28.高齢者に合わせた心身の活性化につながるレクリエーションの運営(フィールドワーク) 29.障害の特性に応じた生活支援の工夫 30.まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業参加度10%、提出物10%、実技試験40%、筆記試験40% 提出物はコメントを返し、適宜必要に応じて個別面接を行いフィードバックする。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000600 [WH2-024]

科目名	生活支援技術Ⅱ（応用）	前期	演習	4 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実技試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業参加度提出物				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験				
[教科書（ISBN）] 新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ～Ⅲ 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版				
[参考書（ISBN）] 適宜紹介する。				

P11000600 [WH2-024]

科目名	生活支援技術Ⅲ(応用)	後期	演習	4 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護			
担当者	泉 妙子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 人間の尊厳の保持ができ、その人の状態・状況に合った生活支援技術や知識を習得できる。				
〔授業概要〕 介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年医所実践現場での経験がある教員が生活支援技術の指導をする。尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得できるよう支援する。支援の現場は100人いれば100通りの関わり方が求められる。実際に当事者と関わる機会を設けることによって、個別支援の難しさと同時に、人間的関わりがベースにあるケアの大切さや信頼を培うことの重要性を学ぶ機会とする。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 生活支援技術Ⅰ・Ⅱの基本を実践し評価する場を設け、基本に必要な知識と技術を身につけておく。イメージトレーニングや各留意点など2時間程度予習復習に充てる。				
〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.感覚機能が低下している人の介護 3.運動機能が低下している人の介護 4.利用者の状態・状況に応じた移動における介助の留意点 5.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 認知・知覚能力が低下している人の介護 6.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点 脱水の予防のための日常生活の留意点 7.利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点(学外特別講師) 感覚機能が低下している人の介護 運動機能が低下している人の介護 8.利用者の状態・状況に応じた身支度介助の留意点 9.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点 認知・知覚能力が低下している人の介護 10.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点 便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点 尿回数が多い人への日常生活の留意点・失禁時の介護の留意点 11.利用者の状態・状況に応じた清潔に関連した 感覚機能が低下している人の介護 12.利用者の状態・状況に応じた休息・睡眠に関連した介助の留意点 13.利用者の状態・状況に応じたターミナル期の心と身体への介助 14.人生の最終段階に関連した介助の留意点 15.実技評価・まとめ				
〔成績評価方法〕 実技試験80点、筆記試験20点などの総合評価 授業ノートは毎回確認して返却する。				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000610 [WH2-025]

科目名	生活支援技術Ⅲ(応用)	後期	演習	4 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 演習参加段取りカシート提出段取りカシートを毎回添削して返却				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法: 演習参加段取りカシート提出段取りカシートを毎回添削して返却				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法: 演習参加段取りカシート提出段取りカシートを毎回添削して返却				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法: 演習参加段取りカシート提出段取りカシートを毎回添削して返却				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実習室において事例に基づく介護展開と毎回レポート提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習室において事例に基づく介護展開と毎回レポート提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習室において事例に基づく介護展開と毎回レポート提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 筆記試験・実技試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実習室において事例に基づく介護展開と毎回レポート提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 実技試験				
[教科書(ISBN)]				
新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ～Ⅲ 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3941-6)				
[参考書(ISBN)]				
あなたは私の手になれますか 著者名:小山内美智子 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-1548-9C3036)				
介護の禁句・介護の名句 著者名:星野政明 出版社:黎明書房 (4-654-07581-XC3036)				

P11000610 [WH2-025]

科目名	生活支援技術Ⅳ（個別介護技術）	後期	演習	4 単位
サブタイトル	個別介護技術			
担当者	横山 正子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.対象となる人の心身の状況を把握し、個別的支援のできる介護技術や知識について修得する。 2.環境を整えることによって潜在能力を引き出し、その人の自立・自律を尊重した生活支援技術を身に着ける。 3.安全への配慮・プライバシー保護・その人らしさや楽しみとなる生活について考え実践できる。 4.生活場面において、多職種連携やチームの一員として役割を果たすことができる能力を養う。 5.ターミナルケアでの多職種連携、介護技術、グリーフケア等介護福祉士の役割の実践を理解する。 6.医療行為ではない支援による自立や生活範囲の拡大への個別支援を習得する。				
〔 授業概要 〕 尊厳の保持の観点から、利用者の状況に合わせ、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、個別介護技術や知識について習得する。これらを教員のケア経験を活かして指導する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 これまで学習、実習体験で習得した生活支援技術の復習をしておく。授業内容を復習し、次回の授業の予習として教科書の内容を確認しておくこと。予習復習を合わせて2時間程度の学修をしておく。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 特性に応じた生活支援技術 3. 自立に向けた身支度の介護 4. 自立に向けた身支度の介護(事例) 5. 自立に向けた移動の介護 6. 自立に向けた移動の介護(事例) 7. 自立に向けた食事の介護 8. 自立に向けた食事の介護(事例) 9. 自立に向けた排泄の介護 10. 自立に向けた排泄の介護(事例) 11. 自立に向けた入浴・清潔・整容の介護 12. 自立に向けた入浴・清潔・整容の介護(事例) 13. 自立に向けた休息・睡眠の介護 14. 自立に向けた休息・睡眠の介護(事例) 15. 自立に向けた人生最終段階の介護 16. 自立に向けた人生最終段階の介護(事例) 17. 自立に向けた個別介護計画 18. 自立に向けた個別介護計画(事例) 19. 個別介護計画に基づく介護過程の展開 20. 個別介護計画に基づく介護過程の展開(事例) 21. 自立に向けた介護過程の展開 22. 自立に向けた介護過程の展開(事例) 23. 自立に向けた個別介護計画に基づく介護過程の展開 24. 自立に向けた個別介護計画に基づく介護過程の展開(事例) 25. 自立に向けたチームアプローチへの協働 26. 自立に向けたチームアプローチへの協働(事例) 27. 緊急時の対応・応急手当・心肺蘇生への対応 28. 緊急時の対応・応急手当・心肺蘇生への対応(事例) 29. 実技試験 30. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 技術評価(50%)、試験(50%) ・実技とそのレポート課題で評価します。レポートは添削してフィードバックします。 ・試験は答え合わせをします。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000620 [WH3-026]

科目名	生活支援技術Ⅳ(個別介護技術)	後期	演習	4 単位
サブタイトル	個別介護技術			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:技術試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実技試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実技試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実技試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実技試験				
[教科書(ISBN)] 生活支援技術Ⅰ～Ⅲ 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3420-6,978-4-8058-3269-1,978-4-8058-3571-5) 介護福祉士養成テキスト4医療的ケア 著者名: 日本介護福祉士養成施設協会(編集) 出版社:法律文化社 (978-4-58903574-5)				
[参考書(ISBN)] 適宜紹介				

P11000620 [WH3-026]

科目名	精神疾患とその治療Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	酒井 亮			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] ・精神疾患の症状を理解し、その分類方法について理解する。 ・精神疾患の要因を理解し、診断方法と治療方法について理解する。 [授業概要] 精神科医としての実務経験を有する教員が、その経験を活かして以下の通りに授業を行う。 1. 精神医学の歴史について学ぶ。 2. 精神疾患の症状、要因、診断方法について学ぶ。 3. 精神疾患の治療方法について学ぶ。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] ・精神医学の基礎である「脳の働き」について自主学習しておく。 各回、予習復習合わせて4時間程度。 [授業計画] 1, 精神医学の歴史① 2, 精神医学の歴史② 3, 現在の精神医学の概念① 4, 現在の精神医学の概念② 5, 精神疾患の症状と状態① 6, 精神疾患の症状と状態② 7, 精神疾患の身体的要因① 8, 精神疾患の身体的要因② 9,精神疾患の心理的要因① 10,精神疾患の心理的要因② 11,精神疾患の診断方法① 12,精神疾患の診断方法② 13, 精神疾患の治療① 14,精神疾患の治療② 15, まとめ [成績評価方法] レポート試験(100%) 授業中に解説を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神疾患とその治療Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	酒井 亮			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] なし				

科目名	精神疾患とその治療Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	酒井 亮			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] ・代表的な精神疾患について、症状、要因、診断について理解する。 ・代表的な精神疾患について、心理学的理解と治療について理解する。 [授業概要] 精神科医としての実務経験を有する教員が、その経験を活かして以下の通りに授業を行う。 1. 代表的な精神疾患の症状と診断について学ぶ。 2. 代表的な精神疾患の心理学的理解について学ぶ。 3. 代表的な精神疾患の治療について学ぶ。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 代表的な精神疾患である「認知症」、「統合失調症」、「うつ病」について自主学習しておく。 各回、予習復習合わせて4時間程度。 [授業計画] 1, 認知症① 2, 認知症② 3, 認知症③ 4, 統合失調症① 5, 統合失調症② 6, 統合失調症③ 7, 気分障害① 8, 気分障害② 9, 気分障害③ 10, 神経症性障害① 11, 神経症性障害② 12, 精神遅滞, 自閉スペクトラム症, ADHD① 13, 精神遅滞, 自閉スペクトラム症, ADHD② 14, まとめ① 15, まとめ② [成績評価方法] レポート試験(100%) 授業中に解説を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神疾患とその治療Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	酒井 亮			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

科目名	精神障害者の生活支援システム	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 「精神保健福祉に関する制度とサービス」で学んだ知識をもとに、精神障害者の生活支援の意義と特徴についてより専門的・包括的に理解する。				
〔 授業概要 〕 精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護について学ぶ。精神障害者の生活を総合的・継続的に支援するシステム、精神保健福祉士の役割、関係する専門職、機関・施設の有機的な連携について学びを深める。 行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議会委員、NPO法人の理事などを務めている教員が、最新の情報と実践について教示する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 障害者福祉、精神障害者福祉に関心をもち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。各回について予習復習を4時間程度行う。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション・科目の位置づけ 2. 精神障害者の概念 3. 精神障害者の現状 4. DVD「私の統合失調症を語ろう」 視聴後レポート作成 5. 精神障害者と家族の現状、精神障害者と地域社会 6. 精神障害者の生活と人権 7. 精神障害者の地域生活支援システム① 8. 精神障害者の地域生活支援システム② 9. 精神障害者の居住支援① 10. 精神障害者の居住支援② 11. 精神障害者の雇用・就業支援① 12. 精神障害者の雇用・就業支援② 13. 行政における相談援助① 14. 行政における相談援助② 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 試験(60%)、授業内での復習テスト(20%)、レポート(20%)によって評価する 復習テストは終了後解説を行う。レポートは授業内に解説を行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神障害者の生活支援システム	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、復習テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験、復習テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:復習テスト、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、復習テスト、レポート				
[教科書 (ISBN)] 新・精神保健福祉士養成講座7 精神障害者の生活支援システム 第3版 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5597-3)				
[参考書 (ISBN)] 授業中適宜指定する				

P11000442 [WH3-022]

科目名	精神保健の課題と支援Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	鈴 道幸			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 精神保健の基礎的視点や基礎知識を理解し、精神保健福祉士として、精神障害者・家族・関係者に対する支援及び連携する意義や方法等を明確化する。				
[授業概要] 精神保健活動をとおして、面接・訪問をおこなった当事者・家族及び各種団体に対しての研修会講師の実務経験を活かした授業を行う。 精神保健の視点から、ライフサイクルにおける精神保健、現代社会における精神保健の諸課題について、的確に支援できる精神保健福祉士を目指すため、精神保健の重要性と精神保健の基礎知識を習得しつつ、現代社会の個別課題への取り組みについて教科書に沿って理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] ・教科書を一読し、該当する箇所に示されているキーワード(ゴシック体)の意味の理解と確認。 ・事前に配布する、資料を一読しておくこと。 ・授業終了後、内容の確認。 「毎回、予習復習合わせて4時間程度」				
[授業計画] 1. 自己紹介・ガイダンス 2. 精神保健とは 3. 精神保健の歴史と課題 4. 日本の主な精神保健に関連する活動 5. 精神障害者観と改善策 6. 精神保健の課題 7. ライフサイクルと精神の健康① 8. ライフサイクルと精神の健康② 9. ストレスと精神の健康 10. 精神保健に関する予防の概念 11. 精神保健に関する専門機関、専門職の概念とその業務 12. 精神保健の視点からみた家族の課題と支援 13. 精神保健からみたひきこもり、介護・高齢者 14. 家庭内の問題を相談する機関・精神保健福祉士の役割 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業内レポート60% 試験40% レポートは返却し、試験は終了後解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000433 [WH3-018]

科目名	精神保健の課題と支援Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	鈴 道幸			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 第3版 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5595-9)				
[参考書 (ISBN)] 授業中に適宜紹介する				

科目名	精神保健の課題と支援Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	鈴 道幸			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 精神保健の基礎的視点や基礎知識を理解し、精神保健福祉士として、精神障害者・家族・関係者に対する支援及び連携する意義や方法を明確化する。				
[授業概要] 精神保健活動をとおして、面接・訪問をおこなった当事者・家族及び各種団体に対しての研修会講師の実務経験を活かした授業を行う。 「精神保健の課題と支援Ⅰ」同様、精神保健の視点から、ライフサイクルにおける精神保健、現代社会における精神保健の諸課題について、的確に支援できる精神保健福祉士を目指すため、精神保健の重要性と精神保健の基礎知識を習得しつつ、現在社会の個別課題への取り組みについて教科書に沿って理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] ・教科書を一読し、該当する箇所に示されているキーワード(ゴチック体)の意味の理解と確認。 ・事前に配布する、資料を一読しておくこと。 ・授業終了後、内容の確認。 「毎回、予習復習合わせて4時間程度」				
[授業計画] 1. 後期授業ガイダンスと精神保健の視点からみた学校教育① 2. 精神保健の視点からみた学校教育② 3. 精神保健の視点から見た勤労者① 4. 精神保健の視点から見た勤労者② 5. うつ病と自殺防止対策 6. アルコール依存症と違法薬物依存・ギャンブル依存対策① 7. アルコール依存症と違法薬物依存・ギャンブル依存対策② 8. 認知症対策 9. ひきこもり対策 10. 災害時の精神保健対策 11. 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ(犯罪被害者、ニート・若年無業者、貧困問題、性別違和) 12. 地域精神保健① 13. 地域精神保健② 14. 世界の精神保健 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業内レポート60% 試験40% レポートは返却し、試験は終了後解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神保健の課題と支援Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	鈴 道幸			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 新・精神保健福祉士養成講座2精神保健の課題と支援 第3版 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5595-9)				
[参考書 (ISBN)] 授業中に適宜紹介する				

科目名	精神保健福祉援助演習(専門) I	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる 〔 授業概要 〕 ①社会的排除、退院支援、地域移行、自殺、ひきこもり、貧困、ピアサポートなど課題別の精神保健福祉援助の事例を活用し、精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的援助について実践的に習得する ②個別指導及び集団指導を実技指導を中心とする演習形態により学ぶ ③アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発などについて実技指導により学ぶ 精神保健福祉士として行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議開委員、NPO 法人の理事などを務めている教員が、最新の実践情勢を踏まえて援助実践指導を行う。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 学習内容に応じて「精神疾患とその治療」「精神保健福祉に関する制度とサービス」その他専門科目、共通科目などに広く関心を持ち、知識を整理しすぐに引き出せるように準備しておくこと。 各回について予習復習を2時間程度行う。 〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習①インテーク・契約 3. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習②アセスメント 4. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習③プランニングと支援の実施 5. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習④モニタリング 6. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習⑤支援の評価・終結・アフターケア 7. 学外シンポジウムへの出席(事前学習) 8. 学外シンポジウムへの出席(最新の実践から学ぶ) 1ー① 9. 学外シンポジウムへの出席(最新の実践から学ぶ) 1ー② 10. 学外シンポジウムへの出席(最新の実践から学ぶ) 1ー③・レポート作成 11. 最新の実践からの学び 発表 12. 課題別事例から学ぶ①社会的排除 13. 課題別事例から学ぶ②退院支援・地域移行・地域生活継続・ピアサポート 14. 課題別事例から学ぶ③自殺・引きこもり・児童虐待・薬物・アルコール依存・等 15. 課題別事例から学ぶ④教育・就労 〔 成績評価方法 〕 レポート・プレゼンテーション内容(70%)、授業参加状況(30%)によって評価する レポート、プレゼンテーション内容については適宜解説を行いフィードバックを行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神保健福祉援助演習(専門) I	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況				
[教科書(ISBN)] なし。適宜資料を配布する				
[参考書(ISBN)] なし 適宜資料を配布する				

P11000443 [WH3-023]

科目名	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 精神保健福祉援助実習におけるそれぞれの個別的な体験を、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術として一般化し、実践的な知識・技術として習得する。 [授業概要] 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができるよう、精神保健福祉実習における体験を用いて学習する。 精神n件福祉士として行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議会委員、NPO 法人の理事などを務めている教員が、最新の実践情勢を踏まえて援助実践指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 精神保健福祉専門科目をはじめ、共通科目他関連科目について何度も復習し、いつでも知識として取り出すことができるように準備しておくこと。 各回について予習復習を2時間程度行う。 [授業計画] 1. オリエンテーション 2. 実習における精神保健福祉援助技術に係る体験報告① 3. 実習における精神保健福祉援助技術に係る体験報告② 4. 実習における精神保健福祉援助技術に係る体験報告③ 5. 実習における精神保健福祉援助技術に係る体験報告④ 6. 個別援助技術の実技指導と概念化・理論化① 7. 個別援助技術の実技指導と概念化・理論化② 8. 集団援助技術の実技指導と概念化・理論化① 9. 集団援助技術の実技指導と概念化・理論化② 10. アウトリーチ・ニーズ把握の実際と実技指導 11. 地域アセスメントの実際と実技指導 12. 社会資源の活用・調整・開発の実際と実技指導 13. ケアマネジメントの実際と実技指導 14. 個別指導 15. まとめ [成績評価方法] レポート(30%)、プレゼンテーション内容・プレゼンテーション態度(30%)、授業参加状況(40%)によって評価する。 レポート、プレゼンテーションは適宜解説をしてフィードバックを行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000444 [WH4-009]

科目名	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] なし 適宜資料を配布する				

P11000444 [WH4-009]

科目名	精神保健福祉援助実習	前期～後期	実習	5 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子、植戸 貴子、小笠原 慶彰、佐々木 勝一			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する				
〔 授業概要 〕 精神保健福祉援助実習を通して精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職の連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員による巡回指導を実施する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 既習の専門科目、共通科目、関連科目の内容に関して繰り返し学び覚えて、実習先で遭遇するさまざまな機関や機能、人々やできごとが理解できるよう、いつでも利用可能な知識になるよう準備をしておくこと				
〔 授業計画 〕 1. 精神科病院等医療機関の実習においては、次の事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける ①入院時または急性期の患者及びその家族への相談援助 ②退院または地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ③治療中の患者及びその家族への相談援助 ④多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 ⑤日常生活や社会生活上の問題に関する患者及びその家族への相談援助 2. 地域の障害福祉サービス事業所の実習においては、次の事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者の指導を受ける ①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体、住民やボランティアなどとの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ③利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成 ④利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価 ⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 ⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧施設・機関・事業者・団体の経営やサービスの管理運営の実践 ⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 3. 巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を緊密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う				
〔 成績評価方法 〕 実習機関による評価(50%)、実習記録の内容(20%)、巡回指導、帰校日指導等における指導内容(30%)により総合的に評価する 学生と評価を共有しフィードバックを行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000448 [WH4-012]

科目名	精神保健福祉援助実習	前期～後期	実習	5 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子、植戸 貴子、小笠原 慶彰、佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記の内容、指導内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] なし 適宜資料を配布する				

P11000448 [WH4-012]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実的に理解する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など総合的に対応できる能力を習得する。 〔 授業概要 〕 精神保健福祉援助実習の意義について理解し、精神保健福祉士資格取得の動機を明確にする。精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関して理解すると同時に、身につけることができるよう自己覚知を深める。精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）と、実習機関を含む地域に関する基本的な理解を深める。 精神保健福祉士として行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議会委員、NPO法人理事などを務めている教員が、最新の実践情勢を踏まえた実習指導を行う。 〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 既習の専門科目、共通科目、関連科目に関して関心を持ち続け、調べ整理して、いつでも利用可能な知識になるよう準備をしておくこと。 各回について予習復習を2時間程度行う。 〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 実習の意義・目的・位置づけ 3. 実習への動機付けの吟味 4. 教員の援助実践から学ぶ 5. 望ましい精神保健福祉士像 6. 倫理綱領 7. 自己覚知 8. 精神保健医療福祉の現状の理解① 9. 精神保健医療福祉の現状の理解② 10. 実習機関を含む地域に関する基本的理解① 11. 実習機関を含む地域に関する基本的理解② 12. 学外講師：行政機関の精神保健福祉士「行政機関と地域」 13. 学外講師：地域の福祉サービス事業所精神保健福祉士「サービス事業所と地域」 14. 地域に関する基本的理解のまとめ 15. まとめ 〔 成績評価方法 〕 レポート(40%)、プレゼンテーション内容・プレゼンテーション態度(40%)、授業参加状況(20%) その都度解説などのフィードバックを行う。 〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000445 [WH3-024]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション態度、授業参加状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:授業参加状況、レポート				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 授業中に適宜指定する				

P11000445 [WH3-024]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 精神保健福祉援助実習に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。具体的な体験や援助活動を専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
〔 授業概要 〕 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解を深め、見学実習や学外講師の実践から、精神保健福祉援助の実際について学ぶ。実習における個人のプライバシー保護、守秘義務の理解、個人情報保護法の理解、実習記録の内容、記録方法に関する理解と習得を行う。 精神保健福祉士として行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議会委員、NPO 法人の理事などを務めている教員が、最新の実践情勢を踏まえた実習指導を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 既習の専門科目、共通科目、関連科目に対する関心を持ち続け、調べ整理して、いつでも利用可能な知識になるよう準備しておくこと。各回について予習復習を2時間程度行う。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 個人票と実習計画書作成 3. 実習ノートの使い方・記録方法・守秘義務・個人情報保護法 4. 学外講師：精神科病院精神保健福祉士 5. 学外講師：障害福祉サービス事業所精神保健福祉士 6. 学外講師：精神障害者当事者 7. 障害福祉サービス事業所①見学実習1 8. 障害福祉サービス事業所①見学実習2 9. 障害福祉サービス事業所①見学実習3 及びレポート作成 10. 障害福祉サービス事業所②見学実習1 11. 障害福祉サービス事業所②見学実習2 12. 障害福祉サービス事業所②見学実習3 及びレポート作成 13. 見学実習まとめ 14. 実習直前指導① 15. 実習直前指導②				
〔 成績評価方法 〕 レポート(40%)、プレゼンテーション内容・プレゼンテーション態度(40%)、授業参加状況(20%) その都度解説などのフィードバックを行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000446 [WH4-010]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション態度、授業参加状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:授業参加状況、レポート				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] 授業中に適宜指定する				

P11000446 [WH4-010]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 精神保健福祉援助実習の経験、実習記録、実習先の実習指導者の指導内容を踏まえて、精神保健福祉援助実践に向けての自分自身の課題を整理し、実習総括をする				
〔 授業概要 〕 精神保健福祉援助実習の経験、実習記録、実習先の実習指導者からの指導内容を踏まえて、精神保健福祉援助実践に向けての自分自身の課題を整理し、実習総括をする。 精神保健福祉士として行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議会委員、NPO 法人の理事などを務めている教員が、最新の実践情勢を踏まえて、援助実践を行う専門職として指導育成する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 既習の専門科目、共通科目、関連科目の内容に関して、知識の定着を図り身につけた知識となるよう準備をすること。各回について予習復習を2時間程度行う。				
〔 授業計画 〕 1. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導① 2. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導② 3. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導③ 4. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導④ 5. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導⑤ 6. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導⑥ 7. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導⑦ 8. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導⑧ 9. 実習体験報告と課題整理① 10. 実習体験報告と課題整理② 11. 実習報告書作成① 12. 実習報告書作成② 13. 実習報告発表 14. 実習評価と個別指導 15. 実習総合まとめ				
このほかに、精神保健福祉援助実習期間中には、1 学生2ヶ所の実習につき各1回の訪問巡回指導による個別指導及び実習先の実習指導者との連絡調整を行う				
〔 成績評価方法 〕 実習内容、実習態度(40%)、実習機関による評価(30%)、報告書内容、発表内容、発表態度(30%) 適宜解説を加えフィードバックを行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000447 [WH4-011]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容・態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容・態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容・態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容・態度				
[教科書 (ISBN)] 精神保健医療福祉白書 2020(後期に出版されていれば) 著者名:精神保健医療福祉白書編集委員会 出版社:中央法規 (不明)				
[参考書 (ISBN)] なし 適宜資料を配布する				

P11000447 [WH4-011]

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法及び関連法などによる制度・福祉サービスについて理解する				
〔授業概要〕 精神保健福祉専門科目の中心的な科目であり、精神保健福祉士受験資格取得のための必修科目である。精神障害は決して特別な存在ではない。どのような生活の場面・福祉援助の現場においても身近に接するであろう精神障害について学習を進めていく。精神障害者についての理解を深め、精神保健福祉法の意義と内容、福祉制度・福祉サービス・社会保障制度の概要について理解する。 行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議会委員、NPO法人理事などを務めている教員が、最新の情報と実践について教示する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 障害者福祉、精神障害者福祉に関心を持ち、日頃から関連するニュース等に触れておくこと。各回について予習復習を4時間程度行う。				
〔授業計画〕 1. オリエンテーション・科目の位置づけ 2. 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法 3. 精神保健福祉に関する制度とサービスの構造的理解 4. 精神保健福祉法成立までの経緯① 5. 精神保健福祉法成立までの経緯② 6. 精神保健福祉法成立の意義とその後の変化 7. 精神保健福祉法の概要① 8. 精神保健福祉法の概要② 9. 精神保健福祉法の概要③ 10. 精神保健福祉士の意義、役割 11. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス① 12. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス② 13. 国、都道府県、市町村における精神障害者福祉施策 14. 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業 15. まとめ				
〔成績評価方法〕 試験(60%)、授業内での復習テスト(30%)、レポート(10%)によって評価する 復習テストは終了後解説を行う。レポートは授業内に解説を行う。				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、復習テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験、復習テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:復習テスト、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、復習テスト、レポート				
[教科書(ISBN)] 新・精神保健福祉士養成講座6 精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社:中央法規出版 (978- 4-8058-5596-6)				
[参考書(ISBN)] 授業中適宜指定する				

P11000439 [WH2-021]

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 精神障害者の支援に関連する制度および福祉サービスの知識と支援内容について理解する。更生保護制度と医療観察法について理解し、社会資源に関する調整・開発等に係る基礎的な知識を理解する				
〔 授業概要 〕 精神保健福祉専門科目の中心的な科目であり、精神保健福祉士受験資格取得のための必修科目である。精神障害は決して特別な存在ではない。どのような生活の場面・福祉援助の現場においても身近に接するであろう精神障害について学習を進めていく。更生保護制度や医療観察法について学び、関係団体や機関、専門職や地域住民との協働について学ぶ。さらに、社会資源の調整・開発に関わる社会調査の意義・目的・倫理・方法及び活用について学習する。 行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議会委員、NPO法人理事などを務めている教員が、最新の情報と実践について教示する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 障害者福祉、精神障害者福祉に関心を持ち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。各回について予習復習を4時間程度行う。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業① 3. 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業② 4. 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業③ 5. 障害者自立支援制度・障害者総合支援法 6. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要①医療保険制度 7. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要②介護保険制度・経済的支援に関する制度 8. 相談援助に関わる行政組織と民間組織 9. 相談援助に関わる福祉サービス提供施設・機関の役割・専門職や地域の支援者 10. 更生保護制度の概要 11. 更生保護制度と精神保健福祉との関係 12. 医療観察法の概要と実際① 13. 医療観察法の概要と実際② 14. 社会復帰調整官の役割と実際 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 試験(60%)、授業内での復習テスト(30%)、レポートなど(10%)によって評価する。 復習テストは終了後解説を行う。レポートは授業内に解説を行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、復習テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験、復習テスト				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:復習テスト、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、復習テスト、レポート				
[教科書 (ISBN)]				
新・精神保健福祉士養成講座6 精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版 (前期の同科目Ⅰで使用したものを用いる) 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連盟 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5596-6)				
[参考書 (ISBN)]				
授業中適宜指定する				

P11000441 [WH2-022]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	瀧本 優子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 精神保健福祉における専門的援助技術を学び、様々な理論や事例などから具体的な援助について理解し実践していける力を身につける。 [授業概要] 1. 精神障がい者支援の実践モデルについて理解させる。 2. 精神障がい者の相談援助の過程および対象との援助関係について理解させる。 3. 相談援助活動のための面接技法について理解させる。 4. スーパービジョンとコンサルテーションについて理解させる。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業のテーマについて記載のあるテキストの部分を読み、配布資料のまとめの問題をおさらいするために、4時間程度の予習復習をして授業に臨んでください。 [授業計画] 1. 精神障がい・精神障がい者への支援とは 2. 精神障がい者支援の実践モデルの意味と内容 3. 治療モデルと生活モデル 4. ストレングスモデル 5. 相談援助の過程①(ケース発見・受理面接と契約) 6. 相談援助の過程②(課題分析) 7. 相談援助の過程③(支援計画と実施) 8. 相談援助の過程④(効果測定と評価、終結) 9. 相談援助のための面接の種類と原則 10. 面接技法の基礎 11. 面接技法の実践 12. スーパービジョン 13. コンサルテーション 14. DVDで学ぶ相談援助 15. まとめ [成績評価方法] 授業への取り組み姿勢(授業態度、課題レポートなど)20%、試験80% 成績評価については、必要に合わせた形で各自へのフィードバックを行う。 また疑問点などはメールにて対応を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	瀧本 優子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 期末試験を含め総合的に評価する				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法: 期末試験を含め総合的に評価する				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: 期末試験を含め総合的に評価する				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法: 期末試験を含め総合的に評価する				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業の理解度やレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業の理解度やレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業の理解度やレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業の理解度やレポート				
[教科書 (ISBN)] 精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I 著者名: 日本精神保健福祉士養成校協会 出版社: 中央法規出版 (978-4-8058-3946-1)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000435 [WH3-020]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	瀧本 優子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 精神保健福祉における専門的援助技術を学び、様々な理論や事例などから具体的な援助について理解し実践していける力を身につける。 [授業概要] 1. 精神障がい者を対象とした相談援助活動について理解させる。 2. 家族調整・支援とSST(Social Skills Training)について理解させる。 3. 精神障がい者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業のテーマについて記載のあるテキストの部分を読み、配布資料のまとめの問題をおさらいするために、4時間程度の予習復習をして授業に臨んでください。 [授業計画] 1. 相談援助活動について 2. 個別支援の実際 3. ICFを活用した課題分析 4. 集団支援の実際 5. 集団を活用した支援 6. SSTの基礎 7. 精神障がい者へのSSTの実際 8. 事例から学ぶ相談援助技術の実際 9. 家族調整・支援の実際 10. 家族会とセルフヘルプグループ 11. ケアマネジメントの原則 12. ケアマネジメントの意義と留意点 13. ケアマネジメントのプロセス 14. チームケアとチームワーク 15. まとめ [成績評価方法] 授業への取り組み姿勢(授業態度、課題レポートなど)20%、試験80% 成績評価については、必要に合わせた形で各自へのフィードバックを行う。 また疑問点などはメールにて対応を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	瀧本 優子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 期末試験を含めて総合的に評価				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法: 期末試験を含めて総合的に評価				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: 期末試験を含めて総合的に評価				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法: 期末試験を含めて総合的に評価				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法: 期末試験を含めて総合的に評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業の理解度やレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業の理解度やレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業の理解度やレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業の理解度やレポート				
[教科書 (ISBN)] 精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 著者名: 日本精神保健福祉士養成校協会 出版社: 中央法規出版 (978-4-8058-3947-8)				
[参考書 (ISBN)] なし				

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	相談支援の実際			
担当者	坂本 茉衣子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 精神保健福祉士は従来医療の範疇で遇されてきた精神障害者の社会的復権等が中心的な業務であったが、2010年末の精神保健福祉士法の改正により、業務の範疇をより実践に即した形で広げ、地域での実践に大きくシフトした。これにより地域生活を中心とした支援に法的な根拠が与えられ、精神保健福祉の専門的領域に加えて、地域社会あるいは地域生活を支援するというジェネリックな視点や機能が求められている。よって精神保健福祉士に求められるものは支援力だけではなく人間力、表現力、想像力と多岐にわたる。よって授業では、これまでの精神科医療偏重の制度から地域生活支援へと大きくパラダイムの変換が求められている時代に即応する精神保健福祉士の支援の在り方を「精神科リハビリテーション」の概念を通して学び、その実力を養う。				
〔 授業概要 〕 精神科病院と地域の指定特定相談支援事業所で現在も実務を行っている精神保健福祉士として、現場の楽しさや、精神保健福祉委領域の課題を現場のリアルな内容を現在学んでいる知識と結びつけるような教育を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 最低限度教科書のゴシック体・キーワードについて、暗記と徹底的理解を復習として求める。 各回、予習復習合わせて4時間程度				
〔 授業計画 〕 1. 前期授業のガイダンス 2. 精神医療保健福祉の歴史 3. 精神医療保健福祉の動向 4. 精神障害者支援の理念～地域での支援を中心に～ 5. 精神障害者の人権と人権擁護 6. 精神科リハビリテーションの概念 7. 精神科リハビリテーションの理念① 8. 精神科リハビリテーションの理念② 9. 精神科リハビリテーションの構成 10. 精神科リハビリテーションのプロセス① 11. 精神科リハビリテーションのプロセス②～地域におけるリハビリを中心に～ 12. 地域におけるリハビリテーション活動の実際①～西宮市地域移行推進事業～ 13. 地域におけるリハビリテーション活動の実際②～精神障害当事者による共助～ 14. コミュニティソーシャルワークにおける多職種連携・協働 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み姿勢(授業態度・レポート等)30%、試験70% レポートは添削して返却するとともに、試験は実施後に解説を実施します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000437 [WH4-007]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	相談支援の実際			
担当者	坂本 茉衣子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 新・精神保健福祉士養成講座第2版 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 注)3年生時購入済 著者名:日本精神保健福祉士養成校協会編集 出版社:中央法規出版				
[参考書 (ISBN)] 授業中に適宜紹介をする				

P11000437 [WH4-007]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	坂本 茉衣子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 精神保健福祉士は従来医療の範疇で遇されてきた精神障害者の社会的復権等が中心的な業務であったが、2010年末の精神保健福祉士法の改正により、業務の範疇をより実践に即した形で広げ、地域での実践に大きくシフトした。これにより地域生活を中心とした支援に法的な根拠が与えられ、精神保健福祉の専門的領域に加えて、地域社会あるいは地域生活を支援するというジェネリックな視点や機能が求められている。よって精神保健福祉士に求められるものは知識はもちろん、想像力、共感力、提言力、人間力とより多くのものが求められる。よって授業では、これまでの精神科医療偏重の制度から地域生活支援へと大きくパラダイムの変換が求められている時代に即応する精神保健福祉士の相談援助活動の在り方を「精神科リハビリテーション」の概念を通して学び、その実力を養う。				
〔 授業概要 〕 精神科病院と地域の指定特定相談支援事業所で現在も実務を行っている精神保健福祉士として、現場の実務と学んだことを結びつけながらより深い学びを提供するとともに、精神保健福祉士として備えるべき福祉に対する概念を学生自身によって掘り下げることができる教育を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 最低限度教科書のゴシック体・キーワードについて、暗記と徹底的理解を復習として求める。 各回、予習復習合わせて4時間程度				
〔 授業計画 〕 1. 後期授業のガイダンス 2. 地域の精神保健福祉士の業務 3. 相談支援事業について 4. 相談支援事業の実際 5. 地域移行支援について 6. 兵庫県の地域移行支援について 7. 地域を基盤としたリハビリテーション 8. セルフヘルプ・家族会 9. 精神障害者のケアマネジメント 10. チームケア 11. 地域を基盤にした支援の具体的展開 12. 事例による地域を基盤にした支援の検討 13. コミュニティソーシャルワークからみた包括的総合的支援の意義 14. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み姿勢(授業態度/レポート等)30%、試験70% レポートは添削して返却するとともに、試験は実施後に解説を実施します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000438 [WH4-008]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	坂本 茉衣子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人々とも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、共同していく力を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 新・精神保健福祉士養成講座第2版 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 注)3年生時購入済 著者名:日本精神保健福祉士養成校協会編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3947-8)				
[参考書 (ISBN)] 授業中に適宜紹介をする				

P11000438 [WH4-008]

科目名	相談援助演習 I	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。また、相談援助に必要な自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。				
〔 授業概要 〕 演習形態による個別指導及び集団指導を通して、自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）によって、相談援助に係る価値観、知識、技術が修得できるようにする。そして、総合的かつ包括的な援助と地域福祉の基盤整備と開発について、具体的な相談援助事例の検討を通して、体系的に理解する。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての自己覚知・自己理解・他者理解・基本的コミュニケーション力の醸成を促し、他者との良好な関係を築きながら相互に成長しあえるような授業を展開する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション(相談援助演習の意義・進め方など)とアイスブレーキング 2. 自己像による自己理解 3. パーソナリティ・テストによる自己理解 4. 自分史・マッピングによる自己理解 5. 他者との関わりを通じた自己理解 6. 対話を通じた他者理解 7. グループ体験を通じた他者理解 8. 障がい者・高齢者体験を通じた他者理解 9. コミュニケーションの基本的理解 10. 言語的コミュニケーション 11. 非言語的コミュニケーション 12. 自己のコミュニケーション・スタイル 13. 効果的なコミュニケーションの技術 14. 相談援助におけるコミュニケーションの基本的技術 15. 福祉専門職の価値と倫理				
〔 成績評価方法 〕 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)により評価する。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助演習 I	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

科目名	相談援助演習 I	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	曾田 里美			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。また、相談援助に必要な自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。				
〔 授業概要 〕 演習形態による個別指導及び集団指導を通して、自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）によって、相談援助に係る価値観、知識、技術が修得できるようにする。そして、総合的かつ包括的な援助と地域福祉の基盤整備と開発について、具体的な相談援助事例の検討を通して、体系的に理解する。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての自己覚知・自己理解・他者理解・基本的コミュニケーション力の醸成を促し、他者との良好な関係を築きながら相互に成長しあえるような授業を展開する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション(相談援助演習の意義・進め方など)とアイスブレーキング 2. 自己像による自己理解 3. パーソナリティ・テストによる自己理解 4. 自分史・マッピングによる自己理解 5. 他者との関わりを通じた自己理解 6. 対話を通じた他者理解 7. グループ体験を通じた他者理解 8. 障がい者・高齢者体験を通じた他者理解 9. コミュニケーションの基本的理解 10. 言語的コミュニケーション 11. 非言語的コミュニケーション 12. 自己のコミュニケーション・スタイル 13. 効果的なコミュニケーションの技術 14. 相談援助におけるコミュニケーションの基本的技術 15. 福祉専門職の価値と倫理				
〔 成績評価方法 〕 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)により評価する。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助演習 I	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000360A [WH2-019]

科目名	相談援助演習Ⅰ	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐々木 勝一			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。また、相談援助に必要な自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。				
〔授業概要〕 社会福祉士として関わった相談支援を、演習形態による個別指導及び集団指導を通して、自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について提示する。また、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレーイング等)によって、相談援助に係る価値観、知識、技術が修得できるようにする。そして、総合的かつ包括的な援助と地域福祉の基盤整備と開発について、具体的な相談援助事例の検討を通して、体系的に理解する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。				
〔授業計画〕 1. オリエンテーション(相談援助演習の意義・進め方など)とアイスブレーキング 2. 自己像による自己理解 3. パーソナリティ・テストによる自己理解 4. 自分史・マッピングによる自己理解 5. 他者との関わりを通じた自己理解 6. 対話を通じた他者理解 7. グループ体験を通じた他者理解 8. 障がい者・高齢者体験を通じた他者理解 9. コミュニケーションの基本的理解 10. 言語的コミュニケーション 11. 非言語的コミュニケーション 12. 自己のコミュニケーション・スタイル(学外特別講師) 13. 効果的なコミュニケーションの技術 14. 相談援助におけるコミュニケーションの基本的技術 15. 社会福祉士の価値と倫理				
〔成績評価方法〕 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)により評価する。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助演習Ⅰ	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書(ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000360C [WH2-019]

科目名	相談援助演習 I	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	下司 実奈			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。また、相談援助に必要な自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。				
〔 授業概要 〕 演習形態による個別指導及び集団指導を通して、自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）によって、相談援助に係る価値観、知識、技術が修得できるようにする。そして、総合的かつ包括的な援助と地域福祉の基盤整備と開発について、具体的な相談援助事例の検討を通して、体系的に理解する。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての自己覚知・自己理解・他者理解・基本的コミュニケーション力の醸成を促し、他者との良好な関係を築きながら相互に成長しあえるような授業を展開する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション(相談援助演習の意義・進め方など)とアイスブレーキング 2. 自己像による自己理解 3. パーソナリティ・テストによる自己理解 4. 自分史・マッピングによる自己理解 5. 他者との関わりを通じた自己理解 6. 対話を通じた他者理解 7. グループ体験を通じた他者理解 8. 障がい者・高齢者体験を通じた他者理解 9. コミュニケーションの基本的理解 10. 言語的コミュニケーション 11. 非言語的コミュニケーション 12. 自己のコミュニケーション・スタイル 13. 効果的なコミュニケーションの技術 14. 相談援助におけるコミュニケーションの基本的技術 15. 福祉専門職の価値と倫理				
〔 成績評価方法 〕 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)により評価する。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助演習Ⅰ	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書(ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000360E [WH2-019]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	植戸 貴子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 ・福祉専門職として相談支援をおこなうことが出来るように、演習授業により基本的な面接技術訓練と事例研究をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に習得することを目指す。 1.人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について実践的に理解できる。 2.基本的な面接技術を用いることができる。 3.具体的な課題別の相談援助事例を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に理解できる。 4.具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結、アフターケア）について理解できる。				
〔 授業概要 〕 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。 ③人間関係形成の方法とコミュニケーションの基礎を学ぶ。 ・基本的な面接技術を習得する。 ・具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。取り上げる課題は、社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（DV）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む）などとする。 ・上記の事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を想定した実技指導を行う。 実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、チームマネジメント、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する学習を含める。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術を修得することができるような授業を展開する。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。				
〔 授業計画 〕 1. 相談援助における人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 2. 面接の基本的な姿勢と技術 3. 面接のロールプレイ～支援の実施（1） 4. 面接のロールプレイ～支援の実施（2） 5. 相談援助の過程 6. インテーク面接 7. アセスメントのための面接（1） 8. アセスメントのための面接（2） 9. プランニングの実施（1） 10. プランニングの実施（2） 11. モニタリングと効果測定 12. 終結とアフターケア 13. 記録の意義・方法・留意点と実際 14. 相談援助におけるチームマネジメントとネットワークング 15. 事例検討の意義・目的・方法・留意点 16. 事例検討の実施 17. 相談援助場面事例：高齢者の相談援助 18. 相談援助場面事例：障がい者の相談援助 19. 相談援助場面事例：児童と家庭の相談援助 20. 課題別相談援助事例：社会的排除（障がい者・高齢者） 21. 課題別相談援助事例：社会的排除（ひとり親家庭・外国人など） 22. 課題別相談援助事例：児童虐待 23. 課題別相談援助事例：高齢者虐待 24. 課題別相談援助事例：家庭内暴力（DV） 25. 課題別相談援助事例：低所得者 26. 課題別相談援助事例：ホームレス 27. 課題別相談援助事例：危機介入 28. 課題別相談援助事例：権利擁護活動 29. 課題別相談援助事例：価値のジレンマ 30. ふりかえりとまとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業における課題への取り組み（20%）、レポート（80%）で評価。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000370 [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000370 [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	曾田 里美			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 福祉専門職として相談支援をおこなうことが出来るように、演習授業により基本的な面接技術訓練と事例研究をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に習得することを目指す。 1.人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について実践的に理解できる。 2.基本的な面接技術を用いることができる。 3.具体的な課題別の相談援助事例を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に理解できる。 4.具体的な相談援助場面及び相談援助の過程(インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結、アフターケア)について理解できる。				
〔授業概要〕 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレーイング等)を中心とする演習形態により行う。 ③人間関係形成の方法とコミュニケーションの基礎を学ぶ。 ・基本的な面接技術を習得する。 ・具体的な課題別の相談援助事例(集団に対する相談援助事例を含む)を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。取り上げる課題は、社会的排除・虐待(児童・高齢者)・家庭内暴力(DV)・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例(権利擁護活動を含む)などとする。 ・上記の事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程(インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア)を想定した実技指導を行う。 実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、チームマネジメント、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する学習を含める。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術を修得することができるような授業を展開する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。				
〔授業計画〕 1. 相談援助における人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 2. 面接の基本的な姿勢と技術 3. 面接のロールプレイ～支援の実施(1) 4. 面接のロールプレイ～支援の実施(2) 5. 相談援助の過程 6. インテーク面接 7. アセスメントのための面接(1) 8. アセスメントのための面接(2) 9. プランニングの実践(1) 10. プランニングの実践(2) 11. モニタリングと効果測定 12. 終結とアフターケア 13. 記録の意義・方法・留意点と実際 14. 相談援助におけるチームマネジメントとネットワークング 15. 事例検討の意義・目的・方法・留意点 16. 事例検討の実践 17. 相談援助場面事例:高齢者の相談援助 18. 相談援助場面事例:障がい者の相談援助 19. 相談援助場面事例:児童と家庭の相談援助 20. 課題別相談援助事例:社会的排除(障がい者・高齢者) 21. 課題別相談援助事例:社会的排除(ひとり親家庭・外国人など) 22. 課題別相談援助事例:児童虐待 23. 課題別相談援助事例:高齢者虐待 24. 課題別相談援助事例:家庭内暴力(DV) 25. 課題別相談援助事例:低所得者 26. 課題別相談援助事例:ホームレス 27. 課題別相談援助事例:危機介入 28. 課題別相談援助事例:権利擁護活動 29. 課題別相談援助事例:価値のジレンマ 30. ふりかえりとまとめ				
〔成績評価方法〕 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000370A [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000370A [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	下司 実奈			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 福祉専門職として相談支援をおこなうことが出来るように、演習授業により基本的な面接技術訓練と事例研究をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に習得することを目指す。 1.人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について実践的に理解できる。 2.基本的な面接技術を用いることができる。 3.具体的な課題別の相談援助事例を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に理解できる。 4.具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結、アフターケア）について理解できる。				
〔 授業概要 〕 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。 ③人間関係形成の方法とコミュニケーションの基礎を学ぶ。 ・基本的な面接技術を習得する。 ・具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。取り上げる課題は、社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（DV）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む）などとする。 ・上記の事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を想定した実技指導を行う。 実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、チームマネジメント、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する学習を含める。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術を修得することができるような授業を展開する。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。				
〔 授業計画 〕 1. 相談援助における人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 2. 面接の基本的な姿勢と技術 3. 面接のロールプレイ～支援の実施（1） 4. 面接のロールプレイ～支援の実施（2） 5. 相談援助の過程 6. インテーク面接 7. アセスメントのための面接（1） 8. アセスメントのための面接（2） 9. プランニングの実施（1） 10. プランニングの実施（2） 11. モニタリングと効果測定 12. 終結とアフターケア 13. 記録の意義・方法・留意点と実際 14. 相談援助におけるチームマネジメントとネットワーキング 15. 事例検討の意義・目的・方法・留意点 16. 事例検討の実際 17. 相談援助場面事例：高齢者の相談援助 18. 相談援助場面事例：障がい者の相談援助 19. 相談援助場面事例：児童と家庭の相談援助 20. 課題別相談援助事例：社会的排除（障がい者・高齢者） 21. 課題別相談援助事例：社会的排除（ひとり親家庭・外国人など） 22. 課題別相談援助事例：児童虐待 23. 課題別相談援助事例：高齢者虐待 24. 課題別相談援助事例：家庭内暴力（DV） 25. 課題別相談援助事例：低所得者 26. 課題別相談援助事例：ホームレス 27. 課題別相談援助事例：危機介入 28. 課題別相談援助事例：権利擁護活動 29. 課題別相談援助事例：価値のジレンマ 30. ふりかえりとまとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業における課題への取り組み（20%）、レポート（80%）で評価。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000370C〔WH3-013〕

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000370C [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	川端 麗子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 ・福祉専門職として相談支援をおこなうことが出来るように、演習授業により基本的な面接技術訓練と事例研究をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に習得することを目指す。 1.人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について実践的に理解できる。 2.基本的な面接技術を用いることができる。 3.具体的な課題別の相談援助事例を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に理解できる。 4.具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結、アフターケア）について理解できる。				
〔 授業概要 〕 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。 ③人間関係形成の方法とコミュニケーションの基礎を学ぶ。 ・基本的な面接技術を習得する。 ・具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。取り上げる課題は、社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（DV）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む）などとする。 ・上記の事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を想定した実技指導を行う。 実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、チームマネジメント、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する学習を含める。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術を修得することができるような授業を展開する。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。				
〔 授業計画 〕 1. 相談援助における人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 2. 面接の基本的な姿勢と技術 3. 面接のロールプレイ～支援の実施（1） 4. 面接のロールプレイ～支援の実施（2） 5. 相談援助の過程 6. インテーク面接 7. アセスメントのための面接（1） 8. アセスメントのための面接（2） 9. プランニングの実施（1） 10. プランニングの実施（2） 11. モニタリングと効果測定 12. 終結とアフターケア 13. 記録の意義・方法・留意点と実際 14. 相談援助におけるチームマネジメントとネットワークング 15. 事例検討の意義・目的・方法・留意点 16. 事例検討の実施 17. 相談援助場面事例：高齢者の相談援助 18. 相談援助場面事例：障がい者の相談援助 19. 相談援助場面事例：児童と家庭の相談援助 20. 課題別相談援助事例：社会的排除（障がい者・高齢者） 21. 課題別相談援助事例：社会的排除（ひとり親家庭・外国人など） 22. 課題別相談援助事例：児童虐待 23. 課題別相談援助事例：高齢者虐待 24. 課題別相談援助事例：家庭内暴力（DV） 25. 課題別相談援助事例：低所得者 26. 課題別相談援助事例：ホームレス 27. 課題別相談援助事例：危機介入 28. 課題別相談援助事例：権利擁護活動 29. 課題別相談援助事例：価値のジレンマ 30. ふりかえりとまとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業における課題への取り組み（20%）、レポート（80%）で評価。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000370D [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	川端 麗子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000370D [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	植戸 貴子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 相談援助職として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により各種事例の検討や実技指導をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に修得することを目指す。 1. 多様な福祉現場における相談援助事例について実践的に理解し考察することができる。 2. 多様な福祉現場における集団援助に必要な専門的な知識と技術について理解する。 3. 地域福祉の実践事例を通して、地域福祉援助に必要な専門的な知識と技術について理解する。 4. 多様な実践事例を通してソーシャルワークの価値や視点を学び、福祉専門職の課題を理解する。				
〔授業概要〕 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。 ・地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用して実技指導を行う。具体的には地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う 相談援助実習後においては、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術を修得することができるような授業を展開する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。				
〔授業計画〕 1. 相談援助実習における実習体験のふりかえり・評価 2. 相談援助実習における援助事例：高齢者施設 3. 相談援助実習における援助事例：身体障がい者施設 4. 相談援助実習における援助事例：知的障がい者施設 5. 相談援助実習における援助事例：児童福祉施設 6. 相談援助実習における援助事例：生活保護施設 7. 相談援助実習における援助事例：福祉事務所 8. 相談援助実習における援助事例：医療機関 9. 集団援助の実際：高齢者施設における集団援助 10. 集団援助の実際：障がい者施設における集団援助 11. 集団援助の実際：児童福祉施設における集団援助 12. 集団援助の実際：セルフヘルプグループへの支援 13. 地域福祉の基盤整備と開発：意義・目的・方法・留意点 14. 地域福祉の基盤整備と開発：プロセスの理解 15. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域住民に対するアウトリーチ 16. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：住民のニーズの把握 17. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域福祉の計画 18. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：ネットワークング 19. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：社会資源の活用・調整・開発 20. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：サービスの評価 21. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：人権尊重 22. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：権利擁護 23. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：自立支援 24. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：地域生活支援 25. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：エンパワメント 26. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：ストレングス視点 27. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：パートナーシップ 28. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：チームアプローチ 29. 社会福祉専門職の課題 30. ふりかえりとまとめ				
〔成績評価方法〕 授業における課題への取り組み（20%）、レポート（80%）で評価。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。				
〔オフィスアワー（質問等の受付方法）〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000380 [WH3-014]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000380 [WH3-014]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	曾田 里美			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。また、相談援助に必要な自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。				
〔 授業概要 〕 演習形態による個別指導及び集団指導を通して、自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）によって、相談援助に係る価値観、知識、技術が修得できるようにする。そして、総合的かつ包括的な援助と地域福祉の基盤整備と開発について、具体的な相談援助事例の検討を通して、体系的に理解する。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての自己覚知・自己理解・他者理解・基本的コミュニケーション力の醸成を促し、他者との良好な関係を築きながら相互に成長しあえるような授業を展開する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション(相談援助演習の意義・進め方など)とアイスブレーキング 2. 自己像による自己理解 3. パーソナリティ・テストによる自己理解 4. 自分史・マッピングによる自己理解 5. 他者との関わりを通じた自己理解 6. 対話を通じた他者理解 7. グループ体験を通じた他者理解 8. 障がい者・高齢者体験を通じた他者理解 9. コミュニケーションの基本的理解 10. 言語的コミュニケーション 11. 非言語的コミュニケーション 12. 自己のコミュニケーション・スタイル 13. 効果的なコミュニケーションの技術 14. 相談援助におけるコミュニケーションの基本的技術 15. 福祉専門職の価値と倫理				
〔 成績評価方法 〕 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)により評価する。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	下司 実奈			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 相談援助職として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により各種事例の検討や実技指導をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に修得することを目指す。 1. 多様な福祉現場における相談援助事例について実践的に理解し考察することができる。 2. 多様な福祉現場における集団援助に必要な専門的な知識と技術について理解する。 3. 地域福祉の実践事例を通して、地域福祉援助に必要な専門的な知識と技術について理解する。 4. 多様な実践事例を通してソーシャルワークの価値や視点を学び、福祉専門職の課題を理解する。				
〔授業概要〕 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。 ・地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用して実技指導を行う。具体的には地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う 相談援助実習後においては、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術を修得することができるような授業を展開する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。				
〔授業計画〕 1. 相談援助実習における実習体験のふりかえり・評価 2. 相談援助実習における援助事例:高齢者施設 3. 相談援助実習における援助事例:身体障がい者施設 4. 相談援助実習における援助事例:知的障がい者施設 5. 相談援助実習における援助事例:児童福祉施設 6. 相談援助実習における援助事例:生活保護施設 7. 相談援助実習における援助事例:福祉事務所 8. 相談援助実習における援助事例:医療機関 9. 集団援助の実際:高齢者施設における集団援助 10. 集団援助の実際:障がい者施設における集団援助 11. 集団援助の実際:児童福祉施設における集団援助 12. 集団援助の実際:セルフヘルプグループへの支援 13. 地域福祉の基盤整備と開発:意義・目的・方法・留意点 14. 地域福祉の基盤整備と開発:プロセスの理解 15. 地域福祉の基盤整備と開発の事例:地域住民に対するアウトリーチ 16. 地域福祉の基盤整備と開発の事例:住民のニーズの把握 17. 地域福祉の基盤整備と開発の事例:地域福祉の計画 18. 地域福祉の基盤整備と開発の事例:ネットワークキング 19. 地域福祉の基盤整備と開発の事例:社会資源の活用・調整・開発 20. 地域福祉の基盤整備と開発の事例:サービスの評価 21. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例:人権尊重 22. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例:権利擁護 23. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例:自立支援 24. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例:地域生活支援 25. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例:エンパワメント 26. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例:ストレngths視点 27. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例:パートナーシップ 28. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例:チームアプローチ 29. 社会福祉専門職の課題 30. ふりかえりとまとめ				
〔成績評価方法〕 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000380C [WH3-014]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000380C [WH3-014]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	川端 麗子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 相談援助職として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により各種事例の検討や実技指導をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に修得することを目指す。 1. 多様な福祉現場における相談援助事例について実践的に理解し考察することができる。 2. 多様な福祉現場における集団援助に必要な専門的な知識と技術について理解する。 3. 地域福祉の実践事例を通して、地域福祉援助に必要な専門的な知識と技術について理解する。 4. 多様な実践事例を通してソーシャルワークの価値や視点を学び、福祉専門職の課題を理解する。				
〔授業概要〕 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。 ・地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用して実技指導を行う。具体的には地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う 相談援助実習後においては、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術を修得することができるような授業を展開する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。				
〔授業計画〕 1. 相談援助実習における実習体験のふりかえり・評価 2. 相談援助実習における援助事例：高齢者施設 3. 相談援助実習における援助事例：身体障がい者施設 4. 相談援助実習における援助事例：知的障がい者施設 5. 相談援助実習における援助事例：児童福祉施設 6. 相談援助実習における援助事例：生活保護施設 7. 相談援助実習における援助事例：福祉事務所 8. 相談援助実習における援助事例：医療機関 9. 集団援助の実際：高齢者施設における集団援助 10. 集団援助の実際：障がい者施設における集団援助 11. 集団援助の実際：児童福祉施設における集団援助 12. 集団援助の実際：セルフヘルプグループへの支援 13. 地域福祉の基盤整備と開発：意義・目的・方法・留意点 14. 地域福祉の基盤整備と開発：プロセスの理解 15. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域住民に対するアウトリーチ 16. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：住民のニーズの把握 17. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域福祉の計画 18. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：ネットワークキング 19. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：社会資源の活用・調整・開発 20. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：サービスの評価 21. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：人権尊重 22. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：権利擁護 23. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：自立支援 24. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：地域生活支援 25. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：エンパワメント 26. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：ストレngths視点 27. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：パートナーシップ 28. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：チームアプローチ 29. 社会福祉専門職の課題 30. ふりかえりとまとめ				
〔成績評価方法〕 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000380D〔WH3-014〕

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	演習	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術			
担当者	川端 麗子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000380D [WH3-014]

科目名	相談援助実習	前期～後期	実習	4 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、小笠原 慶彰、川端 麗子、佐々木 勝一			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 1. 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 2. 社会福祉士として求められる資質・技能・倫理・自己に求められる課題把握等、総合的に体得できる能力を修得する。 3. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。				
〔授業概要〕 1. 実習方法：指定実習同一施設・事業者・機関・団体・病院等において、180時間(23日間)実施 2. 実習時期：前期は6月に10日間、後期は10月に13日間実施 3. 実習先の選定と配属：実習要件を満たす大学指定の施設・事業者・機関・団体・病院等。但し、実習生から希望分野を聴取するとともに、通勤距離・宿泊(夜勤を含む)・必要経費等を総合的に判断して配属する。 4. 実習指導の概要：相談援助実習担当教員は、実習指導者との密接な連携のもとに、実習生が実習指導者から適切な実習指導が受けられるように連絡調整するとともに、巡回訪問指導・電話指導・メール指導・一斉登校日等を通じて実習生の実習状況を把握しながら個別指導を十分行う。 実習施設・機関においては、実習指導者(社会福祉士有資格者でかつ実務経験を経て実習指導者講習を修了した者)が福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるように指導する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 前日までの実習を振り返り、具体的な実習課題を意識しながら、自分の持てる力(相談援助の価値・倫理、知識、技術、及び各領域の専門知識)を最大限に発揮するよう努めること。				
〔授業計画〕 1. 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 2. 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 3. 利用者やその関係者(家族・親戚・友人等)との援助関係の形成 4. 利用者やその関係者(家族・親戚・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価 5. 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 6. 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 7. 施設・事業者・機関・団体・病院等の経営やサービスの管理運営の実践 8. 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体・病院等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解				
〔成績評価方法〕 実習先評価(70%)、実習日誌等の内容(30%)で評価。グループ指導及び個別面談において、実習取り組み状況の評価をフィードバックする。				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000420 [WH3-017]

科目名	相談援助実習	前期～後期	実習	4 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、小笠原 慶彰、川端 麗子、佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習先評価、実習日誌等の内容				
[教科書 (ISBN)] ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習 著者名:監修:日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5127-2) 「相談援助実習ノート」 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000420 [WH3-017]

科目名	相談援助実習指導Ⅰ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	相談援助実習のための事前学習			
担当者	小笠原 慶彰、清水 弥生、植戸 貴子、曾田 里美、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 社会福祉士として求められる知識、技術、倫理について理解する。 2. 技術を修得するための相談援助実習の意義について理解する。 3. 正しく技術を使うための専門職倫理について実践的に理解する。				
〔 授業概要 〕 相談援助実習を履修するための必須授業である。 低所得者福祉分野、児童福祉分野、障害児・者福祉分野、高齢者福祉分野、医療福祉分野等から学外講師を招聘して、社会福祉現場の実状について講義を聞いたり、実際に社会福祉現場を見学したりして、その役割や機能、利用者の特性やニーズ、またそこで働く職員の職種や仕事内容を理解していく。翌年度に相談援助実習を履修するために、自分に何が求められているのか、必要な知識、技術、倫理を明確に把握し、実習に向けて準備を行うための授業である。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 予習(1時間) ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。 ・サービスマーケティング等に参加し社会福祉現場を理解するための準備をしておく。 復習(1時間) ・授業レポート作成を通して授業内容をまとめておく。 ・他の講義等で学んだこととの関連性を整理しておく。				
〔 授業計画 〕 1. 相談援助実習指導の意義 2. 実習分野に関する基本的な理解①低所得者福祉分野A-学外講師 3. 実習分野に関する基本的な理解②低所得者福祉分野B-学外講師 4. 実習分野に関する基本的な理解③児童福祉分野-学外講師 5. 実習分野に関する基本的な理解④高齢者福祉分野-学外講師 6. 実習分野に関する基本的な理解⑤障害児・者福祉分野-学外講師 7. 実習分野に関する基本的な理解⑥医療福祉分野-学外講師 8.社会福祉現場の見学実習-直前オリエンテーション 9.社会福祉現場の見学実習①見学と体験 10. 社会福祉現場の見学実習②現場での質疑応答 11. 3年生による相談援助実習報告会 12. 社会福祉現場の見学実習報告会 13. 相談援助実習を希望するにあたって 14. 個別実習希望調査①希望の確認 15. 個別実習希望調査②個別面談				
〔 成績評価方法 〕 ・合計10回の授業レポート(各10%で計100%)により評価する。各レポートは、S(90点相当)、A(80点相当)、B(70点相当)、C(60点相当)、D(59点以下相当、書き直し)の5段階で評価し、その平均点を成績とする。ただし、Dが複数回あれば原則として不可となる。 ・レポートは、原則として提出した1週間後に添削、評価して返却します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助実習指導Ⅰ	後期	演習	2 単位
サブタイトル	相談援助実習のための事前学習			
担当者	小笠原 慶彰、清水 弥生、植戸 貴子、曾田 里美、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート				
[教科書(ISBN)] ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習 著者名:監修:日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5127-2)				
[参考書(ISBN)] 授業中に指示する。				

P11000390 [WH2-020]

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、小笠原 慶彰、川端 麗子、佐々木 勝一			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 1. 相談援助実習の意義について理解する 2. 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する 3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する 4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する				
[授業概要] 本科目では、相談援助実習のための事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先における介護や保育等の関連業務について学ぶとともに、実習先で必要とされる相談援助の知識と技術についての理解を深め、実習における個人のプライバシー保護と秘密保持についても学ぶ。さらに、実習記録ノートの記録内容及び記録方法について学習する。実習生・実習担当教員・実習指導者の三者協議を踏まえた実習計画書や、実習記録に基づく実習総括レポートを作成する。最後に、相談援助実習を振り返っての評価を行う。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験や指導経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるような授業を展開する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。				
[授業計画] 1. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解① 2. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解② 3. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解③ 4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務・個人情報保護法等の理解① 5. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務・個人情報保護法等の理解② 6. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解① 7. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解② 8. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解③ 9. 実習生・実習担当教員による実習計画書案の検討と作成① 10. 実習生・実習担当教員による実習計画書案の検討と作成② 11. 実習先事前訪問(実習計画書案提示と意見聴取) 12. 実習生・実習担当教員による実習計画書の作成 13. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導 14. 巡回訪問指導 15. 前期実習の課題整理				
[成績評価方法] 授業中及び巡回指導中の課題への取り組み(30%)、授業内の発表内容(30%)、実習計画書等の内容(40%)で評価。課題への取り組み、発表内容、実習計画書等の評価は、その場で、または学期末の個別面談においてフィードバックする。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000400 [WH3-015]

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、小笠原 慶彰、川端 麗子、佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:巡回指導中の課題への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
[教科書 (ISBN)] ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習 著者名:監修:日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5127-2) 「相談援助実習ノート」 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000400 [WH3-015]

科目名	相談援助実習指導Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、小笠原 慶彰、川端 麗子、佐々木 勝一			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 相談援助実習の意義について理解する 2. 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する 3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する 4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する				
〔 授業概要 〕 本科目では、相談援助実習のための事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先における介護や保育等の関連業務について学ぶとともに、実習先で必要とされる相談援助の知識と技術についての理解を深め、実習における個人のプライバシー保護と秘密保持についても学ぶ。さらに、実習記録ノートの記録内容及び記録方法について学習する。実習生・実習担当教員・実習指導者の三者協議を踏まえた実習計画書や、実習記録に基づく実習総括レポートを作成する。最後に、相談援助実習を振り返っての報告会及び評価を行う。 毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験や指導経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるような授業を展開する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。				
〔 授業計画 〕 1. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解① 2. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解② 3. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成① 4. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成② 5. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解① 6. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解② 7. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導① 8. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導② 9. 巡回訪問指導 10. 実習統括報告書作成① 11. 実習統括報告書作成② 12. 実習評価分野別総括会 13. 実習報告会① 14. 実習報告会② 15. 実習評価全体統括会				
〔 成績評価方法 〕 授業中及び巡回指導中の課題への取り組み(30%)、授業内の発表内容(30%)、実習計画書等の内容(40%)で評価。課題への取り組み、発表内容、実習計画書等の評価は、その場で、または学期末の個別面談においてフィードバックする。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助実習指導Ⅲ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子、清水 弥生、曾田 里美、下司 実奈、小笠原 慶彰、川端 麗子、佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:巡回指導中の課題への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中及び巡回指導中の課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容				
[教科書(ISBN)] ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習 著者名:監修:日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5127-2) 「相談援助実習ノート」 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科 出版社:なし				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000410 [WH3-016]

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク原論			
担当者	川端 麗子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①ソーシャルワーカーの役割について理解する。				
②相談援助の概念と範囲について理解する。				
③相談援助の理念について理解する。				
[授業概要]				
ソーシャルワーク実践の体系およびソーシャルワーカーにとって必要な価値・知識・技術について学ぶ。ソーシャルワークの歴史、理念について学ぶとともに、ソーシャルワーク実践の事例を通して、ソーシャルワークにおける基本的視座を持てるようにする。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
各回、予習・復習合わせて4時間程度の学修を行うこと。予習では次回の範囲の教科書を読み、復習では配布のレジュメ内容の理解を深めるようにする。ミニッツペーパーを用いて定期的に理解度をはかるため、予復習の習慣を身に着けること。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. ソーシャルワーク専門職の役割と意義				
3. ソーシャルワークの定義				
4. ソーシャルワークの構成要素				
5. ソーシャルワークの形成過程Ⅰ				
6. ソーシャルワークの形成過程Ⅱ				
7. ソーシャルワークの形成過程Ⅲ				
8. ゲストスピーカー(学外特別講師)				
9. ソーシャルワークの理念(1)				
10. ソーシャルワークの理念(2)				
11. ソーシャルワークの理念(3)				
12. ソーシャルワークの理念(4)				
13. 事例から学ぶソーシャルワーク実践				
14. まとめ(1)				
15. まとめ(2)				
[成績評価方法]				
試験(70%)、ミニッツペーパー・授業参加度(30%)				
ミニッツペーパーは次回授業にてフィードバックし、定期試験は試験終了後に解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000160 [WH1-010]

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク原論			
担当者	川端 麗子			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験

学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験

学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験

[教科書 (ISBN)]

社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の基盤と専門職(第3版)」 著者名:社会福祉養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5102-9)

[参考書 (ISBN)]

「ソーシャルワークとは何か——バisstエックの7原則と社会福祉援助技術」 著者名:武田健,津田耕一 出版社:誠信書房 (978-4-414-60333-0C3036)

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク原論			
担当者	川端 麗子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①相談援助専門職の倫理綱領について理解する。				
②総合的かつ包括的な相談援助の全体像について理解する。				
③相談援助専門職が活躍するさまざまな場とその役割について理解する。				
[授業概要]				
相談援助専門職の倫理について学び、ソーシャルワーカーにとって必要な価値・知識・技術について理解を深める。総合的かつ包括的な相談援助の全体像を学ぶ中で、ソーシャルワーカーがミクロ・メゾ・マクロ領域で担う役割を学ぶ。それらを踏まえて、相談援助職が活躍するさまざまな実践について具体的に学び、自分なりのソーシャルワーカー像を持てるようにする。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
各回、予習・復習合わせて4時間程度の学修を行うこと。予習では次回の範囲の教科書を読み、復習では配布のレジュメ内容の理解を深めるようにする。ミニッツペーパーを用いて定期的に理解度をはかるため、予復習の習慣を身に着けること。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. ソーシャルワークの仕組みと体系				
3. 倫理綱領				
4. 専門職倫理と倫理的ジレンマ				
5. 総合的かつ包括的な相談援助の全体像Ⅰ (地域を基盤としたソーシャルワークⅠ)				
6. 総合的かつ包括的な相談援助の全体像Ⅱ (地域を基盤としたソーシャルワークⅡ)				
7. 総合的かつ包括的な相談援助の全体像Ⅲ (地域を基盤としたソーシャルワークⅢ)				
8. ジェネラリストソーシャルワークⅠ				
9. ジェネラリストソーシャルワークⅡ				
10. 相談援助専門職が活躍するさまざまな場Ⅰ(学外特別講師)				
11. 相談援助専門職が活躍するさまざまな場Ⅱ				
12. 相談援助専門職が活躍するさまざまな場Ⅲ				
13. 諸外国におけるソーシャルワークの動向				
14. まとめⅠ				
15. まとめⅡ				
[成績評価方法]				
試験(70%)、ミニッツペーパー・授業参加度(30%)				
ミニッツペーパーは次回授業にてフィードバックし、定期試験は試験終了後に解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク原論			
担当者	川端 麗子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
[教科書 (ISBN)] 社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の基盤と専門職(第3版)」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5102-9)				
[参考書 (ISBN)] 地域福祉援助をつかむ 著者名:岩間伸之・原田正樹 出版社:有斐閣 (978-4-641-17714-7)				

P11000170 [WH1-011]

科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ			
担当者	川端 麗子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] ソーシャルワーカーにとって必要な相談援助の理論と方法について学ぶ。様々な実践モデルとアプローチについて理解し活用できるようになる。事例を読み、どのようなアプローチが援用可能なのか考えることで実践的な学びを身につける。				
[授業概要] ソーシャルワーク理論の体系、及びソーシャルワークのアプローチの系譜を学んだ上で、ソーシャルワーカーが実践で用いるアプローチについて学ぶ。ミクロ領域としてはアプローチを学び、メゾ・マクロ領域としては、ジェネラリスト・ソーシャルワークを学ぶ。アプローチの学習プロセスは「1. 全体像を捉える2. 概念を深く学ぶ3. 事例から実践を考える4. 実践へのアドバイス」の4段階を経る。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習・復習合わせて4時間程度の学修を行うこと。予習では次回の範囲の教科書を読み、復習では配布のレジュメ内容の理解を深めるようにする。ミニッツペーパーを用いて定期的に理解度をはかるため、予復習の習慣を身につけること。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. ソーシャルワーク理論の体系、アプローチの系譜 3. ジェネラリストソーシャルワーク 4. クライアント中心理論・アプローチ 5. エコロジカル理論・アプローチ 6. 行動理論・アプローチ 7. 認知理論・アプローチ 8. 危機介入理論・アプローチ 9. 問題解決理論・アプローチ 10. 課題中心理論・アプローチ 11. エンパワメント理論・アプローチ 12. システム(家族療法)理論・アプローチ 13. ナラティブ理論・アプローチ 14. まとめ1 15. まとめ2				
[成績評価方法] 試験(70%)、ミニッツペーパー・授業参加度(30%) ミニッツペーパーは次回授業にてフィードバックし、定期試験は試験終了後に解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ			
担当者	川端 麗子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:ミニッツペーパー、定期試験				
[教科書 (ISBN)] 「ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ」 著者名:川村隆彦 出版社:中央法規 (978-4-8058-3428-2)				
[参考書 (ISBN)] 社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規 (978-4-8058-5104-3)				

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助の理論と方法Ⅰ」で学んだことを踏まえて、相談援助に関する理論と方法の理解を深め、本科目で修得したことを、「相談援助演習Ⅱ・Ⅲ」及び「相談援助実習」の科目で実践的に応用できるようになることを目指す。				
[授業概要] 1. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス等利用計画についての理解を含む)。 2. 相談援助の過程、援助関係、面接技術について理解する。 3. ケースマネジメントとケアマネジメント、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発、ネットワーク(相談援助における多職種・多機関との連携の意義と内容を含む)について理解する。 毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、相談援助実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。				
[授業計画] 1. 相談援助の過程: 受理面接(インテーク) 2. 相談援助の過程: 事前評価(アセスメント) 3. 相談援助の過程: 支援の計画(プランニング) 4. 相談援助の過程: 支援の実施(インターベンション) 5. 相談援助の過程: 経過観察(モニタリング)と評価(エバリュエーション) 6. 相談援助の過程: 支援の終結(ターミネーション)と効果測定及びアフターケア 7. 相談援助における援助関係: 援助関係の意義と概念 8. 相談援助における援助関係: 援助関係の形成方法 9. 相談援助のための面接技法: 意義・目的・方法・留意点 10. ケースマネジメントとケアマネジメント: 意義・目的・方法・留意点 11. アウトリーチ: 意義・目的・方法・留意点 12. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発: 意義・目的・方法・留意点 13. ネットワーキング: 意義・目的・方法・留意点 14. ネットワーキング: 家族や近隣その他の者とのネットワーク、サービス提供者間のネットワークなど 15. ネットワーキング: ケア会議の意義と留意点、及びまとめ				
[成績評価方法] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業でフィードバックする。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:小テスト、試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 新・社会福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版 2015年 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5103-6)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000280 [WH2-016]

科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを踏まえて、相談援助に関する理論と方法の理解を深めることを目指す。 [授業概要] 1. 集団を活用した相談援助について理解する。 2. 相談援助におけるスーパービジョンについて理解する。 3. 相談援助における記録について理解する。 4. 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点を理解する。 5. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用について理解する。 6. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、相談援助実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。 [授業計画] 1. 集団を活用した相談援助:意義・目的・方法・留意点 2. 集団を活用した相談援助:集団及びグループダイナミックスの理解 3. 集団を活用した相談援助:グループワークの価値・倫理・実践原則 4. 集団を活用した相談援助:グループワーカーの機能と役割 5. 集団を活用した相談援助:グループワークのプロセス(ⅰ) 6. 集団を活用した相談援助:グループワークのプロセス(ⅱ) 7. 集団を活用した相談援助:自助グループ・SST・回想法など 8. 相談援助におけるスーパービジョン:意義・目的・方法・留意点 9. 相談援助における記録:意義・目的・方法・留意点 10. 相談援助と個人情報:個人情報の保護の意義と留意点及び個人情報保護法の運用 11. 相談援助における情報通信技術(IT):IT活用の意義と留意点及びITを活用した支援の概要 12. 相談援助における事例分析:事例分析の意義・目的・方法・留意点 13. 相談援助における事例分析:事例分析の実際(ⅰ) 14. 相談援助における事例分析:事例分析の実際(ⅱ) 15. まとめ [成績評価方法] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:小テスト、試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 新・社会福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 2015年 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5104-3)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000290 [WH4-002]

科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを踏まえて、相談援助に関する理論と方法の理解を深め、本科目で修得したことを実践的に応用できるようになることを目指す。 [授業概要] 1. 相談援助の意義と援助原則について理解する。 2. 相談援助事例を通して社会的排除、虐待・暴力、ホームレスなどの課題と解決法について考察する。 3. 相談援助事例を通して集団に対する相談援助について理解する。 4. 医療・教育・就労・司法における相談援助について理解する。 5. 相談援助における権利擁護について理解する。 毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、相談援助実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学習を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。 [授業計画] 1. 相談援助の意義と援助原則 2. 相談援助事例:社会的排除(障害者・高齢者など) 3. 相談援助事例:社会的排除(低所得者・ひとり親家庭など) 4. 相談援助事例:社会的排除(外国人など) 5. 相談援助事例:虐待(児童) 6. 相談援助事例:虐待(高齢者) 7. 相談援助事例:家庭内暴力(DV) 8. 相談援助事例:ホームレス 9. 相談援助事例:危機介入 10. 相談援助事例:集団に対する相談援助 11. 相談援助事例:医療における相談援助 12. 相談援助事例:教育における相談援助 13. 相談援助事例:就労における相談援助 14. 相談援助事例:司法における相談援助 15. 相談援助事例:権利擁護活動(成年後見制度など) [成績評価方法] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:小テスト、試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書 (ISBN)]				
新・社会福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 2015年 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5104-3)				
[参考書 (ISBN)]				
なし				

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	ソーシャルワークにおけるエンパワメント			
担当者	植戸 貴子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 3回生の「社会福祉演習Ⅱ」において修得した各自の問題意識を卒業論文として完成させる。 2. 各自の研究テーマを授業内で分かち合い、意見交換することを通して、他の学生の研究テーマについても問題意識を持ち、知識を深めるとともに、多面的・総合的な考察力を培う。 3. 卒業論文作成のための現地調査及び文献研究、資料の分析、執筆の方法などを、グループ指導及び個別指導を通して学ぶ。 4. 教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する自分の考えを深め、視野を広げる。 〔 授業概要 〕 教員によるグループ指導及び個別指導とする。 毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、ソーシャルワーカーに求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、社会福祉に関する自分の問題意識を明確に持ち、日常的にそれを探究するための自己学習を行うとともに、読解力・文章構成力の向上に努めること。 〔 授業計画 〕 【前期】 1. オリエンテーション 2. 卒業論文のテーマ設定に関する指導 3. 卒業論文の作成プロセスに関する指導 4. 論文のスタイルに関する指導 5. 卒業論文の執筆要領に関する指導 6. 文献の探し方に関する指導 7. 統計資料の読み方に関する指導 8. アンケート調査に関する指導 9. 聞き取り調査に関する指導 10. 卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導 11. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導① 12. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導② 13. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導③ 14. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導④ 15. 各自の卒業論文作成作業に関する指導 【後期】 1. オリエンテーション 2. 各自の卒業論文作成の指導① 3. 各自の卒業論文作成の指導② 4. 各自の卒業論文作成の指導③ 5. 各自の卒業論文作成の指導④ 6. 各自の卒業論文作成の指導⑤ 7. 各自の卒業論文作成の指導⑥ 8. 各自の卒業論文作成の指導⑦ 9. 各自の卒業論文作成の指導⑧ 10. 卒業論文発表会の発表資料作成に関する指導 11. 卒業論文発表会の発表資料作成の指導① 12. 卒業論文発表会の発表資料作成の指導② 13. 卒業論文発表会の準備に関する指導 14. 卒業論文発表会① 15. 卒業論文発表会② 〔 成績評価方法 〕 卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。卒業論文作成に向けた取り組みの評価は、その場で、または翌週の授業でフィードバックする。卒業論文の内容についての評価は、個別指導においてフィードバックする。卒業論文の発表の評価は、卒論発表会の場でフィードバックする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030 [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	ソーシャルワークにおけるエンパワメント			
担当者	植戸 貴子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文の内容と発表 学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み、卒業論文の内容・発表 学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文の内容・発表 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み、卒業論文の内容・発表 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み、卒業論文の内容・発表 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文の内容・発表 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文の内容 [教科書 (ISBN)] 授業の中で資料を配付 [参考書 (ISBN)] なし				

P11000030 [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1.社会福祉演習Ⅱにおいて修得した知識や問題を研究とし、卒業論文を執筆できる。				
2.研究内容を発表し、討論することで自己の課題に気づき客観的に捉え、論理的な思考過程を身につけることができる。				
[授業概要]				
各自の研究課題に基づき卒業論文を執筆する。そのために、研究テーマを決め、研究計画書を作成する。文献や資料の収集をし、調査、分析をしていく。論文の構成、論文執筆について、個別・集団で指導を受ける。また、論文の進捗状況や、内容をレジュメにまとめ報告する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
日頃から、卒業論文のテーマに関する情報を意識的に収集しておく。				
卒論の執筆を2時間程度おこなう。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. 卒業論文のテーマ設定について				
3. 卒業論文作成のプロセスについて				
4. 文献、資料検索の方法と指導				
5. 統計資料の読み方について				
6. 調査方法について				
7. 研究計画について				
8. 研究計画の作成				
9. 論文の構成について				
10. 研究活動の発表とディスカッション①				
11. 研究活動の発表とディスカッション②				
12. 研究活動の発表とディスカッション③				
13. 研究活動の発表とディスカッション④				
14. 研究活動の発表とディスカッション⑤				
15. 前期のまとめ				
16. 論文作成の中間発表①				
17. 論文作成の中間発表②				
18. 論文作成の中間発表③				
19. 論文作成の中間発表④				
20. 各自の卒業論文作成の指導①				
21. 各自の卒業論文作成の指導②				
22. 各自の卒業論文作成の指導③				
23. 各自の卒業論文作成の指導④				
24. 論文要旨の作成①				
25. 論文要旨の作成②				
26. 卒業論文発表会の準備①				
27. 卒業論文発表会の準備②				
28. 卒業論文発表会①				
29. 卒業論文発表会②				
30. 全体のまとめ				
[成績評価方法]				
卒業論文に関する取り組み・発表(40%)、卒業論文(60%)				
提出した課題については、添削しコメントを書いて返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030A [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 卒業論文に関する取り組み・発表、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法: 卒業論文に関する取り組み・発表、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、卒業論文 授業中の発言				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、卒業論文 授業中の発言				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、卒業論文 授業中の発言				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、授業中の発言				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、発言				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、発言				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、発言				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、発言、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、発言、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、発言、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文に関する取り組み・発表、発言、卒業論文				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000030A [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	下司 実奈			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 深めたいテーマについて過去の経験と学習した内容を踏まえ、新たな情報収集を行い、分析・考察して4年間の集大成とする。				
[授業概要] 1. 研究テーマの決定 2. 先行文献検索 3. 調査・観察・記録等資料収集 4. 論文執筆				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各自のテーマに基づいて資料を集め読む。				
[授業計画] 1. 研究テーマの決定 2. 研究テーマの決定 3. 研究テーマの決定 4. 研究テーマの決定 5. 先行文献検索 6. 先行文献検索 7. 先行文献検索 8. 先行文献検索 9. 調査・観察・記録等資料収集 10. 調査・観察・記録等資料収集 11. 調査・観察・記録等資料収集 12. 論文執筆 13. 論文執筆 14. 論文執筆 15. 論文執筆 16. 論文執筆 17. 論文執筆 18. 考察 19. 考察 20. 考察 21. 考察 22. 考察 23. 論文完成 24. 振り返り 25. 資料整理 26. 発表会資料作成 27. 発表会資料作成 28. リハーサル 29. 反省 30. まとめ				
[成績評価方法] 受講態度(30%) 論文(70%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030B [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	下司 実奈			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:卒業論文				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文				
[教科書(ISBN)]				
なし				
[参考書(ISBN)]				
なし				

P11000030B [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	曾田 里美			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 各自のテーマで調査研究し、論文にまとめ、期限内に提出する。作成途中で研究内容について発表することを通してプレゼンテーション能力を高める。また、他のメンバーの研究内容についてもディスカッション等を通して考察を深める。 [授業概要] 3回生の「社会福祉演習Ⅱ」での学習内容に基づいて、各自が問題意識をもったテーマについて卒業論文を作成する。各自が研究内容についてレジメを作成して発表し、メンバー間でディスカッションを行う。その過程のなかで、お互いのテーマを通して、子どもをとりまくさまざまな問題についてその実情や援助のあり方を一緒に考えていく。また、授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携などのあり方など担当教員が児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていく。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回について予習・復習2時間程度 日頃から授業や自身の研究テーマに関するニュース等に関心をもつこと。 [授業計画] <前期> 1. 卒業論文を書くために 2. テーマの発表 3. テーマの発表 4. 研究計画書の作成 5. 研究計画書の発表 6. 研究計画書の発表 7. 研究計画書の発表 8. 文献検索、資料収集 9. 文献検索、資料収集 10. 研究活動の報告・発表 11. 研究活動の報告・発表 12. 研究活動の報告・発表 13. 卒業論文の書き方 14. 卒業論文の書き方 15. 夏休みの課題の確認 <後期> 16. 論文作成の中間発表 17. 論文作成の中間発表 18. 論文作成の中間発表 19. 論文作成の中間発表 20. 各自の論文の考察 21. 各自の論文の考察 22. 各自の論文の考察 23. 各自の論文の考察 24. 論文の要旨作成 25. 論文の要旨作成 26. 卒業論文発表会の準備 27. 卒業論文発表会の準備 28. 卒業論文発表会 29. 卒業論文発表会 30. まとめ [成績評価方法] 卒業論文への取り組みと姿勢(20%)、卒業論文の内容(60%)、ゼミや発表会でのプレゼンテーション(20%)により評価する。卒業論文は1章ごとに提出し、後日添削して返却する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030D [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文				
[教科書（ISBN）] なし				
[参考書（ISBN）] なし				

P11000030D [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	社会福祉分野の基準に則った卒業論文の執筆			
担当者	泉 妙子			
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 1.社会福祉演習Ⅱで学んだ指導概念を整理する。 2.各自興味のある分野において問題を絞り込むことができる。 3.文献研究から、問題提起・研究目的・研究方法等研究内容及び研究手法について理解を深める。 4.社会福祉分野の基準に則った卒業論文が執筆できる。 [授業概要] 1)文献研究や調査・研究を通して研究テーマを決める。 2)自ら、問題を提起し、調査・研究を通して結論をまとめる方法を習得する。 3)論文の章節構成を考え、論理的な文章を用いて卒業論文を作成する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 1)興味ある分野の文献や論文を読んでおく。 2)関心を持った分野の新聞記事や資料を整理しファイリングしておく。 各回、4時間程度・文献の検索・資料準備にあてる。 [授業計画] 1.卒業論文オリエンテーション 2.論文作成の目的と意義 3.文献検索の方法 4.先行文献研究① 5.先行文献研究② 6.卒業論文テーマの決定 7.研究計画書作成 8.研究計画書作成 9.引用文献・参考文献の活用の仕方 10.統計学 調査の活用方法と分析 11.研究と倫理 12.論文の章節構成と論旨展開の仕方 13.論理的な文章を作成する力 14.先行文献研究③ 15.研究計画の修正・点検 16.中間発表 17.序論と問題提起 18.論文の展開 19.テーマ別卒業論文指導 20.テーマ別卒業論文指導 21.テーマ別卒業論文指導 22.テーマ別卒業論文指導 23.テーマ別卒業論文指導 24.卒業論文完成 25.論文要旨の作成 26.論文修正 27.卒業論文発表準備 28.卒業論文発表 29.卒業論文発表 30.まとめ [成績評価方法] 卒業論文70% 卒業論文発表30% [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030E [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	社会福祉分野の基準に則った卒業論文の執筆			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:1) 様々なアプローチ・リサーチによる論文作成のために資料内容(引用文献・参考文献)2) 完成した論文をもとに発表資料を作成し、卒業論文発表会に参加する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文・卒業論文発表				
[教科書 (ISBN)] 適宜資料				
[参考書 (ISBN)] 自分が“自分”になるということ 著者名:諸富祥彦 出版社:星雲社 (8-4-7952-2365-3)				

P11000030E [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 各自の問題意識を卒業論文として完成させる。 2. 「社会福祉演習Ⅱ」において習得した文献収集、資料の分析、考察方法、まとめ方を用いて論文を執筆する。 3. 教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する各自の考えを深め、視野を広げる。 〔 授業概要 〕 社会福祉・精神保健福祉・医療福祉の領域における生活支援や相談援助をテーマとする。各自の問題意識に沿って関連する情報を読解し、テーマを明確化する。そこからさらに関連文献や資料などを読み解き、課題を掘り深め考察する。必要に応じて調査を行い分析する。ゼミ内で発表や討論を行うことによって相互に学びを深める。 行政機関の精神保健福祉分野で働いた経験があり、複数の行政機関の審議会委員やNPO法人理事など務めている教員が実践に基づいた助言指導を行う。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 日頃から自分及び他者のテーマに関心を持ち、感受性を高めるために文献、ニュース等に触れておく。卒業論文作成までのスケジュール調整を自立的に行う。各回について予習復習2時間程度。 〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. テーマの設定について 3. 卒業論文の作成プロセスとタイムスケジュールの確認 4. 論文のスタイル 5. 文献の探し方・入手方法 6. 卒業論文のテーマと研究計画書作成 7. 卒業論文のテーマと研究計画書発表① 8. 卒業論文のテーマと研究計画書発表② 9. 卒業論文のテーマと研究計画書発表③ 10. 先行研究個別指導① 11. 先行研究個別指導② 12. 先行研究個別指導③ 13. 先行研究発表と討論① 14. 先行研究発表と討論② 15. 先行研究発表と討論③ 16. オリエンテーション 17. 進捗状況発表と討論① 18. 進捗状況発表と討論② 19. 進捗状況発表と討論③ 20. 進捗状況発表と討論④ 21. 進捗状況発表と討論⑤ 22. 個別指導及び集団指導① 23. 個別指導及び集団指導② 24. 個別指導及び集団指導③ 25. 個別指導及び集団指導④ 26. 卒業論文発表会準備① 27. 卒業論文発表会準備② 28. 卒業論文発表会準備③ 29. 卒業論文発表会① 30. 卒業論文発表会② 〔 成績評価方法 〕 授業中の課題への取り組み(20%)、発表内容(15%)、討論への参加状況(15%)、論文内容(50%)で総合的に評価する。 その都度、個別にフィードバックを行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030H [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	眞野 典子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題への取り組み、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題への取り組み、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:発表内容、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:発表内容、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:発表内容、ディスカッション、論文内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:発表内容、ディスカッション、論文内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容、ディスカッション、論文内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容、論文内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容、論文内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容・論文内容				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000030H [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	社会政策と社会福祉			
担当者	清水 弥生			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 社会福祉演習Ⅱで習得した知識、問題を調べ学習、思考を深める力を発展させ、卒業論文を完成させる。 ゼミ生個人の研究内容をゼミで発表し、討論することによって、自分の研究課題を客観的に捉え、幅広い視野をもち科学的論理的に議論する力を身につける。				
〔 授業概要 〕 3年生の社会福祉演習Ⅱで明確化された各自の研究課題について 1. 文献・資料を検索、収集、もしくは調査、分析する中で、いくつかの課題を設定する。 2. 研究計画、研究方法等について助言・指導を受ける。 3. それらの課題について調べ、考察した結果をゼミで発表し、討論していく。 4. 論文構成、論文執筆の方法等について助言・指導を受ける。 5. その結果を卒業論文として完成させる。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 日常的な読書習慣をつけておく。前年の社会福祉演習で絞ったテーマについて、幅広く文献を読み込み、研究対象について調べておく。各回、2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 卒業論文のテーマ設定について 3. 論文執筆の方法について 4. 文献・資料検索の方法と指導 5. 定性的調査・定量的調査について 6. 研究計画について指導① 7. 研究計画について指導② 8. 論文構成について① 9. 論文構成について② 10. 中間発表とディスカッション① 11. 中間発表とディスカッション② 12. 中間発表とディスカッション③ 13. 中間発表とディスカッション④ 14. 中間発表とディスカッション⑤ 15. 前期のまとめ 16. 研究・執筆活動の確認① 17. 研究・執筆活動の確認② 18. 卒業論文提出に向けての指導① 19. 卒業論文提出に向けての指導② 20. 卒業論文提出に向けての指導③ 21. 卒業論文提出に向けての指導④ 22. 卒業論文提出に向けての指導⑤ 23. 卒業論文提出に向けての指導⑥ 24. 卒業論文提出に向けての指導⑦ 25. 卒業論文提出前最終確認 26. 卒業論文発表会の準備①レジュメ作成 27. 卒業論文発表会の準備②予備練習 28. 卒業論文発表会① 29. 卒業論文発表会② 30. 1年間のまとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業中の課題への取り組み(50%)、卒業論文(50%) ・論文を評価して返却します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030J [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	社会政策と社会福祉			
担当者	清水 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:論文 学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:論文 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題、論文 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題、論文 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし				

P11000030J [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	卒業研究			
担当者	津田 理恵子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 社会福祉演習Ⅱで深めた知識をもとに、各自の深めたいテーマで卒業研究に取り組み、論文にまとめ4年間の集大成として提出期限内に卒業論文を完成させる。 卒業論文発表に向けて、プレゼンテーション能力を身につける。 〔 授業概要 〕 回想法を活用した研究に取り組み、ケアマネージャーや看護師として病院や介護保険事業所で勤務したことがある教員が、現場での経験を踏まえ、社会福祉全般において学生が興味を抱いたテーマに沿った卒業研究に取り組むことを指導します。 卒業論文に取り組む過程において、ゼミ内で自らの研究課題について発表し、意見交換を通して研究内容を深め、研究テーマに関する文献検索をしポイントを整理し、研究方法(調査・実践・文献など)を決定し、それぞれが決定した方法にそって卒業研究に取り組みます。 その過程において、論文執筆の助言・指導や、卒業論文発表に向けた準備を指導します。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 社会福祉を取り巻く課題に興味を持ち、興味がある文献を読むなど、各回において2時間は卒業研究にむけた予習・復習に取り組むこと。 〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 卒業論文の進め方 3. 研究方法について 4. 卒業論文テーマの設定 5. 研究計画書の作成 6. 文献検索 7. 資料の検索 8. 文献・資料の整理 9. 研究活動 10. 研究活動・文献リスト作成 11. 研究活動・文献ファイル作成 12. 研究活動・章立て 13. 研究活動・序論作成 14. 研究活動・グループディスカッション 15. 夏休みの課題の確認 16. 卒業論文作成・本文作成 17. 卒業論文作成・文献リスト 18. 中間発表 19. ディスカッション 20. 卒業論文作成・目次 21. 卒業論文作成・表紙 22. パワーポイント作成 23. 資料作成 24. 論文要旨作成 25. 卒業論文発表会の準備 26. 発表抄録作成 27. 発表原稿作成 28. 発表練習 29. 卒業論文発表会 30. グループワーク 〔 成績評価方法 〕 卒業論文の内容(30%)、プレゼンテーション(30%)、授業参加度(40%) 個別にコメントを返したり、面談を適宜実施する。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030K [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	卒業研究			
担当者	津田 理恵子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:プレゼンテーション				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業参加度				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業参加度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文				
[教科書 (ISBN)] 適宜資料配布				
[参考書 (ISBN)] 適宜資料配布				

P11000030K [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	研究			
担当者	横山 正子			
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 卒業論文を作成する。 研究方法、論文の書き方が分かる。 3回生の「社会福祉演習Ⅱ」において取り上げた社会福祉の課題のなかまたはその他で、特に関心がある事象から研究課題を発見する。 文献検索、情報分析、考察、論文のまとめを指導を受けながら行い、卒業論文を完成させる。 論文を発表し、評価を受ける。 [授業概要] 研究目的にあわせて研究計画を立て、目標を定めて計画的に研究を進める。論文のテーマとしてあげた課題について、途中経過を報告し、意見交換や指導を受けながら、考察を深めて、その明らかになった研究成果の独自性や新規性を論文として完成させる。また発表のための指導を受ける。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日常的に社会福祉に関するできごとを、書籍、新聞、雑誌、ニュースなどに関心をもって読み込み、それらについて自分なりの考えを明確にする習慣を身につけておく。課題に対する先行研究にできるだけ多く触れ、知識を広め、論理的思考力、読解力、文章力をつけておく。これらの予習復習を2時間程度行う。 [授業計画] 1. オリエンテーション 2. テーマ設定について 3. 論文の論理的展開について 4. 調査研究、文献研究などの説明 5. 統計について 6. 研究倫理について 7. 研究計画作成 8. 文献の探し方復習 9. 文献検索 10. テーマの絞り方 11. 絞ったテーマの文献のまとめ方 12. 論文の構成 13. 論文の作成 14. 論文の作成 15. 論文のゼミ内での中間発表 16. 意見交換 17. 個別指導で論文の進め方確認 18. 論文の完成に向けて 19. 論文の完成に向けて 20. 論文の完成に向けて 21. 抄録の書き方 22. 抄録作成 23. 発表原稿の書き方 24. 発表の仕方 25. 発表ツールの作り方 26. 予発表ツールの作成 27. 予行 28. 修正 29. 発表会 30. まとめ [成績評価方法] 卒業論文に向けた取り組み(30%)卒業論文の内容(50%)発表(20%) 発表は評価してフィードバックします。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030L [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	研究			
担当者	横山 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:論文作成の取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒論作成の取り組み				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000030L [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	地域社会福祉史にみる女性の役割			
担当者	小笠原 慶彰			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 社会福祉専門職、あるいは社会福祉に関心ある市民として、それも特に女性としての立場から、社会福祉実践に対して果たすことのできる役割を考察できるようにする。その際に歴史的事実に着目し、そこから現在の実践にも有用な価値や倫理を見出すとともに自己のものにできることを目標とする。				
[授業概要] 歴史的成体である福祉政策・実践を、特に近代以降の日本を中心としてその歴史的展開を通して考えるため演習を行う。近代以降の社会福祉の展開は、慈善救済、相互扶助を基盤とする制度、実践から、感化救済、社会事業を経て、現代的な社会福祉の体系へと展開してきた。まずそれらの過程について、人物、特に女性を取り上げて、その人物の果たした役割を知る。さらに本学の存在する神戸を初めとする特定の地域に着目して、その社会福祉の歴史的形成に女性の果たした役割を見出す。それによって、女性が地域福祉の推進にどのように寄与できるかを考察する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 予習(1時間) ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。 ・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。 復習(1時間) ・板書をしないので授業内容をまとめておく。 ・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。				
[授業計画] [前期] 1. 前期オリエンテーション 2. 卒論の構成を見直そう①-論文の構成 3. 卒論の構成を見直そう②-論文の順序 4. 論文の作法①-注の付け方 5. 論文の作法②-引用の方法 6. 論文の作法③-文献表 7. 論文の作法④-インターネットの利用法 8. 論文の作法⑤-文章の推敲はどうか 9. 卒論の中間発表会①-制度史 10. 卒論の中間発表会②-人物史 11. 卒論の中間発表会③-実践史 12. 卒論の中間発表会④-地域史 13. 卒論の中間発表会⑤-思想史 14. 卒業論文の仕上げに向けて(卒業した先輩の意見を聞く) 15. 前期のふりかえり、または学外学習 [後期] 16. 後期オリエンテーション 17. 卒論の構成を確定しよう①-論文の構成 18. 卒論の構成を確定しよう②-論文の順序 19. 論文の作法①-注の付け方の最終確認 20. 論文の作法②-引用の方法の最終確認 21. 論文の作法③-文献表の最終確認 22. 論文の作法④-インターネットの利用法の最終確認 23. 論文の作法⑤-文章の推敲(最終仕上げ) 24. 卒論予備発表会①-制度史 25. 卒論予備発表会②-人物史 26. 卒論予備発表会③-実践史 27. 卒論予備発表会④-地域史 28. 卒論予備発表会⑤-思想史 29. 卒業論文の公開発表会 30. 後期のふりかえり				
[成績評価方法] 卒業論文の内容60パーセント、最終発表会の内容30パーセント、前期・後期に各1回のミニ・レポート各5パーセントの配分で評価する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030M [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	地域社会福祉史にみる女性の役割			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒論内容の評価				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒論内容の評価				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒論内容の評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:卒論内容の評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒論内容の評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒論内容の評価				
[教科書 (ISBN)] なし(プリント配布)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000030M [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	川端 麗子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 社会福祉演習Ⅱで作成した卒業論文のフレームワークを用いて論文を完成させる。論文作成過程では、ゼミメンバーによるディスカッションを経て、内容を精査させていく。論文では、フィールド調査による成果のまとめなどを踏まえて実践のあり方を提言する。 〔 授業概要 〕 「社会福祉演習Ⅱ」で取り組んだ内容に基づいて卒業論文を作成する。ゼミのメンバーそれぞれが論文設計についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。 ディスカッションでは「1. フィールド調査で得たオリジナルデータの活用2. リサーチクエスションにどのように迫ることができるか」に重きをおく。また、担当教員の知見を踏まえ、ゼミメンバーの共通テーマである「多文化共生」概念について議論を深める。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習・復習合わせて2時間程度の学修を行う。 日頃から研究テーマの社会的背景に関心を持ち、知見の収集に努めること。 〔 授業計画 〕 - オリエンテーション - フィールド調査の報告 - フィールド調査の報告 - フィールド調査の報告 - フィールド調査の報告 - アウトラインの発表 - アウトラインの発表 - 追加資料収集、フォローアップ調査 - 追加資料収集、フォローアップ調査 - 追加資料収集、フォローアップ調査 - 中間発表とディスカッション - 中間発表とディスカッション - 中間発表とディスカッション - 中間発表とディスカッション - 前期のまとめ - リサーチクエスションに対する答えの検証 - リサーチクエスションに対する答えの検証 - リサーチクエスションに対する答えの検証 - リサーチクエスションに対する答えの検証 - 卒業論文提出に向けての指導 - 卒業論文提出に向けての指導 - 卒業論文提出に向けての指導 - 卒業論文提出に向けての指導 - 卒業論文提出に向けての指導 - 卒業論文提出最終確認 - 卒業論文発表会の準備 - 卒業論文発表会の準備 - 卒業論文発表会 - 卒業論文発表会 - まとめ 〔 成績評価方法 〕 プレゼンテーションとディスカッション(50%)、卒業論文の内容(50%) プレゼンテーションとディスカッションに関してはその授業内にフィードバックする。卒業論文は定期的に添削する。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030N [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	川端 麗子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、フィールド調査、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000030N [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	自らの社会福祉的関心事について、探求、検証、推測を行い、文章としてまとめあげます。			
担当者	佐々木 勝一			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] これまで学んだこと、実習やボランティアで感じたこと、社会で起きている事象に対して、社会福祉的な視点から分析し考察してまとめます。				
[授業概要] 個別指導を主として、定期的に発表会を行い、研究の成果をゼミのメンバーで確認します。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 参考文献やインターネットの活用などから、自分の関心事について資料収集と文章にまとめることを行ってください。				
[授業計画] 1.オリエンテーション 2.各自の関心を持っている事象の発表と資料収集方法の確認 3.論文作成のルール説明 4.書き出しの確認 5.第一回中間発表、質疑応答 6.論文作成指導 7.論文作成指導 8.論文作成指導 9.論文作成指導 10.第二回中間発表、質疑応答 11.論文作成指導 12.論文作成指導 13.論文作成指導 14.論文作成指導 15.前期のまとめ 16.後期のスケジュール確認 17.論文作成指導 18.論文作成指導 19.論文作成指導 20.第三回中間発表、質疑応答 21.論文作成指導 22.論文作成指導 23.論文作成指導 24.論文作成指導 25.第四回中間発表、質疑応答 26.論文作成指導 27.論文作成指導 28.論文作成指導 29.論文作成指導 30.最終発表会				
[成績評価方法] 論文内容60%、発表状況40%、特に積極的に自らの探求する姿勢を評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000030P [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル	自らの社会福祉的関心事について、探求、検証、推測を行い、文章としてまとめあげます。			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:卒業論文内容、発表への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:論文内容				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:論文内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:論文内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:論文内容				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 適時、指示します。				

P11000030P [WH4-001]

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	新しい福祉としての地域福祉			
担当者	小笠原 慶彰			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 新しい福祉としての地域福祉について、①その基本的考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む)に、②地域福祉の主体と対象、③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際地域、④福祉におけるネットワーキング(多職種・多機関との連携を含む)の意義と方法及びその実際について理解することを目標とする。				
[授業概要] 新しい福祉としての地域福祉という観点から、地域福祉の主体形成、地域自立生活支援と地域福祉、コミュニティ型組織とアソシエーション型組織等の基本概念について概説し、地域福祉と福祉教育、福祉教育の概念と内容についても言及する。さらに地方分権と地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人・特定非営利活動法人、民生委員・児童委員の役割、コミュニティ・ソーシャルワークの考え方、コミュニティ・ソーシャルワークの方法、チームアプローチ、専門職と住民の役割を理解できるように講義する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 予習(2時間) ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。 ・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。 復習(2時間) ・板書をしないので授業内容をまとめておく。 ・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 地域福祉の実際 3. 地域福祉の理念 4. 地域福祉の概念 5. 地域福祉における参加の意義 6. 地域福祉における積極的接近の意義 7. 地域福祉の基盤整備と地域福祉の歴史 8. 社会福祉の再編と地域福祉 9. これからの地域福祉のあり方 10. 地域福祉の主体 11. ボランティア活動と福祉教育 12. 地域福祉に係る組織・団体の役割①-自治体・社会福祉協議会・社会福祉法人 13. 地域福祉に係る組織・団体の役割②-共同募金・民生児童委員 14. 地域福祉に係る組織・団体の役割③-NPO法人・COOP・JA 15. 総まとめ				
[成績評価方法] ・授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式(正誤式または択一式)で実施する。 ・試験は、小試験、最終試験とも終了後に解答を解説し、採点后直ちに返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅰ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	新しい福祉としての地域福祉			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 地域福祉論-地域福祉の理論と方法 著者名:社会福祉学習叢書編集委員会 出版社:全国社会福祉協議会 (不明)				
[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する。				

P11000120 [WH2-005]

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	システムとしての地域福祉			
担当者	小笠原 慶彰			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] システムとしての地域福祉という観点から、①システムにおけるネットワーキング(多職種・多機関との連携を含む)の意義と方法及びその実際、②地域福祉の推進方法(ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む)について理解することを目標とする。				
[授業概要] システムとしての地域福祉を理解するために住民参加の意義、市町村行政への住民参加、ソーシャルサポートネットワーク、ソーシャルサポートとコミュニティー・ソーシャルワーク、社会資源の活用、福祉サービス開発について講義する。続いて具体的な方法として、アウトリーチ、トータルケアシステムについて概説し、ソーシャルケア従事者の研修と組織化、福祉サービスの評価、福祉サービスプログラムの評価について理解できるように講義し、イギリスやアメリカからの日本の地域福祉への影響にも言及する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 予習(2時間) ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。 ・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。 復習(2時間) ・板書をしないので授業内容をまとめておく。 ・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 地域福祉の方法①-コミュニティワーク 3. 地域福祉の方法②-ケアマネジメント 4. 地域診断 5. 福祉ニーズの把握 6. 地域福祉計画 7. 地域福祉活動計画 8. 社会資源の活用・調整 9. 社会資源の開発 10. 地域福祉サービス 11. 生活困窮者支援と日常生活自立支援 12. 福祉サービス評価 13. 第三者評価 14. 地域福祉の財源 15. 総まとめ				
[成績評価方法] ・授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式(正誤式または択一式)で実施する。 ・試験は、小試験、最終試験とも終了後に解答を解説し、採点后直ちに返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000130 [WH2-006]

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	システムとしての地域福祉			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:				
[教科書(ISBN)] 地域福祉論-地域福祉の理論と方法 著者名:社会福祉学習双書編集委員会 出版社:全国社会福祉協議会 (不明)				
[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する。				

P11000130 [WH2-006]

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	後期	講義	2 単位
サブタイトル	生活保護の出番～格差社会の セーフティネット			
担当者	佐々木 勝一			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] ①増加し続ける低所得者層の暮らしの実態を把握し、それを生み出す現代社会との関連を明らかにし、福祉需要に応えるセーフティネットを考える。 ②セーフティネットとして重要な役割を果たしている生活保護制度を始めとした関連諸施策・法制度について理解し、改革すべき課題を考える。 ③生活困窮者に対する相談支援活動、並びに関係機関との連携のあり方を考えるとともに、自立支援のための「自立支援プログラム」の意義と実際について理解する				
[授業概要] 派遣切り、孤独死、自殺、一家心中。蒸発、離婚、家庭崩壊、ホームレス、サラ金の多重債務、ローン苦、低賃金、失業。このような語句が日常に反乱するようになった。生活保護受給者は年々新記録を更新しており、今でも福祉事務所の窓口には相談に訪れる人々が殺到している。社会福祉士として、多くの対象者の支援に関わり、年金や医療保険、雇用対策を充実させ、生活が困難になった人々への支援をきめ細かくしなければならないが、現実には厳しく他の社会保障・社会福祉諸制度では十分な対応が困難な現状を提示する。 社会保障・社会福祉の「最後の受け皿」と言われている生活保護が役に立つようにしなければならない。低所得者支援、生活保護制度の仕組みや課題を学習し、真の暮らしのセーフティネットについて提示する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] ・生活保護制度改革の動向に注目しておくこと。 ・自主的な学習に努めておくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. 現代社会における貧困問題 2. 貧困・低所得者問題 3. 生活保護法の概要(目的と原理、原則) 4. 保護の基準と種類・内容 5. 法の実施体制～国と地方 6. 生活保護の決定・実施過程 7. 被保護層の動向と課題 8. 最低生活保障と自立助長 9. 関係機関との連携、ネットワーク 10. 自立支援プログラムの意義と実際 11. 低所得者対策 12. 住宅保障とホームレス 13. 生活保護をめぐるトラブル・争訟 14. 公的扶助をめぐる日本と諸外国の状況 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業への参加度(20%)、試験(80%) 試験終了後解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	後期	講義	2 単位
サブタイトル	生活保護の出番～格差社会の セーフティネット			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-2／現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・レポート課題				
[教科書(ISBN)]				
新・社会福祉士養成講座 第16巻 低所得者に対する支援と生活保護制度 著者名:【編集委員】大塚 晃・小澤 温・坂本洋一 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5107-4)				
[参考書(ISBN)]				
授業時に紹介する。				

P11000220 [WH2-009]

科目名	認知症の理解 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル	認知症の人の医学・行動・心理的理解			
担当者	泉 妙子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。				
[授業概要]				
1. 日本の認知症を取り巻く状況を理解する。 2. 認知症の医学的・心理的側面の基礎知識を学ぶ。 3. 当事者や家族が背負う認知症に伴う生活への影響と認知ケアの重要性を学ぶ。 4. 多職種協働・連携の重要性を理解する。 5. 個々の家庭における多様性を理解し、認知症の人を支える家族の課題・家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐ。 6. 地域で実際に起こっている様々な事例に基づく支援の展開を学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
以下3点を中心に、各回4時間程度予習復習の学習習慣を身につける。 1. 新聞やTVなどで高齢者の認知症に関する現状や課題を確認しておく。 2. 高齢社会の人口動態、医療費問題、介護問題に関心を持ち、家族や友人と話し合う場を持つ。 3. 授業ノートを整理する。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション 認知症を取り巻く状況と推計を理解できる 2. 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解する 3. 医学的・心理的側面から認知症の原因疾患について 基礎知識 I を学ぶ 4. 医学的・心理的側面から認知症の原因疾患について 基礎知識 II を学ぶ 5. 認知症の診断方法と基準、認知症になる要因を学ぶ 6. 段階に応じた心身の変化や心理症状を理解する 7. 中核症状・周辺症状を理解する 8. 認知症の心理的理解を深める 9. 心の介護の重要性が理解できる 10. 認知症の生活支援を行うための根拠となる知識を理解する 11. 当事者ニーズの視点を学ぶ 12. 認知症と環境との関係を理解する 13. 認知症の人を中心に据えた認知症ケアの理念と視点を理解する 14. 住み慣れた家で暮らすための家族支援と地域力を生かした支援とは 15. まとめ 確認テスト				
[成績評価方法]				
筆記試験70%・提出課題30%の総合評価 授業ノートは毎回確認して返却する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	認知症の理解 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル	認知症の人の医学・行動・心理的理解			
担当者	泉 妙子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:毎回授業ノート提出				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:毎回授業ノート提出				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例にもとづく演習課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:事例にもとづく演習課題提出				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:事例にもとづく演習課題提出				
[教科書(ISBN)] 最新介護福祉士養成講座12 認知症の理解 著者名:荘村明彦他 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3770-2)				
[参考書(ISBN)] 介護殺人の予防 著者名:湯原悦子 出版社:クレス出版 (987-4-87733-956-2C3036)				

P11000800 [WH2-010]

科目名	福祉行財政と福祉計画	前期	講義	2 単位
サブタイトル	福祉を進める組織と財政、福祉計画			
担当者	岡本 和久			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 社会福祉が動くシステムの習熟をめざす。 ①社会福祉の実施体制と専門職の役割 ②福祉を裏付ける財政のしくみ ③福祉計画の立て方と現実を理解する。				
[授業概要] 社会のあらゆる分野で社会福祉の充実が求められている。しかし、担い手が足りない、育たない、財源的な問題で要望には応えられないなど、「ヒトと金」の問題が現実としてある。ソーシャルワーカーは、社会福祉を担う専門職であり、どのようにすれば、人々の福祉増進の要求に応え、ソーシャルワーカーが誇りを持って専門的な支援ができるようになるのかを学ぶ。また、福祉行財政の実施体制、行財政のありかた、福祉計画の意義、目的、方法等についてそれぞれの理解を深める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 新聞や書籍等において、最新の福祉財政、福祉・医療政策に関する報道や記事に関心を持つ(各回予習復習合わせて4時間程度)				
[授業計画] 1 福祉行財政の新たな動向 2 社会福祉の体系 3 国と地方の政府間関係 4 福祉行政の組織と専門職①…相談、手続き、サービス利用 5 福祉行政の組織と専門職②…相談システム、実施体制、専門職 6 国・自治体の福祉財政と財源①…税制と配分 7 国・自治体の福祉財政と財源②…自治体の福祉財源 8 ローカルガバナンスと福祉行財政(税と社会保障の改革と自治体の福祉行財政) 9 経済・社会計画から社会福祉計画・地域福祉計画 10 社会福祉計画の意義と目的 11 個別福祉計画の種類と特徴 12 福祉計画と住民参加 13 福祉計画の策定、手法、進行管理 14 医療と介護の一体的改革 15 まとめ				
[成績評価方法] 試験点(30%) 授業中の課題・演習(60%) 授業参加度(20%) レポートは後日添削して返却します。試験は回収後、回答の解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	福祉行財政と福祉計画	前期	講義	2 単位
サブタイトル	福祉を進める組織と財政、福祉計画			
担当者	岡本 和久			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題、演習				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、演習				
[教科書(ISBN)] MINERVA社会福祉士養成テキストブック9「福祉行財政と福祉計画」 著者名:市川一宏、宇野 裕、野口定久編著 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-05394-0)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000340 [WH3-006]

科目名	福祉サービスの組織と経営	前期	講義	2 単位
サブタイトル	社会福祉サービス供給組織の仕組と課題について			
担当者	佐々木 勝一			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 福祉サービス供給組織の仕組に関して、①福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)、②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論、③福祉サービスの経営と管理運営について理解することを目標とする。 [授業概要] 社会福祉士、市施設運営責任者として、長年、携わった福祉サービスにおける組織・経営の意義から始めて、社会福祉法人を中心とする法人の意味、社会福祉サービス事業の戦略・計画と組織について講義する。さらに社会福祉サービス管理運営の基礎理論を概説し、サービス管理、人事管理・労務管理、会計管理・財務管理、情報管理についても言及する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持ち、自分の感想を持っておくことが大切です。 各回、予習復習合わせて4時間程度。 [授業計画] 1. オリエンテーション・福祉サービスの理念 2. 福祉サービスにおける組織・経営 3. 福祉サービスと制度 4. 法人とは 5. 社会福祉法人 6. 特定非営利活動法人 7. 医療法人・営利法人・公益法人・協同組合等 8. 福祉サービスの戦略 9. 福祉サービス事業の計画と組織 10. 福祉サービス管理運営の基礎理論 11. 福祉サービス管理運営の方法①ーサービス管理 12. 福祉サービス管理運営の方法②ー人事管理・労務管理 13. 福祉サービス管理運営の方法③ー会計管理・財務管理 14. 福祉サービス管理運営の方法④ー情報管理 15. 総まとめ [成績評価方法] 授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50パーセントの配分で評価する。 試験終了後解説を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000350 [WH4-004]

科目名	福祉サービスの組織と経営	前期	講義	2 単位
サブタイトル	社会福祉サービス供給組織の仕組みと課題について			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験・レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 新・社会福祉士養成講座⑪福祉サービスの組織と経営 第5版 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5431-0)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000350 [WH4-004]

科目名	福祉と人権	前期	講義	2 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの			
担当者	佐々木 勝一			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1、現代社会における「人間」の理解を基礎とした人権の意義を知る。 2、社会福祉援助における人権の擁護の大切さを理解する。 3、様々な人権事例の検討を通して、自らの人権についても考える。 4、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について学ぶ。 〔 授業概要 〕 人権が守られてこそ、人々は幸せな生活を送ることができる。しかし、私たちが学ぶ社会福祉の対象者の人権はどうであろう。社会福祉士として、老人、障害者、児童など様々なハンディキャップを抱えた人々の暮らしに関わる中で、人権とは何か、社会福祉に携わる者としてどのような援助が必要なのかを検討した内容を提示する。自分の人権とは、あなたの人権とは、そして人権を大切にする社会とは何か、事例や事件を素材として、「人権」について考える。これを通して、今後の専門科目を学ぶ視点を確立することを目標とする。人権を大切にすることを抜きにして社会福祉を学ぶことはできない。オープン科目として開講する。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 マスコミなどで取り上げられた人権問題に関する講義を行うので新聞記事などに触れておくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度 〔 授業計画 〕 1. 社会福祉と人権 2. 新聞記事と人権(新聞記者による特別講義) 3. 生活困窮者と人権 4. 児童の人権① 5. 児童の人権② 6. 障がい者の人権 7. 高齢者の人権① 8. 高齢者の人権② 9. 青年の人権 10. 女性の人権 11. ホームレスと人権 12. マイノリティの人々と人権 13. 人権侵害に対する救済と権利擁護 14. 人間の尊厳と自立 15. まとめ 〔 成績評価方法 〕 授業への参加状況(20%) 試験(80%) 試験終了後解説を行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	福祉と人権	前期	講義	2 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験・レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・レポート課題				
[教科書 (ISBN)] レジメ・資料を作成し配布する				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000040 [WH1-002]

科目名	保健医療サービス	前期	講義	2 単位
サブタイトル	医療保険と医療保障、医療ソーシャルワーク、対人援助と自己理解、自覚			
担当者	阿江 善春			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 なし				
〔 到達目標 〕 保険医療分野での相談援助業務に必要な知識の習得。 関係職種との連携・協働についての理解。				
〔 授業概要 〕 本講義は社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験における共通科目であるが、医療保険をはじめとする関係諸制度の理解と保健医療制度を構成している機関や職種、それとのチームワークやネットワークについて理解を深め将来の専門職としての自己形成に資してほしいと考えている。また身体(からだ)・社会(くらし)・精神(こころ)の全体像を理解できる力をつけること、対人援助職として自身の健康保持にも留意し授業をすすめる。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 WHO(世界保健機関)の「健康に関する定義」で示されている身体・精神・社会の3本の柱の理解の為に、事前学習として国家試験科目の内、医学・医療系と心理系の授業内容を復習しておくこと。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション(WHOの健康定義から) 2. 対人援助業務の基本について 3. 保険医療分野の構成要素 4. 保険医療分野の施設体系と相互の関係 5. 保険医療分野の専門職と役割 6. 医療ソーシャルワーカーの業務指針(全般) 7. 医療ソーシャルワーカー業務指針の展開－1 8. 医療ソーシャルワーカー業務指針の展開－2 9. 医療ソーシャルワークと関係諸制度(社会保険関係) 10. 医療ソーシャルワークと関係諸制度(社会福祉・公的扶助) 11. 保健医療とチームアプローチ 12. 保健医療とネットワーク構築 13. 心理的支援の再検討 14. WHOの健康定義の再検討 15. 全体の振り返りと国試対策について				
〔 成績評価方法 〕 毎回のレポートを兼ねた授業感想文(30%) 試験(70%) 試験終了後解説を行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000230 [WH3-005]

科目名	保健医療サービス	前期	講義	2 単位
サブタイトル	医療保険と医療保障、医療ソーシャルワーク、対人援助と自己理解、自覚			
担当者	阿江 善春			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業感想文・試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業感想文・試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業感想文・試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業感想文・試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業感想文・試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業感想文・試験				
[教科書 (ISBN)] 新・社会福祉士養成講座①保健医療サービス第5版 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版 (4-8058-5432-7)				
[参考書 (ISBN)] 医療ソーシャルワーク 著者名:杉本敏夫 出版社:久美出版 (4-907757-24-7)				

P11000230 [WH3-005]

科目名	ボランティア活動論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際			
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] ・市民社会の一員としての市民活動・ボランティア活動の役割が重要視されるなかで、ボランティアの理念と歴史と社会的意義について考えることができる。 ・ボランティア活動の形態や分野等の基礎的知識を習得できる。 ・ボランティアの実践方法と活動上の留意点が理解できる。 ・自らのボランティア活動の導入・実践に結びつけることができる。 青年海外協力隊に参加経験のある教員が、海外でのボランティア経験を活かして、様々なボランティア活動の実際を説明する。 [授業概要] ボランティア活動の理念や歴史等その基本的知識を学ぶとともに、ボランティア活動の形態・分野・活動方法・活動上の留意点 などを実践的に学ぶ。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしてくこと。 予習・復習を含めて4時間程度。 [授業計画] 1. オリエンテーション 2. ボランティアの理念 3. ボランティアの歴史 4. ボランティア活動の形態と支援 5. ボランティア活動の留意点 6. ボランティア活動の実際①(家庭におけるボランティア) 7. ボランティア活動の実際②(地域におけるボランティア) 8. ボランティア活動の実際③(福祉施設におけるボランティア) 9. ボランティア活動の実際④(災害支援におけるボランティア①) 10. ボランティア活動の実際⑤(災害支援におけるボランティア②) 11. ボランティア活動の実際⑥(海外支援におけるボランティア) 12. 青年海外協力隊の活動① 13. 青年海外協力隊の活動② 14. ボランティア活動の実際⑦(その他ボランティア) 15. ボランティア活動の課題と展望およびまとめ [成績評価方法] 授業に対する取り組み(30%) レポート(70%) 提出課題に関しては、添削して返却する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	ボランティア活動論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉2-1／家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-1／家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート				
[教科書 (ISBN)] 配布プリントなど				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11000050 [WH1-003]

科目名	リスクマネジメント論	前期	演習	2 単位
サブタイトル	安全の確保と感染予防			
担当者	木村 あい			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 転倒・転落などの事故、傷害など介護サービス上のトラブル、自然災害や火災、感染症の発生など多岐にわたるリスクに対する安全の確保や予防について、考え実践することができる。				
[授業概要] 介護施設、また在宅で障害者や高齢者の生活には、転倒・転落などの事故、傷害など介護サービス上のトラブル、自然災害や火災、感染症の発生などのリスクが多くある。生活支援者は、それら事故などの発生を常に念頭において、あらゆる事故を想定してリスクマネジメントをしなければならない。そのためには具体的にそれらの1つひとつについて、予防や安全管理体制を学び、実践力を養う必要がある。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日常生活の中で、事故防止や安全対策・感染対策に関するニュース等に関心を持って聞いたり、新聞の切抜きを心がけ、介護現場におけるリスクマネジメントに興味を持つこと。 各回予習・復習を合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1. リスクマネジメントとは(安全な生活の確保) 2. 介護事故・アクシデント・インシデント 3. 介護事故とリスク(事故防止と安全対策) 4. 介護現場における危険と改善方法 5. ヒヤリハット、報告書 6. 高齢者の虐待 7. 障害者の虐待 8. 感染予防 感染症の知識と予防 9. 感染予防 手洗いやガウンテクニックの実際 10. 清潔、不潔、汚染の区別 11. 日常生活の安全 12. 災害介護・リスクマネジメント 13. 災害時の対応や避難訓練 14. 介護労働者としての健康と安全 15. まとめ				
[成績評価方法] 課題30%・授業への取り組み70% 課題に関しては、授業内でコメントする。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	リスクマネジメント論	前期	演習	2 単位
サブタイトル	安全の確保と感染予防			
担当者	木村 あい			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉2-2／多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・授業への取り組み				
[教科書 (ISBN)] 新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第4版 1年次購入済み 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5111-1)				
[参考書 (ISBN)] 適宜紹介				

P11000560 [WH4-014]

科目名	リハビリテーション論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	リハビリテーションの諸領域			
担当者	鈴木 利明			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] リハビリテーションと障害に関する基本的な考え方、サービス体系のあり方、さらに、それぞれの障害に対するリハビリテーションの実際のあり方などを学び、理解し体験する。				
[授業概要] 1. リハビリテーションの理念と基本原則について理解する。 2. 社会的リハビリテーションの実施と社会資源について理解する。 3. リハビリテーションの実際と関わるスタッフについて理解する。 4. 寝たきり老人、認知老人のリハビリテーションについて理解し体験する。 5. 各種障害に対するリハビリテーションについて理解し体験する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し、理解して、次回以降の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. リハビリテーション概論 1)リハビリテーション(医学):総論 2)医学的リハビリテーションと物理医学 3)リハビリテーションとQOL 2. リハビリテーション各論 4)国際生活機能分類(ICF)とリハビリテーションアプローチ 5)活動(Activity)と参加 3. リハビリテーションの実際と関わるスタッフ 6)理学療法/作業療法/看護 7)チーム医療 4. 寝たきり老人、認知症老人のリハビリテーション 8)高齢化による機能障害 9)廃用症候群 10)ロコモティブシンドロームとフレイル 11)ADLの自立性の獲得と維持 5. 各種障害に対するリハビリテーション 12)脳卒中のリハビリテーション 13)骨・関節疾患／脊髄損傷のリハビリテーション 14)神経・筋疾患のリハビリテーション 15)まとめ				
[成績評価方法] 試験(95%) 授業参加度(5%) 試験終了後解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11000540 [WH3-025]

科目名	リハビリテーション論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	リハビリテーションの諸領域			
担当者	鈴木 利明			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-1／多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] リハビリテーション論 ～レジュメ集～ 著者名:鈴木 利明 出版社:自主出版				
[参考書(ISBN)] なし				

P11000540 [WH3-025]

健康福祉学部

健康スポーツ栄養学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	運動生理学 I	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 運動生理学の基礎的な知識を習得して、運動・スポーツの実践ならびに指導に際して、常にエビデンスに基づいた判断や評価ができるようにする。				
[授業概要] 運動をしている時やトレーニングを継続することによって起こる生体の一時的な変化から適応までのメカニズムを解説し、健康の維持や体力の向上にとって有効な方法を習得する。運動生理学 I では、運動・トレーニングと身体の応答、身体諸機能の変化および競技力向上のための基本理論について理解を深める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。				
[授業計画] 1. 健康・体力づくりの意義と運動の効用（健康・体力の定義、栄養・運動・休養の概念） 2. 運動の発現（不随意運動と随意運動、運動単位） 3. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能① 4. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能② 5. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能③ 6. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化①（神経系・反射系） 7. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化②（筋繊維タイプ、筋収縮のメカニズム） 8. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化③（筋の収縮様式と筋力、筋収縮のスピード） 9. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化④（呼吸器系、酸素負債、呼吸交換比） 10. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑤（循環器系、心拍出量） 11. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑥（血液・体液調節、内分泌系） 12. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑦（体温調節） 13. 運動とエネルギー代謝 14. ウェイトコントロールとファットコントロール 15. 休養(睡眠)と疲労回復 16. 試験				
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)と試験(80%)により評価します。 課題と試験の解答について解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100050A [WB1-002]

科目名	運動生理学 I	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題と試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題と試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題と試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題と試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題と試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題と試験				
[教科書 (ISBN)] Nブック 運動生理・栄養学 著者名: 高松薫(編者)奥野直他(共著) 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0547-1) プリント配布等				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100050A [WB1-002]

科目名	運動生理学 I	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 運動生理学の基礎的な知識を習得して、運動・スポーツの実践ならびに指導に際して、常にエビデンスに基づいた判断や評価ができるようにする。				
[授業概要] 運動をしている時やトレーニングを継続することによって起こる生体の一時的な変化から適応までのメカニズムを解説し、健康の維持や体力の向上にとって有効な方法を習得する。運動生理学 I では、運動・トレーニングと身体の応答、身体諸機能の変化および競技力向上のための基本理論について理解を深める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。				
[授業計画] 1. 健康・体力づくりの意義と運動の効用（健康・体力の定義、栄養・運動・休養の概念） 2. 運動の発現（不随意運動と随意運動、運動単位） 3. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能① 4. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能② 5. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能③ 6. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化①（神経系・反射系） 7. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化②（筋繊維タイプ、筋収縮のメカニズム） 8. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化③（筋の収縮様式と筋力、筋収縮のスピード） 9. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化④（呼吸器系、酸素負債、呼吸交換比） 10. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑤（循環器系、心拍出量） 11. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑥（血液・体液調節、内分泌系） 12. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑦（体温調節） 13. 運動とエネルギー代謝 14. ウェイトコントロールとファットコントロール 15. 休養(睡眠)と疲労回復 16. 試験				
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)と試験(80%)により評価します。 課題と試験の解答について解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	運動生理学 I	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題と試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題と試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題と試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題と試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題と試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題と試験				
[教科書 (ISBN)] Nブック 運動生理・栄養学 著者名: 高松薫(編者)奥野直他(共著) 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0547-1) プリント配布等				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100050B [WB1-002]

科目名	運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 運動生理学Ⅰを基に、健康増進や競技スポーツの現場において、理論的に系統づけられた運動やトレーニングの内容を理解し、指導や評価ができるようにする。				
〔 授業概要 〕 競技成績にこだわるトップアスリートのみならず健康の維持を目的とする一般人においても、個々のトレーニング方法を誤ると期待できる成果を得ることはできない。そこで、日常の健康づくりから競技スポーツに必要な体力やスキルを高めることを目的とした科学的なトレーニング方法と指導のポイントについて解説する。また、競技スポーツの現場では、予想もできない環境条件の中でも運動を行わなければならない、特定条件下で安全に運動を行う方法についても解説を加える。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する（4時間程度）。				
〔 授業計画 〕 1. スポーツとコンディショニング 2. 運動能力はどこまでのびるのか、各種動作のスキル（速く走る、重いものを持ち上げる、遠くへ跳ぶ） 3. 筋肉の科学①理論編 4. 筋肉の科学②実践編1 5. 筋肉の科学③実践編2 6. 加齢による筋萎縮に対する運動と骨を強くする運動 7. 運動と疲労回復、適切な睡眠の取り方、超回復の理論 8. アスリートの心理が身体に及ぼす影響（メンタルトレーニング等）、精神力を鍛える方法 9. アスリートと反応速度、スポーツビジョントレーニング 10. 暑熱環境が運動に与える影響、脱水と体液調節、体温調節、水分補給 11. 寒冷環境が運動に与える影響、ウォーミングアップが運動に与える影響 12. 高い持久力は何によって決まるのか（持久性トレーニングと最大酸素摂取量との関連） 13. マラソントレーニングと生理学的応答① 14. マラソントレーニングと生理学的応答② 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 課題（20%）と試験（80%）により評価します。 課題と試験の解答について解説を行います。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 課題と試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題と試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題と試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題と試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題と試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題と試験				
[教科書（ISBN）] 高松薫（編者）奥野直他（共著）「Nブック 運動生理・栄養学」建帛社（978-4-7679-0547-1） プリント配布等				
[参考書（ISBN）] なし				

P11100350 [WI2-010]

科目名	運動生理学実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 健康づくりや体力・運動能力の維持・向上を目的として、運動を生活に取り入れるときやスポーツトレーニングに応用する場合に必要な基礎知識、測定方法、評価手法を理解し、様々なスポーツに応用することができるようにする。測定結果を考察し、まとめる過程を通して創造的な研究を行う能力を養う。				
[授業概要] 運動生理学実習は、運動によってからだに生じる生理学的現象を測定し、健康づくりやスポーツトレーニングに必要な身体運動の生理的メカニズムを具体的に理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 実習内容を復習し、理解できるようにレポートを作成する。また、次回の実習に関連する内容について予習する(4時間程度)。				
[授業計画] 1. 運動生理学実習のガイダンス 運動生理学を理解するのに必要な測定と評価の方法 2. 運動強度設定に関する最大心拍数と最大酸素摂取量の測定 (トレッドミル) 3. 持久力の簡易評価と水分補給の影響(自転車エルゴメーター、SST) 4. 骨密度の測定、ヘモグロビン濃度の測定、筋硬度の測定 5. WBGTと体温との関係、運動時の体温変化 (腋窩温、平均皮膚温、サーモグラフィー) 6. SAQ(ラダー)トレーニング、プライオメトリクストレーニング、ストレッチング 7. 姿勢測定と姿勢改善トレーニング、関節可動域の測定、体力診断バッテリーテスト 8. アクティマーカーを用いた身体活動量、運動量、歩行数の測定、10m歩行テスト 9. 静的・動的レジスタンストレーニング、脚筋力の測定、体幹トレーニング 10. バランス能力の測定とバランス強化トレーニング(重心動揺計、バランスボール) 11. ヨガ、トランポリンエクササイズ、エアロビックスダンス、ダイエットトレーニング 12. バランス評価トレーニングシステム(ASKPROJ.)を用いた身体機能の評価 13. グループによる自由課題①計画立案と測定 14. グループによる自由課題②測定と評価 15. グループによる自由課題③プレゼンテーション				
[成績評価方法] 授業中の課題(30%)とレポート(70%)により評価します。 レポートは、後日添削して返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	運動生理学実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題とレポート				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100360 [WI3-006]

科目名	運動プログラム論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 栄養士と健康運動実践指導者の立場から、健康状態に応じた適切な食事摂取と効果的な運動のプログラムが作成できるようにする。				
[授業概要] 成人から中高齢者までの健康づくりと生活習慣病予防のための安全かつ効果的な運動プログラム(運動処方)作成の基礎およびエアロビック運動の理論を理解する。また、メディカルチェックや体力・運動能力測定、および栄養・エネルギーバランスを基にした適切な運動プログラムの作成方法を理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。				
[授業計画] 1. 運動不足の悪影響、運動処方の概説、健康診断、メディカルチェックの目的と実際 2. 体力測定・運動能力測定、日常身体活動量測定、運動負荷実験の実際と評価方法 3. 健康づくりと運動プログラムの基礎(プログラムの構成内容と日常生活に及ぼす効果、メタボリックシンドローム解消のための運動) 4. 健康づくりのための運動(トレーニングの原則、ウォーミングアップとクーリングダウン、エアロビック運動の基礎) 5. 運動プログラム作成の原則と実際① (運動強度の設定法:仕事率、METs、酸素摂取量、%HRmax、RPE及び運動時間と頻度) 6. アメリカ体力医学会が推奨する運動量とエネルギー消費量の計算 7. 運動プログラム作成の原則と実際② (運動量とエネルギー消費との関係、エネルギー摂取量とエネルギー消費量との関係) 8. エアロビック運動とエネルギー供給源の関係 9. 有酸素性作業能力の評価指標としての最大酸素摂取量と無酸素性作業閾値の意義と測定方法 10. マラソントレーニングプログラムの作成(基礎理論と有酸素性作業能力) 11. レジスタンスエクササイズの基礎理論(運動強度、安全性の確認) 12. 運動に対するモチベーションとマイドフルネス 13. 生活習慣病に対する食事と運動療法(肥満、高血圧、糖尿病など) 14. 運動機能障害に対する運動療法、運動実践指導者取得のための運動プログラム論の解説 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)とレポート(80%)により評価します。 課題とレポートについて解説します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	運動プログラム論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 課題とレポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題とレポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題とレポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題とレポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題とレポート				
[教科書 (ISBN)] 「Nブック 運動生理・栄養学」 著者名: 高松薫(編者)奥野直他(共著) 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0547-1) プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100430 [WI2-012]

科目名	栄養学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食生活が生体成分に及ぼす影響について調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。				
[授業概要] 栄養学を学ぶにあたって、ヒトの個体レベルでの栄養現象は、食品中の栄養成分の生体構成成分への代謝変換、さらに臓器間連携による体内での相互変換という一連の栄養代謝の全体として把握することが必要である。本実験では主としてラットを用いた栄養実験により、食事調整が体成分(肥満や痩せ)に及ぼす影響とそのメカニズムなどについて調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容、実験結果を考察してレポートにまとめ、次回の授業の予習をしておくこと。				
[授業計画] 1. オリエンテーション(実験目的と内容の概要) 2. 動物実験と飼育の基礎 3. 実験動物飼育計画、実験食の調製、動物飼育① 4. 実験動物飼育計画、実験食の調製、動物飼育② 5. ラットの解剖ービデオ及びデモンストレーション 6. ラットの解剖ー臓器重量の測定及びサンプリング 7. まとめとディスカッション (異なる摂食パターンが体重、臓器重量、体脂肪蓄積、食餌効率等に及ぼす影響について検証する。) 8～14. 異なる摂食パターンでのラットの生体成分の変化について 1) 脂質代謝に及ぼす影響について ① 血清中のトリグリセライド、総コレステロールの定量 ② 肝臓総脂質抽出 ③ トリグリセライド、コレステロールの定量 2) たんぱく代謝に及ぼす影響について ① 肝臓及び血清中のタンパクの定量 3) 糖質代謝に及ぼす影響について ① 血糖値の測定 ② 肝臓中のグリコーゲンの定量 ③ 肝臓酵素グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 15. 実験のまとめ・ディスカッション				
[成績評価方法] レポート(80%)、小テスト(20%)の総合点で評価。レポートは後日添削して返却します。小テストは、採点后解説します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100170A [WI3-001]

科目名	栄養学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、小テスト [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート、小テスト [教科書 (ISBN)] 配布資料 [参考書 (ISBN)] なし				

P11100170A [WI3-001]

科目名	栄養学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食生活が生体成分に及ぼす影響について調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。				
[授業概要] 栄養学を学ぶにあたって、ヒトの個体レベルでの栄養現象は、食品中の栄養成分の生体構成成分への代謝変換、さらに臓器間連携による体内での相互変換という一連の栄養代謝の全体として把握することが必要である。本実験では主としてラットを用いた栄養実験により、食事調整が体成分(肥満や痩せ)に及ぼす影響とそのメカニズムなどについて調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容、実験結果を考察してレポートにまとめ、次回の授業の予習をしておくこと。				
[授業計画] 1. オリエンテーション(実験目的と内容の概要) 2. 動物実験と飼育の基礎 3. 実験動物飼育計画、実験食の調製、動物飼育① 4. 実験動物飼育計画、実験食の調製、動物飼育② 5. ラットの解剖ービデオ及びデモンストレーション 6. ラットの解剖ー臓器重量の測定及びサンプリング 7. まとめとディスカッション (異なる摂食パターンが体重、臓器重量、体脂肪蓄積、食餌効率等に及ぼす影響について検証する。) 8～14. 異なる摂食パターンでのラットの生体成分の変化について 1) 脂質代謝に及ぼす影響について ①血清中のトリグリセライド、総コレステロールの定量 ②肝臓総脂質抽出 ③トリグリセライド、コレステロールの定量 2) たんぱく代謝に及ぼす影響について ①肝臓及び血清中のタンパクの定量 3) 糖質代謝に及ぼす影響について ①血糖値の測定 ②肝臓中のグリコーゲンの定量 ③肝臓酵素グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 15. 実験のまとめ・ディスカッション				
[成績評価方法] レポート(80%)、小テスト(20%)の総合点で評価。レポートは後日添削して返却します。小テストは、採点后解説します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	栄養学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、小テスト [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート、小テスト [教科書 (ISBN)] 配布資料 [参考書 (ISBN)] なし				

P11100170B [WI3-001]

科目名	栄養学総論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能			
担当者	坂元 美子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 栄養素の基本概念と、体内での役割、代謝過程が統括的に理解できるよう学習する				
[授業概要] 摂取した食品の栄養素が体の構成成分となる経路、エネルギーへの変換にいたる代謝の過程を学び、ヒトの総体レベルで栄養現象を理解する。エネルギー代謝および栄養素の中間代謝経路では栄養素の体内相互変換について理解し、一連の代謝像を体系的に捉える。栄養学の基本理念と意義の理解により、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を解説する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習で2時間程度次回の教科書を予習する。復習で2時間程度前回のノート・教科書を見直す。				
[授業計画] 1. 栄養とは 2. 健康と栄養、食事摂取基準 3. 食物の摂取 4. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の栄養と代謝 5. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の消化と吸収 6. 栄養素の構造と機能:糖質の栄養と代謝 7. 栄養素の構造と機能:糖質の消化と吸収 8. 栄養素の構造と機能:脂質の栄養と代謝 9. 栄養素の構造と機能:脂質の消化と吸収 10. 栄養素の構造と機能:水溶性ビタミン 11. 栄養素の構造と機能:脂溶性ビタミン 12. 栄養素の構造と機能:ミネラル(1) 13. 栄養素の構造と機能:ミネラル(2) 14. 水・電解質の栄養的意義 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(100%) 試験の答案を回収後、解答の解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100160A [WI1-001]

科目名	栄養学総論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能			
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 新食品成分表フーズサポーター付き2018 著者名: とうほう 出版社: 東京法令出版 (978-4-8090-6310-7) サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学 著者名: 鈴木和春他 出版社: 第一出版 (978-4-8041-2)				
[参考書 (ISBN)] 必要に応じて随時紹介します				

P11100160A [WI1-001]

科目名	栄養学総論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能			
担当者	坂元 美子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 栄養素の基本概念と、体内での役割、代謝過程が統括的に理解できるよう学習する				
[授業概要] 摂取した食品の栄養素が体の構成成分となる経路、エネルギーへの変換にいたる代謝の過程を学び、ヒトの総体レベルで栄養現象を理解する。エネルギー代謝および栄養素の中間代謝経路では栄養素の体内相互変換について理解し、一連の代謝像を体系的に捉える。栄養学の基本理念と意義の理解により、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を解説する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習で2時間程度次回の教科書を予習する。復習で2時間程度前回のノート・教科書を見直す。				
[授業計画] 1. 栄養とは 2. 健康と栄養、食事摂取基準 3. 食物の摂取 4. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の栄養と代謝 5. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の消化と吸収 6. 栄養素の構造と機能:糖質の栄養と代謝 7. 栄養素の構造と機能:糖質の消化と吸収 8. 栄養素の構造と機能:脂質の栄養と代謝 9. 栄養素の構造と機能:脂質の消化と吸収 10. 栄養素の構造と機能:水溶性ビタミン 11. 栄養素の構造と機能:脂溶性ビタミン 12. 栄養素の構造と機能:ミネラル(1) 13. 栄養素の構造と機能:ミネラル(2) 14. 水・電解質の栄養的意義 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(100%) 試験の答案を回収後、解答の解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	栄養学総論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能			
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 新食品成分表フーズサポーター付き2018 著者名: とうほう 出版社: 東京法令出版 (978-4-8090-6310-7) サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学 著者名: 鈴木和春他 出版社: 第一出版 (978-4-8041-2)				
[参考書 (ISBN)] 必要に応じて随時紹介します				

P11100160B [WI1-001]

科目名	栄養機能食品論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 近年増加の一途をたどる栄養機能食品について、正しい知識を身につけ、氾濫する情報に惑わされることなく、栄養士として正しい情報を発信できるように学習する。				
[授業概要] ヒトが生命活動を営むために体外から摂取しなければならない必須物質を栄養素といい、一般には三回の食事により通常の食品から摂取している。これらの食品は基本的に安全でなくてはならないが、食の安全については近年多数の問題が生じているのが現状である。ヒトが普段口にしている食品とはどういうものなのか、安全性、有効性、医薬品との違い、関連する法律について学習し、近年開発が進んでいる機能性食品について正しい知識を持つ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習含めて4時間程度栄養学総論、臨床栄養学、応用栄養学、公衆栄養学を復習しておく				
[授業計画] 1. 食品とは 2. 保健機能食品1 3. 保健機能食品2 4. 食品の表示 5. 「健康食品」の安全性と有効性の評価 6. 食品と医薬品の相互作用 7. スポーツとサプリメント、ドーピング 8. 健康とサプリメント 9. 生活習慣病とサプリメント 10. 食事摂取基準 11. サプリメント開発の立場から1 12. サプリメント開発の立場から2(外部講師) 13. 関連法規 14. 最近注目のサプリメントとその成分 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(100%) 解答用紙回収後、解答の解説を行います				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	栄養機能食品論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] NR・サプリメントアドバイザー必携 著者名: 一般社団法人日本臨床栄養協会編 出版社: 第一出版 (8-4-8041-1356-2)				
[参考書 (ISBN)] 必要に応じて随時紹介します				

P11100550 [WI3-013]

科目名	栄養教育・指導論 I	後期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門			
担当者	松本 衣代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 栄養教育・指導の流れ(栄養マネジメント)を理解				
2. 指導の技術、カウンセリングやティーチングの理解				
3. 栄養アセスメントが出来ること				
[授業概要]				
栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりQOLの向上をめざすものである。糖尿病外来、肥満外来での栄養指導の経験がある教員が、対象者の栄養状態・食行動・食環境などの情報を収集分析し、その結果に基づき、指導計画の立案、実践、評価、判定を行う手法について指導する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
栄養相談に必要な、カウンセリング技法を学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画]				
1. 栄養教育の意義とその目的				
2. 栄養教育の対象と機会				
3. 行動科学の理論とモデル① ヘルスビリーフモデル、トランスセオレティカルモデル等				
4. 行動科学の理論とモデル② 計画的行動理論、刺激－反応理論等				
4. 栄養カウンセリング① 行動カウンセリング				
5. 栄養カウンセリング② カウンセリングの基礎的技法				
6. 栄養カウンセリング③ 認知行動療法				
7. 行動変容技法と概念① 行動置換、オペラント強化等				
8. 行動変容技法と概念② 認知再構成、刺激統制法等				
9. 行動変容技法と概念③ 自己効力感、セルフモニタリング等				
10. 行動変容技法と概念④ ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング等				
11. 組織づくり、地域づくりへの展開				
12. 食環境づくりと関連				
13. 諸外国の栄養状況				
14. 栄養教育の取り組みとポイント				
15. まとめ				
16. 試験				
[成績評価方法]				
試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。試験は、採点后解説します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	栄養教育・指導論Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門			
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2 / 健康の維持・増進やスポーツについて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験、レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1 / 栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
[教科書 (ISBN)] サクセス管理栄養士講座 栄養教育論 著者名: 斉藤トシ子 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1344-9) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名: 文光堂 出版社: 医歯薬出版 (978-4830660467)				
[参考書 (ISBN)] 管理栄養士・栄養士必携—データ・資料集—〈2017年度版〉 著者名: 日本栄養士会 編 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1333-3)				

P11100230A [WI1-005]

科目名	栄養教育・指導論Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門			
担当者	松本 衣代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 栄養教育・指導の流れ(栄養マネジメント)を理解				
2. 指導の技術、カウンセリングやティーチングの理解				
3. 栄養アセスメントが出来ること				
[授業概要]				
栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりQOLの向上をめざすものである。糖尿病外来、肥満外来での栄養指導の経験がある教員が、対象者の栄養状態・食行動・食環境などの情報を収集分析し、その結果に基づき、指導計画の立案、実践、評価、判定を行う手法について指導する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
栄養相談に必要な、カウンセリング技法を学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画]				
1. 栄養教育の意義とその目的				
2. 栄養教育の対象と機会				
3. 行動科学の理論とモデル① ヘルスビリーフモデル、トランスセオレティカルモデル等				
4. 行動科学の理論とモデル② 計画的行動理論、刺激－反応理論等				
4. 栄養カウンセリング① 行動カウンセリング				
5. 栄養カウンセリング② カウンセリングの基礎的技法				
6. 栄養カウンセリング③ 認知行動療法				
7. 行動変容技法と概念① 行動置換、オペラント強化等				
8. 行動変容技法と概念② 認知再構成、刺激統制法等				
9. 行動変容技法と概念③ 自己効力感、セルフモニタリング等				
10. 行動変容技法と概念④ ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング等				
11. 組織づくり、地域づくりへの展開				
12. 食環境づくりと関連				
13. 諸外国の栄養状況				
14. 栄養教育の取り組みとポイント				
15. まとめ				
16. 試験				
[成績評価方法]				
試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。試験は、採点后解説します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	栄養教育・指導論Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門			
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2 / 健康の維持・増進やスポーツについて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験、レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
[教科書 (ISBN)] サクセス管理栄養士講座 栄養教育論 著者名: 斉藤トシ子 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1344-9) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名: 文光堂 出版社: 医歯薬出版 (978-4830660467)				
[参考書 (ISBN)] 管理栄養士・栄養士必携—データ・資料集—〈2017年度版〉 著者名: 日本栄養士会 編 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1333-3)				

P11100230B [WI1-005]

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論含む）	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門			
担当者	松本 衣代			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 栄養教育・指導の流れ(栄養マネジメント)を理解 2. 指導の技術、カウンセリングやティーチングの理解 3. 栄養アセスメント手法を修得 〔 授業概要 〕 栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりQOLの向上をめざすものである。糖尿病外来、肥満外来での栄養相談の経験を有する教員が、対象者に適切な食行動パターンを提示し、生活習慣病や適切な栄養を摂取を促すためのカウンセリング手法や動機付けの手法について具体的な例を提示しながら指導します。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 栄養相談に必要な、カウンセリング技法を学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。 〔 授業計画 〕 1. 栄養教育の意義とその目的 2. 栄養教育の対象と機会 3. 行動科学の理論とモデル① ヘルスビリーフモデル、トランスセオレティカルモデル等 4. 行動科学の理論とモデル② 計画的行動理論、刺激－反応理論等 4. 栄養カウンセリング① 行動カウンセリング 5. 栄養カウンセリング② カウンセリングの基礎的技法 6. 栄養カウンセリング③ 認知行動療法 7. 行動変容技法と概念① 行動置換、オペラント強化等 8. 行動変容技法と概念② 認知再構成、刺激統制法等 9. 行動変容技法と概念③ 自己効力感、セルフモニタリング等 10. 行動変容技法と概念④ ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング等 11. 組織づくり、地域づくりへの展開 12. 食環境づくりと関連 13. 諸外国の栄養状況 14. 栄養教育の取り組みとポイント 15. まとめ 16. 試験 〔 成績評価方法 〕 試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。試験は、採点后解説します。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100240A [WI2-006]

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論含む）	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門			
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-2 / 健康の維持・増進やスポーツについて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験、レポート 学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1 / 栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力 成績評価方法: レポート [教科書（ISBN）] サケス管理栄養士講座 栄養教育論 著者名: 斉藤トシ子 出版社: 第一出版（978-4-8041-1390-6） [参考書（ISBN）] 管理栄養士・栄養士必携—データ・資料集—〈2017年度版〉 著者名: 日本栄養士会 編 出版社: 第一出版（978-4-8041-1333-3）				

P11100240A [WI2-006]

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論含む）	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門			
担当者	松本 衣代			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 栄養教育・指導の流れ(栄養マネジメント)を理解 2. 指導の技術、カウンセリングやティーチングの理解 3. 栄養アセスメント手法を修得 〔 授業概要 〕 栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりQOLの向上をめざすものである。糖尿病外来、肥満外来での栄養相談の経験を有する教員が、対象者に適切な食行動パターンを提示し、生活習慣病や適切な栄養を摂取を促すためのカウンセリング手法や動機付けの手法について具体的な例を提示しながら指導します。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 栄養相談に必要な、カウンセリング技法を学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。 〔 授業計画 〕 1. 栄養教育の意義とその目的 2. 栄養教育の対象と機会 3. 行動科学の理論とモデル① ヘルスビリーフモデル、トランスセオレティカルモデル等 4. 行動科学の理論とモデル② 計画的行動理論、刺激－反応理論等 4. 栄養カウンセリング① 行動カウンセリング 5. 栄養カウンセリング② カウンセリングの基礎的技法 6. 栄養カウンセリング③ 認知行動療法 7. 行動変容技法と概念① 行動置換、オペラント強化等 8. 行動変容技法と概念② 認知再構成、刺激統制法等 9. 行動変容技法と概念③ 自己効力感、セルフモニタリング等 10. 行動変容技法と概念④ ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング等 11. 組織づくり、地域づくりへの展開 12. 食環境づくりと関連 13. 諸外国の栄養状況 14. 栄養教育の取り組みとポイント 15. まとめ 16. 試験 〔 成績評価方法 〕 試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。試験は、採点后解説します。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論含む）	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門			
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2 / 健康の維持・増進やスポーツについて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験、レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1 / 栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力 成績評価方法: レポート				
[教科書（ISBN）] サケス管理栄養士講座 栄養教育論 著者名: 斉藤トシ子 出版社: 第一出版（978-4-8041-1390-6）				
[参考書（ISBN）] 管理栄養士・栄養士必携—データ・資料集—〈2017年度版〉 著者名: 日本栄養士会 編 出版社: 第一出版（978-4-8041-1333-3）				

P11100240B [WI2-006]

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門			
担当者	松本 衣代、本田 まり			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1. テーマ(対象者)にあった課題が抽出できる。 2. 対象者に合った準備(媒体作成等)を、計画的に段取りよく進めることができる。 3. 対象者に合った栄養教育指導を行うことができ、評価や反省が的確にできる。 [授業概要] グループ学習を中心とします。入門として本実習では、総合病院で管理栄養士として勤務した経験のある教員が、集団に対する栄養教育指導の演習後、糖尿病外来や肥満外来での栄養相談経験のある教員が個人への栄養教育指導を演習します。計画では、対象者に対する課題(問題点)を自らで考え、教育指導の内容を立案し、対象者に合った媒体等を作成します。実際に人前で教育指導(発表)をし、また聞き手(指導される側)にもなることで、内容のみならず話し方や態度等の様々な要素についても学びます。反省を次の演習(発表)に活かすPDCAサイクルを実践し、教育指導のスキルを高めます。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 栄養教育指導の実践のために、自主的な資料の準備や、授業時間外でのグループ活動等も必要になります。期限までに仕上げる事が出来るよう、事前準備に取り組んでください。各回、予習復習合わせて2時間程度。 [授業計画] 1. オリエンテーション(松本) 2. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 計画①(本田) 3. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 計画②(本田) 4. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 計画③(本田) 5. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 実施①(本田) 6. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 実施②(本田) 7. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 カウンセリング(松本) 8. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 問題抽出(松本) 9. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 計画, 教育媒体の作成①(松本) 10. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 計画, 教育媒体の作成②(松本) 11. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 実施と評価①(松本) 12. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 実施と評価②(松本) 13. 演習3 個人指導: 成人期、高齢期 在宅栄養管理 実践①(松本) 14. 演習3 個人指導: 成人期、高齢期 在宅栄養管理 実践②(松本) 15. まとめ(本田, 松本) [成績評価方法] 指導媒体等の成果物(30%)、レポート(20%)プレゼンテーション(50%)。成果物、レポートについては、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100250A [WI2-007]

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門			
担当者	松本 衣代、本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 成果物、レポート 学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: プレゼンテーション、成果物 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: [教科書 (ISBN)] なし [参考書 (ISBN)] 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名: 日本糖尿病学会 出版社: 文光堂 (4830660465)				

P11100250A [WI2-007]

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門			
担当者	松本 衣代、本田 まり			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1. テーマ(対象者)にあった課題が抽出できる。 2. 対象者に合った準備(媒体作成等)を、計画的に段取りよく進めることができる。 3. 対象者に合った栄養教育指導を行うことができ、評価や反省が的確にできる。 [授業概要] グループ学習を中心とします。入門として本実習では、総合病院で管理栄養士として勤務した経験のある教員が、集団に対する栄養教育指導の演習後、糖尿病外来や肥満外来での栄養相談経験のある教員が個人への栄養教育指導を演習します。計画では、対象者に対する課題(問題点)を自らで考え、教育指導の内容を立案し、対象者に合った媒体等を作成します。実際に人前で教育指導(発表)をし、また聞き手(指導される側)にもなることで、内容のみならず話し方や態度等の様々な要素についても学びます。反省を次の演習(発表)に活かすPDCAサイクルを実践し、教育指導のスキルを高めます。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 栄養教育指導の実践のために、自主的な資料の準備や、授業時間外でのグループ活動等も必要になります。期限までに仕上げる事が出来るよう、事前準備に取り組んでください。各回、予習復習合わせて2時間程度。 [授業計画] 1. オリエンテーション(松本) 2. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 計画①(本田) 3. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 計画②(本田) 4. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 計画③(本田) 5. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 実施①(本田) 6. 演習1 集団指導: 幼児期、学童期 実施②(本田) 7. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 カウンセリング(松本) 8. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 問題抽出(松本) 9. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 計画, 教育媒体の作成①(松本) 10. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 計画, 教育媒体の作成②(松本) 11. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 実施と評価①(松本) 12. 演習2 個人指導: 成人期、高齢期 実施と評価②(松本) 13. 演習3 個人指導: 成人期、高齢期 在宅栄養管理 実践①(松本) 14. 演習3 個人指導: 成人期、高齢期 在宅栄養管理 実践②(松本) 15. まとめ(本田, 松本) [成績評価方法] 指導媒体等の成果物(30%)、レポート(20%)プレゼンテーション(50%)。成果物、レポートについては、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門			
担当者	松本 衣代、本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 成果物、レポート 学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: プレゼンテーション、成果物 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: [教科書 (ISBN)] なし [参考書 (ISBN)] 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名: 日本糖尿病学会 出版社: 文光堂 (4830660465)				

P11100250B [WI2-007]

科目名	応急手当実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] ケガや病気により人が突然に意識障害や心肺停止になったときや、大出血により生命の危機に陥ったときの救命処置の方法、また一般的なケガの悪化防止や苦痛の軽減を目的にした応急手当について、その基本を理解し、実際に実施できるようにする。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、日常的に必要とされる可能性のある応急手当について実習形式で教授します。 日常生活やスポーツ活動時に起こる突然のケガや病気に対する応急処置、心肺蘇生法、止血、傷の手当、搬送、テーピング等の方法や技術を習得する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各地で開催される講習会等に参加することが望ましい。各回、予習復習を合わせて2時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 応急手当と救急救命、呼吸・意識・脈拍のみかた、体位、救急車の呼び方、運動中止の判断 2. 傷病者の運び方、脱水症・熱中症 3. 低血糖、アナフィラキシーショック、過換気 4. 一次救命処置(総合・デモンストレーション) 5. 一次救命処置(心肺蘇生法①) 6. 一次救命処置(心肺蘇生法②) 7. 一次救命処置(自動体外式除細動器①) 8. 一次救命処置(自動体外式除細動器②) 9. テーピングの方法① 10. テーピングの方法② 11. 包帯の巻き方① 12. 包帯の巻き方② 13. 止血の方法 14. こむら返り・突き指、熱傷 15. まとめ ※1回は学外特別講師による授業の予定 [成績評価方法] レポート(50%)・試験(50%)により評価する。 レポートは、全ての授業終了後、返却する。配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応急手当実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験、レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 資料を作成し配布する。				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100480A [WB2-006]

科目名	応急手当実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] ケガや病気により人が突然に意識障害や心肺停止になったときや、大出血により生命の危機に陥ったときの救命処置の方法、また一般的なケガの悪化防止や苦痛の軽減を目的にした応急手当について、その基本を理解し、実際に実施できるようにする。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、日常的に必要とされる可能性のある応急手当について実習形式で教授します。日常生活やスポーツ活動時に起こる突然のケガや病気に対する応急処置、心肺蘇生法、止血、傷の手当、搬送、テーピング等の方法や技術を習得する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各地で開催される講習会等に参加することが望ましい。各回、予習復習を合わせて2時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 応急手当と救急救命、呼吸・意識・脈拍のみかた、体位、救急車の呼び方、運動中止の判断 2. 傷病者の運び方、脱水症・熱中症 3. 低血糖、アナフィラキシーショック、過換気 4. 一次救命処置(総合・デモンストレーション) 5. 一次救命処置(心肺蘇生法①) 6. 一次救命処置(心肺蘇生法②) 7. 一次救命処置(自動体外式除細動器①) 8. 一次救命処置(自動体外式除細動器②) 9. テーピングの方法① 10. テーピングの方法② 11. 包帯の巻き方① 12. 包帯の巻き方② 13. 止血の方法 14. こむら返り・突き指、熱傷 15. まとめ ※1回は学外特別講師による授業の予定 [成績評価方法] レポート(50%)・試験(50%)により評価する。 レポートは、全ての授業終了後、返却する。配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応急手当実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験、レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 資料を作成し配布する。				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100480B [WB2-006]

科目名	応用栄養学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 成長・発達・加齢における生理的特徴を理解する。栄養管理事例報告書が作成できるように、各ライフステージにおける栄養アセスメント、ケアの理解を進める。				
[授業概要] 成長期、成人期、高齢期ならびに妊産婦、障害者や特殊業務従事者等の身体的・精神的な機能を理解し、基礎栄養学を基本に各ライフステージ・ライフスタイルに応じて、必要とされる栄養素の適切な摂取を理解する。また、生活習慣病の予防など健康づくりの視点で、栄養上の問題点や改善点を学び、効果的かつ合理的な栄養摂取方法を実践できる知識を身につける。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業について予習復習合わせて4時間程度。 前回の授業内容を復習して、よく理解をしておく。理解できなかったことをまとめ、次回に質問する。次回の授業の予習をしておくこと。 日頃から、自らの健康や食生活、家族、友人等の食事内容をよく観察して、メモを取るようにする。				
[授業計画] 1. 栄養管理の考え方・進め方 2. 栄養環境の適応 3. 日本人の食事摂取基準の基礎的理解 4. 発育・発達・加齢 5. 母性栄養 6. 乳児期の栄養 7. 幼児期の栄養 8. 学童期の栄養 9. 思春期の栄養 10. 成人期の栄養 11. 高齢期の栄養 12. 生活習慣病と食生活(原因と予防) 13. 日常的な運動におけるエネルギー消費量と必要な栄養素 14. 環境と栄養(温度・気圧・重力・ストレス)、災害時の栄養 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(70%)、小テスト(20%)、レポート課題(10%) ・小テストは、添削後、返却します。 ・レポートは、後日添削して返却します。 ・試験の答案を回収後、解答の解説をします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応用栄養学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験・レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験・レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 応用栄養学(栄養科学シリーズNEXT) 第5版 著者名: 木戸康弘・小倉嘉夫・眞鍋祐之編 出版社: 講談社サイエ ンティフィク (978-4-06-155392-7)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100180A [WI2-001]

科目名	応用栄養学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 成長・発達・加齢における生理的特徴を理解する。栄養管理事例報告書が作成できるように、各ライフステージにおける栄養アセスメント、ケアの理解を進める。				
[授業概要] 成長期、成人期、高齢期ならびに妊産婦、障害者や特殊業務従事者等の身体的・精神的な機能を理解し、基礎栄養学を基本に各ライフステージ・ライフスタイルに応じて、必要とされる栄養素の適切な摂取を理解する。また、生活習慣病の予防など健康づくりの視点で、栄養上の問題点や改善点を学び、効果的かつ合理的な栄養摂取方法を実践できる知識を身につける。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業について予習復習合わせて4時間程度。 前回の授業内容を復習して、よく理解をしておく。理解できなかったことをまとめ、次回に質問する。次回の授業の予習をしておくこと。 日頃から、自らの健康や食生活、家族、友人等の食事内容をよく観察して、メモを取るようにする。				
[授業計画] 1. 栄養管理の考え方・進め方 2. 栄養環境の適応 3. 日本人の食事摂取基準の基礎的理解 4. 発育・発達・加齢 5. 母性栄養 6. 乳児期の栄養 7. 幼児期の栄養 8. 学童期の栄養 9. 思春期の栄養 10. 成人期の栄養 11. 高齢期の栄養 12. 生活習慣病と食生活(原因と予防) 13. 日常的な運動におけるエネルギー消費量と必要な栄養素 14. 環境と栄養(温度・気圧・重力・ストレス)、災害時の栄養 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(70%)、小テスト(20%)、レポート課題(10%) ・小テストは、添削後、返却します。 ・レポートは、後日添削して返却します。 ・試験の答案を回収後、解答の解説をします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応用栄養学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験・レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験・レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験・レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 応用栄養学(栄養科学シリーズNEXT) 第5版 著者名: 木戸康弘・小倉嘉夫・眞鍋祐之編 出版社: 講談社サイエンスエディフィク (978-4-06-155392-7)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100180B [WI2-001]

科目名	応用栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] ライフステージ別の栄養ケアを考え、対象者に合わせた栄養マネジメントを行うために必要な献立を作成できるようになることを目標とする。				
[授業概要] ライフステージ別に必要とされる栄養素の適切な摂取量を決定するための科学的根拠を理解し、栄養マネジメントについて、計画、実施、評価等の過程を実習する。そのためには、献立を作成し、それぞれに適した食品を利用し、調理を実践することで知識・技術を習得する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 前期の応用栄養学の授業内容をしっかり復習しておくこと。前回の実習レポートを仕上げておくこと。 献立作成ができるように、栄養計算、廃棄率などの復習を行うこと。次回の実習内容の予習を行っておくこと。				
[授業計画] 1. オリエンテーション、授業概要および献立作成に関する説明 2. 軟食の栄養マネジメントと実習 3. 乳児期・幼児期の栄養マネジメントと献立作成 4. 乳児期(離乳食)の実習 5. 幼児期(幼児食)の実習 6. 学童期・思春期の栄養マネジメントと献立作成 7. 学童期・思春期(学校給食・弁当)の実習 8. 妊娠期・授乳期の栄養マネジメントと献立作成 9. 妊産期・授乳期の実習 10. 成人期・高齢期の栄養マネジメントと献立作成 11. 成人期の実習 12. 高齢期の実習 13. ライフスタイルと栄養マネジメントと献立作成 14. スポーツ栄養の実習 15. まとめ				
[成績評価方法] レポート(60%)(献立作成含む)、試験(20%)、実技(20%) ・レポートと献立は、後日添削して返却します。 ・試験の答案を回収後、解答の解説をします。 ・実技は、作成した献立の実施過程、出来上がりなどを総合して評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100190A [WI2-003]

科目名	応用栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート・献立作成、実技				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート・献立作成、試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート・献立作成、試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート・献立作成、実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート・献立作成、実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート・献立作成、試験				
[教科書 (ISBN)] 新編応用栄養学実習 著者名: 編集 宮澤 節子 長浜幸子執筆 伊澤正利 他 出版社: 学建書院 (978-4-7624-0883-0)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100190A [WI2-003]

科目名	応用栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] ライフステージ別の栄養ケアを考え、対象者に合わせた栄養マネジメントを行うために必要な献立を作成ができるようになることを目標とする。				
[授業概要] ライフステージ別に必要とされる栄養素の適切な摂取量を決定するための科学的根拠を理解し、栄養マネジメントについて、計画、実施、評価等の過程を実習する。そのためには、献立を作成し、それぞれに適した食品を利用し、調理を実践することで知識・技術を習得する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 前期の応用栄養学の授業内容をしっかり復習しておくこと。前回の実習レポートを仕上げておくこと。 献立作成ができるように、栄養計算、廃棄率などの復習を行うこと。次回の実習内容の予習を行っておくこと。				
[授業計画] 1. オリエンテーション、授業概要および献立作成に関する説明 2. 軟食の栄養マネジメントと実習 3. 乳児期・幼児期の栄養マネジメントと献立作成 4. 乳児期(離乳食)の実習 5. 幼児期(幼児食)の実習 6. 学童期・思春期の栄養マネジメントと献立作成 7. 学童期・思春期(学校給食・弁当)の実習 8. 妊娠期・授乳期の栄養マネジメントと献立作成 9. 妊産期・授乳期の実習 10. 成人期・高齢期の栄養マネジメントと献立作成 11. 成人期の実習 12. 高齢期の実習 13. ライフスタイルと栄養マネジメントと献立作成 14. スポーツ栄養の実習 15. まとめ				
[成績評価方法] レポート(60%)(献立作成含む)、試験(20%)、実技(20%) ・レポートと献立は、後日添削して返却します。 ・試験の答案を回収後、解答の解説をします。 ・実技は、作成した献立の実施過程、出来上がりなどを総合して評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応用栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート・献立作成、実技				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート・献立作成、試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート・献立作成、試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート・献立作成、実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート・献立作成、実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート・献立作成、試験				
[教科書 (ISBN)] 新編応用栄養学実習 著者名: 編集 宮澤 節子 長浜幸子執筆 伊澤正利 他 出版社: 学建書院 (978-4-7624-0883-0)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100190B [WI2-003]

科目名	応用調理学実習 I	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] これまで学んだ調理理論に関する知識と技術を活かし、衛生面に常に留意しながら、時間内に正確に調理できる技術を習得する。				
[授業概要] 基礎調理学実習で習得した基本的調理操作と知識をもとに、応用的な調理操作と技術を盛り込んだ日本料理、西洋料理、中国料理を実習することで、より高度な調理技術の向上と調理理論の習得を図る。また、日本料理、西洋料理を中心とした食事マナーについて理解を深める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 事前に具体的な調理手順を組み立て、計画しておく。衛生面についても十分な準備をして実習に臨む。 実習後、課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 日本料理①:だし巻き卵 他 3. 日本料理②:えんどうご飯 他 4. 西洋料理①:ポタージュ 他 5. 日本料理③:炊きおこわ 他 6. 西洋料理②:ステーキ 他 7. 日本料理④:親子丼 他 8. 中国料理①:チャーハン 他 9. 日本料理⑤:そばご飯 他 10. 西洋料理③:豚肉の煮込み 他 11. 中国料理②:炒めビーフン 他 12. 日本料理⑥:ちらしずし 他 13. 西洋料理④:スパゲティ 他 14. 講義:食事マナー 15. 講義:復習				
[成績評価方法] 授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%) レポートは添削して後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応用調理学実習 I	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100320A [WI2-013]

科目名	応用調理学実習 I	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] これまで学んだ調理理論に関する知識と技術を活かし、衛生面に常に留意しながら、時間内に正確に調理できる技術を習得する。				
[授業概要] 基礎調理学実習で習得した基本的調理操作と知識をもとに、応用的な調理操作と技術を盛り込んだ日本料理、西洋料理、中国料理を実習することで、より高度な調理技術の向上と調理理論の習得を図る。また、日本料理、西洋料理を中心とした食事マナーについて理解を深める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 事前に具体的な調理手順を組み立て、計画しておく。衛生面についても十分な準備をして実習に臨む。 実習後、課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 日本料理①:だし巻き卵 他 3. 日本料理②:えんどうご飯 他 4. 西洋料理①:ポタージュ 他 5. 日本料理③:炊きおこわ 他 6. 西洋料理②:ステーキ 他 7. 日本料理④:親子丼 他 8. 中国料理①:チャーハン 他 9. 日本料理⑤:そばろご飯 他 10. 西洋料理③:豚肉の煮込み 他 11. 中国料理②:炒めビーフン 他 12. 日本料理⑥:ちらしずし 他 13. 西洋料理④:スパゲティ 他 14. 講義:食事マナー 15. 講義:復習				
[成績評価方法] 授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%) レポートは添削して後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応用調理学実習 I	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100320B [WI2-013]

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①調理に関する知識や基礎技術に基き、さらに専門性の高い調理技術を習得している。				
②テーマに合わせて、盛り付け等を含む総合的な献立立案力および実践力を有している。				
[授業概要]				
応用調理学実習Ⅰの内容に応用的な調理方法を加えた日本料理、西洋料理、中国料理などを実習し、より高度な調理理論の習得と調理技術の向上を図ります。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
配布プリントを予習し、具体的な手順を確認して実習に臨んでください。実習前の衛生面等についても十分な準備をしてください。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. 西洋料理①: サンドイッチ 他				
3. 日本料理①: 栗ごはん 他				
4. 西洋料理②: グラタン 他				
5. インド料理: チキンカレー 他				
6. 中国料理①: 上海風焼きそば 他				
7. エスニック料理: 生春巻き 他				
8. 西洋料理③: カツレツ 他				
9. 中国料理②: ゆで餃子 他				
10. 西洋料理④: クリスマス料理				
11. 日本料理②: 正月料理				
12. 学生献立: 計画1				
13. 学生献立: 計画2				
14. 学生献立: 実習				
15. 講義: まとめ				
[成績評価方法]				
実習態度(70%)、レポート(30%)				
・レポートは、授業時の全体へのコメント等でフィードバックします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 実習態度、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習態度、レポート				
[教科書(ISBN)] プリント配布				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100330A [WI4-002]

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①調理に関する知識や基礎技術に基き、さらに専門性の高い調理技術を習得している。				
②テーマに合わせて、盛り付け等を含む総合的な献立立案力および実践力を有している。				
[授業概要]				
応用調理学実習Ⅰの内容に応用的な調理方法を加えた日本料理、西洋料理、中国料理などを実習し、より高度な調理理論の習得と調理技術の向上を図ります。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
配布プリントを予習し、具体的な手順を確認して実習に臨んでください。実習前の衛生面等についても十分な準備をしてください。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. 西洋料理①: サンドイッチ 他				
3. 日本料理①: 栗ごはん 他				
4. 西洋料理②: グラタン 他				
5. インド料理: チキンカレー 他				
6. 中国料理①: 上海風焼きそば 他				
7. エスニック料理: 生春巻き 他				
8. 西洋料理③: カツレツ 他				
9. 中国料理②: ゆで餃子 他				
10. 西洋料理④: クリスマス料理				
11. 日本料理②: 正月料理				
12. 学生献立: 計画1				
13. 学生献立: 計画2				
14. 学生献立: 実習				
15. 講義: まとめ				
[成績評価方法]				
実習態度(70%)、レポート(30%)				
・レポートは、授業時の全体へのコメント等でフィードバックします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 実習態度、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習態度、レポート				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100330B [WI4-002]

科目名	解剖生理学	後期	講義	2 単位
サブタイトル	からだのしくみとはたらきおよび疾病の成り立ち			
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 運動と栄養に関わる者として、必要な身体の「しくみ」と「はたらき」についての知識を学ぶことを目標とする。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、人体の解剖・人体の生理に関連する内容を教授する。 人体の成り立ちをはじめ、身体運動に関連する骨格・筋系、呼吸循環系、消化器系、内分泌系等について、解剖学的知識(構造)を基本に、生理学的知識(機能)を補足し、人体を系統的に理解する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] あらかじめ、教科書に目を通しておくことが望ましい。高校の生物の教科書も役に立つことがあります。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 細胞 2. 人体を構成する物質・恒常性 3. 細胞による組織の構築・器官と器官系 4. 消化器系 5. 呼吸器系 6. 循環器系 7. 泌尿器系 8. 血液とリンパ系 9. 運動器系 10. 神経系総論・中枢神経 11. 末梢神経 12. 感覚器系 13. 内分泌系 14. 生殖器系 15. まとめ [成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100030A [WB1-001]

科目名	解剖生理学	後期	講義	2 単位
サブタイトル	からだのしくみとはたらきおよび疾病の成り立ち			
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験 学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験 学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験 [教科書 (ISBN)] ニューステージ新生物図表 1年生前期健康管理概論(倫理学を含む)でも使用。2年生前期臨床医学概論でも使用。 著者名: 浜島書店編集部 出版社: 浜島書店 (978-4-8343-4009-9 C7345) 資料を作成し配布する。 [参考書 (ISBN)] なし				

P11100030A [WB1-001]

科目名	解剖生理学	後期	講義	2 単位
サブタイトル	からだのしくみとはたらきおよび疾病の成り立ち			
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 運動と栄養に関わる者として、必要な身体の「しくみ」と「はたらき」についての知識を学ぶことを目標とする。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、人体の解剖・人体の生理に関連する内容を教授する。 人体の成り立ちをはじめ、身体運動に関連する骨格・筋系、呼吸循環系、消化器系、内分泌系等について、解剖学的知識(構造)を基本に、生理学的知識(機能)を補足し、人体を系統的に理解する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] あらかじめ、教科書に目を通しておくことが望ましい。高校の生物の教科書も役に立つことがあります。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 細胞 2. 人体を構成する物質・恒常性 3. 細胞による組織の構築・器官と器官系 4. 消化器系 5. 呼吸器系 6. 循環器系 7. 泌尿器系 8. 血液とリンパ系 9. 運動器系 10. 神経系総論・中枢神経 11. 末梢神経 12. 感覚器系 13. 内分泌系 14. 生殖器系 15. まとめ [成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100030B [WB1-001]

科目名	解剖生理学	後期	講義	2 単位
サブタイトル	からだのしくみとはたらきおよび疾病の成り立ち			
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験 学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験 学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験 [教科書 (ISBN)] ニューステージ新生物図表 1年生前期健康管理概論(倫理学を含む)でも使用。2年生前期臨床医学概論でも使用。 著者名: 浜島書店編集部 出版社: 浜島書店 (978-4-8343-4009-9 C7345) 資料を作成し配布する。 [参考書 (ISBN)] なし				

P11100030B [WB1-001]

科目名	解剖生理学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る			
担当者	奥野 直、鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 栄養士として将来、臨床や給食、スポーツに関係する施設で栄養指導等を行うとき、対象となる人に合わせて適切な指導を行わなければならない。その人の身体状況を的確に把握するための最低限の検査の意義、施行方法ならびに正常、異常を判断できる能力を身につけることを目標とする。				
[授業概要] 人体の「しくみとはたらき」をより良く理解するために、身体を構成する細胞組織から、各種器官臓器の成り立ち、およびそれらの機能を把握することが必要である。本科目では、実際の自分自身の身体から、種々の計測ならびに観察機器を用いてデータを取得する方法およびその解釈、評価方法を学び、より客観的にヒトのからだの「しくみとはたらき」を理解することを目的とする。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 実習内容を復習し、理解できるようにレポートを作成する。また、次回の実習に関連する内容について予習する(4時間程度)				
[授業計画] 6班に分かれて、2～7の6項目、8～14の6項目の実験をローテーションで実施する 1～7については奥野、8～14については鈴木が担当し、15については両者でまとめを行う。 1. 2～7についてのガイダンス(奥野) 2. 尿の緩衝作用、尿検査(奥野) 3. 味覚検査、皮膚の2点閾値、体温・平均皮膚温の測定(奥野) 4. 視野、重心動揺の測定(奥野) 5. エネルギー代謝(1日の摂取量と消費量、活動量)の計算(奥野) 6. 身体計測、皮脂厚・体脂肪率の測定、体力テスト(奥野) 7. 肺活量、最大酸素摂取量、心拍数の測定(奥野) 8. 9～14についてのガイダンス(鈴木) 9. 赤血球数、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度の測定(鈴木) 10. 白血球の分類、白血球数、血液比重、血漿タンパク濃度の測定(鈴木) 11. 血液型、血中尿素、血糖値の測定、(OGTT)(鈴木) 12. 心電図、血圧の測定(鈴木) 13. 人体模型による各器官臓器のスケッチ(鈴木) 14. 組織標本の観察(鈴木) 15. まとめ(奥野・鈴木)				
[成績評価方法] レポート(50%×2名)により評価する。 レポートは、後日添削して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	解剖生理学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る			
担当者	奥野 直、鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] 新訂 解剖生理学実験 著者名: 川村一男編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0216-6) プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100040A [WB2-003]

科目名	解剖生理学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る			
担当者	奥野 直、鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 栄養士として将来、臨床や給食、スポーツに関係する施設で栄養指導等を行うとき、対象となる人に合わせて適切な指導を行わなければならない。その人の身体状況を的確に把握するための最低限の検査の意義、施行方法ならびに正常、異常を判断できる能力を身につけることを目標とする。				
[授業概要] 人体の「しくみとはたらき」をより良く理解するために、身体を構成する細胞組織から、各種器官臓器の成り立ち、およびそれらの機能を把握することが必要である。本科目では、実際の自分自身の身体から、種々の計測ならびに観察機器を用いてデータを取得する方法およびその解釈、評価方法を学び、より客観的にヒトのからだの「しくみとはたらき」を理解することを目的とする。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 実習内容を復習し、理解できるようにレポートを作成する。また、次回の実習に関連する内容について予習する(4時間程度)				
[授業計画] 6班に分かれて、2～7の6項目、8～14の6項目の実験をローテーションで実施する 1～7については奥野、8～14については鈴木が担当し、15については両者でまとめを行う。 1. 2～7についてのガイダンス(奥野) 2. 尿の緩衝作用、尿検査(奥野) 3. 味覚検査、皮膚の2点閾値、体温・平均皮膚温の測定(奥野) 4. 視野、重心動揺の測定(奥野) 5. エネルギー代謝(1日の摂取量と消費量、活動量)の計算(奥野) 6. 身体計測、皮脂厚・体脂肪率の測定、体力テスト(奥野) 7. 肺活量、最大酸素摂取量、心拍数の測定(奥野) 8. 9～14についてのガイダンス(鈴木) 9. 赤血球数、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度の測定(鈴木) 10. 白血球の分類、白血球数、血液比重、血漿タンパク濃度の測定(鈴木) 11. 血液型、血中尿素、血糖値の測定、(OGTT)(鈴木) 12. 心電図、血圧の測定(鈴木) 13. 人体模型による各器官臓器のスケッチ(鈴木) 14. 組織標本の観察(鈴木) 15. まとめ(奥野・鈴木)				
[成績評価方法] レポート(50%×2名)により評価する。 レポートは、後日添削して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	解剖生理学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る			
担当者	奥野 直、鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] 新訂 解剖生理学実験 著者名: 川村一男編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0216-6) プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100040B [WB2-003]

科目名	学校栄養教育論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教諭の職務と果たすべき役割を学ぶ			
担当者	本田 まり、大曲 美佐子、阿部 亜紀子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 ① 栄養教諭の役割を理解し、それに関わる制度や法規を理解している。 ② 学校給食の管理と、望ましい食習慣の形成に役立つ栄養教育の手法を身に付けている。 ③ 適切な栄養教育の計画を立案し、実践する力を修得している。				
〔 授業概要 〕 この科目は、小学校、中学校栄養教諭免許取得のためのものであり、実務経験を有する教員がオムニバス形式で担当します。児童・生徒をとりまく食生活の現状と課題を把握し、その背景、要因、問題解決の方法について考えます。また、生きた教材としての学校給食の教育的意義、管理、運営方法について学びます。さらに、家庭科等各教科における食に係る指導について理解を深め、学習指導要領の理解と指導の実際を学びます。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各授業で課題が出されます。関連時事ニュース等に関心をもち、授業前後の予習復習は4時間程度を目安に行ってください。				
〔 授業計画 〕 1. 栄養教諭の制度と役割、食育基本法、食育推進基本計画(本田) 2. 学習指導要領の意義と食育のあり方(本田) 3. 子どもの発達と食生活:体位、体力、肥満と痩せ、食生活の現状と課題(本田) 4. 家庭・地域社会との連携 (本田) 5. 個別栄養相談指導:指導法、肥満、痩せ(本田) 6. 個別栄養相談指導:食物アレルギー1(本田) 7. 個別栄養相談指導:食物アレルギー2(本田) 8. 学校給食の歴史、学校給食法、学校組織と栄養教諭(阿部) 9. 学校給食と食生活、食に関する指導の全体計画(阿部) 10. 食に関する指導の展開(阿部) 11. 給食の時間における食に関する指導(阿部) 12. 給食の時間における食に関する指導:課題の発表(阿部) 13. 家庭科等各教科における食に係る指導ー学習指導要領の理解と指導の実際ー(大曲) 14. 各教科における食に関する指導の計画案の作成と学習教材(大曲) 15. 模擬授業演習ー授業の構成と発表・評価ー(大曲)				
〔 成績評価方法 〕 課題60%、発表・質疑応答等40% ・課題については、授業時に全体へのコメントでフィードバックします。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	学校栄養教育論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養教諭の職務と果たすべき役割を学ぶ			
担当者	本田 まり、大曲 美佐子、阿部 亜紀子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題、発表・質疑応答等				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題、発表・質疑応答等				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、発表・質疑応答等				
[教科書 (ISBN)] 「四訂 栄養教諭論 理論と実際」 著者名: 金田雅代 編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-2116-7) 「中学校 学習指導要領」 著者名: 文部科学省 (MEXT 1-0804) 「小学校 学習指導要領」 著者名: 文部科学省 (MEXT1-0803)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100640 [WI3-016]

科目名	基礎演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直、重福 京子、松浦 紀美恵、糸井 亜弥、佐藤 誓子、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 本学科のコンセプトを多角的・総合的に理解し、自分の目標を立てていく。また、学士課程教育で求められる具体的な方法を理解し、大学としての学習スタイルを身に付ける。				
〔 授業概要 〕 基礎演習は前期Ⅰ・後期Ⅱとして開講し、前後期一体型のプログラムです。基礎演習Ⅰは健康スポーツ栄養学科で学ぶ専門科目の概要を理解してもらうための基礎編で、入門ゼミという位置付けです。本学科は栄養士養成を柱として健康栄養とスポーツ栄養のカテゴリーに分かれますので、自分の目標を達成するために、4年間でどのような学習をしなければならないかをこの基礎演習を通して理解してもらいたいと思っています。また、大学は高校までと違う学士課程教育といわれる学習形態をもっています。学士課程教育において求められる内容は、学ぶ技術や学問的知識の習得、書く・読む・話す・聴くことからのコミュニケーション力や数理的分析力や情報発信力、さまざまな思考法を用いての課題解決力、自らを向上させ続ける力などであり、大学4年間の学習をスムーズに進めるために必要な「大学での学び方」についても学習していきます。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 授業の課題やレポートについて予習し、復習する(2時間程度)。				
〔 授業計画 〕 各クラスを5グループに分けて、5名の教員がゼミ形式で3週間同じグループを連続で担当し、5グループをローテーションさせて15回実施する。 各教員の主な内容は、 奥野 「大学に求められる教育」と「考える力」の鍛え方について 佐藤 校外実習の概要 坂元 スポーツ栄養の現場から 重福 健康運動実践指導者の仕事・栄養と運動のかかわり 松本 国際栄養の概要と食を通して学ぶプレゼンテーションの手法 松浦 暮らしの中での食の探求と学び方 吉川 グループでの討論に関わる手法 本田 思考力を深める方法、原因と結果を考える、伝える方法を考える 木村 知識を知恵に変える方法、女性におけるリーダーシップを考える 糸井 書籍、文献検索の手法を学ぶ(図書館での情報検索、推薦本の選定)				
実施方法についてはオリエンテーション時に説明します				
〔 成績評価方法 〕 授業参加姿勢(20%)と授業中の課題・レポート等(80%)により評価します。 レポート等は、後日添削して返却します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100700 [WI1-015]

科目名	基礎演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直、重福 京子、松浦 紀美恵、糸井 亜弥、佐藤 誓子、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題・レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題・レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題・レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 課題・レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題・レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題・レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 課題・レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題・レポート				
[教科書 (ISBN)] 必要に応じてプリント配布等				
[参考書 (ISBN)] 必要に応じてプリント配布等				

P11100700 [WI1-015]

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直、重福 京子、松浦 紀美恵、糸井 亜弥、佐藤 誓子、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 本学科のコンセプトを多角的・総合的に理解し、自分の目標を立てていく。また、学士課程教育で求められる具体的な方法を理解し、大学としての学習スタイルを身に付ける。				
〔 授業概要 〕 基礎演習は前期Ⅰ・後期Ⅱとして開講し、前後期一体型のプログラムです。基礎演習Ⅰは健康スポーツ栄養学科で学ぶ専門科目の概要を理解してもらうための基礎編で、入門ゼミという位置付けです。本学科は栄養士養成を柱として健康栄養とスポーツ栄養のカテゴリーに分かれますので、自分の目標を達成するために、4年間でどのような学習をしなければならないかをこの基礎演習を通して理解してもらいたいと思っています。また、大学は高校までと違う学士課程教育といわれる学習形態をもっています。学士課程教育において求められる内容は、学ぶ技術や学問的知識の習得、書く・読む・話す・聴くことからのコミュニケーション力や数理的分析力や情報発信力、さまざまな思考法を用いての課題解決力、自らを向上させ続ける力などであり、大学4年間の学習をスムーズに進めるために必要な「大学での学び方」についても学習していきます。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 授業の課題やレポートについて予習し、復習する(2時間程度)。				
〔 授業計画 〕 各クラスを5グループに分けて、5名の教員がゼミ形式で3週間同じグループを連続で担当し、5グループをローテーションさせて15回実施する。 各教員の主な内容は、 奥野 「大学に求められる教育」と「考える力」の鍛え方について 佐藤 校外実習の概要 坂元 スポーツ栄養の現場から 重福 健康運動実践指導者の仕事・栄養と運動のかかわり 松本 国際栄養の概要と食を通して学ぶプレゼンテーションの手法 松浦 暮らしの中での食の探求と学び方 吉川 グループでの討論に関わる手法 本田 思考力を深める方法、原因と結果を考える、伝える方法を考える 木村 知識を知恵に変える方法、女性におけるリーダーシップを考える 糸井 書籍、文献検索の手法を学ぶ(図書館での情報検索、推薦本の選定)				
実施方法についてはオリエンテーション時に説明します				
〔 成績評価方法 〕 授業参加姿勢(20%)と授業中の課題・レポート等(80%)により評価します。 レポート等は、後日添削して返却します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100710 [WI1-016]

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直、重福 京子、松浦 紀美恵、糸井 亜弥、佐藤 誓子、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:課題・レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:課題・レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:課題・レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法:課題・レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:課題・レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:課題・レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:課題・レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題・レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題・レポート				
[教科書 (ISBN)] 必要に応じてプリント配布等				
[参考書 (ISBN)] 必要に応じてプリント配布等				

P11100710 [WI1-016]

科目名	基礎化学演習	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食品・栄養関連の物質、現象を科学的に考察できるように、化学の基礎知識を習得することを目的とする。				
[授業概要] 化学の基礎を学ぶことは食品・栄養関連の物質・現象などを理解する上で重要である。そこで、本授業では、物質の最小単位である原子・分子の構造、物質の状態・変化、分子の性質・運動、溶液の性質、酸化・還元などについて解説する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度実施すること。				
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 物質の構成 3. 物質の構成の問題演習 4. 物質の構成粒子①ー原子・分子・イオン 5. 物質の構成粒子②ー周期表 6. 物質の構成粒子の問題演習 7. 物質量と濃度計算と演習① 8. 物質量と濃度計算と演習② 9. 物質量と濃度計算の問題演習 10. 酸化と還元① 11. 酸化と還元② 12. 酸化と還元の問題演習 13. 酸と塩基 14. 酸と塩基の問題演習 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100920 [WS1-002]

科目名	基礎化学演習	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 [教科書 (ISBN)] これでわかる化学 著者名: 矢野潤 他 出版社: 三共出版 (978-4-7827-0574-2) [参考書 (ISBN)] 基礎無機化学 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店				

P11100920 [WS1-002]

科目名	基礎生物学演習	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 生物を構成する代表的な器官や組織を理解する。生命維持に必要な活動エネルギーの源である栄養素およびそれを獲得するためのシステムを理解する。				
[授業概要] 生物学の基礎的な知識を身につけ、我々の体内の生理機能を理解する。高校の生物の内容を復習すると共に、最新の話題を追加し、本学科で学ぶ専門科目への基礎知識を身につける。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 復習をして講義に臨むこと。必要に応じて高校の教科書・参考書も利用し、十分に理解すること。理解できない部分はオフィスアワーを有効利用すること。(計2時間程度)				
[授業計画] 1. ガイダンス・基礎 2. 細胞① 3. 細胞② 4. 生物を構成する物質① 5. 生物を構成する物質② 6. 復習・問題演習・解説 7. 栄養と代謝① 8. 栄養と代謝② 9. 栄養と代謝③ 10. 復習・問題演習・解説 11. 分化・再生 12. 組織① 13. 組織②、器官① 14. 器官② 15. 復習・問題演習・解説				
[成績評価方法] 講義中に行う試験(100%) 試験後解答の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100900 [WB1-003]

科目名	基礎生物学演習	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 医療・看護系のための 生物学(改訂版) 著者名: 田村 隆明 著 出版社: 裳華房 (978-4-7853-5233-2)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100900 [WB1-003]

科目名	基礎調理学実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 包丁の扱い方、食品の扱い方など基本的調理操作と技術の習得、各食品について調理特性を理解する。				
[授業概要] 食品の調理特性を理解し、再現性のある良好な調理が行えることを目的とする。栄養価を考慮した日常食の献立を調理することにより、献立計画立案の基礎知識を修得する。また、試食によって盛り付けや配膳、基本的な食事作法を学ぶ。喫食者の嗜好なども含めた献立の評価を行う。 (佐藤担当/7.5回・糸井担当/7.5回)				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 前回の授業の復習をする。 次回実習する献立について予習する。 予習のためのレポートを提出する。				
[授業計画] 1. オリエンテーション(調理室の使い方、実習上の諸注意、基本の調理操作、配膳など) (佐藤誓子・糸井亜弥) 2. 栄養計算に関する演習(佐藤誓子) 3. 炊飯と汁物の基本(佐藤誓子) 4. 煮物と蒸し物及びゆでる操作の基本(佐藤誓子) 5. 焼き物と炒め物の基本(佐藤誓子) 6. 揚げ物と和え物の基本(佐藤誓子) 7. 寄せ物の基本、献立作成の演習(佐藤誓子) 8. 日本料理(白飯、魚の塩焼き、焼きししとう、高野豆腐・にんじん・しめじの含め煮、かきたま汁、わらび餅)(糸井亜弥) 9. 西洋料理(パン、クリームシチュー、トマトサラダ、レモンスカッシュ)(糸井亜弥) 10. 中国料理(白飯、乾炸鶏塊、せん切りキャベツ、涼拌海蜇、蛋花湯)(糸井亜弥) 11. 日本料理(炊き込み飯、あじの南蛮漬け、茶碗蒸し)(糸井亜弥) 12. 西洋料理(パン、鮭のムニエル、コールスローサラダ、コーンスープ、コーヒーゼリー)(糸井亜弥) 13. 中国料理(白飯、麻婆豆腐、涼拌三絲、玉米湯、奶豆腐)(糸井亜弥) 14. 選択献立の調理(佐藤誓子) 15. まとめ(糸井亜弥) (食材等の関係でメニューが変更になる場合もある)				
[成績評価方法] 授業態度(60%)、レポート提出状況と内容(40%) レポートは添削して後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100310A [WI1-007]

科目名	基礎調理学実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度				
[教科書 (ISBN)] 基礎から学ぶ調理実習 著者名: 新調理研究会編 出版社: オーム社 (978-4-274-06998-7)				
[参考書 (ISBN)] NEW調理と理論 著者名: 山崎清子 他 出版社: 同文書院 (978-4-8103-1395-6) めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはこちらからナビゲーション(第2版) 著者名: 小野章史 他 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1386-9)				

P11100310A [WI1-007]

科目名	基礎調理学実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 包丁の扱い方、食品の扱い方など基本的調理操作と技術の習得、各食品について調理特性を理解する。				
[授業概要] 食品の調理特性を理解し、再現性のある良好な調理が行えることを目的とする。栄養価を考慮した日常食の献立を調理することにより、献立計画立案の基礎知識を修得する。また、試食によって盛り付けや配膳、基本的な食事作法を学ぶ。喫食者の嗜好なども含めた献立の評価を行う。 (佐藤担当/7.5回・糸井担当/7.5回)				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 前回の授業の復習をする。 次回実習する献立について予習する。 予習のためのレポートを提出する。				
[授業計画] 1. オリエンテーション(調理室の使い方、実習上の諸注意、基本の調理操作、配膳など) (佐藤誓子・糸井亜弥) 2. 栄養計算に関する演習(佐藤誓子) 3. 炊飯と汁物の基本(佐藤誓子) 4. 煮物と蒸し物及びゆでる操作の基本(佐藤誓子) 5. 焼き物と炒め物の基本(佐藤誓子) 6. 揚げ物と和え物の基本(佐藤誓子) 7. 寄せ物の基本、献立作成の演習(佐藤誓子) 8. 日本料理(白飯、魚の塩焼き、焼きししとう、高野豆腐・にんじん・しめじの含め煮、かきたま汁、わらび餅)(糸井亜弥) 9. 西洋料理(パン、クリームシチュー、トマトサラダ、レモンスカッシュ)(糸井亜弥) 10. 中国料理(白飯、乾炸鶏塊、せん切りキャベツ、涼拌海蜇、蛋花湯)(糸井亜弥) 11. 日本料理(炊き込み飯、あじの南蛮漬け、茶碗蒸し)(糸井亜弥) 12. 西洋料理(パン、鮭のムニエル、コールスローサラダ、コーンスープ、コーヒーゼリー)(糸井亜弥) 13. 中国料理(白飯、麻婆豆腐、涼拌三絲、玉米湯、奶豆腐)(糸井亜弥) 14. 選択献立の調理(佐藤誓子) 15. まとめ(糸井亜弥) (食材等の関係でメニューが変更になる場合もある)				
[成績評価方法] 授業態度(60%)、レポート提出状況と内容(40%) レポートは添削して後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	基礎調理学実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度				
[教科書(ISBN)] 基礎から学ぶ調理実習 著者名: 新調理研究会編 出版社: オーム社 (978-4-274-06998-7)				
[参考書(ISBN)] NEW調理と理論 著者名: 山崎清子 他 出版社: 同文書院 (978-4-8103-1395-6) めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはこちらからナビゲーション(第2版) 著者名: 小野章史 他 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1386-9)				

P11100310B [WI1-007]

科目名	機能運動論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 身体の動きを理解し、運動に関連する神経、筋、関節について学び、トレーニング効果や機能障害等を理解する。また運動機能の評価法を学習するとともに日常生活動作と生活関連動作を理解する。				
[授業概要] 運動のみならず、日常生活動作ならびに生活関連動作について運動の機構およびそのコントロールを理解し、運動機能の評価と障害に対する対策を学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。				
[授業計画] 1. 機能解剖とバイオメカニクスの概要 2. 骨・筋肉・関節の名称と動き1(上肢) 3. 骨・筋肉・関節の名称と動き2(上肢の関節と動き) 4. 骨・筋肉・関節の名称と動き3(下肢) 5. 骨・筋肉・関節の名称と動き4(下肢の関節と動き) 6. 骨・筋肉・関節の名称と動き5(体幹と脊柱) 7. 身体の歪みと正しい姿勢の保持 8. 体幹の運動トレーニングと姿勢バランス 9. バイオメカニクス1(筋肉の収縮様式、筋の弾性要素・弾性エネルギー) 10. バイオメカニクス2(スポーツ力学の概要) 11. バイオメカニクス3(重心、運動量と力積) 12. バイオメカニクス4(パワーの発揮とエネルギーの伝達) 13. バイオメカニクス5(慣性モーメント) 14. バイオメカニクス6(運動と流体力) 15. 運動実践指導者取得のための機能解剖学とバイオメカニクスの要点				
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)とレポート(80%)により評価します。 課題とレポートについて解説します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	機能運動論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 課題とレポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題とレポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題とレポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題とレポート				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] 理学療養士・作業療養士・言語療養士のための解剖学 著者名: 渡辺正仁 出版社: 廣川書店 (4-567-51774-1 C3047)				

P11100490 [WB2-007]

科目名	給食運営管理実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 給食現場では、栄養管理・経営管理・衛生管理・品質管理などに係る諸問題を総合的に判断し、解決する能力が求められるが、これらに対して実践的に対応可能な知識を取得することを目標とする。				
[授業概要] 給食計画実務論で学んだ知識と、給食運営管理技術の統合を図るため、実際に大量調理を行い、給食現場における種々のマネジメントを修得することに重点をおいている。 与えられた課題のみを解決するのではなく、自らが課題を発展的に展開する能力を養うことも重要であり、このような観点からも学修を行う。 なお、衛生管理のために検便を数回行う。この結果により調理作業を許可しているので、日常の健康管理にも注意を払う必要がある。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 給食計画・実務論の内容を復習し、次回の実習担当部分の予習をしておくこと (各回、予習復習合わせて2時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 献立作成演習 3. 作業管理、衛生管理、安全管理に係る事前教育 4. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(1) 5. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(2) 6. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(3) 7. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(4) 8. 試作、予定献立の作成 9. 発注計画、作業工程表の作成 10. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(1) 11. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(2) 12. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(3) 13. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(4) 14. 新調理システム実習、災害時給食講義 15. 全体を通しての評価、反省、まとめ				
[成績評価方法] 実習中の態度60%、試験20%、レポートの進捗状況20% ・試験は回収後に解説をする ・レポートは添削後に返却する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100290A [WI2-011]

科目名	給食運営管理実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:実習中の態度, 試験				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:実習中の態度				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:実習中の態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習中の態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習中の態度				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 日本栄養士会「給食経営管理論」 著者名:全国栄養士養成施設協会 出版社:第一出版 (978-4-8041-1347-0 C3377)				

P11100290A [WI2-011]

科目名	給食運営管理実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 給食現場では、栄養管理・経営管理・衛生管理・品質管理などに係る諸問題を総合的に判断し、解決する能力が求められるが、これらに対して実践的に対応可能な知識を取得することを目標とする。				
[授業概要] 給食計画実務論で学んだ知識と、給食運営管理技術の統合を図るため、実際に大量調理を行い、給食現場における種々のマネージメントを修得することに重点をおいている。 与えられた課題のみを解決するのではなく、自らが課題を発展的に展開する能力を養うことも重要であり、このような観点からも学修を行う。 なお、衛生管理のために検便を数回行う。この結果により調理作業を許可しているので、日常の健康管理にも注意を払う必要がある。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 給食計画・実務論の内容を復習し、次回の実習担当部分の予習をしておくこと (各回、予習復習合わせて2時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 献立作成演習 3. 作業管理、衛生管理、安全管理に係る事前教育 4. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(1) 5. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(2) 6. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(3) 7. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(4) 8. 試作、予定献立の作成 9. 発注計画、作業工程表の作成 10. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(1) 11. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(2) 12. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(3) 13. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(4) 14. 新調理システム実習、災害時給食講義 15. 全体を通しての評価、反省、まとめ				
[成績評価方法] 実習中の態度60%、試験20%、レポートの進捗状況20% ・試験は回収後に解説をする ・レポートは添削後に返却する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	給食運営管理実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:実習中の態度, 試験				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:実習中の態度				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:実習中の態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習中の態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習中の態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習中の態度				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 日本栄養士会「給食経営管理論」 著者名:全国栄養士養成施設協会 出版社:第一出版 (978-4-8041-1347-0 C3377)				

P11100290B [WI2-011]

科目名	給食管理実習Ⅰ（校外）	前期～後期	実習	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際			
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 事業所・小学校・福祉施設などの特定給食施設において、各施設の組織の概要を理解して各施設での給食に係る組織と運営・業務内容の実態を把握し、給食運営管理のあり方を修得する。 なお、実習時間のうち40時間を校外にて行い、5時間を事前事後教育として学内にて行う。				
[授業概要] 給食経営の資源となる、「人」「物」「金」「情報」について、それぞれの施設での運営状況を学ぶ。単なる見学ではなく、実践活動の場での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 給食計画実務論、給食運営管理実習、調理科学、基礎調理学実習、応用調理学実習Ⅰの内容を復習しておくこと(各回、予習復習合わせて2時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション(学内) 2. 各特定給食施設の特徴の把握と、自己課題作成演習(学内) 3. 大量調理実習・主として調理(校外) 4. 大量調理実習・主として調理(校外) 5. 大量調理・衛生管理(校外) 6. 大量調理・衛生管理(校外) 7. 施設の対象者に応じた食事計画演習(校外) 8. 施設の対象者に応じた食事計画演習(校外) 9. 作業工程作成演習(校外) 10. 作業工程作成演習(校外) 11. 発注計画表作成演習(校外) 12. 献立・栄養評価演習(校外) 13. 各施設での管理栄養士・栄養士の役割に関する授業(校外) 14. 実習先での反省会(校外) 15. 反省会・まとめ(学内)				
[成績評価方法] 学内での事前事後教育中の態度10%、校外での授業態度90%				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100340 [WI3-005]

科目名	給食管理実習Ⅰ（校外）	前期～後期	実習	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際			
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 事前事後教育中の授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実習先での態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 実習先での態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実習先での態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 実習先での態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 事前事後教育での授業態度, 実習先での態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習先での態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習先での態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 実習先での態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 実習先での態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実習先での態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習先での態度				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 管理栄養士・栄養士必携 著者名: 日本栄養士会 編 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1300-5 C2177)				

P11100340 [WI3-005]

科目名	給食管理実習Ⅱ（校外）	前期	実習	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際			
担当者	佐藤 誓子、鈴木 一永			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 病院・福祉施設などの特定給食施設において、各施設の組織の概要を理解して各施設での給食に係る組織と運営・業務内容の実態を把握し、給食運営管理のあり方を修得する。 なお、実習時間のうち40時間を校外にて行い、5時間を事前事後教育として学内にて行う。				
〔 授業概要 〕 給食経営の資源となる、「人」「物」「金」「情報」について、それぞれの施設での運営状況を学ぶ。実践活動の場での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。給食管理実習Ⅰ（校外）で学修した実践力をさらに充実させ、集団にある個々の対象者への対応に必要な技能を身につける。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 給食管理実習Ⅰ（校外）での学修内容を振り返ることに加え、臨床栄養学について復習しておくこと（各回、予習復習合わせて2時間程度）				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション（学内：佐藤） 2. 各特定給食施設の特徴の把握と、自己課題作成演習（学内：鈴木） 3. 大量調理実習・主として調理（校外） 4. 大量調理実習・主として調理（校外） 5. 大量調理・衛生管理（校外） 6. 大量調理・衛生管理（校外） 7. 施設の対象者に応じた食事計画演習（校外） 8. 施設の対象者に応じた食事計画演習（校外） 9. 作業工程作成演習（校外） 10. 作業工程作成演習（校外） 11. 発注計画表作成演習（校外） 12. 献立・栄養評価演習（校外） 13. 各施設での管理栄養士・栄養士の役割に関する授業（校外） 14. 実習先での反省会（校外） 15. 反省会・まとめ（学内：佐藤）				
〔 成績評価方法 〕 学内での事前事後教育中の態度10%、校外での授業態度90%				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100630 [WI4-010]

科目名	給食管理実習Ⅱ（校外）	前期	実習	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際			
担当者	佐藤 誓子、鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 実習先での態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 事前事後教育の授業態度, 実習先での態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実習先での態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 事前事後教育の授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 実習先での態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 事前事後教育の授業態度, 実習先での態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習先での態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習先での態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 実習先での態度, 事前事後教育での授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実習先での態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習先での態度				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] 管理栄養士・栄養士必携 著者名: 日本栄養士会 編 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1347-0 C3377)				

P11100630 [WI4-010]

科目名	給食計画・実務論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 給食運営のための基礎知識を学ぶ。栄養・衛生・生産・品質・原価管理など多岐に亘る栄養士・管理栄養士業務を把握し、次期の学内実習及び校外実習に活かせる学修を目標とする。				
[授業概要] 1. 給食の定義を理解する。 2. 栄養士法に示される栄養士・管理栄養士業務のうち、給食運営に関わる内容を理解する。 3. 給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営面などのマネージメントを行う能力を養う。 4. 給食の対象となる人や集団を把握した上で、個々の対象者への対応に必要な技能について学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 調理学の知識を復習して授業に臨むこと。 次回の授業内容を、教科書によって予習しておくこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 給食の概念 3. 給食における経営管理 4. 給食における栄養・食事管理(1) 5. 給食における栄養・食事管理(2) 6. 給食の組織・人事管理 7. 給食の生産(調理)管理(1) 8. 給食の生産(調理)管理(2) 9. 前半まとめ 10. 給食の品質管理 11. 給食の会計・原価管理 12. 給食の情報処理管理 13. 事故・災害時対策 14. 保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけ 15. 栄養士・管理栄養士の活動の実際、献立作成演習 16. 試験				
[成績評価方法] レポート20%, 試験70%, 授業態度10% ・レポートは講評を加えて返却する。 ・試験は回収後に解説をする。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	給食計画・実務論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート, 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度, レポート, 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート, 試験				
[教科書 (ISBN)] 給食経営管理論 サクセス管理栄養士講座 著者名: 全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1366-1)				
[参考書 (ISBN)] 管理栄養士・栄養士必携 著者名: 日本栄養士会 編 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1357-9)				

P11100280A [WI2-009]

科目名	給食計画・実務論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 給食運営のための基礎知識を学ぶ。栄養・衛生・生産・品質・原価管理など多岐に亘る栄養士・管理栄養士業務を把握し、次期の学内実習及び校外実習に活かせる学修を目標とする。				
[授業概要] 1. 給食の定義を理解する。 2. 栄養士法に示される栄養士・管理栄養士業務のうち、給食運営に関わる内容を理解する。 3. 給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営面などのマネージメントを行う能力を養う。 4. 給食の対象となる人や集団を把握した上で、個々の対象者への対応に必要な技能について学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 調理学の知識を復習して授業に臨むこと。 次回の授業内容を、教科書によって予習しておくこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 給食の概念 3. 給食における経営管理 4. 給食における栄養・食事管理(1) 5. 給食における栄養・食事管理(2) 6. 給食の組織・人事管理 7. 給食の生産(調理)管理(1) 8. 給食の生産(調理)管理(2) 9. 前半まとめ 10. 給食の品質管理 11. 給食の会計・原価管理 12. 給食の情報処理管理 13. 事故・災害時対策 14. 保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけ 15. 栄養士・管理栄養士の活動の実際、献立作成演習 16. 試験				
[成績評価方法] レポート20%, 試験70%, 授業態度10% ・レポートは講評を加えて返却する。 ・試験は回収後に解説をする。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	給食計画・実務論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート, 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度, レポート, 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度, レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート, 試験				
[教科書 (ISBN)] 給食経営管理論 サクセス管理栄養士講座 著者名: 全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1366-1)				
[参考書 (ISBN)] 管理栄養士・栄養士必携 著者名: 日本栄養士会 編 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1357-9)				

科目名	健康管理概論(倫理学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 疾患、治療と関連付けて運動実践・栄養管理に基づく健康管理について理解する。また、健康に関わる職業人としての倫理観を身につける。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、生物学・医学・健康学・その他について教授します。 健康、運動、栄養、医療倫理について疾患、治療と関連づけて、マクロおよびミクロの視点から理解する。また、健康管理と健康づくりについて、他の関係科目と併せて理解を深める。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 人間の命・人間社会における倫理について常に考え、新聞その他の報道を含めて様々な情報を入手すること。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 健康・病気とは何か(健康・病気、正常・異常、健康維持・健康増進・健康回復)、医療面接 2. 細胞の構造と働き(生物と細胞) 3. 細胞の構造と働き(細胞膜)、DNAとタンパク質合成 4. 炭酸同化・窒素同化 5. 細胞の働きと酵素(代謝・ATP・細胞呼吸) 6. 生態系と栄養・エネルギー 7. 感染症概論、感染症(寄生虫) 8. 感染症(原虫・細菌) 9. 感染症(真菌・ウイルス) 10. プリオン 11. 医療と倫理(生命・死) 12. 終末期医療 13. 医療倫理(インフォームドコンセント・倫理綱領・医療訴訟) 14. 医療倫理(個人情報) 15. まとめ [成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100410 [WI1-010]

科目名	健康管理概論(倫理学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)] ニューステージ新生物図表 1年生後期解剖生理学でも使用。2年生前期臨床医学概論でも使用。 著者名: 浜島書店編集部 出版社: 浜島書店 (978-4-8343-4009-9 C7345) 資料を作成し配布する。				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100410 [WI1-010]

科目名	健康食育論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①日本における食育推進に関連した法規や施策などの基本的枠組みを理解している。				
②食生活をめぐるを諸問題を理解し、家庭、学校・保育所等、地域における望ましい食育推進のあり方を理解している。				
③地球環境に対して、食育の観点から取り組むべき役割を理解している。				
[授業概要]				
なぜ食育が必要なのか、乳幼児から高齢期までの全ライフステージにおける食育の意義を理解し、国の施策や家庭、学校・保育所等、地域における取り組みについて具体的に学びます。また、地球環境にとって重要な食育についても学び、食育への意義を深め、実践に役立つ知識を身に付けます。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
食環境や家庭環境、地球環境、食文化などに関するニュースに目を向け、授業との関連性を深めながら知識を吸収してください。各回の授業前後の自己学習として4時間程度を目安にしてください。				
[授業計画]				
1. 健康の概念、食育基本法、第3次食育推進基本計画				
2. 生産や消費、食生活の動向と食育				
3. 食の循環と、食に関する感謝の念： 農林漁業への理解				
4. 食の循環と、食に関する感謝の念： 食品ロス				
5. 食の循環と、食に関する感謝の念： 食料自給率、地産地消				
6. 地方自治体による食育推進基本計画、食育推進運動の展開				
7. 家庭における食育の推進①				
8. 家庭における食育の推進②				
9. 家庭、学校における食育の推進				
10. 学校、保育所における食育の推進				
11. 地域における食育の推進： 食育ガイド				
12. 地域における食育の推進： 健康日本21				
13. 地域における食育の推進： 貧困の子ども、若い世代				
14. 地域における食育の推進： 高齢者				
15. まとめ				
[成績評価方法]				
試験70%、授業の際に提出する小レポート30%で評価します。				
・試験の答案を回収後、必要事項について解説をします。				
・レポートは授業の際にコメントでフィードバックします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100620 [WI2-017]

科目名	健康食育論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート、試験				
[教科書 (ISBN)] 食育白書 令和元年版 著者名: 農林水産省 出版社: 日経印刷 (9784865791853)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100620 [WI2-017]

科目名	健康スポーツ指導法Ⅱ（武道）	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	賀屋 光晴			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 柔道を通して思いやりの心や礼節について理解できる 受身、投技(手技・腰技・足技)、固め技(抑え方・逃げ方)が身につく 学修内容を当該の中学・高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求することができる				
〔 授業概要 〕 柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作や対人的技能を習得する。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につける。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 授業前: 参考図書やweb動画などを活用して、実施予定の内容や動作についての予備知識や動作イメージをみにつけておく。 授業後: 授業中に実施した内容について、うまくできた点や修正が必要と思われた点について思い出し、まとめておく。 怪我の防止や柔軟性の向上のため1日5分程度のストレッチを毎日行なう。				
〔 授業計画 〕 第1回: 柔道の歴史について 第2回: 基本動作の習得1(礼法, 受身, 姿勢) 第3回: 基本動作の習得2(礼法, 受身, 姿勢, 組み方, 歩き方, 崩し, 体捌き) 第4回: 基本動作の習得3(礼法, 受身, 崩し, 体捌き) 対人的技能の習得1: 投技(膝車, 支釣込足) 第5回: 対人的技能の習得2: 投技(大腰) 第6回: 対人的技能の習得3: 投技(体落) 第7回: 対人的技能の習得4: 投技(背負投, 一本背負投) 第8回: 対人的技能の習得5: 投技(払腰) 第9回: 対人的技能の習得6: 投技(大外刈) 第10回: 対人的技能の習得7: 投技(大内刈, 小内刈) 第11回: 対人的技能の習得8: 連絡技(小内刈から体落, 背負投など) 第12回: 対人的技能の習得9: 連絡技(支釣込足から大腰など) 第13回: 対人的技能の習得10: 連絡技(投技から固技) 第14回: 対人的技能の習得11: 固技(抑え技: 袈裟固, 横四方固) 第15回: 対人的技能の習得12: 固技(抑え技: 上四方固, 縦四方固)				
〔 成績評価方法 〕 技術の理解度と上達度(60%), 参加態度(40%)を合わせて、総合的に評価する				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11101020 [WI1-018]

科目名	健康スポーツ指導法Ⅱ（武道）	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	賀屋 光晴			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:実技試験(上達度確認)				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:参加態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:参加態度				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 「女子のための柔道の教科書」 著者名:木村昌彦ほか、 出版社:土屋書店 (978-4806912828) 「ジュニアのための考える柔道(改訂新版)」 著者名:向井 幹博, 山口 香 出版社:東京書店 (978-4885746369) 「心・技・体を強くする! 柔道 基本と練習メニュー」 著者名:井上 康生 出版社:池田書店 (978-4262163826) よくわかる柔道受身の全て 著者名:木村昌彦 出版社:ベースボールマガジン社 (978-4583109992)				

P11101020 [WI1-018]

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	実習	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価			
担当者	小田 慶喜			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 健康・体力づくりの指導者として、健康・体力づくりの基礎的な知識を理解した上で、体力テストを実施し、結果を評価する方法を理解する。また、それらを健康・体力づくりやトレーニングに安全かつ効果的に活用する力を養う。				
[授業概要] 有酸素性、無酸素性作業能力を表す指標や身体組成の測定原理とそれらの測定方法について実習を通して理解する。また、新体力テストの各項目と体力要素の関連を理解し、実習を通して体力テストの結果を評価する方法と健康・体力づくりやトレーニングなどへの活用方法を理解する。また、体力測定は、個人や集団の体力の実態を要因別、総合的に評価し健康づくり策の重要性であることを理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 健康運動実践指導者には、現場で対応するための多くの実践的知識の活用が必要とされます。すでに学んでいる知識を実践的に活用できるように、教科書を事前に読んで知識の整理をしておいてください。				
[授業計画] 1. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について① 2. 体力の概念と構成要素、体力測定の目的や対象について 3. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について② 4. 身体組成の測定方法について① 5. 身体組成の測定方法について② 6. 新体力テストと測定方法 7. 体力測定① 8. 体力測定② 9. 測定結果の評価① 10. 測定結果の評価② 11. 測定結果からのトレーニング方法実践① 12. 測定結果からのトレーニング方法実践② 13. 体力測定③ 14. 体力測定④ 15. 測定結果の評価③、発表、まとめ				
[成績評価方法] 授業態度(25%)、発表(25%)、個人スキル(50%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100470A [WI3-011]

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	実習	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価			
担当者	小田 慶喜			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容:栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:				
[教科書(ISBN)] 健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名:不明 出版社:(財)健康・体力づくり事業財団				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100470A [WI3-011]

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	実習	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価			
担当者	小田 慶喜			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 健康・体力づくりの指導者として、健康・体力づくりの基礎的な知識を理解した上で、体力テストを実施し、結果を評価する方法を理解する。また、それらを健康・体力づくりやトレーニングに安全かつ効果的に活用する力を養う。				
[授業概要] 有酸素性、無酸素性作業能力を表す指標や身体組成の測定原理とそれらの測定方法について実習を通して理解する。また、新体力テストの各項目と体力要素の関連を理解し、実習を通して体力テストの結果を評価する方法と健康・体力づくりやトレーニングなどへの活用方法を理解する。また、体力測定は、個人や集団の体力の実態を要因別、総合的に評価し健康づくり策の重要性であることを理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 健康運動実践指導者には、現場で対応するための多くの実践的知識の活用が必要とされます。すでに学んでいる知識を実践的に活用できるように、教科書を事前に読んで知識の整理をしておいてください。				
[授業計画] 1. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について① 2. 体力の概念と構成要素、体力測定の目的や対象について 3. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について② 4. 身体組成の測定方法について① 5. 身体組成の測定方法について② 6. 新体力テストと測定方法 7. 体力測定① 8. 体力測定② 9. 測定結果の評価① 10. 測定結果の評価② 11. 測定結果からのトレーニング方法実践① 12. 測定結果からのトレーニング方法実践② 13. 体力測定③ 14. 体力測定④ 15. 測定結果の評価③、発表、まとめ				
[成績評価方法] 授業態度(25%)、発表(25%)、個人スキル(50%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100470B [WI3-011]

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	実習	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価			
担当者	小田 慶喜			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容:栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:				
[教科書(ISBN)] 健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名:不明 出版社:(財)健康・体力づくり事業財団				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100470B [WI3-011]

科目名	健康福祉論(ライフサイクルとQOLを含む)	後期	講義	2 単位
サブタイトル	健康と福祉の関係			
担当者	重福 京子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 人々が心身ともに健やかな状態で、障がいをもつ・もたないにかかわらず、こどもから高齢者まで、誰もがいきいきと生きることのできる健康的な暮らしのあり方を理解する。				
[授業概要] 誰もが心身ともに健康で、いきいきと生きることのできる健康的な暮らしのあり方を考え、健康寿命の延伸と健康に関する生活の質(QOL)の向上をめざし、一人一人が自己の選択に基づいて健康を増進する。そして個人の活動を社会全体が支援していくことの健康日本21基本理念を理解し、子どもから高齢者に至るまで、健康を支えるための知識と実践力を身につける。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から授業に関係するニュースに関心を持つこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 健康観について 3. 健康生活について 4. 健康福祉について 5. ライフサイクルと健康福祉1 6. ライフサイクルと健康福祉2 7. ライフサイクルと健康福祉3 8. ライフサイクルと健康福祉4 9. ライフサイクルと健康福祉5 10. グループ発表1 11. グループ発表2 12. グループ発表3 13. グループ発表4 14. まとめ1 15. まとめ2				
[成績評価方法] 試験(40%)、レポート(30%)、受講態度(30%) 答案の回収後、回答のポイントについて解説をする。 レポートは返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	健康福祉論(ライフサイクルとQOLを含む)	後期	講義	2 単位
サブタイトル	健康と福祉の関係			
担当者	重福 京子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 受講態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100600 [WI2-016]

科目名	公衆衛生学	前期	講義	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康			
担当者	木村 大輔、鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 公衆衛生学は、人の健康の保持・増進を考える学問である。各種統計を理解し、社会環境と健康問題、国および地方公共団体により行われている施策、WHO等の国際機関の活動について学ぶ。				
[授業概要] 公衆衛生とは、地域社会の組織的努力によって人間集団の健康保持・増進のための施策が展開されるものである。様々な施策を推進する上での基盤となるのが統計であり、公衆衛生学では、健康・疾病・行動に関する統計の概念を理解する必要がある。さらに、現行の公衆衛生活動ならびに生活環境により引き起こされる健康障害について学び、栄養士としての活動の基盤を形成する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業内容を復習して十分に理解し、日常の報道(新聞・TVなど)から、関連する最新の話題も常に注目すること(計4時間程度)。				
[授業計画] 1. 公衆衛生の基本(鈴木) 2. 保健統計(木村) 3. 産業保健・国際保健(鈴木) 4. 疫学の概念・疫学研究・スクリーニング(木村) 5. 疫学研究における情報の活用・倫理(木村) 6. 公衆衛生活動の理論・モデル(木村) 7. 生活習慣の現状(木村) 8. 生活習慣病(鈴木) 9. 感染症・難病(木村) 10. 地域保健・高齢者保健・精神保健(木村) 11. 母子保健・学校保健・障害者保健・歯科保健(木村) 12. 環境と健康-上下水道-(学外特別講師:神戸市水道局水質試験所 所長 小田 琢也) 13. 医療対策・社会保障(鈴木) 14. 保険と医療と福祉の連携(木村) 15. まとめ(鈴木・木村) 順序は変更になる場合があります。				
[成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 試験後解答の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	公衆衛生学	前期	講義	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康			
担当者	木村 大輔、鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 試料配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100010A [WB3-001]

科目名	公衆衛生学	前期	講義	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康			
担当者	木村 大輔、鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 公衆衛生学は、人の健康の保持・増進を考える学問である。各種統計を理解し、社会環境と健康問題、国および地方公共団体により行われている施策、WHO等の国際機関の活動について学ぶ。				
[授業概要] 公衆衛生とは、地域社会の組織的努力によって人間集団の健康保持・増進のための施策が展開されるものである。様々な施策を推進する上での基盤となるのが統計であり、公衆衛生学では、健康・疾病・行動に関する統計の概念を理解する必要がある。さらに、現行の公衆衛生活動ならびに生活環境により引き起こされる健康障害について学び、栄養士としての活動の基盤を形成する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業内容を復習して十分に理解し、日常の報道(新聞・TVなど)から、関連する最新の話題も常に注目すること(計4時間程度)。				
[授業計画] 1. 公衆衛生の基本(鈴木) 2. 保健統計(木村) 3. 産業保健・国際保健(鈴木) 4. 疫学の概念・疫学研究・スクリーニング(木村) 5. 疫学研究における情報の活用・倫理(木村) 6. 公衆衛生活動の理論・モデル(木村) 7. 生活習慣の現状(木村) 8. 生活習慣病(鈴木) 9. 感染症・難病(木村) 10. 地域保健・高齢者保健・精神保健(木村) 11. 母子保健・学校保健・障害者保健・歯科保健(木村) 12. 環境と健康-上下水道-(学外特別講師:神戸市水道局水質試験所 所長 小田 琢也) 13. 医療対策・社会保障(鈴木) 14. 保険と医療と福祉の連携(木村) 15. まとめ(鈴木・木村) 順序は変更になる場合があります。				
[成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 試験後解答の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	公衆衛生学	前期	講義	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康			
担当者	木村 大輔、鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)] 試料配布				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100010B [WB3-001]

科目名	公衆栄養学概論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	林 宏一			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 公衆栄養学が社会に果たす役割を理解できるようになる。 公衆栄養活動の理念を理解できるようになる。 科学的根拠に基づく公衆栄養活動の重要性が理解できるようになる。 わが国および諸外国において実施されている公衆栄養活動に共通する展開の手法を理解できるようになる。 [授業概要] 集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラム(計画・実施・モニタリング・評価・フィードバック)をマネジメントするための理論を学習します。さらに、わが国及び諸外国においてどのような健康・栄養問題が存在し、その課題を解決するために展開されている栄養政策について学習します。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] この科目は、社会と密接な関係がある内容を学習します。日ごろから、報道等に接し、健康・栄養問題にかかわる社会情勢を積極的に見聞しておいてください。 各回、予習復習合わせて4時間程度の学修をしましょう。 [授業計画] 1. 公衆栄養学の概念(公衆栄養学が目指すもの、公衆栄養活動の理念) 2. 公衆栄養マネジメントとアセスメント 3. 公衆栄養プログラム計画と目標 4. 公衆栄養プログラムの実施と評価 5. 栄養疫学(疫学の概念と基礎) 6. 栄養疫学(食事調査方法の種類と特徴) 7. わが国の健康・栄養問題の現状と課題(少子高齢化問題含む) 8. わが国の食事・食生活・食環境の変化 9. わが国の栄養政策①(公衆栄養活動の歴史、法規、管理栄養士・栄養士制度) 10. わが国の栄養政策②(日本人の食事摂取基準—活用と評価—) 11. わが国の栄養政策③(国民健康・栄養調査、特別用途食品・保健機能食品プログラム、栄養成分表示プログラム) 12. わが国の栄養政策④(健康づくりのための各種ツール) 13. わが国の栄養政策⑤(健康日本21、特定健診・特定保健指導ほか) 14. 諸外国における健康・栄養問題の現状・課題と対策 15. これからの公衆栄養学の展望と課題 16. 試験 [成績評価方法] ①毎回の学習内容理解度(小テスト形式)(15%)、②学習の中間確認(テスト形式)(10%)、③試験(75%)で評価します。 フィードバックは、①②については採点後の授業時に全体的なコメントを、③については採点後に採点結果の全体的なコメントを掲示することによって行います。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	公衆栄養学概論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	林 宏一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。				
成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。				
成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力				
成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)]				
健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂最新版 著者名: 吉池信男他編 出版社: 南江堂 (978-4-524-25283-1)				
[参考書(ISBN)]				
日本人の食事摂取基準(2015年版) 著者名: 厚生労働省 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1312-8)				

P11100260A [WI2-008]

科目名	公衆栄養学概論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	林 宏一			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 公衆栄養学が社会に果たす役割を理解できるようになる。 公衆栄養活動の理念を理解できるようになる。 科学的根拠に基づく公衆栄養活動の重要性が理解できるようになる。 わが国および諸外国において実施されている公衆栄養活動に共通する展開の手法を理解できるようになる。 [授業概要] 集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラム(計画・実施・モニタリング・評価・フィードバック)をマネジメントするための理論を学習します。さらに、わが国及び諸外国においてどのような健康・栄養問題が存在し、その課題を解決するために展開されている栄養政策について学習します。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] この科目は、社会と密接な関係がある内容を学習します。日ごろから、報道等に接し、健康・栄養問題にかかわる社会情勢を積極的に見聞しておいてください。 各回、予習復習合わせて4時間程度の学修をしましょう。 [授業計画] 1. 公衆栄養学の概念(公衆栄養学が目指すもの、公衆栄養活動の理念) 2. 公衆栄養マネジメントとアセスメント 3. 公衆栄養プログラム計画と目標 4. 公衆栄養プログラムの実施と評価 5. 栄養疫学(疫学の概念と基礎) 6. 栄養疫学(食事調査方法の種類と特徴) 7. わが国の健康・栄養問題の現状と課題(少子高齢化問題含む) 8. わが国の食事・食生活・食環境の変化 9. わが国の栄養政策①(公衆栄養活動の歴史、法規、管理栄養士・栄養士制度) 10. わが国の栄養政策②(日本人の食事摂取基準—活用と評価—) 11. わが国の栄養政策③(国民健康・栄養調査、特別用途食品・保健機能食品プログラム、栄養成分表示プログラム) 12. わが国の栄養政策④(健康づくりのための各種ツール) 13. わが国の栄養政策⑤(健康日本21、特定健診・特定保健指導ほか) 14. 諸外国における健康・栄養問題の現状・課題と対策 15. これからの公衆栄養学の展望と課題 16. 試験 [成績評価方法] ①毎回の学習内容理解度(小テスト形式)(15%)、②学習の中間確認(テスト形式)(10%)、③試験(75%)で評価します。 フィードバックは、①②については採点後の授業時に全体的なコメントを、③については採点後に採点結果の全体的なコメントを掲示することによって行います。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	公衆栄養学概論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	林 宏一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。				
成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。				
成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力				
成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)]				
健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂最新版 著者名: 吉池信男他編 出版社: 南江堂 (978-4-524-25283-1)				
[参考書(ISBN)]				
日本人の食事摂取基準(2015年版) 著者名: 厚生労働省 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1312-8)				

P11100260B [WI2-008]

科目名	公衆栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 公衆栄養活動はマネジメントサイクル(アセスメント、目標の設定、計画の立案、プログラムの実施と評価、結果のフィードバック)に基づいて実施されていることを理解し、集団に対してプレゼンテーションツールを用いて健康教育ができることを目指す。				
[授業概要] 人々のQuality of Life(生活の質)の向上を目指すには、地域住民や特定集団を対象とした栄養上の問題点を把握し、改善方法について考え、プランニングすることが必要である。対象となる地域住民や特定集団の食生活に関する健康問題を解決するため、根拠に基づいた計画、実施、評価、改善のプロセスを取り入れたヘルスプロモーションを実施・展開する方法を学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 課題に沿って期限までにグループワークによるスライドと発表原稿を作成、提出する。 プレゼンテーションツールのエクセルおよびパワーポイントの基本的操作を習得していることが望ましい。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント① 3. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント② 4. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント③ 5. 疾病予防を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション 6. 食に関わる因子についての質問紙の作成および調査 7. 食事調査(食事記録・食物摂取頻度・24時間思い出し) 8. 食事調査による栄養素摂取量および食品群別摂取量の算出 9. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析(データ集計) 10. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析(統計解析) 11. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析についてのプレゼンテーション 12. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント① 13. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント② 14. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント③ 15. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション				
[成績評価方法] 発表内容(40%)、スライド提出状況と内容(40%)、授業態度(20%) 発表内容とスライドは発表時に添削してコメントする。 発表内容、スライド、発表準備作業状況については学生同士で採点し、その点数も評価に加算する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	公衆栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 発表、スライド				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 発表、スライド				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 発表、スライド				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表、スライド				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表、スライド				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表、スライド				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100270A [WI3-004]

科目名	公衆栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 公衆栄養活動はマネジメントサイクル(アセスメント、目標の設定、計画の立案、プログラムの実施と評価、結果のフィードバック)に基づいて実施されていることを理解し、集団に対してプレゼンテーションツールを用いて健康教育ができることを目指す。				
[授業概要] 人々のQuality of Life(生活の質)の向上を目指すには、地域住民や特定集団を対象とした栄養上の問題点を把握し、改善方法について考え、プランニングすることが必要である。対象となる地域住民や特定集団の食生活に関する健康問題を解決するため、根拠に基づいた計画、実施、評価、改善のプロセスを取り入れたヘルスプロモーションを実施・展開する方法を学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 課題に沿って期限までにグループワークによるスライドと発表原稿を作成、提出する。 プレゼンテーションツールのエクセルおよびパワーポイントの基本的操作を習得していることが望ましい。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 疾病予防を目的とした栄養マネージメント① 3. 疾病予防を目的とした栄養マネージメント② 4. 疾病予防を目的とした栄養マネージメント③ 5. 疾病予防を目的とした栄養マネージメントについてのプレゼンテーション 6. 食に関わる因子についての質問紙の作成および調査 7. 食事調査(食事記録・食物摂取頻度・24時間思い出し) 8. 食事調査による栄養素摂取量および食品群別摂取量の算出 9. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析(データ集計) 10. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析(統計解析) 11. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析についてのプレゼンテーション 12. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネージメント① 13. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネージメント② 14. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネージメント③ 15. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネージメントについてのプレゼンテーション				
[成績評価方法] 発表内容(40%)、スライド提出状況と内容(40%)、授業態度(20%) 発表内容とスライドは発表時に添削してコメントする。 発表内容、スライド、発表準備作業状況については学生同士で採点し、その点数も評価に加算する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	公衆栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 発表、スライド				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 発表、スライド				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 発表、スライド				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表、スライド				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表、スライド				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表、スライド				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100270B [WI3-004]

科目名	国際栄養論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	世界の食、栄養と健康			
担当者	松本 衣代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] ヒトの栄養状態、健康状態を、広く国際的見地から其の歴史的背景や食環境、食生活習慣、栄養の基本概念や栄養教育に関する考え方の違い等で捉えて理解する。				
[授業概要] 各国の推奨栄養所要量に対する目的や考え方に違いがあり、又、栄養所要量は対象となる国民の年齢、生理的状态、入手できる食物、生活文化、地理的条件などによりかなり異なっている。各国が定める栄養の基本概念や栄養教育について国際比較し、又、わが国を含め世界の国々の食環境や食文化、食のあり方について学習する。又、日程は未定であるが、海外からの招聘研究者(ドイツ、インドネシア)を迎えて、セミナー形式の授業で国際栄養の実情を学ぶ機会を設ける。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. 世界の食糧と栄養問題について 2. 21世紀の食と健康問題(1): 栄養の二重苦 3. 21世紀の食と健康問題(2): 食生活の変遷と健康への影響 ① 4. 21世紀の食と健康問題(3): 食生活の変遷と健康への影響 ② 5. ヨーロッパの食と健康問題(1): 北欧, 東欧, 6. ヨーロッパの食と健康問題(2): 南欧, 西欧 7. アジア地域の食と健康問題(1): 南アジア・東南アジア・西アジア 8. アジア地域の食と健康問題(2): 中央アジア・東アジア 9. 環太平洋地域の食と健康問題 10. アメリカ大陸の食と健康問題(1): アメリカ合衆国 11. アメリカ大陸の食と健康問題(2): 南アメリカ大陸諸国 12. アフリカ大陸の食と健康問題 13. 世界の人々の栄養と健康(1): 各国の推奨栄養所要量 ① 14. 世界の人々の栄養と健康(2): 各国の推奨栄養所要量 ② 15. ディスカッション、まとめ				
[成績評価方法] レポート(60%)、小テスト(40%) レポートは後日添削して返却します。試験を回収後、回答の解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100590 [WI1-012]

科目名	国際栄養論	後期	講義	2 単位
サブタイトル	世界の食、栄養と健康			
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: レポート、小テスト [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、小テスト [教科書 (ISBN)] プリント配布 [参考書 (ISBN)] なし				

P11100590 [WI1-012]

科目名	国際健康福祉プログラム I	前期	演習	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program			
担当者	松本 衣代、野口 和美			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] インドネシア・バリ島での大学病院や地域保健所等での研修や実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に付けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。				
[授業概要] インドネシア共和国立バリ州(バリ島)にあるインドネシア国立ウダヤナ大学と神戸女子大学の提携によって企画された健康福祉プログラムで、急激な発展途上にありdouble burden of nutrition に直面するインドネシア・バリ島において、過剰と不足と言う健康問題の二極化を地域の保健所、病院、各福祉施設等の見学を通して実際に触れながら理解を深める。また、ウダヤナ大学医学部在学学生との交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。英会話の勉強を日頃よりしておく。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1. オリエンテーション(健康スポーツ栄養学科・松本衣代) 2. インドネシアにおける共同研究と健康・栄養調査(健康スポーツ栄養学科・松本衣代) 3. 国際協働について(神戸国際教養学科・野口和美) 4. インドネシアの医療事情(健康スポーツ栄養学科・松本衣代) 5. インドネシアの福祉事情(健康スポーツ栄養学科・松本衣代) 6. ウダヤナ大学における研修—インドネシア・バリ島の健康栄養問題講義(ウダヤナ大学医学部教員) 7. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学① 公立病院(ウダヤナ大学医学部教員) 8. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学② 大学附属病院(ウダヤナ大学医学部教員) 9. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学③ 保健所(都市部)(ウダヤナ大学医学部教員) 10. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学④ 保健所(農村部)(ウダヤナ大学医学部教員) 11. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学⑤ 介護老人施設等(ウダヤナ大学医学部教員) 12. ウダヤナ大学における研修—東南アジアの生活習慣病について(ウダヤナ大学医学部教員) 13. ウダヤナ大学における研修—ウダヤナ大学医学部学生とのディスカッション 14. 総合討論・まとめ(修了式)(ウダヤナ大学医学部教員) 15. 神戸女子大学での研修報告会(健康スポーツ栄養学科松本衣代)				
[成績評価方法] レポート(研修・活動報告書を含む)50%、プレゼンテーション(50%)。レポートは、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100810 [WI3-014]

科目名	国際健康福祉プログラム I	前期	演習	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program			
担当者	松本 衣代、野口 和美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション [教科書(ISBN)] 必要に応じて文献、プリント等配布 [参考書(ISBN)] 旅の指さし会話帳(2)インドネシアーインドネシア語(ここ以外のどこかへ) 著者名: 武部洋子 出版社: 情報センター出版局(4795845034)				

P11100810 [WI3-014]

科目名	国際健康福祉プログラムⅡ	前期	演習	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program			
担当者	松本 衣代、奥野 直、狩野 恭			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] ドイツのリハビリテーション病院での臨床栄養・健康福祉研修等の実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に付けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。				
[授業概要] 世界的超高齢化社会を迎えた21世紀において、肥満、糖尿病等の生活習慣病の問題はドイツをはじめとしてEU諸国においても深刻である。その対応策として治療に食事療法・運動療法を効果的に取り入れ、且つ、健康・医療を社会福祉理念に基づき運営されるドイツのリハビリテーション病院(ホーエン・フロイデンシュタット病院他)における研修を行い、実学としての海外における臨床栄養、医療・社会福祉の現場を学び、また、現地の医療スタッフや患者さんたちとの交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。又、英会話の勉強を日頃よりしておく。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1. オリエンテーション (松本) 2. ドイツ社会と歴史・言語 (狩野恭) 3. 運動療法 (奥野) 4. 生活習慣病を中心とした臨床栄養概論1 (松本) 5. 生活習慣病を中心とした臨床栄養概論2 (松本) 6. 臨床栄養学実習特論 (松本) 7. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修① 糖尿病の栄養療法について 8. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修② 高血圧症の栄養療法について 9. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修③ 肥満症の栄養療法について 10. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修④ 水浴療法について 11. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑤ 森林療法について 12. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑥ 運動療法について(ジム) 13. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑦ 運動療法について(プール) 14. 総合討論・まとめ(修了式) * 7～14の担当はホーエン・フロイデンシュタット病院スタッフと松本とする 15. 神戸女子大学での研修報告会(松本)				
[成績評価方法] 実習レポート(報告書)50%、報告会でのプレゼンテーション(50%)。レポートは、評価後返却します。プレゼンテーションは、ルブリックを基に評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100820 [WI3-015]

科目名	国際健康福祉プログラムⅡ	前期	演習	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program			
担当者	松本 衣代、奥野 直、狩野 恭			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション				
学科DP番号／DP内容:栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:レポート、プレゼンテーション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 必要に応じて文献等プリント配布				

P11100820 [WI3-015]

科目名	コメディカル領域の化学演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食品・栄養関連の問題に科学的に対処できるように酸塩基の知識、有機化学の基礎知識、臨床現場における必要な統計学、化学分析手法を習得することを目的とする。				
[授業概要] 酸塩基ならびに有機化学は食を学ぶ上で避けては通れない内容である。有機化学の知識は食品・栄養学、生物化学などと関連し、それらを学ぶ上で必要不可欠である。また、臨床現場で行われている検査なども全て化学反応である。そこで、本授業では、基礎的な内容の酸塩基および有機化合物の性質について解説する。さらに、臨床現場で用いられている化学反応の原理や化学反応で得られた数値を理解できるように解説する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。予習復習合わせて2時間程度実施すること。				
[授業計画] 1. ガイダンス 2. コメディカルの化学①ー装置・器具の扱い方 3. コメディカルの化学②ー統計的手法の考え方 4. コメディカルの化学③ー検査値の読み方 5. コメディカルの化学④ー臨床サンプルの扱い方 6. 2. ～5. の課題演習 7. コメディカルの化学⑤ー酵素分析の原理 8. コメディカルの化学⑥ードライケミストリーの原理 9. コメディカルの化学⑦ーセンサーの原理 10. コメディカルの化学⑧ー免疫測定法の原理 11. 7. ～12. の課題演習 12. コメディカル分野の輪読演習① 13. コメディカル分野の輪読演習② 14. 復習 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(50%)ならびにレポート(50%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100930 [WS1-003]

科目名	コメディカル領域の化学演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験・レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験・レポート [教科書 (ISBN)] 臨床分析学のサブノート 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店 [参考書 (ISBN)] 基礎無機化学 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店				

P11100930 [WS1-003]

科目名	コメディカル領域の生物学演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 生体は、内外の環境変化から如何にして個を保つのか、恒常性について複雑な維持機構について理解する。さらに、生体および生物の多様性、ならびに、微生物と我々の生活の関わりについて理解する。				
[授業概要] 生体を常に一定の状態に維持するためのしくみはどのようなものであるのか。さらには、地球上には多種多様な生物が存在し、それぞれが独特の行動様式で生活を営んでいるが、ヒトを含めた生物が我々の社会にとってどういう意味を持ち、どういう位置づけなのかも含め、多角的に生物学を理解する。高校生物の内容もおりまぜながら、大学人の教養としての生物学を学び、コメディカル(栄養士など)の観点から学べるように講義を進める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 復習をして講義に臨むこと。必要に応じて高校の教科書・参考書も利用し、十分に理解すること。理解できない部分はオフィスパワーを有効利用すること。(計2時間程度)				
[授業計画] 1. コメディカルの生物について 2. 恒常性① 3. 恒常性②課題演習 4. 恒常性③ 5. 恒常性④課題演習 6. 課題演習 7. グループワーク・プレゼンテーション 8. 微生物と感染症① 9. 免疫① 10. 免疫②問題演習 12. 癌・老化① 13. 癌・老化②問題演習 14. 課題演習 15. グループワーク・プレゼンテーション				
[成績評価方法] 講義中に行う試験(100%) 試験後解答の解説を行う。				
[オフィスパワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100910 [WB1-004]

科目名	コメディカル領域の生物学演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)]				
医療・看護系のための 生物学(改訂版) 著者名: 田村 隆明 著 出版社: 裳華房 (978-4-7853-5233-2)				
[参考書 (ISBN)]				
なし				

P11100910 [WB1-004]

科目名	災害時の食事・栄養管理実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 地震・風水害等の災害時の非常時に栄養士としての役割を遂行できる知識と技術を身に付ける。また、家族や近所の人、自らの生命を守るために咄嗟の判断力を養い、危険を回避できる知識と技術を習得する。				
[授業概要] 近年、日本で発生している災害についての基礎知識を持ち、過去に発生した災害時の食事状況を把握して、ライフラインの停止時、ライフラインの復旧後など段階別での食品の仕分けや調理方法を考え実施する。また、防災センターの見学や実際に街を歩き、避難所までの避難経路に危険がないかなどを確認し、グループワークを行い知識と判断力を取得する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 自然災害に関連する新聞や資料を読み、良く理解をしておくこと。コンビニやスーパーの食品売り場で保存性が高く、調理が簡単にできる食品を探しておくなど、災害時にに関する予習を行っておくこと。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 災害についての基本的知識① 3. 災害についての基本的知識② 4. 災害についての基本的知識③ 5. 防災センター見学① 6. 防災センター見学② 7. 災害時の「食」「生活」の対処方法① 8. 災害時の「食」「生活」の対処方法② 9. 災害時の「食」「生活」の対処方法③ 10. 災害時の「食」「生活」の対処方法④ 11. 災害時の「食」「生活」の対処方法⑤ 12. 災害時の「食」「生活」の対処方法⑥ 13. 災害時の「支援」について① 14. 災害時の「支援」について② 15. まとめ ※ 順序が入れ替わる場合があります。				
[成績評価方法] レポート・献立作成(50%)、発表・実技(50%) ・レポート・献立は、後日添削して返却します。 ・発表・実技は、発表内容やその制作過程、実技過程や出来上がりなどを総合的に評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	災害時の食事・栄養管理実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100800 [WI4-009]

科目名	社会福祉援助技術	前期	演習	1 単位
サブタイトル	社会福祉援助の理解と実践			
担当者	曾田 里美			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 社会福祉援助に係る知識、技術を実践的に修得する。また、それらの技術が対人関係において活用できるようになることを目指す。 [授業概要] 演習を通して、自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な社会福祉援助事例の検討を通して、援助に係る価値観、知識、技術を理解する。これらを通して社会福祉援助の特徴を修得していく。また、授業では担当教員の児童福祉施設での実践経験やそこで得た知見を伝え、社会福祉援助の実際を感じ取る授業を展開する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回について予習・復習2時間程度 前回の授業内容を復習し理解しておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心をもつこと。 [授業計画] 1. オリエンテーション 2. 自己理解 3. 他者理解 4. 自己理解と他者理解の関係 5. 人権 6. 差別・偏見 7. 社会的排除と社会的包摂 8. 権利擁護 9. 自立支援 10. クライアントの利益の最優先 11. 倫理的ジレンマ 12. 個別化 13. 受容と非審判的態度 14. 自己決定 15. まとめ [成績評価方法] 授業の参加・態度(20点)と毎回の授業の振り返り(30点)レポート試験(50点)により評価する。毎回の授業の振り返りはコメントをつけて返却する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100610 [WI4-008]

科目名	社会福祉援助技術	前期	演習	1 単位
サブタイトル	社会福祉援助の理解と実践			
担当者	曾田 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験				
[教科書 (ISBN)] 使用しない。プリントを配布する。				
[参考書 (ISBN)] 「ソーシャルワーク演習ケースブック」 著者名: ソーシャルワーク演習教材開発研究会編 出版社: みらい 2012 (978-4-86015-273-4)				

P11100610 [WI4-008]

科目名	社会福祉論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉			
担当者	小笠原 慶彰			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 栄養士教育における専門的基礎分野の「社会・環境（人間や生活）と健康」として、社会福祉の基本的知識を獲得するとともに、栄養士のための社会福祉について理解することを目指す。				
[授業概要] 社会福祉とは何か、どのような社会福祉が望ましいのか、といった基本的な理解を可能にするため、生活の場、実践の場で生起する具体的な課題から福祉問題を捉え、社会福祉の価値、社会福祉の制度、社会福祉のフィールドといった柱を建てて講義する。さらに栄養士にとって社会福祉を学ぶことの意義や社会福祉の分野で働く栄養士の職務についても言及する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 予習(2時間) ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。 ・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。 復習(2時間) ・板書をしないので授業内容をまとめておく。 ・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. ライフサイクルと生活問題・社会福祉に必要な理性と感性 3. 社会福祉の発展・社会福祉サービス・制度の枠組み 4. 「社会福祉」と「社会事業」 5. 20世紀初めまでのイギリス・アメリカ・日本 6. 20世紀前半の各国 7. 社会福祉の原理・理念・先駆者たちの福祉実践思想 8. 社会福祉の人権・人間尊重の思想・新しい福祉の理念 9. 社会福祉の法や制度の意義と体系・福祉サービスの主要な法律 10. 社会保障制度・社会福祉の行財政 11. 社会福祉の専門職・社会福祉専門職の専門性と倫理・専門職制度 12. 社会福祉援助の意義・価値・原理・援助の特徴と技術の内容 13. 分野ごとの各相談機関と施設・社会資源としての非専門職パワー 14. 社会の現状と社会福祉政策・社会福祉機関の役割 15. 総まとめと最終試験・試験解説				
[成績評価方法] 授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものをを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式（正誤式または択一式）で実施する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	社会福祉論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 [教科書(ISBN)] 『社会福祉』(新・基礎からの社会福祉1) 著者名: 室田保夫監修 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-08295-7) [参考書(ISBN)] なし				

P11100020A [WH4-022]

科目名	社会福祉論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉			
担当者	小笠原 慶彰			

〔実務経験のある教員による授業〕

〔到達目標〕

栄養士教育における専門的基礎分野の「社会・環境(人間や生活)と健康」として、社会福祉の基本的知識を獲得するとともに、栄養士のための社会福祉について理解することを目指す。

〔授業概要〕

社会福祉とは何か、どのような社会福祉が望ましいのか、といった基本的な理解を可能にするため、生活の場、実践の場で生起する具体的な課題から福祉問題を捉え、社会福祉の価値、社会福祉の制度、社会福祉のフィールドといった柱を建てて講義する。さらに栄養士にとって社会福祉を学ぶことの意義や社会福祉の分野で働く栄養士の職務についても言及する。

〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕

予習(2時間)

- ・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。
- ・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。

復習(2時間)

- ・板書をしないので授業内容をまとめておく。
- ・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。

〔授業計画〕

1. オリエンテーション
2. ライフサイクルと生活問題・社会福祉に必要な理性と感性
3. 社会福祉の発展・社会福祉サービス・制度の枠組み
4. 「社会福祉」と「社会事業」
5. 20世紀初めまでのイギリス・アメリカ・日本
6. 20世紀前半の各国
7. 社会福祉の原理・理念・先駆者たちの福祉実践思想
8. 社会福祉の人権・人間尊重の思想・新しい福祉の理念
9. 社会福祉の法や制度の意義と体系・福祉サービスの主要な法律
10. 社会保障制度・社会福祉の行財政
11. 社会福祉の専門職・社会福祉専門職の専門性と倫理・専門職制度
12. 社会福祉援助の意義・価値・原理・援助の特徴と技術の内容
13. 分野ごとの各相談機関と施設・社会資源としての非専門職パワー
14. 社会の現状と社会福祉政策・社会福祉機関の役割
15. 総まとめと最終試験・試験解説

〔成績評価方法〕

授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものをを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式(正誤式または択一式)で実施する。

〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

科目名	社会福祉論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉			
担当者	小笠原 慶彰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 [教科書(ISBN)] 『社会福祉』(新・基礎からの社会福祉1) 著者名: 室田保夫監修 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4-623-08295-7) [参考書(ISBN)] なし				

P11100020B [WH4-022]

科目名	障害者とスポーツ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直、重福 京子、植戸 貴子、佐々木 勝一			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 障害を抱えた人にとって、ともすると弱くなりがちな筋肉を鍛えて残存機能を高めることは、二次的疾患等を考えると、ときには生命にもかかわる重大事である。現代社会における障害の概念、実態、障害者福祉の社会的背景、理念、目的、意義について理解し、その中で障害者に必要とされる身体活動やスポーツのあり方、スポーツの現状について考えられるようにする。				
[授業概要] 4人の担当者がオムニバス形式で展開する。社会福祉学科の専任教員により、現代社会における障害の概念、実態、障害者福祉の社会的背景、理念、目的、意義についての講義を行い、その内容をベースに、健康スポーツ栄養学科の専任教員により障害者の運動時の生理学的な身体機能とスポーツの在り方と現状について教授する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。				
[授業計画] 担当者と講義回数 奥野(1～4)、重福(5～8)、植戸(9～11)、佐々木(12～14)、奥野(15) 1. パラリンピック記録(WHO I AM)(奥野) 2. 障害者の体力と運動能力の獲得(奥野) 3. 障害者の身体的調節と適応(奥野) 4. 障害者の筋力と持久性トレーニング(奥野) 5. 障害者のスポーツの在り方(重福) 6. 障害者の競技種目と競技大会(重福) 7. 障害者スポーツの現状と課題 スポーツ振興と指導者の養成(重福) 8. 今後の障害者スポーツ(重福) 9. 障害のある人たちについての理解(植戸・学外特別講師) 10. 障害者福祉の歴史や基本的な理念についての理解と今日の障害者福祉の課題についての考察(植戸) 11. 障害のある人の生活上のニーズについての理解とニーズに応える支援の姿勢や具体的な関わり方・コミュニケーションの図り方等について(植戸) 12. 福祉施設・団体の役割と障害者スポーツ(佐々木) (視覚障害者施設の訪問と指導者による障害者の特徴や問題点、課題の聴取) 13. 障害者がスポーツを行うために必要な社会資源についての理解とスポーツへの参加支援方法(佐々木) (障害者スポーツ協会へのインタビュー等による情報収集と分析) 14. 障害者のスポーツに参加と生活変化(佐々木) (講師の経験、各種文献の検討を通して意義の整理をはかる) 15. まとめ(奥野)				
[成績評価方法] レポート(25%×4名)により評価する(4人の担当者がそれぞれ25点満点の課題・レポートを出し、総合点で評価する)。 課題・レポートについて解説する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100510 [WI4-005]

科目名	障害者とスポーツ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直、重福 京子、植戸 貴子、佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:福祉1-2／多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題とレポート				
学科DP番号／DP内容:福祉2-3／福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題とレポート				
学科DP番号／DP内容:福祉3-3／誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:課題とレポート				
学科DP番号／DP内容:栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:課題とレポート				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:課題とレポート				
学科DP番号／DP内容:栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:課題とレポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題とレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題とレポート				
[教科書(ISBN)] 必要に応じてプリント配布				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100510 [WI4-005]

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 子どもから高齢者にわたる発育発達および健康維持を目的とする生涯スポーツに必要とされる基本的動作や身体能力および運動がもたらす生理的效果について解説できるようにする。また、心理的、社会的効果についても理解を深め、ライフデザインに応用できるようにする。				
[授業概要] 生涯にわたる発育・発達過程と基本的動作や運動能力、発達に影響する先天的・後天的要因および老化と体力の関係について理解する。また、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解し、運動がもたらす生理、心理、社会的な効果と関連づけながら、運動習慣の確立のための適切な動機づけについて理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。				
[授業計画] 1. 発育・発達の概念と生涯スポーツ、健康経営の取り組み 2. 年齢に応じた体力づくり(健康・体力の現状と課題) 3. 発育発達に影響する要因(遺伝・環境・運動実践の有無等) 4. 身体機能の発達(呼吸・循環器系、神経系、代謝) 5. 成長期における体力(筋力・持久的能力)と運動能力(基本的動作スキル)の発達、姿勢とバランス能力 6. 高齢者・障害者の生涯スポーツ(身体機能の維持、アダプテッド・スポーツ)、老化と運動(加齢に伴う体力・運動能力の低下) 7. まとめ① 8. 行動変容と運動習慣動機づけ(行動パターンと生活習慣病、動機づけの過程) 9. 運動習慣の確立 (生理・心理・社会的効果と運動継続の促進方法) 10. スポーツ心理学①(目標設定、自己決定感および自己効力感、ピークパフォーマンス) 11. スポーツ心理学②(メンタルトレーニング、イメージトレーニング、リラクゼーショントレーニング) 12. スポーツ心理学③(リーダーシップ、スポーツ集団の心理) 13. スポーツ心理学④(競技の心理、精神力と自信) 14. 運動の危険性と安全、救急処置の基本、運動と休養(適切な睡眠の取り方) 15. まとめ②				
[成績評価方法] 2回の試験(50%×2)により評価します。 試験の答案を回収後、解答の解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)] プリント配布				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100420 [WI1-011]

科目名	消費生活科学(食品商品学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル	食品の消費と流通			
担当者	水野 和代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食品流通・消費の変化、現状、課題に関する知識を習得し、食料消費と人々の健康の関連、問題解決の方法を考察する。				
[授業概要] この授業は、我が国の「食品の消費と流通」の現状について基礎的な知識を習得し、消費者の視点で食品の選択・消費を考えます。食生活の変化や、食料消費を取り巻く課題を理解するために、様々な統計資料を読み解く力を養うと共に、多様な情報に目を向けます。フードスペシャリスト資格試験の問題演習を取り入れて講義を行います。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度、食品の消費と流通について、新聞やニュース、人々の消費行動などに常に関心を持ち、授業で配布した資料に目を通して、関連情報を得ることが望まれる。				
[授業計画] 1. 授業概要の説明 家計の中の食料消費 食料消費への影響要因 2. 食料消費の変化1 食品産業・社会環境 3. 食料消費の変化2 品目・栄養バランス・摂取形態 食料消費関連統計資料 4. 食生活の多様化と社会的要因 5. 卸売流通と小売流通 6. 外食産業 7. 中食産業 8. フードマーケティング 9. 食品分類、商品分類 10. 食品流通1 米、小麦粉、生鮮品 11. 食品流通2 加工品、飲料 12. 食料消費の課題1 環境問題・食料自給率・食品ロスなど 13. 食料消費の課題2 食品の安全・食品表示・健康に関すること 14. 食料消費の課題3 人口減少・高齢化・国際化など 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業での課題への取り組み(40%)授業終了時に提出、必要に応じてコメントします。 試験(60%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	消費生活科学(食品商品学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル	食品の消費と流通			
担当者	水野 和代			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: 試験、課題提出

学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。

成績評価方法: 課題提出

学科DP番号／DP内容: 栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。

成績評価方法: 課題提出

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 試験、課題提出

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 課題提出

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 課題提出

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 課題発表

[教科書 (ISBN)]

「三訂 食品の消費と流通」 著者名: (公社)日本フードスペシャリスト協会編 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0538-9)

毎回プリント配布

[参考書 (ISBN)]

フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集 著者名: (公社)日本フードスペシャリスト協会編 出版社: 建帛社

科目名	食生活論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食生活論では『食』を核として食の営みを学ぶことを目的としている。 食生活を理解するためには、栄養学・食品学・食品衛生学などに関する幅広い自然科学的な知識を基礎として、食生活の歴史や食の文化、食環境、現代の食生活事情といった食に関する人文・社会科学的な側面から捉えることが必要である。この講義では、このような観点から我々の食生活を考え理解することを目標とする。				
[授業概要] 本講義では、到達目標で述べたような講義内容に加え、各種の新聞が取り上げている食に関わる記事に対する感想や意見をレポートにまとめたり、食文化についてグループ討議した内容を発表するなどの機会を設ける。 この講義を通して、人間が生きていく上で最も重要とされる『食』について、豊かな発想で考えてみて欲しい。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業の復習を心がけること。 食に関する新聞記事などに関心を持つこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 食生活と健康を考える 3. 世界の食生活・日本の食文化 4. 食生活と安全 5. 21世紀における健全な食生活の展望 6. 食育の推進 7. 食生活に関するグループ討議 8. 日本冷凍食品協会による冷凍食品に関する講義【外部講師】 9. 発表会のための資料作成 10. 発表会① 11. 発表会② 12. 発表会③ 13. 発表会④、食に関する社会的話題 14. 発表会に関する総括 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業態度20%, グループ討議及び発表評価30%, 最終試験50% (試験後に解説を行う)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100530 [WI3-012]

科目名	食生活論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 最終試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: グループ討議及び発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: グループ討議及び発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: グループ討議及び発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: グループ討議及び発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: グループ討議及び発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100530 [WI3-012]

科目名	食品衛生学	前期	講義	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理			
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 人間を取り巻く諸条件は全て健康にかかわりを持つが、特に食品は何にも増して生命と健康の維持に直接かかわりを持つことから、食品を本来の姿に保ち、飲食物による危害を防止し健康の維持増進を図るための知識・技術を習得し、加えて自然科学を超えた社会道徳的概念を理解する。				
[授業概要] 食品の生育・栽培、生産・製造から加工・調理を経て、最終的にヒトに摂取されるまでの間のあらゆる段階において、その安全性、健全性および変質防止を確保する手段について、その公衆衛生学的重要性の認識と科学的根拠に基づく食品の衛生管理法について学ぶ。即ち、微生物学、公衆衛生学、疫学、感染症学、食品加工学、生化学など多くの基礎科学を基盤として成り立つ食品衛生学を人の健康を守るための実学として学んでゆく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習して十分に理解し、次回の授業の予習をしておくこと(計4時間程度)。日頃から授業に係るニュース等に関心を持つこと。				
[授業計画] 1. 食品衛生とは:食品衛生の目的、食品衛生管理の概要 2. 食品衛生行政と関係法規 3. 消毒と殺菌 4. 食品の変質とその防止 5. 食中毒(1)発生状況 6. 食中毒(2)細菌性食中毒 7. 食中毒(3)細菌性食中毒 8. 食中毒(4)細菌性食中毒 9. 食中毒(5)ウイルス性食中毒他 10. 食中毒(6)自然毒中毒 11. 経口感染症 12. 食品汚染物質(1)環境由来物質、マイコトキシン他 13. 食品汚染物質(2)農薬、食品の容器包装他 14. 食品の安全性:食品添加物、輸入食品、遺伝子組み換え食品など 15. まとめ 16. 試験				
[成績評価方法] 筆記試験(100%) 試験終了後、問題の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100140A [WI1-006]

科目名	食品衛生学	前期	講義	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理			
担当者	木村 大輔			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。

成績評価方法: 試験

学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。

成績評価方法: 試験

学科DP番号／DP内容: 栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質 (自立心・対話力・創造性) を有している。

成績評価方法: 試験

学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法: 試験

学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。

成績評価方法: 試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 試験

[教科書 (ISBN)]

試料配布

[参考書 (ISBN)]

Visual 栄養学テキスト 食べ物と健康III 食品衛生学-食品の安全と衛生管理- (編集岸本満 中山書店)

科目名	食品衛生学	前期	講義	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理			
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 人間を取り巻く諸条件は全て健康にかかわりを持つが、特に食品は何にも増して生命と健康の維持に直接かかわりを持つことから、食品を本来の姿に保ち、飲食物による危害を防止し健康の維持増進を図るための知識・技術を習得し、加えて自然科学を超えた社会道徳的概念を理解する。				
[授業概要] 食品の生育・栽培、生産・製造から加工・調理を経て、最終的にヒトに摂取されるまでの間のあらゆる段階において、その安全性、健全性および変質防止を確保する手段について、その公衆衛生学的重要性の認識と科学的根拠に基づく食品の衛生管理法について学ぶ。即ち、微生物学、公衆衛生学、疫学、感染症学、食品加工学、生化学など多くの基礎科学を基盤として成り立つ食品衛生学を人の健康を守るための実学として学んでゆく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習して十分に理解し、次回の授業の予習をしておくこと(計4時間程度)。日頃から授業に係るニュース等に関心を持つこと。				
[授業計画] 1. 食品衛生とは:食品衛生の目的、食品衛生管理の概要 2. 食品衛生行政と関係法規 3. 消毒と殺菌 4. 食品の変質とその防止 5. 食中毒(1)発生状況 6. 食中毒(2)細菌性食中毒 7. 食中毒(3)細菌性食中毒 8. 食中毒(4)細菌性食中毒 9. 食中毒(5)ウイルス性食中毒他 10. 食中毒(6)自然毒中毒 11. 経口感染症 12. 食品汚染物質(1)環境由来物質、マイコトキシン他 13. 食品汚染物質(2)農薬、食品の容器包装他 14. 食品の安全性:食品添加物、輸入食品、遺伝子組み換え食品など 15. まとめ 16. 試験				
[成績評価方法] 筆記試験(100%) 試験終了後、問題の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100140B [WI1-006]

科目名	食品衛生学	前期	講義	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理			
担当者	木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-3／世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 試料配布				
[参考書 (ISBN)] Visual 栄養学テキスト 食べ物と健康Ⅲ 食品衛生学-食品の安全と衛生管理- (編集岸本満 中山書店)				

P11100140B [WI1-006]

科目名	食品衛生学実験	後期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食品衛生に興味と関心を持ち、食の安全性を通して健康を考える。 また、食品中の微生物や化学物質について理解し、それらの検査のための基本的な知識と技術の習得を目的とする。				
[授業概要] 基本的な微生物取り扱い操作法、培地作成法や標本観察法等を習得した後、各種培養法や染色法、代表的な細菌の分離・同定法や食品中の生菌数測定法等の実験を通して、微生物の性質を理解する。 また、食品中の添加物や飲料水の成分の検査方法を習得する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 2年前期「食品衛生学」の講義内容を、必要に応じて復習すること。実験は複数週に亘って行われる回もあるため、実験前日には前回の内容を復習しておくこと。また、新聞や雑誌などの食品衛生や食中毒に関する記事に関心を持ち、できれば保存をしておくこと。(計2時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション(実験をするに当たっての諸注意、説明) 基本操作・基本技術、滅菌と消毒 2. 培地作成法、各種培養法 3. 手指の衛生実験 4. ブドウ球菌の分離培養・同定法 5. 腸内細菌科(大腸菌など)の分離培養・同定法 6. 食品の細菌学的検査(1前半)、調理器具の衛生試験(前半) 7. 食品の細菌学的検査(1後半)、調理器具の衛生試験(後半)、食品の細菌学的検査(2前半) 8. 食品の細菌学的検査(2後半) 9. 食品からの寄生虫検出 10. 飲料水の水質検査および細菌学的検査 11. 理化学的検査のオリエンテーション、試薬調製 12. 合成着色料の検査(1) 13. 合成着色料の検査(2) 14. 発色剤の検査(1) 15. 発色剤の検査(2)				
[成績評価方法] レポート(80%)、取組み姿勢(20%) レポートは後日添削して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	食品衛生学実験	後期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
[教科書 (ISBN)] なし、実験資料、プリント等を配布する。				
[参考書 (ISBN)] 新しい食品衛生実験 著者名: 西島基弘 出版社: 三共出版 (978-4-7827-0753-1)				

P11100150A [WI2-005]

科目名	食品衛生学実験	後期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食品衛生に興味と関心を持ち、食の安全性を通して健康を考える。 また、食品中の微生物や化学物質について理解し、それらの検査のための基本的な知識と技術の習得を目的とする。				
[授業概要] 基本的な微生物取り扱い操作法、培地作成法や標本観察法等を習得した後、各種培養法や染色法、代表的な細菌の分離・同定法や食品中の生菌数測定法等の実験を通して、微生物の性質を理解する。 また、食品中の添加物や飲料水の成分の検査方法を習得する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 2年前期「食品衛生学」の講義内容を、必要に応じて復習すること。実験は複数週に亘って行われる回もあるため、実験前日には前回の内容を復習しておくこと。また、新聞や雑誌などの食品衛生や食中毒に関する記事に関心を持ち、できれば保存をしておくこと。(計2時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション(実験をするに当たっての諸注意、説明) 基本操作・基本技術、滅菌と消毒 2. 培地作成法、各種培養法 3. 手指の衛生実験 4. ブドウ球菌の分離培養・同定法 5. 腸内細菌科(大腸菌など)の分離培養・同定法 6. 食品の細菌学的検査(1前半)、調理器具の衛生試験(前半) 7. 食品の細菌学的検査(1後半)、調理器具の衛生試験(後半)、食品の細菌学的検査(2前半) 8. 食品の細菌学的検査(2後半) 9. 食品からの寄生虫検出 10. 飲料水の水質検査および細菌学的検査 11. 理化学的検査のオリエンテーション、試薬調製 12. 合成着色料の検査(1) 13. 合成着色料の検査(2) 14. 発色剤の検査(1) 15. 発色剤の検査(2)				
[成績評価方法] レポート(80%)、取組み姿勢(20%) レポートは後日添削して返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100150B [WI2-005]

科目名	食品衛生学実験	後期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート、取組み姿勢				
[教科書 (ISBN)] なし、実験資料、プリント等を配布する。				
[参考書 (ISBN)] 新しい食品衛生実験 著者名: 西島基弘 出版社: 三共出版 (978-4-7827-0753-1)				

P11100150B [WI2-005]

科目名	食品学実験	後期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 実験を行う上での基本である、緩衝液、検量線を学ぶ。 食品に関する実験で、食品を構成する主要成分などの特性を理解し、基本的な器具の取扱い、試薬の調製法など食品分析に必要な知識を習得し、得られた結果をまとめて考察する力をつける。				
[授業概要] 食品成分の分離、定量分析、成分変化試験などを行って得られた知見により食品の特性を考察する。この実験で得られた食品に関する科学的な知識・技術は健康な食生活に生かすことができる。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。				
[授業計画]				
1. 実験の一般的注意、実験器具の取り扱い方、レポートの書き方 2. 実験に必要な計算方法の習得、実験データの取扱い 3. 緩衝液と検量線のガイダンス 4. 緩衝液の作成 5. 検量線の作成と未知化合物の定量 6. 7. ～10. の実験のガイダンス 7. 食品中の酸の定量 8. 食品中のカルシウムの定量 9. 食品中のビタミンCの定量 10. 食品中のポリフェノールの定量 11. 12. ～14. の実験のガイダンス 12. 脂質の変敗試験 13. 食品の非酵素的褐変 14. 食品の酵素的褐変 15. まとめ				
* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。				
[成績評価方法] レポート レポートは添削して後日返却				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100110A [WI2-002]

科目名	食品学実験	後期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート [教科書 (ISBN)] プリント配布 [参考書 (ISBN)] 臨床分析学のサブノート 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店				

P11100110A [WI2-002]

科目名	食品学実験	後期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 実験を行う上での基本である、緩衝液、検量線を学ぶ。 食品に関する実験で、食品を構成する主要成分などの特性を理解し、基本的な器具の取扱い、試薬の調製法など食品分析に必要な知識を習得し、得られた結果をまとめて考察する力をつける。				
[授業概要] 食品成分の分離、定量分析、成分変化試験などを行って得られた知見により食品の特性を考察する。この実験で得られた食品に関する科学的な知識・技術は健康な食生活に生かすことができる。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。				
[授業計画]				
1. 実験の一般的注意、実験器具の取り扱い方、レポートの書き方 2. 実験に必要な計算方法の習得、実験データの取扱い 3. 緩衝液と検量線のガイダンス 4. 緩衝液の作成 5. 検量線の作成と未知化合物の定量 6. 7. ～10. の実験のガイダンス 7. 食品中の酸の定量 8. 食品中のカルシウムの定量 9. 食品中のビタミンCの定量 10. 食品中のポリフェノールの定量 11. 12. ～14. の実験のガイダンス 12. 脂質の変敗試験 13. 食品の非酵素的褐変 14. 食品の酵素的褐変 15. まとめ				
* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。				
[成績評価方法] レポート レポートは添削して後日返却				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100110B [WI2-002]

科目名	食品学実験	後期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート [教科書 (ISBN)] プリント配布 [参考書 (ISBN)] 臨床分析学のサブノート 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店				

P11100110B [WI2-002]

科目名	食品学総論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 栄養士として必要な食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。				
[授業概要] 人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分(味、香、色の成分)の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中におこる食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。				
[授業計画] 1. 人間と食品 2. 水分 3. ビタミン 4. 無機質(ミネラル) 5. 食品中の嗜好成分、有害成分① 6. 食品中の嗜好成分、有害成分② 7. 食品中の嗜好成分、有害成分③ 8. 食品中の嗜好成分、有害成分④ 9. 食品の栄養価と機能性 10. 食品成分の変化① 11. 食品成分の変化② 12. 食品の物性① 13. 食品の物性② 14. タンパク質・炭水化物・脂質 15. まとめ 16. 試験				
[成績評価方法] 試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%) 試験は解答を示し、小テストは解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	食品学総論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 食べ物と健康II 食品の機能 著者名: 中河原俊治 出版社: 三共出版				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100100A [WI1-003]

科目名	食品学総論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 栄養士として必要な食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。				
[授業概要] 人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分(味、香、色の成分)の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中におこる食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。				
[授業計画] 1. 人間と食品 2. 水分 3. ビタミン 4. 無機質(ミネラル) 5. 食品中の嗜好成分、有害成分① 6. 食品中の嗜好成分、有害成分② 7. 食品中の嗜好成分、有害成分③ 8. 食品中の嗜好成分、有害成分④ 9. 食品の栄養価と機能性 10. 食品成分の変化① 11. 食品成分の変化② 12. 食品の物性① 13. 食品の物性② 14. タンパク質・炭水化物・脂質 15. まとめ 16. 試験				
[成績評価方法] 試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%) 試験は解答を示し、小テストは解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	食品学総論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験 [教科書 (ISBN)] 食べ物と健康II 食品の機能 著者名: 中河原俊治 出版社: 三共出版 [参考書 (ISBN)] なし				

P11100100B [WI1-003]

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて理解する。				
[授業概要] 現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、食品の原料や特性、加工技術を理解し、加工食品がもっている長所と短所を知り、判別する能力を養うことが必要である。本講義では、食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 事前に教科書と配布プリントを熟読する。 事後は授業内容を復習し、理解を深める。				
[授業計画] 1. 加工食品と食生活、食品の保蔵 2. 食品加工の操作 3. 食品の包装、食品加工の技術 4. 食品加工と成分変化 5. 食品添加物と加工食品の安全性確保 6. 保健機能食品と特別用途食品 7. 食品の表示と規格 8. 農産加工 9. 畜産加工 10. 水産加工 11. 発酵食品 12. 調味料・嗜好食品 13. インスタント食品 14. 食用油脂、コピー食品 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(100%) 試験の答案を回収後、解答の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。				
成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力				
成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)]				
Nブックス 四訂 食品加工学 著者名: 宮尾茂雄・北尾悟 他 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0644-7)				
[参考書(ISBN)]				
なし				

P11100120A [W14-001]

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて理解する。				
[授業概要] 現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、食品の原料や特性、加工技術を理解し、加工食品がもっている長所と短所を知り、判別する能力を養うことが必要である。本講義では、食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 事前に教科書と配布プリントを熟読する。 事後は授業内容を復習し、理解を深める。				
[授業計画] 1. 加工食品と食生活、食品の保蔵 2. 食品加工の操作 3. 食品の包装、食品加工の技術 4. 食品加工と成分変化 5. 食品添加物と加工食品の安全性確保 6. 保健機能食品と特別用途食品 7. 食品の表示と規格 8. 農産加工 9. 畜産加工 10. 水産加工 11. 発酵食品 12. 調味料・嗜好食品 13. インスタント食品 14. 食用油脂、コピー食品 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(100%) 試験の答案を回収後、解答の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。				
成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力				
成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)]				
Nブックス 四訂 食品加工学 著者名: 宮尾茂雄・北尾悟 他 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0644-7)				
[参考書(ISBN)]				
なし				

P11100120B [W14-001]

科目名	食品加工学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 実際に加工食品を製造することによって、食品加工の製造原理、原材料の特徴、性質、基本的な加工技術を理解する。				
[授業概要] 現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、食品の原料や特性、加工技術を理解し、加工食品がもっている長所と短所を知り、判別する能力を養うことが必要である。本実習では、代表的な加工食品を原料から作り、製造原理、基本的な加工技術、食の安全性について理解を深める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 配布プリントを読み、実習に関連する食品加工学の講義内容を参考に予習しておく。 衛生面についても十分な準備をして実習に臨む。 実習後、課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 小麦粉の加工:うどん 3. 小麦粉の加工:パン 4. 小麦粉の加工:クッキー 5. 果物の加工:ジャム 6. 果物の加工:みかんのシロップ漬け 7. 食肉の加工:ウインナーソーセージ 8. 大豆の加工:豆腐 9. いもの加工:こんにゃく 10. 乳類の加工:合成酸乳飲料 11. 乳類の加工:キャラメル 12. 乳類の加工:チーズ・バター 13. 小豆の加工:和菓子 14. チョコレートの加工:ガナッシュ(生チョコレート) 15. 講義:復習				
[成績評価方法] 授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%) レポートは添削して後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	食品加工学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100130A [WI4-003]

科目名	食品加工学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 実際に加工食品を製造することによって、食品加工の製造原理、原材料の特徴、性質、基本的な加工技術を理解する。				
[授業概要] 現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、食品の原料や特性、加工技術を理解し、加工食品がもっている長所と短所を知り、判断する能力を養うことが必要である。本実習では、代表的な加工食品を原料から作り、製造原理、基本的な加工技術、食の安全性について理解を深める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 配布プリントを読み、実習に関連する食品加工学の講義内容を参考に予習しておく。 衛生面についても十分な準備をして実習に臨む。 実習後、課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 小麦粉の加工:うどん 3. 小麦粉の加工:パン 4. 小麦粉の加工:クッキー 5. 果物の加工:ジャム 6. 果物の加工:みかんのシロップ漬け 7. 食肉の加工:ウインナーソーセージ 8. 大豆の加工:豆腐 9. いもの加工:こんにゃく 10. 乳類の加工:合成酸乳飲料 11. 乳類の加工:キャラメル 12. 乳類の加工:チーズ・バター 13. 小豆の加工:和菓子 14. チョコレートの加工:ガナッシュ(生チョコレート) 15. 講義:復習				
[成績評価方法] 授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%) レポートは添削して後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	食品加工学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100130B [WI4-003]

科目名	食料経済(食品流通を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	山野 薫			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 ①「食べる」ということについて深く理解することができる ②食品の生産から流通、消費までの仕組みと課題を理解できるようになる ③私たちにとって有効で安定したフードシステムを形成するための諸条件について考えることができる				
〔 授業概要 〕 食品は生きるうえで不可欠なものであり、かつ身近なものである一方、その背後にある生産・流通のシステムは複雑化・多様化しており、私たち消費者からは見えにくいという状況があります。本講義では、食生活の変化、食品が農場から食卓に至るまでの仕組み、生産・加工・流通に関わる事業主体の行動や各段階の特徴について解説を行います。また、私たちが直面している食をめぐる問題や課題についてもとりあげて議論し、「食べるということ」の意味について理解を深めます。海外に多くの食料を依存するわが国の実態から、将来に食の不安を招かないためにも、現在抱える「食と農」の問題の所在を明らかにし、これからの食の在り方を問いかけます。				
食品・農業に関するシンクタンクの勤務経験を活かし、食品生産・流通や消費、食品をめぐる制度などの最新情報と実態を盛り込んだ講義を行います。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 食と農に関連する出来事に関心を持ち、新聞やニュースなどを通じて情報を収集してください。 事前にテキストの指定部分を読んで、キーワードを覚えておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。				
〔 授業計画 〕 1. 食料経済学を学ぶためのプロローグ 食生活や食品生産・流通の仕組みを理解する意義について、フードシステムという概念をもとに説明する 2. 食生活の変化 現在の私たちの食生活の特徴について理解する。食生活の形態の変化や、変化の要因について説明する 3. 品目別食品消費の変化 コメ、野菜、畜産物などの品目別消費量の変化や、食の変化を示すキーワードについて学ぶ 4. 卸売市場 生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場と食品問屋(食品卸)について説明し、その役割と近年の動向を説明する 5. 小売流通 食品小売業について学ぶ。スーパーマーケットなどを取り上げ、その運営の仕組みや商品政策について説明する 6. 外食産業 チェーンレストランなどを取り上げ、その運営の仕組みや食材供給システムについて解説する 7. 中食産業 主にコンビニエンスストアを取り上げ、その運営の仕組みや今後の動向などについて説明する 8. 現代日本の食料事情、食料の需要と供給 市場経済と市場価格 需要と供給の価格弾力性と食料生産・食料消費の特色 9. 主要食品の流通(1) 主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ 10. 主要食品の流通(2) 主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ 11. フードマーケティング フードビジネスによるマーケティングを理解する。マーケティングの基礎的な用語を理解する 12. 環境問題と食 食に関わる環境問題、また環境保全のための国や企業の取り組みについて解説する。さらに食品廃棄・ロスの現状についても説明する 13. 食品の安全確保 食品の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する。企業における食品安全管理システム(HACCPなど)を学ぶ 14. 21世紀の「食と農」―消費者と「食と農」の関わり方 「地産地消」の実践と「買い支える」ということ 15. 食品の消費と流通についての復習・まとめ				
〔 成績評価方法 〕 試験(50%)、レポート(50%)で評価します。 提出されたレポートについては、次回の講義内で解説を行います。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100520 [WI4-004]

科目名	食料経済(食品流通を含む)	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	山野 薫			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験、レポート課題 学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:試験、レポート課題 学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:試験、レポート課題 学科DP番号／DP内容:栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:試験、レポート課題 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、レポート課題 [教科書(ISBN)] 『三訂 食品の消費と流通』 著者名:(公社)日本フードスペシャリスト協会編 出版社:建帛社 (978-4-7679-0538-9) 適宜、レジュメを配布する [参考書(ISBN)] 『食料経済ーフードシステムからみた食料問題』第5版 著者名:高橋正郎・清水みゆき編著 出版社:オーム社 (978-4-274-21922-1) 『フードシステム入門ー基礎からの食料経済学ー』 著者名:薬師寺哲郎・中川隆編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-0636-2)				

P11100520 [WI4-004]

科目名	身体運動実習 I（エアロビックダンス）	前期	実習	1 単位
サブタイトル	有酸素性運動			
担当者	重福 京子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動(エアロビックダンス)について、その特徴や運動内容を理解する。 また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。				
[授業概要] エアロビックダンスの基礎的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。 また、性・年齢・体力に応じた運動強度の水準の違いを理解した上で目的に応じたプログラムの内容を作成し、グループワークにより実践する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等に関心を持つこと。				
[授業計画] 1. エアロビックダンスについて 2. エアロビックダンスの特性について 3. エアロビックダンスの健康効果について 4. エアロビックダンスの指導者の役割について 5. エアロビックダンスの運動強度やエネルギー消費量の習得 6. ウォーミングアップとクールダウン 7. 安全に行うための運動プログラムの構成、実践場所、服装などについて 8. 運動前・中・後の安全性に配慮した指導を学習する 9. グループパフォーマンスのためのプログラム作成 10. グループパフォーマンス(1) 11. グループパフォーマンス(2) 12. グループパフォーマンス(3) 13. グループパフォーマンス(4) 14. グループパフォーマンス(5) 15. 発表、まとめ				
[成績評価方法] 授講態度(50%)、グループ発表(10%)、個人スキル(40%「個人指導をする」)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	身体運動実習Ⅰ（エアロビックダンス）	前期	実習	1 単位
サブタイトル	有酸素性運動			
担当者	重福 京子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 個人スキル				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力（思考力・自立心）・周囲と情報を交換し共有する能力（コミュニケーション力・対話力）・問題を適切な方向に解決していく能力（問題解決力・創造性）を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ（知識・技術の向上および最新情報の収集を行う）能力を有している。 成績評価方法: 受講態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 個人スキル				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度				
[教科書（ISBN）] 『健康運動実践指導者養成用テキスト』 出版社: 公益財団健康・体力づくり事業財団				
[参考書（ISBN）] 授業中に指示する。				

科目名	身体運動実習Ⅰ（エアロビックダンス）	前期	実習	1 単位
サブタイトル	有酸素性運動			
担当者	小島 理永			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動（エアロビックダンス）について、その特徴や運動内容を理解する。 また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。				
〔 授業概要 〕 エアロビックダンスの基礎的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。 また、性・年齢・体力に応じた運動強度の水準の違いを理解した上で目的に応じたプログラムの内容を作成し、グループワークにより実践する。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 日頃から健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等に関心を持つこと。				
〔 授業計画 〕 1. エアロビックダンスについて 2. エアロビックダンスの特性について 3. エアロビックダンスの健康効果について 4. エアロビックダンスの指導者の役割について 5. エアロビックダンスの運動強度やエネルギー消費量の習得 6. ウォーミングアップとクールダウン 7. 安全に行うための運動プログラムの構成、実践場所、服装などについて 8. 運動前・中・後の安全性に配慮した指導を学習する 9. グループパフォーマンスのためのプログラム作成 10. グループパフォーマンス（1） 11. グループパフォーマンス（2） 12. グループパフォーマンス（3） 13. グループパフォーマンス（4） 14. グループパフォーマンス（5） 15. 発表、まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授講態度（50％）、グループ発表（10％）、個人スキル（40％）				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	身体運動実習Ⅰ（エアロビックダンス）	前期	実習	1 単位
サブタイトル	有酸素性運動			
担当者	小島 理永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 個人スキル				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力（思考力・自立心）・周囲と情報を交換し共有する能力（コミュニケーション力・対話力）・問題を適切な方向に解決していく能力（問題解決力・創造性）を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ（知識・技術の向上および最新情報の収集を行う）能力を有している。 成績評価方法: 受講態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 個人スキル				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度				
[教科書（ISBN）] 『健康運動実践指導者養成用テキスト』 出版社: 公益財団健康・体力づくり事業財団				
[参考書（ISBN）] 授業中に指示する。				

科目名	身体運動実習Ⅱ（ジョギング・ウォーキング）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング			
担当者	西山 清子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 健康保持・増進としたウォーキングやジョギングを目的とし、その特徴や運動内容を理解する。				
[授業概要] ジョギング・ウォーキングについて基礎的な知識を理解した上で、安全で効果的な動きができる技術能力を養う。性・年齢・体力の違いによって速度や生体反応が異なることを理解する。また、ストレッチングの理論を理解し、各部位のストレッチング方法を実践する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] ジョギングやランニングに関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。また、ジョギングやランニングで興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。				
[授業計画] 1. ウォーキングとジョギングの特性を理解し両者について説明できる。 2. ウォーキングとジョギングにより期待される健康効果について説明できる。 3. 健康づくりに必要なウォーキングとジョギングの目標時間、頻度について説明できる。 4. ウォーキングやジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。 5. 基本的なフォームを習得し、個人に合った正しいフォームが実践できるようサポートができる。 6. 安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給)について喚起できる。 7. 至適運動強度の指標として脈拍の正しい測り方やRPEの利用について実践と指導ができる。 8. 起こりうる傷害を理解し、シューズや服装選択のアドバイスができる。 9. ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導する。 10. 安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。 11. ウォーキングのプログラム作成(1) 12. ウォーキングのプログラム作成(2) 13. ジョギングのプログラム作成(1) 14. ジョギングのプログラム作成(2) 15. まとめ				
[成績評価方法] 受講態度(60%)、個人スキル(10%)、運動プログラム作成(30%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	身体運動実習Ⅱ（ジョギング・ウォーキング）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング			
担当者	西山 清子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 個人スキル				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 運動プログラム作成				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 受講態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 個人スキル・運動プログラム作成				
[教科書（ISBN）] 健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名: 出版社: (財)健康・体力づくり事業財団				
[参考書（ISBN）] なし 著者名:				

P11100450A [WI2-014]

科目名	身体運動実習Ⅱ（ジョギング・ウォーキング）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング			
担当者	重福 京子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 健康保持・増進としたウォーキングやジョギングを目的とし、その特徴や運動内容を理解する。				
[授業概要] ジョギング・ウォーキングについて基礎的な知識を理解した上で、安全で効果的な動きができる技術能力を養う。性・年齢・体力の違いによって速度や生体反応が異なることを理解する。また、ストレッチングの理論を理解し、各部位のストレッチング方法を実践する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] ジョギングやランニングに関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。また、ジョギングやランニングで興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。				
[授業計画] 1. ウォーキングとジョギングの特性を理解し両者について説明できる。 2. ウォーキングとジョギングにより期待される健康効果について説明できる。 3. 健康づくりに必要なウォーキングとジョギングの目標時間、頻度について説明できる。 4. ウォーキングやジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。 5. 基本的なフォームを習得し、個人に合った正しいフォームが実践できるようサポートができる。 6. 安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給)について喚起できる。 7. 至適運動強度の指標として脈拍の正しい測り方やRPEの利用について実践と指導ができる。 8. 起こりうる傷害を理解し、シューズや服装選択のアドバイスができる。 9. ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導する。 10. 安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。 11. ウォーキングのプログラム作成(1) 12. ウォーキングのプログラム作成(2) 13. ジョギングのプログラム作成(1) 14. ジョギングのプログラム作成(2) 15. まとめ				
[成績評価方法] 受講態度(60%)、個人スキル(10%)、運動プログラム作成(30%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	身体運動実習Ⅱ（ジョギング・ウォーキング）	後期	実習	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング			
担当者	重福 京子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 個人スキル				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 運動プログラム作成				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 受講態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 個人スキル・運動プログラム作成				
[教科書（ISBN）] 健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名: 出版社: (財)健康・体力づくり事業財団				
[参考書（ISBN）] なし 著者名:				

P11100450B [WI2-014]

科目名	身体運動実習Ⅲ（スイミング&ウォーターエクササイズ）	前期	実習	1 単位
サブタイトル	水泳・エクササイズ			
担当者	西山 清子、重福 京子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 健康・体力づくりを目的とした水泳・水中運動（ウォーターエクササイズ）について、その特徴や運動内容を理解する。また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。				
[授業概要] 水泳・水中運動の基本的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。また、各種泳法と水中エアロビクスを構成する各種運動・動作の実践力を養い、運動プログラムを作成し、指導上の注意点および安全対策を理解する。				
[準備学修（授業前後の主体的な学修）] 水泳と水中歩行そして水中運動について、映像や体験を通して関心をたかめておく。また、興味と関心または問題点について調べておく。				
[授業計画] 1. 水中運動と陸上運動の違い 2. 水泳・水中運動の特性と効果 3. 水泳・水中運動の利点と問題点 4. 水泳運動（浮き身、ストリームライン） 5. 水泳運動（腕・脚の動かし方） 6. 水泳運動（呼吸の方法） 7. 水泳運動のプログラム作成と指導上の注意点 8. 水中運動（立ち方、脚・腕を動かし抵抗感を知る）、運動強度のコントロール 9. 水中運動（歩く・走るの速さの変化）、心拍数と運動強度の関係 10. 水中運動のプログラム作成と指導上の注意点（健康人、腰痛者、妊婦などを対象） 11. 水中エアロビクス（1） 12. 水中エアロビクス（2） 13. 水中エアロビクス（3） 14. 水中エアロビクス（4） 15. 発表・まとめ				
日程 9月7日（月）1～4限 水泳 9月8日（火）1・2限 水泳, 3, 4限 講義 9月9日（水）1～4限 水泳 9月10日（木）1・2限 水泳, 3限 講義				
[成績評価方法] 授業態度（50％）、発表（40％）、個人スキル（10％）				
[オフィスアワー（質問等の受付方法）] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100460 [WI3-010]

科目名	身体運動実習Ⅲ（スイミング&ウォーターエクササイズ）	前期	実習	1 単位
サブタイトル	水泳・エクササイズ			
担当者	西山 清子、重福 京子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:				
[教科書 (ISBN)] 健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名: (財)健康・体力づくり事業財団 出版社: (財)健康・体力づくり事業財団				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100460 [WI3-010]

科目名	スポーツ医学	後期	講義	2 単位
サブタイトル	身体活動の継続のために必要な知識			
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 現在ではトップアスリートのみならず、多くの人々が体力の向上のため、また、高齢者にとっては活動レベルの維持や向上のためにスポーツを行っている。スポーツ医学では「運動の医学的効果」と「スポーツに伴う総合的医療ケア」について学ぶことを目標とする。 [授業概要] 医師免許（および健康スポーツ医資格）を有する教員が、運動・スポーツに関係する人体の解剖・人体の生理等について教授する。 アスリートのみならず、多くの人々が健康増進や体力維持のため、スポーツを行っている。スポーツでは過度の練習などによるオーバーユースによる傷害、選手どうしの接触、衝突による傷害、また、体力維持のための栄養学的問題など多くの問題がある。そのため、スポーツ医学は医師（スポーツドクター）のみならず、栄養士、理学療養士、マッサージ師、トレーナー、コーチ、フィットネスアドバイザー等多くの職種の専門家がチームとして参画しなければならない。スポーツ医学について基本的なことを学ぶ。 [準備学修（授業前後の主体的な学修）] 「解剖生理学」「臨床医学概論」の知識が基本となります。両科目で得た知識を確認し、さらに毎回しっかりと復習が必要です。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 [授業計画] 1. スポーツ医学とは、スポーツ外傷のメカニズム（急性外傷） 2. スポーツ外傷のメカニズム（オーバーユース障害） 3. スポーツ外傷のメカニズム（スポーツ外傷の複雑性）、スポーツ外傷と見間違える症状 4. 傷害予防の原則 5. 回復 6. 診断 7. 筋骨格系の症状に対する治療法、コアスタビリティー 8. リハビリテーション 9. スポーツにおける脳震盪・頭痛 10. 女性と運動、健康維持のための運動 11. コンディショニング、メディカルチェック 12. ドーピング（アンチ・ドーピング） 13. スポーツ（アスリート）と栄養 14. メンタルヘルス 15. まとめ [成績評価方法] 試験を実施する（100％）。 配布資料を用いて復習を行う（自主的な復習も可能である）。 [オフィスアワー（質問等の受付方法）] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	スポーツ医学	後期	講義	2 単位
サブタイトル	身体活動の継続のために必要な知識			
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 資料を作成し配布する。				
[参考書 (ISBN)] なし				

科目名	スポーツ医学	後期	講義	2 単位
サブタイトル	身体活動の継続のために必要な知識			
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 現在ではトップアスリートのみならず、多くの人々が体力の向上のため、また、高齢者にとっては活動レベルの維持や向上のためにスポーツを行っている。スポーツ医学では「運動の医学的効果」と「スポーツに伴う総合的医療ケア」について学ぶことを目標とする。 [授業概要] 医師免許（および健康スポーツ医資格）を有する教員が、運動・スポーツに関係する人体の解剖・人体の生理等について教授する。 アスリートのみならず、多くの人々が健康増進や体力維持のため、スポーツを行っている。スポーツでは過度の練習などによるオーバーユースによる傷害、選手どうしの接触、衝突による傷害、また、体力維持のための栄養学的問題など多くの問題がある。そのため、スポーツ医学は医師（スポーツドクター）のみならず、栄養士、理学療養士、マッサージ師、トレーナー、コーチ、フィットネスアドバイザー等多くの職種の専門家がチームとして参画しなければならない。スポーツ医学について基本的なことを学ぶ。 [準備学修（授業前後の主体的な学修）] 「解剖生理学」「臨床医学概論」の知識が基本となります。両科目で得た知識を確認し、さらに毎回しっかりと復習が必要です。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 [授業計画] 1. スポーツ医学とは、スポーツ外傷のメカニズム（急性外傷） 2. スポーツ外傷のメカニズム（オーバーユース障害） 3. スポーツ外傷のメカニズム（スポーツ外傷の複雑性）、スポーツ外傷と見間違える症状 4. 傷害予防の原則 5. 回復 6. 診断 7. 筋骨格系の症状に対する治療法、コアスタビリティー 8. リハビリテーション 9. スポーツにおける脳震盪・頭痛 10. 女性と運動、健康維持のための運動 11. コンディショニング、メディカルチェック 12. ドーピング（アンチ・ドーピング） 13. スポーツ（アスリート）と栄養 14. メンタルヘルス 15. まとめ [成績評価方法] 試験を実施する（100％）。 配布資料を用いて復習を行う（自主的な復習も可能である）。 [オフィスアワー（質問等の受付方法）] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	スポーツ医学	後期	講義	2 単位
サブタイトル	身体活動の継続のために必要な知識			
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 資料を作成し配布する。				
[参考書 (ISBN)] なし				

科目名	スポーツ栄養学Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	運動と栄養			
担当者	坂元 美子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解する。また、栄養・健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。				
[授業概要] 運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上には欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回予復習として2時間程度栄養学総論の授業を、予習として教科書を2時間程度確認しておく。				
[授業計画] 1. アスリートの食事摂取の基本 2. スポーツにおける五大栄養素の役割と主要食品の栄養成分 3. 食品・栄養素の消化・吸収の過程 4. トレーニングとエネルギー消費量 （食事摂取基準と一日の総エネルギー消費量の構成） 5. 運動強度と栄養素の機能・代謝の関係 （糖質・脂質の機能と代謝） 6. からだづくりのための栄養素(たんぱく質の機能と代謝) 7. コンディショニングのための栄養素(ミネラル・ビタミン) 8. アスリートの栄養(試合までの栄養と試合直前・試合後の食事) 9. アスリートの栄養(遠征、合宿時の食事) 10. アスリートの栄養(水分補給と熱中症予防) 11. アスリートの栄養(アスリートに起こりやすい障害と栄養) 12. アスリートの栄養(女性アスリートに起こりやすい疾病) 13. スポーツとサプリメントの関係 14. 生活習慣病予防・改善のための運動と栄養素 15. まとめ				
[成績評価方法] 試験(100%)試験の答案用紙回収後、解答を解説します				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	スポーツ栄養学Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	運動と栄養			
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)] スポーツ・健康栄養学〈はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6〉 著者名: 坂元美子編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1709-6)				
[参考書(ISBN)] 中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ 著者名: アテナプロジェクト編 出版社: 西日本出版社 (978-4-90108-37-5)				

P11100200A [WI1-004]

科目名	スポーツ栄養学Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	運動と栄養			
担当者	坂元 美子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解する。また、栄養・健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。 [授業概要] 運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上には欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回予復習として2時間程度栄養学総論の授業を、予習として教科書を2時間程度確認しておく。 [授業計画] 1. アスリートの食事摂取の基本 2. スポーツにおける五大栄養素の役割と主要食品の栄養成分 3. 食品・栄養素の消化・吸収の過程 4. トレーニングとエネルギー消費量 （食事摂取基準と一日の総エネルギー消費量の構成） 5. 運動強度と栄養素の機能・代謝の関係 （糖質・脂質の機能と代謝） 6. からだづくりのための栄養素(たんぱく質の機能と代謝) 7. コンディショニングのための栄養素(ミネラル・ビタミン) 8. アスリートの栄養(試合までの栄養と試合直前・試合後の食事) 9. アスリートの栄養(遠征、合宿時の食事) 10. アスリートの栄養(水分補給と熱中症予防) 11. アスリートの栄養(アスリートに起こりやすい障害と栄養) 12. アスリートの栄養(女性アスリートに起こりやすい疾病) 13. スポーツとサプリメントの関係 14. 生活習慣病予防・改善のための運動と栄養素 15. まとめ [成績評価方法] 試験(100%)試験の答案用紙回収後、解答を解説します [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	スポーツ栄養学Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル	運動と栄養			
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)] スポーツ・健康栄養学〈はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6〉 著者名: 坂元美子編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1709-6)				
[参考書(ISBN)] 中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ 著者名: アテナプロジェクト編 出版社: 西日本出版社 (978-4-90108-37-5)				

P11100200B [WI1-004]

科目名	スポーツ栄養学Ⅱ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 スポーツ栄養学Ⅰで習得した知識をさらに深め、スポーツの現場で即実践できる知識と技術を習得する				
〔 授業概要 〕 ジュニアからアスリートのためのスポーツ、高齢者の体力維持のための運動、生活習慣病予防のための運動など、それぞれの目的に応じたスポーツ・運動の現場で適切に栄養指導が行えるよう、スポーツ種目、ライフステージ別の栄養について学ぶ。また、栄養指導に必要な食事調査、栄養計算の方法についても実践的に学習する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習として4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、栄養学総論を復習しておく				
〔 授業計画 〕 1. スポーツ選手の基本の食事 2. 試合期の食事① 3. 試合期の食事② 4. 水分補給、熱中症予防 5. 体作り期の食事① 6. 体作り期の食事② 7. 減量 8. コンディショニング① 9. コンディショニング② 10. 女性アスリートに多い障害 11. 体力維持のための運動と栄養 12. 生活習慣病予防のための運動と栄養 13. アスリートの海外でのコンディショニング(学外特別講師) 14. ジュニアアスリートのコンディショニング 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 授業中の課題(100%)課題提出後、模範解答をフィードバックします。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	スポーツ栄養学Ⅱ	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる 成績評価方法: レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2 / 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見いだせる能力 成績評価方法: レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート課題				
[教科書(ISBN)] 応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習 第4版 著者名: 竹中優・土江節子編 出版社: 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70635-0)				
[参考書(ISBN)] 中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ 著者名: アテナプロジェクト編 出版社: 西日本出版社 (978-4-90108-37-5)				

P11100370 [WI1-008]

科目名	スポーツ栄養クッキング	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] スポーツ選手に適した献立の作成と調理技術を身につける [授業概要] スポーツ栄養学で学んだ知識を献立作成に取り入れ、作成した献立を調理する。スポーツの現場では、食事の摂取や、食材の調達が難しい場合もあり、様々な状況でも調理ができるようなスキルを身につけ、選手が必要な栄養素を摂取できるような献立を考える。さらに、アスリートの給食現場で食事の提供を実践する。専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を受けることが望ましい。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく [授業計画] 1. 授業オリエンテーション 2. 献立作成(体作り期) 3. 献立作成・プレゼンテーション準備(体作り期) 4. 献立プレゼンテーション(体作り期) 5. 献立作成(グリコーゲン・ローディング) 6. 献立作成・プレゼンテーション準備(グリコーゲン・ローディング) 7. 献立プレゼンテーション(グリコーゲン・ローディング)検討(外部特別講師) 8. 学外実習① 9. 学外実習② 10. 献立プレゼンテーション(減量時) 11. 調理実習(基本の食事) 12. 調理実習(体作り期) 13. 調理実習(グリコーゲン・ローディング) 14. 学外実習③ 15. まとめ [成績評価方法] レポート(60%)、実習態度(40%) レポート確認、修正後返却します [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	スポーツ栄養クッキング	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート実習態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート実習態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート実習態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他社に伝えて理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート実習態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート実習態度				
[教科書 (ISBN)] 応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習 第4版(スポーツ栄養学Ⅱで購入済み) 著者名: 竹中優・土江節子編 出版社: 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70635-0)				
[参考書 (ISBN)] 随時必要に応じて紹介します。				

P11100390A [WI3-008]

科目名	スポーツ栄養指導実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子、奥野 直			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] スポーツ栄養学で学んだ内容を現場で体験し、スポーツ選手のデータ収集と解析を行う。 そこから得た知識を選手にフィードバックできるよう、指導スキルを身につける。 [授業概要] スポーツ栄養指導に必要なデータ収集と解析の方法を学び、学外のスポーツ関連施設及び、スポーツチームでの現場実習を行う。学外実習で収集したデータを授業内で解析し、スポーツ選手への指導方法を学ぶ。 専門演習と卒業論文で奥野・坂元研究室を希望する方はこの授業を必ず受けてください。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回予習復習合わせて4時間程度、運動生理学、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく [授業計画] 1.授業オリエンテーション(奥野・坂元) 2.スポーツ栄養指導のデータ収集の方法(奥野) 3.栄養指導プレゼンテーション①(奥野) 4.栄養指導プレゼンテーション②(奥野) 5.栄養指導プレゼンテーション③(奥野) 6.学外実習① 7.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション①(坂元) 8.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション②(坂元) 9.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション③(坂元) 10. プレゼンテーションの実践指導(学外特別講師) 11. 学外実習②(選手へのフィードバック、栄養指導) 12. 学外実習③(選手へのフィードバック、栄養指導) 13. 学外実習報告①(奥野・坂元) 14. 学外実習報告②(奥野・坂元) 15. まとめ(奥野・坂元) [成績評価方法] 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%) [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100380 [WI3-007]

科目名	スポーツ栄養指導実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子、奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: データ収集と解析の内容結果の発表及びレポートの作成				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーションの内容				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 結果の発表及びレポートの作成プレゼンテーションの内容				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: プレゼンテーションの内容				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: データ収集と解析の内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意思・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 学外実習①②③				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 栄養指導プレゼンテーション学外実習①②③				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション学外実習①②③				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション学外実習①②③				
[教科書 (ISBN)] 適宜資料等配布				
[参考書 (ISBN)] スポーツ・健康栄養学(スポーツ栄養学 I で購入済み) 著者名: 坂元美子編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1709-6)				

P11100380 [WI3-007]

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子、浅木森 和夫			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] スポーツ選手の食事内容のデータ収集と解析ができることを目指す [授業概要] 様々な年齢、スポーツ種目の選手の食事調査をもとに食事内容を解析し、その結果からスポーツ選手に理想的な食事を考察する。 専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方は、この授業を必ず受けてください。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回予習復習合わせて4時間程度学科の授業を確認しておいてください。 専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を必ず受けてください。 [授業計画] 1. 統計学の基本(データの種類, 平均値, 標準偏差)(浅木森和夫) 2. 異なるグループを比較する(帰無仮説)(浅木森和夫) 3. 比較・独立性の検定(クロス集計票, χ^2 乗検定)(浅木森和夫) 4. 2群の比較(2群の母平均の差の検定)(浅木森和夫) 5. 多群の比較(1元配置分散分析)(浅木森和夫) 6. 多群の比較(2元配置分散分析)(浅木森和夫) 7. 相関関係(浅木森和夫) 8. 小学生スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 9. 中学生スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 10. 高校生スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 11. 大学生スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 12. 成人スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 13. アスリートの食事解析①(坂元美子) 14. アスリートの食事解析②(坂元美子) 15. まとめ(坂元美子) [成績評価方法] レポート(100%) レポート確認後、模範解答を解説します。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100400A [WI2-004]

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子、浅木森 和夫			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] スポーツ・健康栄養学(はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6)(1年生時に購入済み) 著者名: 坂元 美子 編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1709-6)				
[参考書 (ISBN)] 随時必要に応じて紹介します				

P11100400A [WI2-004]

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子、浅木森 和夫			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] スポーツ選手の食事内容のデータ収集と解析ができることを目指す [授業概要] 様々な年齢、スポーツ種目の選手の食事調査をもとに食事内容を解析し、その結果からスポーツ選手に理想的な食事を考察する。 専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方は、この授業を必ず受けてください。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回予習復習合わせて4時間程度学科の授業を確認しておいてください。 専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を必ず受けてください。 [授業計画] 1. 統計学の基本(データの種類, 平均値, 標準偏差)(浅木森和夫) 2. 異なるグループを比較する(帰無仮説)(浅木森和夫) 3. 比較・独立性の検定(クロス集計票, χ^2 乗検定)(浅木森和夫) 4. 2群の比較(2群の母平均の差の検定)(浅木森和夫) 5. 多群の比較(1元配置分散分析)(浅木森和夫) 6. 多群の比較(2元配置分散分析)(浅木森和夫) 7. 相関関係(浅木森和夫) 8. 小学生スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 9. 中学生スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 10. 高校生スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 11. 大学生スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 12. 成人スポーツ選手の食事解析(坂元美子) 13. アスリートの食事解析①(坂元美子) 14. アスリートの食事解析②(坂元美子) 15. まとめ(坂元美子) [成績評価方法] レポート(100%) レポート確認後、模範解答を解説します。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100400B [WI2-004]

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子、浅木森 和夫			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] スポーツ・健康栄養学(はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6)(1年生時に購入済み) 著者名: 坂元 美子 編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1709-6)				
[参考書 (ISBN)] 随時必要に応じて紹介します				

P11100400B [WI2-004]

科目名	生化学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 脂質・糖質・タンパク質の機能、構造、代謝について理解でき、生体内で引き起こされる反応(疾患を含む)に関して、生化学的な根拠に基づいて説明できる事を目標とする。				
[授業概要] ヒトが日常過ごしていく上で、必ず食事を取らなければならない。その食べた食事が体内でどのように変化し、どのような役割を演じ、そして最終的にどのように排泄されていくのか？という内容を化学的に説明する学問が生化学である。特に、医学・薬学・栄養学を学ぶ上では最も重要な基礎的な学問の一つといっても過言ではない。本講義では、三大栄養素である「脂質・糖質・タンパク質」に焦点をあて、これらの構造と働き、ならびに生体内での代謝について、生化学的に概説する。さらに、疾患と人体生化学的事項との関係も適宜講義の中に取り入れ、応用できる内容も多く織り込んでいく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。				
[授業計画] 1. 栄養素の消化と吸収 2. タンパク質1;構造 3. タンパク質2;働き 4. タンパク質3;代謝 5. 糖質1;構造 6. 糖質2;働き 7. 糖質3;代謝 8. 脂質1;構造 9. 脂質2;働き 10. 脂質3;代謝 11. 酵素の働き 12. 酵素の速度論 13. 生体の恒常性とエネルギー代謝 14. 免疫と生体防御 15. 1.～14.のまとめ 16. 試験				
[成績評価方法] 試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%) 試験は解答を示し、小テストは解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100080A [WS1-001]

科目名	生化学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。				
成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力				
成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)]				
コンパクト生化学 著者名: 大久保岩男 他 出版社: 南江堂 (978-4-524-25946-5)				
[参考書 (ISBN)]				
休み時間の生化学 著者名: 大西正健 著 出版社: 講談社				

P11100080A [WS1-001]

科目名	生化学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 脂質・糖質・タンパク質の機能、構造、代謝について理解でき、生体内で引き起こされる反応(疾患を含む)に関して、生化学的な根拠に基づいて説明できる事を目標とする。				
[授業概要] ヒトが日常過ごしていく上で、必ず食事を取らなければならない。その食べた食事が体内でどのように変化し、どのような役割を演じ、そして最終的にどのように排泄されていくのか？という内容を化学的に説明する学問が生化学である。特に、医学・薬学・栄養学を学ぶ上では最も重要な基礎的な学問の一つといっても過言ではない。本講義では、三大栄養素である「脂質・糖質・タンパク質」に焦点をあて、これらの構造と働き、ならびに生体内での代謝について、生化学的に概説する。さらに、疾患と人体生化学的事項との関係も適宜講義の中に取り入れ、応用できる内容も多く織り込んでいく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。				
[授業計画] 1. 栄養素の消化と吸収 2. タンパク質1;構造 3. タンパク質2;働き 4. タンパク質3;代謝 5. 糖質1;構造 6. 糖質2;働き 7. 糖質3;代謝 8. 脂質1;構造 9. 脂質2;働き 10. 脂質3;代謝 11. 酵素の働き 12. 酵素の速度論 13. 生体の恒常性とエネルギー代謝 14. 免疫と生体防御 15. 1.～14.のまとめ 16. 試験				
[成績評価方法] 試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%) 試験は解答を示し、小テストは解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	生化学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験 [教科書 (ISBN)] コンパクト生化学 著者名: 大久保岩男他 出版社: 南江堂 (978-4-524-25946-5) [参考書 (ISBN)] 休み時間の生化学 著者名: 大西正健 著 出版社: 講談社				

P11100080B [WS1-001]

科目名	生化学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 生体の構成成分を知る。 また、酵素学的実験ならびに分子生物学的実験を通じて、タンパク質の性質、定量性についても学ぶ。				
[授業概要] 実験は本質的に楽しいものである。ヒトは手を使う(動かす)ことによって頭脳が発達したということは良く知られている。百聞は一見に如かず。これらのことは正に実験授業の真骨頂を示すものである。 ある目的を持って計画し、自ら手を動かし、目で観察し、感動し、その結果の意義を知識と想像(創造)を持って考察し、文章、図表にまとめて表現する。このことは、少なからず学生諸君にとっては一つの発見なのである。本実験においては、生体構成成分の定性、定量実験を実施し、酵素反応、遺伝子の抽出を体験する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコルのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。				
[授業計画] 1. 2. ～6. の実験のガイダンス 2. タンパク質の性質確認試験 3. ビューレット法によるタンパク質の定量 4. 抗酸化活性の測定 5. 遊離脂肪酸の定量 6. 高分子化合物の分離実験 7. 8. ～14. の実験のガイダンス 8. 酵素反応の実験① 9. 酵素反応の実験② 10. 酵素反応の実験③ 11. 酵素反応の実験④ 12. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験① 13. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験② 14. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験③ 15. まとめ				
* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。				
[成績評価方法] レポート レポートは添削して後日返却。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100090A [WS2-001]

科目名	生化学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: [教科書 (ISBN)] プリント配布 臨床分析学のサブノート(1年時に購入済) 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店 [参考書 (ISBN)] はじめてみよう生化学実験 著者名: 山本克博 著 出版社: 三共出版				

P11100090A [WS2-001]

科目名	生化学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 生体の構成成分を知る。 また、酵素学的実験ならびに分子生物学的実験を通じて、タンパク質の性質、定量性についても学ぶ。				
[授業概要] 実験は本質的に楽しいものである。ヒトは手を使う(動かす)ことによって頭脳が発達したということは良く知られている。百聞は一見に如かず。これらのことは正に実験授業の真骨頂を示すものである。 ある目的を持って計画し、自ら手を動かし、目で観察し、感動し、その結果の意義を知識と想像(創造)を持って考察し、文章、図表にまとめて表現する。このことは、少なからず学生諸君にとっては一つの発見なのである。本実験においては、生体構成成分の定性、定量実験を実施し、酵素反応、遺伝子の抽出を体験する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコルのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。				
[授業計画] 1. 2. ～6. の実験のガイダンス 2. タンパク質の性質確認試験 3. ビューレット法によるタンパク質の定量 4. 抗酸化活性の測定 5. 遊離脂肪酸の定量 6. 高分子化合物の分離実験 7. 8. ～14. の実験のガイダンス 8. 酵素反応の実験① 9. 酵素反応の実験② 10. 酵素反応の実験③ 11. 酵素反応の実験④ 12. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験① 13. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験② 14. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験③ 15. まとめ				
* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。				
[成績評価方法] レポート レポートは添削して後日返却。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100090B [WS2-001]

科目名	生化学実験	前期	実験	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: [教科書 (ISBN)] プリント配布 臨床分析学のサブノート(1年時に購入済) 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店 [参考書 (ISBN)] はじめてみよう生化学実験 著者名: 山本克博 著 出版社: 三共出版				

P11100090B [WS2-001]

科目名	生活習慣病と食生活	後期	講義	2 単位
サブタイトル	肥満・メタボリックシンドロームを中心に			
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 適正体重を維持することは健康づくりの第一歩である。肥満に起因する疾病が急増する一方で、間違ったダイエットによる貧血・月経異常・摂食障害なども多発している現代、生涯にわたり有用な正しいダイエットの知識を身につける。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、健康学・食事学・その他について教授します。 正しい体重コントロールの方法について学習を進める。単なる知識にとどまらず、健康的な日常生活の実践につながる授業を目指す。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 常に、健康に関する情報を新聞等で読み関心を高めておくこと。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 適正体重とは？BMI値によるジャストウエイトの求め方。 2. 「太る」とはどういうことか。 3. 肥満と痩せの問題点。 4. 体重・体脂肪率・腹囲・隠れ肥満・りんご型肥満・洋梨型肥満。 5. 間違ったダイエットの問題点。 6. 歩数計による消費エネルギー量調べ。 7. 代謝の活発な体を作るポイントとリバウンド防止のダイエット法。 8. 正しいダイエットとは。 9. 身近な食品のエネルギー比べ。 10. スポーツと食事(学外特別講師) 11. バランスの良いメニューの立て方。バランス5点で献立作成。 12. 各自の食生活を点検してみよう。 13. おやつとの正しい付き合い方。 14. 豊かな女性のための食事学(食生活は女性から)。 15. まとめ・自分をほめよう。 [成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100570 [WB2-008]

科目名	生活習慣病と食生活	後期	講義	2 単位
サブタイトル	肥満・メタボリックシンドロームを中心に			
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 資料を作成し配布する。				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100570 [WB2-008]

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] ゼミでは、大学生として必要な研究全般についての考え方や調査・測定を行う上での心構え、実施方法などを習得する。 研究成果を研究会や学会、学術論文等で発表するためのまとめ方、プレゼンテーション方法、文章の書き方、ディスカッションの能力を習得する。 卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。				
[授業概要] 運動生理学の基礎と応用知識の習得に努め、最新情報の整理を行う。 論文作成の方法やプレゼンテーションの技術を修得する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。 課題に対して予習・復習を2時間程度行う。				
[授業計画] 1. ゼミ活動についてのガイダンス 2. 文献検索の方法、図書館の利用方法 3. 運動生理学の基礎・応用知識の習得①、論文購読① 4. 運動生理学の基礎・応用知識の習得②、論文購読② 5. 運動生理学の基礎・応用知識の習得③、論文購読③ 6. 運動生理学の基礎・応用知識の習得④、論文購読④ 7. 運動生理学の基礎・応用知識の習得⑤、論文購読⑤ 8. 論文作成の進め方①、テーマづくり 9. 論文作成の進め方②、データ収集、実験方法 10. 論文作成の進め方③、データ分析 11. 論文作成の進め方④、統計解析 12. 論文作成の進め方⑤、考察の作り方 13. プレゼンテーションの方法① 図、表の作り方 14. プレゼンテーションの方法② 話し方、質問の仕方 15. プレゼンテーションの方法③ まとめ				
[成績評価方法] 1. ゼミへの積極的な参加姿勢(20%) 2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容(20%) 3. ディスカッションへの参加姿勢とその内容(20%) 4. 課題の提出状況とその内容(20%) 5. 文献検索量と整理(20%) 1～5の完成度について解説する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と理解度				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と理解度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と理解度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と理解度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と理解度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と理解度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と理解度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と理解度				
[教科書 (ISBN)] プリント配布等				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100720 [WI3-017]

科目名	専門演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 スポーツ選手の食事摂取状況、身体状況などから選手にとっての理想的な食事を考察できるようにする。また、理想的な食事を提供できるようにするためにはどうすればよいかを検討する。主体的に考え、行動できる力を身につける。 〔 授業概要 〕 文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。 スポーツ選手と直接かわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を把握する。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく 〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 文献検索、発表① 3. 文献検索、発表② 4. 学外実習(スポーツ選手の食事調査①) 5. 学外実習(スポーツ選手の食事調査②) 6. 学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定①) 7. 学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定②) 8. 学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握①) 9. 学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握②) 10. 食事調査解析① 11. 食事調査解析② 12. 体力測定、身体測定解析① 13. 体力測定、身体測定解析② 14. 選手へのフィードバック① 15. 選手へのフィードバック② 〔 成績評価方法 〕 レポート(60%)、発表(40%) レポート確認後、内容について解説します 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100720B [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができるができる 成績評価方法: レポート発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2 / 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 理論的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート発表				
[教科書 (ISBN)] 適宜資料配布				
[参考書 (ISBN)] 必要に応じて随時紹介します				

P11100720B [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 4回生で履修する卒業論文作成を目標とし、自ら課題発見をし解決する能力を養うことを目的とする。				
[授業概要] 「給食」をテーマに研究する。演習又は実習を行う。 研究テーマの例は以下の通り。 1.保育所や幼稚園における食物アレルギー児への給食の栄養量と他の児童への給食の栄養量とに差があるのかについて献立を分析 2.食物アレルギー児を対象とした給食のおやつについての検討 3.高齢者福祉施設で提供されている実施献立の栄養量の分析 4.高齢者福祉施設での行事食についての検討 これらのテーマを例として各自で研究計画を作成し、卒業論文作成の準備を進める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 特定給食施設における給食運営について復習しておくとともに、これらに関する新聞記事などに関心を持つこと (各回、予習復習合わせて2時間程度程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマの決定 4. 研究計画書作成① 5. 研究計画書作成② 6. 研究計画書作成③ 7. 参考文献検索① 8. 参考文献検索② 9. 研究計画書作成① 10. 研究計画書完成② 11. 中間発表会(1) 12. テーマごとの演習又は実習① 13. テーマごとの演習又は実習② 14. 中間発表会(2) 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業態度70%、レポート20%、中間発表成績10% レポートは後日添削し返却				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート, 中間発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度, 中間発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 授業態度, レポート, 中間発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 中間発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート課題				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100720C [WI3-017]

科目名	専門演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル	スポーツ・健康教育の調査			
担当者	重福 京子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 各自のテーマで調査研究をする				
[授業概要] 卒業論文に繋げるよう各自のテーマを確定し、文献と資料の収集、調査を行い論文の構成を考え、学習する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から研究論文に関係する論文等に関心を持つこと。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 卒業論文の理解 3. 研究テーマの検討 4. 研究計画書作成① 5. 研究計画書作成② 6. 文献検索① 7. 中間発表会① 8. 文献検索② 9. 文献検索③ 10. 文献検索・資料収集1 11. 文献検索・資料収集2 12. 研究調査作成1 13. 研究調査作成2 14. 研究調査作成3 15. まとめ				
[成績評価方法] レポート(50%)、受講態度(50%) レポートは後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル	スポーツ・健康教育の調査			
担当者	重福 京子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 受講態度 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし				

P11100720D [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 生活習慣病・スポーツ関連障害の予防・治療の実際について理解する。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、生物学・医学・健康学・スポーツ医学・その他について教授します。 生活習慣病・スポーツ医学は、その他、日本人の生命・健康を左右する事柄について、予防と治療が過去・現在どのように行われ、将来はどうあるべきかを考えていく。 実験・実習とは異なり、何らかの方法を用いれば、ある結果に行き着くものではない。結果の分からない事柄に、どのように立ち向かっていくのか、その考え方を学ぶ。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 近隣で開催される各種研究会(医療・スポーツ・栄養関係)に、積極的に参加することが望ましい。各回、予習復習を合わせて2時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 自己紹介等によるコミュニケーションの実践 2. 文献検索の実際 3. 文献抄読1 4. 他施設との連携のとり方 5. 研究テーマの構築 6. 文献抄読2 7. 蓄積されたデータの検討1 8. 検討課題の抽出1 9. 文献抄読3 10. 過去の卒業論文の理解1 11. 過去の卒業論文の理解2 12. 文献抄読4 13. 蓄積されたデータの検討2(プレゼンテーション) 14. 検討課題の抽出2(プレゼンテーション) 15. 半期のまとめ [成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100720E [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 適宜、参考になる文献・資料等を提示する。				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100720E [WI3-017]

科目名	専門演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 非常食や保存食の必要性について学ぶ。論文の書き方を過去の論文を参考にし、研究テーマの選び方を考える。				
〔 授業概要 〕 子供から高齢者のライフステージに応じた食生活をテーマにアレルギーや栄養コントロール等現代社会の食の問題を考慮できる食生活のあり方についての知識を深める。また、日本の良き食文化を学び、郷土料理や行事食についての知識を習得し、伝承方法等を見出し、食について学習を行う。 非常時の食についても研究を重ね、非常時のための「必要な備え」について研究を行う。アレルギー対応食や郷土料理、災害食が一人で作れるようになるための実技も行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 課題論文をよく読み、内容をまとめておくこと。次回の発表に備え、レポートやパワーポイントを作成し、プレゼンの練習をしておく。				
〔 授業計画 〕 1. オリエンテーション 2. 基礎調理を行う 3. 災害時に関する文献を読む 4. 災害の備えについて考える 5. 災害時の食事を作る① 6. 災害時の食事を考える 7. 災害時の食事を作る② 8. 災害時の食事を作る③ 9. アレルギー食品について学ぶ 10. アレルギー食品を除去した食事を考える 11. 提案した献立を実施する 12. 郷土料理について学ぶ 13. 郷土料理を作る① 14. 郷土料理を作る② 15. まとめ				
〔 成績評価方法 〕 レポート(50%)、発表・実技(50%) ・レポートは、後日添削して返却します。 ・発表・実技は、発表内容・取り組み方、実技は実施過程、取り組み方を総合して評価します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート、発表・実技				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート、発表・実技				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、発表・実技				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・実技				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート、発表・実技				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100720F [WI3-017]

科目名	専門演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 健康・栄養上の問題点を食事調査結果から抽出する手法を学ぶ。地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。				
[授業概要] 明治時代の医学者高木兼寛は、和食から洋食に変更する事で当時結核と並んで2大国民病であった脚気の発症が予防できる事を発見しました。この様に、ひとつの食品、食事形態により疾病を予防する方法が明らかになる事もあります。 この演習では、世界で起こっている健康問題と栄養状態、食環境、食習慣などの因子とのかかわりを明らかにする手法である栄養疫学のアプローチの基礎を学びます。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 1, 2回生で学んだ栄養学の基礎を復習するようにしてください。各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1. オリエンテーション、授業の進め方 2. 栄養疫学調査について①文献研究 3. 栄養疫学調査について②文献研究 4. 栄養疫学調査について③倫理的配慮 5. 栄養疫学調査について④研究デザインの概要 6. 栄養疫学調査について⑤プロトコール 7. 栄養疫学調査について⑥食事調査法の概要 8. 栄養疫学調査について⑦サンプリング法 9. 栄養調査に必要なスキル①調査紙の作成(1) 10. 栄養調査に必要なスキル②調査紙の作成(2) 11. 栄養調査に必要なスキル③ポーションサイズの決定 12. 栄養調査に必要なスキル④身体測定法 13. 栄養調査に必要なスキル⑤生体試料の分析 14. 栄養調査に必要なスキル⑥データの入力と分析 15. まとめ				
[成績評価方法] レポート(70%)、ゼミ中の課題(30%)。 レポートは後日添削して返却します。課題は、ディスカッション後、返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: レポート、課題、ディスカッション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: ゼミ課題、ディスカッション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート、ディスカッション				
[教科書 (ISBN)] プリント資料				
[参考書 (ISBN)] 随時紹介します				

P11100720G [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 4回生で行う卒業論文作成のための基礎トレーニング実験、ならびに文献検索の方法を学ぶ。				
[授業概要] 研究を行う上では、多くの器具や装置を使用する。それらは使用方法を誤ると、研究データが誤ったものになるだけでなく、大事故につながることもある。これらを正確かつ安全に使用できるように、また、4回生で行う卒業研究をイメージできるように基礎トレーニングを行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、課題に取り組むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。				
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 研究テーマを考える① 3. 研究テーマを考える② 4. 文献検索の方法① 5. 文献検索の方法② 6. 文献検索の方法③ 7. ガラス器具の使い方 8. 検量線の作成方法 9. タンパク定量の方法 10. データーの取り扱い方法① 11. データーの取り扱い方法② 12. データーの取り扱い方法③ 13. 実験報告書の作成方法① 14. 実験報告書の作成方法② 15. まとめ				
[成績評価方法] レポート レポートは添削して後日返却。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100720J [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 4年次の卒業論文作成に向けて研究デザインを考え、データ収集までの調査方法を習得する。				
[授業概要] 身体活動と食事の両面から、対象者に応じた健康教育支援の一助となるよう、年齢が異なる様々な人を対象に、活動量、身体組成(体脂肪量・骨量)の測定ならびに生活活動記録、食事記録、質問紙を用いて調査を行い、活動量、身体組成、生活習慣、食事の関連を検討する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 研究テーマに関するニュース・書籍・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集に努める。 課題に沿ってレポートを作成、提出する。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 参考文献の収集方法① 3. 参考文献の収集方法② 4. 研究テーマの検討① 5. 研究テーマの検討② 6. 研究デザインの検討① 7. 研究デザインの検討② 8. 調査の準備① 9. 調査の準備② 10. 調査の準備③ 11. 調査の実施① 12. 調査の実施② 13. データの収集と集計① 14. データの収集と集計② 15. データの収集と集計③				
[成績評価方法] レポート提出状況と内容(80%)、授業態度(20%) レポートは添削して後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2 / 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート、授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

科目名	専門演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①研究の意義・目的を理解し、主体的に必要な情報収集を行っている。				
②研究の意義・目的を理解し、協働性をもちながら、意欲的に計画・実行に関わっている。				
[授業概要]				
下記のテーマを中心に、調査研究を行う。				
①勤労者を対象とした健康管理対策の支援活動とその評価に関する研究				
②小児食物アレルギーの保護者支援等に関する研究				
双方共に健康や疾病に関する専門知識(理論)を実践に活かし、評価・改善するといった一連の流れを研究として行い、専門演習Ⅰでは実践に至るまでの計画・準備活動を中心とする。				
この取り組みを通して健康づくりや食育等への関心を高め、主体的に取り組む姿勢を構築する。				
また、種々のソーシャルスキル(コミュニケーションスキル、問題解決スキル、リーダーシップスキル等)を高め、社会に貢献する基盤を養う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
何事にも積極的に丁寧に取り組んでください。食・健康関連科目の復習を十分にし、得た知識や研究の進行状況等をノートにまとめるようにしてください。各回の予習復習の目安時間は約2時間です。				
[授業計画]				
※研究テーマによっては、内容や順番が異なる場合があります。				
1. オリエンテーション、研究テーマの検討				
2. 研究計画				
3. 調査等の準備または文献からの情報収集①				
4. 調査等の準備または文献からの情報収集②				
5. 調査等の準備または文献からの情報収集③				
6. 調査等の準備または文献からの情報収集④				
7. 文献からの情報収集の結果報告、質疑応答:プレゼン①				
8. 文献からの情報収集の結果報告、質疑応答:プレゼン②				
9. 調査等の結果の集計①				
10. 調査等の結果の集計②				
11. 調査等の準備①				
12. 調査等の準備②				
13. 調査等の実践①				
14. 調査等の実践②				
15. 調査等の実践③				
[成績評価方法]				
課題・提出物70%、プレゼン10%、実践活動20%				
フィードバック方法: 課題・提出物について、添削して返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 課題・提出物、実践活動				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題・提出物、実践活動				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実践活動				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題・提出物、プレゼン				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題・提出物、実践活動				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・提出物、実践活動				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・提出物、実践活動				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 課題・提出物、実践活動				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: プレゼン				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100720L [WI3-017]

科目名	専門演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 実験の基本操作や論理的思考を習得する。 卒業論文のテーマを決定する。				
[授業概要] 興味のある分野の学術論文を読む。そのための論文検索方法や、研究アプローチについてディスカッションを行い、それぞれの研究テーマを決定する。また、各テーマを実施するための基礎知識・技術についてトレーニングを行い、専門演習Ⅲに備える。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 研究ノートを作成し、実験前には十分な情報収集およびイメージトレーニングをすること。 必要に応じて、教員と議論すること。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 基礎実験体験・練習① 3. 基礎実験体験・練習② 4. 実験ノート作成 5. データ解析・練習 6. 文献検索 7. ディスカッション(個別)・文献検索① 8. ディスカッション(個別)・文献検索② 9. ディスカッション(全体)・文献検索 10. 実験・調査・解析① 11. 実験・調査・解析② 12. ミーティング 13. 実験・調査・解析③ 14. 実験・調査・解析④ 15. まとめ(発表会)				
[成績評価方法] プレゼンテーション(50%)、課題(50%) 全体での議論、個別指導を行う				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100720N [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法: 課題、プレゼンテーション				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] 随時紹介				

P11100720N [WI3-017]

科目名	専門演習Ⅰ	前期	実技	1 単位
サブタイトル	アカデミック・スキルを習得する			
担当者	小島 理永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 運動による健康教育支援が出来るよう、それぞれの種目に応じた科学的な調査方法ならびに測定方法を検討することができる。				
[授業概要] 1. 運動・スポーツに関するテーマを見つけ、テーマに見合った研究方法を検討する。 2. ゼミメンバーの調査方法ならびに実験について、互いに協力できる資質を身に付ける。 3. 図書館、電子ジャーナルより、関連する文献を検索し、自分の言葉でまとめる。 4. 基礎的な統計の学習(自らデータ収集を行い、統計分析ができる)。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 主体的に計画性をもって、勉学に取り組めること。また、研究テーマに関するニュース・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集に努めること。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 参考文献の収集方法① 3. 参考文献の収集方法② 4. 研究テーマの検討① 5. 研究テーマの検討② 6. 研究テーマの検討③ 7. 研究デザインの検討① 8. 研究デザインの検討② 9. 研究デザインの検討③ 10. 調査の準備① 11. 調査の準備② 12. 調査の準備③ 13. 調査の実施① 14. 調査の実施② 15. 調査の実施③				
[成績評価方法] 実験(調査)ノート(30%)、課題レポート(70%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習Ⅰ	前期	実技	1 単位
サブタイトル	アカデミック・スキルを習得する			
担当者	小島 理永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題レポート 学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 実験(調査)ノート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 毎時の課題 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし				

P11100720P [WI3-017]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
ゼミでは、大学生として必要な研究全般についての考え方や調査・測定を行う上での心構え、実施方法などを習得する。 研究成果を研究会や学会、学術論文等で発表するためのまとめ方、プレゼンテーション方法、文章の書き方、ディスカッションの能力を習得する。 卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。				
[授業概要]				
健康づくりのために生活習慣病などの危険因子をどのように減らすか、運動機能や体力を維持・向上させるためにはどのようなことを行っていかなければならないか、運動生理学の知識をベースに研究する。 研究テーマに関する専門書、論文を多読・精読し、その内容を整理して、必要な知識の習得に努める。 研究内容については、各自のテーマに応じて教員の指導の下で調査や測定を進める。 定期的に研究の進捗状況を報告し、課題と問題解決の具体的方法や健全な批判的思考法をゼミ生全体で検討する。 各自の卒業論文のテーマを決定する。 大学生として、あるいは社会人になるまでに身につけておかなければならない学士力や社会人基礎力の向上を目指す。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画]				
1.卒論テーマを選定する上に必要な文献検索① 2.卒論テーマを選定する上に必要な文献検索② 3.論文内容のまとめ① 4.論文内容のまとめ② 5.ゼミ生全員で作成する運動や健康づくりのためのマニュアルのテーマ設定 6.ゼミ課題に応じた実験や資料、文献集め① 7.ゼミ課題に応じた実験や資料、文献集め② 8.ゼミ課題に応じた実験や資料、文献集め③ 9.ゼミ課題に応じた実験や資料、文献集め④ 10. データ整理と解析① 11. データ整理と解析② 12.運動や健康づくりのためのマニュアル作成① 13. 運動や健康づくりのためのマニュアル作成② 14. 運動や健康づくりのためのマニュアル作成③ 15. マニュアルの印刷とプレゼンテーション方法の検討				
[成績評価方法]				
1.ゼミへの積極的な参加度と文献検索量(20%) 2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容(20%) 3. ディスカッションへの参加状況とその内容(20%) 4. 課題の提出状況とその内容(20%) 5. データ収集と解析の内容(20%) 1～5の完成度について解説する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100730 [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:課題への取り組み姿勢と理解度				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法:課題への取り組み姿勢と理解度				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み姿勢と理解度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み姿勢と理解度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み姿勢と理解度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題への取り組み姿勢と理解度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題への取り組み姿勢と理解度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題への取り組み姿勢と理解度				
[教科書(ISBN)] プリント配布				
[参考書(ISBN)] 随時紹介します				

P11100730 [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] スポーツ選手の食事摂取状況、身体状況などから選手にとっての理想的な食事を考察できるようにする。また、理想的な食事を提供できるようにするためにはどうすればよいかを検討する。主体的に考え、行動できる力を身につける。 [授業概要] 文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。 スポーツ選手と直接かわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を把握する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて2時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく [授業計画] 1. オリエンテーション 2. 文献検索、発表① 3. 文献検索、発表② 4. 学外実習(スポーツ選手の食事調査①) 5. 学外実習(スポーツ選手の食事調査②) 6. 学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定①) 7. 学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定②) 8. 学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握①) 9. 学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握②) 10. 食事調査解析① 11. 食事調査解析② 12. 体力測定、身体測定解析① 13. 体力測定、身体測定解析② 14. 選手へのフィードバック① 15. 選手へのフィードバック② [成績評価方法] レポート(60%)、発表(40%) レポート確認後、内容について解説します [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:レポート発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:理論的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート発表				
[教科書(ISBN)] 適宜資料配布				
[参考書(ISBN)] 必要に応じて随時紹介します				

P11100730B [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 4回生で履修する卒業論文作成を目標とし、自ら課題を発見し解決する能力を養うことを目的とする。				
[授業概要] 専門演習Ⅰで立案した研究計画を基に、引き続き演習又は実習を行う。 自らの課題に対して、しかるべき根拠を示すために十分な検証を行う。 期間中、数回に亘り発表会を設け、研究経過を第三者に示す経験を積む予定である。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 特定給食施設における給食の栄養管理について復習し、これについての新聞記事などに関心を持つこと(各回、予習復習合わせて2時間程度)				
[授業計画] 1. 専門演習Ⅰでの経過説明 2. 今後の研究計画の発表会 3. テーマごとの演習又は実習(1) 4. テーマごとの演習又は実習(2) 5. テーマごとの演習又は実習(3) 6. 中間発表会 7. 論文作成準備(1) 8. 論文作成準備(2) 9. 研究内容の見直し 10. 追加演習又は実習(1) 11. 追加演習又は実習(2) 12. 専門演習Ⅰ、Ⅱを通じての最終発表会(1) 13. 専門演習Ⅰ、Ⅱを通じての最終発表会(2) 14. 次年度、卒業論文のための準備 15. まとめ				
[成績評価方法] 授業態度90%、中間発表・最終発表成績10%				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100730C [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度, レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート, 中間発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 中間発表・最終発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度, レポート				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100730C [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル	スポーツ・健康教育の調査			
担当者	重福 京子			
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 各自の研究テーマを調査する。 [授業概要] 卒業論文に繋げるよう各自の研究テーマで論文の構成を考え学習する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から研究論文に関係する論文等に関心を持つこと。 各回、予習復習合わせて2時間程度。 [授業計画] 1. オリエンテーション 2. 調査研究1 3. 調査研究2 4. 調査研究3 5. 調査研究4 6. 調査研究5 7. 調査研究6 8. 調査研究7 9. 調査研究8 10. 調査研究集計1 11. 調査研究集計2 12. 調査研究集計3 13. 調査研究集計4 14. まとめ1 15. まとめ2 [成績評価方法] 受講態度(40%)、レポート・調査内容(60%) レポートは後日返却する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100730D [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル	スポーツ・健康教育の調査			
担当者	重福 京子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度 学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート・調査内容 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート・調査内容 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし				

P11100730D [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 生活習慣病・スポーツ関連障害の予防・治療の実際について理解する。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、生物学・医学・健康学・スポーツ医学・その他について教授します。 生活習慣病・スポーツ医学は、その他、日本人の生命・健康を左右する事柄について、予防と治療が過去・現在どのように行われ、将来はどうあるべきかを考えていく。 実験・実習とは異なり、何らかの方法を用いれば、ある結果に行き着くものではない。結果の分からない事柄に、どのように立ち向かっていくのか、その考え方を学ぶ。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 近隣で開催される各種研究会(医療・スポーツ・栄養関係)に、積極的に参加することが望ましい。各回、予習復習を合わせて2時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 他施設とのディスカッション1 2. 検討すべき課題の抽出1 3. 文献抄読1 4. 他施設とのディスカッション2 5. 検討すべき課題の抽出2 6. 文献抄読2 7. 他施設とのディスカッション3 8. 検討すべき課題の抽出3 9. 文献抄読3 10. 学年を超えてのコミュニケーション(研究テーマの引き継ぎ)1 11. 学年を超えてのコミュニケーション(研究テーマの引き継ぎ)2 12. 学年を超えてのコミュニケーション(研究テーマの引き継ぎ)3 13. 次年度に向けて(研究テーマについてのプレゼンテーション)1 14. 次年度に向けて(研究テーマについてのプレゼンテーション)2 15. 半期のまとめ [成績評価方法] コミュニケーション・リサーチ・プレゼンテーションなどにつき、積極性・明確性を評価する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100730E [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] 適宜、参考になる文献・資料等を提示する。				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100730E [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 4回生で行う卒業研究のテーマを決定し、実行案を作成する。				
[授業概要] 大規模災害が多発する中で、緊急時でも子供から高齢者のライフステージに応じた食生活を維持できるように取り組み、アレルギーや栄養コントロール等現代社会の問題についても考慮できる食生活のあり方についての知識を深める。また、日本の良き食文化を学び、郷土料理や行事食についての知識を習得し、実際に調理を行い伝承方法等を見出し、食について学習を行う。また、緊急時の備えとして、災害食を発案し、試作を行いレシピを作成し、防災冊子を制作する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 前回の内容をよく復習し、次回の発表に備え、レポートを作成しておく。また、普段から新聞や関連資料をよく読んでまとめておく。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 文献検索① 3. 文献検索② 4. 文献検索③ 5. 文献検索④ 6. 資料作成、試作① 7. 資料作成、試作② 8. 資料作成、試作③ 9. 資料作成、試作④ 10. 資料作成、試作⑤ 11. 資料作成、試作⑥ 12. 資料作成、試作⑦ 13. 資料作成、試作⑧ 14. 資料作成、試作⑨ 15. まとめ				
[成績評価方法] レポート(50%)、実技・発表(50%) ・レポートは、後日添削して返却します。 ・発表・実技は、発表内容・取り組み方、実技は実施過程、取り組みなどを総合して評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート、実技・発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート、実技・発表				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、実技・発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、実技・発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実技・発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート、実技・発表				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100730F [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 食事調査結果や実験から抽出した因子を分析する力を身に着ける				
[授業概要] 1880年代、オランダ人医師クリスティアーン・エイクマンはインドネシアで脚気の原因を調査中、偶然白米で飼われていたニワトリが脚気と同様の症状を示すことを見出し、玄米で飼育したニワトリには脚気の症状が見られない事から、精米時に取り除かれる糠に脚気を予防する成分が含まれる事を明らかにし、その成分の抽出に成功しました。それが、現在ビタミンB1(チアミン)と呼ばれる物質です。この演習では、専門演習Ⅰで学んだ栄養疫学的アプローチにより抽出した健康状態に与える因子を適切な実験により明らかにする手法を学びます。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] これまでに学んだ講義内容を復習しておいてください。各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1. オリエンテーション, 授業の進め方 2. 病態モデル動物① 3. 病態モデル動物② 4. 病態モデル動物③ 5. 病態モデル動物④ 6. 病態モデル動物⑤ 7. 生体試料の分析① 8. 生体試料の分析② 9. 生体試料の分析③ 10. 生体試料の分析④ 11. 生体試料の分析⑤ 12. 生体試料の分析⑥ 13. データ分析 14. プレゼンテーション 15. まとめ				
[成績評価方法] レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)。レポートは、後日添削して返却します。プレゼンテーションは、ルブリックで評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100730G [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養3-3 / 地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート、プレゼンテーション [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション [教科書 (ISBN)] プリント資料 [参考書 (ISBN)] 随時紹介します				

P11100730G [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 専門演習Ⅰで学習したことをスキルアップさせる。				
[授業概要] 専門演習Ⅰで学んだ内容を基に、実際の研究を遂行する。 研究素材として、ミネラルや食物成分を用い、生活習慣病の予防を目指した基礎的研究を行う。また、生活習慣病とミネラルとの間にどのような関係があるのかを、動物の臓器や血液ならびに種々の装置を利用して解明を行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、課題に取り組むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。				
[授業計画] 1. ガイダンス 2. pHメーターの使い方 3. プレートリーダーの使い方 4. 原子吸光光度計の使い方 5. 骨破断機の使い方 6. 遠心機の使い方 7. 紫外可視吸光光度計の使い方 8. 実験動物の取り扱い法／解剖の方法 9. 脂肪組織から遊離される脂肪酸の測定 10. リパーゼ活性の測定 11. α グルコシダーゼ活性の測定 12. アミラーゼ活性の測定 13. ACE活性の測定 14. レポートの作成 15. まとめ				
[成績評価方法] レポート レポートは添削して後日返却。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100730J [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100730J [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 専門演習Ⅰに引き続き、データ収集までの調査方法を習得する。得られたデータを集計、問題を抽出し、4年次の卒業論文作成に向けて検討する。				
[授業概要] 身体活動と食事の両面から、対象者に応じた健康教育支援の一助となるよう、年齢が異なる様々な人を対象に、活動量、身体組成(体脂肪量・骨量)の測定ならびに生活活動記録、食事記録、質問紙を用いて調査を行い、活動量、身体組成、生活習慣、食事の関連を検討する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 研究テーマに関するニュース・書籍・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集に努める。 課題に沿ってレポートを作成、提出する。				
[授業計画] 1. 調査の準備① 2. 調査の準備② 3. 調査の準備③ 4. 調査の実施① 5. 調査の実施② 6. データの収集と集計① 7. データの収集と集計② 8. データの収集と集計③ 9. 問題抽出① 10. 問題抽出② 11. 問題抽出③ 12. 卒業論文テーマ決定に向けての検討① 13. 卒業論文テーマ決定に向けての検討② 14. 卒業論文テーマ決定に向けての検討③ 15. 卒業論文テーマ決定に向けての検討④				
[成績評価方法] レポート提出状況と内容(80%)、授業態度(20%) レポートは添削して後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート、授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート				
[教科書(ISBN)] プリント配布				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100730K [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①研究の意義・目的を理解し、主体的に必要な情報収集を行っている。				
②研究の意義・目的を理解し、協働性をもちながら、意欲的に計画・実行に関わっている。				
③研究の意義・目的を理解し、得られたデータを理論的に分析することができる。				
[授業概要]				
専門演習Ⅰの研究を発展させ、得られたデータの意味を考えながら分析し、卒業論文の基盤となるよう目指します。その中で、更なる専門知識の獲得や、データを論理的に解釈する力、問題発見力を養い、自身の考えに至るまでのプロセスを学びます。演習Ⅱでも学外での栄養教育の実践活動があります。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
何事にも積極的に丁寧に取り組んでください。テーマに対する専門性をさらに深め、まとめとしての卒業論文を仕上げることができるよう、計画性をもって進めてください。各回の予習復習の目安時間は約2時間です。				
[授業計画]				
※研究テーマによっては、内容や順番が異なる場合があります。				
1. 食教材:献立作成①				
2. 食教材:献立作成②				
3. 食教材:献立作成③				
4. 調査等の集計・データ整理①				
5. 調査等の集計・データ整理②				
6. 調査等の集計・データ整理③				
7. 調査等の集計・データ整理④				
8. 調査等の集計・データ整理⑤				
9. 調査等の集計・データ整理⑥				
10. イベント用・献立作成①				
11. イベント用・献立作成②				
12. イベント用・調理実習				
13. イベント用・プレゼン作成				
14. 調査結果の分析①				
15. 調査結果の分析②				
[成績評価方法]				
成果物(献立作成、卓上カード等)40%、共同作業(データ整理、プレゼン作成等)40%、実践活動20%				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100730L [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 成果物、実践活動				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 成果物、実践活動				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 実践活動				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、実践活動				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、共同作業、実践活動				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 共同作業、実践活動				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 成果物、共同作業、実践活動				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100730L [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 専門演習Ⅰで検討した内容をベースに、卒業論文作成に向けてデータを蓄積する。				
[授業概要] 専門演習Ⅰで決定したテーマについて、どこまでを明らかにするのか道筋を描き十分な議論を行う。得られた結果について、道筋に逸れることなく多方面から解析・思考出来るよう、全体でのミーティング、トレーニングを行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 研究ノートを作成し、実験前には十分な情報収集およびイメージトレーニングをすること。 ゼミ仲間とも確認・協力・議論すること。必要に応じて、教員と議論すること。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1. 実験・調査・解析① 2. 実験・調査・解析② 3. 実験・調査・解析③ 4. 実験・調査・解析④ 5. 実験・調査・解析⑤ 6. 実験・調査・解析⑥ 7. 中間報告発表会 8. 実験・調査・解析⑦ 9. 実験・調査・解析⑧ 10. 実験・調査・解析⑨ 11. 実験・調査・解析⑩ 12. 実験・調査・解析⑪ 13. 実験・調査・解析⑫ 14. 実験・調査・解析⑬ 15. まとめ(発表会)				
[成績評価方法] プレゼンテーション(50%)、課題(50%) 都度、議論・指導する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100730N [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法: プレゼンテーション、課題、日々の取り組み姿勢				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 随時紹介				

P11100730N [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル	卒業研究論文の作成にむけて			
担当者	小島 理永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1.他者に論理立てて、「問題→解決方法→結果→考察」のプロセスを経て課題について、説明または発表することができる。				
2.他者の発表に対し、批判的思考力をもって質疑応答することができる。				
3.卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。				
[授業概要]				
研究テーマに関するニュース・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集・整理を行う。				
論文作成の方法やプレゼンテーションの技術を修得する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
日頃から研究テーマに関する図書や論文を読み、得られた知識をノートに整理すること。				
課題に対して予習・復習を2時間程度行う。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. コーチング学の基礎・応用知識の習得①、論文講読①				
3. コーチング学の基礎・応用知識の習得②、論文講読②				
4. コーチング学の基礎・応用知識の習得③、論文講読③				
5. スポーツ心理学の基礎・応用知識の習得①、論文講読①				
6. スポーツ心理学の基礎・応用知識の習得②、論文講読②				
7. スポーツ心理学の基礎・応用知識の習得③、論文講読③				
8. 論文作成の進め方①、テーマづくり				
9. 論文作成の進め方②、データ収集、実験方法				
10. 論文作成の進め方③、データ分析				
11. 論文作成の進め方④、統計解析				
12. 論文作成の進め方⑤、考察の作り方				
13. プレゼンテーションの方法① 図、表の作り方				
14. プレゼンテーションの方法② 話し方、質問の仕方				
15. プレゼンテーションの方法③ まとめ				
[成績評価方法]				
1. ゼミへの積極的な参加姿勢(20%)				
2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容(40%)				
3. ディスカッションへの参加姿勢とその内容(20%)				
4. 先行研究の整理(20%)				
フィードバックは授業中に都度行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	専門演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル	卒業研究論文の作成にむけて			
担当者	小島 理永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 報告資料作成とプレゼンテーションの内容 学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: ディスカッションへの参加姿勢とその内容 学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: ゼミへの積極的な参加姿勢 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 報告資料作成とプレゼンテーションの内容 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 報告資料作成とプレゼンテーションの内容 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: ディスカッションへの参加姿勢とその内容 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 報告資料作成とプレゼンテーションの内容 ディスカッションへの参加姿勢とその内容 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 報告資料作成とプレゼンテーションの内容 [教科書 (ISBN)] プリント配布等 [参考書 (ISBN)] なし				

P11100730P [WI3-018]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 卒業論文を作成するために必要な基本的なスキルや知識、専門的技能を身につける。特に、運動生理学に関する課題に対しての問題解決能力や論理的思考力、コミュニケーションスキルを習得する。 そして、4年間の集大成として創造性に富んだ卒業論文を完成させる。				
[授業概要] 各自が設定した研究テーマにしたがって実験や調査を行い、卒業論文を作成する。各ゼミ生は定期的に研究経過を報告し、多くのディスカッションを通して、研究内容を深めるようにする。論文作成と同時に発表形式にもまとめ、適切なプレゼンテーションができるようにする。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。 各課題についての理解度を高めるために5時間程度の時間を確保してください。				
[授業計画]				
[前期]				
1. 卒業論文作成の進め方とテーマ選定				
2. 研究計画書の作成				
3. 研究内容のポイント整理				
4. 文献資料の整理				
5. 実験・調査の実施①				
6. 実験・調査の実施②				
7. 実験・調査の実施③				
8. 実験・調査の実施④、進行状況報告、データ解析①				
9. 実験・調査の実施⑤、進行状況報告、データ解析②				
10. 実験・調査の実施⑥、進行状況報告、データ解析③				
11. データ解析④、論文作成①(背景と目的)				
12. データ解析⑤、論文作成②(背景と目的)				
13. データ解析⑥、論文作成③(方法)				
14. 論文作成④(方法)				
15. 論文作成⑤(結果)				
[後期]				
16. 論文作成⑥(結果)				
17. 論文作成⑦(結果)				
18. 論文作成⑧(考察)				
19. 論文作成⑨(考察)				
20. 論文作成⑩(考察)				
21. 論文作成⑪(考察)				
22. 論文作成⑫(参考文献)				
23. 論文完成				
24. プレゼンテーションpp作成①				
25. プレゼンテーションpp作成②				
26. プレゼンテーションpp作成③				
27. 卒論発表①				
28. 卒論発表②				
29. 卒論発表③				
30. まとめ				
[成績評価方法] 作成された論文の内容(90%)、論文発表のプレゼンテーションの内容(10%)により評価します。 論文の内容とプレゼンテーションについて評価のポイントを解説します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740 [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	奥野 直			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法: 課題への取り組み姿勢と論文の完成度				
[教科書 (ISBN)] プリント配布等				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100740 [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 3回生の専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて解析・分析した資料をもとに、文献検索、文章の書き方などを学び、卒業論文を完成させる。研究課題について調べたことをまとめて発表し、プレゼンテーションの方法についても深く学ぶ。 [授業概要] 文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。 スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を導き出したうえで、身体状況との関連を考察する [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、予習復習合わせて4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱ、スポーツ栄養情報処理演習、スポーツ栄養クッキングを復習しておく [授業計画] 1.オリエンテーション 2.論文の書き方 3.卒業論文のテーマ設定 4.文献検索、発表① 5.文献検索、発表② 6.学外実習(スポーツ選手の食事調査①) 7.学外実習(スポーツ選手の食事調査②) 8.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定①) 9.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定②) 10.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握①) 11.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握②) 12.食事調査解析① 13.食事調査解析② 14.体力測定、身体測定解析① 15.体力測定、身体測定解析② 16.卒業論文の研究計画① 17.卒業論文の研究計画② 18.卒業論文の中間発表・ディスカッション① 19.卒業論文の中間発表・ディスカッション② 20.卒業論文の中間発表・ディスカッション③ 21.卒業論文の中間発表・ディスカッション④ 22.卒業論文の仕上げ① 23.卒業論文の仕上げ② 24.卒業論文プレゼンテーション準備 25.卒業論文プレゼンテーション [成績評価方法] レポート(60%)、発表(40%) レポート確認後、内容について解説します [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740B [W14-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	坂元 美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート発表				
学科DP番号／DP内容:栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:レポート発表				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:理論的思考力／道筋に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート発表				
[教科書(ISBN)] 適宜資料配布				
[参考書(ISBN)] 必要に応じて随時紹介します				

P11100740B [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 各自の研究テーマに添った卒業論文作成を目標とする。				
[授業概要] 専門演習Ⅰ・Ⅱで立案した研究計画を基に十分な検証を行い、論文を作成する。 期間中、数回に亘り発表会を設け、研究経過を第三者に示す経験を積む予定である。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 特定給食施設における栄養管理に常に関心を持ち、新聞記事などから新しい知見を修得するよう心がけること(各回、予習復習合わせて2時間程度)				
[授業計画] 1. 専門演習Ⅱでの経過説明(1) 2. 専門演習Ⅱでの経過説明(2) 3. 研究計画発表会準備 4. 研究計画発表会 5. 食資源に関する学外研修(1)(神戸大学大学院農学研究科付属食資源教育研究センター) 6. 食資源に関する学外研修(2)(神戸大学大学院農学研究科付属食資源教育研究センター) 7. データの再検証(1) 8. データの再検証(2) 9. データの再検証(3) 10. 調理演習(1) 11. 調理演習(2) 12. 調理演習(3) 13. 調理演習(4) 14. 研究結果まとめ(1) 15. 研究結果まとめ(2) 16. 研究結果まとめ(3) 17. 中間発表(1) 18. 中間発表(2) 19. 考察の検討(1) 20. 考察の検討(2) 21. 考察の検討(3) 22. 論文完成に向けてまとめ(1) 23. 論文完成に向けてまとめ(2) 24. 論文修正(1) 25. 論文修正(2) 26. 論文修正(3) 27. 最終発表会(1) 28. 最終発表会(2) 29. 最終発表会(3) 30. まとめ				
[成績評価方法] 論文作成過程90%、中間発表・最終発表成績10%				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740C [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:論文作成に関する教員との打ち合わせ, レポート				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:論文作成過程, 中間発表, 最終発表				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:論文作成過程				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:論文作成過程				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:論文作成過程				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:中間発表, 最終発表				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文作成過程				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文作成過程				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:論文作成過程				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100740C [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	重福 京子			
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 各自のテーマで調査研究し、論文にまとめる [授業概要] 各自が研究課題をもったテーマについて資料収集した結果をまとめ、卒業論文を完成する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から研究内容に関係する論文に関心を持つこと。 [授業計画] - 論文資料作成・文献検索① - 論文資料作成・文献検索② - 論文資料作成・文献検索③ - 論文資料作成・文献検索④ - 論文資料作成・文献検索⑤ - 論文資料発表① - 論文資料発表② - 資料収集・個別指導① - 資料収集・個別指導② - 論文作成① - 論文作成② - 論文作成③ - 論文作成④ - 論文作成⑤ - 中間発表 - 個別指導① - 個別指導② - 個別指導③ - 個別指導④ - 個別指導⑤ - 個別指導⑥ - 論文中間発表 - 個別指導⑦ - 個別指導⑧ - 個別指導⑨ - 個別指導⑩ - 個別指導⑪ - 個別指導⑫ - 卒業論文発表 - 卒業論文発表 [成績評価方法] 論文作成過程(50%) 論文内容(50%) [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740D [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	重福 京子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:論文作成過程 学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:論文内容 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:論文作成過程 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:論文内容 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし				

P11100740D [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 生活習慣病(肥満・糖尿病)・スポーツ医学などの臨床医療・予防医療における食事・運動の効果について研究し、研究に関する論理的展開を身に付ける。 〔 授業概要 〕 医師免許を有する教員が、臨床医学の見地から研究指導します。 医療施設・その他との共同、企業との共同、他学との共同により、食事・運動療法の実践および調査・研究を行うことがある。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1-3年次に解剖生理学や医学・倫理等に関する事柄を確実に身に付けておくこと。一般社会におけるマナー・ルール・身だしなみをわきまえること。 各種学会・研究会等への積極的参加が望ましい。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 〔 授業計画 〕 - 研究テーマの抽出。論文等の検索(1) - 研究テーマの抽出。論文等の検索(2) - 研究テーマの抽出。論文等の検索(3) - 研究テーマの抽出。論文等の検索(4) - 研究テーマの抽出。論文等の検索(5) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(1) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(2) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(3) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(4) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(1) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(2) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(3) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(4) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(5) - 抽出したテーマに関する研究・調査の実践(6) - 論文執筆(論理的展開の開始～修正)(1) - 論文執筆(論理的展開の開始～修正)(2) - 論文執筆(論理的展開の開始～修正)(3) - 論文執筆(論理的展開の開始～修正)(4) - 論文執筆(論理的展開の開始～修正)(5) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(1) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(2) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(3) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(4) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(5) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(6) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(7) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(8) - 論文執筆(論理的展開の修正～完成)(9) - 卒業論文の完成。 〔 成績評価方法 〕 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)。 卒論発表会において、講評を行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740E [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
学科DP番号／DP内容:栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文の作成過程・内容の評価				
[教科書 (ISBN)]				
なし				
[参考書 (ISBN)]				
なし				

P11100740E [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 各自のテーマに取り組み、卒業論文を完成させる。 [授業概要] ① 緊急時の「食」をテーマに対象者の年齢やアレルギー対策などにも対応できる災害・保存食を研究する。 ② 料理と食材の変遷から、日本人の食生活の変化を研究する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 各自の研究テーマに合わせ、資料収集、データ整理をおこなっておくこと。次回に前回からの進行状況を必ずまとめ、報告が行えるようにしておく。 [授業計画] <前期> - オリエンテーション - 卒業論文の進め方 - 研究のテーマ決定① - 研究のテーマ決定② - テーマの文献・資料の探し方 - テーマの文献・資料の収集① - テーマの文献・資料の収集② - テーマの文献・資料の収集③ - 進行状況の発表 - 目次の作成① - 目次の作成② - 進行状況の発表 - 論文作成① - 論文作成② - 進行状況の発表 <後期> - 中間発表の準備① - 中間発表の準備② - 中間発表① - 中間発表② - 内容検討 - 論文作成① - 論文作成② - 論文作成③ - 論文作成④ - 論文発表の準備① - 論文発表の準備② - 論文発表の準備③ - 論文発表 - 論文発表 - まとめ [成績評価方法] 卒業論文(80%)、発表(20%) ・卒業論文は、締め切り日までに仕上げ提出後、評価します。 ・発表は、パワーポイントの作成、発表内容など総合的に評価します。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740F [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:卒業論文、発表 学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:卒業論文、発表 学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:卒業論文、発表 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、発表 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、発表 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文、発表 [教科書 (ISBN)] なし [参考書 (ISBN)] なし				

P11100740F [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 実験や調査で得たデータの現状把握と分析、効率的な情報検索、データの正確な処理、データの解析と考察する能力を養う事を目指す。				
[授業概要] 1. 栄養調査:フィールドワーク調査を行い、そのデータを基にした栄養教育プログラムの構築を目指す。 2. 栄養学的実験:様々な病態モデル動物(食事誘因、自然発症)を用いて、食餌、運動が実験動物の生理機能に及ぼす影響について検討する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ手法を基に、自らが疑問に思い、研究したいと思う内容について、最新の論文等を検索し、知識を得ておく。各回、予習復習合わせて4時間程度				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 科学論文の検索法 3. 科学論文の読み方 4. 抄読会① 5. 抄読会② 6. 研究テーマの立案 7. 研究テーマの検討 8. 研究テーマの決定 9. 実験オリエンテーション 10. 実験計画の立案 11. 実験手技① 12. 実験手技② 13. 実験手技③ 14. 実験手技④ 15. 実験手技⑤ 16. 予備実験 17. 予備実験結果の解析, 発表 18. 実験計画の再立案 19. 実験① 20. 実験② 21. 実験③ 22. 実験④ 23. データ解析① 24. データ解析② 25. 参考文献の検索① 26. 参考文献の検索② 27. 研究のまとめ方① 28. 研究のまとめ方② 29. プレゼンテーション方法 30. 卒業論文発表会				
[成績評価方法] 卒業論文内容(50%)、プレゼンテーション(50%)。卒業論文は、添削後返却します。プレゼンテーションはルブリックに基づき評価します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740G [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	松本 衣代			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:卒業論文、プレゼンテーション				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション				
[教科書(ISBN)] 随時プリント配布				
[参考書(ISBN)] 随時紹介します				

P11100740G [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 研究テーマの実験計画を立て、実験を行い、結果を考察して論文を作成する。 講義の空き時間には、研究室で積極的に卒業研究課題に取り組むことが必須である。				
〔 授業概要 〕 専門演習ⅠとⅡでイメージした内容をもとに、研究を進める。 (1)ミネラル成分には同位体が存在するものも多く存在する。同位体について学び、運動(スポーツ・トレーニング)・疾病など、身体に負荷がかかった状態で、体内のミネラルの同位体比が変化するか否か、動物を用いた研究から明らかにする。 (2)生活習慣病の予防を目的とした、新規ミネラル含有成分や食物成分の探索研究を行う。具体的には、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症をターゲットに、化学試薬、酵素、動物組織を用いたin vitro実験や疾患モデル動物を用いたin vivo実験を行う。 (3)生活習慣病で生体内のミネラルレベルに変化が生じるのか？この疑問を解明するために、種々の疾患モデル動物から臓器や血液を採取し、ミネラル濃度の定量研究を行う。併せて生化学パラメータの測定も行い、ミネラルの変動と生活習慣病の網羅的解析を行う。 (4)ミネラルを用いた生活習慣病予防や治療の最先端はどのようなものなのか？文献情報を検索してまとめ、新たな生活習慣病予防の方策を提案する事を課題とする。 など				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、卒業論文の課題に取り組むこと。				
〔 授業計画 〕 研究テーマに沿って学生自身が実験計画を立て、実験を行い、得られた結果を考察するが、これらを必要に応じて個別指導する。また、これをまとめて期限内に論文を作成できるように指導する。				
【前期】 1. 研究テーマ関連文献の検索(1) 2. 研究テーマ関連文献の検索(2) 3. 研究テーマ関連文献の検索(3) 4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1) 5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2) 6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3) 7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4) 8. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5) 9. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6) 10. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7) 11. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(8) 12. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(9) 13. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(10) 14. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(11) 15. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(12)				
【後期】 1. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1) 2. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2) 3. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3) 4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4) 5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5) 6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6) 7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7) 8. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(8) 9. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(9) 10. 論文作成(1) 11. 論文作成(2) 12. 論文作成(3) 13. 論文作成(4) 14. 論文作成(5) 15. 卒業論文発表会				
〔 成績評価方法 〕 グループワーク(40%)ならびに卒業論文(60%)				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740K [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート 学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート 学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:レポート [教科書 (ISBN)] なし [参考書 (ISBN)] なし				

P11100740K [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 専門演習Ⅰ・Ⅱで収集したデータを用いて、データ処理の方法ならびに研究論文作成の基本的な手法を習得し、卒業論文を完成させる。 [授業概要] 身体活動と食事の両面から、対象者に応じた健康教育支援の一助となるよう、年齢が異なる様々な人を対象に、活動量、身体組成(体脂肪量・骨量)の測定ならびに生活活動記録、食事記録、質問紙を用いて調査を行い、活動量、身体組成、生活習慣、食事の関連を検討する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習2時間程度。 卒業論文テーマに関連するニュース・書籍・論文などに日頃から関心を持ち、参考文献等の収集に努める。 計画に沿って卒業論文を作成、提出する。 [授業計画] 前期 1. 卒業論文テーマの決定 2. 参考文献の収集① 3. 参考文献の収集② 4. 参考文献の収集③ 5. 論文作成① 6. 論文作成② 7. 論文作成③ 8. 論文作成④ 9. 論文作成⑤ 10. 論文作成⑥ 11. 論文作成⑦ 12. 論文作成⑧ 13. 論文作成⑨ 14. 論文作成⑩ 15. 論文中間提出 後期 1. 個別指導① 2. 個別指導② 3. 個別指導③ 4. 個別指導④ 5. 個別指導⑤ 6. 個別指導⑥ 7. 個別指導⑦ 8. 個別指導⑧ 9. 個別指導⑨ 10. 個別指導⑩ 11. 卒業論文提出 12. 卒業論文発表会スライド作成① 13. 卒業論文発表会スライド作成② 14. 卒業論文発表会発表練習① 15. 卒業論文発表会発表練習② [成績評価方法] 卒業論文提出状況と内容(90%)、卒業論文発表会プレゼンテーション(10%) 卒業論文は添削して後日返却する。 卒業論文発表会プレゼンテーションのスライドは発表練習時に添削する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740L [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	糸井 亜弥			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:卒業論文				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:卒業論文				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、卒業論文発表会プレゼンテーション				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文				
[教科書 (ISBN)] プリント配布				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100740L [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①必要な情報を主体的に調べ、論理的思考に活かすことができる。				
②得られた結果について、知識を統合して分析し考察することができる。				
③卒業論文の完成および発表のための準備を計画的に進めることができる。				
[授業概要]				
研究活動で得た種々のデータを分析します。結果の考察では、これまで学んだ専門知識等を統合し、参考文献を交えながら考察します。研究の目的、方法、結果、考察、結論のそれぞれをよく考え、論述できる力を養い、論文の完成をめざします。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
文献等の情報収集は自己で進め、得た知識や進行状況をノートにまとめる等、自主的、計画的に進めてください。各回の自主学習は4時間程度、終盤はそれ以上が必要です。				
[授業計画]				
1. データ分析①				
2. データ分析②				
3. データ分析③				
4. データ分析④				
5. データ分析⑤				
6. 文献等検索				
7. 結果表等の作成①				
8. 結果表等の作成②				
9. 結果表等の作成③				
10. 結果表等の作成④				
11. 結果表等の作成⑤				
12. データ再分析等の修正①				
13. データ再分析等の修正②				
14. データ再分析等の修正③				
15. 結果表 再作成①				
16. 結果表 再作成②				
17. 結果表 再作成③				
18. 論文作成①				
19. 論文作成②				
20. 論文作成③				
21. 論文作成、修正①				
22. 論文作成、修正②				
23. 論文作成、修正③				
24. 論文作成、修正④				
25. 論文作成、修正⑤				
26. 論文作成、修正⑥				
27. 卒論プレゼン準備①				
28. 卒論プレゼン準備②				
29. 卒論プレゼン準備③				
30. 卒論プレゼン準備④				
[成績評価方法]				
結果の図表等30%、卒論原稿50%、プレゼン原稿20%、				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100740M [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:卒論原稿 学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:卒論原稿 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:図表、卒論原稿、プレゼン原稿 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒論原稿、プレゼン原稿 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒論原稿 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし				

P11100740M [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 自身の研究テーマに関連する文献を多数精読し、既知の事柄から新たな仮説を導くことが出来るようになる。また、その仮説を検証するためにはどのような研究を行えば良いか論理的に計画・実行できるようになる。				
[授業概要] 綿密な計画と入念な議論を行い、立てた仮説を検証するべく研究を実施する。文献、参考書、試薬・機器メーカーへの問い合わせ等、自身でトラブルシューティングを行いながら、目標目指して研究を行い、得られた結果について解析・考察を行う。最終的には卒業論文としてまとめる。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 必要な情報を文献より収集し、事前に計画・イメージトレーニングを行っておく。試薬・機器類の扱い方についても事前に修練し、実験当日は滞りなく遂行できるようにする。				
[授業計画]				
前期:				
1. 研究テーマ関連文献の収集・精読①				
2. 研究テーマ関連文献の収集・精読②、議論				
3. 研究テーマ関連文献の収集・精読③、議論、実験準備				
4. 実験準備、議論				
5. 実験および議論①				
6. 実験および議論②				
7. 実験および議論③				
8. 実験および議論④				
9. 実験および議論⑤				
10. 実験および議論⑥				
11. 実験および議論⑦				
12. 実験および議論⑧				
13. 実験および議論⑨				
14. 実験および議論⑩				
15. 実験および議論⑪				
後期:				
1. 実験および議論、論文作成①				
2. 実験および議論、論文作成②				
3. 実験および議論、論文作成③				
4. 実験および議論、論文作成④				
5. 実験および議論、論文作成⑤				
6. 実験および議論、論文作成⑥				
7. 実験および議論、論文作成⑦				
8. 実験および議論、論文作成⑧				
9. 実験および議論、論文作成⑨				
10. 実験および議論、論文作成⑩				
11. 実験および議論、論文作成⑪				
12. 実験および議論、論文作成⑫				
13. 実験および議論、論文作成⑬				
14. 論文仕上げ				
15. 卒業論文発表会				
[成績評価方法] 研究室内発表(30%)、卒業論文(70%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	卒業論文	前期～後期	演習	8 単位
サブタイトル				
担当者	木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
学科DP番号／DP内容:栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:研究室内発表、取組み姿勢、卒業論文				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100740P [W14-011]

科目名	体育原理	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	小島 理永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
・世界の教育動向および日本の教育情勢を理解できる。 ・体育の役割および体育理念の変遷について説明できる。 ・体育における技術指導、人格教育について、具体的な指導法を理解できる。				
[授業概要]				
近年、教科の枠を超えて機能する資質・能力の育成を目指した教育への転換が図られている。このような動向を踏まえ、新学習指導要領では、①「知識・技能」の習得、②「思考力・判断力・表現力等」の育成、③「学びに向かう力・人間性等」の涵養が示された。本授業では、体育授業での指導場面を想定しながら、「体育の役割は何か」、「体育は何を教える教科か」などの根源的な問題を解明していく。加えて、技術指導、人格教育、戦術学習など具体的な指導法についても講義する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
予習・復習に4時間程度				
[授業計画]				
第1回:ガイダンス;体育原理で何を学ぶのか。				
第2回:世界の教育動向と学校体育の役割				
第3回:学習指導要領(保健体育科)の変遷、目標、指導内容				
第4回:体育理念の変遷				
第5回:体育とスポーツは何が違うのか				
第6回:運動のもつ可能性				
第7回:体育における人間形成				
第8回:体育とフェアプレイ——フェアプレイは有効か				
第9回:体育と身体形成——身体形成とは何か				
第10回:体育で競争をどのように位置づけるか				
第11回:プレイが生み出す体育の可能性——プレイは何をもたらすか(プレイ論)				
第12回:体育と指導者——体育教師とコーチ、何が違うのか				
第13回:運動部活動の意義と課題				
第14回:運動部活動の意義と課題				
第15回:まとめの講義				
試験				
* 受講生の興味関心によってスポーツ倫理など授業内容を変更する場合がある。				
[成績評価方法]				
講義ノート30% 筆記試験70%				
試験終了後に解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100970 [WI1-017]

科目名	体育原理	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	小島 理永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 筆記試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 筆記試験 [教科書(ISBN)] 教養としての体育原理 著者名: 友添秀則・岡出美則編 出版社: 大修館書店、2016 [参考書(ISBN)] 授業内にて資料を適宜配布する。				

P11100970 [WI1-017]

科目名	調理科学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 美味しさをどのように判断するのか理解する				
2. 調理により食品成分がいかに変化しているのかを理解する				
3. 食品素材が調理方法によって変化する状況を理解する以上の項目から調理が科学的に成り立っていることを理解し、実際の調理にその知識が生かされるようになることを目標とする。				
[授業概要]				
『人間と環境にやさしい調理を行うために』調理科学(Cookery science)は、調理に関する様々な事柄を総合的に学ぶものであり、人間生活にもっとも身近な位置するもので、自然科学のみではなく、社会学や人文科学的な面を加味しながら、調理過程における様々な現象にみられる性質や法則性などを見出し、実際の調理に結びつける裏付けを理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
各回、予習復習合わせて4時間程度。				
前回の授業内容を復習しておくこと。理解できなかったことをまとめ、質問表を製作し、理解出来るまで質問を行うこと。次回の授業の予習をしておくこと。				
[授業計画]				
1. 調理科学とは				
2. おいしさの科学1				
3. おいしさの科学2				
4. 調理と食品成分の変化1				
5. 調理と食品成分の変化2				
6. 調理と食品成分の変化3				
7. 調理操作1				
8. 調理操作2				
9. 食品素材と調理1				
10. 食品素材と調理2				
11. 食品素材と調理3				
12. 食品素材と調理4				
13. 人間・環境と調理1				
14. 人間・環境と調理2				
15. まとめ				
[成績評価方法]				
試験(70%)、小テスト(20%)、レポート課題(10%)				
・小テストは、添削後、返却します。				
・レポートは、後日添削して返却します。				
・試験の答案を回収後、解答の解説をします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	調理科学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験・レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] Nブックス 調理科学 [第4版] 著者名: 森高初恵他編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0583-9)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100300A [WI1-009]

科目名	調理科学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 美味しさをどのように判断するのか理解する				
2. 調理により食品成分がいかに変化しているのかを理解する				
3. 食品素材が調理方法によって変化する状況を理解する以上の項目から調理が科学的に成り立っていることを理解し、実際の調理にその知識が生かされるようになることを目標とする。				
[授業概要]				
『人間と環境にやさしい調理を行うために』調理科学(Cookery science)は、調理に関する様々な事柄を総合的に学ぶものであり、人間生活にもっとも身近な位置するもので、自然科学のみではなく、社会学や人文科学的な面を加味しながら、調理過程における様々な現象にみられる性質や法則性などを見出し、実際の調理に結びつける裏付けを理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
各回、予習復習合わせて4時間程度。				
前回の授業内容を復習しておくこと。理解できなかったことをまとめ、質問表を製作し、理解出来るまで質問を行うこと。次回の授業の予習をしておくこと。				
[授業計画]				
1. 調理科学とは				
2. おいしさの科学1				
3. おいしさの科学2				
4. 調理と食品成分の変化1				
5. 調理と食品成分の変化2				
6. 調理と食品成分の変化3				
7. 調理操作1				
8. 調理操作2				
9. 食品素材と調理1				
10. 食品素材と調理2				
11. 食品素材と調理3				
12. 食品素材と調理4				
13. 人間・環境と調理1				
14. 人間・環境と調理2				
15. まとめ				
[成績評価方法]				
試験(70%)、小テスト(20%)、レポート課題(10%)				
・小テストは、添削後、返却します。				
・レポートは、後日添削して返却します。				
・試験の答案を回収後、解答の解説をします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	調理科学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	松浦 紀美恵			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験・レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験・レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] Nブックス 調理科学 [第4版] 著者名: 森高初恵他編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0583-9)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100300B [W11-009]

科目名	トレーニング実践演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング			
担当者	重福 京子、奥野 直、坂元 美子、鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] トレーニング実践演習がめざすものは、種々のスポーツにおける体力づくりに応じた長い期間のトレーニングと食事管理を両立させる。トレーニング実践演習Ⅰでは「自分にあったペース」を知ったうえで「栄養に関する基礎知識を習得し実践する能力」を身につけ「完走できる持久力」をつけることを目的とする。				
[授業概要] それぞれの専門分野における体力づくりに応じた長い期間のトレーニングと食事管理を両立させるために栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃からの健康状態を良好に保つ 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 2020年度 開講予定 1～ 4. 4月25日(土)1～4限 5～ 8. 5月23日(土)1～4限 9～12. 6月13日(土)1～4限 13～15. 6月27日(土)1～3限				
1. オリエンテーション(重福京子) 2. 運動負荷テスト・基礎体力及び体組成測定(重福京子) 3. トレーニングにおけるスポーツ医学(鈴木一永) 4. トレーニング①心拍とスピードの関係を知る(重福京子) 5. 持久力・筋力トレーニングプログラムの作成(奥野直) 6. トレーニング②心拍とスピードの関係を知る(重福京子) 7. スポーツ栄養実践・食事調査(坂元美子) 8. トレーニング③フォームチェック(重福京子) 9. トレーニング④快適ベースの持久力(重福京子) 10. トレーニング⑤快適ベースの持久力(重福京子) 11. 動きづくりトレーニング、インターバル走6km(重福京子) 12. 動きづくりトレーニング、インターバル走10km(重福京子) 13. 動きづくりトレーニング、インターバル走12km(重福京子) 14. 動きづくりトレーニング、インターバル走14km(重福京子) 15. ランニング15kmタイム測定、体組成測定、栄養調査(重福京子)				
[成績評価方法] 活動記録書にする身体能力評価(50%)、受講態度(30%) レポート:基礎トレーニング理論、基礎スポーツ栄養学理論(20%) レポートは後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100871 [WI1-013]

科目名	トレーニング実践演習 I	前期	演習	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング			
担当者	重福 京子、奥野 直、坂元 美子、鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:身体的評価 学科DP番号／DP内容:栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:受講態度、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:身体的評価 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講態度・レポート [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] 随時紹介する。				

P11100871 [WI1-013]

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル	応用トレーニング			
担当者	重福 京子、奥野 直、坂元 美子、鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] トレーニング実践演習Ⅱはトレーニング実践演習Ⅰの科目を履修済みとしている。 トレーニング実践演習Ⅰで身につけた能力を最大限に発揮する方法を理解する。長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方を研究し、その効果をまとめ、長時間の持続的な運動を実践する。				
[授業概要] それぞれの専門分野における長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方を研究するためにスポーツ栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から健康状態を良好に保つ 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 2020年度 開講予定 1～ 4. 9月26日(土)1～4限 5～ 8. 10月24日(土)1～4限 9～12. 11月21日(土)1～4限 13～15. 1月9日(土)1～3限				
1. 長距離走に向けた体力とは:生理的見地から(奥野直) 2. 持久力・筋力とトレーニングプログラム作成(奥野直) 3.長距離トレーニングにおけるスポーツ医学(鈴木一永) 4. 基礎体力及び体組成測定、栄養指導(重福、坂元) 5. ランニングのための基礎体力確認(6～15km)①(重福京子) 6. ランニングのための基礎体力確認(6～15km)②(重福京子) 7. 持久走トレーニングと栄養との関連①(重福京子) 8. 持久走トレーニングと栄養との関連②(重福京子) 9. 持久走トレーニングと栄養との関連③(重福京子) 10. 持久走トレーニングと栄養との関連④(重福京子) 11. 持久走トレーニングと栄養との関連⑤(重福京子) 12. 持久走トレーニングと栄養との関連⑥(重福京子) 13. 持久走トレーニングと栄養との関連⑦(重福京子) 14. 体組成測定、栄養調査(重福京子) 15. まとめ(重福京子)				
[成績評価方法] 活動記録書による身体的能力評価(30%)受講態度(50%) レポート:応用トレーニング理論、応用スポーツ栄養学理論(20%) レポートは後日返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100881 [WI1-014]

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	演習	1 単位
サブタイトル	応用トレーニング			
担当者	重福 京子、奥野 直、坂元 美子、鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 身体的評価 学科DP番号／DP内容: 栄3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 受講態度・レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 身体的評価 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度・レポート [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] 随時紹介する。				

P11100881 [WI1-014]

科目名	フードコーディネート論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	安原 美帆			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] フードコーディネートが食生活に果している役割と価値を理解することをめざします。				
[授業概要] フードコーディネートの基礎と実際の要点を理解し、ホスピタリティ(もてなしの心)とアメニティ(もてなしの形)を内包する日本のOMOTENASHIを基本としたフードコーディネートができる力を養うことを目的として講義します。そして特に、フードスペシャリスト資格認定試験に必要なフードコーディネート論の基礎知識を学び、食に関するコーディネートに必要な知識と技術と実践力を養います。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] テキストの各章冒頭の「★概要とねらい」を、授業までに読んでおいてください。 授業で指示したテキストの重要語句を整理しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。				
[授業計画] 1. フードコーディネートとの基本理念 2. 食事の文化(1) ①食のタブーと宗教 ②特別な日の食事 3. 食事の文化(2) ①日本の食事 ②外国の食事 4. 食卓のコーディネート(1) テーブルコーディネートの要点 5. 食卓のコーディネート(2) 食器・食具と食卓のコーディネート(日本料理・中国料理・西洋料理) 6. 食卓のサービスとマナー(1) ①サービスとマナーの基本 ②日本・中国・西洋の各料理のサービスとマナー 7. 食卓のサービスとマナー(2) ①パーティ ②プロトコルと席次 8. メニュープランニング(1) メニュープランニングの要件 9. メニュープランニング(2) 料理様式とメニュー開発の基礎 10. 食空間のコーディネート(1) 食事空間のコーディネートの基礎 11. 食空間のコーディネート(2) 食事空間とキッチンのコーディネート 12. フードサービスマネジメント(1) ①フードサービスビジネスの動向と特性 ②マネジメントの基礎 13. フードサービスマネジメント(2) フードサービス(レストラン)の起業 14. 食の企画と実践フードコーディネート 15. まとめ				
[成績評価方法] 小テスト(30%)、レポート(30%)、授業中の課題(20%) レポートは、後日添削して返却します。 小テストは、後日添削して返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	フードコーディネート論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	安原 美帆			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 小テスト、授業中の課題				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート、小テスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] 「三訂 フードコーディネート論」(最新発行のもの) 著者名: (公社)日本フードスペシャリスト協会編 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0440-5)				
[参考書 (ISBN)] 『2020年版フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』 著者名: (社)日本フードスペシャリスト協会編 出版社: 建帛社 (2月末発行のため未定) 『秘められた和食史』 著者名: カタジーナ・チフィエルトカ、安原美帆 出版社: 新泉社 (978-4-7877-1601-1) プリント配布 『Branding Japanese Food: From Meibutsu to Washoku (Food in Asia and the Pacific)』 著者名: Katarzyna J. Cwietka with Yasuhara Miho 出版社: University of Hawaii Press (978-0824881221)				

P11100660 [WI4-006]

科目名	フードスペシャリスト論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子、松浦 紀美恵、松本 衣代、吉川 豊、木村 大輔			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] フードスペシャリストの仕事を理解し、認定試験に合格することを目標とする。				
[授業概要] フードスペシャリストとは、食の本質が「おいしさ」「楽しさ」「もてなし」にあることを学び、それを支える官能評価・鑑別論、調理学、食物学など食に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた食を消費者に提供できる力を持つ食の専門職である。 この仕事の役割を理解し、消費者から要求される知識をオムニバス講義により学修する。また、学外でのテーブルマナー講習会を受講し、国際儀礼やもてなしについて学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業の復習をしておくこと。 食に関する話題に関心を持つこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)				
[授業計画] 1. オリエンテーション、フードスペシャリストとは(佐藤) 2. 食生活の変遷と消費行動(佐藤) 3. おいしさの追求(松浦) 4. 食品の品質規格(松本) 5. 人類と食環境(松本) 6. 現代の食卓の課題(松浦) 7. 食品の鮮度と熟度1(吉川) 8. 食品の鮮度と熟度2(吉川) 9. 鑑別検査の概要(吉川) 10. 食物の安全性と消費者の保護(木村) 11. 食物の安全性と消費者の保護(木村) 12. 食の消費現場とこれに対する食産業、情報と活用(佐藤) 13. テーブルマナー講習会:学外(佐藤、松本) 14. テーブルマナー講習会:学外(佐藤、松本) 15. フードスペシャリストの役割と展望、まとめ(佐藤)				
[成績評価方法] 授業態度50%、レポート50% ・レポートは講評の上、返却する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100650 [WI4-007]

科目名	フードスペシャリスト論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	佐藤 誓子、松浦 紀美恵、松本 衣代、吉川 豊、木村 大輔			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-2／健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: マナー講座				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート				
[教科書 (ISBN)] 「フードスペシャリスト論」 著者名: 日本フードスペシャリスト協会 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0604-1) 「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」 著者名: 日本フードスペシャリスト協会 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0506-8 C3077)				
[参考書 (ISBN)] 「三訂 食品の消費と流通」 著者名: 日本フードスペシャリスト協会 出版社: 建帛社 (9784767905389) 「フードシステムの経済学」第5版 著者名: 時子山ひろみ他 出版社: 医歯薬出版株式会社 (9784263707401)				

P11100650 [WI4-007]

科目名	理学療法論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永、加藤 順一、伊藤 宣、青山 朋樹、田代 雄斗、島 香織			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 内科的・整形外科的な急性・慢性傷害の予防や健康増進の方法について理解を深める。また、理学療法(リハビリテーション)につて理解し、様々な疾病や傷害に対する評価方法・アプローチ方法・リスク管理等について習得する。				
[授業概要] 医師免許または理学療法士免許を有する教員が、以下に記す内容について教授します。 整形外科的リハビリテーション: 理学療法では、エクササイズによる運動刺激・物理治療機器による物理刺激を用いて、運動器・呼吸循環器・神経系の機能障害からの回復・健康増進が可能である。しかしながら、単にエクササイズや物理刺激を行うのではなく、属性・疾病・スポーツ特性・器械特性に応じてプログラムを組み立てる必要がある。そのためには、解剖学・生理学・運動学の知識に加え、運動を理解し、パフォーマンスを最大限に引き出すための工夫が必要である。 内科的リハビリテーション: 理学療法に必要な知識である運動時の諸機能の変化および加齢や臨床における様々な内科疾患に対する運動の効果を学ぶとともに、その意義について運動生理学的な視点から、運動や身体活動への疾患に対する理解を深める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 解剖生理学・臨床医学概論において学んだ事柄の確認や、運動生理学など運動に関する基本的な分野を復習しておく、授業内容とリンクにして理解しやすくなる。また、スポーツに関するニュースやトピックスなどの情報収集を行うこと。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。				
[授業計画] 1. はじめに(鈴木)・運動器の機能解剖と外傷(青山) 2. スポーツ障害とリハビリテーション1(健康者スポーツ)(田代) 3. 慢性関節疾患(伊藤) 4. スポーツ障害とリハビリテーション2(障害者スポーツ)(田代) 5. 高齢者の健康増進(青山) 6. 運動生理学と身体機能および呼吸・循環機能の評価について(加藤) 7. 循環器疾患および呼吸器疾患と運動について(心臓リハビリ・呼吸リハビリ)(加藤) 8. 物理治療機器によるリハビリテーション(田代) 9. 女性アスリートのコンディショニング(島) 10. 神経疾患および代謝疾患と運動について(運動麻痺障害とリハビリ・糖尿病)(加藤) 11. 運動および身体活動と生活習慣病(加藤) 12. Woman's Health (月経困難症・骨粗鬆症・失禁)(島) 13. スポーツコンディショニング(田代) 14. 動物アスリートのコンディショニング(田代) 15. まとめ(鈴木)				
※講師の都合により、順序が入れ替わることがあります。				
[成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100500 [WB3-002]

科目名	理学療法論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	鈴木 一永、加藤 順一、伊藤 宣、青山 朋樹、田代 雄斗、島 香織			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 必要に応じ、各回、適宜、資料を配布する。				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100500 [WB3-002]

科目名	臨床医学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	健康と医療			
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 栄養と運動に関わる者として、ヒトの体に起こる病気のしくみ(成因)や病態(現象)を理解することを目標とする。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、臨床医学全般について教授します。 「栄養士」になるために必要な知識を身につける。「人体の構造と機能」の一分野として「臨床医学概論」を学ぶ。 人体の構造と機能＝解剖生理学+臨床医学+運動生理学+生化学 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 「解剖生理学」の知識が基本となります。解剖生理学で得た知識を確認し、さらに毎回しっかりと復習が必要です。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 病気とは何か:病気が起こるメカニズムと病気の成り立ち 2. 栄養障害と代謝異常:栄養・代謝の概要と栄養・代謝に関わる病気 3. 消化器系の異常:消化器系の概要と消化管・肝臓・胆嚢の病気 4. 内分泌系の異常:内分泌系の概要とホルモンの病気 5. 糖尿病:糖尿病の概要と血糖コントロールと合併症 6. 循環器系の異常:循環器系の概要と心臓・血管・血圧の病気 7. 脂質異常症・メタボリックシンドローム:脂質代謝の概要と高脂血症・動脈硬化 8. 泌尿器系の異常:泌尿器系の概要と腎臓・尿路の病気 9. 神経系の異常:神経系の概要と中枢神経・末梢神経の病気 10. 呼吸器系の異常:呼吸器系の概要と気道・肺の病気 11. 血液・免疫系の異常:血液・免疫系の概要と血液・免疫の病気 12. 運動器の異常:運動器系の概要と骨・関節・筋肉の病気 13. 生殖器系の異常:生殖器系の概要と女性生殖器・男性生殖器の病気 14. 悪性腫瘍:悪性腫瘍全般のまとめ 15. まとめ [成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100070A [WB2-005]

科目名	臨床医学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	健康と医療			
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書(ISBN)] ニューステージ新生物図表 1年生前期健康管理概論(倫理学を含む)でも使用。1年生後期解剖生理学でも使用。 著者名: 浜島書店編集部 出版社: 浜島書店 (978-4-8343-4009-9 C7345) 資料を作成し配布する。				
[参考書(ISBN)] なし				

P11100070A [WB2-005]

科目名	臨床医学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	健康と医療			
担当者	鈴木 一永			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 栄養と運動に関わる者として、ヒトの体に起こる病気のしくみ(成因)や病態(現象)を理解することを目標とする。 [授業概要] 医師免許を有する教員が、臨床医学全般について教授します。 「栄養士」になるために必要な知識を身につける。「人体の構造と機能」の一分野として「臨床医学概論」を学ぶ。 人体の構造と機能＝解剖生理学+臨床医学+運動生理学+生化学 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 「解剖生理学」の知識が基本となります。解剖生理学で得た知識を確認し、さらに毎回しっかりと復習が必要です。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。 [授業計画] 1. 病気とは何か:病気が起こるメカニズムと病気の成り立ち 2. 栄養障害と代謝異常:栄養・代謝の概要と栄養・代謝に関わる病気 3. 消化器系の異常:消化器系の概要と消化管・肝臓・胆嚢の病気 4. 内分泌系の異常:内分泌系の概要とホルモンの病気 5. 糖尿病:糖尿病の概要と血糖コントロールと合併症 6. 循環器系の異常:循環器系の概要と心臓・血管・血圧の病気 7. 脂質異常症・メタボリックシンドローム:脂質代謝の概要と高脂血症・動脈硬化 8. 泌尿器系の異常:泌尿器系の概要と腎臓・尿路の病気 9. 神経系の異常:神経系の概要と中枢神経・末梢神経の病気 10. 呼吸器系の異常:呼吸器系の概要と気道・肺の病気 11. 血液・免疫系の異常:血液・免疫系の概要と血液・免疫の病気 12. 運動器の異常:運動器系の概要と骨・関節・筋肉の病気 13. 生殖器系の異常:生殖器系の概要と女性生殖器・男性生殖器の病気 14. 悪性腫瘍:悪性腫瘍全般のまとめ 15. まとめ [成績評価方法] 試験を実施する(100%)。 配布資料を用いて復習を行う(自主的な復習も可能である)。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11100070B [WB2-005]

科目名	臨床医学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	健康と医療			
担当者	鈴木 一永			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-3／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] ニューステージ新生物図表 1年生前期健康管理概論(倫理学を含む)でも使用。1年生後期解剖生理学でも使用。 著者名: 浜島書店編集部 出版社: 浜島書店 (978-4-8343-4009-9 C7345) 資料を作成し配布する。				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100070B [WB2-005]

科目名	臨床栄養学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養			
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 1. 各疾患の主な病態を理解している。 2. 各疾患の病態に応じた栄養アセスメントができる。 3. 各疾患の栄養アセスメントに基づき、適切な栄養食事療法を考えることができる。				
[授業概要] 病院・診療所で栄養食事療法の実践経験を有する教員が当該科目を担当します。傷病者の療養に際し必要な専門性の高い疾患・病態別の栄養食事療法を学びます。栄養補給法の基礎をはじめ、疾患・病態別の学びでは、どのような病気をよく理解し、栄養アセスメントとしてどのように評価するのか、それらを総合的に考えてどのような栄養食事療法が適切であるかを考えていきます。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 解剖生理学や生理学、栄養学や応用栄養学等の知識も大変重要になります。授業は限られた時間であるため、各回、予習復習を合わせて4時間程度の積極的な自己学習で学びを深めてください。				
[授業計画] 1. 臨床栄養学の概念(医療制度ほか) 2. 栄養補給法(経口栄養、非経口栄養) 3. 経口栄養補給法(一般治療食、特別治療食)、経腸栄養補給法 4. 代謝・内分泌系疾患(糖尿病) 5. 代謝・内分泌系疾患(るい瘦、肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症) 6. 代謝・内分泌系疾患(高尿酸血症・痛風、甲状腺疾患) 7. 消化器疾患(消化吸収、胃、炎症性腸疾患) 8. 消化器疾患(炎症性腸疾患、肝疾患) 9. 消化器疾患(胆道系疾患、膵疾患) 10. 循環器疾患(高血圧、動脈硬化症) 11. 循環器疾患(虚血性心疾患、心不全) 12. 腎疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎臓病) 13. 腎疾患(糖尿病腎症、腎不全) 14. 血液系疾患、呼吸器系疾患、筋・骨格系疾患(サルコペニア、骨粗鬆症等) 15. アレルギー疾患、摂食嚥下機能低下 16. 試験				
[成績評価方法] 試験(95%)、授業態度(5%)で評価します。 ・試験の答案を回収後、必要事項について解説をします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	臨床栄養学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養			
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] ブックス臨床栄養学概論 著者名: 渡邊早苗・本間和宏・佐藤智英 編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0613-3)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100210A [WI3-002]

科目名	臨床栄養学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養			
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 1. 各疾患の主な病態を理解している。 2. 各疾患の病態に応じた栄養アセスメントができる。 3. 各疾患の栄養アセスメントに基づき、適切な栄養食事療法を考えることができる。				
[授業概要] 病院・診療所で栄養食事療法の実践経験を有する教員が当該科目を担当します。傷病者の療養に際し必要な専門性の高い疾患・病態別の栄養食事療法を学びます。栄養補給法の基礎をはじめ、疾患・病態別の学びでは、どのような病気をよく理解し、栄養アセスメントとしてどのように評価するのか、それらを総合的に考えてどのような栄養食事療法が適切であるかを考えていきます。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 解剖生理学や生理学、栄養学や応用栄養学等の知識も大変重要になります。授業は限られた時間であるため、各回、予習復習を合わせて4時間程度の積極的な自己学習で学びを深めてください。				
[授業計画] 1. 臨床栄養学の概念(医療制度ほか) 2. 栄養補給法(経口栄養、非経口栄養) 3. 経口栄養補給法(一般治療食、特別治療食)、経腸栄養補給法 4. 代謝・内分泌系疾患(糖尿病) 5. 代謝・内分泌系疾患(るい瘦、肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症) 6. 代謝・内分泌系疾患(高尿酸血症・痛風、甲状腺疾患) 7. 消化器疾患(消化吸収、胃、炎症性腸疾患) 8. 消化器疾患(炎症性腸疾患、肝疾患) 9. 消化器疾患(胆道系疾患、脾疾患) 10. 循環器疾患(高血圧、動脈硬化症) 11. 循環器疾患(虚血性心疾患、心不全) 12. 腎疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎臓病) 13. 腎疾患(糖尿病腎症、腎不全) 14. 血液系疾患、呼吸器系疾患、筋・骨格系疾患(サルコペニア、骨粗鬆症等) 15. アレルギー疾患、摂食嚥下機能低下 16. 試験				
[成績評価方法] 試験(95%)、授業態度(5%)で評価します。 ・試験の答案を回収後、必要事項について解説をします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	臨床栄養学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養			
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-2／栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験				
[教科書 (ISBN)] ブックス臨床栄養学概論 著者名: 渡邊早苗・本間和宏・佐藤智英 編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0613-3)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11100210B [WI3-002]

科目名	臨床栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] ①疾患・病態に応じた食事計画を立案することが出来る(主として献立作成)。 ②疾患・病態に応じた食事を、盛り付け等にも配慮して計画し、調理することが出来る。 ③調理した結果に基づき、的確な反省・評価ができ、改善策を考えることが出来る。				
[授業概要] 病院での栄養食事療法の経験を有する教員が担当します。講義で学習した栄養食事療法の基本を確認し、専門性の高い献立作成や調理法を学びます。食事は、治療だけでなくQOLに大きく影響することをふまえて、美味しく作業効率も考えた治療食作りができる実践力を養います。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 調理の基礎知識や技術が必要なのは言うまでもなく、臨床栄養学、応用栄養学とその実習など関連科目の復習を十分にしてください。実習前後に自己学習を必要とすることが多数あります。				
[授業計画] ※常食から各食種に献立を展開する 1. エネルギー・塩分コントロール食 計画 糖尿病食品交換表 2. エネルギー・塩分コントロール食 評価 3. たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画1 4. たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画2 5. たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 調理実習 6. たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 評価・発表 7. 摂食・嚥下調整食 説明と計画1 8. 摂食・嚥下調整食 説明と計画2 9. 摂食・嚥下調整食 調理実習 10. 摂食・嚥下調整食 評価・発表 11. 食物アレルギー対応食 説明と計画1 12. 食物アレルギー対応食 説明と計画2 13. 食物アレルギー対応食 調理実習 14. 食物アレルギー対応食 調理実習 15. まとめ：特別食、診療報酬、栄養報告書など				
[成績評価方法] レポート等50%、成果物(作成した献立、料理)20%、授業態度30% ・レポートは、添削や授業時の全体へのコメント等でフィードバックします。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	臨床栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート等提出物				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート等提出物				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート等提出物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート等提出物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート等提出物、授業態度				
[教科書 (ISBN)] 管理栄養士・栄養士になるための臨床栄養学実習 食事療養実務入門 著者名: 芦川修貳・服部富子・古畑公編 著 出版社: 学建書院 (9784762478642) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名: 日本糖尿病学会 編著 出版社: 文光堂 (978-4-8306-6046-7)				
[参考書 (ISBN)] 栄養科学シリーズNEXTシリーズ「臨床栄養学概論」 著者名: 友竹浩之／塚原丘美・編 出版社: 講談社 (978-4-06-155388-0)				

科目名	臨床栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] ①疾患・病態に応じた食事計画を立案することが出来る(主として献立作成)。 ②疾患・病態に応じた食事を、盛り付け等にも配慮して計画し、調理することが出来る。 ③調理した結果に基づき、的確な反省・評価ができ、改善策を考えることが出来る。 [授業概要] 病院での栄養食事療法の経験を有する教員が担当します。講義で学習した栄養食事療法の基本を確認し、専門性の高い献立作成や調理法を学びます。食事は、治療だけでなくQOLに大きく影響することをふまえて、美味しく作業効率も考えた治療食作りができる実践力を養います。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 調理の基礎知識や技術が必要なのは言うまでもなく、臨床栄養学、応用栄養学とその実習など関連科目の復習を十分にしてください。実習前後に自己学習を必要とすることが多数あります。 [授業計画] ※常食から各食種に献立を展開する 1. エネルギー・塩分コントロール食 計画 糖尿病食品交換表 2. エネルギー・塩分コントロール食 評価 3. たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画1 4. たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画2 5. たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 調理実習 6. たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 評価・発表 7. 摂食・嚥下調整食 説明と計画1 8. 摂食・嚥下調整食 説明と計画2 9. 摂食・嚥下調整食 調理実習 10. 摂食・嚥下調整食 評価・発表 11. 食物アレルギー対応食 説明と計画1 12. 食物アレルギー対応食 説明と計画2 13. 食物アレルギー対応食 調理実習 14. 食物アレルギー対応食 調理実習 15. まとめ：特別食、診療報酬、栄養報告書など [成績評価方法] レポート等50%、成果物(作成した献立、料理)20%、授業態度30% ・レポートは、添削や授業時の全体へのコメント等でフィードバックします。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	臨床栄養学実習	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	本田 まり			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート等提出物				
学科DP番号／DP内容: 栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度				
学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート等提出物				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート等提出物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート等提出物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート等提出物、授業態度				
[教科書 (ISBN)] 管理栄養士・栄養士になるための臨床栄養学実習 食事療養実務入門 著者名: 芦川修貳・服部富子・古畑公編著 出版社: 学建書院 (9784762478642) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名: 日本糖尿病学会 編著 出版社: 文光堂 (978-4-8306-6046-7)				
[参考書 (ISBN)] 栄養科学シリーズNEXTシリーズ「臨床栄養学概論」 著者名: 友竹浩之／塚原丘美・編 出版社: 講談社 (978-4-06-155388-0)				

P11100220B [WI3-003]

看護学部

看護学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	医療英語	前期	演習	1 単位
サブタイトル	English for nurses			
担当者	島田 順子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] Acquisition of the fundamental communication skills between nurses and patients in English				
[授業概要] As globalization continues, more foreigners have been entering Japan than ever before. Even in the medical field, the demand for the ability to communicate in English between nurses and patients, is increasing. Therefore, we live in an age where English education for doctors, nurses and caretakers is a necessity. In this course, through emphasis on communication between nurses and patients, students acquire the ability to understand patients and make them feel secure. To accomplish this goal we will focus on speaking and listening skills through the following materials. Furthermore we develop reading abilities in order to understand medical records written in English by doctors. グローバル化が進む中、日本でも多くの外国人の入国がみられる現在となった。医療の現場でも看護師と患者との間における英語コミュニケーション能力の需要が高まっている。それゆえ医師、看護師、介護士の特別な英語教育はもはや避けて通れない時代となった。この授業では特に看護師と患者のコミュニケーションを重視して患者の立場を十分理解して安心できる対応がとれるようコミュニケーションの能力を身につける。そのためにはスピーキング、リスニングを中心に授業を進行し、さらに医者が英語で書いたカルテも理解できるようにリーディング力も養っていく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] Read the textbook well before class and memorize the medical terms we learn in the previous class. (2 hours for each class)				
[授業計画] 1. Classroom activities (based on textbook lesson 1～2)(4月10日 1限目) 2. Classroom activities (based on textbook lesson 3～4)(4月10日 2限目) 3. Classroom activities (based on textbook lesson 5～6)(4月17日 1限目) 4. Classroom activities (based on textbook lesson 7～8)(4月17日 2限目) 5. Classroom activities (based on textbook lesson 9～10)(4月24日 1限目) 6. Classroom activities (based on textbook lesson 11～12)(4月24日 2限目) 7. Classroom activities (based on textbook lesson 13～14)(5月1日 1限目) 8. Classroom activities (based on textbook review lesson 1～14)(5月1日 2限目)				
[成績評価方法] Class participation 50%, Final Exam 50% (After the final exam, I'll explain the answer to the exam.)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200190 [NH4-001]

科目名	医療英語	前期	演習	1 単位
サブタイトル	English for nurses			
担当者	島田 順子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:Based on the examination				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:Based on the class participation				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:Based on the class participation				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:Based on the class participation				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:Based on the class participation				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:Based on the exam				
[教科書 (ISBN)] Every day English for Nursing on DVD 著者名:Yasuko Onjohji John Skelton 出版社:SEIBIDO (978-4-7919-3120-0)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11200190 [NH4-001]

科目名	医療看護実習Ⅰ	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	玉木 敦子、藤原 由子、元木 絵美、大谷 利恵、高橋 秋絵、横内 光子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三苫 美和、米澤 珠子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.病院が個人や地域に対して担う役割について考えることができる。 2.看護師の実践と役割について実習体験をもとに理解することができる。 3.入院患者の生活や病気の体験について考えることができる。 4.実習を通して今後の自分の課題を考えることができる。				
〔 授業概要 〕 医療看護実習Ⅰでは、病院オリエンテーション、看護業務・看護実践の見学を通して、病院や看護師の役割について学ぶ。また、患者とのコミュニケーションを通して入院生活や病気の体験を知ることを目的とする。この実習を通して学生自身がこれから学んでいくべき課題を見出すことをねらいとしている。				
〔 準備学修(授業前後の主體的な学修) 〕 ・病院実習にふさわしい身だしなみ、マナーを身につけ、心身の健康を整えて実習に臨む。 ・病院実習の学びを深めるために、実習前に学内で行われるオリエンテーションや事前演習に必ず参加し、事前課題に取り組む。				
〔 授業計画 〕 1.事前演習が始まる前に、各自で「実習ガイダンス資料」「医療看護実習Ⅰ実習要項」を熟読する。 2.実習前に学内で行われるオリエンテーションや事前演習に必ず出席する(日時と場所は別途伝える)。 3.充実した実習を行うために計画的に事前課題に取り組み、健康管理に気をつける。 4.病院実習初日に、実習病院の看護部門より病院の理念、組織、役割、設備、看護体制などについてオリエンテーションを受け、施設見学を行う。 5.病院実習では、看護師に同行して看護実践の場面や業務を見学する。また看護師から紹介を受け、患者とのコミュニケーションを通して入院生活や病気の体験を知る。 6.病院実習終了時には毎日デイリーカンファレンスを行う。看護師長または実習指導者に参加を依頼し、学生が主体的に行うデイリーカンファレンスでは、実習で感じたこと、気づいたこと、疑問などをメンバーとディスカッションする。 7.病院実習最終日には合同カンファレンスを行う。合同カンファレンスには看護部長または看護部の教育担当者、看護師長、実習指導者等に参加を依頼し、学生は3日間の病院実習から得た学びを報告する。 8.実習最終日は学内でカンファレンスを行う。実習を通して学んだことを学生同士で共有し、自らの成長や学習課題について考えを深める。				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度(課題レポートを含む)70%、実習への参加態度(30%)を総合的に評価する。 ＊学内最終日にカンファレンスや個人面談を通してフィードバックを行う ＊課題レポートは、教員が添削して返却する				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200600 [NB1-010]

科目名	医療看護実習 I	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	玉木 敦子、藤原 由子、元木 絵美、大谷 利恵、高橋 秋絵、横内 光子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三苫 美和、米澤 珠子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習への参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習への参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習への参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11200600 [NB1-010]

科目名	医療看護実習Ⅱ（急性期）	前期～後期	実習	3 単位
サブタイトル				
担当者	横内 光子、藤原 由子、元木 絵美、奥井 早月、米澤 珠子、長井 友利子、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 周手術期にある患者、急性発症の状況にある患者の身体・精神・社会的な特徴について理解できる。 2. 急激に変化する患者の全身状態に応じて提供される看護の内容とその意図を理解し、指導を受けながら看護を実践することができる。 3. 患者が手術や侵襲的治療を受けるにあたり、利用できる医療資源や社会資源、短期的および長期的な支援を行う医療連携体制について考えることができる。 4. 急性期にある患者とその家族に関わる姿勢や、急性期看護に必要な態度を身に付けることができる。 5. 看護実践の体験を通して感じたことや考えたことを学生同士で話し合い、急性期にある患者の特徴と看護について考えることができる。				
〔 授業概要 〕 成人期から老年期にある患者を対象とし、何らかの病気または傷害により、手術をはじめとする身体的負担の大きい治療を受ける急性期にある患者の身体・精神・社会的な特徴を理解する。患者およびその家族にとって、生命や健康が危機的状態におかれる体験の意味を理解し、回復に影響を及ぼす患者とその家族の特性をアセスメントすることで、苦痛を緩和し、患者とその家族のもつ回復力を最大限に引き出すための看護を学ぶ。 科学的根拠に基づいた専門的知識と技能を総合的に活用し、手術や治療の侵襲による心身の反応をとらえながら、症状や苦痛を緩和し、予防的ケアを行う経験を通じて急性期看護の特徴を理解する。急性期にある患者との関わりを通して、これまでに学習した知識や技能、および倫理的・道徳的態度を統合し、実践する力を養う。 実習では、急性期の実務経験のある教員と臨床における実習指導者が、急性期看護の実践ができる過程をサポートする。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 急性期看護論を含めた既習の関連科目の復習を行うこと。特に人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、病態と治療Ⅱ、感染免疫学、栄養代謝学、薬理学などの医学的基礎知識についても十分に復習しておくこと。				
〔 授業計画 〕 病院にて、以下の通り3週間の実習を行う。 1.原則として、1～2名の周手術期患者あるいは急性疾患の患者を受け持ち、看護過程を展開しながらアセスメントと援助の実践を学ぶ。 2.原則として、受け持ち患者の検査や手術、血管内治療等を見学し、検査中、手術中あるいは治療中の看護を学ぶ。 3.手術前は、術前検査、術前訓練などを、手術後は、手術後の観察、手術後清潔の援助、離床の援助、退院指導などについて、指導を受けながら実施する。 4.実習内容は、一定の様式の実習記録に記載する。 5.日々のカンファレンスにおいて、情報や学びを共有し、学習上の問題解決を図る。 6.中間カンファレンスと最終カンファレンスにおいて、実習を通じて得た具体的な学びから、周手術期あるいは急性期にある患者・家族の特徴と看護の特徴について考察する。				
〔 成績評価方法 〕 目標達成度・実践記録（80%）、実習態度（10%）、カンファレンスへの参加度（10%）				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200620〔NB3-013〕

科目名	医療看護実習Ⅱ（急性期）	前期～後期	実習	3 単位
サブタイトル				
担当者	横内 光子、藤原 由子、元木 絵美、奥井 早月、米澤 珠子、長井 友利子、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／（プロフェッショナリズム）生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法: 目標達成度				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／（科学的根拠に基づいた課題対応能力）人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法: 目標達成度				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／（人が病むことへの関心と理解）生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法: 目標達成度				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／（人間性の涵養）多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法: 目標達成度				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／（看護の表現力）自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法: 目標達成度・実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／（倫理の実践と道徳的態度）看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をととして道徳的態度が身についている。 成績評価方法: 目標達成度				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／（社会参加）社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法: 目標達成度・実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／（協働・協力）保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法: 目標達成度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度・カンファレンスへの態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度・カンファレンスへの態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度・カンファレンスへの態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実習態度・カンファレンスへの態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 到達目標達成度・実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 到達目標達成度・実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 到達目標達成度・実習記録				
[教科書（ISBN）] 成人看護 1 第2版 急性期・周手術期 パーフェクト臨床実習ガイド 著者名:井上智子 出版社:照林社（978-4796523943）				
[参考書（ISBN）] 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」 著者名:矢永勝彦他編 出版社:医学書院（978-4-260-02769-4） 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」 著者名:北島政樹他編 出版社:医学書院（978-4-260-02765-6）				

P11200620 [NB3-013]

科目名	医療看護実習Ⅱ（精神）	後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	玉木 敦子、大谷 利恵、高橋 秋絵、市川 久美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 精神障がいをもつ人の価値観や人権を尊重しながら関わり、人間関係構築のプロセスを体験しながら、自己洞察、他者理解を深めることができる。 2. 精神障がいをもつ人の体験に寄り添い、生活援助やプログラムへの参加を通して、心身の健康状態や心理・社会的要因が生活や対人関係に及ぼす影響を理解することができる。 3. 精神障がいをもつ人のセルフケアの維持・向上、自立や自己実現に向けた看護援助について考察することができる。 4. 精神科病院や地域で行われているさまざまな治療的アプローチや支援を学び、チーム医療における看護職の役割や他職種との連携、精神障がいをもつ人が利用できる社会資源について知ることができる。				
〔 授業概要 〕 精神障がいをもつ人と人間関係を構築するプロセスの中で、自己洞察、他者理解を深める。また対象者の体験に寄り添い、生活援助を実践しながら、心身の健康状態や心理・社会的要因が生活や対人関係に及ぼす影響を理解し、セルフケアの維持・向上、自立や自己実現に向けた看護援助について考察する。さらに、精神科病院や地域で行われているさまざまな治療的アプローチや支援、チーム医療における看護職の役割や他職種との連携、精神障がいをもつ人が利用できる社会資源について学ぶ。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 ・実習に臨む前に、各自で「実習ガイダンス資料」、「医療看護実習Ⅱ（精神）実習要項」、配布された実習施設関連資料を熟読する。 ・オリエンテーションに必ず参加する。 ・「精神看護論」、「疾病と治療Ⅳ」、「精神看護支援技術演習」で学習した内容を復習して実習に臨む。				
〔 授業計画 〕 ・学内オリエンテーション・学外オリエンテーション・直前オリエンテーションに必ず参加する。				
〔 病棟実習 〕 ・実習期間のうち4日間は病棟実習を行う。患者1名を受け持ち、原則として看護師とともに生活援助を行う。 ・実習中は受け持ち患者と活動とともにし、作業療法や心理教育などの治療的アプローチに積極的に参加する。 ・実習指導者や教員の指導を受けながら、受け持ち患者と積極的にコミュニケーションをとる。 ・実習指導者や教員の指導を受けながら、受け持ち患者のセルフケアに関する情報収集、アセスメントを行う。 ・実習中は毎日カンファレンスを行う。それぞれの学生の体験や実習上の課題を共有し、学びを深めるためにディスカッションする。 ・病棟実習最終日のカンファレンスは、4日間の病棟実習を通して学んだことを発表し、共有する。				
〔 デイケア実習 〕 ・実習期間のうち1日は、精神科デイケアにて実習を行う。実習担当者に指示や指導を受けながら、利用者とともにプログラムに参加する。				
〔 地域の精神保健福祉施設実習 〕 ・実習期間のうち3日間は、地域の精神保健福祉施設にて実習を行う。実習担当者や事業所職員に指示や指導を受けながら、利用者とともにプログラムや活動等に参加する。 ・実習担当者や事業所職員の指示や指導を受けながら、積極的に利用者とコミュニケーションをとる。				
〔 学内実習 〕 ・1週目の学内実習日は、実習中に記載したプロセスレコードを用いたグループワークと、1週目に行った実習のまとめを行う。 ・2週目の学内実習日は、2週目に行った実習のまとめと、全員で振り返りを行う全体カンファレンスを行う。 ・全体カンファレンスでは、実習を通して学んだことを学生同意で共有し、自らの成長や学習課題について考えを深める。				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度（70％）、課題レポート（10％）、実習への参加態度（20％） ※実習最終日にカンファレンスや個別面談を通してフィードバックを行う。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200610 [NB2-018]

科目名	医療看護実習Ⅱ（精神）	後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	玉木 敦子、大谷 利恵、高橋 秋絵、市川 久美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／（プロフェッショナリズム）生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート、実習への参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／（人が病むことへの関心と理解）生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート、実習への参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／（看護の表現力）自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート、実習への参加態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習への参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習への参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法: 実習への参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート				
[教科書（ISBN）] 「精神看護学―学生・患者のストーリーで綴る実習展開 第2版」 著者名: 田中美恵子 編著 出版社: 医歯薬出版株式会社（978-4-263-23673-4）				
[参考書（ISBN）] なし				

P11200610 [NB2-018]

科目名	医療看護実習Ⅱ（慢性期）	前期～後期	実習	3 単位
サブタイトル				
担当者	横内 光子、藤原 由子、元木 絵美、奥井 早月			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 人はセルフケアを行う力を潜在的に持っているという視点に立ち、病気や障害に対処している慢性病患者を、一人の人として深く理解することができる。 2. 慢性病患者が健康を維持できるように必要な看護を考え、実践することができる。 3. 慢性病患者の療養を支えるチーム医療や継続看護について知ることができる。 4. 看護を実践することを通して、倫理的・道徳的態度を身につけることができる。 5. 看護の体験を通して感じたことや考えたことを学生同士で話し合い、慢性病患者の特徴や慢性病患者への看護について考えることができる。				
〔 授業概要 〕 成人期から老年期にある慢性病患者を受け持ち、長期にわたり病気や障害に対処してきた患者の病みの軌跡や治療の特徴をとらえる。ライフサイクルや社会的役割など、患者が置かれた状況を病気の体験と関連づけて理解する。 症状や心身の苦痛緩和、病気の急性増悪や合併症の予防、病みの軌跡を予測し療養方法を調整するなど患者のセルフケアを支え、患者が健康を維持できるように必要な看護を実践する。 看護の体験を学生同士で共有し、科学的根拠に基づいた専門的な知識や技能と自らの能力や倫理的・道徳的態度をどのように統合すればよいか、患者の療養を支える医療ケアシステムにはどのようなものがあるか、看護師は慢性病患者の健康回復にどのように関わっていけるかについて討議し、考えを深める。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 実習期間前に行われる実習オリエンテーションに必ず参加する。 実習初日までに、「実習ガイダンス資料」「医療看護実習Ⅱ（慢性期）実習要項」を熟読する。 実習開始の2週間前から健康手帳に必要事項を記入し、健康管理に気をつける。				
〔 授業計画 〕 1) 実習期間前 (1) 実習初日までに、「実習ガイダンス資料」と「医療看護実習Ⅱ（慢性期）実習要項」を熟読する。 (2) 健康管理を心がけ、実習開始の2週間前から健康チェック表に必要事項を記入する。 (3) 4クール目に病院実習に臨む学生は、アレルギーがあるなど医師の診断書で証明できる場合を除き、インフルエンザの予防接種を受ける。 2) 実習1週目 (1) 充実した実習を行うため、学内演習や事前課題に主体的に取り組む。 (2) 病院実習1週目は、患者を深く理解して患者と援助的関係を結び、情報を集めて患者のセルフケアに関するアセスメントができるよう行動する。 (3) 病院実習初日に実習病棟より、看護体制や行われている看護などについてオリエンテーションを受け、患者が置かれている環境を把握する。 (4) 病院実習においては、15時または15時30分から、毎日約30～60分のデイリーカンファレンスを行う。学生は主体的にカンファレンスを運営する。デイリーカンファレンスでは、実習で感じたこと、気付いたこと、疑問などについてテーマを決め、グループで討議する。 3) 実習2週目 (1) 病院実習2週目は、患者のセルフケア不足に対する看護課題を明らかにする。優先度の高い看護課題から順に看護目標を設定し、看護計画の立案ができることを目指す。 (2) 実習2週目の中頃に中間カンファレンスを行う。学生は受け持った患者のセルフケア能力、セルフケア不足などについて発表し、看護課題および看護目標について考える。 (3) 実習2週目の木曜日（または水曜日）は、中間カンファレンスでの意見を踏まえ、学内で看護目標および看護計画を再考する。学生は各自に必要な資料や文献を調べ、看護計画を完成させる。 4) 実習3週目 (1) 病院実習3週目は看護を実践し、看護目標の到達度を評価、あるいは次の看護につなげることができるよう行動する。 (2) 病院実習最終日には、病院最終カンファレンスを行う。学生は、看護部長または看護部の教育担当者、看護師長、実習指導者等に参加を依頼し、受け持った患者に行った看護について発表する。 (3) 実習終了時において、学生は実習指導者および担当教員と三者面談を行う。学生は自己評価表を記載して持参し、個別に実習での成長点や今後の課題などについてフィードバックを受ける。 (4) 実習最終日は、学内に合同カンファレンスを行う。異なる医療施設で実習を行った学生と看護の学びを共有し、慢性病患者の特徴や慢性病患者への看護について理解を深める。				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度〔実践記録を含む〕（80%）、実習およびカンファレンスへの参加態度(20%)を総合的に評価する。 目標到達度については、実習中に行う三者面談でフィードバックする。また課題レポートについては、実習担当教員が添削し、後日返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200630 [NB3-014]

科目名	医療看護実習Ⅱ（慢性期）	前期～後期	実習	3 単位
サブタイトル				
担当者	横内 光子、藤原 由子、元木 絵美、奥井 早月			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:実習およびカンファレンスへの参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:実習およびカンファレンスへの参加態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習およびカンファレンスへの参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習およびカンファレンスへの参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:目標到達度〔実践記録を含む〕、実習およびカンファレンスへの参加態度				
[教科書 (ISBN)] 「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー成人看護実習ガイドⅡ 慢性期・回復期・終末期」第二版 著者名:野並葉子、森菊子、藤原由子、元木絵美編 出版社:照林社 (978-4-7965-2143-7)				
[参考書 (ISBN)] 担当した対象者に合わせ、実習前や実習中に適宜指示する。				

P11200630 [NB3-014]

科目名	医療と法	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	七野 敏光			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 医療を担う者として相応しい法的知識を身につける				
[授業概要] この授業では医療関係諸法規の概略を示した上で、医療と法とをめぐる具体的な問題を論じていく。いわゆる守秘義務やインフォームド・コンセントの重要性は知ってのとおりだが、プライバシー権、自己決定権にかかわるものとして、より深く考えてみたい。安楽死・尊厳死といった問題も医療を担う者であれば一度は考えてみることであろう。こうした問題のもつ法的側面を授業では示す。代理出産や性同一性障害といった、あるいは一見突拍子もなく思える話題についても論じる。医療と生命倫理と法とが絡み合った問題がそこにはあるからである。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 話題となっている医療関係の報道に留意する。毎授業ごとの授業準備と復習に4時間程度の時間をかけてください。				
[授業計画] 1. (9月18日)はじめに 2. (9月25日)医療関係法規の概略 3. (10月2日)医療と人権1(守秘義務、インフォームド・コンセントなど) 4. (10月9日)医療と人権2(安楽死・尊厳死、脳死判定など) 5. (10月16日)医療と生命倫理と法1(人工授精、代理出産など) 6. (10月23日)医療と生命倫理と法2(人工妊娠中絶、性同一性障害など) 7. (10月30日)医療と現代社会(医療過誤、高齢化社会と医療など) 8. (11月6日)まとめ 9. (11月20日)試験				
[成績評価方法] 試験100% テスト実施後、解答を提示して説明する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200050 [NH1-002]

科目名	医療と法	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	七野 敏光			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験100%で評価します。 学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験100%で評価します。 学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験100%で評価します。				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験100%で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験100%で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験100%で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験100%で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験100%で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験100%で評価します。				
[教科書 (ISBN)]				
『新時代の法学・憲法』 著者名:山田勉・笹田哲男編 出版社:建帛社 (978-4-7679-4346-6)				
[参考書 (ISBN)]				
適宜指示する				

P11200050 [NH1-002]

科目名	栄養代謝学	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	加治 秀介、中岡 亜希子、西原 詩子、小林 麻衣			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 栄養の基礎知識を看護の視点で踏まえて学び、栄養と健康や疾病について理解を深める。特に療養生活と栄養について対象の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な看護援助が理解できる。				
〔 授業概要 〕 人間は食物を身体に取り込み、それを物理・化学的に処理(消化、吸収、代謝)して生命維持に役立てている。人々が生きるうえでの代謝・栄養との関連を理解し、臨床看護実践における技術につながる健康の維持や増進、および療養生活や疾病予防について代謝・栄養の役割を理解し、援助につなげることができる知識を学ぶ。具体的には、栄養素の基礎知識、消化と吸収、エネルギー代謝、疾病時の栄養などを学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 あらかじめ授業計画に示された内容について、教科書を熟読し、マナバにUpする補助資料にも目を通し、疑問点を整理して授業に臨む。「人体のしくみと機能I、II」で関連する領域があるので参考にする。 予復習は講義時は合わせて4時間程度、演習時は合わせて2時間程度				
〔 授業計画 〕 1. 栄養代謝学を学ぶための基礎知識 9/24 3限 F304 生化学を学ぶための基礎知識/代謝の基礎と酵素・補酵素(教科書1 pp.4-48) 2. 糖質代謝 10/1 3限 F304 糖質の構造と機能/糖質代謝(教科書1 pp.49-96) 3. 脂質代謝 10/8 3限 F304 脂質の構造と機能/脂質代謝(教科書1 pp.97-128) 4. タンパク質代謝 10/15 3限 F304 タンパク質の構造と機能/タンパク質代謝(教科書1 pp.129-154) 5. 遺伝情報 10/22 3限 F304 遺伝子と核酸/遺伝子の複製・修復・組換え/転写/翻訳と翻訳後修飾(教科書1 pp.169-244) 6. 健康と栄養 10/29 3限 F304 健康と栄養評価/日常生活と栄養/スポーツと栄養(教科書2 pp.1-80) 7. 食物と栄養 11/5 3限 F304 栄養素とその働き/食物の摂取と消化・吸収/ライフステージと健康教育 (教科書2 pp.81-157) 8. 疾患と栄養 11/12 3限 F304 疾患別食事指導の実践、経管栄養と中心静脈栄養(教科書2 pp.159-274) 9. 試験 11/19 3限 F304 10. ヘルスアセスメント(講義)12/3 3限 F304 11.12. 体格のアセスメント 1)(演習)12/10 Aクラス 3限 Bクラス 4限 F419 栄養のアセスメント 1)(演習)12/10 Aクラス 4限 Bクラス 3限 F311 13.14. 体格のアセスメント 2)(講義・演習) 栄養のアセスメント 2)(講義・演習) 1/7 3限・4限 F304 15. 16. 健康の維持増進のための栄養・代謝による患者教育(講義・演習)1), 2) 1/14 3・4限 F304				
〔 成績評価方法 〕 講義・演習の授業態度・課題(50%)、試験(50%) 課題レポートはコメントして返却				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200080 [NB2-001]

科目名	栄養代謝学	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	加治 秀介、中岡 亜希子、西原 詩子、小林 麻衣			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:課題レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート				
[教科書(ISBN)]				
系統看護学講座 生化学 人体の構造と機能2 著者名:畠山鎮次 出版社:医学書院 (978-4-260-03556-9) わかりやすい 栄養学 第4版 著者名:中村美知子・長谷川恭子 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-063-3)				
[参考書(ISBN)]				
新版 生活健康科学 (東教授の授業「生活概論」で購入済み) 著者名:小田切陽一・飯島純夫・小山勝弘・石原逸子 共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3)				

P11200080 [NB2-001]

科目名	疫学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	宇賀 昭二			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 疫学の基本となる用語や指標を説明できる。				
2. 疫学的研究方法を説明することができる。				
[授業概要]				
疫学とは、人間集団や地域集団を対象とし、そこに発生する疾病の流行動態を明らかにすると共に、原因を探究・特定し、疾病予防を講ずる学問である。本授業科目では、疫学的研究方法、保健指標の理解と考察、疫学の効用と限界、感染症や慢性疾患の疫学等について学ぶ。さらに看護領域においては、科学的根拠に基づく看護(Evidence Based Nursing; EBN)が求められているが、この根拠を作り出す科学的方法の一つとしての疫学の基礎を理解し、これを看護の実践に適応できる能力を養う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
1. 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。				
2. 日頃から授業に関係するニュース等に関心を持ち学んでおくこと。				
3. 各回、予習復習あわせて4時間程度。				
[授業計画]				
1. 疫学総論(1)・・・疫学とは何か、疫学の歴史 4/6				
2. 疫学総論(2)・・・疫学の基本的な考え方や用語・社会保障制度とのつながり 4/13				
3. 疫学で用いられる統計学・・・母集団と標本集団、差の検定 4/20				
4. 集団の健康事象の指標・・・罹患率と有病率、人口静態、人口動態 4/27				
5. 疫学的研究方法・・・記述疫学 5/11				
6. 分析疫学(1)・・・コホート研究(相対危険度、寄与危険度) 5/18				
7. 分析疫学(2)・・・患者対照研究 5/25				
8. 介入疫学・・・特定健診、がんの予防 6/1				
9. スクリーニング検査・・・集団検診の考え方や意義と目的 6/8				
10. 感染症の疫学(1)・・・感染症発生時の疫学的対処と健康支援 6/15				
11. 感染症の疫学(2)・・・感染症発生時の疫学的対処と健康支援 6/22				
12. 慢性疾患の疫学・・・病態の把握や制御方法と健康支援 6/29				
13. がんの疫学 7/6				
14. 臨床疫学とEBN 7/13				
15. まとめ 7/20				
16. 試験 8/3				
[成績評価方法]				
成績の評価は試験の結果(90-100%)と授業中の積極的な発言(0-10%)に基づいて行う。				
試験を回収後、正解の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	疫学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	宇賀 昭二			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。				
成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力				
成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力				
成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力				
成績評価方法:試験				
[教科書 (ISBN)]				
「国民衛生の動向」(1年次に購入したものを使用する) 著者名:厚生労働統計協会 出版社:財団法人 厚生統計協会				
[参考書 (ISBN)]				
「公衆衛生学」2012 (昨年度に購入したものを使用する) 著者名:吉田勉 他 出版社:学文社 (978-4-7620-2539-6)				

P11200140 [NB2-003]

科目名	家族看護論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子、藤田 冬子、横内 光子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 1.看護の対象としての家族を理解することができる。 2.様々な状況にある家族をアセスメントすることができる。 3.様々な状況にある家族への援助を考えることができる。				
[授業概要] 看護の対象として、家族をユニットとして理解し、家族の定義、家族看護の成り立ちを学ぶ。 家族を理解するための諸理論(家族システム、家族発達、家族機能、家族エンパワーメント等)を学習し、援助方法について学ぶ。 さらに、様々な状況にある人(疾患をもつ子ども、急性期の健康状態にある患者、慢性期の健康状態にある患者、高齢者、精神障がいをもつ人)の家族アセスメントと家族支援について学習する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 既習の実習において、対象者の家族に目を向けておくこと。 各自、自分にとっての家族の意味を考えておくこと。 各回の授業についての予習・復習4時間程度。				
[授業計画] 1.家族や家族看護の定義について学び、家族看護の成り立ちについて概観する。(内正子)4/9 2.家族を理解するための理論について学び、システムとしての家族、家族の形態と機能を理解する。家族のアセスメント、介入の方法について理解する。(内正子)4/16 3.家族への看護介入について学び、看護の役割と基本姿勢を理解する。(内正子)4/23 4.疾患をもつ子どもの家族を理解し、家族への援助を学ぶ。(内正子)4/30 5.急性期の健康状態にある患者の家族を理解し、家族への援助を学ぶ。(横内光子)5/7 6.慢性期の健康状態にある患者の家族を理解し、家族への援助を学ぶ。(横内光子)5/14 7.高齢者の家族や在宅で介護をしている家族を理解し、家族への援助を学ぶ。(藤田冬子)5/21 8.家族介入の方法について事例を通して学ぶ。まとめ(内正子)5/28				
[成績評価方法] 課題レポート(40%) 授業中の課題(60%) レポートは、後日添削して返却する				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	家族看護論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子、藤田 冬子、横内 光子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 「家族看護学 理論と実践」 著者名:鈴木和子編著 出版社:日本看護協会出版会 (978-4818016972)				
[参考書 (ISBN)] 適宜配布				

P11200680 [NB3-016]

科目名	課題探究	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、玉木 敦子、内 正子、丸山 有希、大谷 利恵、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三吉 美和、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、長野 弥生、小林 麻衣、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。 2. 臨地における看護課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。 3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。				
〔 授業概要 〕 看護師免許を持つ教員が、以下の概要が理解できるように演習・実習を行う。 臨床における看護課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせることで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。 (演習2単位:60時間) 学生個々が捉えた臨床における看護課題を焦点化し、その課題を探索していくための方法とプロセスについて演習を行う。 (実習2単位:80時間) 学生個々の看護課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるためのフィールドワークや情報収集のための実習を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 事前に実習する施設の利用者の特徴を調べ、利用者の看護を行うための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 合同講義:看護研究とは、リサーチクエストをたてる、研究における倫理的配慮(下敷領須美子) 4/9(木)Ⅲ限, F304 2. 合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法(内正子)4/9(木)Ⅳ限, F304 3. 合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択(東ますみ)4/16(木)Ⅲ限, F304 4. 合同講義:データの収集(玉木敦子)4/16(木)Ⅳ限, F304 5. 合同講義:データ分析(横内光子)4/23(木)Ⅲ限, F304 6. 合同講義:研究を伝える(藤田冬子)4/23(木)Ⅳ限, F304 7. 合同講義:ケースレポート、事例研究の進め方(中岡亜希子)4/30(木)Ⅲ限, F304 8. 合同講義:研究計画書の作成(魚里明子)4/30(木)Ⅳ限, F304 9. 地域や在宅での患者の在り方の実際を知った経験から、学生個々が関心のある臨地における看護課題について、意見交換を行う。 10. 臨地における看護課題を探索していくために、その課題に関連する国内外の研究を検索する。 11. 探し出した研究を持ち寄り、学生個々の看護課題との関連について意見交換を行う。 12. 新たに必要となったエビデンスを持ち寄り、看護課題を明確にしていくために意見交換を行う。 13. 臨地での課題に対して、問題意識をもって選択し、テーマを焦点化する。 14. 看護課題を探索していくための計画を立てる。 15. 計画を発表し、意見交換を行う。				
実習(10日間) ・実習オリエンテーション ・フィールドワークなどの計画について施設へ説明 ・フィールドワーク ・情報収集(インタビュー、参加観察など) ・フィールドワーク終了についてのまとめ 16. 情報の分析① 17. 情報の分析② 18. 個別指導① 19. 個別指導② 20. 個別指導③ 21. 情報の分析③ 22. 情報の分析④ 23. 結果をまとめる① 24. 結果をまとめる② 25. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる① 26. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる② 27. グループ内で発表し、意見交換を行う。 28. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する① 29. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する② 30. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する。12/19(土)Ⅲ・Ⅳ限				
教室 合同講義以外:指導教員の指示に従うこと				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%) 学生との個別面接時に助言する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200860 [NB4-009]

科目名	課題探究	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、玉木 敬子、内 正子、丸山 有希、大谷 利恵、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三吉 美和、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、長野 弥生、小林 麻衣、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポート				
[教科書 (ISBN)] 系統看護学講座 別巻 看護研究(第1版) 著者名:坂下玲子他 出版社:医学書院 (987-4-260-02182-1) 看護者の基本的責務(2020年版)定義・概念／基本法／倫理 著者名:手島恵監修 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2245-4) 実習要項、プリントは別途配布する				
[参考書 (ISBN)] 適宜授業内で紹介する				

P11200860 [NB4-009]

科目名	課題探究	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子、小路 浩子、記村 聡子、荒金 英里子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 地域看護の専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。 2. 臨地の健康課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。 3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。				
〔 授業概要 〕 保健師免許・看護師免許を持つ教員が、以下の概要が理解できるように演習・実習を行う。 臨地における健康課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせることで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。				
(演習2単位:60時間) 学生個々が捉えた臨地における健康課題を焦点化し、その課題を探究していくための方法とプロセスについて演習を行う。				
(実習2単位:80時間) 実習では、学生個々が捉えた地域における個人・家族、集団、組織、地域の健康課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるために、地域看護の場(行政保健・産業保健・在宅看護)でフィールドワークや情報収集を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 事前に実習する地域及び集団・組織の特徴を調べ、地域看護を展開するための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。各回、予習・復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1.合同講義:看護研究とは、リサーチクエストをたてる、研究における倫理的配慮(下敷領須美子) 4/9(木)3限,F304 2.合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法(内正子) 4/9(木)4限, F304 3.合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択(東ますみ) 4/16(木)3限, F304 4.合同講義:データの収集(玉木敦子) 4/16(木)4限, F304 5.合同講義:データ分析(横内光子) 4/23(木)3限, F304 6.合同講義:研究を伝える・学会発表、論文作成など(藤田冬子) 4/23(木)4限, F304 7.合同講義:ケースレポート・事例研究の進め方(中岡亜希子) 4/30(木)3限, F304 8.合同講義:研究計画書の作成(魚里明子) 4/30(木)4限, F304 9.地域や在宅での人々の在り方の実際を知った経験から、学生個々が関心のある臨地における健康課題について、意見交換を行う。 10. 臨地における健康課題を探究していくために、その課題に関連する研究を検索する。 11. 探し出した研究を持ち寄り、学生個々が捉えた臨地における健康課題との関連について意見交換を行う。 12. 新たに必要となったエビデンスを持ち寄り、臨地における健康課題を明確にしていくために意見交換を行う。 13. 臨地での健康課題に対して、問題意識をもって選択し、テーマを焦点化する。 14. 臨地における健康課題を探究していくための計画を立てる。 15. 計画を発表し、意見交換を行う。				
実習(10日間) ・実習オリエンテーション ・フィールドワークなどの計画について施設へ説明 ・フィールドワーク ・情報収集(インタビュー、参加観察など) ・フィールドワーク終了についてのまとめ 16. 情報の分析① 17. 情報の分析② 18. 個別指導① 19. 個別指導② 20. 個別指導③ 21. 情報の分析③ 22. 情報の分析④ 23. 結果をまとめる① 24. 結果をまとめる② 25. 結果について、地域看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる① 26. 結果について、地域看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる② 27. グループ内で発表し、意見交換を行う① 28. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する① 29. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する② 30. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する。12/19(土)3・4限				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%) ・学生との個別面接時に助言する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200860A [NB4-009]

科目名	課題探究	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子、小路 浩子、記村 聡子、荒金 英里子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:目標到達度、実習態度、討議への参加度、課題レポートの内容				
[教科書 (ISBN)] 系統看護学講座別巻 看護研究(第1版) 著者名:坂下玲子他 出版社:医学書院 (987-4-260-02182-1) 看護者の基本的責務(2020年版)定義・概念／基本法／倫理 著者名:手島恵監修 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2245-4) 実習要項、プリントは別途配布する。				
[参考書 (ISBN)] 適宜授業内で紹介する				

P11200860A [NB4-009]

科目名	課題探究	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子、牛越 幸子、田村 康子、問本 弘美、細川 由美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 母性看護学や助産学の専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。 2. 臨床における看護課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。 3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。				
〔 授業概要 〕 助産師免許を持つ教員が、以下の概要が理解できるように演習・実習を行う。 臨床における看護課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせで行うことで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。				
(演習2単位:60時間) 学生個々が捉えた臨床における看護課題を焦点化し、その課題を探究していくための方法とプロセスについて演習を行う。 (実習2単位:80時間) 助産選択の学生は、助産学実習との連動において課題探究に関する実習を行う。学生個々の看護課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるためのフィールドワークや情報収集のための実習を行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 ・演習の準備:母性看護論、助産学概論、助産診断技術論の内容を復習し、教科書や授業資料を読み、理解しておく。母子保健に関する社会資源や実習する施設の利用者の特徴を調べる。(各演習1時間程度)、復習:ノート、資料を整理する。(各演習後の1時間程度)				
〔 授業計画 〕 1. 合同講義:看護研究とは、リサーチクエストをたてる、研究における倫理的配慮(下敷領須美子)4/9(木)Ⅲ限, F304 2. 合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法(内正子)4/9(木)Ⅳ限, F304 3. 合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択(東ますみ)4/16(木)Ⅲ限, F304 4. 合同講義:データの収集(玉木敦子)4/16(木)Ⅳ限, F304 5. 合同講義:データ分析(横内光子)4/23(木)Ⅲ限, F304 6. 合同講義:研究を伝える(藤田冬子)4/23(木)Ⅳ限, F304 7. 合同講義:ケースレポート、事例研究の進め方(中岡亜希子)4/30(木)Ⅲ限, F304 8. 合同講義:研究計画書の作成(魚里明子)4/30(木)Ⅳ限, F304 9.地域において女性や妊産婦がどのように生活しているのかを知った経験から、関心のあるテーマ、看護課題を選択し、意見交換を行う。 10.臨床における看護課題を探究していくために、その課題に関連する研究を検索する。 11.探し出した研究を持ち寄り、学生個々の看護課題との関連について意見交換を行う。 12.新たに必要となったエビデンスを持ち寄り、看護課題を明確にしていくために意見交換を行う。 13. 臨床での課題に対して、問題意識をもって選択し、テーマを焦点化する。 14. 看護課題を探究していくための計画を立てる。 15. 計画を発表し、意見交換を行う。				
実習(10日間) ・実習オリエンテーション ・フィールドワークなどの計画について施設へ説明 ・フィールドワーク ・情報収集(インタビュー、参加観察など) ・フィールドワーク終了についてのまとめ 16. 情報の分析① 17. 情報の分析② 18. 個別指導① 19. 個別指導② 20. 個別指導③ 21. 情報の分析③ 22. 情報の分析④ 23. 結果をまとめる① 24. 結果をまとめる② 25. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる① 26. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる② 27. グループ内で発表し、意見交換を行う。 28. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する① 29. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する② 30. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する。12/19(土)Ⅲ・Ⅳ限				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%) 学生との個別面接時に助言する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200860B [NB4-009]

科目名	課題探究	前期～後期	演習	4 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子、牛越 幸子、田村 康子、問本 弘美、細川 由美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習到達度、授業への参加度、課題レポートで評価する				
[教科書 (ISBN)] 系統看護学講座 別巻 看護研究(第1版) 著者名:坂下玲子他 出版社:医学書院 (978-4-8180-2245-4) 看護者の基本的責務(2020年版)定義・概念／基本法／倫理 手島恵監修 著者名:手島恵監修 出版社:日本看護協会出版会 (978-4818020863)				
[参考書 (ISBN)] 適宜授業内で紹介する				

P11200860B [NB4-009]

科目名	学校保健Ⅰ	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 学校保健の目的・意義を理解し、学校教育の基礎となる児童生徒の保健管理と保健教育について基本的知識を習得する。 〔 授業概要 〕 文部科学省は、「学校保健とは、児童生徒の健康の保持増進を図ること、集団教育としての学校保健活動に必要な健康や安全への配慮を行うこと、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することなど学校における保健管理と保健教育である」と述べている。また児童生徒の心身の健康は、教育の基本的な到達目標として位置づけられており、学校保健は学校教育の一環として明確に制度化されている教育活動である。ここでは、このような認識のもと、学校現場においての保健活動の意義と特殊性について理解するため、まず、学校保健の制度と歴史を概観し、続いて児童生徒を取り巻く健康や環境に関する課題を取り上げ、その概要を学ぶ。 本科目は学校現場での養護教諭経験がある者が、その経験を活かして実際の学校現場の現状に即した学びが得られるように指導する。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。 各回、予習復習合わせて4時間程度 〔 授業計画 〕 1. 学校保健の歴史と意義、および学校保健組織について学ぶ 1/7 5限 2. 学校保健計画と学校安全計画について、法令に基づく学校での活動と学校教育におけるヘルスプロモーションの理念を学ぶ 1/12 4限 3. 感染予防と健康管理について、学校での実践方法について学ぶ 1/12 5限 4. 子供の虐待の背景や現状を知り、心のケアについて学ぶ 1/14 3限 5. 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育についてその意義と具体的な進め方を学ぶ 1/14 4限 6. 学校における性教育について、その意義と教育課程に基づく指導について学ぶ 1/18 1限 7. 学校における食育および、食物アレルギーへの対応について学ぶ1/18 2限 8. 特別な配慮の必要な子供と家族の現状を理解し、医療的ケアを含む支援のあり方を学ぶ 1/25 1限 9. 試験 1/28 1限 F210 〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み姿勢(課題レポート、授業態度等)50%、試験 50% レポートの評価は希望者に開示する 試験を回収後、回答の解説を行う 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200420 [NI3-003]

科目名	学校保健Ⅰ	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:レポート課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:レポート課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:レポート課題、試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、授業内課題への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、授業内課題への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、授業内課題への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題、試験				
[教科書(ISBN)] 学校保健ハンドブック第7次改訂 著者名:教員養成系大学保健協議会 出版社:ぎょうせい (978-4-324-10577-1C3037)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11200420 [NI3-003]

科目名	学校保健Ⅰ	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 学校保健の目的・意義を理解し、学校における保健管理の特性と現代の児童生徒の健康課題から保健教育の必要性がわかる。また、それらの知識を生かし、総合的な学校保健活動について具体的に考えることができる。				
〔授業概要〕 文部科学省は、「学校保健とは、児童生徒の健康の保持増進を図ること、集団教育としての学校保健活動に必要な健康や安全への配慮を行うこと、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することなど学校における保健管理と保健教育である」と述べている。 児童生徒の心身の健康は、教育の基本的な到達目標として位置づけられており、学校保健は学校教育の一環として明確に制度化されている教育活動である。このような認識のもと、学校現場においての保健活動の意義と特殊性について理解するため、授業の前半では学校保健の制度と歴史、疾病管理等を概観する。 続いて後半には児童生徒を取り巻く健康や環境に関する課題を取り上げ、各自で調べたことをまとめグループで発表するなどのグループワークを通して、学生自ら課題について探求し、学びを共有する。 本科目は学校現場での養護教諭経験がある者が、その経験を活かして実際の学校現場の現状に即した学びが得られるように指導する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。 各回、予習復習合わせて4時間程度				
〔授業計画〕 1. 学校保健の歴史と意義、および学校保健組織について学ぶ 4/7 2. 子ども発育・発達とライフステージ、健康課題について概観し、必要な支援を学ぶ 4/14 3. 学校でよく見られる感染症とその対応、疾病管理の概要を学ぶ 4/21 4. 学校における疾病管理と、慢性疾患など特別な配慮の必要な子供と家族の現状を理解し、医療的ケアを含む支援のあり方を学ぶ 4/28 5. 子供の虐待の背景や現状を知り、学校での支援について考える5/12 (F205) 6. 喫煙、飲酒、薬物乱用について現状を把握し、防止教育について考える 5/19 (F205) 7. 学校における性教育について、性感染症の予防、いのちの教育の観点から考える 5/26 (F205) 8. インターネット、メディアと子どもの健康について考える 6/2 (F205)				
F310				
〔成績評価方法〕 授業内の小テスト40％ 授業中の提出物、授業への取り組み姿勢等 60％ 小テストは試験終了後に解説を行う				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200420A [NI3-003]

科目名	学校保健Ⅰ	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:授業内課題の内容と発表態度				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:グループワーク、発表の内容と態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題、グループワーク、発表の内容と態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク、発表の内容と態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク、発表の内容と態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク、発表の内容と態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク、発表の内容と態度				
[教科書(ISBN)] 学校保健ハンドブック第7次改訂 著者名:教員養成系大学保健協議会 出版社:ぎょうせい (978-4-324-10577-1C3037)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11200420A [NI3-003]

科目名	学校保健Ⅱ	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○ 〔到達目標〕 学校における保健管理や保健教育の特性を理解し、実態が把握できる。 児童生徒等の健康課題の現状を把握し、その対応についてイメージできる。 〔授業概要〕 学校保健Ⅱでは、学校現場での養護教諭経験がある者が、その経験を活かして実際の学校現場の様子を織り交ぜながら、学校保健Ⅰの内容をふまえ、学校保健活動を展開するに当たって基礎となる児童生徒の保健管理と保健教育の理論と実指を指導する。 具体的には、「保健管理」の一環である、健康診断、環境衛生、救急処置など、子供達の健康の保持増進を目的とする活動および、「保健教育」の一環である、保健指導や保健学習といった、健康についての認識や実践力を養う活動について、特性や実態を把握し、総合的な学校保健活動が展開できる知識や態度を養う。 また、心身の健康・発達・行動上の課題を有する子供と家族への支援のあり方にも触れ、保護者・地域・専門機関も視野に入れた学校保健のあり方について考察したい。 〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。 各回、予習復習合わせて4時間程度 〔授業計画〕 1. 健康診断について、法的根拠と健康診断の実施の詳細を学ぶ 1/25 2限 2. 子供の発育・発達を考慮した学校保健活動の展開と保健教育について学ぶ 1/26 4限 3. 保健指導について学校における位置づけと具体的な展開方法を学ぶ 1/26 5限 4. 学校で行われている救急処置活動の実際について事例から学ぶ 2/1 1限 5. 環境衛生検査と施設設備の衛生管理について具体的な手法を学ぶ 2/1 2限 6. 心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病等、慢性的な疾患を持つ子どもの学校での健康管理について学ぶ 2/2 3限 7. 学校・保護者・地域・専門機関との連携のあり方について学ぶ 2/2 4限 8. 保健指導の実践発表会 2/3 2限 9. 試験 2/3 3限 F210 〔成績評価方法〕 授業への取り組み姿勢(課題レポート、提出物、授業態度等)60%、試験 40% 課題レポートの評価は希望者に開示する 試験を回収後、回答の解説を行う 〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200170 [NI3-002]

科目名	学校保健Ⅱ	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:レポート課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:レポート課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験、授業内課題への取り組み姿勢				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、授業内課題への取り組み姿勢				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業内課題への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業内課題への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート、授業内課題への取り組み姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート、授業内課題への取り組み姿勢				
[教科書(ISBN)] 学校保健ハンドブック第6次改訂 著者名:教員養成系大学保健協議会 出版社:ぎょうせい (978-4-324-10577-1C3037)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11200170 [NI3-002]

科目名	学校保健Ⅱ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 学校における保健管理や保健教育の特性を理解し、実態が把握できる。 学校教育の基礎となる児童生徒の保健管理と保健教育について基本的知識が習得できる。				
〔 授業概要 〕 学校保健Ⅱでは、学校保健Ⅰの内容をふまえ、学校保健活動を展開するに当たって基礎となる児童生徒の保健管理と保健教育の理論と実際を学ぶ。 具体的には、「保健管理」の一環である、健康診断、環境衛生、救急処置など、子供達の健康の保持増進を目的とする活動および、「保健教育」の一環である、保健指導や保健学習といった、健康についての認識や実践力を養う活動について、特性や実態を把握し、総合的な学校保健活動が展開できる知識や態度を養う。 また、心身の健康・発達・行動上の課題を有する子供と家族への支援のあり方にも触れ、保護者・地域・専門機関も視野に入れた学校保健のあり方について考察したい。 本科目は学校現場での養護教諭経験がある者が、その経験を活かして実際の学校現場の現状に即した学びが得られるように指導する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 授業内容に関連する箇所の予習および前回の授業の復習を心がける。 各回、予習復習合わせて4時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. いじめ、不登校の現状と学校での支援、保護者・地域・専門機関との連携のあり方について学ぶ 6/9(4限) 2. 学校保健計画・学校安全計画と健康管理・学校安全について学ぶ 6/16(4限) 3. 健康診断について、法的根拠と健康診断の種類及び実施について学ぶ 6/23(4限) 4. 環境衛生検査と施設設備の衛生管理について概要を学ぶ 6/30(4限) 5. 学校で行われている救急処置活動の実際について学ぶ 7/7(4限) 6. 学校における健康教育と具体的な展開方法を学ぶ 7/7(5限) 7. 学校給食と食育、食物アレルギー対応について学ぶ 7/14(4限) 8. 子供の心の健康・発達の問題や行動上の課題について現状を知り、学校で行われている支援の概要を学ぶ 7/14(5限) 9. 試験 7/21(4限)				
〔 成績評価方法 〕 授業中の提出物、授業への取り組み姿勢等 40%、試験 60% 試験を回収後、回答の解説を行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	学校保健Ⅱ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:ミニレポート・試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:ミニレポート・試験				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:ミニレポート・試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ミニレポート・試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ミニレポート・試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:ミニレポート・試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:ミニレポート・試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:ミニレポート・試験				
[教科書 (ISBN)] 学校保健ハンドブック第7次改訂 著者名:教員養成系大学保健協議会 出版社:ぎょうせい (978-4-324-10577-1C3037)				
[参考書 (ISBN)] 適宜指示する				

P11200170A [NI3-002]

科目名	看護学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	中岡 亜希子、田村 康子、洪 愛子、小林 麻衣			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 看護の基本について理解する。 2. 看護の対象となる人を理解する。 3. 看護職は何をする人なのか探究する。 4. チーム医療の中の看護の役割について理解する。 5. 看護専門職者としての視野を広げ、自律した学習者となるための基盤を養う。				
[授業概要]				
看護の成り立ちと発展の歴史を学び、看護とは何か、看護を専門職としていくとはどういうことかについて理論や指針、基準より学ぶ。看護の対象となる人、家族、集団、地域、社会の健康課題について検討し、看護の重要な使命である健康の増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和について考察を深める。それらの考察をもとに、人が健康に生きること、病気を生きること、死ぬということを取り上げ、よりよく生きることの可能性について探求し、それを支える看護専門者の役割を探究していく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
各回、予習復習と合わせて4時間程度が必要です。 1. 自身の身の回りの人々はどうのように生活しているのか、問いをもって参加観察をし、自身の感性を磨く。 2. 患者体験の本を読み、想像力を持つ。 3. 厚生労働省ホームページに入り、看護に関連する政策を調査する。				
[授業計画]				
1. わが国における保健・医療・福祉と看護の発展の歴史を概観する(中岡亜希子)4/8 2. 看護の定義と看護の主要概念から看護理論の発展を学ぶ(中岡亜希子)4/15 3. 看護の対象である生活者であり、健康を生きぬく人について看護理論から学ぶ(中岡亜希子)4/22 4. 人間の身体の構造と機能を看護の立場から捉え、人の健康状態を理解する(中岡亜希子)4/29 5. 人が病気になることや死ぬこと、ウエルビーングに生きることを理解する(中岡亜希子)5/13 6. 健康に生きる基本的権利で健康の増進及び疾病の予防について学ぶ(中岡亜希子)5/20 7. 看護実践の中心にある疾病の回復に向かって支援する活動について学ぶ(中岡亜希子)5/27 8. 当事者のストーリーを聴き病気からくる苦悩や苦痛と共に生きる看護の対象を理解し、人を支えることについて学ぶ(学外講師)6/3 9. ケアの本質とは何かを考え、看護実践の役割を理解する(中岡亜希子)6/10 10. 保助看法を中心に、看護の倫理的実践と法の遵守の基本を学ぶ(洪愛子)6/17 11. 看護専門職の役割と機能について、看護専門職の実際の活動および国際看護協会と日本看護協会の活動をもとに学ぶ(洪愛子)6/24 12. 外国や国内における国際看護活動の実際を知り、グローバルな視点での看護について学ぶ(田村康子)7/1 13. 看護実践のプロセス(看護ヘルスアセスメント・看護課題の検討・目標の設定・看護プランの作成・看護実践・評価)と考え方を学ぶ(中岡亜希子・小林麻衣)7/8 14. チーム医療の中の看護の役割について学ぶ(洪愛子)7/15 15. これからの社会を見すえ、看護専門職として求められる能力について探究する(中岡亜希子)7/22				
[成績評価方法]				
事前課題レポート(25%)、ノート・テイキング(25%)、事後課題レポート(40%)、授業への取り組み(グループ討議など)(10%) 課題レポートについては、確認後返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	看護学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	中岡 亜希子、田村 康子、洪 愛子、小林 麻衣			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート				
[教科書(ISBN)]				
「ケアの本質」2004 著者名:ミルトン・メイヤロフ 出版社:ゆみる出版 (978-4-946509-11-7)				
「看護学概論」第4版 著者名:ライダー島崎玲子他 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23700-7)				
「看護覚え書」7版 著者名:フロレンス・ナイチンゲール(湯槇・小玉訳) 出版社:現代社 (978-4-87474-142-9)				
看護者の基本的責務 著者名:手島恵 監修 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2086-3)				
看護の基本となるもの 著者名:ヴァージニア・ヘンダーソン 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1226-4)				
[参考書(ISBN)]				
別途指示する				

P11200200 [NB1-003]

科目名	看護情報学	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 情報の電子化やネットワーク化の普及により、看護を取り巻く状況は変化している。膨大な情報から、目的に応じた情報を収集し看護に活かすための基礎的知識を理解する。				
〔 授業概要 〕 看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。 安全で質の高い看護を実践するため、また、チーム医療において情報は必要不可欠である。看護情報学は、1980年に初めて定義された新しい学問であり、医療機関における電子カルテの導入や、地域医療連携における患者情報のネットワーク化、遠隔医療・遠隔看護の推進など、看護を取り巻く情報システムの変化は著しい。本講義では、看護情報学の定義の変遷、看護の臨床現場における情報活用の概要、情報倫理と医療で取り扱う個人情報の特徴、医療情報システムの種類と役割、遠隔医療や遠隔看護の国内外における実践例、看護用語の標準化への取り組みについて学ぶことで、看護の質や効率、安全性を高めるための看護情報学について理解を深める。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 これまで講義や実習で学んできた看護に、情報がどのように活用されていたか復習しておくこと。また、情報通信技術の医療への活用について、日頃からニュースに関心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 看護情報学の専門性を理解し、看護実践への情報の活用について概要を知る。12/15(火)Ⅲ限 2. 看護情報学を取り扱うために必要となる、コンピュータリテラシーや情報リテラシーを習得するための基礎的知識や考え方を理解する。12/15(火)Ⅳ限 3. データと情報と知識の関係を知り、看護で取り扱う情報の特徴や活用について理解する。1/22(火)Ⅲ限 4. 情報倫理の概念を理解し、医療で取り扱う個人情報の特徴や個人情報保護法の要点と関連するガイドライン、倫理指針について理解する。1/22(火)Ⅳ限 5. 医療情報システムの種類と役割を理解し、電子カルテの看護への活用例を学ぶ。1/6(水)Ⅴ限 6. 海外における看護への情報通信技術の導入と活用の可能性を学び、遠隔医療・遠隔看護の現状や実用化に向けた課題について理解する。1/12(火)Ⅲ限 7. 看護用語の標準化の取り組みとして、NANDA、ICNPの概要を知り、分類体系の目的と利用方法について理解する。1/26(火)Ⅱ限 8. 看護の質と効率、安全性を高めるための、看護情報学の発展について検討する。1/26(火)Ⅲ限 9. 試験 1/28(木)Ⅲ限 教室 F210				
〔 成績評価方法 〕 試験(80%)、授業態度(20%) 試験回収後、回答の解説を行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200240 [NB3-002]

科目名	看護情報学	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書 (ISBN)] 「エッセンシャル 看護情報学 第2版」 著者名:太田勝正・前田樹海編著 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23586-7) 適宜プリントを配布する。				
[参考書 (ISBN)] 「系統看護学講座 別巻 看護情報学」 著者名:中山和弘 他6名共著 出版社:医学書院 (978-4-260-02771-7) 必要に応じて適宜紹介する。				

P11200240 [NB3-002]

科目名	看護倫理	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	洪 愛子、藤田 冬子、玉木 敦子、下敷領 須美子、菅野 由美子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 倫理原則について理解する。 2. 倫理的な看護実践の展開について思考を深めることが出来る。 3. 実習で担当した事例を倫理の実践の観点から検討し、学習の展開が出来る。 4. 医療者の倫理について思考を深めることが出来る。				
[授業概要]				
倫理の原則(善行と無害、正義、自律、誠実、忠誠)をもとに、看護実践上の重要な倫理的概念(アドボカシー・責務と責任、協力、ケアリングなど)を学ぶ。その上で、看護師の倫理的責任について看護師の機能と役割の観点から探求する。さらに、看護倫理の実践への応用について老人看護・精神看護・母性看護・小児看護領域の臨床事例を元に検討し、看護の実践そのものが安全性、公正性、透明性が求められることを深く理解する。そのため、看護ケアを実践するとき、協力・協働するコミュニティの育成や学習の発展の必要性を学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
・授業までに、倫理原則や倫理的概念、老年、精神、母性、小児のそれぞれの分野の倫理的課題やテーマとなる内容について教科書を読み学習する。(2時間程度) ・各授業で行った小テストの内容や、倫理・権利を守る法制度について復習する。(2時間程度)				
[授業計画]				
第1回(11/10 3限) 倫理原則をもとに看護の倫理の実践に伴う重要な概念を紹介する(洪愛子) 第2回(11/17 3限) 看護師の倫理的責任について看護師の機能と役割の観点から探求する(洪愛子) 第3回(11/24 3限) 老年看護分野における倫理の実践とアドボカシーについて臨床事例を展開する(藤田冬子) 第4回(12/ 1 3限) 精神看護分野における倫理の実践と尊厳について臨床事例を展開する(玉木敦子) 第5回(12/ 8 3限) 母性看護分野における倫理の実践と生命倫理について臨床事例を展開する(下敷領須美子) 第6回(12/15 3限) 小児看護分野における倫理的看護とケアリングについて臨床事例を展開する(菅野由美子) 第7回(12/22 3限) 看護実践の倫理的課題について討議する(洪愛子) 第8回(12/22 4限) 薬害被害をうけられた当事者から医療者の倫理について学ぶ(外部特別講師)				
[成績評価方法]				
・小テスト(6回)(60%)、最終課題レポート(40%) ・小テストの内容については、授業中に解説を行う。レポートについては、採点后返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200250 [NI4-003]

科目名	看護倫理	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	洪 愛子、藤田 冬子、玉木 敦子、下敷領 須美子、菅野 由美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:小テストおよびレポート課題				
[教科書(ISBN)]				
看護倫理―よい看護・よい看護師への道しるべ― 改定版第2版 著者名:中西恵美子 出版社:南江堂 (978-4-524-26412-4)				
[参考書(ISBN)]				
看護者の基本的責務 定義・概念・基本法・倫理、日本看護協会出版会<2019年度版> 著者名:手島恵 出版社:日本看護協会出版会 (4818020001)				

P11200250 [NI4-003]

科目名	感染免疫学	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	宇賀 昭二、洪 愛子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 感染症と人類の戦いの歴史を理解できる。 2. 感染症とその原因である病原微生物を結びつけることができる。 3. 人体の持つ免疫機構による感染発症のメカニズムを理解できる。				
[授業概要]				
人類は長い歴史の中で常に微生物感染症との闘いを続けてきた。本授業科目では、感染(症)の原因となる微生物の種類とそれらの特徴、宿主側の防御機構と疾病の成り立ち、検査法や診断法、治療の概要と回復の促進に加えて、感染予防法等を学ぶことによって、感染とこれを防ぐ宿主の免疫応答などの相互関係を理解する。これらに加えて本授業科目では、人獣共通感染症、新興・再興感染症、さらには感染症法などといった今日的諸問題や保健医療福祉行政とのつながりについても学習する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。 各回、予習復習あわせて2時間程度。				
[授業計画]				
1. 感染症の現状と歴史・・・天然痘、ペスト、黄熱 (9/29, 3限)(宇賀)F310 2. 細菌学総論・・・グラム染色性、薬剤耐性(10/1, 2限)(宇賀)F310 3. 細菌学各論・・・感染経路、引き起こす疾患(10/6, 3限)(宇賀)F310 4. 寄生虫・ウイルス学・・・特徴、感染経路、疾患(10/8, 2限)(宇賀)F310 5. 感染と免疫(1)・・・自然免疫と獲得免疫(体液性と細胞性)(10/22, 2限)(宇賀)F310 6. 感染と免疫(2)・・・ワクチンの種類や基本的特徴(10/29, 2限)(宇賀)F310 7. 感染と免疫(3)・・・感染の成立過程と防御機構(物理的バリア)(11/9, 1限)(洪)F310 8. 感染と免疫(4)・・・病院や施設で問題となる感染症と予防策(医療者に必要なワクチン接種(11/9, 2限)(洪)F310 9. 寄生虫学演習(1)・・・アニサキス、回虫(A:11/16,1限, B:11/30,1限)(宇賀)F205 10. 寄生虫学演習(2)・・・マラリア、赤痢アメーバ(A:11/16,2限, B:11/30,2限)(宇賀)F205 11. 衛生動物演習(1)・・・ハウスダストとダニ抗原(A:11/17,1限, B:12/1,1限)(宇賀)F205 12. 衛生動物演習(2)・・・濁水の凝集とダニ観察(A:11/17,2限, B:12/1,2限)(宇賀)F205 13. 細菌学演習(1)・・・大腸菌群と大腸菌、グラム染色(A:11/23,1限, B:12/7,1限)(宇賀)F205 14. 細菌学演習(2)・・・リゾチーム、黄色ブドウ球菌(A:11/23,2限, B:12/7,2限)(宇賀)F205 15. 細菌学演習(3)・・・培養結果の判定とまとめ(A:11/24, 2限, B:12/8, 2限)(宇賀)F205 16. 試験(12/15,2限)				
[成績評価方法]				
成績の評価は学期末試験の結果(60-70%)と授業中の積極的な発言(0-10%)、演習のレポート(30点)に基づいて行う。 レポートは後日添削して返却します。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200510 [NB2-013]

科目名	感染免疫学	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	宇賀 昭二、洪 愛子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験とレポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験とレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験とレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験とレポート [教科書 (ISBN)] なし(講義や演習時に資料を手渡す) [参考書 (ISBN)] なし(授業中に適宜紹介する)				

P11200510 [NB2-013]

科目名	急性期看護論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	横内 光子、米澤 珠子、長井 友利子、大口 祐矢			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1.手術を受ける患者の身体面、精神面、社会面の特徴を理解できる。 2.麻酔と手術操作によって発生する手術中・手術後の合併症、苦痛、セルフケアの障害とその援助方法について理解できる。 3.様々な手術の部位や手術方法によって生じる看護上の問題とその援助方法について理解できる。 4.個人にとって、病気の経過や療養生活の中で手術を受けるという体験の意味を考え、長期的視点になって手術を受ける患者の看護について考えることができる。				
[授業概要]				
地域社会で生活を送る個々人が、何らかの病気になり、手術をはじめとする身体に負担の大きい治療をうける際の、身体・精神・社会的な特徴を理解する。また、個人や家族にとって、生命・健康が危機状態におかれる体験の意味を理解し、そのような患者と家族に必要な看護援助について学ぶ。手術など身体に大きな負担をかける治療によって、人の身体や心はどのように反応しながら回復するのかを、これまでに学習した身体のおくみと機能、病態などの知識を活用して理解する。この理解に基づいて、患者の回復状態を綿密に評価しながら、順調な回復と患者の望む社会復帰に向けた援助の方法を学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
教科書の各回に該当する部分を熟読し、内容に関連する人体のしくみと機能(解剖と生理)、疾病と治療について、1-2年次に学習した教科書や資料に基づいて十分に予習して授業に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度の自己学習を行うこと。				
[授業計画]				
1.急性期にある患者・家族の特徴と看護の役割:4/10(金)3限 2.周手術期にある患者の看護過程:事例検討:4/17(金)3限 3.手術中の看護:手術・麻酔中の安全・安楽を維持する看護:4/24(金)3限 4.手術後の看護1) 侵襲・生体反応と術後合併症に対する看護:5/1(金)3限 5.手術後の看護2) 生命維持、苦痛の緩和と合併症予防、セルフケア回復のための看護・退院に向けた看護: 5/8(金)3限 6.手術前の看護:術前アセスメントと準備状態を整える看護: 5/15(金)3限 7.脳神経系の手術を受ける患者の特徴と看護: 5/20(水)1限 8.頭頸部の手術を受ける患者の特徴と看護: 5/20(水)2限 9.肺、乳腺の手術を受ける患者の特徴と看護: 5/22(金)3限 10.消化管(食道・胃・腸)の手術を受ける患者の特徴と看護: 5/27(水)1限 11.消化器(胆嚢・肝臓・脾臓)の手術を受ける患者の特徴と看護: 5/27(水)2限 12.運動器(関節、脊椎)の手術を受ける患者の特徴と看護: 5/29(金)3限 13.心臓・血管の手術を受ける患者の特徴と看護(米澤助教): 6/5(金)3限 14.泌尿器、生殖器の手術を受ける患者の特徴と看護(長井助教): 6/12(金)3限 15.移植医療と看護(兵庫県臓器移植コーディネーター杉江瑛理子氏): 6/19(金)3限 16.試験: 6/26(金)3限				
[成績評価方法]				
小テストと課題(全5回:1回につき10点満点で平均点を10%換算):10% 試験の得点:90%				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200530 [NB3-009]

科目名	急性期看護論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	横内 光子、米澤 珠子、長井 友利子、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:小テスト、課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:小テスト、課題、試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3 / (人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト、試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:小テスト、課題、試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:小テスト、課題、試験				
[教科書(ISBN)] 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」第11版,2017 著者名:矢永勝彦 出版社:医学書院 (978-4-260-02769-4) 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」第9版,2017 著者名:北島政樹 出版社:医学書院 (978-4-260-02765-6) 整形外科疾患ビジュアルブック 第2版,2018 著者名:落合慈之(監修), 下出真法(編集) 出版社:学研メディカル秀潤社 (978-4780912388)				
[参考書(ISBN)] 「成人看護学 成人看護技術」改訂2版,2017 著者名:野崎真奈美他編 出版社:南江堂 (978-4524254187) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 第15版,2018 著者名:小松浩子 出版社:医学書院 (978-4260031738)				

P11200530 [NB3-009]

科目名	健康相談活動	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 養護教諭の職務の特性や保健室の機能を生かした健康相談活動について理解し、健康相談活動の基礎的な実践能力を身につける。 〔 授業概要 〕 近年の社会環境や生活様式の急激な変化の中で、子供達の心身両面にわたる健康問題が複雑化、深刻化している。養護教諭はこのような子供達の健康問題にいち早く気づくことのできる立場であり、養護教諭が実施する健康相談活動は重要な役割を担っている。 ここでは、養護教諭の行う健康相談活動の基礎・基本を学び、具体的な事例を挙げながら、ロールプレイやグループワーク等を取り入れて、要因の把握や解決のための支援のあり方、関係者との連携等について学んでいく。学校現場での養護教諭経験がある教員が、実際の学校現場の現状に即した健康相談活動を実施できる力を身につけられるように、具体例を挙げながら指導を行う。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。 各回、予習復習合わせて4時間程度 〔 授業計画 〕 1. 健康相談活動とは何か、意義・目的と概要を学ぶ 11/4 1限 2. 養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談活動のあり方を学ぶ 11/4 2限 3. 児童生徒の心身の健康問題の現状と背景について学ぶ 11/10 4限 4. 心身の発達について理解し、予防教育と環境調整について学ぶ 11/10 5限 5. 健康相談の基礎、対象理解、問題理解、相談方法の理解について学ぶ 11/17 4限 6. 健康相談活動に必要なカウンセリング技法について学ぶ 11/17 5限 7. 健康相談活動の実際、相談活動の進め方について学ぶ 11/24 4限 8. 不定愁訴、心身症について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ 11/24 5限 9. いじめ、虐待について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ 12/1 4限 10. 保健室登校について、背景や現状を理解し適切な対応のあり方を学ぶ 12/1 5限 11. 薬物乱用、飲酒・喫煙行動、性的問題行動について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ 12/8 4限 12. ライフスキル教育とアンガーマネジメントについて学ぶ 12/8 5限 13. 慢性疾患を持つ児童生徒の理解と適切な対応のあり方を学ぶ 12/15 4限 14. 健康相談活動の記録と評価について学ぶ 12/15 5限 15. まとめ 12/22 5限 〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み姿勢(提出物、授業態度等)70%、レポート30% レポートの評価は希望者に開示する 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200160 [NI4-001]

科目名	健康相談活動	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	丸山 有希			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業内課題、レポート課題				
[教科書(ISBN)] 「養護教諭の行う健康相談」 著者名:大谷尚子・森田光子編 出版社:東山書房 (978-4-8278-1546-7-C2037)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11200160 [NI4-001]

科目名	公衆衛生学	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	宇賀 昭二			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 医学の中での衛生学・公衆衛生学、予防医学の位置づけが説明できる。 2. 公衆衛生活動の実際や行政組織・法制度等について説明出来る。 3. 母子保健、成人保健、老人保健や生活環境について理解・説明出来る。				
[授業概要]				
衛生学・公衆衛生学は、全ての国民が生来の権利としての健康と長寿を可能にすべく、その理論と技術を組織化・体系化した学問である。そのため本授業科目では、衛生学・公衆衛生学とわが国の衛生・公衆衛生の現状を踏まえて、健康支援や社会保障制度、母子保健、学校保健、生活習慣病の疫学と予防対策、あるいは老人保健など健康に関する極めて広い範囲を取り扱うことになる。このことはすなわち、「本授業科目が我々の日常生活と如何に密接に関連しているのか」を学ぶことであると言い換えることが出来る。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習あわせて4時間程度。				
[授業計画]				
1. 概論・医療保健制度…意義と歴史や社会保障 4/6 2. 予防医学…予防医学の3段階 4/13 3. 母子保健・学校保健…妊産婦や胎児の保健、学校保健行政 4/20 4. 成人保健(1)…生活習慣病総論・各論、疫学 4/27 5. 成人保健(2)…生活習慣病総論・各論、疫学 5/11 6. 生活環境(1)…上水、下水、水質汚染 5/18 7. 生活環境(2)…廃棄物、公害 5/25 8. まとめ 6/1 9. 試験 6/8				
[成績評価方法]				
成績の評価は試験の結果(90-100%)と授業中の積極的な発言(0-10%)に基づいて行う。試験回収後、正解の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200130 [NB1-002]

科目名	公衆衛生学	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	宇賀 昭二			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験 [教科書 (ISBN)] 公衆衛生学(第3版) 著者名:吉田 勉他 出版社:学文社 (978-4-7620-2539-6) 国民衛生の動向 著者名:厚生労働統計協会 出版社:財団法人 厚生統計協会 [参考書 (ISBN)] なし				

P11200130 [NB1-002]

科目名	公衆衛生看護演習	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	小路 浩子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 1. 地域社会で暮らす様々なライフステージ・健康レベルの個人・集団に対する援助方法を習得する。 2. 個別保健指導と集団保健指導の違いや特徴を理解し、援助技術を習得する。				
[授業概要] 地域社会の中で生活および健康課題を解決するために、公衆衛生看護活動における保健指導技術を習得する。地域で生活している人々の健康の保持・増進のために、ヘルスプロモーションおよびセルフケアの考え方にに基づき、地域住民が自ら健康に関する課題を解決できる力を身につけられるような保健指導の方法を学ぶ。地域看護活動の対象となる様々なライフステージ・健康レベルの個人や家族、集団、組織の支援をするために、家庭訪問・健康相談といった個別保健指導技術と健康教育・グループ学習といった集団保健指導技術を習得し、実践できるように演習を行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。 各回、予習復習を合わせて2時間程度行うこと。				
[授業計画] 1. (4/6月1限) 保健師活動の支援方法と技術:個人・家族、集団、組織への支援と保健指導技術 2. (4/6月2限) 保健指導に関する理論:主体的な行動変容を促す保健指導技術 3. (4/7火1限) 個人・家族への保健指導技術①:様々な健康相談の場面と技術 4. (4/7火2限) 個人・家族への保健指導技術②:健康相談の演習 5. (4/13月1限) 個人・家族への保健指導技術③:乳幼児健康診査の実際と保健指導技術 6. (4/13月2限) 個人・家族への保健指導技術④:乳幼児健康診査の演習(問診・保健指導) 7. (4/14火1限) 個人・家族への保健指導技術⑤:家庭訪問の実際と技術 8. (4/14火2限) 個人・家族への保健指導技術⑥:家庭訪問の演習 9. (4/20月1限) 個人・家族への保健指導技術⑦:家庭訪問の演習・個別指導のまとめ 10. (4/20月2限) グループ・集団に対する保健指導技術①:健康教育の企画・計画・実施・評価の流れと 技術 11. (4/23木1限) グループ・集団に対する保健指導技術②:健康教育演習(企画・計画) 12. (4/23木2限) グループ・集団に対する保健指導技術③:健康教育演習(企画・計画) 13. (4/27月1限) グループ・集団に対する保健指導技術④:健康教育演習(実施・評価) 14. (4/27月2限) グループ・集団に対する保健指導技術⑤:健康教育演習(実施・評価) 15. (4/30木1限) グループ・集団に対する保健指導技術⑥:集団指導のまとめ 16. (4/30木2限) 試験				
使用教室 F202(地域・在宅実習室) * 試験日(4月30日1,2限)のみ、F301使用				
[成績評価方法] 筆記試験(70%):試験回収後、解説を行う 受講態度(30%):演習への参加状況、ワークシート記載内容により評価、ワークシートは必要に応じて添削または授業内で解説				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200370 [NB4-001]

科目名	公衆衛生看護演習	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	小路 浩子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)、筆記試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)、筆記試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)、筆記試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)、筆記試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)、筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)、筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)、筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講態度(演習参加態度、演習記録成果物)				
[教科書 (ISBN)]				
標準保健師講座 地域看護技術 第3版 著者名:中村裕美子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02193-7) 公衆衛生看護活動論 技術演習第3版 著者名:岩本里織他 出版社:クオリティケア (978-4-904363-67-6) 第6版 乳幼児健診マニュアル 著者名:福岡地区小児科医会 出版社:医学書院 (978-4-260-03935-2)				
[参考書 (ISBN)]				
随時紹介する				

P11200370 [NB4-001]

科目名	公衆衛生看護学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子			
[実務経験のある教員による授業]				
○				
[到達目標]				
1. 地域看護・公衆衛生看護の理念、歴史、役割、公衆衛生看護学活動の対象を理解する。				
2. 公衆衛生看護の動向と公衆衛生看護学活動の展開を理解する。				
3. 公衆衛生看護学の理論的背景を理解する。				
[授業概要]				
地域看護・公衆衛生看護の理念、歴史および公衆衛生看護学に重要な概念や理論を学ぶ。				
公衆衛生看護活動の特性および場と対象、日本の健康政策の変遷と社会的背景、集団の健康を支える保健師活動、関係法規・施策、行政のしくみを理解する。また、地域で生活している人々を、個・家族・集団・地域社会という多重構造で捉え、生活者としての視点で考えることができる。さらに、より身近に地域社会とそこに生活している人々の健康課題を考えてもらうために、自分の生まれ育った地域の情報収集やフィールドワークを取り入れた学習を行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習あわせて4時間程度。				
[授業計画]				
1.公衆衛生の理念、公衆衛生看護学の概要:地域看護学および公衆衛生学を学ぶにあたっての基本概念である公衆衛生、健康の概念、公衆衛生看護学および公衆衛生看護活動の特徴について理解する。(4/6・2限)				
2.公衆衛生看護活動の基盤となる理論:公衆衛生看護活動の基盤となる理論を理解することによって、公衆衛生看護活動に活用することを考えることができる。(4/13・2限)				
3.公衆衛生看護の歴史:公衆衛生看護活動の歴史を学ぶことによって、健康支援や医療・社会保障システムにおける保健師の機能や役割を理解する。(4/20・2限)				
4.フィールドワーク:住民の健康課題を理解するために、自分の生まれ育った地域のフィールドワークを行い、健康課題を考察する。(4/27・2限)				
5.地域看護・公衆衛生看護の場:地域看護・公衆衛生看護活動の活動分野(行政保健、学校保健、産業保健、在宅看護)と看護職の役割、法的根拠や社会保障制度、保健・医療・福祉関係者の連携について理解する。(5/11・2限)				
6.公衆衛生看護活動の展開:公衆衛生看護の特性・機能・役割、さまざまなライフステージ、健康レベルに応じた公衆衛生看護活動の対象、活動方法、関係法令や制度・システムづくりについて理解する。(5/11・3限)				
7.公衆衛生看護活動の実践:行政における保健師活動の実践を学ぶ。(5/18・2限)(学外特別講師を予定)主担当も同席				
8.公衆衛生看護活動の展開方法①:個人・家族の捉え方と援助について事例を用いて考察する。(5/18・3限)				
9.公衆衛生看護活動の展開方法②:集団の捉え方と援助について事例を用いて考察する。(5/25・2限)				
10.公衆衛生看護活動の展開方法③:地域全体を対象とした援助について事例を用いて考察する。(5/25・3限)				
11.社会環境の変化と健康課題:各健康指標や社会背景、ライフスタイル、さまざまな価値観について学び、地域の人々の健康との関連を考えることができる。(6/1・2限)				
12.フィールドワーク発表・ディスカッション:フィールドワークでまとめた自分の地域の健康課題について発表し、ディスカッションを通じて学びを深める。(6/1・3限)				
13.公衆衛生看護活動の計画・実践・評価、計画策定と施策化:地域保健計画の概要、策定意義や必要な要素を学び、社会資源の開発やシステム作りを推進する公衆衛生看護活動を理解し、公衆衛生看護活動における保健師の役割を理解する。(6/8・2限)				
14.公衆衛生看護管理・健康危機管理:公衆衛生看護管理の目的と機能、健康危機管理について理解する。(6/8月・3限)				
15.公衆衛生における保健師活動:公衆衛生看護活動を推進するにあたって、保健師の機能と役割を理解し、今日の現状と課題を踏まえて、地域で働く看護職としての健康支援の方向性を考察する。(6/15・2限)				
16.試験 (6/22・2限)				
[成績評価方法]				
試験 (70%)、小テスト・レポート課題(30%)				
・試験・小テストは、試験答案回収後に解説する。				
・レポート課題は、模範解答を配付する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200340 [NB3-005]

科目名	公衆衛生看護学概論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
[教科書 (ISBN)]				
健康と社会・生活 第4版 著者名:平野かよ子他 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-4912-0)				
標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 第4版 著者名:標美奈子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02004-6)				
国民衛生の動向2017/2018 著者名:厚生労働統計協会 出版社:厚生労働統計協会 (491-0038540859-02315)				
公衆衛生がみえる2018-2019 著者名:今村知明他 出版社:メディックメディア (978-4896326871)				
[参考書 (ISBN)]				
看護法令要覧2020年度版 著者名:勝又浜子他 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2016-0)				
保健師業務要覧 第3版 著者名:井伊久美子他 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-20283)				

P11200340 [NB3-005]

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	小路 浩子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 保健師活動を展開するのに必要な知識と技術を理解する。 1.ライフステージや健康レベルをふまえ、それぞれの対象の特性や場に応じた知識と技術を理解する。 2.健康障害を持つ人々および健康危機状態の人々の特性や対象の置かれている状況を理解し、それぞれの対象の特性や場に応じた知識と技術を理解する。				
〔 授業概要 〕 保健師活動を展開するための具体的方法論について学ぶ。母子保健・成人保健・介護予防・精神保健・難病保健・感染症予防・国際保健などの分野で展開される保健師活動について、一次・二次・三次予防の視点およびヘルスプロモーションの考え方に基づいた公衆衛生看護活動について学ぶ。生活習慣病発症・重症化予防、虐待問題、健康危機管理、高齢者問題など複雑多様化している健康課題に対し、地域で活動する看護職に期待されている内容について理解・実践できるように、事例を用いた学習、グループワークをとおして実践的思考を養い、保健師活動に必要な知識・技術を学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習を合わせて4時間程度行うこと。				
〔 授業計画 〕 1. (1/8金3限)保健師活動を展開するための知識と技術とは 2. (1/8金4限)母子保健活動を展開するための知識と技術① 3. (1/9土1限)母子保健活動を展開するための知識と技術② 4. (1/9土2限)感染症保健活動を展開するための知識と技術 * 学外特別講師、小路浩子 5. (1/12火1限)成人保健活動を展開するための知識と技術① 6. (1/12火2限)成人保健活動を展開するための知識と技術② 7. (1/15金1限)産業保健活動を展開するための知識と技術① 8. (1/15金2限)産業保健活動を展開するための知識と技術② 9. (1/22金2限)高齢者保健活動を展開するための知識と技術① 10. (1/22金3限)高齢者保健活動を展開するための知識と技術② 11. (1/27水1限)難病保健活動を展開するための知識と技術① 12. (1/27水2限)難病保健活動を展開するための知識と技術② 13. (1/29金1限)精神保健福祉活動を展開するための知識と技術 14. (1/29金2限)災害時保健活動を展開するための知識と技術 15. (2/3水1限) 国際保健における保健師活動を展開するための知識と技術 * 学外特別講師・小路浩子 16. (2/5金2限)試験 使用教室 F210				
〔 成績評価方法 〕 筆記試験80%:試験回収後、解説を行う 授業態度20%(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容):必要に応じて、ワークシートを添削または授業内で解説				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200380 [NB3-007]

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	小路 浩子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)、筆記試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)、筆記試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)、筆記試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)、筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)、筆記試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講態度(グループ討議参加状況、ワークシート記載内容)				
[教科書(ISBN)] 公衆衛生看護活動論 技術演習第3版 著者名:岩本里織他 出版社:クオリティケア (978-4-904363-67-6) 標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動 第4版 著者名:松田正己 出版社:医学書院 (978-4-260-03187-5) 「国民衛生の動向2020/2021」*最新版 出版社:厚生労働統計協会				
[参考書(ISBN)] 随時紹介する。				

P11200380 [NB3-007]

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.地域組織活動の特徴を捉え、地域の中の様々な住民組織があることを理解する。 2.セルフヘルプグループの特徴と支援方法を理解する。 3.地域ケアシステムの構築と展開における看護職の役割を理解する。				
〔 授業概要 〕 地域の健康課題を理解し、健康の保持・増進に向けて組織的に解決する活動方法を学ぶ。母子保健ネットワークやフォロー体制、障害者（児）対策や社会での支援システム、介護予防施策など、地域で展開されている集団や組織における看護職の役割・機能、地域看護活動の実践を学び、地域看護過程の展開方法について理解する。さらに、地域ヘルスケアシステムの構築、地区組織活動の具体的方法と地域ネットワークづくり、支援体制づくり、地域で展開されている保健活動と実践技術を理解する。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。				
〔 授業計画 〕 1.地域におけるグループ支援・組織化と地域ケアシステム、地域組織活動の歴史と社会背景、特徴（1月8日（金）／2限） 2.地域組織活動にかかわる概念、地域組織活動で活用できる理論・方法論（1月9日（土）／3限） 3.グループ・組織の特性、グループの成長過程・組織化とその支援（1月9日（土）／4限） 4.当事者組織とその支援、住民の自立支援と地域組織活動の実際（1月15日（金）／3限） 5.地域ケアシステムの構築：地域ケアシステムの概念、地域ケアシステム構築に必要な基本概念、構造的転換（1月15日（金）／4限） 6.地域ケアシステム構築の実際と看護職の役割（1月29日（金）／3限） 7.ネットワーク化と調整活動：ソーシャルネットワークとは、地域ケアの調整活動、社会資源の活用（1月29日（金）／4限） 8.地域保健医療福祉ネットワーク形成と看護職の役割（2月2日（火）／2限） 9.試験（2月5日（金）／4限）				
〔 成績評価方法 〕 試験70％、小テスト・レポート課題30％ ・試験・小テストは、試験答案回収後に解説する。 ・レポート課題は、模範解答を配付する。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、小テスト、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 標準保健師講座② 公衆衛生看護技術 第4版 著者名:中村裕美子他 出版社:医学書院 (978-4260038706)				
[参考書 (ISBN)] 公衆衛生看護活動論技術演習第3版 著者名:岩本里織他 出版社:クオリティケア (978-4904363676)				

科目名	公衆衛生看護活動論実習	前期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子、小路 浩子、記村 聡子、荒金 英里子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 地域で生活している人々の実態に触れ、様々な健康レベル・ライフステージにある人々の健康課題を把握し、地域全体の課題としてとらえることができる。 2. 地域で展開される保健師活動の実際をととして、個人・家族、集団（組織）、地域全体を対象とする支援方法、支援技術を学び、保健師の機能や役割を理解することができる。 3. 地域における社会資源とその活用について理解し、保健師による社会資源の開発について理解することができる。 4. 地域の健康課題の解決に向けた保健師と他（多）職種・他（多）機関との連携との連携について理解できる。 〔 授業概要 〕 地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象（個人・家族・集団・組織・地域）の特性に合わせて展開される地域保健活動の実際に触れ、地域で生活する人々の実態や健康課題を把握するとともに、地域の人々の健康の保持増進に向けた取り組みや保健指導等の技術の基本を学び、公衆衛生看護活動に必要な実践能力を養う。また、個人・家族・集団（組織）のセルフケア能力を高める保健指導技術、他機関・他職種との連携、ケアマネジメント等の公衆衛生看護活動における保健師の機能と役割を理解する。 〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 実習に関連する授業内容を復習し理解して、事前学習を十分にしておいて実習に臨むこと。実習目的を明らかにし、記録は提出期限を守ること。日頃から住民生活に関係するニュース等に関心を持つこと。 〔 授業計画 〕 1. 実習効果を上げるために、公衆衛生看護管理論実習と合わせて行う。 2. 保健所およびその管轄する市町村または区からひとつの市町村あるいは区を担当し、実習する。 3. 保健所が管轄する地域での組織や集団等、地域の多様な場で行う。 4. 担当する保健所および管轄する地域において展開されている様々な健康レベル、ライフステージの保健・福祉事業に参加し、実習する。 5. 保健所が管轄する地域で実施されている保健・福祉事業に関するオリエンテーションを受ける。 6. 健康教育、家庭訪問、健康診査、健康相談などの事業を見学すると共に、学生でグループ又はペアで保健指導を担当し、計画、実施、評価を行う。 7. 地域で展開されている地域組織活動の場や自主グループなど地域の多様な場での実習を行う。 8. 保健所で実習のまとめの発表会を行い、保健師からの助言を受け、学びを深める。 9. 実習終了時のカンファレンスで、保健師の役割や関連職種との連携、地域ケアシステム等について学びを共有し、自己の課題を探索、レポートにまとめる。 〔 成績評価方法 〕 受講態度（10％）、実習評価（70％）、レポート（20％）により総合評価する 評価のフィードバックは、実習期間中の個別面談、グループワークにて行う 〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200430 [NB4-004]

科目名	公衆衛生看護活動論実習	前期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子、小路 浩子、記村 聡子、荒金 英里子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
[教科書 (ISBN)]				
国民衛生の動向2019/2020 著者名:厚生労働統計協会 出版社:厚生労働統計協会				
「公衆衛生看護学概論」「地域看護活動論」「公衆衛生看護活動論ⅠおよびⅡ」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護演習」において使用した教科書				
実習要項、資料は別途配布する				
[参考書 (ISBN)]				
適宜紹介する				

P11200430 [NB4-004]

科目名	公衆衛生看護管理論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 公衆衛生看護活動における地域診断の目的と展開方法を理解する。 2. 地域診断に必要な理論と知識を理解し、具体的な技術を習得する。 3. 公衆衛生看護管理の目的およびその機能、施策化を理解する。 〔 授業概要 〕 行政における保健活動を展開するために必要な公衆衛生看護管理の概念や理論、公衆衛生看護活動の展開技術の具体的な方法について学ぶ。実際の地域を事例に用いて、既存データの分析や地区踏査により地域診断を行い、健康課題を抽出する技法を習得する。さらに、地域診断によって把握、分析した情報から、課題解決のための地域保健活動計画を立案、評価・改善するプロセスを学び、PDCAサイクルを理解する。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。行政のしくみについて理解しておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。 〔 授業計画 〕 1. 地域全体を視野に入れた公衆衛生看護活動とは 4/6(月)3限 2. 地域診断の概念と理論、展開方法、PDCAサイクル 4/6(月)4限 3. 地域診断の展開技術①:地域看護アセスメント、既存資料からの情報収集 4/9(木)2限 4. 地域診断の展開技術②:既存資料の分析、健康課題の推測 4/13(月)3限 5. 地域診断の展開技術③:地区踏査・地区視診 4/13(月)4限 6. 地域診断の展開技術④:収集した情報からのアセスメント、地域診断 4/16(木)2限 7. 地域診断の展開技術⑤:地域保健活動計画の作成 4/20(月)3限 8. 地域診断・地域保健活動計画の発表、地域における公衆衛生看護管理活動の展開 4/20(月)4限 〔 成績評価方法 〕 学習態度・グループワーク参加態度(50%) 課題レポート・ワークシート(50%) ・グループワークでは、その都度助言をします。 ・課題レポート、ワークシートは後日添削して返却します。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	公衆衛生看護管理論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:課題レポート・ワークシート				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:課題レポート・ワークシート				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、グループワーク参加態度				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:課題レポート、ワークシート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:課題レポート、グループワーク参加態度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、グループワーク参加態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート、ワークシート				
[教科書 (ISBN)]				
地域看護アセスメントガイド第2版 著者名:佐伯和子 出版社:医歯薬出版 (978-4263237106) 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 第4版 著者名:標美奈子他 出版社:医学書院 (978-4-260-01183-9) 国民衛生の動向2019/2020 著者名:厚生労働統計協会 出版社:厚生労働統計協会 (491-00385-40897-02450)				
[参考書 (ISBN)]				
地域看護診断 第2版 著者名:金川克子他 出版社:東京大学出版会 (978-4130624084)				

P11200400 [NB4-002]

科目名	公衆衛生看護管理論実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子、小路 浩子、記村 聡子、荒金 英里子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 保健師活動の基本となるPDCAサイクルの実践について理解し、説明できる。 2. 既存の地域ケアシステムにおける保健師の機能や役割を理解し、地域ケアシステムの構築や施策化に向けた公衆衛生看護活動について理解し、説明できる。 3. 実習地の地域診断を行い、健康課題を抽出し、必要な対策を考えることができる。 4. 地域の健康危機管理について理解し、説明できる。				
〔 授業概要 〕 保健所や市町村保健センター等の行政機関での実習をとおして、保健所等の保健行政機関の役割と機能、行政機関における看護職の役割について学ぶ。また、地域の健康課題把握のための地域診断、課題改善に向けた計画立案や事業開発、保健医療福祉の連携・協力体制の構築などの公衆衛生看護管理技術を学ぶとともに、公衆衛生看護管理に不可欠なPDCAサイクルの展開方法や地域ケアシステムづくり、危機管理体制について理解する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 実習に関連する授業内容を復習し理解して、事前学習を十分にして実習に臨むこと。実習目的を明らかにし、記録は提出期限を守ること。日頃から住民生活に関係するニュース等に関心を持つこと。				
〔 授業計画 〕 1.実習効果をあげるために、公衆衛生看護活動論実習とあわせて行う。 2.保健所等の行政機関において実習を行う。 3.保健所とその管轄する市町村または区からひとつの市町村あるいは区を担当し、実習を行う。 4.保健所において、保健所の機能と役割、地域特性と健康課題、保健師活動の概要等のオリエンテーションを受ける。 5.担当する市町村あるいは区の資料やデータに基づいて事前学習し、レポートにまとめ、地域特性と健康課題、保健師活動の概要等のオリエンテーションを受ける。 6.PDCAサイクルに基づいて実習する。 1)保健所の管轄するひとつの市町村あるいは区を担当し、学内での事前学習・演習での情報収集、実習地の地区踏査、事業への参加、実習地でのオリエンテーション等を踏まえ、地域診断を行う。 2)担当した市町村あるいは区の地域診断結果から、健康課題を抽出し、課題解決に向けた対策を考え、実施に向けた方策や評価方法を検討する。 3)地域診断結果及び診断に基づいた健康課題、対策を「地区のすがた・健康課題」としてまとめ、成果を実習地において発表する。 4)発表に対して実習指導保健師や管理職等からの助言を受け、学びを深めるとともに、助言を踏まえ、地区診断の見直しを行い、精度を高めていく。 5)担当した保健所及び市町村の地域ケアシステムや保健医療計画等についても学習し、地区診断結果に反映するとともに実習指導保健師や地区担当保健師からの助言を受け、学びを深める。 6)実習最終日において、実習地での助言・指導を踏まえ、追加・修正を行った地区診断の成果を発表し、学生間で討議し、学びを深める。 7.実習地でおこなわれている様々な健康危機対策について、保健師および関係者からオリエンテーションを受ける。				
〔 成績評価方法 〕 受講態度(10%)、実習評価(70%)、レポート(20%)により総合評価する 評価のフィードバックは、実習期間中の個別面談、グループワークにて行う				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200440 [NB4-005]

科目名	公衆衛生看護管理論実習	前期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子、小路 浩子、記村 聡子、荒金 英里子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習評価(グループ討議、実習記録等の成果物、実習態度)、レポート				
[教科書(ISBN)] 国民衛生の動向2019/2020 著者名:厚生労働統計協会 出版社:厚生労働統計協会 「公衆衛生看護学概論」「地域看護活動論」「公衆衛生看護活動論Ⅰ及びⅡ」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護演習」において使用した教科書 実習要項、資料は別途配布する				
[参考書(ISBN)] 適宜紹介する				

P11200440 [NB4-005]

科目名	国際保健	前期	講義	1 単位
サブタイトル	グローバル化時代の健康問題と向き合うために			
担当者	上杉 裕子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 健康課題を地球レベルでとらえ、現存する健康格差やそのための保健医療について理解できる				
2. 世界の保健医療を支える機関とその役割について理解できる				
3. 日本および諸外国においての多様な文化的背景を持つ人々の生活を理解し、それらの人々と協同することができる				
4. グローバル社会における健康課題を見出し、解決するための方策について考察することができる				
5. 保健医療職者として、グローバル社会で活躍するためのキャリアビジョンを見据えることができる				
[授業概要]				
保健医療に関する多数の健康課題について考え、保健医療を取り巻く世界の現状の理解をしながら、グローバル化する社会で医療専門職として活躍するために必要な知識や態度を学ぶ科目である。 主体的に自ら学ぶ姿勢を養い、ディスカッションをとおして、学びを深化させることを目指す。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
授業では、いくつかの具体的な課題を提示し、それに関する参考文献やデータを提示します。日頃から新聞報道等による国際保健に関する問題に興味を持ち、自ら関心のある国や地域の健康状況や社会状況を調べておくと、授業で役立つと思います。 各回、予習復習合わせて4時間程度が必要です。				
[授業計画]				
第1回 オリエンテーション、国際保健・国際看護の概観(4/11, 1限)				
第2回 健康格差を考える(4/11, 2限)				
第3回 乳児死亡率、妊産婦死亡率、平均寿命、感染症、NCDs(4/11, 3限)				
第4回 プレゼンテーション(国際社会における健康課題と問題意識)(4/25, 1限)				
第5回 グループワークとディスカッション(課題提出)(4/25, 2限)				
第6回 国際連合、WHO、プライマリーヘルスケア、MDGs、SDGs(5/2, 1限)				
第7回 移民の健康と外国人患者:医療を受ける人の多様性、多文化共生(5/2, 2限)				
第8回 グループ発表とディスカッション:グローバル社会で活躍できる保健医療職者となるために(5/2, 3限)				
[成績評価方法]				
授業への参加や課題への取り組みを重視します。 ・講義やグループワークへの参加 30% ・授業中の課題評価 30% ・レポート 40% レポートは後日添削して返却します				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200180 [NI4-002]

科目名	国際保健	前期	講義	1 単位
サブタイトル	グローバル化時代の健康問題と向き合うために			
担当者	上杉 裕子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:講義やグループワークへの参加、授業中の課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:講義やグループワークへの参加、授業中の課題、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:講義やグループワークへの参加、授業中の課題、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:講義やグループワークへの参加、授業中の課題、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:講義やグループワークへの参加、授業中の課題、レポート				
[教科書 (ISBN)] 国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして 著者名:大橋一友、岩澤和子編集 出版社:メディカ出版 (9784840465939)				
[参考書 (ISBN)] 国際看護 言葉・文化を超えた看護の本質を体現する 著者名:一戸真子編集 出版社:学研 (978-4-7809-1222-7)				

P11200180 [NI4-002]

科目名	こころの健康増進と看護	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	玉木 敦子、大谷 利恵、高橋 秋絵、市川 久美子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1.現代社会におけるストレスと精神的諸問題について理解できる。 2.身体疾患をもつ患者のこころの健康問題とこころのケアについて理解できる。 3.周産期の女性のメンタルヘルスとこころのケアについて理解できる。 4.看護職のストレスとストレスマネジメントについて理解できる。 [授業概要] 人間は日々生活する中でさまざまなストレスを体験し、人生を生きる中でさまざまな危機に遭遇する。この授業では、精神看護実践の経験を有する教員が、自分自身の体験や実習での体験をもとに、さまざまな場や状況で人間が体験するストレスや危機、起こりうる精神的諸問題を理解し、その中でどのようにこころの健康を維持・増進するかを理解する。さらにそこでの看護職の役割を考察する。 主なテーマは、現代社会におけるストレスとこころの健康、身体疾患により療養生活を送る患者のこころの健康と看護、周産期の女性のこころの健康と看護、看護職のこころの健康とストレスマネジメントである。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回、4時間以上かけて授業内容の復習と、次回の予習をすること。事前に指定された課題について、自分自身の体験や実習での体験をもとに取り組んだうえで、授業に臨むこと。 [授業計画] 1.現代社会のさまざまな場(家庭、学校、職場など)におけるストレスと精神健康問題を概観する(12/14(月)1限)(玉木敦子) 2.ストレスに関する理論を学び、看護学生や看護職が体験するストレスを概観する(12/14(月)2限)(玉木敦子) 3.周産期にみられる精神健康問題やそれに対する治療的アプローチについて概観する(12/15(火)1限)(玉木敦子) 4.産後うつ病のスクリーニングと産後うつ状態にある女性への看護援助について学ぶ(12/15(火)2限)(高橋秋絵) 5.視聴覚教材を通して身体疾患をもつ患者の体験を理解し、危機理論に基づいてこころの危機を理解する(12/21(月)1限)(玉木敦子) 6.身体疾患をもつ患者が体験する不安、うつ、せん妄など理解し、必要とされる精神看護援助を学ぶ(12/21(月)2限)(市川久美子) 7.理論に基づいたストレスマネジメントの実際を体験的に学ぶ(12/22(火)1限)(大谷利恵) 8.現代社会でトピックとなっている精神健康問題を取り上げ、その背景要因を理解し、看護の役割と課題を検討する(12/22(火)2限)(玉木敦子) 9.試験(1/6(水)2限) [成績評価方法] 試験(60%)：試験後に解説を行う。 レポート(40%)：評価後に返却する。 レポートのテーマ及び提出日は下記の通り。詳細はmanaba等にて通知する。 ・テーマ「最近の精神保健に関する問題について」(A4 2枚 3000字程度) ・レポート提出日:12月22日(火)1限目開始時(期限厳守) [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200580 [NB3-012]

科目名	こころの健康増進と看護	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	玉木 敦子、大谷 利恵、高橋 秋絵、市川 久美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート				
[教科書(ISBN)] 精神看護学Ⅰ 第6版 著者名:吉松和哉他編 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-064-0)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11200580 [NB3-012]

科目名	コミュニケーション論(表現学)	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 対人コミュニケーションについて理論的な枠組みを理解し、伝達表現能力を養い、社会に出てから必要なコミュニケーション能力を身につける。 [授業概要] 人と人が社会の中でどのように言葉を使っているかについて、様々なテーマを取り上げ、重要な点を整理・考察する。授業での実践的演習やテレビ局での校外研修を通して、円滑なコミュニケーションを図る手段や、多様化するコミュニケーションの現状を解説したうえで、問題点などを考察する。更に面談等のコミュニケーション実習を体験することで、医療現場で役立つ、コミュニケーション表現能力を養う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日常から会話に興味を持ち、どうすれば自己の考え方が人に伝わるかのを考察し、家族や友人と話しをする際も様々な工夫を試す。テレビ番組を観たり音楽を聴いたりした際に独自に感想を考えておく。 [授業計画] 1. 導入:コミュニケーションについて(北川) 2. コミュニケーション表現の基礎について (笹原) 3. 円滑なコミュニケーション1(自己紹介とは) (北川) 4. 円滑なコミュニケーション2(他者紹介とは) (笹原) 5. CMなどにおけるコミュニケーション表現について(北川) 6. 現役アナウンサーによる話し方のテクニック 実習1(テレビ局にて学外実習)(北川笹原) 7. 現役アナウンサーによる話し方のテクニック 実習2(テレビ局にて学外実習)(北川笹原) 8. 社会におけるコミュニケーション表現について(北川) 9. コミュニケーション表現力を高める(笹原) 10. コミュニケーション・マネジメントについて(笹原) 11. 日本語の特性と非言語(ノンバーバル)の重要性 (北川) 12. 業務コミュニケーション (笹原) 13. 実社会(医療現場)でコミュニケーション表現を活かすテクニック (北川) 14. 自己伝達演習 (笹原) 15. グループ演習 (北川) [成績評価方法] 授業中の演習体験発表50%・レポート50% 講評及びレポートでフィードバック [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200060 [NH1-003]

科目名	コミュニケーション論(表現学)	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:授業での発表 レポート 学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:授業での発表・レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表・レポート [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし				

P11200060 [NH1-003]

科目名	コミュニティ看護実習Ⅰ	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ、小路 浩子、坂口 めぐみ、三苫 美和、笹谷 真由美、中岡 亜希子、西原 詩子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 施設を利用する高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. 施設の利用目的に応じた高齢者のニーズと生活の実際を理解する。 3. 高齢者の生活を支える看護について考察する。				
〔 授業概要 〕 看護師免許を持つ教員が、以下の概要について実習を行う。 高齢者の施設を利用した生活について、高齢者とのコミュニケーションやケアの見学を通して理解を深め、高齢者の生活を支える看護について学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 ・介護老人保健施設実習にふさわしい身だしなみ、マナーを身につけ、健康状態を整えたうえで実習に臨むこと。 ・介護老人保健施設実習の学びを深めるために、実習前に学内で行われるガイダンスや事前演習に必ず参加し、事前課題に取り組むこと。 ・各回、予習復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 施設実習に臨む前に、「実習ガイダンス資料」「コミュニティ看護実習Ⅰ実習要項」を熟読する。 2. 実習前に学内で行われるガイダンスや事前演習に必ず出席する。事前演習では、事前課題を課す。 3. 実習初日は、実習施設ごとのオリエンテーションを受け、高齢者体験を実施する。 4. 介護老人保健施設において実習を行い、高齢者の生活について理解を深め、必要な看護を考える。 ・施設オリエンテーション ・入所部門や通所サービス部門の見学 ・高齢者への看護、リハビリテーション・レクリエーション場面の見学 ・高齢者とコミュニケーションをとる 5. 施設実習中は毎日デイリーカンファレンスを行い、実習で感じたこと、気づいたこと、疑問などをディスカッションし、メンバーと共に学びを深める。 6. 施設実習最終日には、合同カンファレンスを行い、3日間の実習から得た学びを報告する。 7. 実習最終日は、学内でカンファレンスを行い、高齢者の生活を支える看護と自らの課題について考えを深める。				
〔 成績評価方法 〕 実習の目標に関する到達度(80%)、レポート・記録物の提出(20%)を総合的に評価する。 学生との個別面接時に助言する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200320 [NB1-007]

科目名	コミュニティ看護実習Ⅰ	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ、小路 浩子、坂口 めぐみ、三苫 美和、笹谷 真由美、中岡 亜希子、西原 詩子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／（人が病むことへの関心と理解）生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。				
成績評価方法: 目標到達度、レポート・記録物				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢				
成績評価方法: 目標到達度、レポート・記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢				
成績評価方法: 目標到達度、レポート・記録物				
[教科書（ISBN）]				
別途実習要項とプリント配布。				
[参考書（ISBN）]				
「ナースンググラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害」第5版 著者名:堀内ふき、大淵律子、諏訪さゆり 出版社:メディカ出版（978-4-8404-5379-0）				

P11200320 [NB1-007]

科目名	コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）	後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	藤田 冬子、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、長野 弥生			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 老年期にある患者の加齢に伴う変化、疾病について理解し、高齢者の全体像を理解することができる。 2. 老年期にある患者の療養の場、治療・ケアが与える影響について理解し、その場で実践される老年看護についての考え方を学ぶことができる。 3. 高齢者と家族、高齢者をとりまく多職種の関わり、医療・介護制度について学びを深めることができる。 4. 主体的に学び、受け持ち患者に関わる責任を自覚し、真摯に取り組むことができる。				
〔 授業概要 〕 施設（病院等）において治療を受ける老年期の患者を受け持ち、発達段階、加齢による身体機能への影響、健康障害、生活障害および心理・社会的側面で受けている影響を理解する。また、高齢者がケアを受ける中でもつ健康上の課題をアセスメントする能力を養う。また老いに直面する高齢者の意思を尊重し、高齢者の全体像を理解する。これらをふまえた情報およびアセスメントをもとに必要な看護の方向性を明らかにする。さらに、1年次の「コミュニティ看護実習Ⅰ」で学んだことを基に、地域、介護施設に住む高齢者と比較、福祉施設で実施している看護・介護ケアと医療施設での看護ケアの相違点、保険制度の違いによる医療、福祉に関わる体制、サービス等の違いについて、基本的な内容を理解する。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 既習の関連科目の復習しておくこと。特に、老人看護論、治療看護論、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅰ、コミュニティケアシステム論、コミュニティヘルスケア技術演習Ⅰ・Ⅱなどの科目について必ず復習をしておくこと。 高齢者の主な疾患と看護に関する事前課題に取り組むこと。				
〔 授業計画 〕 施設（病院等）にて、以下のとおり2週間の実習を行う。 1. 実習オリエンテーションに出席し、事前課題にて高齢者の特徴、高齢者ケアの理解を深める。 2. 原則として、1～2名の高齢患者を受け持ち、個別性を尊重した情報収集・アセスメント等をおこない、実習記録を活用しながら、高齢者の状況をアセスメントし、全体像を捉える。 3. 受け持ち患者と援助的関係を築く 4. 日常的な生活援助を見学・実施するにあたり患者に説明し同意を得て、指導のもとで実施する 5. 実習に必要な事前課題および実習内容は一定の様式の実習記録に記載する 6. 日々のカンファレンスにおいて、情報や学びを共有し、学習上の問題解決を図る 7. 中間カンファレンスと最終カンファレンスにおいて、実習で得た具体的な学びと健康障害を持つ高齢者および高齢者へのケアの特徴について考察する				
〔 成績評価方法 〕 1. 事前課題・レポート（30%） 2. 実習内容（高齢者の理解、アセスメント、実習記録、コミュニケーション、カンファレンス、積極性、体調管理、連絡、報告、課題提出期限の厳守など）（70%） 事前課題、実習記録に対するフィードバックは、実習開始後に個別に行います。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200330 [NB2-007]

科目名	コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）	後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	藤田 冬子、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、長野 弥生			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／（プロフェッショナリズム）生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート課題、実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／（科学的根拠に基づいた課題対応能力）人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:事前課題、実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／（人が病むことへの関心と理解）生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:レポート課題、実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／（人間性の涵養）多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート課題、事前課題、実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／（看護の表現力）自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／（倫理の実践と道徳的態度）看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／（社会参加）社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／（協働・協力）保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:実習記録				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:事前課題、レポート課題、実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習記録、レポート課題				
[教科書（ISBN）]				
パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護<第2版> 著者名:正木治恵 出版社:照林社（978-4-7965-2409-4） 生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版 著者名:山田律子 他 出版社:医学書院（978-4-260-02836-3）				
[参考書（ISBN）]				
緊急度・重症度からみた 症状別看護過程+病態関連図 著者名:山田律子 他 出版社:医学書院（978-4-260-02071-8） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 著者名:秋葉公子、江崎フサ子、玉木ミヨ子、村中陽子 出版社:ヌーヴェルヒロカワ（978-4-86174-056-5）				

P11200330 [NB2-007]

科目名	コミュニティケアシステム論	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	記村 聡子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.コミュニティケアとは何かを理解できる 2.個人・家族と地域という重層的な関係と支援方法について理解できる 3.対象に応じたコミュニティケアの構築と展開について理解できる				
〔 授業概要 〕 コミュニティで暮らす人々が抱える健康問題や、それらを地域住民が社会全体で支え合い問題解決していけるための方法、保健・医療・福祉に関する基本的概念、看護が担うべき役割や機能について学ぶ。また、住民主体・住民参加について理解するとともに、協働活動を推進する支援方法を理解する。さらに、社会システムやその活用、環境調整及び連携、住民・多職種等と協働するためのコミュニケーションも学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 関連する科目の復習をして、授業に積極的に取り組むこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度				
〔 授業計画 〕 1.(11/2)コースオリエンテーション 人々の生活と健康及び健康問題を支えるために、コミュニティで暮らす人々を総合的に理解できる考え方、保健・医療・福祉に関する基本的概念、コミュニティ及びコミュニティケアの概念・定義を学ぶ 2.(11/9)コミュニティケアの基礎:コミュニケーションを学ぶ 3.(11/16)健康障害を持つ人々あるいは健康障害を予防するために、人々の望む暮らしをふまえ、コミュニティで暮らす人々を社会全体で支援するために保健・医療・福祉の計画の企画及び評価、関係する職種の役割、コミュニティケアシステム、必要な看護の役割やケアの考え方を学ぶ 4.(11/23)慢性疾患を持つ人々及びその家族に対して、地域を基盤として展開するケアマネジメント及びコミュニティケアシステムを学ぶ 5.(11/30)日本のコミュニティケアの現状と課題、コミュニティケアにおける住民および多職種との連携を学ぶ 6.(12/7)精神障がい者及びその家族、妊産婦及びその家族、小児及びその家族に対して、地域を基盤として展開するケアマネジメント及びコミュニティケアシステムを学ぶ 7.(12/14)高齢者及びその家族に対して、地域を基盤として展開するケアマネジメント及びコミュニティケアシステムを学ぶ 8.(12/21)コミュニティ・エンパワーメントを理解する コミュニティケアシステムの構築及びコミュニティケアにおける看護の役割について学ぶ				
〔 成績評価方法 〕 課題レポート(60%)、授業後の課題・参加状況(40%) レポートは後日添削して返却します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	コミュニティケアシステム論	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	記村 聡子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 「ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障(1):健康と社会・生活 第4版」 著者名:平野 かよ子 編集 出版社:メディカ出版 (ISBN13:978-4840449120) 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論:地域療養を支えるケア(1) 第6版」 著者名:臺 有桂 編集 出版社:メディカ出版 (ISBN-13:978-4840465205)				
[参考書 (ISBN)] 適宜指示する				

P11200350 [NB2-008]

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	中岡 亜希子、坂口 めぐみ、三苫 美和、笹谷 真由美、西原 詩子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1. 基本的な看護技術の原理・原則を理解することができる。 2. 患者と看護者の安全・安楽・自立を考えた上で、看護技術を実践することができる。 3. 患者・看護師体験を通じて、看護職として必要な基本的な態度を身につけることができる。 4. 基本的な看護技術の提供に必要な環境、道具、人について学ぶことができる。 〔 授業概要 〕 医療施設、在宅の場で病にある人への生活援助に必要な基本的知識を使い、援助を実践していく過程を学習する。看護者側だけでなく、療養者の立場で援助を受ける体験をし、援助を受ける意味を考え、振り返り、評価することを行う。基本的看護技術のうち、病床環境を整えること、基本的活動対象とのコミュニケーション、バイタルサインの測定に関する知識、技術を身につける。 教員は全員が看護師免許を有し、病院や在宅、保健所等で、看護師または保健師などの看護専門職として勤務していた経験を生かして、看護技術の指導を行う。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習復習と合わせて2時間程度が必要です。 演習時は、「身だしなみチェックリスト」の基準に沿ったヘアスタイル、服装等で授業に参加する。時間内で有効に演習ができるよう、必要な知識や手順は理解した上で授業に臨む。授業中の疑問点を解決できるよう、事後学習を行う。 〔 授業計画 〕 1. 日常生活を行う上での看護の機能と役割(4/10(金)Ⅰ限F304) 2. 演習室のオリエンテーション・衛生的手洗い(4/17(金)Ⅰ限F417.419) 3. ベッドメーカー・リネン交換(4/17(金)Ⅱ限F417.419) 4. 対象の身体を観察すること(バイタルサイン)(4/24(金)Ⅰ限F304) 5. 基本的活動の援助(姿勢・ボディメカニクス・休息)(4/24(金)Ⅱ限F304) 6. バイタルサインの測定①(5/8(金)Ⅰ限F417.419) 7. バイタルサインの測定②(5/8(金)Ⅱ限F417.419) 8. 体位変換①(5/29(金)Ⅰ限F417.419) 9. 体位変換②(5/29(金)Ⅱ限F417.419) 10. 患者の移動・移送①(6/5(金)Ⅰ限F417.419) 11. 患者の移動・移送②(6/5(金)Ⅱ限F417.419) 12. スタンダードプリコーション(6/19(金)Ⅱ限F417.419) 13. 臥床患者のシーツ交換①(6/26(金)Ⅰ限F417.419) 14. 臥床患者のシーツ交換②(6/26(金)Ⅱ限F417.419) <技術試験>(7/3(金)Ⅱ限) 15. 総合技術トレーニング(7/10(金)Ⅰ限F417.419) <記述試験>(7/17(金)Ⅱ限F304) 〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み(20%)、課題レポート(20%)、試験(60%) (* 試験には、技術試験と記述試験が含まれます。) 課題レポートは確認後返却します。試験については後日、総合的に講評します。 決められた身だしなみで演習に臨まない場合は、出席とみなさない場合があります。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	中岡 亜希子、坂口 めぐみ、三苫 美和、笹谷 真由美、西原 詩子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:授業への取り組み、事後課題、技術試験、記述試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:授業への取り組み、事後課題、技術試験、記述試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、技術試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、事後課題、技術試験、記述試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み、事後課題、技術試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み、事後課題、技術試験、記述試験				
[教科書(ISBN)] 「≪系統看護学講座 専門分野Ⅰ≫基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(第16版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-01999-6) 「≪系統看護学講座 専門分野Ⅰ≫基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(第17版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1) 「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9) 「看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4) 「フィジカルアセスメントがみえる」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32566-9)				
[参考書(ISBN)] 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 著者名:編集:任和子 秋山智弥、編集協力:京都大学医学部附属病院看護部 出版社:医学書院 (978-4-260-01928-6) 「新版 生活健康科学」 著者名:小田切陽一・飯島純夫・小山勝弘・石原逸子共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3) 適宜指示、および適宜プリントを配布する				

P11200300 [NB1-006]

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	記村 聡子、坂口 めぐみ、三苫 美和、笹谷 真由美、西原 詩子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 療養者の生活上に必要な健康上の課題に関する知識と技術を習得する。 2. 事例設定において必要な知識・援助を考えながら援助のプロセスを考えることができる。 3. 対象者の生活行動への援助を対象者の状態と場面に合わせて実践できる。				
〔 授業概要 〕 何らかの要因により、健康レベルの低下によってもたらされる療養者の生活上の健康課題に対し、対象者の状況に応じた援助を行うことができるように、必要な知識と援助方法を学習する。人の身体観察方法を身につけ、フィジカルアセスメントを病室の環境を設定したスペースだけでなく、在宅や施設などでの生活の場を設定したスペースで実践し、それぞれの対象者の生活場面への援助技術に応用していく。成人期・老年期にある患者の援助に必要な知識と方法をもとに、具体的にその人に見合った援助方法を検討し、実践する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 演習ができるようなヘアスタイル、服装、シューズ、身だしなみを整えたうえで演習に参加する。時間内で有効に演習ができるように技術について学習したうえで授業に参加すること。 各回、予習復習合わせて2時間程度				
〔 授業計画 〕 1.(9/18(金)3限)【講義】対象者に合わせた生活場面の援助を行うことの機能と枠組み:ADLとQOL、生活援助の対象となる患者とその家族への説明(笹谷・西原) 2.(9/18(金)4限)【講義】生活の援助を行うことの社会的・文化的な意味生活に関する習慣・こだわり、について考える 3.(9/21(月)3限)【演習】排尿・排便困難時の援助①:排泄を援助するために使用する道具、便器・尿器を使った排泄援助、浣腸、摘便(西原) 4.(9/21(月)4限)【演習】排尿・排便困難時の援助②:オムツ交換、対象者に合わせた紙オムツの選択(西原) 5.(9/21(月)5限)【演習・講義】排泄におけるグループワーク②:患者の生活背景、疾患、障害、加齢のレベルに応じた排泄援助とは(西原) 6.(9/25(金)3限)【講義】食ることへの意味と看護支援:食ることの意義と看護の視点、食べる機能と嚥下反射、食欲の仕組み(笹谷) 7.(9/25(金)4限)【講義】経管栄養・流動食:摂食・嚥下機能とその破綻、摂食・嚥下のしくみと機能障害、摂食・嚥下過程の進行 8.(9/28(月)3限)【演習】食生活支援・食事介助①:食べる姿勢と食べやすさ、ベッド傾斜角度と食べやすさ(笹谷) 9.(9/28(月)4限)【演習】食生活支援・食事介助②:食べるにかかわる援助の基本(笹谷) 10.(10/2(金)3限)【演習】経管栄養・流動食①:摂食・嚥下機能とその破綻、摂食・嚥下のしくみと機能障害、摂食・嚥下過程の進行 11.(10/2(金)4限)【演習】経管栄養・流動食②:PEGの管理、経管栄養法の技術 12.(10/5(月)3限)【講義】気道クリアランスについて 13.(10/5(月)4限)【演習】吸引・気管切開にある人の援助①:排痰ケア、吸引、吸入(気道内加湿法) 14.(10/5(月)5限)【演習】吸引・気管切開にある人の援助②:気管切開部の保護と手当て 15.(10/9(金)3限)【グループワーク】食ることへの支援①:(笹谷) 16.(10/9(金)4限)【グループワーク】食ることへの支援②:(笹谷) 17.(10/12(月)3限)【講義】関節可動域訓練・廃用性症候群予防②:関節拘縮を予防する訓練、リハビリテーションへの看護(笹谷) 18.(10/12(月)4限)【演習】身体の可動性を維持し硬縮を予防するための看護:筋緊張の評価、異常筋緊張に対する看護援助(笹谷) 19.(10/12(月)5限)【演習】関節可動域訓練・廃用性症候群予防①:人間が「寝たきり」になるとどうなるのか、関節のメカニクス、関節可動域評価(笹谷) 20.(10/16(金)3限)【演習】麻痺などの障害のある人の体位変換・点滴ラインのある人の寝衣交換①:運動麻痺の種類と症状、身体観察(笹谷) 21.(10/16(金)4限)【演習】麻痺などの障害のある人の体位変換・点滴ラインのある人の寝衣交換②:運動麻痺のある人の生活援助、寝衣交換における実践(笹谷) 22.(10/19(月)3限)【講義】皮膚を保護し、統合性を維持するための看護:感覚受容器を備えた皮膚、老化による皮膚機能の変化、栄養状態と皮膚 23.(10/19(月)4限)【演習】褥瘡への対処と予防①:褥瘡のできやすい部分とその保護 24.(10/19(月)5限)【演習】褥瘡への対処と予防②:体圧測定とエアーマットの使用 25.(10/23(金)3限)【演習】医療安全・転倒①:安全確保の技術、転倒・転落予防(笹谷) 26.(10/23(金)4限)【演習】医療安全・転倒②:侵襲的処置の介助、ドレーン・チューブの自己抜去(笹谷) 27.(10/26(月)3限)【グループワーク】事例に基づいた知識・技術を統合した援助の実践①:老年期にある人のケーススタディ・リスクカンファレンス①:(笹谷) 28.(10/26(月)4限)【グループワーク】事例に基づいた知識・技術を統合した援助の実践①:老年期にある人のケーススタディ・リスクカンファレンス②:(笹谷) 29.(10/30(金)3限)【グループワーク】事例に基づいた知識・技術を統合した援助の実践②:在宅で疾患をかかえながら生活している人のケーススタディ・リスクカンファレンス 30.(10/30(金)4限)【グループワーク】事例に基づいた知識・技術を統合した援助の実践②:在宅で疾患をかかえながら生活している人のケーススタディ・リスクカンファレンス 31.(11/2(月)3限)試験				
※演習はF417・419 演習室、グループワークは指定教室で行う				
〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み(30%)、課題レポート(20%)、試験(50%) レポートは後日添削して返却します。 試験を回収後、回答の解説を行います。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200310 [NB2-006]

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	後期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	記村 聡子、坂口 めぐみ、三苫 美和、笹谷 真由美、西原 詩子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験、レポート				
[教科書 (ISBN)]				
「<<系統看護学講座 専門分野Ⅰ>>基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(第16版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-01999-6)				
「<<系統看護学講座 専門分野Ⅰ>>基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(第17版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1)				
「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9)				
「看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4)				
「生活機能からみた 老年看護過程」 著者名:山田律子(編集) 出版社:医学書院 (978-4-260-02836-3)				
[参考書 (ISBN)]				
「フィジカルアセスメントがみえる」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-89632-556-9)				
パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護<第2版> 著者名:正木治恵(編集) 出版社:照林社 (978-4-7965-2409-4)				
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 著者名:編集:任和子 秋山智弥、編集協力:京都大学医学部附属病院看護部 出版社:医学書院 (978-4-260-01928-6)				

P11200310 [NB2-006]

科目名	災害看護	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ、元木 絵美、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、田村 康子、横内 光子、洪 愛子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 災害時要援護者の看護の特徴や災害サイクルに応じた看護を学ぶとともに、災害への備えや災害と情報について学ぶことで、人々の生命と生活を守る災害看護の基礎的知識と技術を理解する。また、健康危機管理における保健所の役割を理解する。				
[授業概要] 看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。 健康危機発生時の未然防止、健康危機発生時に備えた準備、健康危機への対応、健康危機による被害の回復の4つ側面を踏まえた上で、災害の定義と分類、災害時の社会制度を理解し、災害時要援護者である高齢者、障害者、妊娠褥婦、子どもや慢性疾患患者等に対する看護の特徴と、災害サイクルに応じた活動現場別の看護について学ぶ。また、災害被災者や救護者のこころと身体に及ぼす影響を理解し、その支援方法について学ぶ。さらに、災害と情報について理解し、情報の利点を減災に活かす重要性について学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日頃から、災害や災害医療に関連する報道に関心を持ち、被災者や被災地の医療者、ボランティア活動を行った医療者の声から災害時における医療や看護に求められているものを模索しておいて欲しい。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. 災害の定義や分類、災害に関わる各種社会制度を学ぶ。災害看護の歴史の変遷や世界の災害と看護について理解する。(洪愛子)4/6(月)Ⅴ限, F210 2. 健康危機管理の定義や保健所の役割、健康危機管理の4つの側面について理解する。(魚里明子)4/8(水)Ⅰ限, F304 3.災害フェーズごとの保健医療活動、挫滅症候群や津波肺など災害時特有の疾病と治療の概要、ならびにトリアージなど災害直後の被災者への医療と看護について理解する。(横内光子)4/8(水)Ⅱ限, F304 4. 避難所や仮設住宅における高齢者や慢性疾患患者の心身の状態把握や、看護ケアについて理解する。(元木絵美)4/13(月)Ⅴ限, F210 5. 災害時の女性、妊娠褥婦や胎児・乳幼児にみられた反応を学び、ジェンダーの視点と対象者の特性を考慮にいられた看護ケアについて理解する。(田村康子)4/15(水)Ⅰ限, F301 6. 成長発達の途上である子どもが被災したことへの理解深め、中・長期的な看護ケアの必要性について学ぶ。(内正子)4/15(水)Ⅱ限, F304 7. 心的外傷とストレス反応について学び、被災者と救護者への精神的な看護ケアを理解する。精神障害者に対する援助の要点を学ぶ。(玉木敦子)4/20(月)Ⅴ限, F210 8. 防災計画や災害への備えの具体策を知り、災害の情報伝達体制や災害時の通信手段など災害と情報に関する最近の動向を学ぶ。海外における災害関係機関の支援体制について学ぶ。まとめ。(東ますみ)4/22(水)Ⅰ限, F210 9. 試験 4/22(水)Ⅱ限, F210				
[成績評価方法] 試験(80%)、授業態度(20%) 試験回収後、回答の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200410 [NB4-003]

科目名	災害看護	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ、元木 絵美、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、田村 康子、横内 光子、洪 愛子			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。
成績評価方法:試験

学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。
成績評価方法:試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:試験

[教科書 (ISBN)]
「災害看護 看護の専門知識を統合して実践につなげる」 著者名:酒井明子・菊池志津子編集 出版社:南江堂 (978-4-524-25569-6)
適宜プリントを配布する。

[参考書 (ISBN)]
「ナース発 東日本大震災レポート」 著者名:日本看護協会出版会編集部編 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1611-8)
「大槌町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興」 著者名:村嶋幸代・鈴木るり子・岡本玲子編集 出版社:明石書店 (978-4-7503-3556-8)
必要に応じて適宜紹介する。

P11200410 [NB4-003]

科目名	在宅看護論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	小坂 素子、魚里 明子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.在宅看護における社会背景及び在宅看護の意義が理解できる。 2.在宅で療養する人々と介護する家族の生活について理解できる。 3.在宅ケアをとりまく在宅医療システムのネットワークと機能を理解する。 4.在宅看護の対象と支える制度及び医療福祉機器について理解する。 5.看護の継続性、在宅ケアマネジメントについて理解できる。 〔 授業概要 〕 本授業では、健康上の課題をもちながら在宅で療養する人々とその家族が望む生活、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)を向上するために必要な看護について学ぶ。具体的には、在宅看護の歴史の変遷、国内の動向を踏まえ、在宅看護の必要となった社会的背景を理解した上で、在宅看護に必要な知識を以下の内容を中心に学習する。 1.在宅看護の対象とその場の特徴(家族を含む) 2.日本の在宅看護に関連する制度やシステムを体系的に学ぶ 3.在宅看護における看護師の役割と多職種との連携・協働 4.在宅看護を取り巻く倫理的課題について学ぶ。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 政治や地域の社会的問題、在宅医療の必要な療養者の生活などの新聞ニュースを、自ら積極的に取り込んで、主体的に学習すること。 各回、予習復習合わせて4時間程度 〔 授業計画 〕 1.(4/7(火)3限)在宅看護の目指すもの、在宅看護の役割と機能を学ぶ(小坂) 2.(4/7(火)4限)在宅看護の対象者を学ぶ(小坂) 3.(4/14(火)3限)在宅療養の支援:療養場の移行と看護の提供方法(小坂) 4.(4/14(火)4限)在宅看護の歴史や在宅看護に関連する諸制度の変遷を学ぶ(小坂) 5.(4/21(火)3限)訪問看護サービスの種類や法的根拠を踏まえ、訪問看護の主な活動を学び、訪問看護師の責任について学ぶ(小坂) 6.(4/21(火)4限)在宅看護の現状や社会の動向を踏まえ、在宅看護(訪問看護)が抱える課題について考える(小坂) 7.(4/28(火)3限)地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、連携の必要性と連携方法について学ぶ(小坂) 8.(5/12(火)3限)ケアマネジメントの定義、在宅ケアシステム、ケアマネジメントの構成要素、社会資源について、ケアマネジメントの展開過程について学ぶ(小坂) 9.(5/19(火)3限)在宅看護の展開(小坂) 10.(5/26(火)3限)事例にみる在宅看護:特定疾患(小坂) 11.(6/2(火)3限)事例にみる在宅看護:慢性疾患(魚里) 12.(6/2(火)4限)在宅における看護活動の現状と看護師の役割(学外特別講師) 13.(6/9(火)3限)事例にみる在宅看護:医療依存度の高い療養者(小坂) 14.(6/9(火)4限)地域包括支援センター業務の実際と看護職の役割(学外特別講師) 15.(6/16(火)3限)事例にみる在宅看護:認知症(小坂) 16.(6/23(火)3限)試験(小坂) 〔 成績評価方法 〕 試験(70%)、レポート・課題(30%)により総合的に評価する。 レポートは後日添削して返却します。 試験を回収後、回答の解説を行います。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200290 [NB3-004]

科目名	在宅看護論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	小坂 素子、魚里 明子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 在宅看護論 著者名:河原 加代子ほか 出版社:医学書院 (ISBN978-4-260-02762-5)				
[参考書 (ISBN)] 適宜教員が必要時提示する				

P11200290 [NB3-004]

科目名	実践看護論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	中岡 亜希子、小林 麻衣			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 重要な看護理論を学び、看護理論の実践への活用について理解する。				
2. 看護の本質について、深く考える。				
[授業概要]				
看護学を構成している概念(人間・健康・環境(状況)・看護実践)と看護理論の構造から看護学の特徴について学び、実践に役立つ看護理論をわかりやすく解説する。ドロセア・オレムのセルフケア不足看護理論を中心に看護実践への適用のために開発された看護理論の基礎的な考えや実践を展開するための考え方を学ぶ。その上で、実際の臨床事例をもとに、実践においてどのように看護が展開されるのか、看護過程について学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
各回、予習復習と合わせて4時間程度が必要です。				
1.一年次のテキスト「看護学概論」、ナイチンゲール「看護覚え書」、バージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読み返し、看護の構成概念について復習する。				
2.テキスト:「セルフケア不足看護理論へのアプローチ」をよく読んで事前課題を実施する。				
[授業計画]				
1. 看護学の構成概念と看護理論の概観(中岡)4/8				
2. ヘンダーソンから人間の基本的欲求と看護について学ぶ(中岡) 4/15				
3. オレムのセルフケア不足看護理論から人間の持つ能力を知る(中岡)4/22				
4. オレムのセルフケア不足看護理論におけるセルフケアについて理解する(中岡)4/29				
5. 治療的セルフケア・デマンドとセルフケア・エージェンシーについて理解する(中岡) 5/13				
6. 看護エージェンシーと看護システムについて理解する(中岡) 5/20				
7. 臨床看護事例から看護の展開を学ぶ(1)(小林) 6/3				
8. 臨床看護事例から看護の展開を学ぶ(2)(中岡)6/10				
[成績評価方法]				
最終課題レポート(40%)グループワーク参加度(20%)事後レポート課題(40%)				
課題レポートは、確認後返却する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	実践看護論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	中岡 亜希子、小林 麻衣			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。				
成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢				
成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力				
成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力				
成績評価方法:レポート				
[教科書 (ISBN)]				
「オレム看護論入門 セルフケア不足看護理論へのアプローチ」 著者名:コニー・M・デニス(小野寺杜紀監訳) 出版社:医学書院 (978-4-260-34388-6)				
[参考書 (ISBN)]				
別途提示する				

P11200260 [NB2-004]

科目名	疾病と治療Ⅰ	前期	講義	1 単位
サブタイトル	老年学			
担当者	安田 尚史			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 超高齢社会を迎えたわが国の現状を把握し高齢者に対する医療の重要性を理解する。				
[授業概要] 超高齢社会を迎えたわが国の現状を把握し高齢者に対する医療の重要性を理解することを達成目標として、高齢者および高齢者に特徴的な症候や疾病およびその病態などについて概説することで十分な理解に努める。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 前回の授業内容を復習して理解して、次回の授業の予習をしておくこと。教科書の学習とともに、わが国の現状を踏まえた関連分野のニュース等に日頃から関心を持ち、積極的な自己学習を期待する。				
[授業計画] 1. 超高齢社会と高齢者の特徴(4/9) 2. 老年症候群とCGA(5/28) 3. 各論:循環器疾患(6/11) 4. 各論:脳血管障害と呼吸器疾患(6/18) 5. 各論:メタボリック症候群(6/25) 6. 各論:糖尿病・代謝疾患(7/2) 7. 各論:骨・運動器疾患(7/9) 8. 各論:消化器疾患(7/16) 予備日:7/30 試験日:8/6				
[成績評価方法] 成績評価は試験の成績が主(80%)となるが、授業への取り組む姿勢(20%)も考慮して行う。 試験の答案を回収後、manabaにて解答例を提示する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200470 [NB2-009]

科目名	疾病と治療 I	前期	講義	1 単位
サブタイトル	老年学			
担当者	安田 尚史			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。

成績評価方法:試験、授業への取り組む姿勢

学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。

成績評価方法:試験、授業への取り組む姿勢

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:試験、授業への取り組む姿勢

[教科書 (ISBN)]

老年医学 系統講義テキスト 著者名:日本老年医学会 出版社:西村書店

老年医学テキスト 改訂第3版 著者名:日本老年医学会

[参考書 (ISBN)]

プリント配布等。

科目名	疾病と治療Ⅱ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	外科学			
担当者	佐古 辰夫、高橋 玲比古、眞庭 謙昌、田中 優子、吉田 泰久、水野 敏行			
〔 実務経験のある教員による授業 〕				
〔 到達目標 〕 手術や治療というストレスが生体に与える影響、その回復過程を知り、24時間患者と接する看護師としてその知識を生かし看護ケアに生かすことを到達目標とする。				
〔 授業概要 〕 疾患に対する手術的治療が対象となる外科的疾患について学ぶ。外科的疾患とは脳神経外科、胸部外科、消化器外科、整形外科など多岐にわたる。外科学ぶことで看護に必要な外科学的知識を修得できることを目的とする。 外科的疾患全般に関わる病態・臨床動態を学び、各種疾患の原因、症状、治療について基礎と実際の臨床現場の実践方法を学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 「人体のしくみ機能Ⅰ」「人体のしくみと機能Ⅱ」を既習したものとして講義を進めるため、復習をしたうえで臨むこと。				
〔 授業計画 〕 1. 外科総論(佐古辰夫)4月9日(木)4限 手術侵襲と生体の反応、炎症 2. 腫瘍、外傷とショック、麻酔法(佐古辰夫)4月10日(金)1限 3. 心臓疾患、血管疾患(1)(高橋玲比古)4月20日(月)1限 心臓の構造と機能、心臓の疾患 4. 整形外科疾患(1)(水野敏行)4月24日(金)1限 骨の構造と病態生理、関節の構造と病態生理 5. 心臓疾患、血管疾患(2)(高橋玲比古)4月27日(月)1限 心臓の構造と機能、血管の疾患 6. 整形外科疾患(2)(水野敏行)5月1日(金)1限 運動器疾患への治療と処置 7. 消化器疾患(1)(佐古辰夫)5月8日(金)1限 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患 8. 心臓疾患、血管疾患(3)(高橋玲比古)5月11日(月)1限 先天性心疾患、小児の外科 9. 消化器疾患(2)(佐古辰夫)5月15日(金)1限 腸・腹膜の疾患 10. 呼吸器疾患、胸壁疾患(眞庭謙昌)5月19日(火)5限 肺構造と働き、気胸およびその治療、肺がんおよびその治療 11. 消化器疾患(3)(佐古辰夫)5月22日(金)1限 肝臓および肝外胆道系の疾患、膵臓の疾患、門脈の疾患、副腎の疾患 12. 脳神経外科疾患(1)(吉田泰久)5月26日(火)5限 脳の疾患 13. 乳腺疾患、内分泌疾患(田中優子)5月28日(木)4限 乳腺の疾患、甲状腺の疾患・副腎の疾患 14. 脳神経外科疾患(2)(吉田泰久)6月2日(火)5限 脊髄の疾患 15. 脳神経外科疾患(3)(吉田泰久)6月9日(火)5限 末梢神経の疾患、脳神経疾患の看護観察 ・試験 6月19日(金)1限予定 ・再テスト 6月26日(金)1限予定				
〔 成績評価方法 〕 授業態度10%、試験90%				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200480 [NB2-010]

科目名	疾病と治療Ⅱ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	外科学			
担当者	佐古 辰夫、高橋 玲比古、眞庭 謙昌、田中 優子、吉田 泰久、水野 敏行			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)]				
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(第11版) 著者名:北島政樹、江川幸二編集 出版社:医学書院 (978-4-260-02769-4)				
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(第9版) 著者名:矢永勝彦、小路美喜子編集 出版社:医学書院 (978-4-260-02765-6)				
整形外科疾患ビジュアルブック 第2版 著者名:落合慈之ら著 出版社:学研メディカル秀潤者 (978-4-780-912388)				
カラーで学べる病理学 (第5版) 著者名:渡辺照男編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-062-6)				
[参考書(ISBN)]				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 第15版』 著者名:南川雅子ら著 出版社:医学書院 (978-4-260-03562-0)				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器 第15版』 著者名:吉田俊子ら著 出版社:医学書院 (978-4-260-03557-6)				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 第15版』 著者名:井出隆文ら著 出版社:医学書院 (978-4-260-0356-3)				

P11200480 [NB2-010]

科目名	疾病と治療Ⅲ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	内科学			
担当者	加治 秀介			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 正常な心身の状態からの逸脱やその原因を理解し、ケアの実践につなぐために、正確な臨床内科学の知識を身につけることができる。 [授業概要] 内科の代表的な疾患について、病態、臨床症状、検査所見、治療、ケアの方法について系統的に講義し、罹患している患者の理解、把握につなげる。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 既習の「人体のしくみと機能Ⅰ、Ⅱ」[栄養代謝学]を復習し、各講義範囲の前提となる基礎的知識を整理したうえで受講する。受講後は疑問点があれば自己学習、質問等でその都度解決しておく。予復習は合わせて4時間程度 [授業計画] 1. 呼吸器疾患 (1) 4/8(1限) 1) 呼吸器感染症 2) アレルギー・免疫疾患 3) 慢性閉塞性肺疾患 (教科書1 pp.2-48) 2. 呼吸器疾患 (2) 4/15(1限) 4) 間質性肺疾患 5)気道系疾患 6) 肺腫瘍 7) 肺循環疾患 8) 換気異常 9) 呼吸不全 10) 胸膜疾患 11) 縦隔疾患 (教科書1 pp.49-70) 3. 循環器疾患 (1) 4/22(1限) 1) 心不全 2) 不整脈(教科書1 pp.72-109) 4. 循環器疾患 (2) 5/13(1限) 3) 虚血性心疾患 4) 心筋疾患 5) 高血圧症 6) 動脈疾患 7) 静脈疾患(教科書1 pp.109-150) 小テスト1)(1～4)＋課題レポート1) 5. 消化器疾患 (1) 5/20(1限) 1) 食道の疾患 2) 胃・十二指腸疾患 3) 腸(小腸、大腸)の疾患 4) 肛門の疾患(教科書1 pp.151-210) 6. 消化器疾患 (2) 5/27(1限) 1) 肝臓疾患 2) 胆道疾患 3) 脾疾患(教科書1 pp.212-267) 7. 代謝／栄養疾患 6/3(1限) 1) 糖尿病 2) 脂質異常症 3) 骨粗鬆症(教科書1 pp.272-307) 8. 内分泌疾患 6/10(1限) 1) 視床下部・下垂体疾患 2) 甲状腺疾患 3) 副甲状腺疾患 4) 副腎疾患(教科書1 pp.310-346)小テスト 2)(5～8)＋課題レポート 2) 9. 腎／泌尿器疾患 (1) 6/17(1限) 1) 慢性腎臓病 2) 糸球体腎炎 (教科書1 pp.349-387) 10. 腎／泌尿器疾患 (2) 6/24(1限) 3) 続発性腎疾患 4) 腎泌尿器感染症 5) 泌尿器科疾患 6) 腎不全(教科書1 pp.387-416) 11. 脳／神経系疾患 (1) 7/1(1限) 1) 脳血管障害 2) 神経変性疾患 (教科書1 pp.417-465) 12. 脳／神経系疾患 (2) 7/3(1限) 1) 脱髄性疾患 2) 末梢神経疾患 3) 神経・筋接合部疾患 4) 筋疾患 5) 神経系の感染症 6) 機能性疾患 7) 脳腫瘍(教科書1 pp.466-484)小テスト3)(9～12)＋課題レポート3) 13. 血液疾患 7/8(1限) 1) 赤血球と白血球の疾患 2) 出血性疾患(教科書1 pp.485-527) 14. 免疫・アレルギー疾患 7/15(1限) 1) 膠原病 2) 全身性炎症性疾患 3) 膠原病関連疾患 4) アレルギー性疾患 (教科書1 pp.529-576) 15. 内科関連眼/耳鼻咽喉疾患 7/22(1限) 1) 緑内障・白内障 2) めまい・難聴 3) 鼻・副鼻 腔炎(教科書1 pp.690-72) 小テスト4)(13～15)＋課題レポート4) 16. 試験 7/31(1限) [成績評価方法] 授業参加姿勢 30%、試験 70% 課題レポートはコメントして返却 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200490 [NB2-011]

科目名	疾病と治療Ⅲ	前期	講義	2 単位
サブタイトル	内科学			
担当者	加治 秀介			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／（科学的根拠に基づいた課題対応能力）人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法：課題レポート、試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／（人が病むことへの関心と理解）生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法：課題レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法：試験、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法：試験、課題レポート				
[教科書（ISBN）] 看護のための臨床病態学 第4版 著者名:浅野嘉延 吉山直樹 編集 出版社:南山堂（978-4-525-50513-4）				
[参考書（ISBN）] カラーで学べる 病理学 第4版 著者名:渡辺照男 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ（978-4-86174-062-6）				

P11200490 [NB2-011]

科目名	疾病と治療Ⅳ	前期	講義	1 単位
サブタイトル	精神医学			
担当者	橋本 健志			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 精神医学領域の疾病について基本的知識を習得し、その成り立ちについて理解する。 2. 精神科領域の症候について、理解し説明できる。 3. 精神科領域の検査について、基本的知識を習得する。 4. 精神医学領域の疾病に対する治療について説明できる。 5. 精神科医学領域で用いる薬物の効果、副作用について説明できる。				
〔 授業概要 〕 精神医学史と精神医療の現状、精神科症候学、診断学・疾病分類、精神科面接法、精神科検査学、精神科治療学、ならびに共同体及び地域のメンタルヘルスに関する基礎的な知識を授業から習得する。代表的な精神疾患については、疫学、病因、症状、鑑別診断、経過、治療、予後を学び、将来の看護臨床に役立つレベルまで知識を深める。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回の授業について予習・復習を4時間程度行うこと。 学生は、教科書・参考書として提示された教本を読み、授業に積極的に参加し授業内容を深く理解できるよう準備する。				
〔 授業計画 〕 1. 精神医学総論、何を学ぶかー統合失調症を例に(4月6日, 4限) 2. 精神科面接法・検査学・治療学・精神科救急(4月13日, 4限) 3. 身体因性精神障害・薬物関連障害(4月13日, 5限) 4. 気分障害(4月20日, 4限) 5. 統合失調症(4月27日, 4限) 6. 神経症性障害・パーソナリティディソオーダー・心理的発達の障害(4月27日, 5限) 7. 日本の精神科医療史、精神保健福祉の現状と課題、精神障害リハビリテーション(5月11日, 4限) 8. まとめ(5月11日, 5限) 9. 試験(6月8日,4限)				
〔 成績評価方法 〕 試験(100%) 学生へのフィードバックは、試験採点后に採点結果の全体的なコメントを示すことによって行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	疾病と治療Ⅳ	前期	講義	1 単位
サブタイトル	精神医学			
担当者	橋本 健志			

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。

成績評価方法:試験

学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。

成績評価方法:試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:試験

[教科書 (ISBN)]

精神看護学＜1＞第5版 精神看護学概論／精神保健(新体系看護学全書) 著者名:岩崎弥生・渡邊博幸 編集
出版社:メヂカルフレンド社 (978-4-8392-3363-1)

精神看護学＜2＞第5版 精神障害をもつ人の看護(新体系看護学全書) 著者名:岩崎弥生・渡邊博幸 編集 出版
社:メヂカルフレンド社 (978-4-8392-3364-8)

[参考書 (ISBN)]

「看護のための精神医学 第2版」 著者名:中井久夫[ほか]著 出版社:医学書院 (978-4260333252)

「精神医学テキスト 改訂第4版」:精神障害の理解と治療のために 著者名:上島国利[ほか]編集 出版社:南江堂
(9784524259427)

「ICD-10精神および行動の障害 新訂版」2005 著者名:World Health Organization[編] 融道男ほか監訳 出版
社:医学書院 (9784260001335)

DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 著者名:原著:American Psychiatric Association 日本語版用語監修:日
本精神神経学会 監訳:高橋 三郎／大野 裕 出版社:医学書院 (9784260019071)

*なお、上記参考書に加えて、授業内容に関連した一般書、映画、DVD等を紹介する。

科目名	疾病と治療Ⅴ	後期	講義	1 単位
サブタイトル	産科学・婦人科学・周産期医学			
担当者	山崎 峰夫			
[実務経験のある教員による授業]				
○				
[到達目標]				
女性の性機能を司る臓器の器質的障害、各ライフステージ特有の生理機能の障害、あるいは妊娠分娩産褥に伴って生ずるさまざまな病態について概説し、それらに罹患した女性に対する看護実践に必要な知識を得ることを到達目標とする。				
[授業概要]				
次の内容について概説する。①妊娠・分娩・産褥の各過程における母体の生理機能の変化とそれらに伴う各種病態、②不妊や不育など妊孕能そのものの異常、③妊孕現象と密接に関連する女性生殖機能調節機構の異常や女性生殖器の器質的疾患、④女性のライフステージという概念と身体生理機能の変調との関連。臨床での実事例の画像等を用いて授業を行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
講義終了後、教科書の講義内容該当項目に関する復習・予習を4時間程度行い、理解を深めて下さい。講義内容について疑問点があれば、直接またはメールにて積極的に質問してください。				
[授業計画]				
1. 月経周期、無月経、排卵障害、月経の異常、不妊症、不育症(9/29 1限)				
2. 女性生殖器の炎症性疾患、子宮腺筋症、子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌(9/29 2限)				
3. 卵巣腫瘍、子宮内膜症、多嚢胞卵巣症候群、子宮位置異常(10/6 1限)				
4. 性感染症、更年期障害、先天異常、産科診断学(10/6 2限)				
5. 切迫流産・流産、子宮外妊娠、胎状奇胎、切迫早産・早産(10/20 1限)				
6. 前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群、多胎(10/20 2限)				
7. 胎児の異常、合併症妊娠、母子感染(10/27 1限)				
8. 難産、産科手術、産科出血、産褥期の異常(10/27 2限)				
9. 試験(11/10 2限)				
[成績評価方法]				
筆記試験(100%) 試験問題の返却にてフィードバックする。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200640 [NB2-019]

科目名	疾病と治療Ⅴ	後期	講義	1 単位
サブタイトル	産科学・婦人科学・周産期医学			
担当者	山崎 峰夫			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:筆記試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験				
[教科書 (ISBN)] 「病気がみえるvol.9婦人科・乳腺外科 第4版」平成30年3月発行 著者名:医療情報科学研究所 出版社:MEDIC MEDIA (978-4-89632-712-0) 「病気がみえるvol.10産科 第4版」平成30年10月発行 著者名:医療情報科学研究所 出版社:MEDIC MEDIA (978-4-89632-713-7) 毎回の講義で使用するパワーポイントファイル内容のプリントも配布します				
[参考書 (ISBN)] 「標準産科婦人科学 第4版」平成23年5月発行 著者名:岡井崇・綾部琢哉編 出版社:医学書院 (978-4-260-01127-3)				

P11200640 [NB2-019]

科目名	疾病と治療Ⅵ	後期	講義	1 単位
サブタイトル	小児学			
担当者	西尾 久英			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1. 小児の成長発達、症候、疾患について基本的な見方、考え方を身につけ、概説できるようにする。 2. 提示された実際の症例に関して、患者の問題点や治療法、看護の在り方について議論ができるようにする。 [授業概要] 学生が小児の成長発達、症状、疾患に関する基本概念を理解できるように、授業計画として、成長発達の評価、症候に基づく疾患鑑別、新生児の生理、新生児疾患、染色体・遺伝子異常、遺伝カウンセリング、先天代謝異常スクリーニング、小児の代謝・内分泌疾患の診断・治療、小児の免疫・アレルギー疾患の診断・治療、小児期感染症、呼吸器疾患、消化器疾患の診断・治療、小児期循環器疾患、血液・腫瘍疾患の診断・治療、小児神経・筋疾患の診断・治療の内容を講義する。 現役の小児科医が小児医療の現場での経験を踏まえ、看護師が身につけるべき小児の特徴や疾患について講義する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学生は、講義の前に、予習しておくことが望ましい。講義では、一生懸命にノートを取ることを。講義の後の復習は、さらに大事である。教科書、ノートを見直し、重要事項を暗記するように努力すること。各回、予習復習あわせて4時間程度。 [授業計画] 1. 成長発達 (9/18・1限) (小児の成長発達の概念と、成長発達の評価方法について概説できるようにする。) 2. 新生児疾患 (9/25・1限) (新生児の生理全般を概説でき、さらに新生児の呼吸・栄養管理についても概説できるようにする。) 3. 染色体異常、遺伝性疾患 (10/2・1限) (染色体異常、遺伝性疾患、遺伝カウンセリングについて概説できるようにする。) 4. 代謝疾患、内分泌疾患 (10/9・1限) (先天代謝異常症とその新生児マススクリーニングを概説し、内分泌疾患(クレチン症、副腎性器症候群等)の診断・治療についても概説できるようにする。) 5. 感染症、免疫疾患 (10/16・1限) (小児期の代表的な感染症(麻疹、風疹等)、免疫疾患(気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシー等)の診断・治療を概説できるようにする。) 6. 循環器疾患、消化器疾患 (10/23・1限) (小児期の代表的な循環器疾患(ファロー4徴、川崎病等)、消化器疾患(食道閉鎖、胆道閉鎖等)の診断・治療を概説できるようにする。) 7. 腎臓、血液、腫瘍疾患 (10/30・1限) (小児期の代表的な腎臓疾患(ネフローゼ、糸球体腎炎等)、血液・腫瘍疾患(白血病等)の診断・治療を概説できるようにする。) 8. 神経疾患、筋疾患 (11/6・1限) (小児期の代表的な神経疾患(熱性けいれん、てんかん等)、筋疾患(筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症)の診断・治療を概説できるようにする。) 9. 試験、総括 (11/6・2限) (講義全体のまとめ、試験と総括。) [成績評価方法] 授業コメント、参加態度:25%、試験:75%で評価する。 試験当日、解答用紙を回収後に総括として解説を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200650 [NB2-020]

科目名	疾病と治療Ⅵ	後期	講義	1 単位
サブタイトル	小児学			
担当者	西尾 久英			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:授業コメント、参加態度、試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:授業コメント、参加態度、試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:授業コメント、参加態度、試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業コメント、参加態度、試験				
[教科書(ISBN)] ナースの小児科学(改訂6版) 著者名:佐地 勉、竹内義博、原 寿郎編著 出版社:中外医学社 (978-4-498-07579-5)				
[参考書(ISBN)] なし				

P11200650 [NB2-020]

科目名	社会福祉・社会活動論	後期	講義	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしに笑顔をもたらす			
担当者	佐々木 勝一			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 さまざまな生活問題に取り組める保健・医療・福祉専門職をめざす 〔 授業概要 〕 少子高齢社会のなかで、寝たきりや認知症などで生き続けていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして、児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる生活問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなくなった。このような中で、地域においては保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムが登場している。これらのサービスを必要としている人々の生活問題について、社会福祉士として関わった事例を通して、問題の把握の仕方と問題点の整理、問題解決・改善を図るための支援方法と各専門職の役割、対象者に関わる機関や専門職の連携のあり方などについて学び、政策的課題を考える。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 マスコミ報道等で福祉・医療事件に関心を持っておく 各回、予習復習合わせて4時間程度。 〔 授業計画 〕 1、生活問題への支援方法…生きていくうえでの様々な生活上のトラブルの実際を明らかにして、苦しみや悩みなどの困難を改善する方法や支援について考え、保健・医療・福祉計画のあり方を検討する。(12/14, 3限) 2、児童の発達保障…児童虐待事例を通して児童の貧困の現状を明らかにし、親と子どもが地域の中で生き生きと暮らしている課題②について考える。(12/14, 4限) 3、妊婦にかかわる問題と専門的支援…飛び込み出産の事例等を紹介し、母と子が直面する課題の解決を通して「子育て支援とは」について学ぶ。(12/21, 3限) 4、医療と経済問題…病気になっても医療が受けられないという人々は少なくない。生活が健康に及ぼす影響を明らかにし、地域で安心して治療が受けられるための課題を考える。(12/21, 4限) 5、障がい者の医療・介護・福祉…障害の治療を通して障がい者として生きていくための支援を考える。(1/18, 3限) 6、高齢者の生活問題…増加し続ける高齢者が直面している生活問題について様々な事例を通して明らかにし、専門職としてどのように包括的な支援をするのかを考える。(1/18, 4限) 7、ターミナルケアにおける保健・医療・福祉専門職の役割…死に直面している人々の問題を明らかにして、「生きる」ための支援について考える。(1/25, 3限) 8、まとめ…各講義について振り返り、これまでの学習の到達点と課題を明らかにする。(1/25, 4限) 9、試験 ＊ 指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容 別表1:「保健医療行政論」 別表2:「地域母子保健」 別表3:「健康支援と社会保障制度」 〔 成績評価方法 〕 レポート(20%)、試験(80%)により評価する。 試験終了後解説を行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	社会福祉・社会活動論	後期	講義	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしに笑顔をもたらす			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%)により評価する。 学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%)により評価する。 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%)により評価する。 [教科書(ISBN)] 毎回、プリントを配布する [参考書(ISBN)] 授業時に紹介する。				

P11200120 [NH3-001]

科目名	社会福祉・社会活動論	前期	講義	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしに笑顔をもたらす			
担当者	佐々木 勝一			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 さまざまな生活問題に取り組める保健・医療・福祉専門職をめざす 〔 授業概要 〕 少子高齢社会のなかで、寝たきりや認知症などで生き続けていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして、児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる生活問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなくなった。このような中で、社会福祉士として地域における保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムに関わった内容について提示する。これらのサービスを必要としている人々の生活問題について、事例の検討を通して、問題の把握の仕方と問題点の整理、問題解決・改善を図るための支援方法と各専門職の役割、対象者に関わる機関や専門職の連携のあり方などについて学び、政策的課題を考える。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 マスコミ報道等で福祉・医療事件に関心を持っておく 各回、予習復習合わせて4時間程度。 〔 授業計画 〕 1、生活問題への支援方法…生きていくうえでの様々な生活上のトラブルの実際を明らかにして、苦しみや悩みなどの困難を改善する方法や支援について考え、保健・医療・福祉計画のあり方を検討する。(6/12, 3限) 2、児童の発達保障…児童虐待事例を通して児童の貧困の現状を明らかにし、親と子どもが地域の中で生き生きと暮らしている課題②について考える。(6/19, 3限) 3、妊婦にかかわる問題と専門的支援…飛び込み出産の事例等を紹介し、母と子が直面する課題の解決を通して「子育て支援とは」について学ぶ。(6/26, 3限) 4、医療と経済問題…病気になっても医療が受けられないという人々は少なくない。生活が健康に及ぼす影響を明らかにし、地域で安心して治療が受けられるための課題を考える。(6/30, 5限) 5、障がい者の医療・介護・福祉…障害の治療を通して障がい者として生きていくための支援を考える。(7/3, 3限) 6、高齢者の生活問題…増加し続ける高齢者が直面している生活問題について様々な事例を通して明らかにし、専門職としてどのように包括的な支援をするのかを考える。(7/10, 3限) 7、ターミナルケアにおける保健・医療・福祉専門職の役割…死に直面している人々の問題を明らかにして、「生きる」ための支援について考える。(7/17, 3限) 8、まとめ…各講義について振り返り、これまでの学習の到達点と課題を明らかにする。(7/21, 5限) 9、試験 (7/31, 3限) ＊ 指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容 別表1:「保健医療行政論」 別表2:「地域母子保健」 別表3:「健康支援と社会保障制度」 〔 成績評価方法 〕 レポート(20%)、試験(80%)により評価する。 試験終了後解説を行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200120A [NH3-001]

科目名	社会福祉・社会活動論	前期	講義	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしに笑顔をもたらす			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%) 学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%) [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%) 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%) [教科書(ISBN)] 毎回、プリントを配布する [参考書(ISBN)] 授業時に紹介する。				

P11200120A [NH3-001]

科目名	社会福祉・社会保障論	後期	講義	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしのセーフティネット			
担当者	佐々木 勝一			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 社会福祉・社会保障の諸制度の理解とその活用法の習熟 [授業概要] 少子高齢社会のなかで、寝たきりや認知症などで生き続けていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして、児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなかった。社会福祉士として関わった、保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムについて提示する。このシステムの役割・意義を理解し、社会福祉・社会保障の諸制度の現状や課題を検証する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 社会福祉・社会保障に関するマスコミ報道等を把握しておく 各回、予習復習合わせて4時間程度。 [授業計画] 1. 社会福祉・社会保障の諸制度と行財政…社会福祉・社会保障制度の概要、保健・医療・福祉計画等を学ぶことを通して、国民のいのちと暮らしを守る意義や現状を理解する。(9/18) 2. 児童福祉、児童手当、母子保健…子育て家庭の生活問題を改善・緩和する諸制度を理解して、親と子どもへのサポートを保健や生活から考える。(9/25) 3. 労働法と労働者保障…生活を支える労働の場面でのトラブルや事故を解決するための諸制度を学び、健康的に働いて暮らすということを考える。(10/2) 4. 年金制度…生活上の事故に対する所得保障としての年金制度について理解し、高齢や障害、遺族となった時でも安心した生活を送れるための課題を考える。(10/9) 5. 医療保険制度…国民の生活問題が健康に及ぼす影響を考え、医療保険制度を活用して必要な治療が受けられるようにするための課題を考える。(10/16) 6. 介護保険…介護を必要とする高齢者が増加しているが、介護保険制度の理解を通してどのように介護や高齢者医療を支えるべきかを考える。(10/23) 7. 地域包括ケア…ニーズを抱えた人々のいのちと暮らしを地域で支えるということについて学び、諸制度の活用や関係機関の連携について考える。(10/30) 8. まとめ…各講義について振り返り、これまでの学習の到達点を明らかにし政策的課題を考える。(11/6) 9. 試験 [成績評価方法] レポート(20%)、試験(80%)により評価する。 試験終了後解説を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200110 [NH2-001]

科目名	社会福祉・社会保障論	後期	講義	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしのセーフティネット			
担当者	佐々木 勝一			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%)により評価する。				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%)により評価する。				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%)により評価する。				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%)により評価する。				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(20%)、試験(80%)により評価する。				
[教科書 (ISBN)] プリントを配布する				
[参考書 (ISBN)] 「はじめての社会保障―福祉を学ぶ人へ」 著者名:椋野美智子、田中耕太郎著 出版社:有斐閣アルマ (978-4-641-22021-8)				

P11200110 [NH2-001]

科目名	小児看護論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 成長・発達の原理を理解することができる。 2. 小児期における各発達段階の特徴と健康増進・疾病予防への支援を理解することができる。 3. 子どもの入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、援助を考えることができる。 4. 子どもに起こりやすい症状とその看護を理解することができる。				
〔 授業概要 〕 人が成長する、発達するということはどういうことか、その原理について学ぶ。子どもとはどのような存在か。社会における子どもの権利について学ぶ。 小児期における各発達段階(乳児期、幼児期、学童期、思春期)の身体的、社会的、認知的特徴を理解し、その育ちに影響する環境について学習する。そして、子どもが健康に生活するための支援について学ぶ。 昨今の子どもを取り巻く社会、子どもが育つ段階での教育、医療と福祉との関係などについて学習する。 子どもに起こりやすい症状とその看護、子どもにとっての入院の意味を学習する。 少子化である今日、子どもと関わる機会が少ない。そのため、講義では視聴覚教材を多く用い、子どもの行動や子どもとのコミュニケーションについて学ぶことができるようにする。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 授業内容について教科書の該当する項目は、授業前に読んでおくこと。 日頃から、子どもに関するニュース、新聞報道等に関心をもっておくこと。 各回の授業についての予習・復習4時間程度。				
〔 授業計画 〕 1.小児看護が対象とする子どもの存在について概観し、小児看護の歴史、子どもの権利について理解する。 9月22日(火)1限 2.小児に関連する社会統計を学び、小児保健、母子保健を理解する。 9月22日(火)2限 3.成長と発達の定義を学び、それらに影響する要因を理解する。 9月23日(水)1限 4.小児看護に関連する理論(発達、セルフケアなど)について理解する。 9月23日(水)2限 5.乳児期の子どもの特徴(愛着、母子関係など)と生活援助について学び、個々の対象者に沿った保健指導ができるよう、健康課題への支援を計画・立案することを理解する。 9月30日(水)1限 6.幼児期の子どもの特徴(基本的生活習慣・言語・社会性の獲得、遊びなど)と生活援助(予防接種や健診のシステムを含む)を理解する。 9月30日(水)2限 7.学童期の子どもの特徴と健康課題を理解し、健康の維持・増進、疾病予防についての援助を理解する。 10月7日(水)1限 8.思春期の子どもの特徴と健康課題を理解し、成人期に移行する援助を理解する。10月7日(水)2限 9.各発達段階にある子どもとのコミュニケーションの特徴と援助関係を築く方法について検討する。 10月13日(火)1限 10.子どもを取り巻く社会について学ぶ。子どもの成長発達に適した生活環境(家族を含む)、地域における子育て支援(母性・父性の育成を含む)を学び、今後の課題を検討する。10月13日(火)2限 11.子どもを取り巻く医療・福祉・教育の在り方を学ぶ。他職種との連携・調整を通して、看護の役割を理解する。 10月21日(水)2限 12.子どもの入院が子どもに及ぼす影響について学び、必要となる援助の視点を理解する。 10月28日(水)1限 13.子どもの入院が家族(同胞を含む)に及ぼす影響について学び、必要となる援助の視点を理解する。 10月28日(水)2限 14.子どもに起こりやすい症状(発熱、脱水、下痢、嘔吐)とその看護について理解する。 11月3日(火)1限 F305、306、307、308使用 15.子どもに起こりやすい症状(咳嗽、呼吸困難、けいれん)とその看護について理解する。 11月3日(火)2限 F305、306、307、308使用 16.試験 11月4日(水)2限				
〔 成績評価方法 〕 試験(80%)、課題レポート(20%) 試験の結果で課題のある学生には個々に対応する				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200660 [NB2-021]

科目名	小児看護論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 「小児看護学概論」 著者名:二宮啓子編著 出版社:南江堂 (978-4524268511)				
[参考書(ISBN)] 「小児の発達と看護」 著者名:中野綾美編著 出版社:メディカ出版 (978-4840449182)				

P11200660 [NB2-021]

科目名	小児療養看護論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	菅野 由美子			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 小児期の特徴的な疾患と疾患から生じる症状、疾患をもつ子どもと家族の特徴を理解することができる。				
2. 検査・処置を受ける子どもが主体的に取り組める援助について理解し、考察することができる。				
3. さまざまな疾患や障がいをもつ子どもと家族の抱える問題を理解し、必要な看護について考察することができる。				
4. さまざまな疾患や障がいをもつ子どもと家族がコミュニティで生活する上で、長期的に必要な看護について理解することができる。				
[授業概要]				
さまざまな疾患や障がいを持って生活する子どもを理解し、子どもと家族への看護援助を学ぶ。				
健康逸脱することにより、こどもは診療を受けたり、検査や処置、治療を受けたりすることになる。それぞれの子どもと家族にとっての体験の意味を理解し、子どもが主体的に取り組むことができるような援助方法を学ぶ。				
子どもに多く見られる急性期の状況の理解とともに、それに対しての援助、慢性期疾患を持つ子どもと家族に対するセルフケア獲得に向けての援助方法を学ぶ。さらに、医療施設内での看護のみならず、コミュニティで療養生活を過ごす子どもと家族への看護を学習する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
1. 事前課題に取り組み、提示された教科書の該当ページを熟読しておく(取り組んだ事前課題をもとに授業を展開します)。2時間程度				
2. 毎回の授業内容から、それぞれの発達段階に必要な援助について、復習をする。1時間程度				
3. 事前課題に記載された教員のコメントを確認し、事例について振り返る。1時間程度				
[授業計画]				
第1回 4月8日 4限 外来における子どもと家族の援助				
第2回 4月15日 4限 検査や処置を受ける子どもと家族への援助				
第3回 4月22日 4限 急性期にある乳児期の子どもと家族への援助				
第4回 5月13日 3限 先天性疾患をもつ子どもと家族への援助				
第5回 5月13日 4限 手術を受ける幼児期の子どもと家族への援助				
第6回 5月20日 4限 慢性疾患をもつ学童期にある子どもと家族への援助①				
第7回 5月27日 4限 慢性疾患をもつ学童期・思春期にある子どもと家族への援助②				
第8回 6月 3日 4限 障がいをもつ子どもと家族への援助				
(試験) 6月10日 4限				
[成績評価方法]				
本試験70点満点、事前課題 30点満点				
・事前課題(7回分)は毎回の授業後に提出後、採点后各自それぞれに不足部分などのコメントをつけて翌週の授業で返却いたします。				
・本試験については、希望者にはいつでも開示し、個別に質問ににじます。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200670 [NB3-015]

科目名	小児療養看護論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	菅野 由美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、事前課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、事前課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、事前課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験、事前課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験、事前課題				
学科DP番号／DP内容:試験2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験、事前課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験、事前課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、事前課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験、事前課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、事前課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、事前課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験、事前課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、事前課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、事前課題				
[教科書 (ISBN)]				
系統看護学講座 小児臨床看護各論② 著者名:奈良間美保 出版社:医学書院 (978-4-260-01990-3)				
[参考書 (ISBN)]				
小児看護学概論-子どもと家族に寄り添う援助- 著者名:二宮啓子 出版社:南江堂 (978-4-524-26851-1)				

P11200670 [NB3-015]

科目名	食品学総論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	赤桐 里美			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
①食品に関する正確な知識を身に付ける。				
②食品を科学的視点から理解する。				
[授業概要]				
人間を生物学的に理解する中で、食べ物と健康の関係は重要な要素である。そこで、本講では食品を構成する成分の特性や食品成分の変化、食品の物性、機能性などについて総合的に解説する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。				
(各回、予習復習合わせて4時間程度)				
[授業計画]				
1. 人間と食品				
2. 食品の分類				
3. 水分				
4. タンパク質				
5. 炭水化物				
6. 脂質				
7. ビタミン				
8. 無機質				
9. 嗜好成分				
10. 有害成分				
11. 食品の物性				
12. 官能評価				
13. 食品成分間反応				
14. 食品の機能性				
15. バイオテクノロジーと新しい食品				
16. 試験				
[成績評価方法]				
試験(55%)、小テスト(30%)、受講態度(15%)で評価します。				
試験、小テストは回収後に解説を行います。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200070 [NI1-002]

科目名	食品学総論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	赤桐 里美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:e-Learning利用状況				
[教科書 (ISBN)] 栄養科学シリーズ NEXT『食品学総論』 著者名:辻英明／海老原清／渡邊浩幸／竹内弘幸 出版社:講談社サイエンティフィク (978-4-06-155386-6)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11200070 [NI1-002]

科目名	助産学概論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	田村 康子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 助産学の基礎となる知識を習得・理解し、助産師としての視座を養い、多様な角度から客観的・批判的に考察し、助産実践の基礎となる能力を養成する。				
〔 授業概要 〕 助産に関する定義、歴史的変遷、助産師の業務について知識を習得し、職業としての助産に関する理解を深める。助産師が行うケアに関する様々な理念について、授業では意思決定への支援について理解を深める。また、生殖医療に伴う倫理的課題を考察し、不妊治療に関連する助産支援を学ぶ。出産では、女性が自身の持つ産む力を最大限に活かすことが助産師には求められる。講義や実際の出産体験を聞くことを通し、産む力とは何か、産む力を支える助産師のケアとは何かを考察し、助産を実践する上での感受性を養う。また、日本および世界における出産や女性を取り巻く近年の動向や課題を学び、それらに関する法律・施策、社会資源に関する知識を得る。女性、妊産婦、乳幼児は災害時要支援者（配慮者）と位置づけられ、災害において特に配慮が必要となる。母子と災害をテーマに災害の心身への影響や支援、備えについても学ぶ。 これらを通して、助産師としての視座を養い、多様な角度から課題を客観的・批判的に考察し、助産実践の基礎を養う。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 疾病と治療Ⅴ（周産期学）、母性看護論、社会福祉・社会保障論、小児看護論、女性の健康増進と看護の理解が基盤になるため、十分に復習すること。				
〔 授業計画 〕 1. 助産師とは：助産師の定義、助産師の業務、助産師の教育、助産師と研究（4/7・Ⅰ限） 2. 出産と助産に関する歴史的変遷（4/7・Ⅱ限） 3. 助産師が行うケアの理念：女性の意思決定への支援、助産実践の倫理：生殖医療と倫理的課題（4/14・Ⅰ限） 4. 不妊症治療と治療後妊娠におけるケア（4/14・Ⅱ限） 5. 母子保健の動向と課題、制度・社会資源：日本と外国の母子保健の動向と課題を知り、国・地域・民間における母子を支える制度や社会資源について学ぶ。世界的課題に対する国際的取組やその役割を担う機関についても理解する。（4/21・Ⅰ限） 6. 産む力とケア①：女性の産む力とそれを支えるケアとは何か（4/21・Ⅱ限） 7. 産む力とケア②：出産と助産師のケアの体験から学ぶ（4/28・Ⅱ限） 講師：古宇田千恵先生、他学外講師4名（日本妊産婦支援協議会 りんごの木） 8. 災害と助産：災害への備えや災害発生時の対応について、助産師として提供できるケアや対応を学ぶ。（5/12・Ⅰ限） 9. 試験（5/19・Ⅱ限）				
〔 成績評価方法 〕 課題への取り組み（30％）、試験（70％）				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200770 [NB3-020]

科目名	助産学概論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	田村 康子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、レポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート				
[教科書 (ISBN)]				
「助産師基礎教育テキスト2020 年版 第1巻 助産概論」著者名:工藤美子編集 出版社:日本看護協会出版会 (不明)				
「助産師基礎教育テキスト2020 年版 第3巻 周産期における医療の質と安全」著者名:成田伸編集 出版社:日本看護協会出版会 (不明)				
母子保健の主たる統計 2019 著者名:公益財団法人母子衛生研究会 出版社:母子保健事業団 (不明)				
「助産師基礎教育テキスト2020年版 第2巻 女性の健康とケア」著者名:吉澤豊予子 出版社:日本看護協会出版会 (不明)				
[参考書 (ISBN)]				
適宜提示します				

P11200770 [NB3-020]

科目名	助産学実習	前期	実習	8 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子、牛越 幸子、田村 康子、問本 弘美、細川 由美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 妊産婦と胎児・新生児の心身の経過を判断し、ニーズや健康課題・問題をアセスメントし、必要な援助を計画・実践・評価する能力を養う。安全・安楽・満足を配慮した分娩期の援助技術を習得する。異常経過の予測と判断および適切な対処に関する能力を養う。対象者がより正常な経過をたどれるよう、対象者のセルフケア能力を高め、必要な保健指導が行える能力を養成する。				
〔 授業概要 〕 妊産婦と胎児・新生児の心身の経過を判断し、ニーズや健康課題・問題をアセスメントし、必要な援助を計画・実践・評価する能力を養う。特に、10例程度の産婦への直接分娩介助を含む分娩期の援助を通して、正常分娩を中心とした助産援助を安全・安楽・満足を考慮して実践するために必要な基礎的能力(知識・技術・態度)を習得し、発展させる。母子および家族の妊娠期から子育て期まで受け持ち、継続看護を展開する。正常な経過に加えて、異常の予測と判断ができ、適切な対応や援助ができる能力を習得する。 保健指導見学や受け持ち妊産婦への関わりを通して、妊産婦・新生児へ必要な保健指導を実践できる能力を養う。これらを通して、対象のセルフケア能力に働きかけ、経過をより正常へと導くための援助能力を養成する。また、チーム医療、多職種との連携を理解し、助産師としての責務についても学びを深め、助産師の役割について考察を深める。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 疾病と治療Ⅴ、母性看護学、助産学に関する科目を復習し、十分理解して実習に臨むこと。健康自己管理を十分に行うこと。				
〔 授業計画 〕 実習期間中に下記を実施する。 ・正常分娩の直接分娩介助、間接介助および出生直後の新生児ケアの実施 ・直接分娩介助を行った母子の産褥期・新生児期のケアおよび保健指導 ・妊娠期から出産後を通して継続的に母子を受け持ち、助産過程を展開する。 ・実習施設の病棟および外来で提供されている妊婦の健康診査、1か月健診、保健指導、子育て支援活動の見学				
〔 成績評価方法 〕 実習への取り組み(20%) 実習目標の達成度(80%) 振り返りを行う				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200810 [NB4-008]

科目名	助産学実習	前期	実習	8 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子、牛越 幸子、田村 康子、問本 弘美、細川 由美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習レポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習目標の到達度				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をととして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習目標の到達度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習目標の到達度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習目標の到達度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習目標の到達度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習目標の到達度				
[教科書 (ISBN)] 周産期学、母性看護学、助産学に関する科目で使用されたすべての教科書				
[参考書 (ISBN)] ・適宜提示する				

P11200810 [NB4-008]

科目名	助産管理	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 助産業務及び運営に関する法的制度を理解し、周産期における医療の質と安全を考慮した業務の運営、調整及び評価ができるための基本的知識を習得し、管理的視点を養う。 [授業概要] 助産業務及び運営に関する法的制度を理解し、業務の運営、効果的な助産業務遂行のための管理の原則と方法、調整及び評価ができる能力を養う。加えて、産科領域における医療事故の特徴を理解し、助産に関わる安全確保と医療事故への対応、危機管理について学ぶ。 助産師外来や院内助産所における助産業務管理、病院及び助産所の運営と管理の相違、助産業務の評価を学び、現状と課題を学ぶことを通して、助産業務に関する管理的視点を養う。 助産師の実務経験のある教員が助産管理の授業を担当する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] ・授業準備としては、教科書の該当ページを読み学習する。(2時間程度) ・復習として、各授業で配布した資料を読み、授業内容を整理・確認する。(2時間程度) 授業の予習を行い、疑問点を明確にした上で授業に参加すること [授業計画] 教室：F204 1.日本における周産期医療システム：出産の「安全性」と「快適性」に関する医療改革の歴史、医療の質とその評価、周産期医療の現状と課題、周産期医療連携、周産期医療機関の機能と役割、周産期医療対策整備事業、オープンシステム(4/7・Ⅰ限) 2.助産管理の基本概念：管理とマネジメントの定義、概念(質、顧客・要求、製品・サービス、マネジメントサイクルなど)、助産管理の定義、組織化(業務基準、質評価)(4/7・Ⅱ限) 3.助産所における助産サービス管理：助産師の開業、開業の多様な機能と役割、助産所における妊産婦管理の実際、助産所の経営とスタッフ管理、サービス管理、構造と設備、監督(4/13・Ⅱ限)(学外特別講師：永原郁子先生) 4.地域における助産サービス管理：地域における助産サービスの目的と特徴、関連する母子保健行政、地域での助産サービスの実際(4/14・Ⅱ限)(学外特別講師：住岡まどか先生) 5.病院・診療所における助産サービス管理：病産院における助産サービスの現状と課題(混合病棟における現状と課題)、周産期医療システム、母体搬送に伴う他職種との連携、院内助産・助産外来の運営と実際(4/21・Ⅰ限)(学外特別講師：藤原瑞枝先生) 6.助産と関連法規：医療法、保健師助産師看護師法、医師法、母子保健法、母体保護法、薬事法、児童福祉法、地域福祉法、戸籍法、刑法、民法、労働法 - 助産と法的責任：応召、証明書の交付、助産録の記載、届出、守秘義務(4/21・Ⅱ限) 7.周産期におけるリスクマネジメント：医療事故と医療過誤、医療法による安全管理体制、医療安全のための情報公開とインフォームドコンセント、リスクマネジメント(病院、助産所、職能団体)、感染におけるマネジメント、災害におけるマネジメント(4/28・Ⅰ限) 8.助産と医療経済・社会保障：医療保険制度と助産業務、助産業務の診療報酬、分娩費用、経営上の会計の仕組み(4/28・Ⅱ限) 9.試験(5/12・Ⅱ限) [成績評価方法] 試験(100%) 試験を回収後、回答の解説を行う [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200800 [NB4-007]

科目名	助産管理	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、授業中の発言・態度				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験により評価				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験により評価				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験、授業中の発言・態度				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験により評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業参加により評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業参加態度から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業参加より評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業参加より評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業参加より評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験により評価				
[教科書(ISBN)]				
「助産管理」助産学講座10 著者名:我部山キヨ子編集 出版社:医学書院 (978-4-260-02175-3 C3347)				
[参考書(ISBN)]				
授業中に提示				

P11200800 [NB4-007]

科目名	助産診断技術論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	牛越 幸子、下敷領 須美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 女性を対象とした健康課題に対処する基礎的な知識を習得する。また、妊婦、産婦、褥婦、新生児とその家族の健康状態および正常性とその逸脱のリスクをアセスメントし、助産過程の展開に必要な診断と援助を行うための基礎的な知識が習得できる。				
〔 授業概要 〕 ウィメンズヘルスの観点から女性の健康課題を理解し、必要な支援方法を学ぶ。また、マタニティサイクルにある妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族の健康状態や正常経過のアセスメント、正常から逸脱するリスクをアセスメントするための必要な知識を習得する。妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常経過を理解し、助産過程の診断と援助を行うために臨床で遭遇するような事例を用いて必要な知識が習得できるように講義を中心とした授業を行う。 特に、妊娠期では具体的な事例に対する保健指導の企画や指導案の作成、分娩期では、分娩各期の経過診断と支援について学び、産褥期では、母児の精神的支援、セルフケア能力を高める支援について学ぶ。さらに、妊娠・分娩・産後におけるハイリスク・異常とその対処について産科学の知識を医師から学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1.2回の講義までに女性の健康増進と看護、3回～16回の講義中は母性看護論、4回の講義までに家族看護論、12回の講義までに疾病と治療Ⅴ、14回の講義までに小児看護論の講義内容を復習して授業に参加する。各回、予習復習を合わせて4時間程度の学習を行うこと。				
〔 授業計画 〕 1.ウィメンズヘルスの健康課題とその支援(下敷領) 1月8日;金(5限) 2.ウィメンズヘルスの健康課題とその支援:集団へのアプローチ(下敷領) 1月13日;水(4限) 3. 妊娠期の助産診断、妊娠の確定診断、関連諸検査(牛越) 1月13日;水(5限) 4. 妊娠経過に伴う助産診断と検査、心理社会的変化(牛越) 1月15日;金(5限) 5. 親準備・出産準備にむけた保健指導(集団の家族計画指導)(牛越) 1月22日;金(4限) 6. 妊娠期の経過診断と健康生活診断に基づく助産計画:事例(牛越) 1月22日;金(5限) 7. 妊娠期の助産計画に基づく助産ケア(個別の指導案)(牛越) 1月25日;月(5限) 8. 分娩経過に伴う助産診断とアセスメントの視点(牛越) 1月27日;水(4限) 9. 分娩第1期の助産診断および助産計画と助産ケア(牛越) 1月27日;水(5限) 10. 分娩第2期の助産診断および助産計画と助産ケア(牛越) 1月28日;木(4限) 11. 分娩第3・4期の助産診断および助産計画と助産ケア(牛越) 1月28日;木(5限) 12. ハイリスクへの対処(ハイリスク妊娠、分娩期の異常と対処)(学外特別講師:山崎) 2月1日;月(4限) 13. ハイリスクへの対処(産褥期・新生児の異常と対処)(学外特別講師:山崎) 2月1日;月(5限) 14. 正常な母と子への助産診断およびセルフケアへの支援(牛越) 2月3日;水(4限) 15.正常な母と子への助産計画と個別的な助産ケア(産後の家族計画指導含)(牛越) 2月3日;水(5限) 16.試験 2月5日;金(3限)				
〔 成績評価方法 〕 試験(100%) 試験回収後に解説を行う				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200780 [NB3-021]

科目名	助産診断技術論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	牛越 幸子、下敷領 須美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。				
成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力				
成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)]				
「助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア」 著者名:森恵美編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1464-0)				
「助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア」 著者名:町浦美智子編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1465-7)				
「助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」 著者名:横尾京子編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1466-4)				
「助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」 著者名:遠藤俊子編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1467-1)				
[参考書(ISBN)]				
「今日の助産」改訂第3版 著者名:北山真理子 内山和美編 出版社:南江堂 (978-4-524-26377-6)				
マタニティ診断ガイドブック 著者名:日本助産診断・実践研究会 出版社:医学書院 (978-4-260-02445-7)				
病気が見えるVol10 産科 著者名:井上裕美他 出版社:メディック・メディア (978-4-89632-713-7)				

P11200780 [NB3-021]

科目名	助産診断技術論演習	前期	演習	2 単位
サブタイトル				
担当者	牛越 幸子、問本 弘美、細川 由美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 妊産褥婦と胎児・新生児の健康水準を診断できる能力を養い、助産過程の展開に必要なアセスメントおよび援助技術を習得し、実践能力を養う。				
〔 授業概要 〕 妊産褥婦と胎児・新生児の健康水準を診断できる能力を養い、助産過程の展開に必要なアセスメントおよび援助技術の具体的な方法を学ぶ。アセスメントでは主に妊娠・分娩期を中心とした事例学習により、関連情報の統合と理解、経過とリスクの予測、必要な看護支援やリスク対応に関する計画立案を学び、実習に向けた臨床判断能力を獲得する。援助技術演習では、分娩介助に必要な環境や物品準備、分娩介助技術、出生直後の新生児ケア、保健指導技術などを含む。加えて、女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する相談・教育・保健指導、受胎調節指導に必要な知識と援助技術の具体的な方法を学ぶ。いずれも小グループでディスカッションや発表を中心として学習を進める。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 周産期学、母性看護論、女性の健康増進と看護、助産学概論、助産診断技術論の復習を行い、十分理解して授業に臨むこと。各回、予習復習をあわせて2時間程度行うこと。特に、分娩介助技術に関する演習は自己練習の復習を行うこと。				
〔 授業計画 〕 1. 4月3日(金)1限:分娩経過に伴う助産診断と計画立案および評価① 2. 4月3日(金)2限:分娩経過に伴う助産診断と計画立案および評価② 3. 4月6日(月)1限:分娩介助に伴う基礎的技術の習得① レオポルド触診法とCTG装着 4. 4月6日(月)2限:分娩介助に伴う基礎的技術の習得② 直接介助者の準備(生活操作とガウンテクニック) 5. 4月7日(火)3限:分娩介助に伴う基本的技術の習得③ 清潔操作(ガウンテクニック～分娩セットの展開)、外陰部消毒と導尿 6. 4月7日(火)4限:分娩介助に伴う基本的技術の習得④ 間接介助技術(2次観察、出生直後のケア、新生児計測)、胎盤の観察 7. 4月10日(金)3限:分娩介助の実践① 分娩介助技術(肛門保護、会陰保護、児頭娩出、臍帯切断、胎盤娩出) 8. 4月10日(金)4限:分娩介助の実践② 分娩介助技術(肛門保護、会陰保護、児頭娩出、臍帯切断、胎盤娩出) 9. 4月13日(月)3限:分娩第1期の助産過程の展開 (事例パターン1)① アセスメントに従い、援助の実施と評価 10. 4月13日(月)4限:分娩第1期の助産過程の展開 (事例パターン1)②アセスメントに従い、援助の実施と評価 11. 4月14日(火)3限:分娩第2期～産褥期の経過のアセスメントとケア (事例パターン1)③産後の生活に向けた支援 12. 4月14日(火)4限:分娩第2期～産褥期の経過のアセスメントとケア (事例パターン1)④産後の生活に向けた支援 13. 4月17日(金)3限:分娩介助技術に伴う確認(直接介助・間接介助技術) 14. 4月17日(金)4限:分娩介助に伴う基礎的技術の習得① 会陰の創傷と縫合技術(問本) 15. 4月20日(月)1限:分娩第1～4期の助産過程の実施(事例パターン2)① 16. 4月20日(月)2限:分娩第1～4期の助産過程の実施(事例パターン2)② 17. 4月21日(火)3限:分娩第1～4期までの助産過程の実施(事例パターン2)③ 18. 4月21日(火)4限:分娩第1～4期までの助産過程の実施(事例パターン2)④ 19. 4月24日(金)3限:分娩第1～産褥期までの助産過程の実施 (分娩期から産後までの事例パターン3)① 20. 4月24日(金)4限:分娩第1～産褥期までの助産過程の実施 (分娩期から産後までの事例パターン3)② 21. 4月27日(月)1限:分娩第1～産褥期までの助産過程の実施 (分娩期から産後までの事例パターン3)③ 22. 4月27日(月)2限:分娩第1～産褥期までの助産過程の実施 (分娩期から産後までの事例パターン3)④ 23. 4月28日(火)3限:妊婦や褥婦の健康維持・セルフケア能力向上に向けた支援(保健指導の発表) 24. 4月28日(火)4限:妊婦や褥婦の健康維持・セルフケア能力向上に向けた支援(保健指導の発表)、家族計画指導の評価 25. 5月1日(金)3限:緊急を要する状態への対応:(分娩時異常出血時の産婦および家族への対応) 26. 5月1日(金)4限:帝王切開術を受ける母体への対応と新生児蘇生 27. 5月8日(金)3限:分娩介助の技術チェック 28. 5月8日(金)4限:分娩介助の技術チェック 29. 5月11日(月)1限:OSCE(牛越、問本、細川) 30. 5月11日(火)2限:OSCE(牛越、問本、細川) 31. 5月12日(火)3限:OSCE(牛越、問本、細川)				
〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み・課題(50%)、試験(OSCE:50%) 試験終了後に振り返りを行う				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200790 [NB4-006]

科目名	助産診断技術論演習		前期	演習	2 単位
サブタイトル					
担当者	牛越 幸子、問本 弘美、細川 由美子				
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]					
学科DP番号／DP内容:看護1-2／（科学的根拠に基づいた課題対応能力）人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:授業での取り組み・課題,OSCE					
学科DP番号／DP内容:看護2-3／（倫理の実践と道徳的態度）看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:授業での取り組み・課題					
[この授業と関連する大学全体の教育目標]					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業での取り組み					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業での取り組み					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢 成績評価方法:授業での取り組み					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業での取り組み					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験（OSCE）					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験（OSCE）					
[教科書（ISBN）]					
「助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア」（3年後期「助産診断技術論」と同じ） 「助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア」（3年後期「助産診断技術論」と同じ） 「助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」（3年後期「助産診断技術論」と同じ） 「助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」（3年後期「助産診断技術論」と同じ）					
[参考書（ISBN）]					
授業中に適宜提示する。					

P11200790 [NB4-006]

科目名	女性の健康増進と看護	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 女性の健康に関する特性と影響要因、成長発達や加齢に伴う変化を理解する。さらに、性と生殖にかかわる健康と人権についての理解を深め、それらを考慮にいれた健康増進への効果的な支援が行える能力を養う。				
[授業概要] 女性の健康を考える上で必要な概念、ならびに女性の健康に影響する社会・環境要因、ライフサイクルに伴う健康課題を理解し、女性が自らの能力を生かしてより健康に過ごすために必要な看護を学ぶ。女性の健康について、生涯を通した一連の発達の变化を、生物学的側面のみならず心理・社会・文化的側面からも理解を深める。また、性と生殖における健康と人権について現状と課題を理解し、健康増進への支援を学び看護援助ができる能力を養う。看護師、助産師の実務経験のある教員が女性の健康増進と看護の授業を担当する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 生殖関連医学、母性看護論について復習し、理解しておくこと。特に解剖学・生理学(生殖機能、性周期、内分泌等)に関する知識の復習を行うこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。				
[授業計画] 1.ウイメンズヘルスとは何か、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重と看護 F210 (4/8・3限) 2.セクシュアリティの理解と支援F210 (4/15・3限) 3.マイノリティへのケア:性暴力、DV被害者、子ども虐待の予防と早期発見F210 (4/22・3限) 4.テーマ別GW発表Ⅰ:女性のライフサイクル各期の身体的・心理社会的特徴F210(6/2・1限) 5.テーマ別GW発表Ⅱ:月経と健康、性感染症等 F210 (6/2・2限) 6.テーマ別GW発表Ⅲ:家族計画・受胎調節、子育て期の女性の健康等 F210 (6/9・1限) 7.テーマ別GW発表Ⅳ:更年期障がい、在日外国人の母子保健等 F210 (6/9・2限) 8.女性の健康増進と看護活動 F210 (6/16・2限) 9.試験 (6/23・2限)				
[成績評価方法] 課題レポート(20%)、発表(10%)、試験(70%) 試験を回収後、回答の解説を行う				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200710 [NI3-004]

科目名	女性の健康増進と看護	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:課題レポート、発表内容、試験から評価				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート、発表内容から評価				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:課題レポート、発表内容、試験から評価				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:課題レポート、発表内容、試験から評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容、試験から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題レポート、試験、発表内容から評価				
[教科書 (ISBN)] 母性看護学 I 2019 著者名:有森直子編著 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23668-0)				
[参考書 (ISBN)] 「女性のライフサイクルとナーシング 女性の生涯発達と看護」 著者名:高橋真理 村本淳子編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-041-1C3347) 「性の健康と相談のためのガイドブック」 著者名:性の健康医学財団編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3987-4 C3047)				

P11200710 [NI3-004]

科目名	女性の健康増進と看護	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 女性の健康に関する特性と影響要因、成長発達や加齢に伴う変化を理解する。さらに、性と生殖にかかわる健康と人権についての理解を深め、それらを考慮にいれた健康増進への効果的な支援が行える能力を養う。				
[授業概要] 女性の健康を考える上で必要な概念、ならびに女性の健康に影響する社会・環境要因、ライフサイクルに伴う健康課題を理解し、女性が自らの能力を生かしてより健康に過ごすために必要な看護を学ぶ。女性の健康について、生涯を通した一連の発達の变化を、生物学的側面のみならず心理・社会・文化的側面からも理解を深める。また、性と生殖における健康と人権について現状と課題を理解し、健康増進への支援を学び看護援助ができる能力を養う。看護師・助産師の実務経験のある教員が授業を担当する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 生殖関連の解剖学・生理学(生殖機能、性周期、内分泌等)に関する知識の確認学習を行うこと。 各授業の前後にはテーマに該当する教科書、参考文献、配布資料を読み整理する。前後各2時間程度。				
[授業計画] 1.ウイメンズヘルスとは何か、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重と看護 11/19 4限 2.セクシュアリティの理解と支援 11/26 2限 3.マイノリティへのケア:性暴力、DV被害者、子ども虐待の予防と早期発見 12/3 2限 4.テーマ別GW発表Ⅰ:女性のライフサイクル各期の身体的・心理社会的特徴 12/10 2限 5.テーマ別GW発表Ⅱ:月経と健康、性感染症等 12/17 2限 6.テーマ別GW発表Ⅲ:家族計画・受胎調節、子育て期の女性の健康等 12/17 3限 7.テーマ別GW発表Ⅳ:更年期障がい、在日外国人の母子保健等 1/7 2限 8.女性の健康増進と看護活動 1/14 2限 9.試験 1/28 2限				
[成績評価方法] 課題レポート(20%)、発表(10%)、試験(70%) 試験を回収後、回答の解説を行う				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200710A [NI3-004]

科目名	女性の健康増進と看護	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:課題レポート、発表から評価				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート、発表から評価				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、発表から評価				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:課題レポート、発表から評価				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、発表から評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、発表内容から評価				
[教科書 (ISBN)] 有森 著者名:中込さと子、小林康江、荒木奈緒 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-6517-5)				
[参考書 (ISBN)] 「女性のライフサイクルとナーシング 女性の生涯発達と看護」 著者名:高橋真理 村本淳子編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-041-1C3347) 「性の健康と相談のためのガイドブック」 著者名:性の健康医学財団編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3987-4 C3047)				

P11200710A [NI3-004]

科目名	人体のしくみと機能 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	加治 秀介			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 1) ケアに必須の正常な人体のしくみと機能について理解・修得できる。 2) 生命や生きることについて考察できる。 3) 機能と構造が異常となるメカニズムを推測でき、今後学ぶ疾病と治療につながる考察ができる。 [授業概要] 看護学を学ぶ上で基本となる正常な人体のしくみと機能について系統的に講義する。人体のしくみと機能 I では、主に消化器、呼吸器、循環器、造血器について系統的に学ぶ。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 1) 高校で学習した理科科目(生物・化学・物理学)を整理・復習しておく。 2) 講義予定の教科書範囲を熟読し、あらかじめ疑問点を整理して授業に臨む。 3) 講義で学んだ内容を復習し、専門用語などの語彙は必ず確認して未消化のままにしない。 予復習は合わせて4時間程度 [授業計画] 1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識(1) 形からみた人体/素材からみた人体(教科書 pp.1-55) 2. 解剖生理学を学ぶための基礎知識(2) 機能からみた人体(教科書pp.55-62) 3. 栄養の消化と吸収(1) 口・咽頭・食道の構造と機能(教科書pp.63-76) 4. 栄養の消化と吸収(2) 腹部消化管の構造と機能(教科書pp.76-95) 5. 栄養の消化と吸収(3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能/腹膜(教科書pp.96-106) : 小テスト(1)(3~5) + 課題レポート(1) 6. 呼吸のはたらき(1) 呼吸器の構造(教科書pp.107-120) 7. 呼吸のはたらき(2) 内呼吸と外呼吸/呼吸器と呼吸運動/呼吸気量/ガス交換とガスの運搬(教科書pp.120-133) 8. 呼吸のはたらき(3) 肺の循環と血流/呼吸運動の調節/呼吸器系の病態生理(教科書pp.133-141) : 小テスト(2)(6~8) + 課題レポート(2) 9. 血液のはたらき(1) 血液の組成と機能/赤血球/白血球(教科書pp.141-155) 10. 血液のはたらき(2) 血小板/血漿タンパク質/血液の凝固と線維素溶解/血液型(教科書pp.155-165) 小テスト(3)(9, 10) + 課題レポート(3) 11. 血液の循環とその調節(1) 心臓の構造/心臓の拍出機能/心電図/心臓の収縮(教科書pp.167-193) 12. 血液の循環とその調節(2) 末梢循環系の構造/血管の構造/肺循環の血管/体循環の血管(教科書pp.193-206) 13. 血液の循環とその調節(3) 血液の循環調節/血圧/血液の循環/血圧・血流量の調節(教科書pp.206-219) 14. 血液の循環とその調節(4) 血液の循環調節/微小循環/循環器系の病態生理/ リンパとリンパ管(教科書pp.220-229) : 小テスト(4)(11~14) + 課題レポート(4) 15. 解剖生理学ワーク(1) 16. 試験 [成績評価方法] 授業参加態度(30%)、試験(70%) 課題レポートはコメントして返却 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200450 [NB1-008]

科目名	人体のしくみと機能 I	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	加治 秀介			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）] 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題 [教科書 (ISBN)] 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 著者名:坂井建雄 岡田隆夫 出版社:医学書院 (978-4-260-03171-4) [参考書 (ISBN)] 適宜提示				

P11200450 [NB1-008]

科目名	人体のしくみと機能Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	加治 秀介			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1) ケアに必須の正常な人体のしくみと機能について理解・修得できる。 2) 生命や生きることについて考察できる。 3) 機能と構造が異常となるメカニズムを推測でき、今後学ぶ疾病と治療につながる考察ができる。 〔 授業概要 〕 看護学を学ぶ上で基本となる正常な人体のしくみと機能について系統的に講義する。人体のしくみと機能Ⅱでは、主に腎・泌尿器、内分泌、骨格・運動器、脳・神経機能、生殖器について系統的に学ぶ。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 1) 高校で学習した理科科目(生物・化学・物理学)を整理・復習しておく。 2) 講義予定の教科書範囲を熟読し、あらかじめ疑問点を整理して授業に臨む。 3) 講義で学んだ内容を復習し、専門用語などの語彙を含めて未消化のままにしない。 予復習は合わせて4時間程度 〔 授業計画 〕 1. 体液の調節と尿の生成(1) 腎臓の構造と機能/糸球体の構造と機能/尿細管の構造と機能/傍糸球体装置/クリアランスと糸球体濾過量/腎臓から分泌される生理活性物質(教科書 pp.231-248) 2. 体液の調節と尿の生成(2) 排尿路/体液の調節(教科書 pp.248-260): 小テスト 1)(1, 2) + 課題レポート 1) 3. 内臓機能の調節(1) 自律神経による調節/自律神経の機能/自律神経の構造/自律神経の神経伝達物質と受容体/内分泌 系による調節/内分泌とホルモン/ホルモンの化学構造と作用機序(教科書 pp.261-277) 4. 内臓機能の調節(2) 全身の内分泌腺と内分泌細胞/視床下部-下垂体系/甲状腺と副甲状腺/膵臓(教科書 pp.277-290) 5. 内臓機能の調節(3) 内分泌細胞/副腎/性腺 ホルモン分泌の調節(教科書 pp.290-306): 小テスト 2)(3~5) + 課題レポート 2) 6. 身体の支持と運動(1) 骨格/骨の連結/骨格筋(教科書 pp.307-323) 7. 身体の支持と運動(2) 体幹の骨格と筋/上肢の骨格と筋/下肢の骨格と筋(教科書 pp.324-361) 8. 身体の支持と運動(3) 頭頸部の骨格と筋/筋の収縮(教科書 pp.361-382): 小テスト 3)(6~8) + 課題レポート 3) 9. 情報の受容と処理(1) 神経系の構造と機能/脊髄と脳/脊髄神経と脳神経(教科書 pp.383-418) 10. 情報の受容と処理(2) 脳の高次機能/運動機能と下行伝導路/感覚機能と上行伝導路(教科書 pp.418-435) 11. 情報の受容と処理(3) 眼の構造と視覚/耳の構造と聴覚・平衡覚/味覚と嗅覚/ 疼痛(教科書 pp.435-460) 12. 外部環境からの防御 皮膚の構造と機能/生体の防御機構/非特異的防御機構/免疫/代謝と運動/体温とその調節(教科書 pp.461-491): 小テスト 4)(9~12) + 課題レポート 4) 13. 生殖・発生と老化のしくみ(1) 男性生殖器/女性生殖器(教科書 pp.493-510) 14. 生殖・発生と老化のしくみ(2) 受精と胎児の発生/成長と老化(教科書 pp.510-536) 15. 解剖生理学ワーク 2) 16. 試験 〔 成績評価方法 〕 授業態度(30%)、試験(70%) 課題レポートはコメントして返却 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200460 [NB1-009]

科目名	人体のしくみと機能Ⅱ	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	加治 秀介			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）] 学科DP番号／DP内容:看護1-1／（プロフェッショナリズム）生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、課題レポート 学科DP番号／DP内容:看護1-2／（科学的根拠に基づいた課題対応能力）人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、課題レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート [教科書（ISBN）] 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 著者名:坂井建雄 岡田隆夫 出版社:医学書院（978-4-260-03171-4） [参考書（ISBN）] 適宜提示				

P11200460 [NB1-009]

科目名	成育看護技術演習Ⅰ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子、牛越 幸子、田村 康子、下敷領 須美子、菅野 由美子、吉田 陽子、山本 千晴、問本 弘美、細川 由美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 療養生活を送る子どもの状況に応じた援助技術を理解し、実践する能力を修得する。 2. 周産期にある母子の健康状態のアセスメントや新生児の日常生活に関する援助技術を理解し、実践する能力を習得する。				
〔 授業概要 〕 成育看護分野における基盤的な看護技術を学ぶ。 小児看護では、子どもの成長・発達のアセスメントや療養生活を支援するために必要な技術として、身体計測、バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント、清拭、輸液管理について演習を行う。学生は事前に各演習項目の概要(目的、必要物品、手順、留意点など)についてレポートを作成する。演習では小グループに分かれて、モデル人形もしくは学生同士で技術を学ぶ。 母性看護では、周産期における母子の健康状態を理解するために必要な技術として、妊婦のヘルスアセスメント(レオポルド触診法、胎児心音の聴取)、褥婦のヘルスアセスメント(退行性変化の観察、授乳ケア)、新生児のヘルスアセスメントやケア(衣類の着脱、おむつ交換、沐浴など)について演習を行う。演習は小グループに分かれて行う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 「小児看護論」の内容を復習し、理解しておくこと。演習の前の事前レポートを作成し、演習で実施する各技術の概要を理解しておくこと。 「母性看護論」の内容を復習し、事前課題に基づき演習の予習を行う。				
各回、予習復習合わせて2時間程度				
〔 授業計画 〕 ●小児看護における援助技術:(内正子、菅野由美子、吉田陽子、山本千晴) 1. 身体計測と発育評価①:各発達段階(乳児、幼児、学童以降)における身体計測について、モデル人形を用いて実施する。 2. 身体計測と発育評価②:事例を用いた身体計測を実施し、その発育評価を行い、子ども・家族に対する支援を考える。 3. フィジカルアセスメント①:小児のフィジカルアセスメントを理解し、子どもに対して適切に実施できる方法を学ぶ。 4. フィジカルアセスメント②:ロールプレイおよびモデル人形を用いて、バイタルサイン測定を実施する。 5. 事例を用いたフィジカルイグザミネーションを行い、アセスメントを行う。 6. モデル人形を用いて全身清拭を実施する。 7. 持続点滴中の看護について理解し、輸液管理の技術を学ぶ。 ●母性看護における看護技術(下敷領須美子、田村康子、牛越幸子、問本弘美、細川由美子) 8.妊婦のヘルスアセスメント技術:妊婦モデルを用いてレオポルド触診法、胎児心音聴取を実施する。 9.妊婦のセルフケア支援:様々な動作における妊婦体験を通し、妊婦へのセルフケア支援を考える。 10.褥婦のヘルスアセスメント技術:子宮復古モデルを用いて、退行性変化の観察とアセスメントを学ぶ。 11.授乳支援:乳房・乳頭の観察や授乳姿勢について、新生児モデルや乳房モデルを用いながら実施し、母親が授乳を円滑に行うための支援方法を学ぶ。 12. 新生児の抱っこの仕方、更衣、おむつ交換、臍消毒について新生児モデルを用いて学ぶ。 13.新生児のヘルスアセスメント:新生児モデルを用いて新生児の観察(バイタルサイン測定、全身の観察)およびアセスメントを行う。 14.新生児のケア:沐浴に関する基礎的理解と実施 15.家庭における沐浴の実際と支援:家庭環境を想定した沐浴を実施し、退院する母子や家族への支援を考える。				
* 演習は2クラスに分かれて行う。クラスによって、日程が異なるので、初日のオリエンテーションで確認すること。全日程は以下の通り。				
2020年9月24日(木)2限、 10月14日(水)1,2限、15日(木)1,2限、 12月16日(水)1,2限、17日(木)1,2限 2021年1月6日(水)1,2限、7日(木)3,4限、8日(金)3,4,5限、 13日(水)1,2限、14日(木)1,2限、18日(月)1,2限、 25日(月)1,2限、26日(火)1,2限、 27日(水)1,2限、28日(木)1,2,3限				
* F202、209、310使用 (9/24:オリエンテーション F310)				
〔 成績評価方法 〕 小児(50%):事前課題(20%)、演習レポートおよび演習への取り組み(30%) 母性(50%):事前課題(20%)、事後課題(30%)				
レポート課題については、後日添削して返却				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200720 [NB2-023]

科目名	成育看護技術演習Ⅰ	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子、牛越 幸子、田村 康子、下敷領 須美子、菅野 由美子、吉田 陽子、山本 千晴、問本 弘美、細川 由美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート課題				
[教科書 (ISBN)] 「小児看護技術」 著者名:今野美紀編著 出版社:南江堂 (978-4524268528) 「母性看護技術」 著者名:石村由利子編集 出版社:医学書院 (978-4-260-01137-2)				
[参考書 (ISBN)] 適宜配布				

P11200720 [NB2-023]

科目名	成育看護技術演習Ⅱ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子、内 正子、牛越 幸子、田村 康子、菅野 由美子、吉田 陽子、山本 千晴、問本 弘美、細川 由美子			
〔実務経験のある教員による授業〕 ○				
〔到達目標〕 1.周産期における母子とその家族の看護ニーズを明らかにし、必要な看護援助を展開するための能力を習得する。 2.療養生活を送る子どもの看護ニーズを導き、子どもとその家族の状況に応じた看護計画を立案する能力を修得する。				
〔授業概要〕 成育看護分野における看護過程を学ぶ。 母性看護では、出産後早期にある母子とその家族の事例を用いて、褥婦・新生児・家族について健康状態、母子や家族の関係性、親役割取得の視点から情報の整理、解釈・分析、看護計画立案、実施評価を行う。これらは教員の助言を受けながら個人ワークとグループワークで展開する。この一連の過程を通し、母性看護の特徴であるウェルネスの視点について学ぶ。 小児看護では、各発達段階とさまざまな状況(急性期や慢性期)に沿った看護を修得するために、多様な子どもの事例を通してグループワークを行う。小児看護における看護過程の概要を学んだ後に、事例を活用して情報収集、分析、看護目標・看護計画の立案、実施のプロセスについてグループワークを行う。情報収集や実施などは学生同士や教員とのロールプレイを通して行っていく。 看護師の実務経験を持つ教員が授業を担当する。				
〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕 小児看護論および母性看護論を復習し、理解しておくこと。 演習の予習として、事前課題、該当するテキスト、資料を読み、疑問点を確認しておく(各1時間程度) 復習として、授業で指示された課題を行う(各2時間程度)				
〔授業計画〕 母性看護における看護過程(下敷領須美子、田村康子、牛越幸子、問本弘美、細川由美子) 1. 講義・演習オリエンテーション:母性領域におけるウェルネス看護診断 4月10日2限、F210 2. 事例による情報収集と情報の関連づけと整理 4月17日2限、F210 3. 母子の健康状態や家族発達・ウェルネスの視点から情報を分析 4月24日1限、F210 F305 F306 F307 F308 4. グループワーク:アセスメント 4月24日2限、F210 F305 F306 F307 F308 5. グループワーク:看護計画の立案 5月1日 I 限、F210 F305 F306 F307 F308 6. 看護計画の発表 5月8日1限、F210 7. 経過記録について・全体ディスカッション 5月8日2限、F210				
小児看護における看護過程(内正子、菅野由美子、山本千晴、吉田陽子) 8. 講義:小児における看護過程について。グループワーク:情報の整理とアセスメント。4月10日1限、F210、F305 F306 F307 F308 9. グループワーク:情報の整理、全体像の作成。5月15日1限、F305 F306 F307 F308 10. グループワーク:看護計画の立案。5月22日1限、F305 F306 F307 F308 11. グループワーク:発表準備。5月29日1限、F305 F306 F307 F308 12. 発表:乳児の事例。6月5日1限、F210 13. 発表:幼児の事例。6月5日2限、F210 14. 発表:学童の事例。6月12日1限、F210 15. 発表:思春期の事例。6月12日2限、F210				
〔成績評価方法〕 小児50点:グループ課題(70%)、発表(プレゼンテーション)(10%)、個人課題(20%) 母性50点:グループ課題(30%)、個人課題(50%)、発表(20%)				
〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200730 [NB3-017]

科目名	成育看護技術演習Ⅱ	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子、内 正子、牛越 幸子、田村 康子、菅野 由美子、吉田 陽子、山本 千晴、問本 弘美、細川 由美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:課題レポート,演習参加態度から評価する				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート,演習参加から評価する				
[教科書(ISBN)] 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」第3版 著者名:太田操編著 出版社:医歯薬出版株式会社 (ISBN978-4-263-23534-8)				
[参考書(ISBN)] 適時資料配布				

P11200730 [NB3-017]

科目名	成育看護実習 I	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、下敷領 須美子、菅野 由美子、吉田 陽子、山本 千晴、問本 弘美、細川 由美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 乳幼児との間で援助的人間関係がとれる。 2. 乳幼児の成長・発達が理解できる。 3. 乳幼児の生活について理解できる。 4. 健康な生活のための支援について考察できる。 5. 援助者としての態度、学習姿勢が修得できる。				
〔 授業概要 〕 既習の生活援助についての知識や技術を地域で生活する子どもへの看護実践に適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を学ぶ。 具体的には、地域にある保育所において実習を行い、乳幼児とのコミュニケーションを体験し、発達段階における成長・発達、健康な生活のあり方を理解し、その支援について学ぶ。 保育士の乳幼児への接し方や支援を見学し、援助者としての態度を養う。 多職種との連携・協働を通して、看護の役割を学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 実習施設の概要やその地域の特性を調べておくこと。 既習の実習を振り返り、援助関係について復習しておくこと。				
〔 授業計画 〕 事前にオリエンテーションを受けて、実習の進め方、留意事項など理解する。 1. 実習場は神戸市内の保育所とする。 2. 臨地でオリエンテーションを受け、各クラスに配置する。乳幼児が生活する場としての設備や環境について理解する。(1日目) 3. 乳幼児の生活(遊び、食事、更衣、清潔、休息など)を見学し、それぞれの年齢に沿った成長発達について理解する。(2日目、3日目) 4. 乳幼児に対する保育士の活動を理解する。(2日目、3日目) 5. 乳幼児とコミュニケーションを図り、援助的関係を築く。(2日目、3日目、4日目) 6. 保育士の指導の下、生活援助に参加する。(2日目、3日目、4日目) 7. 乳幼児にとっての健康な生活のあり方とその援助について理解する。(3日目) 8. 看護師と保育士との連携や情報共有について理解する。(4日目) 9. 多職種との連携・協働を通して、看護の役割について理解する。(4日目) 10. 看護職としての援助的態度を探索する。(4日目) 11. 実習後にカンファレンスを行い、学びを共有し学びを深める。(5日目) 12. 実習目標の達成度を確認、今後の学習の課題を明らかにする。(5日目)				
〔 成績評価方法 〕 実習達成度(70%)、課題レポート(20%)、実習態度(10%)				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	成育看護実習 I	後期	実習	1 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、下敷領 須美子、菅野 由美子、吉田 陽子、山本 千晴、間本 弘美、細川 由美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:実習達成度				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習達成度				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習達成度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
[教科書 (ISBN)] 実習要領 著者名:成育看護領域 出版社:小野高速印刷				
[参考書 (ISBN)] 適宜配布				

P11200740 [NB1-011]

科目名	成育看護実習Ⅱ（小児）	前期～後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子、菅野 由美子、吉田 陽子、山本 千晴			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.子どもを全人的に理解することができる。 2.健康逸脱や療養生活が子どもとその家族におよぼす影響を理解することができる。 3.子どもが体験している療養生活について理解し、援助できる。 4.子どもとその家族に対して看護過程を展開することができる。 5.小児医療の中での看護師の役割が理解できる。 6.子どもやその家族と援助的人間関係を築くことができる。 7.看護職として倫理的に判断・行動するための基本的能力を習得することができる。				
〔 授業概要 〕 小児看護に関する既習の知識・技術を用いて、看護の理論と実践を結び付けて理解できる能力を養う。看護実践の場で、様々な成長発達段階にある子どもの理解、様々な健康状態にある子どもへの看護を学ぶ。 具体的には、子どもが入院している施設で2週間の実習を行い、原則1人の子どもを受け持つ。そして、医療施設で療養する子どもを身体的、心理的、社会的側面から全人的に理解する。子どもとその家族との援助的人間関係を築き、関わりを通して、必要な看護を判断し、安全かつ安心できる看護実践能力の基礎を習得する。 また、子どもと家族がよりよい療養生活を送るための、社会資源や多職種連携のあり方について学び、それらを通して看護師の役割について理解する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 実習先の医療施設の概要について調べておくこと。 実習に必要な知識、技術の復習をしておくこと。				
〔 授業計画 〕 事前にオリエンテーションを受けて、実習の進め方、留意事項など理解する。 1.実習の場は子どもが入院している施設とする。 2.病棟の管理者からオリエンテーションを受け、子どもが療養する場としての施設の環境について理解する。(1日目) 3.原則として1人の子どもを受け持つ。(1日目) 4.受け持ちとの援助関係を築き、それを発展させる。(2～9日目) 5.受け持ちを通して、看護過程を展開する。 ・子どもとその家族から情報を収集し、アセスメントを行う。(2～4日目) ・看護目標、看護計画を立案し、看護実践を行う。(3～9日目) ・子どもや家族の反応をとらえて、評価を行う。(3～9日目) ・実習内容の記録を行う。(2～9日目) 6.チームの一員としての報告・連絡・相談をする。(2～9日目) 7.受け持ち以外でも、子どもの看護について、可能な限り見学や、体験をし、看護師の役割を理解する。(6～9日目) 8.看護師が多職種と協働している場面に参加する。(6～9日目) 9.実習期間中、1日は外来での実習を行い、継続看護、在宅支援などを理解する。 10.日々の学びを共有するとともに、次の日の課題とそれを解決するための方策をグループで話し合う。(2～8日目) 11.学びの共有と実践の振り返りのため、カンファレンスを行う。(10日目) 12.実習目標の達成度を確認、今後の学習の課題を明らかにする。(10日目)				
〔 成績評価方法 〕 実習到達度(70%)、レポート(20%)、実習態度(10%)				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200750 [NB3-018]

科目名	成育看護実習Ⅱ（小児）	前期～後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	内 正子、菅野 由美子、吉田 陽子、山本 千晴			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習達成度				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:実習達成度				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習達成度				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習達成度				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習達成度				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習達成度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習達成度				
[教科書（ISBN）] 実習要項 小児看護関連の既習科目の教科書 著者名:小児看護分野 出版社:小野高速印刷				
[参考書（ISBN）] 適宜配布				

P11200750 [NB3-018]

科目名	成育看護実習Ⅱ（母性）	前期～後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子、牛越 幸子、田村 康子、問本 弘美、細川 由美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○ 〔 到達目標 〕 1.周産期にある母子の心身における生理的变化や生活環境が健康に及ぼす影響を理解する。 2.妊産婦と新生児の健康課題や健康問題に対する看護過程を実施する。 3.母児の愛着形成および親役割取得を促進するための援助について理解する。 4.出産の体験を知り、出産が母子に及ぼす影響や支援を考える。 5.妊娠期・産褥期における教育的支援を理解する。 6.母子と家族に関係する社会資源や制度について考える。 7.これらの目標を通して母性看護の役割とは何かを考える。 〔 授業概要 〕 周産期にある母子との関わりや周産期看護に携わる看護職との関わりを通して、母子の生理的变化や心身の適応過程ならびに健康ニーズをウェルネス及びリスクアセスメントの視点から理解し、その健康状態の維持・促進や親役割取得の促進、家族の発達課題の達成に向けて必要な看護の知識・技術・態度を学ぶことを目的とする。母親と同様に親となる過程にあるパートナーや家族のニーズ、母子や家族の生活の場にも目を向け、看護者としての関わりを考える。実習を通して、母子の健康生活を支援するための保健医療制度・社会資源についても学ぶ。これらを統合して、母性看護における看護師の役割について考察する。 〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 疾病と治療Ⅴ、Ⅵ(周産期学、新生児)、母性看護論、成育看護技術演習Ⅰ、成育看護技術演習Ⅱ、女性の健康増進と看護について復習し、十分理解した上で実習に臨むこと。母性看護技術は自主的練習を行うこと 〔 授業計画 〕 病院にて以下の通り2週間の実習を行う。 1.産科病棟では1組の母子を受け持ち、看護過程を展開する。 2.産科外来では妊婦健康診査や産後健診を受ける妊婦や褥婦と関わり、妊娠期における心身の経過や適応、出産準備、退院後の子育て期における心身の経過や適応、授乳や育児の実際について理解する。 3.病棟および外来での保健指導や周産期に特有な検査、出産準備教育や育児支援活動を見学する。 4.日々のカンファレンスでは、その日の実習を通して得た学びを学生間で共有する。加えて、テーマを決めて討議することにより、疑問や困難の解決や自己の学びの明確化を図り、実習課題の達成に向けた学習を行う。 〔 成績評価方法 〕 実習への取り組み(20%)、実習記録(60%)、課題レポート(20%) 日々、実習記録は教員から口頭での助言や実習記録へのコメントを通してフィードバックを行う。実習最終日に担当教員と面談し、実習全体を振り返り、フィードバックを行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200760 [NB3-019]

科目名	成育看護実習Ⅱ(母性)	前期～後期	実習	2 単位
サブタイトル				
担当者	下敷領 須美子、牛越 幸子、田村 康子、問本 弘美、細川 由美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習への取り組み、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習記録、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立てて、それを実行する能力 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 適宜、提示する				

P11200760 [NB3-019]

科目名	生活援助論	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	西原 詩子、三苫 美和、荒金 英里子、小林 麻衣			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 看護技術の特徴と適切な援助を実施するための留意点を理解できる。 2. 日常生活援助における看護の役割について述べるができる。 3. 看護の基本技術と生活援助技術に関する原理・原則を理解できる。 4. 対象の基本的ニーズの充足を目的として、看護の基本技術と生活援助技術を、根拠に基づいて実践できる。 5. 演習での看護師・患者体験を通して、看護専門職として援助技術を行う上での基本的な態度を身に付けることができる。				
〔 授業概要 〕 対象の基本的ニーズを充足する日常生活援助として、清潔の保持・衣生活・安楽を援助するための知識と技術を学ぶ。看護専門職としての基本的な態度とともに、根拠に基づいた実践方法を修得する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 必要な知識や手順を理解し、技術実施のイメージがもてる状態となるまで、各回予習復習を合わせて2時間程度事前学習を行う。技術自主練習の時間を設けるので計画的に参加すること。				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション、看護技術とは、清潔の生活援助技術①、衣生活の生活援助技術 (10/21(水)Ⅲ限)F304 2.清潔の保持①清拭:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。(10/28(水)Ⅲ限)F417・419 3.清潔の保持①清拭:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。(10/28(水)Ⅳ限)F417・419 4.清潔の保持①清拭:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。(11/4(水)Ⅲ限)F417・419 5.寝衣交換:各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。(11/4(水)Ⅳ限)F417・419 6.清潔の生活援助技術②(洗髪)、清潔の生活援助技術③(陰部洗浄)、清潔の生活援助技術④(足浴)、安楽を援助する技術①(嚥法) (11/18(水)Ⅲ限)F304 7.清潔の保持②洗髪:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。(11/25(水)Ⅲ限)F417・419 8.清潔の保持②洗髪:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。(11/25(水)Ⅳ限)F417・419 9.清潔の保持②洗髪:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。(12/2(水)Ⅲ限)F417・419 10.安楽を援助する技術①嚥法:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、技術を実施する。(12/2(水)Ⅳ限)F417・419 11.清潔の保持③陰部洗浄:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、技術を実施する。(12/9(水)Ⅲ限)F417・419 12.清潔の保持④足浴:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。(12/9(水)Ⅳ限)F417・419 13.「患者にとって安全安楽な看護技術とは」グループディスカッション、安楽を援助する技術②睡眠、技術チェックについてのオリエンテーション (12/16(水)Ⅲ限)F304 14.技術トレーニング (12/23(水)Ⅲ限)F417・419 15.事例に対して必要な看護技術を考えるレポ (12/23(水)Ⅳ限)F417・419 16.試験 (1/6(水)Ⅲ限)				
〔 成績評価方法 〕 授業への取り組み(40%)、課題レポート(10%)、技術チェック(10%)、試験(40%)、 * 身だしなみが整っているかどうかを授業への取り組みの評価に含む。 * 試験は60点以下で再試験とする 課題レポートは確認し、後日返却する。 全体の試験結果については、後日講評する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200220 [NB1-005]

科目名	生活援助論	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	西原 詩子、三苫 美和、荒金 英里子、小林 麻衣			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:課題レポート、技術チェック、試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、技術チェック、試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:技術チェック				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:技術チェック、課題レポート				
[教科書 (ISBN)] 「<系統看護学講座 専門分野Ⅰ>>基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(第16版) 著者名:有田清子他 出版社:三共出版 (ISBN:978-4-260-01999-6) 「<系統看護学講座 専門分野Ⅰ>>基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(第17版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1) 「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9) 「看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4) 「フィジカルアセスメントがみえる」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32566-9)				
[参考書 (ISBN)] 「新版 生活健康科学」 著者名:小田切陽一・飯島純夫・小山勝弘・石原逸子共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3) 看護覚え書―看護であること 看護でないことー フローレンス・ナイチンゲール 著者名:薄井担子・小玉香津子訳 出版社:現代社 (978-4-87474-142-9) 看護の基本となるもの 著者名:ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯横ます・小玉香津子訳 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1996-6) 適宜指示、および適宜プリントを配布する。				

P11200220 [NB1-005]

科目名	生活概論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ			
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 看護の対象である人間を、豊かな感情を持ち、相互関係の中で育まれ、社会生活を営む生活者として捉え、生活を構成するさまざまな要素と健康の関係や、健康レベルの低下した生活者に対する看護援助についての基礎的知識を理解する。 [授業概要] 看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。 看護の対象となる人間を生活者の視点で捉え、生活の概念規定や生活と健康との関係について学び、健康レベルの低下した生活者に対する看護援助の必要性を理解する。また、自己の生活体験を見つめ、身近な人と比較することで日常生活行動の個性を知り、生活者に対する理解を深める。さらに、生活者を個人・家族・集団・地域の視点で捉え、健康増進や改善を目指す教育方法について理解する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自分自身の日常生活を振り返るとともに、家族や友人の日常生活と比較して、問題点や改善点を見つけておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。 [授業計画] 1. 世界保健機関(WHO)の健康の定義を理解したうえで、日常生活が健康に及ぼす影響について、自身や身近な人の体験から考察する。 2. 人々を取り巻く生活環境(公共交通機関、上下水道、買物、働く場所等)と健康の関わりを学び、改善点を明らかにする。 3. 看護は、生活(食・排泄、睡眠・休息、清潔、運動)の観点から人々の健康を支えるという基本を学ぶ。 4. 住環境や療養環境が健康に及ぼす影響について、参加観察の手法を用いて考察する。 5. 「働くこと」が健康を支えることであり、また「働くこと」で不健康になることの意味について深く学ぶ。 6. 看護職は対象者を生活の側面から支援する専門家であることを理解し、生活及び生活者の概念について学ぶ。 7. 教科書「看護の基本となるもの」をもとに、人の基本的欲求について学ぶ。 8. 社会システムの中で、個人・家族・集団・地域の健康増進や改善のための具体的な方法について学ぶ。 9. 試験 教室 F304 [成績評価方法] 試験(80%)、授業中の課題(20%) 試験回収後、回答の解説を行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200210 [NB1-004]

科目名	生活概論	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書 (ISBN)] 「新版 生活健康科学」 著者名:小田切陽一 他3名共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3) 「国民衛生の動向 2019/2020年版」 出版社:一般財団法人厚生労働省統計協会 「看護の基本となるもの」再新装版 著者名:ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳、 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1996-6) 適宜プリントを配布する。				
[参考書 (ISBN)] 「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]看護学概論」16版 著者名:茂野香おる 出版社:医学書院 (978-4-260-02181-4) 必要に応じて適宜紹介する。				

P11200210 [NB1-004]

科目名	精神看護支援技術演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	大谷 利恵、高橋 秋絵、市川 久美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 精神科領域における治療的アプローチと看護の役割について理解できる。 2. さまざまな精神障がい の病態、症状、治療などが生活や対人関係に及ぼす影響と、精神障がいをもつ人の体験が理解できる。 3. 精神健康状態のアセスメント技術が理解できる。 4. 精神障がいをもつ人への看護実践について、セルフケアモデルに沿ったアセスメントと看護援助方法が理解できる。 5. ロールプレイやプロセスレコードを用いて、他者理解、自己洞察、相互作用の理解を深めながら、人間関係を構築するための態度とコミュニケーション技術を習得する。				
〔 授業概要 〕 さまざまな精神障がい の病態、症状、治療などが生活や対人関係に及ぼす影響と、精神障がいをもつ人の体験を理解する。また精神障がいをもつ人への看護実践について、精神健康状態のアセスメント技術、セルフケアモデルに沿ったアセスメントと看護援助方法を学ぶ。さらにロールプレイやプロセスレコードを用いて、他者理解、自己洞察、相互作用の理解を深めながら、人間関係を構築するための態度とコミュニケーション技術を習得する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回の演習についての予習・復習2時間程度行うこと。 前期授業終了時までに、課題ワークシートをmanabaに提示する。各ワークシート内に提出期限を示してあるので期限までに取り組むこと。 また、精神障がいをもつ人の体験について、手記やドキュメンタリー・映画を積極的に視聴し理解に努めること。				
〔 授業計画 〕 1. 精神科領域における治療的アプローチと看護援助を概観する(大谷利恵)9/23(水)3限 2. 精神状態をアセスメントする方法を事例と視覚教材を用いながら具体的に学ぶ(大谷利恵)9/23(水)4限 3. 急性期の統合失調症患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(大谷利恵)9/30(水)3限 4. 慢性期の統合失調症患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(大谷利恵)9/30(水)4限 5. 気分障害をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(高橋秋絵)10/1(木)1限 6. 不安障害をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(市川久美子)10/2(金)2限 7. 発達障害をもつ患者について、障害特性が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(大谷利恵)10/7(水)3限 8. パーソナリティ障害をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(大谷利恵)10/7(水)4限 9. 依存症患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(高橋秋絵)10/9(金)2限 10. 患者-看護師関係と治療的コミュニケーションについて、ロールプレイを通して体験的に学ぶ(高橋秋絵・市川久美子)10/14(水)3限 F304 11. プロセスレコードを用いたコミュニケーション演習を行い、治療的コミュニケーションについて学ぶ(高橋秋絵・市川久美子)10/14(水)4限 F304 試験 10/21(水)3限 12. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う(①患者情報をセルフケアモデルに基づいて整理する)(大谷利恵・高橋秋絵・市川久美子)10/21(水)4限 13. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う(②セルフケアモデルに基づいたアセスメントを行う)(大谷利恵・高橋秋絵・市川久美子)10/28(水)3限 14. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う(③アセスメントに基づいて看護援助を考察する)(大谷利恵・高橋秋絵・市川久美子)10/28(水)4限 15. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う(④事例演習のまとめ)(大谷利恵・高橋秋絵・市川久美子)11/6(金)3限				
〔 成績評価方法 〕 試験(80%)、レポート(10%)、授業への取り組み(10%) 試験は、終了直後に解説を行う。 レポートは、後日添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200590 [NB2-017]

科目名	精神看護支援技術演習	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	大谷 利恵、高橋 秋絵、市川 久美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題、授業への取り組み				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、授業への取り組み				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート課題				
[教科書(ISBN)] 精神看護学＜1＞第5版 精神看護学概論／精神保健(新体系看護学全書) 著者名:岩崎弥生・渡邊博幸 編集 出版社:メヂカルフレンド社 (978-4-8392-3363-1) 精神看護学＜2＞第5版 精神障害をもつ人の看護(新体系看護学全書) 著者名:岩崎弥生・渡邊博幸 編集 出版社:メヂカルフレンド社 (978-4-8392-3364-8) 「精神看護学—学生-患者のストーリーで綴る実習展開 第2版」 著者名:田中美恵子 編著 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23673-4) 「僕らのことばをばけっとに」 著者名:こころの絵本プロジェクト実行委員会 特定非営利法人すまみらい				
[参考書(ISBN)] なし				

P11200590 [NB2-017]

科目名	精神看護論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	玉木 敦子、大谷 利恵、高橋 秋絵、市川 久美子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.精神看護学の定義、目標がわかる。 2.精神看護学の基盤となる理論や知識(心に関する諸理論、対人関係理論、セルフケア理論など)が理解できる。 3.精神医療保健福祉に関する法制度、歴史・現状と課題が理解できる。 4.精神保健医療福祉におけるチームアプローチと他職種との連携、看護の役割について理解できる。 5.精神科病院、地域精神保健、リエゾン精神看護などさまざまな場における精神看護の役割と機能について考察を深める。				
〔 授業概要 〕 精神看護学の定義と目標、精神看護実践の基盤となる理論や知識(心に関する諸理論、対人関係理論、セルフケア理論など)、倫理的態度について学ぶ。また精神医療保健福祉に関する歴史、法制度、精神医療におけるチームアプローチと他職種との連携について学ぶ。さらに精神障がい者と家族を取り巻く現状、サポートシステムを学び、課題を検討する。精神科病院、地域精神保健、リエゾン精神看護などさまざまな場における精神看護の役割と機能について考察を深める。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回の授業について予習・復習を4時間程度行うこと。自分自身や家族の心の健康、また精神状態と生活との関連に関心を持って授業内容の理解に努めること。				
〔 授業計画 〕 1.精神看護学の定義と目標を学び、精神看護に必要とされる知識と技術を概観する(玉木敦子) 4/10 2.精神力動論に基づいてこころの働きを心理学的側面から理解する(玉木敦子)4/17 3.視聴覚教材を用いて、脳科学的視点からこころの働きを理解する:(玉木敦子)4/24 4.患者-看護師関係と治療的コミュニケーションに関する理論を理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ(玉木敦子)5/1 5.セルフケア理論を理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ(玉木敦子)5/8 6.リカバリーモデルを理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ(玉木敦子)5/15 7.ウィメンズ・メンタルヘルスについて学ぶ(玉木敦子)5/22 8.精神障害のある児童・思春期の患者への看護について学ぶ(玉木敦子)5/29 9.視聴覚教材や体験記を用いて、精神障がいをもつ人とその家族の体験を理解する(大谷利恵)6/5 10.精神障がいをもつ患者の看護援助の実際について、当事者の体験から理解する(大谷利恵)学外特別講師 6/12 11.精神医療保健福祉に携わる多職種の役割やチームアプローチについて学ぶ(高橋秋絵)6/19 12.精神障害のある人とその家族の体験をもとに家族への看護援助を学ぶ(玉木敦子)6/26 13.心身相関の考え方を基盤に身体疾患をもつ人の心のケアを実践・研究するリエゾン精神看護の役割と実践の基本について学ぶ(市川久美子)7/3 14.精神保健医療福祉の国内外の現状を概観し、課題と看護の役割について検討する(玉木敦子)学外特別講師 7/10 15.精神看護におけるリスクマネジメントと人権擁護について学ぶ(玉木敦子)7/17 16.試験				
〔 成績評価方法 〕 テスト(80%) : 小テスト15%、期末テスト65% レポート(20%) * 20分以上の遅刻は欠席として取り扱う * レポートは、後日添削して返却する * 小テストならびに期末テストは、実施直後に解答の解説を行う				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200570 [NB2-016]

科目名	精神看護論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	玉木 敦子、大谷 利恵、高橋 秋絵、市川 久美子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:レポート課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-2 / (協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題				
[教科書(ISBN)]				
精神看護学＜1＞第5版 精神看護学概論／精神保健(新体系看護学全書) 著者名:岩崎弥生 編 出版社:メジカルフレンド社 (9784839233631)				
精神看護学＜2＞第5版 精神障害をもつ人の看護(新体系看護学全書) 著者名:岩崎弥生 編 出版社:メジカルフレンド社 (9784839233648)				
精神看護学第2版—学生-患者のストーリーで綴る実習展開 著者名:田中美恵子 編著 出版社:医歯薬出版株式会社 (9784263236734)				
僕らのことばをぼけつとに 著者名:こころの絵本プロジェクト実行委員会 特定非営利法人すまみらい				
[参考書(ISBN)]				
なし				

P11200570 [NB2-016]

科目名	生命倫理	後期	講義	2 単位
サブタイトル	多様な生死観と倫理観			
担当者	狩野 恭			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 生命倫理について多様な考え方があることを学ぶ				
[授業概要] まず、「答えはひとつか?」、価値観の多様性、論理学、など基本的な事項を学んだ後、「倫理」とは何かを考えます。「人(場合によっては人以外の生き物)にかかわる善悪の論理」そこには様々な問題があります。それらの問題を考える手懸りとして、西欧の倫理思想、インドの倫理思想、中国の倫理思想を概観します。さらに、生きとし生けるものの「生命」、人間の「生命」についても同様に考えます。思想史をふりかえってみると「生命」に対する考え方にも様々なものがあつたことがわかります。＜いのち＞の連鎖、かけがえのないいのち、＜魂＞などなど。その上で、具体的に、臓器移植、中絶、安楽死など現実の問題について考えてみます。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回での内容を復習し、与えられた課題について次の授業までに、考えをまとめておくこと。 毎回のレポート課題についてまとめることを中心に4時間以上の学習をすること。				
[授業計画] 1. 「哲学」:生命倫理を考える上で基礎となる哲学一般について簡単に学びます。 2. 「問」と「答え」、「正しさ」とは何か?など、物事の考え方の基本を考えます。 3. 「科学」「宗教」「哲学」についてそれぞれの特徴を学び、科学的思考の長所、短所を考えてみます。 4. 「論理」について考えます。 5. 「生命」「いのち」「魂」(1) (二元論): <身体>と<こころ><生命>との関係について様々な考え方があることを学ぶ。 6. 「生命」「いのち」「魂」(2) (生命の連続): 出産、遺伝子など生命の連続性について考える。 7. 西洋の生死観: 主としてキリスト教的世界観のなかで、「生」と「死」がどのように考えられてきたかを学ぶ。 8. 東洋の生死観: 主としてインド的世界観(輪廻転生)の中で、「生」と「死」がどのように考えられてきたかを学ぶ。 9. 出産: <生命を生み出す>ことの意味と覚悟を女性の立場から考える。 10. 中絶: <生命を断つ>ことの意味をさまざまな倫理から考える。 11. 安楽死: 「安楽死」とおして「生きる」質と量と価値との関係を考える。 12. 脳死と臓器移植: 「死」をどのように定義し、どのように他の生に生かせるかを考える。 13. 人間の生命と生態系: 人間が他の生命体と共存する道について考える。 14. 生命と環境問題: 生命体とそれを取り巻く環境との関係について考える。 15. まとめ				
[成績評価方法] 毎回のレポート(70%)、最終レポート・試験(30%) 毎回のレポートは評言を付して希望者には返却する。 全体については、毎回、質問等についてフィードバックを行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	生命倫理	後期	講義	2 単位
サブタイトル	多様な生死観と倫理観			
担当者	狩野 恭			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:毎回のレポート				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている 成績評価方法:毎回のレポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:毎回のレポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:毎回のレポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回のレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回のレポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回のレポート				
[教科書 (ISBN)] プリント資料を配布する。				
[参考書 (ISBN)] 授業中に紹介する。				

P11200030 [NI1-001]

科目名	総合実習(地域・在宅)	前期	実習	4 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三宅 美和、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、小坂 素子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 対象者を全人的に理解し、健康課題と生活との関連性を考えることができる 2. 対象の特性に応じた計画的な看護を実践しながら、地域・在宅における看護の継続性を考えることができる 3. 対象者の生活背景に応じた援助、社会資源の活用、多職種や多施設との連携・調整を学ぶことができる 4. 実習での体験や学びとこれまで学んだ知識や技術を統合し、看護専門職としての役割を考察することで、自己の課題を明らかにすることができる				
〔 授業概要 〕 地域で生活しているさまざまな健康レベルの対象者を全人的に理解し、その特性に応じた計画的な看護を実践する能力を養うとともに、地域・在宅における看護の継続性を学ぶ。保健医療福祉施設における入退院調整や地域・在宅での看護活動の場面にできるだけ参加し、生活背景に応じた援助、社会資源の活用、多職種や多施設との連携・調整などさまざまな看護活動を学び、担当する対象者への看護に統合していく。また、看護専門職としてさまざまな健康レベルの対象者やその人を取り巻く保健・医療・福祉システムにおける課題を見出し、よりよい看護を実践するための視点と態度を養う。さらに、実習での体験や学びとこれまでに学んだ知識や技術を統合し、看護専門職としての役割を考察することで、自己の課題を明らかにする。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 事前に実習する施設の利用者の特徴を調べ、利用者の看護を行うための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。				
〔 授業計画 〕 ・原則として、複数の対象者を受持ち、個別的な看護過程を展開する。 ・地域・在宅における看護の継続性を視野に入れながら看護過程を学ぶ。 ・学生は対象者の支援チームや多職種とのコミュニケーションをとり、チームカンファレンスやミーティングに参加できるよう調整する。 ・学生の受け持つケースへのカンファレンスに可能な限り参加し、看護援助の検討、調整について学ぶ。 ・地域・在宅における看護の継続性について理解できるよう、地域連携の場面や専門外来の見学などに可能な限り同席する。 ・患者教育、健康教育、保健指導などの場面に可能な限り参加し、それらの実際や主体的な健康の維持・増進を促すための取り組みについて学ぶ。 ・保健医療施設における退院調整や地域・在宅での看護活動の場面などに可能な限り同行し、地域で人がどのように療養し、どのような援助が必要であるかを学ぶ。				
〔 成績評価方法 〕 実習のねらいに関する到達度(80%)レポート・記録物の提出(20%) レポート・記録物は後日添削したものを開示します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200870 [NB4-010]

科目名	総合実習(地域・在宅)	前期	実習	4 単位
サブタイトル				
担当者	魚里 明子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三吉 美和、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、小坂 素子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート、記録物				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:レポート、記録物				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:レポート、記録物				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート、記録物				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:レポート、記録物				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:レポート、記録物				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:レポート、記録物				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:レポート、記録物				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート、記録物				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート、記録物				
[教科書(ISBN)] 各教員から適宜提示する。実習要項、プリントは別途配布する。				
[参考書(ISBN)] 適宜指導教員が紹介する。				

P11200870 [NB4-010]

科目名	地域看護活動論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	小路 浩子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 1.地域看護および公衆衛生看護活動における看護の基本と展開方法を理解する。 2.各ライフステージ、発達課題、健康レベル、場の特性に応じた保健活動を理解する。 3.対象別保健活動の法的根拠や制度、関係機関との連携、社会資源の活用について理解する。				
[授業概要] わが国における健康課題と地域特性・対象特性との関連を理解すると共に、課題解決にむけた地域看護活動を学ぶ。地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象の特性にあわせて展開されている看護活動を学ぶ。さらにグローバルな視点を持つために、国際・災害看護についても学ぶ。母子保健・成人保健・高齢者保健・精神保健・障害者（児）保健・難病保健・感染症対策・国際看護・健康危機管理（災害看護含む）・産業保健・学校保健・歯科保健におけるヘルスケアシステムや施策、関係法規、社会資源等と保健活動を学ぶ。				
[準備学修（授業前後の主体的な学修）] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習を合わせて4時間程度行うこと。				
[授業計画] 1.(4/10金4限)地域看護の考え方と位置づけ：各ライフステージにおける発達課題と看護、ライフステージにおける保健・医療・福祉の構造、法律・制度を理解する 2.(4/17金4限)母子保健活動① 母子保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 3.(4/17金5限)母子保健活動② 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援について学ぶ 4.(4/24金4限)成人保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 5.(4/24金5限)産業保健における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 6.(5/1金4限)高齢者保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 7.(5/1金5限)感染症保健における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 8.(5/8金4限)障害者保健活動① 障害者（児）保健における障害の定義、主要な概念、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 9.(5/8金5限)障害者保健活動② ー共生社会・地域づくりの視点からー 実際の活動事例をもとに異なる世代や健康レベルの人々が繋がり合える取組み、地域づくりについて考える 10.(5/15金4限)難病保健における難病の定義、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 11.(5/15金5限)精神保健福祉における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 12.(5/22金4限)健康危機管理における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 13.(5/22金5限)国際看護（保健）における社会背景、法律、制度、保健活動について学ぶ （学外特別講師・小路浩子） 14.(5/29金4限)学校保健における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ 15.(5/29金5限)歯科保健における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ まとめ：地域における多様な看護活動を考える 16.(6/5金4限)試験				
使用教室 F210				
[成績評価方法] 筆記試験（70%）：試験回収後、解説を行う 小テスト（20%：2回実施予定）：テスト回収後、解答と解説を行う 授業態度（10%）				
[オフィスアワー（質問等の受付方法）] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200360 [NB3-006]

科目名	地域看護活動論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	小路 浩子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、小テスト、授業態度				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:筆記試験、小テスト				
[教科書(ISBN)] 「標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動」第4版 著者名:松田正己 出版社:医学書院 (978-4-260-03187-5) 「国民衛生の動向2017/2018」厚生統計協会				
[参考書(ISBN)] 随時、紹介				

P11200360 [NB3-006]

科目名	治療看護論	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	元木 絵美、奥井 早月、三苫 美和、米澤 珠子、西原 詩子、長井 友利子、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.看護の対象となる人に関心を持つことができる。 2.看護ヘルスアセスメントの目的と意義がわかる。 3.看護ヘルスアセスメントを計画、実施し、看護の対象となる人の反応をとらえることができる。 4.薬物療法を中心とする治療支援技術(薬物療法や効果判断に関する検査、治療選択における自己決定、病気をとらえていくうえでの情報管理など)を学び、看護の役割について考えることができる。				
〔 授業概要 〕 本科目は、「人体のしくみと機能」「疾病と治療」などで学んだ知識を活用し、看護の対象となる人の反応をとらえる方法を学ぶ。具体的には、フィジカルアセスメントや看護ヘルスアセスメントを学生同士で計画・実践したり、薬物療法を中心とする治療支援技術について考えたりすることを通して、人の健康回復を支援するために必要な知識と技術を習得することを目的とする。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習と復習をあわせて2時間程度。 事前課題と事後課題の内容については、第1回目の演習時に伝える。 既習科目の中でも特に、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、看護学概論、生活概論、生活援助論を復習すること。同学期に学ぶ疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学との関連にも関心を持って参加すること。				
〔 授業計画 〕 1.治療看護論で学ぶこと(4/8・3限・F310)(担当者:元木) 看護ヘルスアセスメントの目的と意義 2.酸素をとり込む機能をアセスメントする技術(4/15・3限・F310とF417)(担当者:元木・西原・奥井・三苫・大口) 脳が得た情報を元に指令を出し、呼吸筋が収縮する。空気が器官を通して肺へ入り、肺胞でガス交換を行う。その後酸素は、血液を介して全身を巡り、細胞との間でガス交換が行われるといった酸素をとり込む機能について、アセスメントする技術を学ぶ。 3.アセスメント技術の実践(4/15・4限・F417)(担当者:元木・西原・奥井・三苫・大口) 酸素をとり込む機能をアセスメントする技術を学生同士で実践し、フィードバックしあう。 4.身体の恒常性を維持する(循環)機能をアセスメントする技術(4/22・3限・F310とF417)(担当者:元木・西原・三苫・大口) 酸素や栄養など、とり込んだものを循環・流通する機能をアセスメントする技術を学ぶ。 5.アセスメント技術の実践(4/22・4限・F417)(担当者:元木・西原・三苫・大口) とり込んだものを循環・流通する機能をアセスメントする技術を学生同士で実践し、フィードバックしあう。 6.動く機能をアセスメントする技術(4/29・3限・F310とF417)(担当者:元木・西原・奥井・三苫) 脳から出された指令が筋肉に伝わり、筋肉が弛緩・収縮し、関節が動くという、人が自由に生活するにあたり欠かせない運動機能について、アセスメントする技術を学ぶ。 7.アセスメント技術の実践(4/29・4限・F417)(担当者:元木・西原・奥井・三苫) 動く機能をアセスメントする技術を学生同士で実践し、フィードバックしあう。 8.身体の恒常性を維持する(神経性調節)機能をアセスメントする技術(5/13・3限・F310とF417)(担当者:元木・米澤・大口) 末梢にある感覚器と中枢神経の間で情報がやり取りされ、身体が反応を表現するといった脳神経機能をアセスメントする技術を学ぶ。 9.アセスメント技術の実践(5/13・4限・F417)(担当者:元木・米澤・大口) 脳神経機能をアセスメントする技術を学生同士で実践し、フィードバックしあう。 10.栄養を摂り込み、不要なものを排泄する機能をアセスメントする技術(5/27・3限・F310とF417)(担当者:元木・米澤・大口) 食べ物や咀嚼して飲み込み、栄養を消化・吸収して蓄えるといった、人が生きていく上で欠かせない栄養を供給する機能について、アセスメントする技術を学ぶ。 11.アセスメント技術の実践(5/27・4限・F417)(担当者:元木・米澤・大口) 栄養を摂りこみ、不要なものを排泄する機能をアセスメントする技術を学生同士で実践し、フィードバックしあう。 12.身体を守る機能をアセスメントする技術(6/3・3限・F310とF417)(担当者:元木・米澤・大口) 身体は皮膚によって区別され、身体の内側は維持されている。また皮膚は、外側から侵入する異物から身体を守っている。これらの機能をアセスメントする技術を学ぶ。 13.問診の実践と記録(6/3・4限・F417)(担当者:元木・米澤・大口) 看護の対象となる人の健康状態を明らかにするために問診技術を実践する。問診に含むべき要素や問診技術のポイントを学ぶ。 14.生命を維持する技術(Aクラス:6/10・3限・F419、Bクラス:6/10・4限・F419)(担当者:大口・長井・米澤) 急に倒れた人に対して、その場に居合わせた人が救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当のことを一次救命処置(Basic Life Support:BLS)という。成人および子どもを対象としたBLSに必要な知識と、適切な技術を学ぶ。 15.生活の質(Quality of Life:QOL)を維持する技術(Aクラス:6/10・4限・F310、Bクラス:6/10・3限・F310)(担当者:元木) 薬物を体内に投与することにより、病気の原因を除去する、あるいは起きている症状の緩和を図り、対象者のQOLを促進する方法が薬物療法である。薬物療法にかかわる看護師の役割について考察する。 16.筆記試験(6/17・3限・F310)				
〔 成績評価方法 〕 学習した知識を問う筆記試験(70%)と、技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)(30%)を総合的に評価する。 事前課題と事後課題については、教員が添削して返却する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200550 [NB2-015]

科目名	治療看護論	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	元木 絵美、奥井 早月、三苫 美和、米澤 珠子、西原 詩子、長井 友利子、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:学習した知識を問う筆記試験と、技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:学習した知識を問う筆記試験と、技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:学習した知識を問う筆記試験と、技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:学習した知識を問う筆記試験と、技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:学習した知識を問う筆記試験と、技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加態度)				
[教科書(ISBN)] 日常生活行動からみるヘルスアセスメント -看護形態機能学の枠組みを用いて- 著者名:大久保暢子 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1985-0) フィジカルアセスメントがみえる 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4896325669)				
[参考書(ISBN)] 実践基礎看護学 著者名:中西睦子監修 出版社:建帛社 (978-4818019850)				

P11200550 [NB2-015]

科目名	治療療養支援技術演習	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	横内 光子、藤原 由子、元木 絵美、奥井 早月、洪 愛子、米澤 珠子、長井 友利子、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.看護技術の対象となる人の身体機能や生活に合わせた看護技術の展開を、考えることができる。 2.演習で学んだ看護技術を、練習用モデル人形に正確に実施することができる。 3.看護技術の根拠を追求する姿勢や、仲間と協力して学ぶ態度を身につけることができる。				
〔 授業概要 〕 本科目では、医療機関で治療を受ける人の健康回復に必要な看護技術（静脈内注射、筋肉注射、輸液管理、酸素療法、吸引、導尿）と、健康状態をモニタリングするために必要な看護技術（静脈採血、心電図）の習得を目指す。さらに、看護技術の対象となる人の身体機能や生活に合わせて看護技術を展開することができるよう、看護技術の根拠を追求する姿勢や態度についても学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各回、予習と復習をあわせて2時間程度。事前課題の内容については、演習前にmanabaで伝える。 既習科目のなかでも特に、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、看護学概論、生活概論、生活援助論、疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学を復習しておくこと。				
〔 授業計画 〕 1.静脈採血に関する知識(Ａクラス:4/8・1限・F419／Ｂクラス:4/8・2限・F419)(担当者:長井・藤原・米澤・大口) 医療機関で静脈採血が必要とされる状況を知り、静脈採血を安全に行うために必要な知識を学ぶ。また使用する道具の選び方、針を穿刺する部位や刺入角度など静脈採血技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。 2.心電図(Ａクラス:4/8・2限・F417／Ｂクラス:4/8・1限・F417)(担当者:奥井・元木) 心電図を記録する目的を知り、心電図を記録する方法と心電図の読み方を学ぶ。 3.清潔操作(Ａクラス:4/15・1限・F210／Ｂクラス:4/15・2限・F210)(担当者:洪・奥井) 医療器材を適切に使用するために必要な消毒と滅菌、清潔区域と不潔区域などの定義を学び、目的に応じて必要な無菌操作を実施できるよう、滅菌物の取り出しや滅菌包みの開け方、滅菌手袋を装着する技術のポイントを学ぶ。 4.静脈採血(Ａクラス:4/15・2限・F419／Ｂクラス:4/15・1限・F419)(担当者:長井・藤原・元木・米澤・大口) 1で学んだ知識と技術を活用し、静脈採血を学生同士で行う。 5.筋肉注射(Ａクラス:4/22・1限・F205／Ｂクラス:4/22・2限・F205)(担当者:奥井・元木) 筋肉内に薬物を安全に注入するために必要な知識を学ぶ。アンプルからの薬液の吸い上げ、滅菌操作、針を穿刺する部位と刺入角度、筋肉内に薬液を注入する速度や主な合併症など筋肉注射技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。 6.静脈内注射(Ａクラス:4/22・2限・F419／Ｂクラス:4/22・1限・F419)(担当者:米澤・藤原・大口) 静脈内に薬物を安全に注入するために必要な知識を学ぶ。バイアルからの薬液の吸い上げ、滅菌操作、翼状針の固定方法と薬液を注入する速度や主な合併症など、静脈内注射技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。 7.酸素療法(Ａクラス:4/29・1限・F419／Ｂクラス:4/29・2限・F419)(担当者:元木・奥井) 酸素吸入療法が必要になる患者の状態、酸素吸入療法に使用される道具や、酸素ポンベの扱い方など、酸素吸入療法を効果的に行うための知識と技術を学ぶ。 8.輸液管理(Ａクラス:4/29・2限・F205／Ｂクラス:4/29・1限・F205)(担当者:藤原・米澤・大口) 輸液療法が必要になる患者の状態を理解し、輸液を管理するために必要な知識を学ぶ。人の体液バランスの計算のしかた、輸液療法に関する滴下数を調整する技術や側管から薬物を注入する技術のポイントを学ぶ。 9.導尿・膀胱留置カテーテル法(Ａクラス:5/13・1限・F417／Ｂクラス:5/13・2限・F417)(担当者:米澤・藤原) 導尿が必要になる患者の状態を理解し、合併症を予防するなど安全に導尿を行うための知識を学ぶ。滅菌操作、患者の羞恥心や苦痛への配慮など導尿技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。 10.吸引(Ａクラス:5/13・2限・F419／Ｂクラス:5/13・1限・F419)(担当者:元木・横内・大口) 人工気道があるなど、呼吸機能が低下している患者を対象とした気管吸引技術に必要な知識と技術を学び、練習用モデル人形に行う。 11.技術チェック①(6/10・1限・F210に集合、F417とF419とF421で技術チェックを実施する)(担当者:米澤・元木・横内・藤原・奥井・長井・大口) 採血、心電図の技術を練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。 12.技術チェック②(6/10・2限・F210に集合、F417とF419とF421で技術チェックを実施する)(担当者:米澤・元木・横内・藤原・奥井・長井・大口) 筋肉注射、静脈内注射技術の技術を練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。 13.技術チェック③(6/17・1限・F210に集合、F417とF419とF421で技術チェックを実施する)(担当者:米澤・元木・横内・藤原・奥井・長井・大口) 輸液管理、酸素療法の技術を練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。 14.技術チェック④(6/17・2限・F210に集合、F417とF419とF421で技術チェックを実施する)(担当者:米澤・元木・横内・藤原・奥井・長井・大口) 導尿、気管吸引の技術を練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。 15.最終技術チェック(6/24・2限・F419)(担当者:米澤・元木・横内・藤原・奥井・長井・大口) これまで学習した看護技術について、手順や技術ポイントを踏まえて練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。 16.筆記試験(6/24・1限・F210)				
* 4/8、4/15、4/22、4/29、5/13の5限は、当日の演習で学んだ技術を練習できるようF419を開放する。 * 6/3の1～2限は、学んだ全ての技術を練習できるようF417とF419を開放する。				
〔 成績評価方法 〕 筆記試験(30%)、技術チェックの結果(40%)、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況(30%)を総合して評価を行う。技術チェックの結果は、授業中にフィードバックを行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200560〔NB3-011〕

科目名	治療療養支援技術演習	前期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	横内 光子、藤原 由子、元木 絵美、奥井 早月、洪 愛子、米澤 珠子、長井 友利子、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:筆記試験、技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:筆記試験、技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:筆記試験、技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験、技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:筆記試験、技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:筆記試験、技術チェックの結果、演習への参加態度と事前学習や事後学習提出状況				
[教科書 (ISBN)] 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第17版 出版社:医学書院 (978-4260027601) 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 出版社:メディックメディア (978-4896327342)				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11200560 [NB3-011]

科目名	特別化学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	上曾山 博			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 高等学校で学んだ化学の基礎を整理・復習すると共に、専門科目に必要な基礎知識としての化学を理解する。				
[授業概要] 生物は数多くの物質によって構成されていることから、今後、生化学を学ぶ上での基礎となる有機、無機化学について知識を深める為に、主に有機化学について講義を行う。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回、前回の授業内容についての小テストを行うので、授業内容の理解を深めておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. はじめに 2. 元素 3. 分子と原子 4. 化学結合 5. 炭素化合物 6. 有機化合物－糖質 7. 有機化合物－脂質 8. 有機化合物－アミノ酸 9. 有機化合物－タンパク質 10. 核酸 11. 酸と塩基 12. 化学平衡 13. 拡散 14. 化学反応 15. まとめ				
[成績評価方法] 講義毎の小テスト(40%)、試験(60%)の合計点で評価する。また、試験の答案を回収後、manabaにて解答例を掲示する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200020 [NS1-001]

科目名	特別化学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	上 曾 山 博			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験 学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験 [教科書 (ISBN)] なし [参考書 (ISBN)] なし				

P11200020 [NS1-001]

科目名	特別生物	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	上曾山 博			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 専門科目の理解に必要な不可欠な生物学の基本的な知識を理解する。更に医療現場に導入されつつある先端バイオ技術に対応できるように、細胞生物学や分子生物学についても理解する。				
[授業概要] 医療関連の職種において必要不可欠な生物学の基礎的および発展的な知識や生命の基本となる細胞とその活動について講義を行う。又、最近の医療現場の状況をふまえて、最新の細胞生物学や分子遺伝学についても述べる。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回、前回の授業内容についての小テストを行うので、授業内容の理解を深めておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. はじめに 2. 生命の起源 3. 細胞の生物学 4. 電子伝達系 5. 酵素と反応速度 6. 遺伝子と遺伝情報 7. 遺伝子の構造と発現 8. 細胞分裂と分化・再生 9. 組織と階層性 10. 情報伝達 11. 消化・吸収 12. ホメオスタシス 13. 生体防御機構 14. 遺伝子組換え 15. まとめ				
[成績評価方法] 講義毎の小テスト(40%)、試験(60%)の合計点で評価する。また、試験の答案を回収後、manabaにて解答例を掲示する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200010 [NB1-001]

科目名	特別生物	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	上曾山 博			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験 学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト, 試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験 [教科書 (ISBN)] なし [参考書 (ISBN)] なし				

P11200010 [NB1-001]

科目名	発達心理学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	伊藤 篤			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 生涯にわたって発達する人間の姿を個人・集団(組織)・地域社会のエンパワメントという観点から理解できるようになる。				
[授業概要] 従来、人は成人期を過ぎると様々な面で衰退すると捉えられていた。しかし、私たちは加齢とともに、自己の変化と外界との関係を踏まえて、最適な行動を選択・工夫することによって自己を発達させつづける存在であることが明らかにされてきた。そこで、期間の前半は、科学的根拠にもとづきながら、成人期に至るまでの乳幼児・子ども・青年がどのように自己を発達させていくのかを、彼らが育つ環境(家庭環境や教育環境など)のあり方との関係の中で論じていく。期間の後半は、大人が就職・結婚・出産・育児、子の独立、退職などの重要なライフイベントを契機に、どのように自己を発達させていくのかを、社会の変化も踏まえながら論じる。最終的には、人の外界に対する統制感(自己決定)と積極的社会参加が、生涯発達にとって主要な機能であることを理解する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業の予定に応じて、事前にキーワードを提示するので、各自それらを事前に調べておくこと。また、授業中に書いて提出するミニコメントが不十分な内容であったと自己判断した時は、次週に再提出を認める。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. オリエンテーション／発達心理学を学ぶ意義 2. 自ら環境に働きかける乳幼児(1):ひと・もの・ことの理解 3. 自ら環境に働きかける乳幼児(2):社会の一員となっていく過程 4. 自己理解・他者理解にもとづく子どもの社会性 5. 多様な学びを通して発達する子どもの有能さ 6. 教育システムを通した子ども・青年の自己形成 7. これまでの自分とこれからの自分のはざまで悩む青年 8. 講義前半のまとめ(+中間コメント) 9. 大人の自己形成(1):就業を契機とした役割アイデンティの発達 10. 大人の自己形成(2):学校での有能さ・職場での有能さ 11. 大人の自己形成(3):妊娠・出産・育児と女性のエンパワメント 12. 大人の自己形成(4):育児・家事参加を通した男性のエンパワメント 13. 大人の自己形成(5):ワークライフバランスと夫婦関係の成熟 14. 大人の自己形成(6):地域活動への参加を通したエンパワメント 15. 講義全体のまとめ(+最終コメント)				
[成績評価方法] 毎回の講義時間の最後に記述・提出する「ミニコメント」の内容(65%)、講義期間の中ごろに提出する「中間コメント」の内容(15%)、「最終コメント」の内容(20%)によって評価する。なお、ミニコメントおよび中間コメントについては次の回に、最終コメントについてはその日に、解説等をおこないます。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	発達心理学	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	伊藤 篤			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:コメントの記載内容 学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:コメントの記載内容 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:コメントの記載内容 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:コメントの記載内容 [教科書 (ISBN)] 教科書は使用しない。毎回、講義内容に応じたレジメ・資料を配布する。 [参考書 (ISBN)] 講義の進展に応じて、適宜講義中に参考文献・資料等を紹介する。				

P11200040 [NH1-001]

科目名	フィジカルフィットネス	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野之上 操			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 日常生活に必要な健康や体力の維持・向上を図る。				
[授業概要] より良く幸せで充実した人生を送るためには、多様な面から探求し実践していくことが必要である。古来より、「心身一如」や「健全なる精神には健全なる肉体が宿る」といわれるように、体と心は一對のものとして考えられてきた。昨今は、ストレス社会といわれ、心身のバランス(ボディ・マインド・スピリチュアル)の大切さをただ単に頭で理解しているだけではなく、自分のからだと対話することが求められている。それは、自身の体の気づきと心の気づき…この「気づき」学習の方法として、主に太極拳動作を用いての身体操作法、呼吸法、ヨガや気功法(中国医療気功)等を学び、人間本来が持っている自然治癒力を高め、良い生活習慣を身につけることを実践していく。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業に体調よく参加できるように日々の生活を送ること。				
[授業計画] 1. 基本姿勢・呼吸法について (9/24) 2. 太極拳基本動作実践(1) (10/1) 3. 太極拳基本動作実践(2) (10/8) 4. 中国医療気功実践(1) (10/15) 5. 中国医療気功実践(2) (10/22) 6. ヨガ基本と実践(1) (10/29) 7. ヨガ基本と実践(2) (11/5) 8. まとめ (11/12)				
[成績評価方法] 毎回授業後の振り返りレポート(50%)、実技(30%)、参加態度姿勢(20%)				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200090 [NI2-001]

科目名	フィジカルフィットネス	後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野之上 操			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:振り返り記入・授業参加姿勢				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:振り返り記入・授業参加姿勢				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:振り返り記入・授業参加姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:振り返り記入・授業参加姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:振り返り記入・授業参加姿勢				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:振り返り記入・授業参加姿勢				
[教科書 (ISBN)] なし				
[参考書 (ISBN)] なし				

P11200090 [NI2-001]

科目名	保健統計学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	宇賀 昭二			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1.看護職にとって必要とされる基本的な保健統計調査の概要を説明できる。 2.健康科学における調査の設計・実施・分析・評価の方法が理解できる。				
[授業概要]				
健康の維持・増進、あるいは疾病予防などに関する種々のデータを理解するためには統計的手法が用いられることが多いが、このような分野を保健統計と呼ぶ。本授業科目ではまず統計学の基礎を学ぶと共に、わが国の衛生関係の統計資料の概要を理解する。さらに人々の健康に関連した指標や疾病予防の観点から、保健・医療における実践や研究に不可欠な統計的データの収集、分析方法などについての基礎的知識や技術を学習する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
1.前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。 2.日頃から授業に関係するニュース等に関心を持ち学んでおくこと。 3.各回、予習復習あわせて4時間程度				
[授業計画]				
1. 看護における保健統計学の役割(9/23, 3限) 2. 保健指標(死亡率、罹患率と有病率、指標の標準化、生命表、年次推移の観察)(9/23, 4限) 3. 保健統計の見方(1)人口統計: 人口静態統計と人口動態統計(9/24, 3限) 4. 保健統計の見方(2)疾病統計: 患者調査と国民生活基礎調査(9/24, 4限) 5. 保健統計の見方(3)その他(感染症発生動向,学校保健統計)(12/16, 3限) 6. 衛生統計の種類と意義・わが国の現状と国際比較(12/16, 4限) 7. 基本となる保健統計(12/17, 1限) 8. 母集団と標本(標本抽出法)(12/17, 2限) 9. データ整理(1)(平均値、最頻値、中央値)(12/23, 3限) 10. データ整理(2)(分散、標準偏差、範囲)(12/23, 4限) 11. 平均値の差の検定(t検定)及び割合の検定(χ ² 検定)(1/6, 3限) 12. 相関と回帰直線(1/6, 4限) 13. 看護のアンケート調査法(1)(調査対象の定義や実施)(1/7, 3限) 14. 看護のアンケート調査法(2)(質問事項、点推定と区間推定)(1/7, 4限) 15. まとめ(1/13, 3限) 16. 試験(1/27, 3限)				
[成績評価方法]				
成績の評価は学期末試験の結果(90-100%)と授業中の積極的な発言(0-10%)に基づいて行う。 試験を回収後、正解の解説を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200150 [NI3-001]

科目名	保健統計学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	宇賀 昭二			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験 [教科書 (ISBN)] なし(講義中に資料を手渡す) [参考書 (ISBN)] 国民衛生の動向(購入済みのものを用いる) 著者名:厚生労働統計協会 出版社:厚生労働統計協会 (978-4-7620-2539-6)				

P11200150 [NI3-001]

科目名	保健統計学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	駒井 浩一郎			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標]				
1. 目的に応じた統計処理を選択、実行できるようになる。				
2. 保健統計調査の概要を説明できる。				
[授業概要]				
健康の維持・増進、あるいは疾病予防などに関する種々のデータを理解するためには、集団を理解するための統計的手法が必要である。本授業科目ではまず統計学の基礎を学ぶと共に、わが国の衛生関係の統計資料の概要を理解する。さらに人々の健康に関連した指標や疾病予防の観点から、保健・医療における実践や研究に不可欠な統計的データの収集、分析方法などについての基礎的知識や技術を学習する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]				
1.前回の授業内容を復習理解して、次回授業の予習をしておくこと。毎回、予習復習合わせて4時間程度。				
2.日頃から授業に関係するニュース等に関心を持ち学んでおくこと。				
[授業計画]				
1. 序論 (9/21,1限)				
2. データの種類と代表値 (9/21,2限)				
3. 代表的な確率分布 (9/28,1限)				
4. 相関分析、回帰分析 (9/28,2限)				
5. 推定と検定 (10/5,1限)				
6. t検定 (10/5,2限)				
7. 順序があるデータの検定 (10/12,1限)				
8. 分類されたデータの検定 (10/12,2限)				
9. 人口静態統計 (10/19,1限)				
10. 人口動態統計 (10/19,2限)				
11. 基幹統計、基礎的な統計調査 (10/24,1限)				
12. 医療経済統計、疾病・障害の定義と分類、情報処理 (10/24,2限)				
13. 演習1 各種検定に関する国家試験分析 (10/26,1限)				
14. 演習2 人口統計＆保健統計調査に関する国家試験分析 (10/26,2限)				
15. 総論 (10/31,1限)				
16. 試験 (10/31,2限)				
[成績評価方法]				
成績の評価は試験結果に基づいて行う。試験の答案を回収後、manabaにて解答を掲示する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]				
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	保健統計学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	駒井 浩一郎			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。				
成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力				
成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力				
成績評価方法:試験				
[教科書 (ISBN)]				
ていねいな保健統計学 著者名:白戸亮吉、鈴木研太 出版社:羊土社 (978-4-7581-0972-7)				
[参考書 (ISBN)]				
なし				

P11200150A [NI3-001]

科目名	母性看護論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	田村 康子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 母性看護の対象を理解し、基本的知識を習得すると共に、母子とその家族に関する法律、施策、社会資源を学ぶ。周産期における母子および家族の心身社会的経過および健康状態のアセスメントと看護ケアを理解する。				
〔 授業概要 〕 周産期にある女性と新生児、父親、家族の健康に関連する諸問題を概観し、次世代の健全な育成を支援する母性看護の役割を理解する。愛着理論や相互作用、役割移行理論など、母性・父性とは何かを考え、母子の健康を理解する上で基盤となる諸理論や母子保健関連法律、施策、社会資源を学ぶ。周産期の母子に生じる生理的变化や正常からの逸脱、それらに伴う対象の反応に関する理解を深め、これらを体験しながら生活している対象が、自らの能力を活かしてこの時期をより健康に過ごすために必要な看護援助ができる能力を養う。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 女性の身体に関する解剖と生理について十分復習すること、周産期学、新生児については疾病と治療Ⅵ(小児医学)とも関連させながら予習や復習を行い、授業に参加すること。成人における内分泌の生理も復習しておくことで、妊娠期の内分泌変化について理解しやすくなります。				
〔 授業計画 〕 1.母性看護とは何か:母性の定義、母性看護に関連する概念・理論(母子相互作用、役割移行、母親役割取得過程に関する理論)(9/22・Ⅲ限) 2.生殖器の形態と機能:女性の外性器・内性器、男性生殖器、月経周期 妊娠の成立:妊娠の定義、妊娠の成立、性分化、妊娠の診断、妊娠時期と分娩予定日の診断、妊娠期間の分類(9/22・Ⅴ限) 3.妊娠による身体の変化:生殖器、内分泌、全身における変化(9/24・Ⅲ限) 4.胎児と胎児付属物:胎児の発育と生理、胎児付属物の機能と生理、胎児の健康状態評価 妊娠による心理社会的変化:妊娠初期・中期・後期における妊婦や家族の情緒的变化(9/29・Ⅴ限) 5.妊娠期における看護①:妊娠期のヘルスアセスメント、セルフケアと支援(栄養、排泄、清潔、衣生活、活動と休息など)(10/1・Ⅲ限) 6.妊娠期における看護②:マイナートラブルと対応、出産育児準備(10/6・Ⅴ限) 7.分娩の生理:分娩の定義、分類、分娩の3要素、分娩機序、正常分娩の経過(10/13・Ⅲ限) 8.分娩期における心身の状態と看護①:分娩が母児に及ぼす影響、分娩経過に影響する因子、産痛、産婦と家族の心理的特性(10/13・Ⅴ限) 9.分娩期における心身の状態と看護②:分娩経過のアセスメント、分娩各期のニーズや健康課題に応じた看護の変化と看護(10/15・Ⅲ限) 10.産褥期の身体的特徴:内分泌、性器の復古、全身に関する変化、母乳分泌、アセスメントの視点(10/20・Ⅲ限) 11.産褥期のニーズや健康課題に応じた看護:産褥期の健康課題、産褥期の心理的特徴と支援、退院に向けた生活調整への支援や社会資源(10/20・Ⅴ限) 12.母乳育児支援:母乳栄養の意義、授乳のアセスメントと看護(10/22・Ⅲ限) 13.新生児の生理:新生児の定義、分類、子宮外環境への適応と生理(10/27・Ⅲ限) 14.新生児の看護:出生直後および24時間以内のケア、早期新生児期におけるケア(10/27・Ⅴ限) 15.健康リスクを持つ母子への看護 (10/29・Ⅲ限) 16.試験(11/5・Ⅲ限)				
〔 成績評価方法 〕 試験(100%) 本授業では原則として授業開始後30分を越えて遅れて入室した場合は欠席とする。また授業出席時間が60分に満たない場合は早退として取り扱わない。 授業後に学生がマナバに提出した授業感想や質問に基づき、次回授業冒頭にフィードバックする。試験結果については、希望する者に個別に対応する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200700 [NB2-022]

科目名	母性看護論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	田村 康子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／（プロフェッショナリズム）生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-2 ／（科学的根拠に基づいた課題対応能力）人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3 ／（人が病むことへの関心と理解）生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／（看護の表現力）自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／（倫理の実践と道徳的態度）看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書（ISBN）] 母性看護学Ⅰ概論 著者名:有森直子編著 出版社:医歯薬出版株式会社 （978-4-263-23668-0） 母性看護学Ⅱ周産期各論 著者名:有森直子編著 出版社:医歯薬出版株式会社 （978-4-263-23669-7）				
[参考書（ISBN）] 授業中に適宜紹介する。				

P11200700 [NB2-022]

科目名	学びのグループゼミⅠ	前期～後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野並 葉子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三吉 義和、洪 愛子、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 学びのグループへの参加を通して、看護や看護の対象となる人々へ関心を向けることができる 2. 看護に向き合う姿勢や態度を学ぶことができる 3. 第Ⅰ段階の実習に向けての準備性(レディネス)を整えることができる 4. 自身の将来への大まかな見通しが想像できる				
〔 授業概要 〕 看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。 学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各11～12名ずつの45名前後からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。 学びのグループゼミⅠでは主に、自身あるいは2～4年次生の実習体験を聴くことを通して、看護の対象となる人やその人の生活状況、そこで提供されている看護について考えを深めていく。また自身も学びのグループのなかで、年間学習目標や実習体験を表明する機会を得て、他者の考えを聴く姿勢や自身の考えを相手に伝える方法を学んでいく。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 学びのグループゼミⅠの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 学びのグループゼミⅠの意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行う。(4月9日木曜日5限) 2. 自身の将来を想像しながら、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月16日金曜日5限) 3. 第Ⅰ段階(コミュニティ看護実習Ⅰ／育成看護実習Ⅰ)の実習における2年次生の体験やディスカッションを、興味をもったことや疑問に思ったことをメモに取るなどして関心を持って聴く。また、疑問に思ったことやわからないことを積極的に質問し、ディスカッションに参加する。(4月23日木曜日5限) 4. コミュニティ看護実習Ⅰ／育成看護実習Ⅰ及び医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)における2年次生・3年次生の看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、わからないことを積極的に質問し、ディスカッションに参加することで学びを共有する。(5月7日木曜日5限) 5. 医療看護実習Ⅰで出会った患者の入院環境、受けていた看護など、見学したことを学びのグループで発表・共有し、2年次生からアドバイスをもらいながらディスカッションを行う。グループメンバーに見学して分かったことがより深く伝わるよう、発表の内容や方法を工夫する。(9月17日木曜日5限) 6. 医療看護実習Ⅰ及び第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)における看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、わからないことを積極的に質問し、ディスカッションに参加することで学びを共有する。(9月24日木曜日5限) 7. 医療看護実習Ⅱ(急性期・慢性期)／育成看護実習Ⅱ(小児・母性)の実習における3年次生の看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、わからないことを積極的に質問しながら、ディスカッションに参加する。(12月19日土曜日1限) 8. 3年次生の発表やアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見から、ディスカッションに参加することを通して、看護や看護の対象となる人々へ関心を高め、次年度に向けての準備を行う。(12月19日土曜日2限) 使用教室 F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度(60%)、課題レポートの内容(40%)を総合的に評価する。 目標到達度は、学生の自己評価を基にグループ面接時に助言する。課題レポートについても、グループ面接時に助言する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200820 [NI1-003]

科目名	学びのグループゼミ I		前期～後期	演習	1 単位
サブタイトル					
担当者	野並 葉子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三吉 美和、洪 愛子、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢				
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]					
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート					
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート					
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート					
[この授業と関連する大学全体の教育目標]					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート					
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 目標到達度、課題レポート					
[教科書 (ISBN)] なし					
[参考書 (ISBN)] 適宜授業内で紹介する。					

P11200820 [NI1-003]

科目名	学びのグループゼミⅡ	前期～後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野並 葉子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三若 美和、洪 愛子、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			

〔 実務経験のある教員による授業 〕
○

〔 到達目標 〕
1. 看護についての問いを持ち、聴くことや書くことを通して、「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につけることができる
2. 学びのグループへの参加を通して、看護実践の思考過程と倫理的判断について考えることができる
3. 学びのグループへの参加を通して、看護の役割や拡がり（予防から治療、地域・在宅への看護の拡がり）に気づくことができる

〔 授業概要 〕
看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。
学びのグループゼミは、8つの学びのグループ（1グループは1～4年次生が各11～12名ずつの45名前後からなる）を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。
学びのグループゼミⅡでは主に、診断や治療のために入院している人への看護実践（第Ⅱ段階の実習）を学びのグループで発表・共有し、自他の看護実践における学びを記述することを通して、看護の役割や拡がりを理解するとともに、看護の思考過程や倫理的判断について考える。

〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕
学びのグループゼミⅡの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。
各回、予習復習合わせて2時間程度。

〔 授業計画 〕
1. 学びのグループゼミⅡの意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行う。（4月9日木曜日5限）
2. 1年次に掲げた学習目標と第Ⅰ段階の実習経験を踏まえ、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。（4月16日金曜日5限）
3. コミュニティ看護実習Ⅰあるいは、成育看護実習Ⅰで出会った人々が生活していた環境、受けていた看護や支援など見学したことを1年次生にイメージできるような工夫をしながら学びのグループで発表し、自由にディスカッションを行う。（4月23日木曜日5限）
4. コミュニティ看護実習Ⅰ／成育看護実習Ⅰ及び医療看護実習Ⅱ（精神）／コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）での体験や看護実践を共有する場において、学習が深まるよう、他グループの発言に関心を持って聴くことや、質問することを通して「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につける。（5月7日木曜日5限）
5. 1年次生の医療看護実習Ⅰにおける体験を聴き、自身の知識や経験を生かして実習における思いや体験に共感を示しながらディスカッションに参加する。（9月17日木曜日5限）
6. 医療看護実習Ⅰ及び第Ⅲ段階の実習である総合実習（地域・在宅）での体験や看護実践を共有する場において、学びの記述を繰り返し、「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につける。（9月24日木曜日5限）
7. 医療看護実習Ⅱ（急性期・慢性期）／成育看護実習Ⅱ（小児・母性）の実習における3年次生の看護実践報告を聴き、予防や治療、退院後の地域における看護の役割について意識しながらグループディスカッションに参加する。（12月19日土曜日1限）
8. 3年次生の発表やアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見を聴いて学びを記述しながら、看護実践の思考過程と倫理的判断について考える。（12月19日土曜日2限）
使用教室 F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529

〔 成績評価方法 〕
目標到達度（60％）、課題レポートの内容（40％）を総合的に評価する。
目標到達度は、学生の自己評価を基にグループ面接時に助言する。課題レポートについても、グループ面接時に助言する。

〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

P11200830 [NI2-003]

科目名	学びのグループゼミⅡ	前期～後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野並 葉子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三若 美和、洪 愛子、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 適宜授業内で紹介する。				

P11200830 [NI2-003]

科目名	学びのグループゼミⅢ	前期～後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野並 葉子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三若 美和、洪 愛子、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.看護実践を表現すること、伝えることを通して、他者の存在により自己の学びを成長させることができる 2.学びのグループのディスカッションに参加し、看護実践の思考過程と倫理的判断を探究できる 3.看護専門職について考えることができる				
〔 授業概要 〕 看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。 学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各11～12名ずつの45名前後からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。 学びのグループゼミⅢでは主に、これまでの講義・演習と第Ⅱ段階の実習の学びの体験の進展を元に、看護実践事例のプレゼンテーション・ディスカッションを通して、他者に伝える力、企画する力を伸ばすとともに、看護専門職としての思考力を身につける。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 学びのグループゼミⅢの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 学びのグループゼミⅢの意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行う。(4月9日木曜日5限) 2. これまでの講義・演習や実習での経験を踏まえ、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月16日金曜日5限) 3. 医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の実習における看護実践を表現すること、伝えることを通し自己の学びを深める。また、ディスカッションを通して、看護実践の思考過程と倫理的判断についての学びを深める。(4月23日木曜日5限) 4. コミュニティ看護実習Ⅰ／育成看護実習Ⅰ及び医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の学びのグループでの学びをさらに深めることができるよう、体験や看護実践を共有する場において、これまでに学習した知識や自己の体験を活用しながらディスカッションに参加する。(5月7日木曜日5限) 5. 第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)における4年次生の看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、わからないことは積極的に質問しながら、ディスカッションに参加する。(9月17日木曜日5限) 6. 医療看護実習Ⅰ及び第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)での体験や看護実践を共有する場において、積極的に質問しながらディスカッションに参加する。また、看護実践の思考過程と倫理的判断についてこれまでに学習した知識や技術、経験を活用して質問し、検討すべき課題を提案したりするなど、グループ全体の学びを促進する。(9月24日木曜日5限) 7. 学びのグループで医療看護実習Ⅱ(急性期・慢性期)、育成看護実習Ⅱ(小児・母性)の看護実践を表現すること、伝えることを通し自己の学びを深める。さらにメンバーの意見も聴く中で、ディスカッションを深め、看護実践の思考過程と倫理的判断を探究する。(12月19日土曜日1限) 8. 話し合ったことについて発表し、学びのグループでの意見交換やアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見から、看護専門職について思考する。(12月19日土曜日2限) 使用教室 F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度(60%)、課題レポートの内容(40%)を総合的に評価する。 目標到達度は、学生の自己評価を基にグループ面接時に助言する。課題レポートについても、グループ面接時に助言する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200840 [NI3-005]

科目名	学びのグループゼミⅢ	前期～後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野並 葉子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三吉 美和、洪 愛子、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 適宜授業内で紹介する。				

P11200840 [NI3-005]

科目名	学びのグループゼミⅣ	前期～後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野並 葉子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三若 美和、洪 愛子、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.看護の学習者として自立することができる 2.学びのグループへの参加を通して、仲間と共同する重要性を学ぶことができる 3.看護を職業としていくことや将来のキャリアについて目標を持つことができる				
〔 授業概要 〕 看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。 学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各11～12名ずつの45名前後からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。 学びのグループⅣでは、1年次生、2年次生及び3年次生が行う第Ⅰ段階・第Ⅱ段階の実習経験の発表において、助言者の役割を引き受ける。さらに、看護を実践していく仲間や仲間と共同する重要性についても学ぶ。実習で抱えた臨床の看護課題への取り組みや、そのプロセスを発表して、看護の学習者として自立することについて考えを深め、看護を職業としていくことや将来のキャリアについて目標を見出す。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 学びのグループゼミⅣの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。 各回、予習復習合わせて2時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 学びのグループゼミⅣの意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行う。(4月9日木曜日5限) 2. これまでの講義・演習や実習での経験を踏まえ、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月16日金曜日5限) 3. 医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の学びのグループでの学びをさらに深めることができるよう、3年次生にアドバイスしながら、看護実践の思考過程と倫理的判断について話し合うべきテーマを提案するなどし、ディスカッションに参加する。(4月23日木曜日5限) 4. コミュニティ看護実習Ⅰ／育成看護実習Ⅰ及び医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)での体験や看護実践を共有する場において、これまでの経験や学びを踏まえて下級生にアドバイスする。(5月7日木曜日5限) 5. 第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)で抱えた臨床の看護課題を探索的に取り組んだプロセスと結果を報告する。3年次生に看護の学習者としての自立や看護を職業としていくことについて身をもって示し、将来のキャリアについて目標を見出す。(9月17日木曜日5限) 6. 医療看護実習Ⅰ及び第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)での体験や看護実践を共有する場において、これまでに学習した知識や自己の体験を活用しながら下級生にアドバイスを行い、仲間と共同する重要性を学ぶ。(9月24日木曜日5限) 7. 学びのグループで医療看護実習Ⅱ(急性期・慢性期)、育成看護実習Ⅱ(小児・母性)の実習における3年次生の看護実践報告を聴くことやディスカッションを積極的に行うことで、自己の学びを深める。(12月19日土曜日1限) 8. 話し合ったことについて発表し、学びのグループで意見交換やアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見から、看護を職業としていくことや将来のキャリアについて思考する。(12月19日土曜日2限) 使用教室 F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529				
〔 成績評価方法 〕 目標到達度(60%)、課題レポートの内容(40%)を総合的に評価する。 目標到達度は、学生の自己評価を基にグループ面接時に助言する。課題レポートについても、グループ面接時に助言する。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200850 [NI4-004]

科目名	学びのグループゼミⅣ	前期～後期	演習	1 単位
サブタイトル				
担当者	野並 葉子、藤原 由子、藤田 冬子、元木 絵美、東 ますみ、玉木 敦子、魚里 明子、内 正子、丸山 有希、牛越 幸子、田村 康子、大谷 利恵、高橋 秋絵、下敷領 須美子、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、三苫 美和、洪 愛子、笹谷 真由美、米澤 珠子、中岡 亜希子、西原 詩子、吉田 陽子、山本 千晴、長井 友利子、市川 久美子、記村 聡子、長野 弥生、荒金 英里子、小林 麻衣、間本 弘美、細川 由美子、大口 祐矢			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
学科DP番号／DP内容:看護3-2／(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:目標到達度、課題レポート				
[教科書(ISBN)] なし				
[参考書(ISBN)] 適宜授業内で紹介する。				

P11200850 [NI4-004]

科目名	慢性期看護論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	藤原 由子、奥井 早月、米澤 珠子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.成人期にある慢性疾患をもつ人をどのように理解していくかが分かる。 2.慢性期・終末期にある人の病気の体験や看護アセスメントから、健康障害による身体をどのように見ていくかが理解できる。 3.生活習慣病や難病、炎症性疾患、がんなどの慢性疾患にある人の健康の維持・回復、苦痛緩和への援助の方法を理解できる。				
〔 授業概要 〕 成人期にある人の特有な健康問題のうち、慢性期・終末期の健康障害と病気と共に生きる人の体験を理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について学ぶ。慢性期にある人の病気の体験や看護アセスメントから、健康障害による身体の変化を理解する。生活習慣病や難病、炎症性疾患、がんなどの慢性疾患の人の身体理解と事例展開を通して、健康の回復・苦痛の緩和への看護援助の理論と実践、成人期にある人の健康の増進、生活習慣病の予防の看護援助の理論と実践を理解する。さらに、健康障害により終末期にある人の理解と苦痛の緩和への看護援助の実践を学ぶことにより、治療とともに終末を迎える人や緩和治療について学ぶ。 慢性看護領域の臨床経験を有する教員が、事例を踏まえて身体理解、生活支援を通じた慢性病者の理解と看護について教授します。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 各授業において該当する教科書の内容を読んでくこと。また前回の授業内容を復習し、十分に理解したうえで次回の授業へ臨むこと。毎回、予習復習合わせて4時間程度を要する。				
〔 授業計画 〕 1. 成人看護学概論(藤原由子) 4月6日(月)3限 2. 慢性疾患の定義と特徴(藤原由子)4月6日(月)4限 3. 呼吸器疾患のある人の看護:在宅酸素療法、呼吸リハビリテーションにおける看護(藤原由子) 4月13日(月)3限 4. 肝疾患のある人の看護:慢性肝炎を抱えながら生きる人を支援する、肝硬変に至った患者の支援(藤原由子) 4月13日(月)4限 5. 心・血管疾患のある人の看護(1):虚血性心疾患・心不全のある人の身体理解、心臓リハビリテーションにおける看護(米澤珠子) 4月20日(月)3限 6. 心・血管疾患のある人の看護(2):循環器疾患のある人の事例における身体アセスメントと看護ケアの展開(米澤珠子) 4月20日(月)4限 7. 自己免疫疾患のある人の看護:自己免疫疾患のある人の身体理解、甲状腺機能亢進症の事例における看護ヘルスアセスメント(藤原由子) 4月27日(月)3限 8. 障害受容と疾病認識、障害に関するWHO等の定義、神経難病のある人の看護、病気の受容と在宅ケアの調整(藤原由子) 4月27日(月)4限 9. 病院における患者体験とヘルスケアシステム:慢性疾患の鍵となる問題(長期、不確か、多大な努力、重複疾患、侵害的、費用がかかる)と基本的方略(藤原由子) 5月11日(月)4限 10. セルフケア支援を促す患者教育:成人学習理論、自己効力を高めるための方略、患者のセルフケアを支援する教育的アプローチ(藤原由子) 5月18日(月)4限 11. がん看護総論(学外特別講師 がんセンター がん専門看護師 橋口周子先生) 5月25日(月)4限 12. 化学療法・放射線療法を受ける人の看護(藤原由子) 6月1日(月)4限 13. アレルギー疾患のある人の看護:アレルギー疾患による身体の変化の理解、アトピー性皮膚炎患者の生活の理解、アレルギー疾患がある人のセルフケア支援(藤原由子) 6月8日(月)4限 14. 腎疾患のある人の看護:慢性腎臓病とともに生活する人への支援、慢性腎不全(保存期)に至った人への支援、人工透析を受ける人への支援(奥井早月) 6月15日(月)3限 15. 終末期にある人の理解と看護:終末期における看護技術、国際的な終末期の捉え方、疼痛のアセスメント、疼痛緩和(藤原由子) 6月15日(月)4限 16. 試験 6月22日(月)4限 17. 再試験 6月29日(月)3限				
〔 成績評価方法 〕 各授業最後に記載する演習課題(10%)、試験(90%) 課題は1週間後の授業開始時に添削したものを返却します。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200540 [NB3-010]

科目名	慢性期看護論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	藤原 由子、奥井 早月、米澤 珠子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護1-3／(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:演習課題				
学科DP番号／DP内容:看護2-1／(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験				
学科DP番号／DP内容:看護2-2／(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:演習課題				
学科DP番号／DP内容:看護3-1／(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:演習課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:演習課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)] 「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー成人看護実習ガイドⅡ 慢性期・回復期・終末期」 著者名:野並葉子編集 出版社:照林社 (9784796524124) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]「成人看護学総論」(第15版) 著者名:小松浩子他 出版社:医学書院 (978-4-260-03173-8) その他、プリント配布				
[参考書(ISBN)] 「慢性疾患を生きる ケアとクオリティライフの接点」 著者名:ストラウス著、南裕子訳 出版社:医学書院 (978-4260348614) 慢性疾患の病みの軌跡 著者名:コービン&ストラウス著、黒江ゆり子 出版社:医学書院 (978-4-260-34172-1)				

P11200540 [NB3-010]

科目名	薬理学	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[実務経験のある教員による授業]				
[到達目標] 薬が作用する過程を理解するために必要な受容体などの薬の作用点や情報伝達系などの基礎的知識を修得する。さらに、薬物治療に応用できるように、神経系に作用する薬、炎症・アレルギーに対する薬物、抗菌薬や抗悪性腫瘍薬などの作用機構について具体的に理解する。				
[授業概要] 疾病の薬物治療において、医師、薬剤師および看護師は、それぞれの立場で協同して治療にかかわらなければならない。そのためには、薬がどのように生体に作用するのかを十分に理解しておく必要がある。「薬理学」は、疾病の治療や予防の目的で使用される薬が、生体にどのように働きかけるのかを科学的に理解しようとする学問である。 本科目では、薬が作用する過程を理解し、治療薬がどこにどのように作用して疾患や症状に対する治療効果をもたらすかを解説する。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し、次回の授業の予習をしておき、日頃から医療に関するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。				
[授業計画] 1. 薬理学総論① 4/10 生理機能と薬理作用の関係および薬はどのように作用するかを学ぶ。 2. 薬理学総論② 4/17 薬の作用点としての受容体と情報伝達機構を学ぶ。 3. 薬理学各論① 4/24 生活習慣病治療薬の作用を学ぶ①。 4. 薬理学各論② 5/1 生活習慣病治療薬の作用を学ぶ②。 5. 薬理学各論③ 5/8 中枢神経系に作用する薬物の作用を学ぶ。 6. 薬理学各論④ 5/15 アレルギー疾患・自己免疫疾患に作用する薬物の作用を学ぶ。 7. 薬理学各論⑤ 5/22 感染症に作用する薬物の作用を学ぶ。 8. 薬理学各論⑥ 5/29 抗悪性腫瘍薬の作用を学ぶ。 9. 試験 6/5				
[成績評価方法] 試験結果(100%)に基づいて評価する。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200100 [NB2-002]

科目名	薬理学	前期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	吉川 豊			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。				
成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢				
成績評価方法:試験				
[教科書 (ISBN)]				
はじめる！つかえる！看護のための薬理学				
1版 著者名:久留米大学客員教授 時政孝行 出版社:南山堂 (978-4-525-14111-0)				
[参考書 (ISBN)]				
なし				

P11200100 [NB2-002]

科目名	予防看護論	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ、魚里 明子、西原 詩子			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1. 生活習慣病と関連する生活習慣(生活行動)について述べることができる。 2. 生活習慣病予防に関する施策と看護の関連性について述べることができる。 3. 生活習慣変容に関する諸理論と対象者自身が捉える主観的な生活との違いを理解する。 4. 集団への看護と個への看護の関連性を述べることができる。				
〔 授業概要 〕 看護師免許、保健師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。 生活習慣病を理解し、健康的な生活習慣づくりを支援する看護について学びを深める。生活習慣病という概念の形成につながる大規模臨床研究結果、関連施策等と看護における生活理解との関連性について理解する。生活習慣変容に関する諸理論(健康信念モデル、自己効力理論、変化ステージモデル、エンパワメントモデル等)を概観し、様々な看護のアプローチ法があることを知る。さらに客観的に捉えることを目指したそれら諸理論と対象者が主観的に捉える生活には違いがあることを知り、対象者とともに対象者が望む健康生活を創造する看護とはどのようなものかについて理解を深める。また、疾病管理の考え方をもとに、集団への看護と個への看護の関連性について理解し、様々な施策と臨床現場での具体的な看護援助との関連性を理解する。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 関連する文献等を読み理解し、自身の考えを整理しておく。日頃から自分自身や他者の生活に関心を持ち、様々な視点で生活を捉えることを試みる。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
〔 授業計画 〕 1. 生活習慣病と生活行動。国内外の大規模臨床研究結果および生活習慣病の関連施策(東ますみ) 12/14(月)Ⅴ限 2. 生活習慣変容に関する諸理論の概観①(東ますみ)12/16(水)Ⅴ限 3. 生活習慣変容に関する諸理論の概観②(東ますみ)12/17(木)Ⅲ限 4. 行動療法の実践(西原詩子)12/17(木)Ⅳ限 5. 客観的な生活理解と主観的な生活理解との違いと看護援助(西原詩子)1/7(木)Ⅰ限 6. 対象者とともに対象者が望む健康生活を創造する看護とはどのようなものかについて理解を深める。(西原詩子) 1/7(木)Ⅱ限 7. 集団への看護と個への看護(魚里明子)1/14(木)Ⅰ限 8. 糖尿病事例を用いて、一次予防、二次予防、三次予防に対する看護を考える。(魚里明子)1/14(木)Ⅱ限 9. 試験 1/28(木)Ⅱ限				
〔 成績評価方法 〕 受講態度(20%)、試験(80%) 試験回収後、回答の解説を行う。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

科目名	予防看護論	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	東 ますみ、魚里 明子、西原 詩子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。				
成績評価方法:試験				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢				
成績評価方法:試験				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力				
成績評価方法:試験				
[教科書(ISBN)]				
「医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に」 著者名:松本千明著 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23337-5)				
ライフスタイル療法II 第2版 肥満の行動療法				
著者名:足達淑子著 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70598-8)				
[参考書(ISBN)]				
「国民衛生の動向 2019/2020年版」 出版社:一般財団法人厚生労働省統計協会				
「新しい慢性疾患ケアモデル—ディジーズマネジメントとナーシングケースマネジメント」 著者名:森山美知子編				
出版社:中央法規出版 (978-4-805-82935-6)				
「生活習慣病のしおり」 著者名:社会保険出版社編 出版社:社会保険出版社 (978-4-7846-0301-5)				
適宜プリントを配布する。				

P11200230 [NB3-001]

科目名	老年看護実践方法論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	笹谷 真由美			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.老年期に起こり易い加齢・虚弱、慢性疾患に関する健康問題、またそれらが日常生活に及ぼす影響を理解できる。 2.高齢者個々人による違いやこれまでの生活背景や人生観・価値観など全体像を含めたアセスメント、看護計画立案の知識を得て、高齢者への援助技術が習得できる。				
〔 授業概要 〕 健康を障害された高齢者の状態を総合的にアセスメントできる能力を養うために、高齢者が陥りがちな健康障害に応じた看護援助を展開するための方法を学ぶ。授業では老年期に起こりがちな健康障害である脳血管障害、認知症、心疾患、呼吸器系の疾患、パーキンソン病、骨・関節疾患等のケアを行うためのアセスメントと看護について、また、健康障害を悪化させやすい症状である脱水・栄養障害、せん妄、褥瘡等のアセスメントや予防・看護援助について学ぶ。さらに地域で自立して暮らす高齢者、あるいは介護を受けながら暮らす高齢者においても、健やかに老いを迎えられるための支援、終末期を迎える高齢者についての理解も深める。授業では「コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）」で学んだ内容を振り返り、講義と実習で学んだ内容を統合し学ぶ。				
〔 準備学修（授業前後の主体的な学修） 〕 今回の授業についての予習・復習は4時間程度である。 疾病と治療Ⅰで学んだ疾患について、知識として身につくように復習をしておくこと。また、1年次に学んだ人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱについても復習しておくこと。高齢者に関する時事問題等に関心を広げておくこと。				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション 老年看護論で学んだ内容の振り返り、老人看護を実践するため知識の統合及び授業の取り組み、学習方法を学ぶ(9/18・3限) 2.加齢の影響および虚弱高齢者の健康状態の特徴を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(9/18・4限) 3.呼吸器の機能低下やこれらの疾患をもつ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(9/23・1限) 4.循環器の機能低下やこれらの疾患をもつ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(9/23・2限) 5.運動機能の低下・骨折・脳神経疾患等を持つ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(9/25・1限) 6.運動機能に障害を持つ高齢者へのアセスメント及び日常生活援助の方法を学ぶ(9/25・2限) 7.摂食嚥下機能に障害を持つ高齢者へのアセスメントと日常生活援助の方法を学ぶ(12/16・1限) 8.排泄機能に障害を持つ高齢者へのアセスメント及び日常生活援助の方法を学ぶ(12/16・2限) 9.認知症を持つ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(12/18・1限) 10.高齢者におけるせん妄の特徴と要因、アセスメント、発症時の看護について学ぶ(12/18・2限) 11.老いと死、高齢者の終末期の特徴、死にかかわる権利、死を看取る場所、および終末期の看護について学ぶ(12/23・1限) 12.健康障害がある高齢者の看護過程を展開するために必要な情報収集及びアセスメントの方法、アセスメントの活用と援助計画の立案について学ぶ(12/23・2限) 13.健康障害がある高齢者の看護過程における援助計画の実施と評価の方法について学ぶ(1/8・1限) 14.高齢者の地域での生活を支えるケアスタッフ、保健・医療・福祉等の他職種との連携との協働・マネジメントについて学ぶ健康障害がある高齢者の事例を用いて、情報収集・アセスメント・看護計画を立案する(1/13・1限) 15.健康障害がある高齢者の事例で立案した看護計画でのケア提供及びその結果の情報をもとに、看護過程を評価修正する(1/13・2限) 16.試験(1/22・1限)				
〔 成績評価方法 〕 1. 授業の後のレポート(20%) 2. 試験(80%) ・レポートは後日添削して返却します。 ・試験の答案を回収後、解答の解説をします。				
〔 オフィスアワー（質問等の受付方法） 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200280 [NB3-003]

科目名	老年看護実践方法論	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	笹谷 真由美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題				
[教科書(ISBN)] 「ナースング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践」 著者名:堀内ふき 他 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-5380-6)				
[参考書(ISBN)] 「生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図」第3版 著者名:山田律子 他 出版社:医学書院 (978-4-260-02836-3) 「パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護」 著者名:正木治恵 出版社:照林社 (978-4-7965-2409-4)				

P11200280 [NB3-003]

科目名	老年看護実践方法論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	笹谷 真由美			
〔 実務経験のある教員による授業 〕 ○				
〔 到達目標 〕 1.老年期に起こり易い加齢・虚弱、慢性疾患に関する健康問題、またそれらが日常生活に及ぼす影響を理解できる。 2.高齢者個々人による違いやこれまでの生活背景や人生観・価値観など全体像を含めたアセスメント、看護計画立案の知識を得て、高齢者への援助技術が習得できる。				
〔 授業概要 〕 健康を障害された高齢者の状態を総合的にアセスメントできる能力を養うために、高齢者が陥りがちな健康障害に応じた看護援助を展開するための方法を学ぶ。授業では老年期に起こりがちな健康障害である脳血管障害、認知症、心疾患、呼吸器系の疾患、パーキンソン病、骨・関節疾患等のケアを行うためのアセスメントと看護について、また、健康障害を悪化させやすい症状である脱水・栄養障害、せん妄、褥瘡等のアセスメントや予防・看護援助について学ぶ。さらに地域で自立して暮らす高齢者、あるいは介護を受けながら暮らす高齢者においても、健やかに老いを迎えられるための支援、終末期を迎える高齢者についての理解も深める。さらに老年看護での看護過程展開の特徴や方法について学ぶ。				
〔 準備学修(授業前後の主体的な学修) 〕 今回の授業についての予習・復習は4時間程度である。 疾病と治療Ⅰで学んだ疾患について、知識として身につくように復習をしておくこと。また、1年次に学んだ人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱについても復習しておくこと。高齢者に関する時事問題等に関心を広げておくこと。				
〔 授業計画 〕 1.オリエンテーション 老年看護論で学んだ内容の振り返り、老年看護を実践するため知識の統合及び授業の取り組み、学習方法を学ぶ(4/7・2限) 2.加齢の影響および虚弱高齢者の健康状態の特徴を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(4/14・2限) 3.呼吸器の機能低下やこれらの疾患をもつ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(4/21・2限) 4.循環器の機能低下やこれらの疾患をもつ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(4/28・2限) 5.運動機能の低下・骨折・脳神経疾患等を持つ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(5/12・2限) 6.運動機能に障害を持つ高齢者へのアセスメント及び日常生活援助の方法を学ぶ(5/19・2限) 7.摂食嚥下機能に障害を持つ高齢者へのアセスメントと日常生活援助の方法を学ぶ(5/26・2限) 8.排泄機能に障害を持つ高齢者へのアセスメント及び日常生活援助の方法を学ぶ(6/2・2限) 9.認知症・精神疾患等を持つ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(6/9・2限) 10.老いと死、高齢者の終末期の特徴、死にかかわる権利、死を看取る場所、および終末期の看護について学ぶ(6/16・2限) 11.高齢者の地域での生活を支えるケアスタッフ、保健・医療・福祉等の他職種との連携との協働・マネジメントについて学ぶ(6/23・2限) 12.健康障害がある高齢者の看護過程を展開するために必要な情報収集及びアセスメントの方法、アセスメントの活用と援助計画の立案について学ぶ(6/30・1限) 13.健康障害がある高齢者の看護過程における援助計画の実施と評価の方法について学ぶ(6/30・2限) 14.健康障害がある高齢者の事例を用いて、情報収集・アセスメント・看護計画を立案する(7/7・2限) 15.健康障害がある高齢者の事例で立案した看護計画でのケア提供及びその結果の情報をもとに、看護過程を評価修正する(7/14・2限) 16.試験(7/21・2限)				
〔 成績評価方法 〕 1. 授業の後のレポート(20%) 2. 試験(80%) ・レポートは後日添削して返却します。 ・試験の答案を回収後、解答の解説をします。				
〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200280A [NB3-003]

科目名	老年看護実践方法論	前期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	笹谷 真由美			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容:看護1-2／(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:レポート課題、試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題 [教科書(ISBN)] 「ナースング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践」 著者名:堀内ふき 他 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-5380-6) 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 著者名:秋葉 公子(著)、玉木 ミヨ子(著)、村中 陽子(著)、江崎 フサ子(著) 出版社:ヌーベルヒロカワ (ISBN-10: 4861740568) [参考書(ISBN)] 「生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図」第3版 著者名:山田律子 他 出版社:医学書院 (978-4-260-02836-3) 「パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護」 著者名:正木治恵 出版社:照林社 (978-4-7965-2409-4)				

P11200280A [NB3-003]

科目名	老年看護論	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	藤田 冬子			
[実務経験のある教員による授業] ○				
[到達目標] 1. 加齢による人間の反応を理解できる 2. 老年期を生きる人々と看護の役割を理解できる 3. 高齢者を取り巻く社会制度と課題について理解できる 4. 高齢者にかかわる倫理的課題について理解できる				
[授業概要] 老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。 加齢のプロセスや老年期の特徴、加齢と健康の関連及び発生する健康障害と疾病予防について理解する。高齢者が健やかに老いるために求められる看護の役割や機能、高齢者を支える保健・医療・福祉や社会制度の変遷、高齢者が持つ価値観、高齢者が生きてきた時代とこれからの人生、高齢者ケアにまつわる倫理的問題についても学ぶ。これらを統合し健康障害がある高齢者を理解できるように学ぶ。				
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業内容について教科書の該当するところを、熟読し理解を深めておくこと。 授業前には身近な高齢者の生活やニュース、新聞記事などに関心を持っておくこと。 前回の授業内容を復習しておくこと。各回、上記内容を予習復習合わせて4時間程度おこなう。				
[授業計画] 1. 老年期とは。様々な高齢者の生活から学ぶ。(9/24) 2. 加齢によるライフサイクルの変化の理解、老年期における健康と危機、発達課題加齢による心身の変化と生活への影響、高齢者に必要となる援助の視点、高齢者を支える社会制度を概観する(10/1) 3. 高齢者のQOLと加齢による心身の変化に対する日常生活上での対処及び工夫、必要な援助の視点を学ぶ①(10/8) 4. 高齢者の生きてきた時代と価値観を学び、高齢者の人生の考え方、倫理的課題とその対応を学ぶ【外部講師】(10/15) 5. 高齢者の看護を実施するためアセスメントを学ぶ(10/15 4限) 6. 健康障害を持つ高齢者の基本的欲求、高齢者のコミュニケーション、高齢者看護における倫理(10/22) 7. 健康障害を持つ高齢者の看護を実施するためのアセスメント、長期療養施設・在宅看護、エンドオブライフケア、ACPを学ぶ(10/29) 8. 高齢者の暮らしを支える保健・医療・福祉等の他職種との協働・マネジメント、チームアプローチ、世界の高齢化、日本の高齢者ケアの課題及び地域包括ケアシステムを学ぶ(11/5) 9. 試験(11/12)				
[成績評価方法] 1. 試験(60%) 2.授業後・授業中の課題及び小テストへの取り組み(40%) (課題提出時は指定された用紙で指定期限までに出されたもののみ評価) 上記1-2項目にて総合的に評価する。 3.課題及び小テスト(回収)後、翌週の授業で解説する。 4.最終テストは、テスト終了時間直後に回答についての説明を行う。				
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。				

P11200270 [NB2-005]

科目名	老年看護論	後期	講義	1 単位
サブタイトル				
担当者	藤田 冬子			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]				
学科DP番号／DP内容:看護1-1／(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:小テスト、レポート課題、試験で評価				
学科DP番号／DP内容:看護2-3／(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
[この授業と関連する大学全体の教育目標]				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:小テスト、レポート課題で評価				
[教科書(ISBN)]				
「ナーシング・グラフィカ 老年看護学①:高齢者の健康と障害」第5版 著者名:佐久大学 看護学部看護学科 堀内 ふき、佐久大学 看護学部看護学科 大淵 律子、千葉大学大学院 看護学研究科訪問看護学領域教授 諏訪 さゆり 出版社:メディカ出版 (4-8404-5379-9) 「最新 老年看護学」第3版(2020年版) 著者名:水谷信子監修 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-22447)				
[参考書(ISBN)]				
なし				

P11200270 [NB2-005]